2019年度
経済学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6601】経済学入門Ａ［平瀬　友樹］春学期授業/Spring 1
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6602】経済学入門Ｂ［平瀬　友樹］秋学期授業/Fall 1
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6603】経済学入門Ａ［菅原　琢磨］春学期授業/Spring 2
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6604】経済学入門Ｂ［菅原　琢磨］秋学期授業/Fall 2
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6605】経済学入門Ａ［平井　俊行］春学期授業/Spring 3
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6606】経済学入門Ｂ［平井　俊行］秋学期授業/Fall 3
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6609】社会経済学基礎Ａ［大友　敏明］春学期授業/Spring 4
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6610】社会経済学基礎Ｂ［大友　敏明］秋学期授業/Fall 5
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6613】社会経済学基礎Ａ［佐藤　良一］春学期授業/Spring 6
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6614】社会経済学基礎Ｂ［佐藤　良一］秋学期授業/Fall 6
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6615】現代経済学基礎Ａ［竹田　茂夫］春学期授業/Spring 7
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6616】現代経済学基礎Ｂ［竹田　茂夫］秋学期授業/Fall 8
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6621】経済史Ａ［牧野　文夫］春学期授業/Spring 9
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6622】経済史Ｂ［牧野　文夫］秋学期授業/Fall 10
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6623】経済史Ａ［長原　豊］春学期授業/Spring 10
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6624】経済史Ｂ［長原　豊］秋学期授業/Fall 11
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6625】統計学Ａ［菅　幹雄］春学期授業/Spring 12
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6626】統計学Ｂ［宮脇　典彦］秋学期授業/Fall 13
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6629】コンピューター入門Ａ［新村　隆英］春学期授業/Spring 13
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6630】コンピューター入門Ｂ［新村　隆英］秋学期授業/Fall 14
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6671】ビジネス数学入門Ａ［廣川　みどり］春学期授業/Spring 16
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6672】ビジネス数学入門Ｂ［廣川　みどり］秋学期授業/Fall 17
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6673】英語で学ぶ経済学入門Ａ［ジェス　ダイヤモンド］春学期授業/Spring 18
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6674】英語で学ぶ経済学入門Ｂ［ジェス　ダイヤモンド］秋学期授業/Fall 19
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6675】英語で学ぶ経済学入門Ａ［武智　一貴］春学期授業/Spring 20
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6676】英語で学ぶ経済学入門Ｂ［武智　一貴］秋学期授業/Fall 20
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6677】データで知る世界経済Ａ［馬場　敏幸］春学期授業/Spring 21
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6678】データで知る世界経済Ｂ［馬場　敏幸］秋学期授業/Fall 22
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6679】Japan and the Global Economy Ａ［倪　彬］春学期授業/Spring 23
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6680】Japan and the Global Economy Ｂ［倪　彬］秋学期授業/Fall 24
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6681】Practical Economics Ａ［ジェス　ダイヤモンド］春学期授業/Spring 25
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6682】Practical Economics Ｂ［ジェス　ダイヤモンド］秋学期授業/Fall 26
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6683】企業と経済・基礎Ａ［河村　真］春学期授業/Spring 27
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6684】企業と経済・基礎Ｂ［砂田　充］秋学期授業/Fall 28
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6685】簿記ＩＡ［岸　牧人］春学期授業/Spring 29
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6686】簿記ＩＢ［岸　牧人］秋学期授業/Fall 30
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6687】簿記ＩＡ［石田　惣平］春学期授業/Spring 30
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6688】簿記ＩＢ［石田　惣平］秋学期授業/Fall 31
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6689】簿記ＩＡ［梅津　亮子］春学期授業/Spring 31
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6690】簿記ＩＢ［梅津　亮子］秋学期授業/Fall 32
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6691】簿記ＩＡ［田中　優希］春学期授業/Spring 32
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6692】簿記ＩＢ［田中　優希］秋学期授業/Fall 33
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6693】企業経営入門Ａ［川邊　安彦］春学期授業/Spring 34
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6694】企業経営入門Ｂ［川邊　安彦］秋学期授業/Fall 35
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6102】企業と経済・応用Ａ［檜野　智子］春学期授業/Spring 36

専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6103】企業と経済・応用Ｂ［檜野　智子］秋学期授業/Fall 36
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6046】社会経済学応用Ａ［原　伸子］春学期授業/Spring 37
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6048】社会経済学応用Ｂ［原　伸子］秋学期授業/Fall 38
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6337】マクロ経済学Ａ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring . 39
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6338】マクロ経済学Ｂ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 39
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6343】マクロ経済学Ａ［森田　裕史］春学期授業/Spring . 40
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6344】マクロ経済学Ｂ［森田　裕史］秋学期授業/Fall 40
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6339】ミクロ経済学Ａ［篠原　隆介］春学期授業/Spring . 41
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6340】ミクロ経済学Ｂ［篠原　隆介］秋学期授業/Fall 42
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6345】ミクロ経済学Ａ［平井　俊行］春学期授業/Spring . 43
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6346】ミクロ経済学Ｂ［平井　俊行］秋学期授業/Fall 44
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6062】財政学Ａ［天利　浩］春学期授業/Spring 45
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6064】財政学Ｂ［天利　浩］秋学期授業/Fall 45
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6063】財政学Ａ［天利　浩］春学期授業/Spring 46
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6065】財政学Ｂ［天利　浩］秋学期授業/Fall 46
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6066】金融論Ａ［武田　浩一］春学期授業/Spring 47
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6068】金融論Ｂ［武田　浩一］秋学期授業/Fall 47
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6067】金融論Ａ［高橋　秀朋］春学期授業/Spring 48
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6069】金融論Ｂ［鈴木　誠］秋学期授業/Fall 49
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6059】国際経済論Ａ［田村　晶子］春学期授業/Spring 49
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6061】国際経済論Ｂ［田村　晶子］秋学期授業/Fall 50
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6058】国際経済論Ａ［武智　一貴］春学期授業/Spring 50
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6060】国際経済論Ｂ［武智　一貴］秋学期授業/Fall 51
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6154】環境経済論Ａ［松波　淳也］春学期授業/Spring 52
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6156】環境経済論Ｂ［松波　淳也］秋学期授業/Fall 53
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6054】日本経済論Ａ［小黒　一正］春学期授業/Spring 54
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6056】日本経済論Ｂ［小黒　一正］秋学期授業/Fall 55
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6055】日本経済論Ａ［牧野　文夫］春学期授業/Spring 56
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6057】日本経済論Ｂ［牧野　文夫］秋学期授業/Fall 56
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6072】ビジネスプログラミング入門Ａ［坂本　憲昭］春学期授業/Spring 57
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6080】ビジネスプログラミング入門Ｂ［坂本　憲昭］秋学期授業/Fall 58
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6150】国際関係論Ａ［冨永　靖敬］春学期授業/Spring 59

専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6151】国際関係論Ｂ［冨永　靖敬］秋学期授業/Fall 60
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6152】経済人類学Ａ［山本　真鳥］春学期授業/Spring 61
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6153】経済人類学Ｂ［山本　真鳥］秋学期授業/Fall 61
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6733】Academic Research Seminar A ［飯野　厚］春学期授業/Spring . . 62
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6734】Academic Research Seminar B ［飯野　厚］秋学期授業/Fall 63
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6739】Academic Research Seminar A ［山﨑　達朗］春学期授業/Spring 64
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6740】Academic Research Seminar B ［山﨑　達朗］秋学期授業/Fall . . . 65
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6180】ドイツ語セミナーＡ［新田　誠吾］春学期授業/Spring 66
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6181】ドイツ語セミナーＢ［新田　誠吾］秋学期授業/Fall 67
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6183】フランス語セミナーＡ［橋本　到］春学期授業/Spring 68
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6182】フランス語セミナーＢ［橋本　到］秋学期授業/Fall 69
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6184】ロシア語セミナーＡ［佐藤　裕子］春学期授業/Spring 70
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6185】ロシア語セミナーＢ［佐藤　裕子］秋学期授業/Fall 71
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6186】中国語セミナーＡ［石　碩］春学期授業/Spring 72
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6187】中国語セミナーＢ［石　碩］秋学期授業/Fall 72
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6188】スペイン語セミナーＡ［芝田幸一郎］春学期授業/Spring 73
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6189】スペイン語セミナーＢ［芝田幸一郎］秋学期授業/Fall 74
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6235】労働経済論Ａ［深井　太洋］春学期授業/Spring 75
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6236】労働経済論Ｂ［深井　太洋］秋学期授業/Fall 75
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6229】経済政策論Ａ［濱秋　純哉］春学期授業/Spring 76
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6230】経済政策論Ｂ［濱秋　純哉］秋学期授業/Fall 76
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6221】公共経済論Ａ［篠原　隆介］春学期授業/Spring 77
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6222】公共経済論Ｂ［篠原　隆介］秋学期授業/Fall 78
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6747】DemographyA［菅　幹雄］春学期授業/Spring 79
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6748】DemographyB［菅　幹雄］秋学期授業/Fall 80
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6148】開発経済論Ａ［池上　宗信］春学期授業/Spring 80
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6149】開発経済論Ｂ［池上　宗信］秋学期授業/Fall 81
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6203】開発経済入門Ａ［池上　宗信］春学期授業/Spring 81
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6204】開発経済入門Ｂ［池上　宗信］秋学期授業/Fall 82
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6219】経済学史Ａ［平瀬　友樹］春学期授業/Spring 83

専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6220】経済学史Ｂ［平瀬　友樹］秋学期授業/Fall 84
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6160】経済地理Ａ［近藤　章夫］春学期授業/Spring 85
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6161】経済地理Ｂ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall 85
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6070】経済の数理Ａ［佐柄　信純］春学期授業/Spring 86
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6071】経済の数理Ｂ［佐柄　信純］秋学期授業/Fall 86
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6205】データ解析入門Ａ［宮脇　典彦］春学期授業/Spring 87
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6206】データ解析入門Ｂ［宮脇　典彦］秋学期授業/Fall 88
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6162】アメリカ経済論Ａ［河村　哲二］春学期授業/Spring 89
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6163】アメリカ経済論Ｂ［河村　哲二］秋学期授業/Fall 90
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6164】ヨーロッパ経済論Ａ［進藤　理香子］春学期授業/Spring 91
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6165】ヨーロッパ経済論Ｂ［進藤　理香子］秋学期授業/Fall 92
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6166】現代アジア経済論Ａ［馬場　敏幸］春学期授業/Spring 93
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6167】現代アジア経済論Ｂ［馬場　敏幸］秋学期授業/Fall 94
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6168】中国経済論Ａ［菊池　道樹］春学期授業/Spring 95
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6169】中国経済論Ｂ［菊池　道樹］秋学期授業/Fall 96
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6312】世界の文化と思想Ａ［橋本　到］春学期授業/Spring 97
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6313】世界の文化と思想Ｂ［橋本　到］秋学期授業/Fall . . 98
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6209】環境科学Ａ［藤田　貢崇］春学期授業/Spring 98
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6210】環境科学Ｂ［藤田　貢崇］秋学期授業/Fall 99
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6259】国際ビジネス論Ａ［山本　功］春学期授業/Spring 100
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6260】国際ビジネス論Ｂ［山本　功］秋学期授業/Fall 100
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6108】現代ファイナンス入門Ａ［湯前祥二］春学期授業/Spring 101
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6109】現代ファイナンス入門Ｂ［湯前祥二］秋学期授業/Fall 101
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6695】Business Communication Ⅰ A［Richard Evanoff］春学期授業/Spring102
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6696】Business Communication Ⅰ B［Richard Evanoff］秋学期授業/Fall102
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6697】Business Communication Ⅰ A［グレン・ファーン］春学期授業/Spring104
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6698】Business Communication Ⅰ B［グレン・ファーン］秋学期授業/Fall105
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6122】経済データ分析Ａ［明城　聡］春学期授業/Spring 105
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6123】経済データ分析Ｂ［明城　聡］秋学期授業/Fall 106
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6124】経済地理［近藤　章夫］春学期授業/Spring 108
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6125】産業集積論［近藤　章夫］秋学期授業/Fall 108
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6751】会計学入門Ａ［石田　惣平］春学期授業/Spring 109
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6752】会計学入門Ｂ［石田　惣平］秋学期授業/Fall 109
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6749】原価計算Ａ［梅津　亮子］春学期授業/Spring 110

専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6750】原価計算Ｂ［梅津　亮子］秋学期授業/Fall 110
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6128】コーポレートガバナンス論Ａ
［胥　鵬］春学期授業/Spring 111
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6129】コーポレートガバナンス論Ｂ
［胥　鵬］秋学期授業/Fall 112
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6140】企業実務研究Ａ［武田　浩一］
春学期授業/Spring 113
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6141】企業実務研究Ｂ［武田　浩一］
秋学期授業/Fall 114
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6341】現代経済学応用Ａ［島澤　諭］春学期授業/Spring . 115
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6342】現代経済学応用Ｂ［島澤　諭］秋学期授業/Fall 116
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6225】日本経済史Ａ［長原　豊］春学
期授業/Spring 117
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6226】日本経済史Ｂ［長原　豊］秋学
期授業/Fall 118
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6227】社会経済思想史Ａ［後藤　浩
子］春学期授業/Spring 119
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6228】社会経済思想史Ｂ［後藤　浩
子］秋学期授業/Fall 120
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6231】農業経済論Ａ［西澤　栄一郎］
春学期授業/Spring 121
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6232】農業経済論Ｂ［西澤　栄一郎］
秋学期授業/Fall 121
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6233】社会政策論Ａ［菅原　琢磨］春
学期授業/Spring 122
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6234】社会政策論Ｂ［菅原　琢磨］秋
学期授業/Fall 123
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6243】社会保障論Ａ［小黒　一正］春
学期授業/Spring 124
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6244】社会保障論Ｂ［小黒　一正］秋
学期授業/Fall 124
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6237】金融各論ＩＡ［高橋　秀朋］春
学期授業/Spring 125
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6238】金融各論ＩＢ［高橋　秀朋］春
学期授業/Spring 126
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6200】政治過程論［岡崎　加奈子］秋
学期授業/Fall 127
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6201】国際政治論［曹　海石］秋学期
授業/Fall 127
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6194】経済統計論Ａ［菅　幹雄］春学
期授業/Spring 128
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6195】経済統計論Ｂ［菅　幹雄］秋学
期授業/Fall 129
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6239】情報経済論Ａ［鈴木　豊］春学
期授業/Spring 129
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6240】情報経済論Ｂ［鈴木　豊］秋学
期授業/Fall 130
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6741】世界経済史Ａ［田中　延幸］春学期授業/Spring 131
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6742】世界経済史Ｂ［田中　延幸］秋学期授業/Fall 132
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6241】地方財政論Ａ［関口　浩］春学
期授業/Spring 133
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6242】地方財政論Ｂ［関口　浩］秋学
期授業/Fall 134
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6245】産業組織論Ａ［河村　真］春学
期授業/Spring 135
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6246】産業組織論Ｂ［河村　真］秋学
期授業/Fall 136

専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6247】金融各論ⅡＡ［武田　浩一］春学期授業/Spring 137
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6249】金融各論ⅡＢ［武田　浩一］秋学期授業/Fall 138
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6144】金融ビジネス論Ａ［武田　浩一］春学期授業/Spring 139
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6146】金融ビジネス論Ｂ［武田　浩一］秋学期授業/Fall 140
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6251】企業金融論Ａ［胥　鵬］春学期授業/Spring 141
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6252】企業金融論Ｂ［胥　鵬］秋学期授業/Fall 142
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6268】国際金融論Ａ［ブー・トウン・カイ］春学期授業/Spring 143
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6269】国際金融論Ｂ［ブー・トウン・カイ］秋学期授業/Fall 144
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6094】計量経済学Ａ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring 145
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6095】計量経済学Ｂ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 145
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6253】数理統計学Ａ［宮脇　典彦］春学期授業/Spring 146
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6254】数理統計学Ｂ［宮脇　典彦］秋学期授業/Fall 146
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6703】コンピューター科学 A ［小沢　和浩］春学期授業/Spring 147
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6704】コンピューター科学 B ［小沢　和浩］秋学期授業/Fall 148
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6190】現代社会と情報Ａ［坂本　憲昭］春学期授業/Spring 149
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6191】現代社会と情報Ｂ［菅　幹雄］秋学期授業/Fall 150
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6215】比較経済システム論Ａ［Oliynyk Oleh］春学期授業/Spring 151
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6216】比較経済システム論Ｂ［Oliynyk Oleh］秋学期授業/Fall 152
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6727】Business Research Seminar A ［戸田　博之］春学期授業/Spring . 153
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6728】Business Research Seminar B ［戸田　博之］秋学期授業/Fall . . . 153
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6202】日本思想史［古澤　直人］春学期授業/Spring 154
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6214】日本文化史［古澤　直人］秋学期授業/Fall 155
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6196】日本文化論［池田　雄一］秋学期授業/Fall 156
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6314】地球環境論 A ［山﨑　友紀］春学期授業/Spring . . . 157
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6315】地球環境論 B ［山﨑　友紀］秋学期授業/Fall 158
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6223】環境政策論Ａ［西澤　栄一郎］春学期授業/Spring 159
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6224】環境政策論Ｂ［西澤　栄一郎］秋学期授業/Fall 159
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6757】スポーツ経済論［杉本　龍勇］春学期授業/Spring 160
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6326】国際貿易論 A ［武智　一貴］春学期授業/Spring . . . 161
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6327】国際貿易論 B ［武智　一貴］秋学期授業/Fall 161
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6270】企業経済論Ａ［砂田　充］春学期授業/Spring 162
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6271】企業経済論Ｂ［砂田　充］秋学期授業/Fall 162
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6721】Principles of Economics A ［ジェス　ダイヤモンド］春学期授業/Spring 163

専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6722】Principles of Economics B［ジェス　ダイヤモンド］秋学期授業/Fall 164
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6723】International Economics A［倪　彬］春学期授業/Spring 164
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6724】International Economics B［倪　彬］秋学期授業/Fall 165
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6725】Area Studies A［Oliynyk Oleh］春学期授業/Spring 166
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6726】Area Studies B［Oliynyk Oleh］秋学期授業/Fall 167
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6731】地域経済論 A［川邊　安彦］春学期授業/Spring 168
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6732】地域経済論 B［川邊　安彦］秋学期授業/Fall 169
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6729】簿記Ⅱ A［岸　牧人］春学期授業/Spring 170
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6730】簿記Ⅱ B［岸　牧人］秋学期授業/Fall 170
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6745】財務諸表論 A［竹口　圭輔］春学期授業/Spring 171
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6746】財務諸表論 B［竹口　圭輔］秋学期授業/Fall 172
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6755】管理会計 A［梅津　亮子］春学期授業/Spring 173
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6756】管理会計 B［梅津　亮子］秋学期授業/Fall 174
専門教育科目_2010 年度以降～2015 年度入学者【K6699】Business Communication Ⅱ A［Robert DeReza］春学期授業/Spring 175
専門教育科目_2010 年度以降～2015 年度入学者【K6700】Business Communication Ⅱ B［ジュリア・ヨング］秋学期授業/Fall 176
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6701】Business Communication Ⅱ A［グレン・ファーン］春学期授業/Spring177
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6702】Business Communication Ⅱ B［グレン・ファーン］秋学期授業/Fall178
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6332】監査論A［岸　牧人］春学期授業/Spring 179
専門教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K6333】監査論B［岸　牧人］秋学期授業/Fall 180
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通【K6130】リスク・マネジメントA［湯前　祥二］春学期授業/Spring181
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通【K6131】リスク・マネジメントB［湯前　祥二］秋学期授業/Fall181
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通【K6132】企業経営史A［飯塚　陽介］春学期授業/Spring . . . 182
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通【K6133】企業経営史B［飯塚　陽介］秋学期授業/Fall 183
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6142】国際会計制度 A［田中　優希］春学期授業/Spring 184
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6143】国際会計制度 B［田中　優希］秋学期授業/Fall 185
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6136】企業経営論A［川邊　安彦］春学期授業/Spring 186
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6137】企業経営論B［川邊　安彦］秋学期授業/Fall 187
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6705】日本国憲法 A［榎 透］春学期授業/Spring 188
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6706】日本国憲法 B［榎 透］春学期授業/Spring 189
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6707】民法一部 A［菅　富美枝］春学期授業/Spring 190
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6708】民法一部 B［菅　富美枝］秋学期授業/Fall 190
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6709】民法二部 A［菅　富美枝］春学期授業/Spring 191
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6710】民法二部 B［菅　富美枝］秋学期授業/Fall 191
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6711】商法一部 A［笹久保　徹］春学期授業/Spring 192
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6712】商法一部 B［笹久保　徹］秋学期授業/Fall 193
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6713】商法二部 A［笹久保　徹］春学期授業/Spring 194
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6714】商法二部 B［笹久保　徹］秋学期授業/Fall 195
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6715】経済法 A［山田　務］春学期授業/Spring 196
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6716】経済法 B［山田　務］秋学期授業/Fall 197
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6717】労働法 A［藤本　茂］春学期授業/Spring 198
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6718】労働法 B［藤本　茂］秋学期授業/Fall 199
専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6719】経営学 A［砂田　充］春学期授業/Spring 200

専門教育科目__2016 年度以降入学者【K6720】経営学 B ［砂田　充］秋学期授業/Fall 201
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6559】特別講義（Basic Economics A）［KALENGA NGOY JOHN］春学期授業/Spring 202
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6560】特別講義（Basic Economics B）［KALENGA NGOY JOHN］秋学期授業/Fall 202
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6501】特別講義 （寄付講座　証券市場論）［大和証券株式会社］春学期授業/Spring 203
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6561】特別講義（現代中国の経済政策）［Oliynyk Oleh］春学期授業/Spring 204
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6562】特別講義（中国とアメリカの戦略比較分析）［Oliynyk Oleh］秋学期授業/Fall 205
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6563】特別講義（映画とドラマの中の経済学）［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 206
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6564】特別講義（ハワイの歴史と文化）［山本　真鳥］春学期授業/Spring 207
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6565】特別講義（Mathematics in Games A）［ROBERT M SINCLAIR］春学期授業/Spring 208
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6566】特別講義（Mathematics in Games B）［ROBERT M SINCLAIR］秋学期授業/Fall 208
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6567】特別講義（Big Data A）［ROBERT M SINCLAIR］春学期授業/Spring 209
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6568】特別講義（Big Data B）［ROBERT M SINCLAIR］秋学期授業/Fall 209
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6347】財政学Ａ (市ヶ谷開講) ［島澤　諭］春学期授業/Spring 210
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6348】財政学Ｂ (市ヶ谷開講) ［島澤　諭］秋学期授業/Fall 210
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6349】経済政策論Ａ (市ヶ谷開講) ［濱秋　純哉］春学期授業/Spring 211
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6350】経済政策論Ｂ (市ヶ谷開講) ［濱秋　純哉］秋学期授業/Fall 211
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6351】国際経済論Ａ (市ヶ谷開講) ［田村　晶子］春学期授業/Spring 212
専門教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度共通，2016 年度以降共通【K6352】国際経済論Ｂ (市ヶ谷開講) ［田村　晶子］秋学期授業/Fall 212
総合教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5111】日本文学［池田　雄一］春学期授業/Spring 213
総合教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5114】芸術［坂口　周輔］春学期授業/Spring 214
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5151】世界の文学Ａ［田村　理香］春学期授業/Spring . . . 214
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5152】世界の文学Ｂ［田村　理香］秋学期授業/Fall 215
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5153】倫理学Ａ［松本　力］春学期授業/Spring 215
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5154】倫理学Ｂ［松本　力］秋学期授業/Fall 216
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5155】倫理学Ａ［齋藤　範］春学期授業/Spring 216
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5156】倫理学Ｂ［齋藤　範］秋学期授業/Fall 217
経済学部主催 教職関係科目【K5177】倫理学Ａ（教職）［齋藤　範］春学期授業/Spring 217
経済学部主催 教職関係科目【K5178】倫理学Ｂ（教職）［齋藤　範］秋学期授業/Fall 218
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5157】文章表現Ａ［池田　雄一］春学期授業/Spring 218
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5158】文章表現Ｂ［池田　雄一］秋学期授業/Fall 219
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5159】言語学Ａ［山﨑　達朗］春学期授業/Spring 220
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5160】言語学Ｂ［山﨑　達朗］秋学期授業/Fall 221
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5161】現代社会と宗教Ａ［永井　美紀子］春学期授業/Spring 223
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5163】現代史Ａ［李　相旭］春学期授業/Spring 224
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5164】現代史Ｂ［李　相旭］秋学期授業/Fall 224
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5167】哲学Ａ［長谷川　悦宏］春学期授業/Spring 225
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5168】哲学Ｂ［長谷川　悦宏］秋学期授業/Fall 225
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5165】哲学Ａ［栗原　史郎］春学期授業/Spring 226
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5166】哲学Ｂ［栗原　史郎］秋学期授業/Fall 227

経済学部主催 教職関係科目【K5179】哲学A（教職）［齋藤　範］春学期授業/Spring 228
経済学部主催 教職関係科目【K5180】哲学B（教職）［齋藤　範］秋学期授業/Fall 228
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5169】論理学A［関塚　正嗣］春学期授業/Spring 229
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5170】論理学B［関塚　正嗣］秋学期授業/Fall 229
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5173】民俗学A［西村　敏也］春学期授業/Spring 230
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5174】民俗学B［西村　敏也］秋学期授業/Fall 231
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5251】政治学A［冨永　靖敬］春学期授業/Spring 232
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5252】政治学B［冨永　靖敬］秋学期授業/Fall 233
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5253】地理学A［朴　倧玄］春学期授業/Spring 234
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5254】地理学B［朴　倧玄］秋学期授業/Fall 235
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5257】文化人類学A［山本　真鳥］春学期授業/Spring . . . 236
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5258】文化人類学B［山本　真鳥］秋学期授業/Fall 237
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5259】日本史A［古澤　直人］春学期授業/Spring 238
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5260】日本史B［古澤　直人］秋学期授業/Fall 239
経済学部主催 教職関係科目【K5275】日本史A（教職）［岩橋　清美］春学期授業/Spring 240
経済学部主催 教職関係科目【K5276】日本史B（教職）［岩橋　清美］秋学期授業/Fall 241
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5261】世界史A［太田　啓子］春学期授業/Spring 242
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5262】世界史B［太田　啓子］秋学期授業/Fall 243
経済学部主催 教職関係科目【K5277】世界史A（教職）［鈴木　茂］春学期授業/Spring 244
経済学部主催 教職関係科目【K5278】世界史B（教職）［鈴木　茂］秋学期授業/Fall 245
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5263】法学A［菅　富美枝］春学期授業/Spring 246
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5264】法学B［菅　富美枝］秋学期授業/Fall 247
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5267】社会学A［高橋　徹］春学期授業/Spring 247
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5268】社会学B［高橋　徹］秋学期授業/Fall 248
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5271】心理学A［松野　響］春学期授業/Spring 250
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5272】心理学B［松野　響］秋学期授業/Fall 250
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5351】数学A［佐柄　信純］春学期授業/Spring 251
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5352】数学B［佐柄　信純］秋学期授業/Fall 251
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5353】物理学A［藤田　貢崇］春学期授業/Spring 253
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5354】物理学B［藤田　貢崇］秋学期授業/Fall 254
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5357】地学A［原　芳生］春学期授業/Spring 255
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5358】地学B［原　芳生］秋学期授業/Fall 256
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5359】化学A［山﨑　友紀］春学期授業/Spring 257
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5360】化学B［山﨑　友紀］秋学期授業/Fall 258
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5361】生物学A［岡部　雅史］春学期授業/Spring 258
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5362】生物学B［岡部　雅史］秋学期授業/Fall 259
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5363】科学史A［河野　俊哉］春学期授業/Spring 259
総合教育科目_2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5364】科学史B［河野　俊哉］秋学期授業/Fall 260
総合教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5582】自然科学特講［松野　響、藤田　貢崇］春学期授業/Spring 261
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5583】English Communication IA［ロバート　ストラウド］春学期授業/Spring 263
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5584】English Communication IB［ロバート　ストラウド］秋学期授業/Fall 264
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5585】English Communication IA［アラン・バーグマン］春学期授業/Spring 265
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5586】English Communication IB［アラン・バーグマン］秋学期授業/Fall 266
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5587】English Communication IA［ステラ　山﨑］春学期授業/Spring . . 267
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5588】English Communication IB［ステラ　山﨑］秋学期授業/Fall 268
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5589】English Communication I A［Kregg　Johnston］春学期授業/Spring 269
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5590】English Communication I B［Kregg　Johnston］秋学期授業/Fall 270
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5591】English Communication IIA［Richard Evanoff］春学期授業/Spring 271
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5592】English Communication IIB［Richard Evanoff］秋学期授業/Fall . 272
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5593】English Communication IIA［ロバート　ストラウド］春学期授業/Spring 273
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5594】English Communication IIB［ロバート　ストラウド］秋学期授業/Fall 274
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5595】English Communication IIIA［Richard Evanoff］春学期授業/Spring 275
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5596】English Communication IIIB［Richard Evanoff］秋学期授業/Fall 276
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5597】ドイツ語コミュニケーション IA［北岡　幸代］春学期授業/Spring . . 277
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5598】ドイツ語コミュニケーション IB［北岡　幸代］秋学期授業/Fall 278

総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5599】ドイツ語コミュニケーション IIA［栗田　くり菜］春学期授業/Spring279
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5600】ドイツ語コミュニケーション IIB［栗田　くり菜］秋学期授業/Fall . . 280
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5601】フランス語コミュニケーション A［余語　毅憲］春学期授業/Spring . 281
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5602】フランス語コミュニケーション B［余語　毅憲］秋学期授業/Fall . . . 281
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5603】資格をめざすフランス語 A［小室　廉太］春学期授業/Spring 282
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5604】資格をめざすフランス語 B［小室　廉太］秋学期授業/Fall 283
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5605】中国語コミュニケーション IA［将邑　劍平］春学期授業/Spring . . . 284
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5606】中国語コミュニケーション IB［将邑　劍平］秋学期授業/Fall 285
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5607】中国語コミュニケーション IIA［張　欣］春学期授業/Spring 286
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5608】中国語コミュニケーション IIB［張　欣］秋学期授業/Fall 286
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5609】スペイン語コミュニケーション IA［マリア・ドローレス・ドメネク］
春学期授業/Spring 287
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5610】スペイン語コミュニケーション IB［マリア・ドローレス・ドメネク］
秋学期授業/Fall 287
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5611】スペイン語コミュニケーション IIA［ジェン　フェルナンド］春学期
授業/Spring 288
総合教育科目_2016 年度以降入学者【K5612】スペイン語コミュニケーション IIB［ジェン　フェルナンド］秋学期
授業/Fall 289
総合教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5613】総合講座Ⅰ［藤田　貢崇、芝田
幸一郎、ロバート　ストラウド、張　欣］春学期授業/Spring 290
総合教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5614】総合講座Ⅱ［山﨑　友紀、藤田
貢崇］秋学期授業/Fall 291
総合教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K8501】キャリアデザイン論［加藤　寛之］
春学期授業/Spring 292
総合教育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K5581】多摩地域形成論［池田　寛二］秋学
期授業/Fall 292
保健体育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K4101】スポーツ種目 A［市原　英］春学
期授業/Spring 293
保健体育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K4102】スポーツ種目 B［市原　英］秋学
期授業/Fall 294
保健体育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K4103】スポーツ種目 A［水野　浩幸］春
学期授業/Spring 295
保健体育科目_2009 年度以前，2010～2015 年度，2016 年度以降共通【K4104】スポーツ種目 B［水野　浩幸］秋
学期授業/Fall 296

ECN100CB

経済学入門A

平瀬　友樹

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者 1 年次生のみ※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】
「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第 2 回	おかね	経済っておかねのこと？
第 3 回	市場	市場って何？
第 4 回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第 5 回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第 6 回	選好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったかご、どれを取る？
第 7 回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第 8 回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第 9 回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第 10 回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？ 株式会社って何？
第 11 回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第 12 回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第 13 回	需要と供給	売り手と買い手が出会って取引。生産量と価格の決まり方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する定期試験の結果（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。

【Outline and objectives】
A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CB

経済学入門B

平瀬　友樹

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者 1 年次生のみ※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】
「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろう？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS − LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS − LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS − LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD − AS 分析①	IS − LM 曲線だけじゃなんでダメ？？
第 13 回	AD − AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出した練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する定期試験の結果（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。

【Outline and objectives】
It is a series of contents, Introduction of Economics A which is opened spring semester. A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CB

経済学入門Ａ

菅原　琢磨

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者 1 年次生のみ※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】
「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第 2 回	おかね	経済っておかねのこと？
第 3 回	市場	市場って何？
第 4 回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第 5 回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第 6 回	選好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったかご、どれを取る？
第 7 回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第 8 回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第 9 回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第 10 回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？ 株式会社って何？
第 11 回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第 12 回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第 13 回	需要と供給	売り手と買い手が出会って取引。生産量と価格の決まり方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する定期試験の結果（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。

【Outline and objectives】
A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CB

経済学入門Ｂ

菅原　琢磨

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者 1 年次生のみ※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】
「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろう？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS − LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS − LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS − LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD − AS 分析①	IS − LM 曲線だけじゃなんでダメ？？
第 13 回	AD − AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出した練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する定期試験の結果（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。

【Outline and objectives】
It is a series of contents, Introduction of Economics A which is opened spring semester. A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CB

経済学入門A

平井　俊行

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者 1 年次生のみ※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】
「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第 2 回	おかね	経済っておかねのこと？
第 3 回	市場	市場って何？
第 4 回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第 5 回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第 6 回	選好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったかご、どれを取る？
第 7 回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第 8 回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第 9 回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第 10 回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？ 株式会社って何？
第 11 回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第 12 回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第 13 回	需要と供給	売り手と買い手が出会って取引。生産量と価格の決まり方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する定期試験の結果（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】
A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CB

経済学入門B

平井　俊行

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者 1 年次生のみ※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

【到達目標】
「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろう？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS − LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS − LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS − LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD − AS 分析①	IS − LM 曲線だけじゃなんでダメ？？
第 13 回	AD − AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出した練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要な際には授業内で適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に実施する定期試験の結果（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】
It is a series of contents, Introduction of Economics A which is opened spring semester. A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CA

社会経済学基礎 A

大友　敏明

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどういう経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何か、資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差、貧困や金融危機といった諸問題を引き起こす原因を考察します。

【到達目標】
学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係、資本の蓄積および信用制度や株式会社などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配付します。基礎的な用語は繰り返し説明し、また時々質問します。リアクションペーパーによる質疑応答も行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	『資本論』と現代	『資本論』を現代において学ぶ意義について。
第 2 回	労働価値論	価値とは何か。
第 3 回	労働の二重性	私たちの労働には二面性があることを学びます。
第 4 回	貨幣の本質	貨幣とは何か。
第 5 回	貨幣論 1 －価値尺度機能と価格の度量標準	価値尺度機能とは何か。
第 6 回	貨幣論 2 －流通手段機能	貨幣の流通手段機能とは何か。
第 7 回	貨幣論 3 －インフレーション	インフレーションの本質について。
第 8 回	貨幣論 4 －蓄蔵貨幣の機能	貨幣の蓄蔵貨幣の機能とは何か。
第 9 回	資本とは何か	労働力の商品化について学びます。
第 10 回	剰余価値の生産 1 －絶対的剰余価値の生産	剰余がどうして生まれるのか。
第 11 回	剰余価値の生産 2 －相対的剰余価値の生産と特別剰余価値の生産	剰余価値の生産の多様な形態。
第 12 回	賃金の本質	賃金はどのように決まるのか。
第 13 回	資本蓄積論	資本の蓄積とは何かを学びます。
第 14 回	相対的過剰人口論	機械と失業との関係を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回配付されるレジュメを必ず復習すること。
2. 授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認すること。
3. 毎日、新聞を読み、社会で起きている現象に関心をもつこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。毎回レジュメを配付する。

【参考書】
大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

【成績評価の方法と基準】
春学期に行なう小テスト 30 %および期末試験 70 %。

【学生の意見等からの気づき】
よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The Political Economy Basis intends to analyze the forming and structure of the capitalism from the viewpoint of Marx's economics. This lecture will talk about what money is, what capital is, and what the capitalism is. Based on such basic considerations, it will then examine as to why the capitalism has caused the distress and crisis and has widened the gap between the rich and poor, though it has brought about the huge productivity.

The Political Economy Basis A focuses on the forming of the capitalism. It will argue the history of economic thought such as mercantilism, classical economics and Marx's economics. It therefore will give you a general understanding about the nature of the capitalism.
This lecture will plainly explain basic terms on political economy for beginners on economics.

ECN100CA

社会経済学基礎 B

大友　敏明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどういう経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何か、資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差、貧困や金融危機といった諸問題を引き起こす原因を考察します。

【到達目標】
学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係、資本の蓄積および信用制度や株式会社などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配付します。基礎的な用語は繰り返し説明し、また時々質問します。リアクションペーパーによる質疑応答も行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	再生産とは何かーアダム・スミスの再生産論	再生産ということを学びます。
第 2 回	単純再生産論 1	生産が社会的に行なわれる場合の条件を学びます。
第 3 回	単純再生産論 2	生産が社会的に行なわれる場合の条件を深く考察します。
第 4 回	拡大再生産論 1	経済が拡大しているもとでの均衡条件を学びます。
第 5 回	拡大再生産論 2	経済が拡大しているもとでの均衡条件を深く学びます。
第 6 回	信用の必然性	資本主義社会において信用が必然的に必要とされる理由について。
第 7 回	商業信用	資本家同士が相互に与え合う信用について。
第 8 回	銀行信用 1	手形割引の意義について。
第 9 回	銀行信用 2	銀行券について。
第 10 回	銀行信用 3	銀行が信用創造機関であることを学びます。
第 11 回	信用制度と中央銀行	中央銀行の役割。
第 12 回	信用制度と株式会社	株式会社の本質。
第 13 回	擬制資本論	擬制資本とは何か。
第 14 回	金本位制と管理通貨制度	金本位制とは何かについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回配付されるレジュメを必ず復習すること。
2. 授業中に指示される参考書等で不明の用語を調べ確認すること。
3. 毎日、新聞を読み、社会で起きている現象に関心をもつこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。毎回レジュメを配付する。

【参考書】
大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

【成績評価の方法と基準】
秋学期に行なう小テスト 30 %および期末試験 70 %。

【学生の意見等からの気づき】
よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The Political Economy Basis intends to analyze the forming and structure of the capitalism from the viewpoint of Marx's economics. This lecture will talk about what money is, what capital is, and what the capitalism is. Based on such basic considerations, it will then examine as to why the capitalism has caused the distress and crisis and has widened the gap between the rich and poor, though it has brought about the huge productivity.
Political Economy Basis B analyzes the structure of the capitalism. It will attempt to consider about the wage theory, the theory of accumulation and reproduction, and credit system. Therefore, you will be able to learn an insight into the development and contradiction which are immanent in the capitalism.
This lecture will plainly explain basic terms on political economy for beginners on economics.

ECN100CA

社会経済学基礎 A

佐藤　良一

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境問題、金融危機、格差の拡大等、憂慮すべき問題は多い、現状を認識するためには、広い視野に立って主体的に考察する力をつけねばならない。経済学にもさまざまな理論がある。この講義では「複眼的」に現象をとらえるための基本的知識を身につけることが目標である。資本主義経済の仕組みを分析的に理解することがテーマとなる。

【到達目標】
「社会経済学基礎 A」では資本主義システムを分析する際の基本概念 (労働生産性、再生産、剰余、利潤) を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
毎回"Today's Topics"のコーナーを設け、時事的問題をとりあげる。可能な限り、それらと関連づけながら〈資本主義システムの仕組み〉を検討する。講義、Q&A、ディスカッション、ショート・エッセイを書くというように授業を進める。高校までの「社会」科を大学の「経済学」へブリッジする参加型の楽しめる講義を目指したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現在の社会的問題は何か	オリエンテーション
第 2 回	社会経済学への誘い	社会経済学の基本的考え方
第 3 回	資本主義は powerful	資本主義の歴史的成果はなにか
第 4 回	〈働く〉ということ	正規/非正規という働き方の違いから労働の意味を考える
第 5 回	社会経済学の理論的源泉	社会経済学を形成した経済学者は誰か
第 6 回	資本主義を理解するためのアプローチ (#1)	新古典派経済学の考え方
第 7 回	資本主義を理解するためのアプローチ (#2)	社会経済学の考え方
第 8 回	〈労働生産性〉を測るということ	人間と自然の関係の捉え方
第 9 回	社会が〈再生産〉されるということ (#1)	人と人との関係の再生産
第 10 回	社会が〈再生産〉されるということ (#2)	人と人との関係の再生産
第 11 回	〈剰余〉が生み出されるということ	剰余が生み出される条件は何か
第 12 回	〈お金=貨幣〉とはなんだろうか	貨幣の性質は何か
第 13 回	〈儲け=利潤〉はどこから生まれるか	利潤が生み出される条件は何か
第 14 回	生産物は誰のものになるのか	〈所有する〉ということを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞・雑誌等の社会経済問題にかかわる記事に目配りしておくこと。
さまざまな分野の図書を読む。

【テキスト（教科書）】
中谷武・佐藤良一他『資本主義がわかる経済学』大月書店、2019 年

【参考書】
必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験・授業内レポートの成績を総合して (試験 70%、レポート 30%) 評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生との interaction を重視した授業運営を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
The object of this course is to provide tools, concept and ways to understand the "core" of the capitalist economy.

ECN100CA

社会経済学基礎 B

佐藤　良一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境問題、金融危機、格差の拡大等、憂慮すべき問題は多い、現状を認識するためには、広い視野に立って主体的に考察する力をつけねばならない。経済学にもさまざまな理論がある。この講義では「複眼的」に現象をとらえるための基本的知識を身につけることが目標である。資本主義経済の仕組みを分析的に理解することがテーマとなる。

【到達目標】
「社会経済学基礎 B」では「社会経済学基礎 A」で学んだ基本的概念の理解のうえで、資本主義の特徴である〈変化〉に焦点を絞って、システムのより深い理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
毎回"Today's Topics"のコーナーを設け、時事的問題をとりあげる。可能な限り、それらと関連づけながら〈資本主義システムの仕組み〉を検討する。講義、Q&A、ディスカッション、ショート・エッセイを書くというように授業を進める。高校までの「社会」科を大学の「経済学」へブリッジする参加型の楽しめる講義を目指したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	〈スロー・ライフ〉を考える	秋学期オリエンテーション 経済成長の〈意味〉
第 2 回	賃金はどのようにして決まるのか (#1)	賃金が決まる市場はどこか
第 3 回	賃金はどのようにして決まるのか (#2)	賃金の一時的決定
第 4 回	賃金はどのようにして決まるのか (#3)	賃金を変化させる要因とは
第 5 回	なぜ失業してしまうのか (#1)	どれだけの人が失業しているのか
第 6 回	なぜ失業してしまうのか (#2)	なにが失業を生み出すのか
第 7 回	時間的変化の捉え方 (#1)	変化を数学的にどう捉えるか
第 8 回	時間的変化の捉え方 (#2)	価格の変動を例に考える
第 9 回	なぜ経済は変動するのだろうか (#1)	歴史的にどのように変動してきたか
第 10 回	なぜ経済は変動するのだろうか (#2)	変動を生み出す要因はなんだろうか
第 11 回	なぜ経済は変動するのだろうか (#3)	安定化させるメカニズムはなにか
第 12 回	〈市場〉経済と〈資本主義〉経済	経済システムの特徴付けの違い
第 13 回	市場経済は効率的だろうか	効率性という尺度を捉え直す
第 14 回	〈資本主義〉とは?	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞・雑誌等に触れ、経済社会問題に日々目配りしておくこと。

【テキスト（教科書）】
中谷武・佐藤良一他『資本主義がわかる経済学』大月書店、2019 年

【参考書】
必要に応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験・授業内レポートの成績を総合して (試験 70%、レポート 30%) 評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生との interaction を重視した授業運営を目指す。

【Outline and objectives】
The object of this course is to provide tools, concept and ways to understand the "core" of the capitalist economy.

ECN100CA

現代経済学基礎 A

竹田　茂夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国民所得などに関する基礎的諸概念を出発点に、国民経済計算や有効需要論の基本的理解を踏まえ、現実の日本経済や欧米の経済に関する歴史的・統計的資料を用いつつ、市場原理と政府の経済活動を中心とした現代の経済システム全般に関して講義する。講義では、内外の経済成長や金融システムに関する理論と実際の歴史的経験（高度成長、成熟経済、バブルの生成と崩壊、自由貿易、国際経済システムの発展と波乱、等）をデータを交えて比較しつつ理解を深める。

【到達目標】
広い視野に立って現代の経済システムの基本について主体的に、批判的に考察することができる知識と分析力を養うことが授業の目標である。特に、市場経済の原理を理解するための基礎的概念や基礎的理論が主要テーマとなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
教科書は使わない。教科書のかわりに、毎回、事前にパワーポイントの講義資料を授業支援システムにアップロードする。講義は時事問題、歴史上のエピソード、人物紹介など多くの題材を扱う。
以下のスケジュールを変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	市場経済
2	国民経済計算（1）	マクロ経済学の起源と目的、集計量、経済政策
3	国民経済計算（2）	経済成長、物価水準
4	国民経済計算（3）	帰属計算、家事労働、フェミニスト経済学、国民総福祉
5	有効需要（1）	有効需要の原理、乗数効果、財政政策
6	有効需要（2）	公共事業の問題点、リカード等価性
7	大きな政府と小さな政府	ケインズ、ケインズ経済学と批判者
8	金融システム	通貨の定義、流動性、直接金融と間接金融
9	金融政策	貨幣乗数、トランスミッション・メカニズム、マネタリズム
10	中央銀行（1）	制度の起源、役割
11	中央銀行（2）	流動性の罠、非伝統的金融政策
12	インフレ	第一次大戦後ドイツの超インフレ
13	デフレ	日本の失われた 10 年、欧米の債務の 10 年
14	バブル	バブルの歴史と理論、日本の経験、米国の経験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前のパワーポイントの閲覧、配布資料の復習、レポート作成の準備

【テキスト（教科書）】
使わない。必要な資料や文献はなるべく事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】
内閣府『経済財政白書』（各年度版）、総務省統計局『日本の統計』（各年度版）。その他の参考文献や参考資料は授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
暫定的に次のように採点配分するが、講義の進捗具合で変更することがありえることに予め十分注意する。
マークシート方式の定期試験（60 %）、授業内小テスト（10 %）、参加自由のレポート（30 %）を総合的に勘案して成績評価基準とする。
優秀なレポートは成績評価の際に特に高く評価する。
ただし、講義の進捗状況によって授業内小テストを行わない場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
高校で学ばなかった項目が講義の中で説明されなかった場合には、必ず質問して、疑問を解消しておくことが必要。

【Outline and objectives】
The purpose of this lecture is the introduction to the very basic principles and concepts of modern economics. The topics to be discussed range from the definitions of GDP and monetary aggregates, from the Keynesian theory of effective demand, from the theories of inflation and deflation, from historical instances of market bubbles, to people's actual experience in the economic process.

ECN100CA

現代経済学基礎 B

竹田　茂夫

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国民所得論や有効需要論や金融システムに関する基本的理解を前提にして、市場経済に関するより進んだテーマを講義する。フロー経済に比べた場合の資産市場の特質を理解した上で、デフレやバブルの理論と実際の歴史的経験を講義する。経済理論は IS・LM の基本モデルと流動性の罠などへの応用が中心テーマとなる。実際の市場経済の経験については、バブル崩壊に伴う金融危機と財政危機、非伝統的金融政策、世界的な低成長などのテーマを選んで解説する。授業では、バブルやデフレの理論と歴史と人々の実際の経験を織り交ぜつつ、市場経済に関する総合的理解を目指す。

【到達目標】
広い視野に立って現代の経済システムの基本について主体的に、批判的に考察することができる知識と分析力を養うことが授業の目標である。特に、市場経済の基礎的な概念や理論を前提にして、人々の経験や社会の変化に関する理解を深めることが主要テーマである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
教科書は使わない。教科書のかわりに、毎回、事前にパワーポイントの講義資料を授業支援システムにアップロードする。講義は時事問題、歴史上のエピソード、人物紹介など多くの題材を扱う。
以下のスケジュールを変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	市場経済の特質、インフレ、デフレ、バブル
2	資産市場（1）	割引現在価値、効率的市場仮説
3	資産市場（2）	バブルの生成、美人投票の理論、合理的バブル、ポンチスキーム
4	資産市場（3）	金融危機、コンテージョン
5	バブルの経験	歴史上のバブル、20 世紀のバブル、最近の欧米住宅バブル
6	金融危機と財政危機。	リーマンショック、国家債務の問題
7	金融と実体経済	ISLM モデルの基礎
8	不況と流動性の罠	ISLM モデルの応用
9	日本経済（1）	高度成長と金融システムの特色
10	日本経済（2）	日本のバブルの生成と崩壊、金融危機、不況、デフレ
11	欧米の経済（1）	欧州の福祉国家、税と社会保障
12	欧米の経済（2）	「小さな政府」、サッチャリズムとレーガノミクス
13	グローバル化	貿易と金融のグローバル化、移民と労働力
14	経済の中の人物像	経営者と企業家の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前のパワーポイントの閲覧、配布資料の復習、レポート作成の準備

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。毎回のパワポ（授業レジュメ）、統計資料、その他の資料を参照する。

【参考書】
内閣府『経済財政白書』（各年度版）、総務省統計局『世界の統計』（各年度版）。その他の参考文献や参考資料は授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
暫定的に次のように採点配分するが、講義の進捗具合で変更することがありえることに予め十分注意する。
マークシート方式の定期試験（60 %）、授業内小テスト（10 %）、参加自由のレポート（30 %）を総合的に勘案して成績評価基準とする。
優秀なレポートは成績評価の際に特に高く評価する。
ただし、講義の進捗状況によって授業内小テストを行わない場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
高校で学ばなかった項目が講義の中で説明されなかった場合には、必ず質問して、疑問を解消しておくことが必要。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
なし。

【Outline and objectives】
The purpose of this lecture is the basic concepts and theories of modern macroeconomics. The topics to be discussed range from pricing in asset markets, from IS-LM models, from historical experiences of market bubbles, from Japan's post-war financial system, to liquidity trap and grave financial crises in the 1990s.

ECN100CA

経済史 A

牧野　文夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「近代経済成長」を主題に、なぜある国は豊かで、他の国は貧しいのか、比較経済史の視点で講義する。講義は基本的に 1 年生を前提にするので、高校で学習した世界史、日本史との連続性を重視し、日本経済史、世界経済史、企業経営史、開発経済学などの専門科目への橋渡しをする。秋学期の経済史 B も続けて受講することが望ましい。

【到達目標】
1）市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2）またそれには様々な類型があったことを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
PPT 資料にもとづいて講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	近代経済成長とは	講義全体の視点、枠組みついて
2	グローバリゼーションと世界経済 1	20〜21 世紀をまたく世界経済：リーマンショックとその後について
3	グローバリゼーションと世界経済 2	1980〜90 年代の世界経済：レーガノミクスと日本のバブル経済について
4	1960〜70 年代の世界経済	ケインズ政策とオイルショックみついて
5	第二次世界大戦直後の世界経済	IMF-GATT 体制の成立とその意義について
6	社会主義経済の成立と崩壊	ソ連型社会主義経済の成立、発展、崩壊について
7	大恐慌とそのインパクト	アメリカ経済の発展とバブル崩壊について
8	大恐慌と第二次世界大戦	大恐慌が世界経済にもたらした影響について
9	大英帝国と western impact（アジア三角貿易）	19 世紀後半から 20 世紀前半にかけての欧米とアジアの経済関係について
10	第二次産業革命	19 世紀末から 20 世紀初めにかけての欧米経済の発展について
11	自動車産業の発展	20 世紀工業化の担い手の技術と経営の発展
12	イギリスの産業革命 1	産業革命の前提、前近代のエネルギー問題について
13	イギリスの産業革命 2	綿工業の発展（技術進歩を中心に）について
14	イギリスの産業革命 3	産業革命の帰結、社会変化について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校で日本史あるいは世界史を履修していなかった受講生は、教科書あるいは概説を事前に確認しておくこと。授業で使用する資料を事前にダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を授業支援システムにアップロードするのでそれをダウンロードしておくこと。

【参考書】
①猪木武徳『戦後世界経済史』中公新書。
②飯田隆『図説西洋経済史』日本経済評論社。
③深尾京司・他編『日本経済の歴史（全 6 巻）』岩波書店。
④速水融等編『日本経済史（全 8 巻）』岩波書店。
⑤谷沢弘毅『近現代日本の経済発展（上下）』八千代出版。
⑥ T. ピケティ『21 世紀の資本』みすず書房。
その他適宜授業の中で指摘する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験の結果で決める (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
日本と外国のバランスに配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
適宜ビデオ、DVD などを見る。

【Outline and objectives】
Understanding modern economic growth

ECN100CA

経済史 B

牧野　文夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「近代経済成長」を主題に、なぜある国は豊かで、他の国は貧しいのか、比較経済史の視点で講義する。講義は基本的に 1 年生を前提にするので、高校で学習した世界史、日本史との連続性を重視し、日本経済史、世界経済史、企業経営史、開発経済学などの専門科目への橋渡しをする。経済史 A を受講しておくことが望ましい。

【到達目標】
1）市場経済がどのように発展していったかを理解する。
2）またそれには様々な類型があったことを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
PPT 資料にもとづいて講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大航海時代（16-17 世紀の経済のグローバル化）1	前提条件（イスラム世界、モンゴル帝国）について
2	大航海時代（16-17 世紀の経済のグローバル化）2	価格革命と商業革命について
3	大航海時代（16-17 世紀の経済のグローバル化）3	ヨーロッパとアジア、大西洋三角貿易について
4	大航海時代（16-17 世紀の経済のグローバル化）4	アジア市場における日本について
5	徳川時代の経済、社会システム 1	徳川時代の身分制度、経済倫理、教育について（日本の経験の特徴）
6	徳川時代の経済、社会システム 2	徳川時代の人口、科学技術などについて（最近の研究成果から）
7	徳川時代の市場の発展 1	17〜18 世紀の貨幣と物価からみた市場経済の発展について 1
8	徳川時代の市場の発展 2	17〜18 世紀の貨幣と物価からみた市場経済の発展について 2
9	幕末のインフレ的成長	19 世紀日本の市場経済の発展について
10	明治初期の制度改革	新政府による政治、経済システム改革の改革について
11	富国強兵と殖産興業	明治政府の殖産興業政策について
12	日本における工業化のスタート（1900 年代）	1880 年代後半から 20 世紀初頭にかけての工業化の実態について
13	1910-20 年代の日本経済	第一次世界大戦大戦期のバブル経済とその崩壊について
14	1930-40 年代前半の日本経済	戦時統制経済（戦後日本型経済システムの源流）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校で日本史あるいは世界史を履修していなかった受講生は、教科書あるいは概説を事前に確認しておくこと。授業で使用する資料を事前にダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を授業支援システムにアップロードするのでそれをダウンロードしておくこと。

【参考書】
①猪木武徳『戦後世界経済史』中公新書。
②飯田隆『図説西洋経済史』日本経済評論社。
③深尾京司・他編『日本経済の歴史（全 6 巻）』岩波書店。
④速水融等編『日本経済史（全 8 巻）』岩波書店。
⑤谷沢弘毅『近現代日本の経済発展（上下）』八千代出版。
⑥ T. ピケティ『21 世紀の資本』みすず書房。
その他適宜授業の中で指摘する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験の結果で決める (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
日本と外国のバランスに配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
適宜ビデオ、DVD などを見る。

【Outline and objectives】
Understanding modern economic growth

ECN100CA

経済史 A

長原　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要：近代とその土台である資本主義の形成過程を「史実」と「論理（あるいは理論）」という 2 つの視点から整理する。
授業目的と意義：現代という観点から歴史を俯瞰的かつアクチュアルに捉え、他者に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
到達目標は以下の 2 点である。
(1)「歴史的近代」が「資本主義的近代」へと具体化していく過程を「資本」形成の視点から大摑みにできるようになること。
(2) またそのさい、「史実」とその「理論− 論理」的理解を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
1 大テーマごとに「レジュメ」を配布する。
2 レジュメに基づく徹底的な Note-Taking を指導する。
3 最初の 10 分は前回講義復習、最後の 10 分は当日講義についての質問にあてる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	歴史（学）と経済史	経済史が歴史をどのように「切り取る」かを伝える。
2	経済史と経済学	経済学が経済史をどのように「切り取る」かを伝える。
3	史実と理論	「史実」と「理論」がどのように「結託」するかを議論する。
4	大航海時代の意義 (1)	世界市場の「形成」の大枠を説明する。
5	大航海時代の意義 (2)	世界市場の「変化」の大枠を説明する。
6	西欧と「その残余」としての「東洋」	世界市場が捉えた「その他」の世界としての「東洋」の意味を総括的に整理する。
7	世界市場と「商人」資本	第 6 回までの講義を「商人」という視点から総括する。
8	出発点としての中世西欧の経済構造	共同体という経済的仕組みとその解体の過程を跡づける。
9	転換点としての「オランダ」	「オランダ」の破壊力を商業− 流通と金融の 2 点から整理する。
10	「オランダ的なもの」と「イングランド的なもの」	産業社会の担い手として、商人資本から産業資本への移行過程をモデル的理解を深化させる。
11	「イングランド的なもの」の理論的解明	第 10 回の講義の理論的「意義」を整理する。
12	「産業」資本は、歴史的には、何を意味するのか？	「イングランド」の「特殊性」と「普遍性」を資本という観点から説明する。
13	「産業」資本の世界システムとは何か：経済史Bのために	経済史Bの冒頭で講義される「自由主義世界」を「予習」する。
14	総括と質問日	講義の総括を行い、不明な点のチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
著書のタイトルに「経済史」という文字が入っている書籍を少なくとも 1 冊は読みとおし、経済史へのそれぞれのイメージを作る。

【テキスト（教科書）】
毎回授業でレジュメを配布する。

【参考書】
金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史：グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、初版第 3 刷、2014 年、2800 円＋税

【成績評価の方法と基準】
期末試験（記述方式）によって評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
講義冒頭で前回講義のサマリーを行うことが求められていることに気づかされた。

【専門分野】
日本経済史・経済理論

【研究テーマ】
経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】
『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

【Outline and objectives】
(1): Our class aims at understanding the modernity so-called and the formation processes of Capitalism associated with it in terms of the two viewpoints: "the historical facts" and "the theories (or logics).
(2) Based on (1), our calss is to guide students to actually grasp the economic histories and then become to be able to explain to others what is learned in the class.

ECN100CA

経済史 B

長原　豊

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要：近代とその土台である資本主義の形成過程を「史実」と「論理（あるいは理論）」という 2 つの視点から整理する。
授業目的と意義：現代という観点から歴史を俯瞰的かつアクチュアルに捉え、他者に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
到達目標は以下の 2 点である。
(1)「歴史的近代」が「資本主義的近代」へと具体化していく過程を「資本」形成の視点から大掴みにできるようになる。
(2) またそのさい、「史実」とその「理論− 論理」的理解を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
1 大テーマ毎に「レジュメ」を配布する。
2 レジュメに基づく徹底的な Note-Taking を指導する。
3 最初の 10 分は前回講義復習、最後の 10 分は当日講義についての質問にあてる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自由主義世界の経済史的構造 (1)	1820 年代以降の世界の構造を整理する。
2	自由主義世界の経済史的構造 (2)	自由主義世界における「イングランド」の「意味」を確認する。
3	自由主義世界の経済史的構造 (3)	自由主義世界の基軸である「金本位制」の定着について整理する。
4	産業構造の基本 (1)	「先発国」イングランドにおける「典型」性と「特殊」性を整理する。
5	産業構造の基本 (2)	第 4 回講義で定義した「先発国」という視点から「後発国」の意味を整理する。
6	近代における景気循環 (1)	1825 年恐慌以降の景気循環と成長を統計的に整理する。
7	近代における景気循環 (2)	景気循環の「世界性」を統計的に整理する。
8	近代における景気循環 (3)	景気循環の「変質」を統計的に整理する。
9	資本制「近代」とは	近代「世界」の構造の図式的理解の確認。
10	自由主義世界の転換 (1)	19 世紀末大不況と景気循環の変質について整理する。
11	自由主義世界の転換 (2)	世界市場の構造変化と国民経済について整理する。
12	「長い 20 世紀」	第 1 次世界大戦への過程を遡及的に整理し、「20 世紀」を定義する。
13	21 世紀を準備したモーメント	Pax Britannica から Pax Americana への以降を把握する。
14	経済史 B の総括と質問日	総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
著書のタイトルに「現代世界経済」という文字が入っている書籍を少なくとも 1 冊は読みとおし、現代世界の経済史へのそれぞれのイメージを作る。

【テキスト（教科書）】
毎回授業でレジュメを配布する。

【参考書】
金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史：グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、初版第 3 刷、2014 年、2800 円＋税

【成績評価の方法と基準】
期末試験（記述方式）によって評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
講義冒頭で前回講義のサマリーを行うことが求められていることに気づかされた。

【専門分野】
日本経済史・経済理論

【研究テーマ】
経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】
『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

【Outline and objectives】
(1): Our class aims at understanding the modernity so-called and the formation processes of Capitalism associated with it in terms of the two viewpoints: "the historical facts" and "the theories (or logics).
(2) Based on (1), our calss is to guide students to actually grasp the economic histories and then become to be able to explain to others what is learned in the class.

ECN100CA

統計学 A

菅　幹雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は経済統計、記述統計について学ぶ。

【到達目標】
経済・社会に関する統計制度を理解した上で、記述統計の基本的なテクニークを学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。講義はテキストに沿って行う。第１～８回は授業は経済・社会に関する統計制度を学ぶ。第１回になぜ経済学部で統計学を学ぶのかを確認した上で、第２～４回は産業ベースの統計、第５～７回は世帯ベースの統計について学ぶが、それぞれセンサス、標本調査、加工統計・指数という構成になっている。そして第８回にはそれらを総合したマクロ統計である国民経済計算を学ぶ。第９～１３回は度数分布とヒストグラム、平均、分散と標準偏差、相関係数、回帰分析など記述統計の基本的なテクニークを学ぶ。そして第１４回に記述統計から推測統計（統計学 B）への橋渡しを行う。レポートを３回行う。試験はマークシート方式で、教科書・ノート・電卓は持ち込み可である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、経済統計（1）	経済学部でなぜ統計を学ぶのか、経済統計の流れ
2	経済統計（2）	経済センサス
3	経済統計（3）	工業統計調査、経済構造実態調査
4	経済統計（4）	産業連関表
5	経済統計（5）	国勢調査
6	経済統計（6）	家計調査
7	経済統計（7）	消費者物価指数
8	経済統計（8）	国民経済計算
9	記述統計（1）	度数分布とヒストグラム
10	記述統計（2）	平均
11	記述統計（3）	分散と標準偏差
12	記述統計（4）	相関係数
13	記述統計（5）	回帰分析
14	記述統計（4）	記述統計から推測統計へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では統計学の説明に数学を用いるが、数学が苦手な学生は、高校の数学の教科書をよく復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館（1～8 回）3564 円

【参考書】
福井幸男『統計学の力 ベースボールからベンチャービジネスまで』共立出版（9 回目以降）2592 円

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、レポート・ワークシート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
黒板の板書が見にくいという指摘があり、PowerPoint を用いた講義を行なう。

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【Outline and objectives】
Students learn economic statistics and descriptive statistics.

ECN100CA

統計学 B

宮脇　典彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　偶然変動を伴う経済データの分析を行うときに，枝葉の部分は捨象して本質的な関係だけをとりだした「統計モデル」を作成し，このモデルを通じて経済の動きをみる，という手法が頻繁に用いられます。
　本講義では，「統計学Ａ」で学んだ記述統計の内容を発展させ，データを解析していく上で不可欠であり，統計モデルによる分析の支えとなる確率論と統計学の基本的な考え方について解説していきます。

【到達目標】
　確率論と統計学の基礎知識を身につけ，実際に統計データを用いた分析ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
　基本的に講義形式で授業を進めます。内容の理解を深めるため，リアクションペーパー等の提出を求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	確率論と統計学への招待
第 2 回	確率（1）	確率の概念，標本空間と確率
第 3 回	確率（2）	条件付き確率と独立性
第 4 回	確率変数とその分布（1）	確率変数と確率分布
第 5 回	確率変数とその分布（2）	確率分布の特性値（期待値と分散，標準偏差）
第 6 回	確率変数とその分布（3）	多次元の確率変数と特性値
第 7 回	離散的な確率分布	ベルヌーイ分布と二項分布，ポアソン分布
第 8 回	連続的な確率分布	一様分布と正規分布
第 9 回	中心極限定理，母集団と標本	中心極限定理と正規近似，母集団からの標本抽出
第 10 回	正規母集団からの標本分布	カイ２乗分布とｔ分布
第 11 回	推定（1）	正規母集団における母平均の推定
第 12 回	推定（2）	二項母集団における母集団比率の推定
第 13 回	検定（1）	検定の手続と正規母集団における母平均の検定
第 14 回	検定（2）	二項母集団における母集団比率の検定・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回の授業の内容はいずれも完結したものとなっていますが、それぞれは連続した積み上げ方式で体系化された内容となっています。そのため，欠席するとそれ以降の内容についていけなくなりますので，受講者はくれぐれも欠席しないようにしてください。
　また、予習、復習をきちんと行い、各授業項目の流れをきちんとフォローするようにしておいてください。

【テキスト（教科書）】
田中勝人著「基礎コース 統計学　第 2 版」，新世社（2010 年）

【参考書】
豊田利久他著「基本統計学 第３版」，東洋経済新報社（2015 年）
森棟公男他著「改訂版 統計学」，有斐閣（2015 年）

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
　数学的に難解にならないよう，例えば微分は接線の傾き，積分は面積に置き換えて説明するようにしています。また，必要に応じて Excel を用いることで，実践的な授業になるよう努めます。

【Outline and objectives】
Learn the basic concept of probability theory and statistics which will support the analysis by the statistical model

PRI100CA

コンピューター入門 A

新村　隆英

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

【到達目標】
① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
③ データの作成や検索方法等を習得する。
④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、イ ンターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。
以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	システムの概要	オペレーティングシステムとファイル操作を理解する。
第 2 回	文書作成ソフトの使い方	文書作成ソフトの利用法を理解する。
第 3 回	定型文書の作成 (1)	定型文書の作成と画像データの利用と加工。
第 4 回	定型文書の作成 (2)	ビジネス文書や英文の文書の作成。
第 5 回	定型文書の作成 (3)	はがきサイズの文書及びレポート形式の文書の作成。
第 6 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成と HTML 言語。
第 7 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション資料作成システムの利用と資料作成用方法。
第 8 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種種の機能とその利用法。
第 9 回	データの読込みと簡単な計算	テキストデータの利用と整形法。
第 10 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法。
第 11 回	ヒストグラムとグラフ	ヒストグラムの作成と複合グラフ・積上げ棒グラフ等の作成。
第 12 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順。
第 13 回	サンプルデータからの情報抽出	サンプルデータからの各種統計量の抽出。
第 14 回	春学期最終課題	春学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成

【テキスト（教科書）】
実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、￥1,900 ＋税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】
必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】
基本的には学期末に実技を伴う試験、あるいはそれに相当するレポートを課す (50%)。また、ほぼ毎回の課題（または宿題）の提出 (50%) が重視される。

【学生の意見等からの気づき】
演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【その他の重要事項】
セキュリティ上，学生自身の情報機器を演習室内で使うことは不可

【Outline and objectives】
This course is aimed at 1) understanding the structure of computer systems and their communication networks; 2) acquiring the basic skills of using computers for creating data sets, and searching data sending/receiving on the information networks; 3) learning the methods of creating business documents and materials for presentation, and the basic structures of Web pages; 4) and understanding the basic methods of computer-based calculation for simple data analyses including numerical data analyses using computers.

PRI100CA

コンピューター入門 B

新村　隆英

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

【到達目標】
① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
③ データの作成や検索方法等を習得する。
④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に，アプリケーションソフトの 開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法，及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成

【テキスト（教科書）】
実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、￥1,900 ＋税
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

【参考書】
必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

【成績評価の方法と基準】
基本的には学期末に実技を伴う試験、あるいはそれに相当するレポートを課す (50%)。また、ほぼ毎回の課題（または宿題）の提出 (50%) が重視される。

【学生の意見等からの気づき】
演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
セキュリティ上，学生自身の情報機器を演習室内で使うことは不可

【Outline and objectives】
This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

ECN100CA

ビジネス数学入門A

廣川　みどり

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学を学ぶためには、初等的な数学の知識が必要である。また、社会に出てからも「数字を読む」「論理的に考える」「データを扱う」などの技術が要求される。数学受験を経ていない人には初等的な知識の獲得を、数学受験を経ている人にはビジネス数学としての使い方の修得をめざす。

【到達目標】
経済学部の講義を受講するにあたって基本的な数学の知識と考え方を習得し、簡単な練習問題が解けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義に加え、記憶の定着を図るため適宜、演習問題を授業内でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済・社会を数学を用いて考えることの意味、モデルという発想、いまさら聞けないことの確認、動機づけ。
2	関数入門（数と数との関係を考える）	変数と定数、直線の式とグラフ、切片、傾きの意味、軸の見方、増加関数、減少関数。
3	関数を使ってみる（ものの値段の決まり方）	ふたつの関数の交点を求める、需要／供給曲線、売上額をグラフで見る、値段を高くしたら売上は上がるか下がるか？
4	集団を代表する数	和、平均値、加重平均、期待値、最頻値、中央値、GDP、日経平均など。
5	比率によってものごとをとらえる	失業率、利子率、インフレ率（おまけ：食塩水の濃度問題）
6	直線的でない関係	反比例、べき乗、平方根に対応する関数、ピタゴラスの定理、2 次関数、2 次関数の解の公式。
7	中間のまとめと復習	第 2 回～第 6 回の内容のふりかえりと演習。応用問題。
8	逆関数	因果関係、みかけの関係、逆関数の考え方
9	お金を銀行に預けたら (1)	単利と複利の考え方、経済成長、割引現在価値、指数関数
10	お金を銀行に預けたら (2)	1 万円を貯金、何年で 2 万円になる？対数関数の考え方
11	かけ算と足し算、割り算と引き算	指数法則、対数法則
12	お金を銀行に預けたら (3)	（等比）数列の考え方：預けたお金は、1 年後、2 年後、3 年後・・・、どれだけ増えていく？
13	お金を銀行に預けたら (4)	級数（等比数列の和、無限等比級数の和）の考え方：毎年積み立てたお金は 10 年後にはどれだけになる？
14	まとめと復習	全回（主に第 8 回～第 13 回）の内容のふりかえりと演習、応用問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校の数学の教科書を読み返すこと。また、中学・高校で数学が不得意だった人は、下に紹介する参考書などの練習問題を解いて復習すること。数学にも、スポーツ同様、訓練が必要となる。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
白石俊輔『経済学で出る数学　ワークブックでじっくり攻める』日本評論社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）・平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】
前半部の内容は比較的易しめだが、気を抜いて、指数関数、対数関数でつまづく学生が一定割合見受けられる。こちらでも気をつけておくが、履修者も気を引き締めて臨んでほしい。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn very basic mathematics, necessary to understand current economics and applicable to different business settings.　Topics include linear function, ratio and proportion, quadratic function, exponent, logarithm, sequence and series, and their application to economic models.

ECN100CA

ビジネス数学入門B

廣川　みどり

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学を学ぶためには、初等的な数学の知識が必要である。また、社会に出てからも「数字を読む」「論理的に考える」「データを扱う」などの技術が要求される。数学受験を経ていない人には初等的な知識の獲得を、数学受験を経ている人にはビジネス数学としての使い方の修得をめざす。

【到達目標】
数学的な論理、微分や確率の知識がどのように経済学やビジネスに応用されているか説明できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義に加え、記憶の定着を図るため適宜、演習問題を授業内でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「ビジネス数学入門 A」の復習と動機づけ。
2	限界と平均	変化をとらえる「限界」の考え方、限界と平均との関係。
3	微分の考え方	一次関数の復習、曲がったモノでも直線と見なしてしまおう、限界＝微分＝傾き。
4	簡単な微分	べき関数の復習、べき関数の微分、微分の線型性。
5	最大値と最小値	2 次関数の復習、微分係数と傾きの関係、増減表の作成、独占企業の利潤最大化問題を解く。
6	もっと微分	合成関数の考え方と微分、積の微分、代表的な関数の微分。
7	さらに微分	効用と消費者の行動。
8	中間のまとめと復習	第 2 回～第 7 回の内容のふりかえりと演習。応用問題。
9	集合・論理入門	数の集まりをひとくくりで考えて みる(偶数、3 の倍数など)、ベン図の作成、対偶の考え方。
10	確率の考え方	簡単な確率の求め方。
11	期待値の考え方	宝くじはいくら儲かる?
12	期待値と期待効用	サンクトペテルブルクのパラドックス：人は期待値で行動を選択する？
13	リスクについての考え方	保険会社の保険料/保険金の設定。
14	まとめと復習	全体（主に第 9 回～第 13 回）の復習、応用問題、この講義の先にあるもの。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校の数学の教科書を読み返すこと。また、中学・高校で数学が不得意だった人は、下に紹介する参考書などの練習問題を解いて復習すること。数学にも、スポーツ同様、訓練が必要となる。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
白石俊輔『経済学で出る数学　ワークブックでじっくり攻める』日本評論社、2013 年。また、講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）・平常点（40%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
In this course, you will learn very basic mathematics, necessary to understand current economics and applicable to different business settings. Topics include differentiation(single variable), set theory, probability, and their application to economic models.

ECN100CC

英語で学ぶ経済学入門 A

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の基本的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter1、Chapter4、Chapter5、Chapter6、Chapter7 を取り上げます。

【到達目標】
経済学がどのような事象を分析する学問であるかを理解する。経済学的な考え方に基づいて、需要曲線と供給曲線を導出できるようになる。
In this course students learn about the different phenomena studied in economics using the demand and supply framework.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。
The class is in a lecture format using slides that students can download.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Principles and Practice of Economics	The Scope of Economics
2	The Principles and Practice of Economics	The Principles of Economics
3	Demand, Supply, and Equilibrium	How Do Buyers Behave?
4	Demand, Supply, and Equilibrium	How Do Sellers Behave?
5	Demand, Supply, and Equilibrium	Supply and Demand in Equilibrium
6	Consumers and Incentives	Representing Preferences with Indifference Curves
7	Consumers and Incentives	Price Changes and Income Changes
8	Consumers and Incentives	Demand Curve and Consumer Surplus
9	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
10	Sellers and Incentives	The Seller's Problem
11	Sellers and Incentives	Supply Curve and Producer Surplus
12	Sellers and Incentives	From the Short Run to the Long Run
13	Sellers and Incentives	Long-Run Competitive Equilibrium
14	Perfect Competition and the Invisible Hand	Perfect Competition and Efficiency

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題をして、テキストやスライドを勉強して復習を行う。
Students are expected to review each week's material and complete all homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Peason.

【参考書】
特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】
宿題：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％
Homework: 30%
Midterm Exam: 30%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the fundamentals of economics. The course covers chapters 1, 4, 5, 6 and 7 of Economics: Pearson, Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015.

ECN100CC

英語で学ぶ経済学入門 B

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter8、Chapter9、Chapter10、Chapter11 を取り上げます。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、貿易や公共財、租税と規制が現実経済に与える影響を理解できるようになる。
The goal of this course is for students to apply their knowledge of microeconomics to understand how trade, public goods, taxation and regulation affect the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。
The class is conducted in a lecture format using slides that students can download.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Trade	Comparative Advantage
2	Trade	Trade Between Countries
3	Trade	Arguments Against Free Trade
4	Externalities and Public Goods	Externalities
5	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities
6	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities
7	The Government in the Economy: Taxation and Regulation	Regulation
8	The Government in the Economy: Taxation and Regulation	Government Failures
9	The Government in the Economy: Taxation and Regulation	Equity versus Efficiency
10	Markets for Factors of Production	The Competitive Labor Market
11	Markets for Factors of ProductionMarkets for Factors of Production	The Supply of Labor
12	Markets for Factors of Production	Wage Inequality
13	Monopoly	Introducing a New Market Structure
14	Monopoly	The Monopolist’s Problem

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題をして、テキストやスライドを勉強して復習を行う。
Students are expected to review each week’s material and complete all homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】
特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】
宿題：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％
Homework: 30%
Midterm Exam: 30%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。
None.

【Outline and objectives】
In this course, we continue our introduction to economics by covering chapters 8-11 of Economics: Pearson, Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015.

ECN100CC

英語で学ぶ経済学入門 A

武智　一貴

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is intended to introduce basic concepts in economics in English.

【到達目標】
We use an economic textbook written in English and learn how we can understand economic issues in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
All the materials are in English, but teaching is conducted in Japanese. We also study how we use real data to answer the economic questions in the economic evidence section in each chapter.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Principles and Practice of Economics	Basic concepts in economics
2	Is facebook free?	Evidence for the 1st section
3	Economic Methods and Economic Questions	Economic reasoning
4	Is college worth it?	Evidence for the 2nd section
5	Optimization: Doing the Best You Can	Economic behavior
6	How does location affect the rental cost of housing?	Evidence for the 3rd section
7	Demand, Supply, and Equilibrium	Market mechanism
8	How much more gasoline would people buy if its price were lower?	Evidence for the 4th section
9	Foundations of Microeconomics:Consumers and Incentives	Consumer behavior
10	Would a smoker quit the habit for $100 a month?	Evidence for the 5th section
11	Sellers and Incentives	producer behavior
12	How would an ethanol subsidy affect ethanol producers?:	Evidence for the 6th section
13	Perfect Competition and the Invisible Hand	What is competitive equilibrium?
14	Can markets composed of only self-interested people maximize the overall well-being of society?	Evidence for the 7th section

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read the textbook before the class.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, Laibson, and List, Economics, Peason

【参考書】
Mankiw, Principles of Economics, Cengage Learning

【成績評価の方法と基準】
Your grade will be determined by your performance on assignments (20%) and the final examination (80%).

【学生の意見等からの気づき】
We study the basic concepts of economics repeatedly.

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用します。

【Outline and objectives】
This course is intended to introduce basic concepts in economics in English.

ECN100CC

英語で学ぶ経済学入門 B

武智　一貴

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is intended to introduce basic concepts in economics in English.We focus on macroeconomics this semester.

【到達目標】
We use an economic textbook written in English and learn how we can understand economic issues in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
All the materials are in English, but teaching is conducted in Japanese. We also study how we use real data to answer the economic questions in the economic evidence section in each chapter.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Macroeconomics: The Wealth of Nations	Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates
2	In the United States, what is the total market value of annual economic production?	Evidence for the 1st section
3	Aggregate Incomes	The target of macroeconomics
4	Why is the average American so much richer than the average Indian?	Evidence for the 2nd section
5	Economic Growth	How to improve our standard of living
6	Why are you so much more prosperous than your great-greatgrandparents were?:	Evidence for the 3rd section
7	Why Isn't the Whole World Developed?	Economic inequality
8	Are tropical and semitropical areas condemned to poverty by their geographies?	Evidence for the 4th section
9	Equilibrium in the Macroeconomy: Employment and Unemploymen	Labor market
10	What happens to employment and unemployment if local employers go out of business?	Evidence for the 5th section
11	Credit Markets	Bank, loan, and securities
12	How often do banks fail?:	Evidence for the 6th section
13	The Monetary System	Money, interest rate, and price level
14	What caused the German hyperinflation of 1922 – 1923?	Eidence for the 7th section

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read the textbook before the class.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, Laibson, and List, Economics, Peason

【参考書】
Mankiw, Principles of Economics, Cengage Learning

【成績評価の方法と基準】
Your grade will be determined by your performance on assignments (20%) and the final examination (80%).

【学生の意見等からの気づき】
We will learn the basic concepts of economics repeatedly.

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
This course is intended to introduce basic concepts in economics in English.We focus on macroeconomics this semester.

ECN100CA

データで知る世界経済 A

馬場　敏幸

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際経済学科の入門講義として、「世界経済」の現状をオンラインデータベースの最新のデータによって理解を深めることを目的とする。本講義で使用するデータ検索・抽出は、主に世銀データベースを利用するが、必要に応じて様々なデータベースを紹介する。その上で「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」について項目ごとに詳しく学ぶ

【到達目標】
世界の現状について、様々なデータベースからデータを抽出することを目指す。さらに得られたデータをもとに世界の国々の現状を比較検討し、持続可能な開発目標（SDGs）の各項目で詳しく分析を行えるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドによる講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、様々なオンラインデータベースの紹介
第 2 回	世銀データベース 1	各経済指標と基礎、および世銀データベースの使い方とデータ検索
第 3 回	世銀データベース 2	演習
第 4 回	持続可能な開発目標（SDGs）	ミレニアム開発目標と SDGs の概要
第 5 回	SDGs 1-1	貧困 1
第 6 回	SDGs 1-2	貧困 2
第 7 回	SDGs 2-1	飢餓 1
第 8 回	SDGs 2-2	飢餓 2
第 9 回	SDGs 3-1	健康と福祉 1
第 10 回	SDGs 3-2	健康と福祉 2
第 11 回	SDGs 4-1	教育 1
第 12 回	SDGs 4-2	教育 2
第 13 回	講義のまとめ	講義のまとめ
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベースの取り扱いに慣れるため、学習したデータベースを用いて様々な検索をすることを薦める。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義中に使用する主な各種統計資料は以下。世界銀行オープンデータ（https://data.worldbank.org/）、IMF World Economic Outlook Databases 2017, (http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2017/02/weodata/index.aspx) , 国連データ (http://data.un.org/)、国連商品貿易統計データベース (https://comtrade.un.org/)、HS コード（輸出統計品目標 2018 ： http://www.customs.go.jp/yusyutu/2018/index.htm）、OECD stat (http://stats.oecd.org/index.aspx?lang=en), ILO stat (http://www.ilo.org/ilostat/), 世界の統計 2017（http://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.htm), 外務省の各国情報（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/）、JETRO 各国情報（https://www.jetro.go.jp/world/）SDGs については https://sustainabledevelopment.un.org/?menu=1300　ほか

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 70%の評価をする。また、授業中に数度練習問題を出し、この分の合計 30%を期末試験に加点し、100 %として最終的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
まわりの私語など集中力の妨げるとの意見がみられる。授業中に学習する環境作りのため、授業中の私語・スマホ使用は禁止とし、守れない場合は注意します。

【学生が準備すべき機器他】
講義でオンラインデータベースを紹介し、使用方法を学ぶ。このため PC 持参を強く推奨する。

【その他の重要事項】
本講義は A,B より構成される。A と B は継続する内容で行う。このため、A,B ともに履修することを推奨する。

【Outline and objectives】
In this class, you learn basic skills of how to search and extract from economic data base and how to analyze using those data. Data bases using in this class are such as World Bank open data base and UN data base. Next, you learn about Sustainable Development Goals (SDGs) in detail.

ECN100CA

データで知る世界経済 B

馬場　敏幸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データで知る世界経済 A に引き続き、「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」について項目ごとに詳しく学ぶ

【到達目標】
世界の国々の現状を比較検討し、持続可能な開発目標（SDGs）の各項目で詳しく分析を行えるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
持続可能な開発目標（SDGs）の各項目について詳しく学び、考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、政府開発援助、持続可能な開発目標
第 2 回	SDGs 5-1	ジェンダー 1
第 3 回	SDGs 5-2	ジェンダー 2
第 4 回	SDGs 6-1	水と衛生 1
第 5 回	SDGs 6-2	水と衛生 2
第 6 回	SDGs 7-1	地球環境問題・エネルギー 1
第 7 回	SDGs 7-2	地球環境問題・エネルギー 2
第 8 回	SDGs 8-1	労働・働きがい 1
第 9 回	SDGs 8-2	労働・働きがい 2
第 10 回	SDGs 9-1	インフラ 1
第 11 回	SDGs 9-2	インフラ 2
第 12 回	SDGs 10-1	不平等是正 1
第 13 回	SDGs 10-2	不平等是正 2
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介した SDGs のデータソースにアクセスし、内容の理解を深めることを進める。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
A と同様

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 70%の評価をする。また、授業中に数度練習問題を出し、この分の合計 30%を期末試験に加点し、100 %として最終的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
まわりの私語など集中力の妨げるとの意見がみられる。授業中に学習する環境作りのため、授業中の私語・スマホ使用は禁止とし、守れない場合は注意します。

【学生が準備すべき機器他】
PC 持参を推奨する。

【その他の重要事項】
本講義は A,B より構成される。A と B は継続する内容で行う。このため、A,B ともに履修することを推奨する。

【Outline and objectives】
In this class, you learn about the Sustainable Development Goals (SDGs) in detail, continuously A.

ECN100CA

Japan and the Global Economy A

倪　彬

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Japan's economy witnessed a fast growth after world war Ⅱ. But ever since 1989, Japan's imploding stock bubble threw the country into a deep financial crisis, resulting in the famous "lost decades". And the stagnation continues especially after the world economic crisis hit in 2008. This will be one-year course. In the 1st semester, we will mainly take a macroeconomic perspective, and look at the reality and problems of Japanese economy from 1980s in a big picture, such as economic growth, financial and monetary policies, "the lost decade" and Abenomics.

【到達目標】
The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to Japanese economy, in a globalized context; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of Japan's globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	The general introduction of this course
2	GDP, demand and supply, and other basic concepts	To understand the definition of GDP, equilibrium and other basic economic terms
3	Rise of Japanese economy after World War 2	How Japanese economy developed after the war
4	The growth engine and Japan's "economic miracle"	To explain the Japan's fast economic growth using growth theory
5	National savings and economic growth in Japan	How Japan's economic growth can be explained by national savings
6	Japan's financial policy	To introduce the basic fiscal policies of Japan, from the perspective of investment and savings (taxation, government expenditure)
7	Japan's monetary policy	To introduce the basic monetary policies of Japan (interest rate, money supply)
8	The lost decade (1)	How the bubble in Japan was formed?
9	The lost decade (2)	The burst of the bubble and the stagnation of the economy in Japan
10	Subprime loan and world financial crisis	How the world financial crisis was triggered by subprime loan problem (in comparison to Japan's bubble economy)
11	From inflation to deflation: does Abenomics work?	How deflation hurt Japan and three arrows of Abenomics
12	Appreciation of yen and balance of payment & Japanese economy	Introduction of exchange rate and how that affects the Japanese economy
13	Japan's labor market	Introduction of the history and trend from lifetime to "irregular" employment, from a macro perspective
14	Japan's energy economy and sustainable development	How Japan's energy economy and sustainable development have developed

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion.

【テキスト（教科書）】
Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are posted on the Hosei's website. Students are asked to download and print out these teaching materials before each class.

【参考書】
Flath, David, The Japanese Economy, 3rd ed., Oxford: Oxford University Press, 2014.
Barba Navaretti, G. and A. J. Venables, Multinational Firms in the World Economy, Princeton University Press, 2004
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th Edition, Pearson, 2014
Robert C. Feenstra and Alan M. Taylor, International Economics, 2nd Edition, Worth Publishers, 2010

【成績評価の方法と基準】
(1)participation (stamp sheet) 25%
(2)homework 15%　(two take-home tests)
(3)final exam 60% (written exam, notes not allowed)

【学生の意見等からの気づき】
It will be the second time for me to teach this class.

【Outline and objectives】
The objective is to help the students form a general idea of the basic situation of Japanese economy in the context of globalization.

ECN100CA

Japan and the Global Economy B

倪　彬

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We will start by investigating how Japan's international trade and foreign direct investment evolve with the development of globalization, followed by discussion on some of the latest topics concerning Japan's integration with the world economy.

【到達目標】
The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to Japanese economy, in a globalized context; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of Japan's globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of the contents to be covered in the second semester
2	Japan's trade with other countries	Why Japan promoted export and the benefit of trade liberalization
3	Japanese trade policies and the impact on world economy	The export and import policies that Japan adopted and its impact on world economy: the case of TPP
4	Firm structure and recruiting system in Japan	What does a firm consist of? What's the recruiting system in Japan like compared to other countries? The case of Toyota multinational firms
5	The basics of FDI and Japanese multinational firms	To introduce the types of FDI and other basic knowledge of FDI
6	"Hollowing out" of Japan's manufacturing sector through oversea FDI	Japan's outward FDI and its connection with "hollowing out" impact: the case of Manga industry
7	Doing business in Japan	To introduce the benefits and difficulties of doing business in Japan: the case study of TripAdvisor
8	Japan's recent economic stagnation	The declining economic growth is thought to be caused by insufficient domestic consumption: what to do
9	Shrinking population and immigration policy	How Japan can increase its working force, e.g. by using the immigration policy: the case of Germany
10	Ageing problem in Japan	The problem lies in the unbalanced pension system: how Japan can learn from other developed economies
11	ICT and innovation	How ICT promotes trade and FDI through the channel of innovation: case study (by JETRO report)
12	Structural reform of Japan	Structural reforms are vital for Japan, especially for agricultural farmers small and medium-sized firms
13	Sharing economy in Japan	The development and prosperity of sharing economy in Japan, in comparison to China
14	EU, ASEAN and Japan's economic integration	How Japan can learn from EU and ASEAN to be integrated into global economy

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion.

【テキスト（教科書）】
Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are posted on the Hosei's website. Students are asked to download and print out the teaching materials before each class.

【参考書】
Flath, David, The Japanese Economy, 3rd ed., Oxford: Oxford University Press, 2014.
Barba Navaretti, G. and A. J. Venables, Multinational Firms in the World Economy, Princeton University Press, 2004
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th Edition, Pearson, 2014
Robert C. Feenstra and Alan M. Taylor, International Economics, 2nd Edition, Worth Publishers, 2010

【成績評価の方法と基準】
(1)participation (stamp sheet) 25%
(2)homework 15%　(two take-home tests)
(3)final exam 60% (written exam, notes not allowed)

【学生の意見等からの気づき】
It will be the second time for me teach this course.

【Outline and objectives】
The objective is to help the students form a general idea of the basic situation of Japanese economy in the context of globalization.

ECN100CA

Practical Economics A

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter1 から Chapter12 までの「Evidence-Based Economics」を取り上げます。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、様々な現代問題を経済学の立場から考えるようになる。
The goal of this class is for students to consider various modern social issues from the perspective of economics and apply their understanding of economics to these problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。
The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Principles and Practice of Economics	Is Facebook free?
2	Economic Methods and Economic Questions	How much more do workers with a college education earn?
3	Economic Methods and Economic Questions	How much do wages increase when an individual is compelled by law to get an extra year of schooling?
4	Optimization: Doing the Best You Can	How does location affect the rental cost of housing?
5	Demand, Supply and Equilibrium	How much more gasoline would people buy if its price were lower?
6	Consumers and Incentives	Would a smoker quit the habit for $100 per month?
7	Sellers and Incentives	How would an ethanol subsidy affect ethanol producers?
8	Perfect Competition and the Invisible Hand	Can markets composed of only self-interested people maximize the overall well-being of society?
9	Trade	Will free trade cause you to lose your job?
10	Externalities and Public Goods	How can the queen of England lower her commute time to Wembley Stadium?
11	The Government in the Economy; Taxation and Regulation	What is the optimal size of government?
12	The Government in the Economy; Taxation and Regulation	The Efficiency of Government Versus Privately Run Expeditions
13	Markets for Factors of Production	Do Wages Really Go Down if Labor Supply Increases?
14	Markets for Factors of Production	Is there discrimination in the labor market?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題をしてテキストを読みます。
Students are expected to read the relevant material before class and complete all homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】
特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】
宿題：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％
Homework: 30%
Midterm Exam: 30%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。
None.

【Outline and objectives】
This course teaches students how to apply the principles of economics to real world questions. The course centers on problems described in the「Evidence-Based Economics」sections of Economics: Pearson, Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015.

ECN100CA

Practical Economics B

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter13 から Chapter27 までの「Evidence-Based Economics」を取り上げます。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、様々な現代問題を経済学の立場から考えるようになる。
The goal of this class is for students to consider various modern social issues from the perspective of economics and apply their understanding of economics to these problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。
The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Monopoly	Can a Monopoly Ever Be Good for Society
2	Game Theory and Strategic Play	Is there value in putting yourself into someone else's shoes?
3	Oligopoly and Monopolistic Competition	How many firms are necessary to make a market competitive?
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Airline Price Wars Collusion: One Way to Keep Prices High
5	Auctions and Bargaining	Who determines how the household spends its money?
6	Trade-Offs Involving Time and Risk	Time and Risk
7	Basic Finance	The Basics of Business and Finance Part 1
8	Basic Finance	The Basics of Business and Finance Part 2
9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What is the total market value of annual economic production?
10	Aggregate Incomes	Inequality
11	Economic Growth	Japan's Post-World War II Economic Growth
12	The Monetary System	Hyperinflation
13	Short-Run Fluctuations	What Caused the Recession of 2007-2009?
14	Countercyclical Economic Policy	How Much Does Government Expenditure Stimulate GDP?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題をしてテキストを読みます。
Students are expected to read the relevant material before class and complete all homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】
特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】
宿題：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％
Homework: 30%
Midterm Exam: 30%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。
None.

【Outline and objectives】
This course continues the application of the principles of economics to real world questions. The course centers on problems described in the「Evidence-Based Economics」sections of Economics: Pearson, Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015.

ECN100CD

企業と経済・基礎 A

河村　真

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学は、企業、消費者、政府を含めた経済全体の仕組みを、マクロ的に分析する体系化された学問であるが、この講義は、特に「現代ビジネス学科」1 年生向けに、企業とビジネス活動という切り口を中心として、理論と実際の両面から、経済学入門を提供するものである。

【到達目標】
受講生は、講義を通じてマクロの基礎理論をマスターし、同時にビジネス経済学の視点から、現実経済に対しての問題意識を持つようになることが期待される。なお，2016 年度以降入学生にとって本科目は「必修科目」であるため，2 年次終了までに単位を取得しなければならない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教室での講義授業の形態で進める。春学期は、「マクロ経済学」入門を講義し、特に企業と日本経済（マクロ経済）の関係を明らかにすることを目的とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本経済の状況を把握する統計Ⅰ	GDP、実質 GDP および産業別生産額
第 2 回	日本経済の状況を把握する統計Ⅱ	物価統計と物価指数の作成例
第 3 回	日本経済の状況を把握する統計Ⅲ	国民所得の分配の内訳としての分配勘定
第 4 回	日本経済の状況を把握する統計Ⅳ	消費、投資などを項目として含む支出勘定
第 5 回	消費の水準の変化は何が原因か？ Ⅰ	GDP と消費の相関、限界消費性向
第 6 回	消費の水準の変化は何が原因か？ Ⅱ	金利、物価水準などの消費への効果
第 7 回	投資の水準の変化は何が原因か？ Ⅰ	GDP の成長の投資への効果：加速度原理、利潤原理
第 8 回	投資の水準の変化は何が原因か？ Ⅱ	機会費用としての金利の投資への効果：投資関数
第 9 回	GDP 決定の理論Ⅰ	「45 度線」分析の紹介
第 10 回	GDP 決定の理論Ⅱ	投資および政府支出の乗数効果、なぜこれらは 1 より大きい？
第 11 回	政府支出増加と減税	政府支出乗数と租税乗数
第 12 回	需要- 供給曲線を用いた GDP および物価水準同時決定の理論	需要・供給曲線を用いて決める GDP 及び物価の均衡水準
第 13 回	財政政策、金融政策の GDP および物価水準への効果	需要- 供給曲線を用いた政策の GDP 及び物価の水準の変化の予測
第 14 回	日本経済の状況を把握する統計Ⅴ	金利および失業率

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容（授業ノート）および配布資料の理解と確認をその都度、および復習を通じて行っていくこと。その他詳細は授業内で指示する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の中で、レジュメや参考資料の配布、参考文献の指示を行う。

【参考書】
講義内で適宜紹介したいと思う。要望があれば、基本的な経済学入門の教科書を数冊、講義の際に持参するので、手にとって確かめることができるようにしたいと思う。

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績に従って、評価をつけることにする。（定期試験点数による評価： 100 %）

【学生の意見等からの気づき】
大学 1 年次の基本科目ということもあり、授業内容を丁寧に、そして適切に講義し、到達目標の達成につなげていきたい。また大教室授業ということもあり、教室内の授業規律（私語の注意など）も適切に実現させたい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to get the view on the related SNA(System of National Accounts) figures(e.g. GDP, private consumption, private investment,etc). Second is to overview last 3 decades macro economic figures changes (e.g.real GDP, Consumer Price Index,etc.) and build a view on Japanese Economy for last 3 decades. The third is to understand the determinants of private consumption (consumption function) and private investment(investment function),and fiscal policy effect on GDP(multiplier effect).

ECN100CD

企業と経済・基礎 B

砂田　充

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期 A の講義に続いて，秋学期 B の講義では，「現代ビジネス学科」1 年生が企業のビジネス活動と社会との関わりという切り口で理論と実際の両面から「ミクロ経済学」の基礎的な考え方や分析手法を学習する。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への橋渡しを行い，今後，経済学を体系的に学ぶために最低限必要となる知識を習得する。

【到達目標】
受講生は，講義を通じてミクロ経済学やゲーム理論の基礎理論を理解し，同時に現実の様々な経済・社会活動に対して経済学的な視点からの問題意識を持つことが期待される。なお，2016 年度以降入学生にとって本科目は「必修科目」であるため，2 年次終了までに単位を取得しなければならない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教室での講義授業の形態で進める。パワーポイント及び黒板を使っての講義が主になる。受講生は内容をノートに取り，しっかりと復習することが望まれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学とは？
2	経済学のための数学基礎	関数，グラフ，微分
3	意思決定	トレード・オフ，機会費用，サンク・コスト，現在割引価値
4	消費者理論①	予算制約
5	消費者理論②	効用と選好
6	消費者理論③	最適消費計画と需要曲線
7	消費者理論④	弾力性
8	生産者理論①	生産関数と費用最小化
9	生産者理論②	企業の費用構造
10	市場均衡と経済厚生	消費者余剰，生産者余剰，総余剰
11	独占	独占企業の価格設定
12	ゲーム理論入門	ナッシュ均衡と囚人のジレンマ
13	不完全競争	寡占市場とゲーム理論
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ノートおよび配布資料の理解と確認をその都度行っていくこと。配布資料は「授業支援システム」にアップされるので活用すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

【参考書】
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』（有斐閣，2013 年），伊神満『「イノベーターのジレンマ」の経済学的解明』（日経 BP 社，2018 年），神取道宏『ミクロ経済学の力』（日本評論社，2014 年），クルーグマン・ウェルス（大山他訳）『クルーグマン　ミクロ経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社，2017 年），マンキュー（足立他訳）『マンキュー経済学 I：ミクロ編』（東洋経済新報社，2013 年），レヴィット・グールズビー・サイヴァーソン（安田他訳）『レヴィット ミクロ経済学 基礎編』（東洋経済新報社，2017 年）他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80%～85%）と宿題・平常点（15%～20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】
1 年次の経済学の基本科目であるので、授業内容を丁寧に、適切に講義し、目標達成につなげていきたい。教室内の授業規律（私語の注意など）も適切に実現させたい。

【学生が準備すべき機器他】
宿題は授業支援システムを通じて実施・提出するため，受講生は授業支援システムへのアクセスと利用方法を確認しておくこと。

【Outline and objectives】
This course is an introduction to microeconomics for business students. This course provides key concepts of microeconomics, that enable students to understand business activities and their relationship with society from economics perspective. This course will cover the following topics: decision making, consumer theory, producer theory, market equilibrium, welfare analysis, monopoly, imperfect competition, introductory game theory, and so on. In the course, we also deal with real-world examples, that make it easy for students to familiarize with each topic. Students are expected to have comprehension of high school level mathematics, although we will briefly review them in the course.

MAN100CA

簿記Ｉ Ａ

岸　牧人

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者（国際経済学科生のみ履修できます。）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記の目的は、企業が行う経済活動を一定のルールに従って記録・集計し、その結果を決算書に集約することにあります。ただ、簿記を未学習の人の多くは、「簿記はお金の計算をするもの」、あるいは「お小遣い帳のように帳面づけをすること」と思っているのではないでしょうか。実は、簿記ではお金の計算はほとんどしません。簿記が扱うのは「金額の計算」です。この講義では、決算書の作成方法を習得するための簿記のルールを学習し、企業活動を貨幣価値で測定することを目的とします。

【到達目標】
・企業が行う経済活動の二面性を理解する。
・簿記のルールを理解する。
・決算書の作成方法を習得する。
これらの理解を通じて、「日商簿記検定試験 3 級」レベルの知識習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。講義を行ったうえで、講義内容に関する問題演習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記を学ぶにあたって	簿記ができると何ができるようになる？ どのように役立てる？
第 2 回	貸借対照表と損益計算書を実際に作ってみよう/両者の関係/利益はお金じゃない？	簡単なケースを用いて貸借対照表と損益計算書を実際に作成する。
第 3 回	経済活動の二面性	簡単な経済活動を用いて経済活動の二面性を理解する。
第 4 回	仕訳の法則	経済活動の二面性を仕訳に変換する方法を学習する。
第 5 回	取引の仕訳と勘定記入	仕訳から総勘定元帳への転記の方法について学習する。
第 6 回	残高試算表の作成	残高試算表の作成方法について学習する。
第 7 回	損益振替仕訳と元帳の締め切りと 6 桁式精算表、貸借対照表と損益計算書の作成	損益振替仕訳の意義と各勘定の締め切り、6 桁式精算表と貸借対照表、損益計算書の作成方法について学習する。
第 8 回	中間試験	第 7 回までの内容について中間試験を行います。
第 9 回	三分法による商品売買取引の会計処理①	三分法の意義と売上原価の算定に関する決算整理仕訳について学習します。
第 10 回	三分法による商品売買取引の会計処理②	三分法による商品売買取引の会計処理について問題演習を行います。
第 11 回	仕入諸掛と売上諸掛/商品の値引きと返品/仕入帳と売上帳	仕入諸掛と売上諸掛、商品の値引きと返品の会計処理および仕入帳と売上帳の記入方法について学習します。
第 12 回	得意先元帳と仕入先元帳	得意先元帳と仕入れ先元帳の記入方法について学習します。
第 13 回	商品有高帳	商品売買取引に関する仮定と商品有高帳の記入方法、売上高・売上原価・売上総利益の計算方法について学習します。
第 14 回	期末試験	春学期の内容について期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリントの演習問題は、講義中にすべてを消化することはできません。残った問題と、別途課す宿題を翌講義までに解答すること。

【テキスト（教科書）】
TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級』（講義開始時における最新版）

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小テスト 15%（5 点満点 ×3 回）、中間試験 35%（35 点満点）、期末試験 50%（50 点満点）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義で配付する書き込み式のプリントはおおむね好評であったので、引き続き使用する。また、ペースが速いとの意見があったので、演習問題を宿題とするなど、講義時間の確保に留意する。

【学生が準備すべき機器他】
電卓を持参すること。また、プリントを綴じ込む 2 穴のファイルを持参すること。

【Outline and objectives】
Bookkeeping is a systematic process of recording economic activities or events concerning the business with monetary unit,and reporting the results in financial statements.This course will provide method how to record economic activities or events and prepare financial statements.

MAN100CA

簿記Ｉ Ｂ

岸　牧人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者（国際経済学科生のみ履修できます。）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記Ｉ Ａ で学習した内容の理解を前提として、各種取引の会計処理について学習する。決算整理仕訳を含めた簿記一巡の流れを理解し、決算書の作成を行うことができるようになる。

【到達目標】
・各種取引の意義を理解し、会計処理を習得する。
・決算整理の意義を理解し、8 桁式精算表の作成方法を習得する。
最終的には日商簿記 3 級の合格レベルの知識と技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。講義を行ったうえで、講義内容に関する問題演習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	小口現金取引/当座預金取引	小口現金取引と小口現金出納帳の記入方法、小切手の処理、当座預金出納帳の記入方法
第 2 回	現金過不足の会計処理	現金過不足の会計処理
第 3 回	有価証券取引①	有価証券の種類と購入取引
第 4 回	有価証券取引②	有価証券の売却取引と期末評価
第 5 回	手形取引①	手形債権と手形債務の会計処理、手形記入帳
第 6 回	手形取引②	手形の裏書と割引の会計処理
第 7 回	有形固定資産取引①	有形固定資産の購入と減価償却
第 8 回	有形固定資産取引②	有形固定資産の売却取引
第 9 回	中間試験	第 8 回までの内容について中間試験を実施します。
第 10 回	売上債権と貸倒れ	売上債権の貸倒時の会計処理、貸倒引当金繰入の設定方法
第 11 回	売掛金・買掛金以外の債権債務取引/資本金と引出金/租税公課	売掛金・買掛金以外の債権・債務取引、資本金と引出金、租税公課の会計処理
第 12 回	収益・費用の見越しと繰り延べ/消耗品の会計処理	前払費用、前受収益、未払費用、未収収益、消耗品の会計処理
第 13 回	総合問題演習	8 桁式精算表の作成を中心とした総合問題演習を行います。
第 14 回	期末試験	第 13 回までの内容について期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリントの演習問題は、講義中にすべてを消化することはできません。残った問題と、別途課す宿題を翌講義までに解答すること。

【テキスト（教科書）】
TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級』（講義開始時における最新版）

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小テスト 15%（5 点満点 ×3 回）、中間試験 35%（35 点満点）、期末試験 50%（50 点満点）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義で配付する書き込み式のプリントはおおむね好評であったので、引き続き使用する。また、ペースが速いとの意見があったので、演習問題を宿題とするなど、講義時間の確保に留意する。

【学生が準備すべき機器他】
電卓を持参すること。また、プリントを綴じ込む 2 穴のファイルを持参すること。

【Outline and objectives】
Bookkeeping is a systematic process of recording economic activities or events concerning the business with monetary unit,and reporting the results in financial statements.This course will provide method how to record economic activities or events and prepare financial statements.

MAN100CA

簿記Ｉ Ａ

石田　惣平

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者（経済学科生のみ履修できます。）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記（複式簿記）は企業が行う経済活動を二面的にとらえ、これを一定のルールに従って記録し、集計し、決算書を作成する一連のプロセスです。本講義では、決算書を作成するための技術を学ぶことを通じて、企業会計の特質を理解することを目的とします。

【到達目標】
企業が行う経済活動を二面的にとらえる能力を身につけるとともに、決算書の作成過程を理解し、個々の取引を累積することによって実際に簡単な決算書を作成する技術を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
プレゼンテーション形式で講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	イントロダクション
第 2 回	簿記の基礎	簿記の基礎
第 3 回	商品売買	商品売買
第 4 回	現金	現金
第 5 回	当座預金、当座借越	当座預金、当座借越
第 6 回	小口現金	小口現金
第 7 回	中間テスト	中間テスト
第 8 回	手形	手形
第 9 回	貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金	貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金
第 10 回	有価証券	有価証券
第 11 回	その他の債権債務	その他の債権債務
第 12 回	消耗品の処理	消耗品の処理
第 13 回	貸倒れと貸倒引当金	貸倒れと貸倒引当金
第 14 回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習箇所については、授業において適宜、指示します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
中間テストを 40 点、期末テストを 60 点の計 100 点満点で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12 桁）。

【その他の重要事項】
経済学科の学生のみ受講可です。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to prepare financial statements.

MAN100CA

簿記Ｉ Ｂ

石田　惣平

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者（経済学科生のみ履修できます。）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記（複式簿記）は企業が行う経済活動を二面的にとらえ、これを一定のルールに従って記録し、集計し、決算書を作成する一連のプロセスです。本講義では、決算書を作成するための技術を学ぶことを通じて、企業会計の特質を理解することを目的とします。

【到達目標】
企業が行う経済活動を二面的にとらえる能力を身につけるとともに、決算書の作成過程を理解し、個々の取引を累積することによって実際に簡単な決算書を作成する技術を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
プレゼンテーション形式で講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	イントロダクション
第 2 回	固定資産と減価償却	固定資産と減価償却
第 3 回	租税公課と資本金	租税公課と資本金
第 4 回	費用・収益の繰延べと見越し、訂正仕訳	費用・収益の繰延べと見越し、訂正仕訳
第 5 回	帳簿への記入	帳簿への記入
第 6 回	試算表	試算表
第 7 回	伝票と仕訳日計表	伝票と仕訳日計表
第 8 回	中間テスト	中間テスト
第 9 回	精算表と財務諸表	精算表と財務諸表
第 10 回	帳簿の締め切り	帳簿の締め切り
第 11 回	予想問題 1	予想問題 1
第 12 回	予想問題 2	予想問題 2
第 13 回	予想問題 3	予想問題 3
第 14 回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習箇所については、授業において適宜、指示します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
中間テストを 40 点、期末テストを 60 点の計 100 点満点で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12 桁）。

【その他の重要事項】
経済学科の学生のみ受講可です。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to prepare financial statements.

MAN100CA

簿記Ｉ Ａ

梅津　亮子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者（現代ビジネス学科生 H・L・M クラスのみ履修できます。）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記とは、企業等で行われる経済活動とその結果を一定のルールによって記録・集計する仕組みのことである。本講義では、複式簿記のシステムに従って、主として企業で行われる日々の活動（取引）を整理・記録して、企業の一年間の成績表である損益計算書と貸借対照表を作成するまでの過程を学習していく。簿記の初学者を対象とし、日商簿記検定 3 級程度の基礎的な知識を習得することを目的とする。

【到達目標】
複式簿記のルールにしたがって、記録・集計を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	企業会計の意義	会計の意義と種類、経営活動と会計
第 2 回	簿記の意味・目的	簿記の基本原理
第 3 回	貸借対照表の仕組み	資産・負債・資本、貸借対照表を用いた損益計算
第 4 回	損益計算書の仕組み	収益と費用、損益計算書を用いた損益計算、貸借対照表と損益計算書の関係
第 5 回	勘定と取引	勘定の意義、簿記上の取引、取引要素と取引の二重性
第 6 回	仕訳と転記	貸借平均の原理、仕訳のルール、元帳への転記
第 7 回	試算表の意義と限界	合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
第 8 回	決算手続①	決算の意義、決算手続きの一巡
第 9 回	決算手続②	損益振替仕訳、純損益の繰越利益剰余金勘定への振替仕訳、元帳の締め切り
第 10 回	財務諸表の作成	損益計算書・貸借対照表の作成
第 11 回	問題演習	簿記一巡の手続きの復習と演習
第 12 回	現金預金	通貨代用証券、現金過不足の処理、現金出納帳
第 13 回	小口現金	インプレスト・システム、小口現金出納帳
第 14 回	当座預金	当座預金、当座預金出納帳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。特にテキストの例題、練習問題をもう一度解いておくこと。

【テキスト（教科書）】
初回講義で指示します。

【参考書】
必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 90 %、小テスト 10 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】
This course introduces the theory and practice of double-entry bookkeeping. Students learn the fundamental rules of double-entry bookkeeping and accounting procedures required to prepare the financial statements.

MAN100CA

簿記Ｉ Ｂ

梅津　亮子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者（現代ビジネス学科生 H・L・M クラスのみ履修できます。）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
簿記とは、企業等で行われる経済活動とその結果を一定のルールによって記録・集計する仕組みのことである。本講義では、複式簿記のシステムに従って、主として企業で行われる日々の活動（取引）を整理・記録して、企業の一年間の成績表である損益計算書と貸借対照表を作成するまでの過程を学習していく。簿記の初学者を対象とし、日商簿記検定 3 級程度の基礎的な知識を習得することを目的とする。

【到達目標】
複式簿記のルールにしたがって、記録・集計を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	商品売買①	分記法、三分法、仕入諸掛、売上諸掛
第 2 回	商品売買②	人名勘定、仕入帳・売上帳、売掛金元帳・買掛金元帳
第 3 回	債権債務①	貸付金・借入金、未収入金・未払金、立替金・預り金
第 4 回	債権債務②	前払金・前受金、仮払金・仮受金、受取商品券、差入保証金
第 5 回	手形	約束手形、手形記入帳、電子記録債権・電子記録債務、
第 6 回	有形固定資産	固定資産の取得、固定資産台帳
第 7 回	売上原価の算定	売上原価計算のための仕訳と勘定記入
第 8 回	商品有高帳	払出単価の決定、先入先出法、移動平均法
第 9 回	貸倒引当金	貸倒引当金の設定
第 10 回	減価償却	有形固定資産の減価償却
第 11 回	費用・収益の前払い・前受け	前払費用、前受収益
第 12 回	費用・収益の未収・未払い	未払費用、未収収益
第 13 回	税金、貯蔵品	税金の処理、貯蔵品の処理
第 14 回	精算表、財務諸表	精算表の役割、財務諸表の様式と作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。特にテキストの例題、練習問題をもう一度解いておくこと。

【テキスト（教科書）】
初回講義で指示します。

【参考書】
必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 90 %、小テスト 10 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】
This course introduces the theory and practice of double-entry bookkeeping. Students learn the fundamental rules of double-entry bookkeeping and accounting procedures required to prepare the financial statements.

MAN100CA

簿記Ｉ Ａ

田中　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者（現代ビジネス学科生 I・J・K クラスのみ履修できます。）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では複式簿記の記録・作表のルールを学ぶ。会計科目の履修を考えている学生、企業分析に関心のある学生は履修してほしい。

【到達目標】
複式簿記のルールにしたがって、記録・集計を行うことができる。
日本商工会議所簿記検定 3 級に合格できる水準を目指す。
初学者を対象としているので、既に簿記 3 級相当の知識を持つ者は履修する必要はない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義中は頻繁に練習問題を実施する。電卓を持参すること。
講義後、出席票には理解度と、質問や感想を書くこと。質問については時間の許す範囲で次回の講義時に対応する。
パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的と受講生の関心の確認、簿記に関する簡単なイントロダクション
第 2 回	簿記の意義と財務諸表	単式簿記と複式簿記／簿記の基本原理
第 3 回	収益・費用 損益計算書	基本財務諸表の構成
第 4 回	資産・負債・純資産 貸借対照表	基本財務諸表の構成
第 5 回	勘定と取引	簿記上の取引／取引要素と取引の二重性／貸借平均の原理
第 6 回	仕訳と転記	仕訳のルール／元帳への転記
第 7 回	試算表の作成	試算表の意義／合計試算表／残高試算表／合計残高試算表
第 8 回	決算 (1)	決算の意義／決算手続きの一巡
第 9 回	決算 (2)	費用収益の損益振替／資本金勘定への振替／帳簿の締め切り
第 10 回	現金預金取引 (1)	現金・預金取引／現金過不足
第 11 回	現金預金取引 (2)	当座預金／当座借越／小口現金
第 12 回	決算 (1)	元帳の締切り／損益振替仕訳
第 13 回	決算 (2)	決算の意義／決算手続きの一巡
第 14 回	決算 (3)	繰越試算表／損益計算書、貸借対照表の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで講義資料を公開するので、講義後はわずかな時間で構わないので復習を行うこと。もっとも効果的な学習は反復である。
初学者が簿記を学ぶとき、初めて目にする用語が多く戸惑うこともあると思う。しかし、簿記・会計関連の用語は各種メディアで普段から見聞きしているものである。
講義の進捗と共にビジネスや企業経営に対する理解も深まるので、根気よく取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】
講義は授業支援システムで公開する講義資料に基づいて進める。

【参考書】
2019 年度から簿記 3 級の試験範囲の改訂が予定されている。新範囲の学習に適した参考書を、講義開始後に案内する。

【成績評価の方法と基準】
講義中に配布する質問票・演習問題の提出（20%）
春学期の定期試験（80%）
簿記資格の保有に対する優遇措置は取らない。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にわかりやすいよう、適度なスピードで講義を実施する。
講義の冒頭には前回の復習を実施し、頻繁に練習問題を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
関連資格：日商簿記検定 3 級
科目の位置づけ：すべての会計関連科目の基礎。1 年次の履修を推奨。
オフィスアワー：月・火　508 研究室　講義時は不在。

【Outline and objectives】
The student will be introduced to rules for double entry bookkeeping.
Upon completion of the course, the student is expected to be able to:
1. Understand accounting process and cycle.
2. Record and tabulate according to the rules of double entry bookkeeping.
3. Pass the Japanese Chamber of Commerce and Industry Bookkeeping Test Level 3 grade.
Every student who wants to learn accounting should take this course.

MAN100CA

簿記Ｉ Ｂ

田中　優希

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者（現代ビジネス学科生 I・J・K クラスのみ履修できます。）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では複式簿記の記録・作表のルールを学ぶ。会計科目の履修を考えている学生、企業分析に関心のある学生は履修してほしい。

【到達目標】
複式簿記のルールにしたがって、記録・集計を行うことができる。
日本商工会議所簿記検定 3 級に合格できる水準を目指す。
初学者を対象としているので、既に簿記 3 級相当の知識を持つ者は履修する必要はない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義中は頻繁に練習問題を実施する。電卓を持参すること。
パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を実施する。
講義後、コメントカードに理解度（100 %換算）、質問や感想を書いてほしい。
質問については時間の許す範囲で次回の講義時に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期復習	春学期の学習内容の復習と問題演習
第 2 回	商品売買 (1)	商品売買取引（三分法、分記法）／掛取引／売上・仕入諸掛
第 3 回	商品売買 (2)	仕入帳・売上帳／売掛金元帳・買掛金元帳
第 4 回	商品売買 (3)	商品有高帳の記帳方法／売上原価の計算
第 5 回	手形取引	手形取引の意味／約束手形
第 6 回	債権と債務 (1)	貸付金・借入金／未収金・未払金／立替金・預り金
第 7 回	債権と債務 (2)	前払金・前受金／仮払金・仮受金／他店商品券
第 8 回	有形固定資産	有形固定資産の取得・減価償却・売却
第 9 回	株式会社の資本	資本の増加取引／資本の減少取引
第 10 回	税金の処理	租税公課
第 11 回	精算表の作成	8 桁精算票の仕組み
第 12 回	決算整理事項 (1)	売上原価計算／貸倒引当金の設定
第 13 回	決算整理事項 (2)	費用収益の繰延・見越
第 14 回	決算整理事項 (3)	有形固定資産の減価償却
	総合復習問題	総合復習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで講義資料を公開するので、講義後はわずかな時間で構わないので復習を行うこと。もっとも効果的な学習は反復である。
初学者が簿記を学ぶとき、初めて目にする用語が多く戸惑うこともあると思う。しかし、簿記・会計関連の用語は各種メディアで普段から見聞きしているものである。
講義の進捗と共にビジネスや企業経営に対する理解も深まるので、根気よく取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】
講義は授業支援システムで公開する講義資料に基づいて進める。

【参考書】
2019 年度から簿記 3 級の試験範囲の改訂が予定されている。新範囲の学習に適した参考書を、講義開始後に案内する。

【成績評価の方法と基準】
講義中に配布する質問票・演習問題の提出（20%）
春学期・秋学期の定期試験（80%）
簿記資格の保有に対する優遇措置は取らない。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にわかりやすいよう、適度なスピードで講義を実施する。
講義の冒頭には前回の復習を実施し、頻繁に練習問題を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
関連資格：日商簿記検定 3 級
科目の位置づけ：すべての会計関連科目の基礎。1 年次の履修を推奨。
オフィスアワー：月・火　508 研究室　講義時は不在。

【Outline and objectives】
The student will be introduced to rules for double entry bookkeeping.
Upon completion of the course, the student is expected to be able to:
1. Understand accounting process and cycle.
2. Record and tabulate according to the rules of double entry bookkeeping.
3. Pass the Japanese Chamber of Commerce and Industry Bookkeeping Test Level 3 grade.
Every student who wants to learn accounting should take this course.

MAN100CA

企業経営入門 A

川邊　安彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営（マネジメント）とは、人を活かして組織の目的を果たすことです。
企業経営を論じるので企業という会社を軸に講義を進めますが、そこにはヒトが介在します。幸せな個人の生活、安心が肌で感じる地方の生活、その上に経済という仕組みが存在します。ここに人間が組織した企業が存在します。このような企業が成立する経営の基本を学ぶ講義を進めたいと考えています。
企業経営入門 A では、企業経営の内面から視た姿を学生と一緒に学びたいと考えています。

【到達目標】
個人の生活が存在し、そこに社会が形成されます。日本でも海外でもヒトが社会を創っていることは共通しています。コミュニケーションが容易になった現在だからこそ海外と日本を通して経済・社会の仕組みを再構築することで新たな活動が発展し、企業経営が活発になりヒトの生活に潤いができることは簡単になりました。企業経営に興味があり、何かできないか？ という事から始めても大丈夫です。また、学生が企業経営を評価できると自分自身の将来を決心する時に役立ちます。最終的には、専門的な質疑に適格に応えることが目標となる講義です。
その為に、講義時間内には必ずグループ・ディスカッションの時間を設定します。
チーム毎に異なった意見を確認後、長所短所を一緒に見つけ出しましょう。
その為に、事前に情報収集を行って講義時に出典を明確にし発表ください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、スペインの服飾メーカ ZARA の躍進の裏側、日産の 2010 年以降の海外展開、今後の自動運転技術の動向と安全について 2010 年以降未来の内容を加味して解説します。現実の企業において検討されている経済指標についても数多く出てきます。個人的には自動車会社の管理会計や購買、安全リスクマネージメント専門の技術屋として 20 年間海外から視た日本の産業界全般について講義の中で双方向でグループディスカッションなどいろいろな手法を取り入れたいと考えています。事前に個々に情報収集を行って講義時に出典を明確にし発表ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	企業組織とは何か？	組織図のパターンから読み取る会社の特性と将来
②	企業経営とは？	目標値の設定と日程管理
③	目標値達成手法について	コミットとターゲットとの両立方法
④	企業評価手法（初級）	外から何を評価されているのか？
⑤	企業評価手法（中級）	営業手法から商品について
⑥	企業評価手法（上級）	商品原価内訳について
⑦	企業評価手法（上級プラス）	税金の不思議について
⑧	商品とマーケット評価	海外（アメリカ、欧州、中国）と日本の違い
⑨	商品性とは？	自動車、パソコン、スマホなど商品毎に評価軸を議論しましょう。 学生の好きな商品で大丈夫です。
⑩	国際ルールと商法を含めた法律、税金	海外や日本の商法の概要説明
⑪	労務費とその他費目	製造会社で必要な費目説明
⑫	収益の最大化手法	あるべき原価とは？
⑬	海外事業の成功の鍵	人間が全て
⑭	利益の次は、還元	次への準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は、可能であればキーワードのテーマと内容から自分なりにネットで調べてください。
復習は、講義内容も基にレポートを A4、１枚に記入してください。手書き可。

【テキスト（教科書）】
PPT を当日配布しますので活用ください。

【参考書】
講義内で使用した専門語彙からネットで検索ください。

【成績評価の方法と基準】
①講義内容の復習レポート A4、１枚を次回の講義時に提出ください。手書き可。
１４回の講義なので１３枚のレポートで評価します。１００パーセント。

最終回は、評価しませんので提出不要。
②その他に講義中の質疑・応答で優れた者には加算をします。

【学生の意見等からの気づき】
他の講義実績から対話形式を可能な限りの試みる。

【学生が準備すべき機器他】
スマホなどの機器。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
Management have to be based on each people of company member. Because we discuss corporate management, we will advance lectures around companies based on companies, but there are people intervening there. Happy personal life, peace of mind is local life, there will be a mechanism that economy on it. Here in companies that human-organization exists. I would like to lecture to learn the fundamentals of management established by such a company. Corporate management introductory A I would like to learn from the inner aspects of corporate management with students.
Language: Japanese, English and Spanish

MAN100CA

企業経営入門 B

川邊　安彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営入門 B では、テクニカルなノウハウと共に海外に弱い体質の説明。目的としては、今後今まで以上に海外が身近な世界になる経済においての理解度向上を行い競争力のある人材の教育をおこなう。

【到達目標】
海外との評価や現状認識を行うことで日本の現状の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期同様にコミュニケーション型の双方向の講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	経営戦略とは？	自動車生産を基に海外市場の特異性を説明し、異なる商品毎に市場要求が異なる理解を深めてもらう。
②	商品戦略と企業戦略 ＳＷＯＴ分析	N 社と T 社系列の商品戦略と企業戦略の説明
③	戦略作成の方法	自動車業界とリチウム電池の戦略マップの説明
④	品質と要求性能の関係	自動車の衝突安全性能の向上を事例に安全の商品価値の説明
⑤	マーケティング戦略	自動車のマーケティング手法から戦略の定義の理解を説明
⑥	戦略策定	収益性向上の戦略について
⑦	競争優位の戦略	日本の自動車業界がなぜ飛躍的に伸びたのか？
⑧	日本の製造業の明暗	もの作りの伝統と現状
⑨	何故、ダイムラーなのか？	世界 No. 1 を維持できる理由
⑩	何故、アップルなのか？	人間の求めるものに応える商品戦略
⑪	知的財産戦略	今までの日本の優位性と今後
⑫	技術優位で勝てない日本企業	発想の低さ
⑬	標準化	ルールが作れない社会構造
⑭	自由な発想	今、何が求められているのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
双方向講義を行うために事前に調査を行うこと。
復習として聞きたい内容をまとめて次回の講義時に提出のこと。手書き可。
第１３回目分を第１４回目に提出。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
①講義内容の復習レポート A4、１枚を次回の講義時に提出ください。手書き可。
１４回の講義なので１３枚のレポートで評価します。１００パーセント。
最終回は、評価しませんので提出不要。
②その他に講義中の質疑・応答で優れた者には加算をします。

【学生の意見等からの気づき】
他の講義経験から双方向講義の実施。

【学生が準備すべき機器他】
スマホなどの機器

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
In corporate management Introduction B, the Japanese management no better than overseas about the technical know-how.
As an objective, we will improve the understanding of the economy in which overseas is more familiar than ever, and educate competitive human resources.
Language: Japanese, English and Spanish

ECN200CD

企業と経済・応用Ａ

檜野　智子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「銀行中心のシステム」と「市場中心のシステム」を比較することにより、望ましい金融システムが備えるべき要件を学び、望ましい金融システムとは何かを考察する。この講義を受講することにより、金融システム全体の機能や役割について理解でき、個々の金融機関（銀行・証券・損保など）が金融市場の中でどのような役割を担っているのか理解することができる。

【到達目標】
・ファイナンス理論の基礎を習得する。
・金融取引を阻害する要因とその解決策を理解する。
・「銀行中心のシステム」と「市場中心のシステム」を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融とは	金融が経済で果たす役割
2	金融取引の阻害要因	情報の非対称性、逆選択、モラルハザード
3	金融取引の阻害要因	情報開示、情報生産、担保、資金調達手段の選択
4	金融取引の阻害要因	契約の不完備性、コントロール権の配分と所有権の取引
5	金融取引の阻害要因	企業統治の構造、企業買収の仕組み（レバレッジド・バイアウト）
6	金融取引の阻害要因	企業統治における負債契約の活用、事後的な競争の創出
7	金融市場と金融機関	一次市場と二次市場、流動性、証券会社、投資銀行、格付け機関
8	金融市場と金融機関	保険会社、年金基金、銀行、金融システムの型
9	銀行中心のシステム	委託された「モニター・交渉者・保険提供者」としての銀行
10	銀行中心のシステム	流動性創出者としての銀行
11	銀行中心のシステム	「銀行中心のシステム」の特徴と課題
12	市場中心のシステム	情報開示制度、投資家保護、コントロール権市場の活性化
13	市場中心のシステム	証券価格の「情報集計・伝達」機能、分散投資とデリバティブ
14	市場中心のシステム	市場の流動性、市場中心のシステムの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の復習を行った上で次回の講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
「金融論 第２版」村瀬英彰、日本評論社、2016 年

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
講義前に授業支援システムから講義資料をダウンロードし、印刷したものを持参すること。

【その他の重要事項】
秋学期の「企業と経済・応用Ｂ」を履修する場合、春学期に「企業と経済・応用Ａ」を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
With the comparison of "bank-centered financial system" and "market-centered system", we can consider what the desirable financial system is and its requirements in this lecture. You can understand the functions and roles of the financial system as a whole and the roles of individual financial institutions (banks, securities, non-life insurers etc.) in the financial market.

ECN200CD

企業と経済・応用Ｂ

檜野　智子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日、従来型の銀行を中心とした金融システム（銀行中心のシステム）から、市場メカニズムをより効果的に機能させる資本市場を中心とした金融システム（市場中心のシステム）への移行が進んでいる。この授業では、市場中心のシステムの中で、金融に関わるプレーヤーがどのような影響を受け、どのように金融システムに関わっていくのかを中心に、望ましい金融システム改革を考察する。

【到達目標】
・金融システム改革が必要な理由を理解する。
・金融システムが変化する中で、金融機関の果たす役割を理解する。
・株価の変動が経営者の意思決定に与える影響を理解する。
・資産運用と金融システムの関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融システムの改革	投資機会の質的変化
2	金融機関と市場	証券化
3	金融機関と市場	資金調達手段の多様化
4	企業経営と市場	評価指標としての株価
5	企業経営と市場	市場との対話
6	資産運用と市場	戦略的代替性・補完性
7	資産運用と市場	依頼人・代理人問題
8	バブル	サブプライム・ローン問題とバブル
9	バブル	バブルの生成原因
10	バブル	バブルが実体経済にもたらす影響
11	バブル	バブルに依存しない金融の構築
12	ルールの多様性と内生性	法と金融
13	ルールの多様性と内生性	投資家保護
14	システム改革をめざして	市場の公正化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前回の復習を行った上で次回の講義に臨むこと。
・「企業と経済・応用Ａ」の内容を前提とした講義を行う。履修していない場合は「金融論 第２版」の１章から６章を授業開始前に自習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
「金融論 第２版」村瀬英彰、日本評論社、2016 年

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
講義前に授業支援システムから講義資料をダウンロードし、印刷したものを持参すること。

【その他の重要事項】
「企業と経済・応用Ａ」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】
In recent years, the financial system is changing from the conventional "bank-centered financial system" to "market-centered system", which increase the function of the market mechanism more effectively. This lecture mainly deals with how financial players will be involved in the new financial system, and we will consider desirable financial system reforms.

ECN200CA

社会経済学応用 A

原　伸子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要
　社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占的大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をとおして理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

【到達目標】
この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身に着けることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD) を用いて理解を深めることができるようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観。現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（1）	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（2）	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立（1）	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立（2）	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ（1）	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ（2）	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論（1）	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論（2）	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本（1）	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本（2）	経済思想の相克、世界の中の日本
第 14 回	復習	これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度、指示する参考文献などは積極的に読むこと。3. 自分の問題関心 (テーマ）を設定して、深く思索する。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。授業の進展に応じてレジュメを配布する。

【参考書】
・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学［新版］』有斐閣，2007 年。
・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001 年版。
・レーニン『帝国主義』岩波文庫。
・ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』岩波文庫。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（マークシート方式）80 %、平常点 20 %。成績評価基準については、最初の授業で具体的な説明を行う。なお、追試、再試は記述式問題である。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の講義を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【Outline and objectives】
The aim of the lecture is to investigate the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view.　The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA

社会経済学応用 B

原　伸子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70 年代のスタグフレーション期、そして 80 年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにわけて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

【到達目標】
この講義では、現代資本主義の諸問題をとりあげて理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代資本主義の諸問題を取り上げる視点	国家、市場、家族の関係について
第 2 回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第 3 回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第 4 回	スタグフレーション（1）	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第 5 回	スタグフレーション（2）	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第 6 回	福祉国家の変容（1）	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第 7 回	福祉国家の変容（2）	サッチャーリズムとレーガノミックス、96 年アメリカ福祉改革
第 8 回	労働市場の変容（1）	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第 9 回	労働市場の動向（2）	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第 10 回	家族の経済学（1）	ワークライフバランス。日本、ドイツ、スゥエーデン。
第 11 回	家族の経済学 (2)	保育と介護の政治経済学。ケア労働の意味を考える。
第 12 回	労働と生活の調和（1）	家族の経済学、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー
第 13 回	労働と生活の調和（2）	各国のワークライフバランスの比較と論理
第 14 回	復習	これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストは用いない。

【参考書】
増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済［新版］』有斐閣，2007 年。
原伸子『ジェンダーの政治経済学ー福祉国家・市場・家族』有斐閣，2016 年。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（マークシート方式）80 %、平常点 20 %。成績評価基準については、最初の授業で具体的な説明を行う。なお、追試、再試は記述式問題である。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の講義を目指す。

【Outline and objectives】
The aim of the lecture is to investigate the features of contemporary capitalism after the post-World War Ⅱ from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA

マクロ経済学Ａ

宮﨑　憲治

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を受講すれば、初級レベルのマクロ経済学を説明でき、日経新聞がより深く理解でき、地方上級公務員のマクロ経済学の入試問題を解答できるようになる。

【到達目標】
・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDP(1)	国内総生産、三面等価の原則、国民総所得、名目と実質
3	GDP(2)	景気循環の考え方
4	消費と貯蓄の決定 (1)	ケインズ型の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
5	消費と貯蓄の決定 (2)	流動性制約と消費、日本の貯蓄率
6	設備投資と在庫投資 (1)	企業の設備投資、投資の決定要因、資本の限界生産性、資本の使用者費用、望ましい資本ストック
7	設備投資と在庫投資 (2)	新古典派の投資理論、ジョルゲンソンの投資理論、調整費用モデル、在庫投資
8	金融と株価 (1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択、株価の決定理論
9	金融と株価 (2)	トービンの q 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資
10	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の機能、貨幣需要の動機、貨幣需要関数
11	貨幣の需要と供給 (2)	ハイパワードマネーと貨幣供給、貨幣量のコントロール方法、利子率の決定理論、テーラー・ルール
12	乗数理論と IS-LM 分析 (1)	有効需要の原理、乗数理論、財市場と IS 曲線
13	乗数理論と IS-LM 分析 (2)	貨幣市場と LM 曲線、IS-LM 分析、財政・金融政策
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前回の復習を行った上で次回の講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【参考書】
「演習式 マクロ経済学・入門 補訂版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】
秋学期の「マクロ経済学Ｂ」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学Ａ」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】
When you can take this course, you can explain basic macroeconomics.

ECN200CA

マクロ経済学Ｂ

宮﨑　憲治

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を受講すれば、初級レベルのマクロ経済学を説明でき、日経新聞がより深く理解でき、地方上級公務員のマクロ経済学の入試問題を解答できるようになる。

【到達目標】
・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	経済政策の有効性 (1)	景気循環と経済政策、トレンドの変動、経済政策の有効性
3	経済政策の有効性 (2)	マクロ計量モデル、マネタリズム、非伝統的金融政策
4	財政赤字と国債 (1)	財政政策、国債の役割と問題点、日本の財政赤字
5	財政赤字と国債 (2)	課税平準化の理論、日本の国債市場の動向
6	インフレとデフレ (1)	日本の物価水準の推移、ディマンドプル・インフレ
7	インフレとデフレ (2)	コストプッシュ・インフレ、インフレのコスト、ハイパー・インフレ、デフレ
8	失業 (1)	労働市場と失業、フィリップス曲線
9	失業 (2)	自然失業率仮説、自然失業率の変動、日本の失業率
10	経済成長理論 (1)	経済成長理論、成長会計
11	経済成長理論 (2)	収束の概念、内生的経済成長理論、経済成長と所得分配
12	オープン・マクロ経済 (1)	国際収支表、為替レート、国際通貨制度
13	オープン・マクロ経済 (2)	為替レートの決定要因、経常収支の決定要因
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前回の復習を行った上で次回の講義に臨むこと。
・「マクロ経済学 A」の内容を前提とした講義を行う。履修していない場合は、授業開始前にテキストで自習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【参考書】
「演習式 マクロ経済学・入門 補訂版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】
「マクロ経済学 A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】
When you can take this course, you can explain basic macroeconomics.

ECN200CA

マクロ経済学Ａ

森田　裕史

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。マクロ経済モデルに関して、IS-LM モデル・AD-AS モデルといった短期・中期のモデルを取り上げる。経済統計とマクロ経済理論を学ぶことで、現実の経済事象を主観的に考察し、公正に判断できるようになることが本講義の目的である。

【到達目標】
１：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
２：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はスライド及び板書を用いた講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	マクロ経済学とは
第 2 回	国民経済計算（1）	GDP とは
第 3 回	国民経済計算（2）	支出面から見た GDP
第 4 回	国民経済計算（3）	GDP デフレーター
第 5 回	消費者物価指数（1）	CPI の求め方
第 6 回	消費者物価指数（2）	最適な消費点の求め方
第 7 回	消費者物価指数（3）	CPI の上方バイアス
第 8 回	短期分析（1）	ケインジアンの交差図
第 9 回	短期分析（2）	乗数効果
第 10 回	短期分析（3）	IS-LM 曲線の導出
第 11 回	短期分析（4）	IS-LM 分析
第 12 回	短期分析（5）	期待インフレ率と IS-LM モデル
第 13 回	中期分析（1）	AD-AS 曲線の導出
第 14 回	中期分析（2）	金融財政政策の中期効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用しない。
以下の参考書に基づき、授業を行う。

【参考書】
1. 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久『New Liberal Arts Selection: マクロ経済学』, 有斐閣, 2010.
2. マンキュー, N.G.『マンキューマクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』, 東洋経済新報社, 2011.
3. 尾山大輔・安田洋祐『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（改訂版）』, 日本評論社, 2013.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）に基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
In this course, the students learn about the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model. The macroeconomic models which the students study in this course are IS-LM, AD-AS models. The aim of this lecture is that, based on the macroeconomic models, the students can understand the macroeconomic events happened in the actual world.

ECN200CA

マクロ経済学Ｂ

森田　裕史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。マクロ経済モデルに関して、長期モデルである経済成長モデルを取り上げる。また、最近のマクロ経済分析で主流になっているミクロ的基礎付けを持つマクロ経済モデルに関しても、その導入部分について解説を行う。経済統計とマクロ経済理論を学ぶことで、現実の経済事象を主観的に考察し、公正に判断できるようになることが本講義の目的である。

【到達目標】
１：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
２：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はスライド及び板書を用いた講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	マクロ経済モデルとは
第 2 回	流動性の罠（1）	流動性の罠とは
第 3 回	流動性の罠（2）	流動性の罠の下での LM 曲線
第 4 回	流動性の罠（3）	流動性の罠の下での金融政策
第 5 回	経済成長モデル（1）	イントロダクション
第 6 回	経済成長モデル（2）	定常状態
第 7 回	経済成長モデル（3）	資本の黄金律水準
第 8 回	経済成長モデル（4）	人口成長と技術進歩
第 9 回	経済成長モデル（5）	定常状態での経済成長
第 10 回	消費の最適化問題（1）	消費者理論の復習
第 11 回	消費の最適化問題（2）	異時点間の消費選択
第 12 回	消費の最適化問題（3）	消費と労働の選択
第 13 回	消費の最適化問題（4）	労働供給曲線
第 14 回	消費の最適化問題（5）	リカードの等価命題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特になし

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用しない。
以下の参考書に基づき、授業を行う。

【参考書】
1. 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久『New Liberal Arts Selection: マクロ経済学』, 有斐閣, 2010.
2. マンキュー, N.G.『マンキューマクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』, 東洋経済新報社, 2011.
3. 尾山大輔・安田洋祐『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（改訂版）』, 日本評論社, 2013.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）に基づいて、成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
In this course, the students learn about the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model. The macroeconomic models which the students study in this course are Slow economic growth model and dynamic optimal consumption choice problem. The aim of this lecture is that, based on the macroeconomic models, the students can understand the macroeconomic events happened in the actual world.

ECN200CA

ミクロ経済学 A

篠原　隆介

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、現代社会の問題を、複数の主体間の相互依存関係でとらえるゲーム理論を学習する。特に、ミクロ経済学 A では、ゲーム理論の基本概念である完備情報ゲーム理論の学習と応用を行う。まず、戦略形ゲームとナッシュ均衡の概念を学習した上で、寡占市場の分析に応用し、不完全競争の弊害を理解する。次に、展開型ゲームと部分ゲーム完全均衡を学習し、時間を通じた企業の意思決定問題に応用する。最後に、繰り返しゲームにおけるフォーク定理を学習し、現代社会や国際社会の諸問題が、長期的な視点を持つプレイヤーの自発的な協調行動により、解決されることを理解する。

【到達目標】
本講義では、現代の社会における人と人、企業と人、国家と人などの主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを、主体的かつ客観的に考察できる力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
下記指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゲーム理論とは	我々の経済社会とゲーム理論、ゲーム理論の歴史について
2	選択と意思決定	リスクと期待効用、不確実性と主観確率、確率論の基本知識について
3	戦略形ゲーム	戦略形ゲームとは、純粋戦略と混合戦略について
4	ナッシュ均衡	最適反応とナッシュ均衡、合理的均衡と集団均衡、均衡の計算について
5	同時手番の寡占市場分析(応用)	クールノー寡占市場とナッシュ均衡の導出について
6	その他の均衡概念	支配戦略均衡、ゼロサムゲームのマックスミニ戦略について
7	利害対立と協力	囚人のジレンマにおける個人合理性と集団合理性について
8	パレート最適性を用いた経済厚生分析	クールノー寡占市場と公共財供給への応用
9	ダイナミックなゲーム	逐次的なゲームとその例、ゲームの木、先読み推論について
10	展開型ゲーム	情報集合と情報構造、部分ゲーム完全均衡について
11	逐次手番の寡占市場	時間を通じた企業の意思決定とシュタッケルベルグ競争について
12	繰り返しゲーム	完全情報の繰り返しゲーム、繰り返し囚人のジレンマについて
13	フォーク定理	個人合理的利得のベクトル、トリガー戦略、しっぺ返し戦略について
14	復習と練習問題演習	春学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前後で、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すること。この反復学習が、本講義の学習内容を理解するためには、重要である。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。ゲーム理論を概観したい者は、次の資料が便利である。
[a] 鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房、2016 年
[b] 武藤滋夫「ゲーム理論で身につける戦略思考」超教養講座 No.31、WAO コーポレーション (http://kyoyo.wao.ne.jp/kouza/details.php?contents_no=30032)

【テキスト（教科書）】
岡田章『ゲーム理論・入門 – 人間社会の理解のために　新版』有斐閣、2014 年

【参考書】
1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学　戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】
試験 100 %で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

【その他の重要事項】
①「現代経済学入門 (基礎)」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。
②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

【Outline and objectives】
This course deals with the economic application of game theory. Our focus is on the static game and dynamic games with complete information. Our questions are:
(i) what is the game theory? (basic concepts)
(ii) how do we analyze the strategic situation? (strategic form games, extensive form games, Nash equilibria, subgame perfect equilibria)
(iii) how is the theory applied to economic analyses? (oligopoly markets, the provision of public goods)

ECN200CA

ミクロ経済学Ｂ

篠原　隆介

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ミクロ経済学 A での学習内容を発展させ、不完備情報ゲーム理論、交渉理論、協力ゲーム理論、進化ゲーム理論について学習する。不完備情報ゲーム理論では、完全ベイジアン均衡を学習し、情報の不完備性が引き起こす逆選択やモラルハザード等の問題の解決策を考察する。交渉理論では、公理的アプローチと戦略的アプローチの 2 つの伝統的なアプローチの相互関係を学習する。協力ゲーム理論では、複数の経済主体の協調行動がもたらす帰結とその厚生経済学的視点からの望ましさについて学習する。進化ゲーム理論では、基本概念である進化的安定性を学習し、企業の規格競争の分析へ応用する。

【到達目標】
ミクロ経済学 A に引き続き、現代の社会における様々な主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、主体間の相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを主体的かつ客観的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
下記指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。ミクロ経済学 A の講義内容を前提として、講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	講義内容の紹介と、春学期と秋学期の対応関係について
2	不完備情報ゲーム入門	情報の非対称性、プレイヤーの信念とベイズの定理について
3	完全ベイジアン均衡	分離均衡と一括均衡について
4	逆選択とシグナリング	情報の非対称性による問題、シグナリングゲームについて
5	モラルハザード	モラルハザードとは、プリンシパル・エージェント問題について
6	オークション	様々なオークション様式の紹介、収入同値定理について
7	繰り返しゲームへの応用	価格競争における談合と裏切りのシグナルについて
8	交渉理論	交渉問題とは、公理的アプローチとナッシュ交渉解について
9	交互提案交渉	戦略的アプローチとルービンシュタイン交渉ゲームについて
10	グループ形成と利得分配	提携とは、協力ゲームとは、パレート最適と個人合理性とは
11	協力ゲームのコア	コアの導出方法、コアの厚生評価 (パレート最適性) について
12	協力ゲームのシャープレイ値	限界貢献度とシャープレイ値、導出方法について
13	進化ゲーム	進化的安定性とナッシュ均衡、企業の規格競争の分析への応用について
14	復習と練習問題演習	秋学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前後で、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すること。この反復学習が、本講義の学習内容を理解するためには、重要である。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。ゲーム理論を概観したい者は、次の資料が便利である。
[a] 鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房、2016 年
[b] 武藤滋夫「ゲーム理論で身につける戦略思考」超教養講座 No.31、WAO コーポレーション (http://kyoyo.wao.ne.jp/kouza/details.php?contents_no=30032)

【テキスト（教科書）】
岡田章『ゲーム理論・入門 – 人間社会の理解のために　新版』有斐閣、2014 年

【参考書】
1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学　戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】
試験 100 %で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

【その他の重要事項】
①「現代経済学入門 (基礎)」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。
②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

【Outline and objectives】
This course deals with several advanced topics on game theory and their applications. Our questions are:
(i) how do we analyze the long-term relation between players? (repeated games)
(ii) how do we analyze strategic situations in the presence of asymmetric information? (Bayesian games)
(iii) how do we analyze bargaining among players? (Nash bargaining, bargaining with alternating offers, cooperative games and their solutions)
(iv) what is the evolutionary game theory? (an introduction to the evolutionary game)

ECN200CA

ミクロ経済学 A

平井　俊行

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学 A では特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】
・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。適宜演習の時間も設ける。時間が足りなければ宿題を出す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説と講義の進め方。
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡。比較静学の考え方。
3	部分均衡分析 (2)	余剰分析の紹介。価格規制・数量規制の市場への影響。
4	部分均衡分析 (3)	課税の価格への転嫁とその帰着。それによる死荷重の発生。
5	消費者行動 (1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現。予算制約線の性質。
6	消費者行動 (2)	限界代替率の導入。それを用いた需要の導出。
7	消費者行動 (3)	代替効果・所得効果の解説。上級財・下級財、代替財・補完財の紹介。
8	生産者行動 (1)	生産関数と等生産量曲線の関係・生産要素価格と等費用線の関係。
9	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率。それを用いた費用関数の導出。
10	生産者行動 (3)	短期・長期の供給関数の導出。
11	生産者行動 (4)	規模の (不) 経済・範囲の (不) 経済の紹介。
12	一般均衡分析 (1)	関連する 2 つの財の市場の間の影響。
13	一般均衡分析 (2)	エッジワースボックスの導入。契約曲線・パレート効率性・コアの解説。
14	一般均衡分析 (3)	厚生経済学の基本定理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。
事後学習：講義内容を復習すること。また配布資料や参考書についている演習問題を解く。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】
① 伊藤元重「ミクロ経済学 (第 3 版)」2018 年、日本評論社、3000 円+税
② レヴィット, S.、グールズビー, A.、サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット　ミクロ経済学　基礎編」2017 年、東洋経済新報社、3200 円+税
③ レヴィット, S.、グールズビー, A.、サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット　ミクロ経済学　発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税

【成績評価の方法と基準】
期末試験 90%、演習・宿題 10%.

【学生の意見等からの気づき】
講義担当者が新任のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する予定。詳細は第 1 回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】
科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline and objectives】
This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

ECN200CA

ミクロ経済学Ｂ

平井　俊行

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Ｂでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。ゲーム理論やミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】
・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
・実際の経済事象を必要に応じて不完全市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。適宜演習の時間も設ける。また、講義内で時間が足りなければ宿題を出す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方。
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入。期待利得の解説。
3	ゲーム理論 (2)	最適反応戦略とナッシュ均衡。(弱) 支配戦略。
4	不完全競争市場 (1)	独占市場における生産者の行動。
5	不完全競争市場 (2)	数量競争・価格競争による寡占 (複占) 市場。
6	ゲーム理論 (3)	展開形ゲームの導入。展開形ゲームの戦略形ゲーム表現。
7	ゲーム理論 (4)	部分ゲーム完全均衡。後向き帰納法による求め方。
8	ゲーム理論 (5)	繰返しゲームと、カルテルとしての独占の発生。
9	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落。ピグー税・補助金。
10	外部性 (2)	公共財の紹介。自発的供給と効率的な供給の違い。
11	外部性 (3)	メカニズムデザインの紹介。VCG メカニズム。
12	ゲーム理論 (6)	情報不完備ゲームと (完全) ベイジアンナッシュ均衡。
13	情報の経済学 (1)	プリンシパル＝エージェント問題とモラルハザード。
14	情報の経済学 (2)	学歴モデルとシグナリング。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。
事後学習：講義内容を復習すること。また配布資料や参考書についている演習問題を解く。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】
① 伊藤元重「ミクロ経済学 (第 3 版)」2018 年、日本評論社、3000 円+税
② レヴィット, S.、グールズビー, A.、サイヴァーソン, C. [著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット　ミクロ経済学　発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税
③ 岡田章「ゲーム理論・入門　– 人間社会の理解のために- 新版」2014 年、有斐閣アルマ、1900 円+税

【成績評価の方法と基準】
期末試験 90%、演習・宿題 10%.

【学生の意見等からの気づき】
講義担当者が新任のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する予定。詳細は第 1 回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】
科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline and objectives】
This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory that is essential for analyzing these situations. Students should surely acquire the contents of this course since game theory and microeconomic theory are essential foundations for advanced topic courses.

ECN200CA

財政学 A

天利　浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財政学では、政策や財源の選択がもたらす効果を経済分析します。政府は、公害対策、道路等のインフラ整備や国防、景気を安定化させるための公共事業などの政策を実施します。財源の選択としては、税か公債発行か、さらに、所得税や消費税などの税の選択があり、歳出と歳入の両面で所得再分配を行います。
市場の機能を補完する政府の機能を確認した後、日本の財政事情を学習し、個別の市場における政策の効果や租税の基礎理論を学びます。

【到達目標】
民間部門と公的部門が、どのような役割分担をしているのか指摘できる。日本の予算や財政制度の仕組みを理解し、政府が直面している課題を指摘できる。政府の活動が、個人や市場に与える影響を分析するために、簡単な経済分析をできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義を行い、理解度を確認するため練習問題を解いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財政学とは	大きな政府と小さな政府
2	市場の機能	消費者余剰、生産者余剰
3	政府の３機能	資源配分（市場の失敗）、所得再分配、経済安定化
4	財政制度１	公共部門、政府予算
5	財政制度２	財政収支、政府債務
6	予算制度	予算原則、予算の形式、予算の種類、予算編成
7	財政投融資	政府の金融的活動、費用便益分析
8	公共財１	公共財の定義、公共財の最適供給、ナッシュ均衡
9	公共財２	リンダール均衡、中位投票者定理
10	外部性	ピグー税、コースの定理
11	租税の基礎理論	租税の分類、租税原則、税率と課税ベース
12	個別物品税の効果	租税の帰着、超過負担
13	所得課税と消費課税	労働所得課税と消費課税の等価性
14	労働所得税の仕組み	所得控除、税額控除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書などを用いて予習し、講義の後にも財政学の本などで理解を確認し、宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『財政学１５講』麻生良文、小黒一正、鈴木将覚著　新世社、２０１８年　２３５０円＋税

【参考書】
財政学や公共経済学の教科書
『図説日本の財政　最新年度版』東洋経済新報社（ただし昨年、最新年度版が出版されていない。）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
つまずきの原因になる箇所がどこか気をつけながら講義します。

【Outline and objectives】
The activities of the government are considered to correct market failures and complement the market activities. Environment policies, the supply of public infrastructure and national defense are among such activities. A brief overview of the current situations of the Japanese government serves as our starting point from which we reconsider out relationships with the government. The current economic situation of the Japanese economy also requires the government to consider the long-term consequences of the mounting government debt and the pay-as-you-go pension system.
Basic economic analysis of government activities would show us their effects and consequences and give us some clues for implementing better policies.

ECN200CA

財政学 B

天利　浩

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財政学では、政策や財源の選択がもたらす効果を経済分析します。政府は、公害対策、道路等のインフラ整備や国防、景気を安定化させるための公共事業などの政策を実施します。財源の選択としては、税か公債発行か、さらに、所得税や消費税などの税の選択があります。老後の生活を保障する公的年金は、財源調達の仕方によっては世代間の所得再分配をもたらします。財政学 B は財政学 A の履修を前提とし、マクロ経済政策の効果や、税制や年金制度が個人の労働供給や消費などに与える影響を簡単な経済モデルで分析します。

【到達目標】
民間部門と公的部門が、どのような役割分担をしているのか指摘できる。日本の予算や財政制度の仕組みを理解し、政府が直面している課題を指摘できる。政府の活動が、個人や市場に与える影響を分析するために、簡単な経済分析をできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義を行い、理解度を確認するため練習問題を解いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最適消費	無差別曲線、予算線
2	所得効果と代替効果	超過負担
3	労働所得税の効果	労働供給、超過負担
4	資本所得税 1	ロックイン効果、利子所得税
5	資本所得税 2	投資理論、法人税
6	個別物品税の帰着	価格弾力性、ラムゼイ・ルール
7	付加価値税	付加価値税の仕組み、日本の消費税
8	税制改革	所得課税から消費課税へ、二元的所得税
9	財政政策の効果１	乗数理論
10	財政政策の効果２	IS-LM 分析
11	財政の持続可能性	ドーマー命題
12	公債の負担	等価定理
13	公的年金	賦課方式、積立方式、日本の年金
14	地方財政	国と地方の役割分担、地域間財政調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書などを用いて予習し、講義の後にも財政学の本などで理解を確認し、宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『財政学１５講』麻生良文、小黒一正、鈴木将覚著　新世社、２０１８年　２３５０円＋税

【参考書】
財政学や公共経済学の教科書
『図説日本の財政　最新年度版』東洋経済新報社（ただし昨年、最新年度版が出版されていない。）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
理解度を確認しながら、分かりやすい講義を心がけます。

【Outline and objectives】
The activities of the government are considered to correct market failures and complement the market activities. Environment policies, the supply of public infrastructure and national defense are among such activities. A brief overview of the current situations of the Japanese government serves as our starting point from which we reconsider out relationships with the government. The current economic situation of the Japanese economy also requires the government to consider the long-term consequences of the mounting government debt and the pay-as-you-go pension system.
Basic economic analysis of government activities would show us their effects and consequences and give us some clues for implementing better policies.

ECN200CA

財政学 A

天利　浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財政学では、政策や財源の選択がもたらす効果を経済分析します。政府は、公害対策、道路等のインフラ整備や国防、景気を安定化させるための公共事業などの政策を実施します。財源の選択としては、税か公債発行か、さらに、所得税や消費税などの税の選択があり、歳出と歳入の両面で所得再分配を行います。
市場の機能を補完する政府の機能を確認した後、日本の財政事情を学習し、個別の市場における政策の効果や租税の基礎理論を学びます。

【到達目標】
民間部門と公的部門が、どのような役割分担をしているのか指摘できる。日本の予算や財政制度の仕組みを理解し、政府が直面している課題を指摘できる。政府の活動が、個人や市場に与える影響を分析するために、簡単な経済分析をできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義を行い、理解度を確認するため練習問題を解いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財政学とは	大きな政府と小さな政府
2	市場の機能	消費者余剰、生産者余剰
3	政府の３機能	資源配分（市場の失敗）、所得再分配、経済安定化
4	財政制度１	公共部門、政府予算
5	財政制度２	財政収支、政府債務
6	予算制度	予算原則、予算の形式、予算の種類、予算編成
7	財政投融資	政府の金融的活動、費用便益分析
8	公共財１	公共財の定義、公共財の最適供給、ナッシュ均衡
9	公共財２	リンダール均衡、中位投票者定理
10	外部性	ピグー税、コースの定理
11	租税の基礎理論	租税の分類、租税原則、税率と課税ベース
12	個別物品税の効果	租税の帰着、超過負担
13	所得課税と消費課税	労働所得課税と消費課税の等価性
14	労働所得税の仕組み	所得控除、税額控除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書などを用いて予習し、講義の後にも財政学の本などで理解を確認し、宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『財政学１５講』麻生良文、小黒一正、鈴木将覚著　新世社、２０１８年　２３５０円＋税

【参考書】
財政学や公共経済学の教科書
『図説日本の財政　最新年度版』東洋経済新報社（ただし昨年、最新年度版が出版されていない。）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
つまずきの原因になる箇所がどこか気をつけながら講義します。

【Outline and objectives】
The activities of the government are considered to correct market failures and complement the market activities. Environment policies, the supply of public infrastructure and national defense are among such activities. A brief overview of the current situations of the Japanese government serves as our starting point from which we reconsider out relationships with the government. The current economic situation of the Japanese economy also requires the government to consider the long-term consequences of the mounting government debt and the pay-as-you-go pension system.
Basic economic analysis of government activities would show us their effects and consequences and give us some clues for implementing better policies.

ECN200CA

財政学 B

天利　浩

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財政学では、政策や財源の選択がもたらす効果を経済分析します。政府は、公害対策、道路等のインフラ整備や国防、景気を安定化させるための公共事業などの政策を実施します。財源の選択としては、税か公債発行か、さらに、所得税や消費税などの税の選択があります。老後の生活を保障する公的年金は、財源調達の仕方によっては世代間の所得再分配をもたらします。財政学 B は財政学 A の履修を前提とし、マクロ経済政策の効果や、税制や年金制度が個人の労働供給や消費などに与える影響を簡単な経済モデルで分析します。

【到達目標】
民間部門と公的部門が、どのような役割分担をしているのか指摘できる。日本の予算や財政制度の仕組みを理解し、政府が直面している課題を指摘できる。政府の活動が、個人や市場に与える影響を分析するために、簡単な経済分析をできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義を行い、理解度を確認するため練習問題を解いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最適消費	無差別曲線、予算線
2	所得効果と代替効果	超過負担
3	労働所得税の効果	労働供給、超過負担
4	資本所得税 1	ロックイン効果、利子所得税
5	資本所得税 2	投資理論、法人税
6	個別物品税の帰着	価格弾力性、ラムゼイ・ルール
7	付加価値税	付加価値税の仕組み、日本の消費税
8	税制改革	所得課税から消費課税へ、二元的所得税
9	財政政策の効果１	乗数理論
10	財政政策の効果２	IS-LM 分析
11	財政の持続可能性	ドーマー命題
12	公債の負担	等価定理
13	公的年金	賦課方式、積立方式、日本の年金
14	地方財政	国と地方の役割分担、地域間財政調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書などを用いて予習し、講義の後にも財政学の本などで理解を確認し、宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
『財政学１５講』麻生良文、小黒一正、鈴木将覚著　新世社、２０１８年　２３５０円＋税

【参考書】
財政学や公共経済学の教科書
『図説日本の財政　最新年度版』東洋経済新報社（ただし昨年、最新年度版が出版されていない。）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
理解度を確認しながら、分かりやすい講義を心がけます。

【Outline and objectives】
The activities of the government are considered to correct market failures and complement the market activities. Environment policies, the supply of public infrastructure and national defense are among such activities. A brief overview of the current situations of the Japanese government serves as our starting point from which we reconsider out relationships with the government. The current economic situation of the Japanese economy also requires the government to consider the long-term consequences of the mounting government debt and the pay-as-you-go pension system.
Basic economic analysis of government activities would show us their effects and consequences and give us some clues for implementing better policies.

ECN200CA

金融論 A

武田　浩一

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，初めて金融を学ぶ人を対象として，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて，まず金融に興味を持ってもらい，さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
この講義では，「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように，日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて，少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において，今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように，金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには，それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。
講義はプロジェクターを使って行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：金融とは	金融とは何か
第 2 回	金融取引とリスク	金融取引に伴うリスク
第 3 回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第 4 回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第 5 回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第 6 回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第 7 回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第 8 回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第 9 回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第 10 回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第 11 回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第 12 回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第 13 回	マネーストック	マネーストックとは何か
第 14 回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば，金融論の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣，2011 年刊）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の閲覧用資料の配布に授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA

金融論 B

武田　浩一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，金融の基本的な仕組みを紹介し，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は，初めて金融を学ぶ学生に，まず金融の面白さに触れてもらい，さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
金融市場の動向や金融取引の仕組み，貸出市場とメインバンク，新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は，近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており，従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが，この講義では，金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって，金融市場はどのように機能し，そこで市場参加者はどのように行動しているのか，また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか，などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。
講義はプロジェクターを使って行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第 2 回	金融市場	短期金融市場について
第 3 回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場について
第 5 回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第 6 回	資産証券化	資産証券化とは何か
第 7 回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第 8 回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第 9 回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とプルーデンス政策について
第 10 回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第 11 回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第 12 回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第 13 回	企業金融	企業の資金調達について
第 14 回	金融政策	金融政策の目的、手段、およびメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば，金融論の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣，2011 年刊）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の閲覧用資料の配布に授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA

金融論 A

高橋　秀朋

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】
本講義の目標は秋期の金融システムにおける諸問題を経済学のツールを利用して理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義では Excel を利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示しいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	金融の役割 1	異時点間の所得移転
3	金融の役割 2	異状態間の所得（リスク）移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	問題演習 1	貨幣の時間価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルにおける分散化 (1)
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化 (2)
9	リスク評価 3	4 状態モデル
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	問題演習 2	リスク資産評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では電卓を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、電卓もしくはスマホの電卓機能を利用できる環境下にあることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）
※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】
評価は期末試験 100 %として行う。試験は記述式の試験による。また、講義中にされた質問に答える等で加点することもあるが、当該加点を含めて 100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義の最後に行われる問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
電卓もしくは電卓機能のついたスマートホン

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. I also show what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems from the perspective of economics/finance.

ECN200CA

金融論 B

鈴木　誠

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得することにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。金融論Ａの知識に加え、情報の経済学を利用して、金融における諸問題をより現実的な形で分析する。

【到達目標】
本講義の目標は、金融論Ａで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。また、金融論において重要な分野の一つである中央銀行の役割および金融政策の意義についても触れ、その概要を理解することも本講義の目的である。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示しいく。本講義で扱うテーマが金融論 A に比べて複雑になるため、電卓等を利用する頻度は下がる。金融論Ｂではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融の機能	金融市場概要
2	金融仲介機関	金融仲介の機能
3	不確実性と市場	不確実性とリスク
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習 1	情報の非対称性
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	問題演習 2	契約の不完備性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
村瀬英彰『新エコノミクス　金融論』（日本評論社、2006 年）
F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）
※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】
評価は期末試験 100 %として行う。試験は記述式の試験による。また、講義中にされた質問に答える等で加点することもあるが、当該加点を含めて 100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義中の問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
電卓もしくは電卓機能のついたスマートホン。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to introduce some concepts and frame works for Finance.
Students will be expected to examine real financial activities with Economic view point. In this lecture, we will employ the information theory and fundamental knowledge of Finance to recognize the real world.

ECN200CA

国際経済論 A

田村　晶子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際貿易論の基礎理論を勉強します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、ＦＴＡやＥＰＡなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】
貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。実際の貿易データにより、理論の現実への妥当性を推論できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを自分で書き込む形の空白のある配布資料を配布します。授業支援システムを利用して、12 回の練習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	グローバル経済の企業	輸出の判断と多国籍企業
第 8 回	貿易政策の基礎理論①	輸入関税の効果、費用と便益
第 9 回	貿易政策の基礎理論②	輸出補助金の効果
第 10 回	貿易政策の基礎理論③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第 11 回	貿易政策の政治経済学	自由な貿易をめぐる議論
第 12 回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第 13 回	地域貿易協定の効果	ＦＴＡが与える影響
第 14 回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで出される 12 回の練習問題を提出する。参考文献を授業前に読んで準備学習をし、授業後はパワーポイント配付資料をもとに復習をする。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕上:貿易編』丸善出版、2017 年
清田耕造・神事直人著『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】
12 回の練習問題（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイント進度などを気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら、授業を進めるよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements or Economic Partnership Agreements.

ECN200CA

国際経済論 B

田村　晶子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】
国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。授業支援システムを利用して、12 回の練習問題を解いてもらい、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表の項目	日本の国際収支表の見方
第 2 回	国際収支の記入方法	国際収支表の記入例
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第 6 回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第 7 回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第 8 回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第 9 回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第 10 回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第 11 回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第 12 回	為替とマクロ経済	マクロ経済政策の効果
第 13 回	最適通貨圏の理論	固定為替レートの範囲
第 14 回	通貨危機のモデル	第 1 世代、第 2 世代モデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで出される 12 回の練習問題を提出する。参考文献を授業前に読んで準備学習を行い、授業後に配付資料の基づき復習をして、授業の理解を深める。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕下:金融編』丸善出版、2017 年
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】
12 回の練習問題（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントと授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

ECN200CA

国際経済論 A

武智　一貴

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade.

【到達目標】
The aim of this course is to introduce students to the study of the causes and effects of international transactions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
We will discuss the basic issues in international trade. Why do countries trade with each other? What do we import and export? What are the effects of trade policy? This course develops a systematic framework that will help us analyze these issues. To foster an understanding of the basic models, we consider real world examples. The lectures will be in Japanese, but the course materials and exams will be in English. Students are expected to be familiar with introductory microeconomics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	What is the definition of "international" transactions? Why are people against or for globalization?
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	Surplus analysis (Consumer Surplus)
3	Why do we trade? II	Producer Surplus
4	Why do we trade? III	Gains from Trade
5	Market Structure and gains from trade I	Monopoly Market
6	Market Structure and gains from trade II	Gains from Trade in a Monopoly market
7	Trade Policy	What happens if we restrict trade?
8	Effects of tariffs and subsidies I	The case of import tariff
9	Effects of tariffs and subsidies II	Effects of Export Subsidies
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	Comparative Advantage
11	Trade and factor endowments	Heckscher-Ohlin-Samuelson (HOS) model
12	Monopolistic Competition and Scale Economies	Krugman model
13	Strategic Trade Policy I	Basic Game Theory (Nash Equilibrium)
14	Strategic Trade Policy II	Export Subsidy

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read handouts before the class.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook.

【参考書】
Recommended materials are:
石井他著、入門・国際経済学、有斐閣
石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】
Your grade will be determined by your performance at the final examination (100%).

【学生の意見等からの気づき】
There wil be several exercises, which are useful for understanding the content of the course.

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する （All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline and objectives】
This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade.

ECN200CA

国際経済論 B

武智　一貴

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics.

【到達目標】
We intend to study the fundamental concepts and basic models of international finance.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
We will discuss the balance of payments, determinants of foreign exchange rate, and the effects of economic policy and exchange rate regimes. The lectures will be in Japanese, but the course materials and exams will be in English.
Students are expected to be familiar with introductory macroeconomics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Essential elements of international transactions
2	Basic elements of international finance	Exchange rate and National Income Accounts
3	The link between national economy and international market	I-S Balance and Current Account
4	Balance of Payments	Current account and financial account
5	Current account	Current account surplus and deficit in Japan and the US
6	The relationship between current account and financial account	cause and effect of international flows
7	More on exchange rate	Prices and exchange rates: Big-mac parity
8	Price and exchange rate	Purchasing Power Parity (PPP)
9	PPP violation I	Why does PPP violate?
10	PPP violation II	How to assess the issue of PPP deviation
11	An asset approach	Covered interest parity and uncovered interest parity
12	The impact of domestic money market	Money market and macroeconomy
13	Exchange rate regimes	Fixed exchange rate regime and Gold Standard
14	Monetary and fiscal policy in an open economy	A Keynesian approach (Review of IS-LM model)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read handouts before each class.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook.

【参考書】
Recommended materials are:
石井他著、入門・国際経済学、有斐閣
高木信二著、入門国際金融、日本評論社
Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】
Your grade will be determined by your performance at the final examination (100%).

【学生の意見等からの気づき】
There wil be several exercises, which are useful for understanding the content of the course.

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する （All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline and objectives】
This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics.

ECN200CA

環境経済論 A

松波　淳也

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，標準的な環境経済学の基本概念，手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
環境経済学にとって最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第 2 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 3 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 4 回	外部性②	課税政策。
第 5 回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第 6 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 7 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 8 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 9 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ　CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ　TCM，HPM。非需要曲線アプローチ　RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？　環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。

【テキスト（教科書）】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【参考書】
ターナー・ピアス・ベイトマン著（大沼あゆみ訳）『環境経済学』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %，期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA

環境経済論 B

松波　淳也

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義では，最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ，標準的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクルⅠ - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクルⅡ - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクルⅢ - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税，有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	3 R +適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策，中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方.「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム，規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担Ⅰ - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着
第 11 回	費用支払いと費用負担Ⅱ - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR Ⅰ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論. 容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR Ⅱ- E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法.PC リサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。

【テキスト（教科書）】
細田衛士：『グッズとバッズの経済学　第 2 版』東洋経済新報社.

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %，期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it.　In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CA

日本経済論 A

小黒　一正

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

【到達目標】
日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第 3 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (2)	古典派モデル (1)　基本モデル
第 4 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (3)	古典派モデル (2)　拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第 5 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (4)	古典派モデル (3)　貨幣数量説、失業と労働市場
第 6 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (5)	ケインズ・モデル (1)　所得支出モデル
第 7 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (6)	ケインズ・モデル (2)　IS-LM モデルと財政金融政策の効果
第 8 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (7)	ケインズ・モデル (3)　IS-MP モデル、開放経済モデル
第 9 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (8)	消費関数・投資関数の理論
第 10 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第 11 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)	経済成長論
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第 14 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校までに習う数学（特に関数の演算と微分）の復習、講義内容の復習

【テキスト（教科書）】
浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】
マンキュー『マンキュー経済学 II　マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of macroeconomics.
This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA

日本経済論 B

小黒　一正

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】
日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するための公共経済学 (1)	市場の失敗と政府の役割
第 3 回	日本経済を理解するための公共経済学 (2)	財政、国債市場
第 4 回	日本経済を理解するための公共経済学 (3)	公共財
第 5 回	日本経済を理解するための公共経済学 (4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第 6 回	日本経済を理解するための公共経済学 (5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第 7 回	日本経済を理解するための公共経済学 (6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第 8 回	日本経済を理解するための公共経済学 (7)	租税の理論、物品税の帰着
第 9 回	日本経済を理解するための公共経済学 (8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第 10 回	日本経済を理解するための公共経済学 (9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第 11 回	日本経済を理解するための公共経済学 (10)	公債の負担
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政赤字、世代間格差
第 14 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校までに習う数学（特に関数の演算と微分）の復習、講義内容の復習

【テキスト（教科書）】
浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
配布資料

【参考書】
スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of public economics.
This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA

日本経済論 A

牧野　文夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本の経済発展」を主題に、日本の経済の戦後から現在までのあゆみを講義する。ただし講義の順は現在から過去に遡る。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。また経済史、日本経済史なども受講していると理解が進むであろう。

【到達目標】
日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
作成した PPT 資料に基づき、講義形式ですすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、アベノミクス	講義の枠組み、これまでのアベノミクスの評価について
2	東日本大震災、ユーロ危機と日本経済	東日本大震災とユーロ圏の債務危機が日本経済に及ぼした影響と意味について
3	グローバル化の進展とリーマンショック	中国、インドなど新興経済の発展、リーマンショックの日本経済への影響について
4	不良債権処理と小泉構造改革	金融機関の不良債権処理と小泉内閣時の構造改革について
5	デフレと失われた 20 年	1990 年代後半から 2000 年代半ばへ平成不況について
6	バブル崩壊と不良債権問題	不良債権問題の発生とその処理、労働市場の需給悪化について
7	バブル経済下の日本経済	1980 年代後半の資産バブルについて
8	レーガノミクスと円切り上げ	アメリカ経済の政策転換と日本経済に及ぼした影響について
9	オイルショックと高度成長の終焉	1970 年代のスタグフレーション下の日本経済について
10	高度成長 1	1960 年代の高度成長の原因と帰結について
11	高度成長 2	高度成長時代の国民生活の変化について
12	戦後改革 1	農地改革、財閥解体等の制度改革について
13	戦後改革 2	日本経済の再建、インフレ対策について
14	戦時統制経済	戦後の経済的枠組みを決定したともいわれる 1940 年代の統制経済について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること。
授業で使う資料に必ず目を通す。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】
①南亮進『日本の経済発展（第 3 版）』東洋経済新報社。
②深尾・中村・中林編『講座　日本経済の歴史』第 5、6 巻、岩波書店。
③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
など。
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験で評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の最後に質問用紙を配布し、相互対話を深めたい。

【その他の重要事項】
現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline and objectives】
Economic development of Japan after WWII

ECN200CA

日本経済論 B

牧野　文夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本経済論 A の受講を前提にテーマごとに現在の日本経済の特徴、問題、課題をテーマ別に講義する。

【到達目標】
個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業支援システムにアップロードした PPT 資料を使用して、講義形式ですすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、産業構造（1）	ガイダンスおよび農業問題特に食料自給率について
2	産業構造（2）	農業の経営構造と規模拡大政策、補助政策について
3	産業構造（3）	製造業、IT 産業、研究開発について
4	金融システム（1）	部門別資金バランス、家計貯蓄
5	金融システム（2）	銀行の貸出行動と企業の資金調達について
6	財政（1）	増大する政府債務、歳入・歳出構造、税制について
7	財政（2）	政府債務、特別会計、中央・地方の財政関係、社会保障について
8	労働市場（1）	最近の雇用問題、非正規労働の増大について
9	労働市場（2）	賃金水準、賃金格差について
10	少子高齢化	晩婚化、少子化、高齢化問題について
11	対外経済関係（1）	貿易構造の変化について
12	対外経済関係（2）	対外投資、国際収支、TPP/FTA について
13	所得分配、社会階層と教育	経済格差のもたらす社会的弊害について
14	地域格差問題	大都市と地方の格差について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマが広いのでできる限り経済に関する毎日の新聞記事、ニュースなどを読んだり、聞いたりすること。
講義資料は事前に目を通す。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。講義資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】
関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】
定期試験によって評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の後に質問用紙を配布し、相互対話の機会を増やしたい。

【Outline and objectives】
Structure and problems of the Japanese economy

COT200CA

ビジネスプログラミング入門A

坂本　憲昭

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の到達目標及びテーマを実践するために，オフィスソフトを用いて実習します。具体的には，テキスト文書による情報発信の実習，その際に個人情報保護などや，ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により，問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

【到達目標】
情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて，実習を通して，必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し，受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し，ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者，または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので，基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので，ガイダンスに出席して詳細を理解してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス，社会人基礎力について	授業の進め方など，ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法，メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示, 関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え, フィルタ, テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計, ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験，MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外にも課題等に取り組みます。準備学習として，タイピングソフト等により，キー入力に慣れておきます。Windows におけるファイルのコピー，移動，名前の変更方法を復習しておきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】
マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集，日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集，ビジネスメールの書き方などの書籍

【成績評価の方法と基準】
基準として中間に 2 回おこなう試験各 40%，プレゼンテーション課題 10%，平常点 10%を 100 点満点にして成績を評価します。60 点以上が合格になります。詳細を授業 1 回目のガイダンスで必ず確認してください。もしもやむを得ない事情でガイダンスを欠席した場合にはあなた自身で担当教員に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが，能力別クラス編成ではないので，実習問題で吸収するようにします。授業内容が，コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習ととらえてより確実に習得することを考えてください。

【学生が準備すべき機器他】
マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使いたい場合にはご自身で準備してください。

【その他の重要事項】
質問等があれば，担当教員坂本まで問い合わせしてください。

【Outline and objectives】
In this course, students practice:
• information dissemination by documents, learning about the protection of personal information and security of online data
• creating documents in professions for outside or inside the company by software
• basic knowledge and skills that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and
• skills and attitudes related to the creation and transmission of information contents using presentation software.
To carry out the targets and theme, Office software is used in practical lessons. On completion of this course, you will have the skills required for a professional.

COT200CA

ビジネスプログラミング入門B

坂本　憲昭

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラム言語の役割とその仕組み，アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により，(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し，その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して，モデル化について，シミュレーションの意味，社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

【到達目標】
アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し，実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して，(1) アルゴリズムの基礎，(2) プログラミングの基礎，(3) 数値計算，(4) データの型と構造，(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に，それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日に同じ授業がありますが，到達目標，アルゴリズムの考え方，使用するプログラミング言語，使用する基本命令は共通です。ガイダンスで詳細を必ず理解してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備，プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて，バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数，四則演算，乱数	変数，四則演算，乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令，繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習では Excel を使用するため，起動，終了，名前を付けて保存などの基本的操作を復習しておきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

【参考書】
Excel/VBA の解説書籍（操作方法のほかに，命令の辞書的な書籍が役立ちます）：石田・宮崎，アルゴリズム図鑑絵で見てわかる 26 のアルゴリズム，翔泳社，2017，：森・まつむら，楽しく学ぶアルゴリズムとプログラミングの図鑑，マイナビ出版，2016

【成績評価の方法と基準】
基準として試験（50%），課題（30%），平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は，複数の教員が曜日に分かれて担当しますので，ガイダンスは必ず出席し，その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には，あなた自身で担当教員に確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には，授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

【学生が準備すべき機器他】
ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合には，自分で準備してください。

【その他の重要事項】
授業内容について質問があれば，担当教員坂本まで問い合わせてください。

【Outline and objectives】
The role of the programming language, its mechanisms and algorithms are taught in lectures. Practical lessons focus on actual programming with Excel or VBA. You will (1) learn basic skills, experiencing 'how to set up solution procedures to deal with problems'and 'logical thinking with the pathway,' and (2) further understand modeling through programming, including the meaning of simulation, the concept of software, which has become social infrastructure and the effects of mistakes(bugs) of programs on social life.

POL200CA

国際関係論 A

冨永　靖敬

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。変更がある場合は、授業中にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論とは	ガイダンス、国際政治学の起源
第 2 回	国際システムの歴史的成り立ち I	主権国家の拡大、第一次・第二次大戦、冷戦と熱戦
第 3 回	国際システムの歴史的成り立ち II	脱植民地化と民族紛争、グローバリゼーション
第 4 回	伝統的国際政治学の視点	リアリズム/勢力均衡論、リベラリズム/国際制度と国際協調
第 5 回	紛争と強調 I	利益（Interests）・相互作用（Interactions）・制度（Institutions）
第 6 回	紛争と強調 II	なぜ戦争は発生するのか、交渉の失敗としての戦争
第 7 回	第一次湾岸戦争	私的情報、情報の非対称性
第 8 回	核拡散問題	抑止理論、弱小国の論理、核不拡散条約 (NPT)
第 9 回	同盟・集団安全保障体制	同盟とは、同盟の種類、同盟と戦争
第 10 回	国際機関	国際連合の形成、発展、機能
第 11 回	民主的平和論	観衆費用、情報伝達の効率性（意図・能力）
第 12 回	独裁政治	陽動理論、政治システムと政治的コスト
第 13 回	日本の安全保障	東アジアの国際政治環境、伝統的安全保障枠組みの遺産
第 14 回	復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。講義毎にレジュメを配布します。

【参考書】
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】
期末試験（選択式・記述式）によって 100%の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course introduces the essence of the theory of international relations. The Spring semester course pays particular attention to security studies. We first review traditional theories of international relations such as realism and liberalism, and critically analyze how those theories explain war and peace. After discussing the pros and cons of those theories, we next introduce the bargaining theory of war. To be specific, we address the following questions: regardless of the fact that war is ex-post inefficient in that it causes huge economic and human cost, why might war still occur? In addressing this question, we illustrate the three essential concepts: asymmetric information (private information), commitment problem, and issue divisibility. We elaborate those concepts through the actual cases such as the Gulf war and Iraq war. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

POL200CA

国際関係論 B

冨永　靖敬

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に国際貿易・金融・通貨といった国際経済をめぐる国家間関係に加え、冷戦後に頻発する内戦やテロリズムといった非国家主体をめぐる国際関係まで幅広く学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係論を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。変更がある場合は、授業中にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス、国際関係論 A の復習
第 2 回	紛争と強調	国内政治過程と国際関係
第 3 回	国際貿易	自由貿易（比較優位）、貿易制限、国際制度（WTO・GATT・RTA）
第 4 回	国際金融	海外直接投資、国際金融制度（IMF）
第 5 回	国際通貨	為替レート（変動相場制・固定相場制）、通貨をめぐる政府間レジーム
第 6 回	国内紛争 I	内戦（民族・イデオロギー・宗教）、統計資料でみる内戦
第 7 回	国内紛争 II	テロリズム、統計資料でみるテロ、テロの歴史的発展
第 8 回	国連 PKO	国連 PKO の形成・発展、PKO の効果
第 9 回	貧困と開発	資源の呪い（統計資料でみる天然資源）、国連の持続可能な開発
第 10 回	人権	人権規定、国家による人権の蹂躙、人権をめぐる国際合意
第 11 回	国際規範	国際規範の生成と伝播、非国家主体の影響
第 12 回	環境問題	環境破壊、自然災害、環境問題をめぐる国際制度
第 13 回	国際関係論の未来	大国の対立、グローバル化、グローバル・ガバナンス
第 14 回	復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。講義毎にレジュメを配布します。

【参考書】
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】
期末試験（選択式・記述式）によって 100%の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
本講義は、「国際関係論 A」を履修していることを前提としています。

【Outline and objectives】
This course introduces the other topics of international relations that are not covered in the Spring semester. While the International Relations A covers the theories particularly focusing on war and peace between sovereign states, this course illustrates varieties of topics from international political economy, non-traditional security such as civil wars and terrorism, politics over an environmental problem and human rights. In common with the Spring semester, the course pays particular attention to the causal mechanism and we illustrate those theories through the actual cases in history as many as possible. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states and non-state actors, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

CUA200CA

経済人類学 A

山本　真鳥

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
貨幣や市場が未発達な社会（非市場社会）の経済の研究を通して、経済とは何かということを考察する。そこで得た概念や理論を市場社会にも応用する。経済人類学 A では、3 つのサブシステンス社会の暮らし方とその経済のあり方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

【到達目標】
1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の基礎概念を自分で説明できる。3) 経済人類学の基礎概念を用いて社会事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の考え方	貨幣と市場のない経済
第 2 回	サブシステンス経済①	採集狩猟民の技術と食料獲得
第 3 回	サブシステンス経済②	焼畑農耕民の技術と食料生産
第 4 回	サブシステンス経済③	牧畜民の技術と食料生産
第 5 回	労働と生産組織	サブシステンスのかたちに応じて異なる生産組織
第 6 回	ジェンダー役割分担	もっとも古い家族内分業のひとつ
第 7 回	生産財の所有と相続	土地制度と社会制度
第 8 回	贈与	贈り物の社会＝経済学
第 9 回	互酬性	お互い様で作る社会関係、経済関係
第 10 回	経済システムと社会構造	互酬性、再分配、市場交換
第 11 回	未開人は合理的か？	経済人モデルの普遍性を問う
第 12 回	農民社会の経済	コモンズ、労働交換、つきあい等々を検討
第 13 回	モラル・エコノミー	友愛の経済活動
第 14 回	経済人類学の基礎	基礎概念の理解と持続的発展のために

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムの教材箇所にアップした教科書の関連部分を読む。それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材）を読んで、予習ないしは復習を行う。

【テキスト（教科書）】
断片的ながら、基礎的概念の書かれている部分を授業支援システムの教材の教科書の箇所にアップするので、それをもってテキスト（教科書）とする。

【参考書】
授業支援システムの教材の箇所にアップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てること。その他は授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 6 回に出題、締切厳守 2 週間半後）は 20%。随時行う授業内小テストで 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。 小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は知識・概念の理解度と概念を用いた思考力の両方を試すもの。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】
開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。同システムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】
授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

【Outline and objectives】
The purpose of this lecture is to consider the question what is economy, examining economy of non-market societies where money and market are underdeveloped. The concepts and theories obtained will be utilized in the analyses of market societies. In Economic Anthropology A, students will learn the way of life and economy in subsistent societies and the basic terms and cencepts.

CUA200CA

経済人類学 B

山本　真鳥

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
貨幣や市場が未発達な社会（非市場社会）の経済の研究を通して、経済とは何かということを考察する。そこで得た概念や理論を市場社会にも応用する。経済人類学 B では、前半は歴史上の社会も含めて非市場経済の経済現象を春学期で学んだ基礎概念を用いて分析する授業を行い、後半には現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

【到達目標】
1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の概念を自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて、非市場社会や現代社会の事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	儀礼交換の諸形態①	西太平洋のクラ交換の VTR
第 2 回	儀礼交換の諸形態②	経済的に意味のない交換はなぜ？
第 3 回	再分配と首長制／王権	トンガ王国の構造
第 4 回	貨幣と交換財①	特定目的貨幣・全目的貨幣
第 5 回	貨幣と交換財②	タバコと貝貨の資本主義
第 6 回	市場（いちば）の経済人類学	バザール経済論
第 7 回	長距離交易	市場交換の原初形態
第 8 回	植民地主義と開発	辺境社会の開発とその障がい
第 9 回	開発とジェンダー	貧困の女性化と女性の開発参加
第 10 回	資本主義経済と文化	企業文化と労働の組み立て
第 11 回	地域通貨と疑似通貨	コミュニティと通貨
第 12 回	移民コミュニティの経済①	アメリカ合衆国のエスニック集団形成史
第 13 回	移民コミュニティの経済②	エスニック・ビジネス
第 14 回	経済人類学の応用	経済人類学の視角と現代社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムの教材の箇所に教科書と各回に対応する予習復習資料をアップしてあるので、これらを用いて予習ないしは復習を行う。

【テキスト（教科書）】
断片的ながら、基礎的概念の書かれている部分を授業支援システムの教材にアップするので、それをもってテキスト（教科書）とする。

【参考書】
授業支援システムの教材の箇所にアップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てること。その他は授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 6 回に出題、締切厳守 2 週間半後）は 20%。随時行う授業内小テストで 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。 小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は知識・概念の理解度と概念を用いた思考力の両方を試すもの。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】
開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。同システムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】
授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

【Outline and objectives】
The purpose is to consider the question what is economy, examining economy of non-market societies where money and market are under-developed. The concepts and theories obtained will be utilized in the analyses of market societies, too. In Economic Anthropology B, economic phenomena of historical non-market societies will be analyzed with the basic concepts learned in A in the first half of the course and modern economy will be analyzed in the perspective of Economic Anthropology in the later half of the course.

LANe200CA

Academic Research Seminar A

飯野　厚

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学び実践する。事実や先行研究のまとめ、研究計画の立案と実施、結果の集約と考察から成る本格的な論文執筆を実践する。本学期は研究課題の設定・リサーチプロポーザルの執筆、データ収集までを行う。

【到達目標】
Through the course, the students will be able to write a research paper based on analyzed data in previous semester.
受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語学習、英語教育をテーマとした研究論文を英語で執筆し、プレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) Learn and practice how to write a paper through presentation by students
(2) Teacher's briefing about steps to put research into practice
(3) Read papers and write research proposal with Google Docs
(4) Plan data collection and compile collected data to give one's presentation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	What is research	Purposes, types of research, steps to practice research
2	How to decide the theme of your research	Perspectives for better decision making: title and previous research
3	Making research questions	Summarizing previous research and create research questions
4	Finding previous research	Purposes of reading previous research
5	Method, Data collection procedure	Participants, materials, and procedure to collect data
6	Types of research	Quantitative;questionnaire, text data analysis
7	Types of research	Qualitative: case study,narrative inquiry, discourse analysis
8	Hypotheses and expected results	How to analyze qualitative / quantitative data
9	Data collection procedures	Interview procedures, question forming, fiding and choosing participnats
10	Writing Introduction part of research proposal	Preparing the data collection
11	Completing research proposal	Background, the issue, and purpose of the stud
12	Summarizing the results	Collecting and analyzing data
13	Presenting the results	categorization, compilation, tables, figures
14	Outcome sharing	Presentation of Intro, Lit Review, RQ and Results by individuals

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep on reading and writing

【テキスト（教科書）】
Original reading packet

【参考書】
『やさしく書ける英語論文』松柏社 (2012)
『はじめての英語教育研究』研究社（2016）
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)
『APA 論文作成マニュアル　第 2 版』医学書院（2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】
50% In-class presentation
50% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】
Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【学生が準備すべき機器他】
Since we use Microsoft Word 2013+, in the case that no CALL room is available, the students have to bring their own computer with the software installed every time.

【その他の重要事項】
Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline and objectives】
This course aims to understand organization of a research paper and procedure to put research into practice. The students will create a research proposal and practice data collection.

LANe200CA

Academic Research Seminar B

飯野　厚

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、英語で本格的な英語論文を執筆する

【到達目標】
Through the course, the students will be able to write a research paper based on analyzed data in previous semester.
本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) Briefing the steps of writing a paper
(2) Write a section of a paper
(3) Individual based feedback and sharing common mistakes

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper
2	Introduction 1:	specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Introduction 2:	briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Review of literature in paragraph writing:	How to cite previous studies
5	Organized review of literature:	How to connect with research questions
6	Method 1:	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Method 2:	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary
9	Results 2:	Qualitative data summary and its citation
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and its results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and Data tables
14	Presentation of reserach	to be individually done in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep on writing

【テキスト（教科書）】
『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)

【参考書】
『APA 論文作成マニュアル　第 2 版』医学書院（2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】
50% In-class activities
50% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】
Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【学生が準備すべき機器他】
Since we use Microsoft Word 2013+, in the case that no CALL room is available, the students have to bring their own computer with the software installed every time.

【Outline and objectives】
This course aims to write a paper in English based on the research proposal and data summary made in the previous semester.

LANe200CA

Academic Research Seminar A

山﨑　達朗

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事的な話題を通して，英語の実用的総合力を高めるのが狙いである（英検 2 級以上の能力があり，積極的な学生に適する）。ニュースに特徴的な語彙や表現に慣れ，聴解力や読解力を伸ばす。さらに，簡単な英語で自分の考えを表現する力も養う。

【到達目標】
時事的なテキストでリスニングを中心に行うが，ニュース内容の包括的把握ができ，メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。さらに新聞記事やビジネス文書の読解も行い，短時間にポイントを要領よく理解する力が養える。授業では英語の話し合いもあるので積極的に参加して，自分の意見を発表するように期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は英語と日本語で行うので，英語で話し合う機会がある。少人数であれば，学生の英語プレゼンを行う予定（自分の写真の説明, 英語記事の内容・意見の発表）。
☞ 受講希望者 15 名以上の場合，初回授業時に選抜試験実施予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	* 授業内容・評価方法の概略説明, 問題演習
2	テキスト問題演習 1	* U1 SPROUTING NEW SUSHI IDEAS ("Before You Watch" ～"Under-stand the News")
3	テキスト問題演習 2	* U1 ("Discussion Questions <=DQs > "等) * 資格試験 (TOEIC 等)
4	テキスト問題演習 3	* U2 IN THE POLE POSITION ("Watch the News"等）* 新聞記事
5	テキスト問題演習 4	* U2 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等)
6	テキスト問題演習 5	* U3 EASING OFF "Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 1
7	テキスト問題演習 6	* U3 ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等） * プレゼン 2
8	テキスト問題演習 7	* U4 IN MEMORY OF MONTY ("Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 3
9	テキスト問題演習 8	* U4 ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等）、プレゼン 4
10	テキスト問題演習 9	* U5 DATING THE AI WAY ("Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 5
11	テキスト問題演習 10	* U5 ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等） *プレゼン 6
12	テキスト問題演習 11	* U6 FLOATING ON A DREAM ("Watch the News"等）* 新聞記事
13	テキスト問題演習 12	* U6 ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等）
14	テキスト問題演習 13	* 定期試験 (既習範囲、配布資料、応用問題）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆テキストの予習・復習（= Online 映像 plus+Media の視聴，script の理解）。

【テキスト（教科書）】
◆ NHK NEWS LINE 2 (金星堂)，2019，￥2,300+税.（初回必ず出席し履修が可能とわかってから購入のこと）

【参考書】
◆ VOA, ELLLO のウェブサイト，NHK 英語講座。

【成績評価の方法と基準】
◆定期試験 = 70%, 授業積極参加（=解答発表・意見発表など）= 30%。受験資格条件は初回時に話すので確実に出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
◆ 全員が参加できる授業を目指す。

【Outline and objectives】
Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their listening comprehension English abilities through watching news reports. We will also have discussions in English on current topics related to Japanese society, culture and events. Depending on class size, students may be asked to give presentations on selected topics.

LANe200CA

Academic Research Seminar B

山﨑　達朗

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時事的な話題を通して，英語の実用的総合力を高めるのが狙いである（英検 2 級以上の能力があり，積極的な学生に適する）。ニュースに特徴的な語彙や表現に慣れ，聴解力や読解力を伸ばす。さらに，簡単な英語で自分の考えを表現する力も養う。

【到達目標】
時事的なテキストでリスニングを中心に行うが，ニュース内容の包括的把握ができ，メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。さらに新聞記事やビジネス文書の読解も行い，短時間にポイントを要領よく理解する力が養える。授業では英語の話し合いもあるので積極的に参加して，自分の意見を発表するように期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は英語と日本語で行うので，英語で話し合う機会がある。少人数であれば，学生の英語プレゼンを行う予定（自分の写真の説明, 英語記事の内容・意見の発表）。
☞ 受講希望者 15 名以上の場合，初回授業時に選抜試験実施予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	* 授業内容の概略説明* U7JAPAN ADVENTURER ("Before You Watch"～"Under-stand the News")
2	テキスト問題演習 1	* U7 ("Discussion Questions <=DQs > "等) * 資格試験 (TOEIC 等)
3	テキスト問題演習 2	* U8 SORTING IT OUT（"Watch the News"等）* 新聞記事
4	テキスト問題演習 3	* U8 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等)
5	テキスト問題演習 4	* U9 HAIRCUTS FOR CHARITY("Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 1
6	テキスト問題演習 5	* U9 ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等） * プレゼン 2
7	テキスト問題演習 6	* U10 PEER GROUP（"Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 3
8	テキスト問題演習 7	* U10 ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等）、プレゼン 4
9	テキスト問題演習 8	* U11 TASTE OF TEMPLE LIFE（"Watch the News"等） * 新聞記事、プレゼン 5
10	テキスト問題演習 9	* U11 ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等） *プレゼン 6
11	テキスト問題演習 10	* U12 NEW TAKE ON TATAMI ("Watch the News"等）* 新聞記事
12	テキスト問題演習 11	* U12 ("DQs"等） * 資格試験 (TOEIC 等）
13	テキスト問題演習 12	* U13 TRAVELING ("Watch the News"等）* 新聞記事
14	テキスト問題演習 13	* 定期試験 (既習範囲、配布資料、応用問題）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆テキストの予習・復習（= Online 映像 plus+Media の視聴，script の理解）。

【テキスト（教科書）】
◆ NHK NEWS LINE 2 (金星堂)，2019，￥2,300+税.（秋学期のみの人は履修が可能とわかってから購入のこと）

【参考書】
◆ VOA, ELLLO のウェブサイト，NHK 英語講座。

【成績評価の方法と基準】
◆定期試験 = 70%, 授業積極参加（=解答発表・意見発表など）= 30%。受験資格条件は初回時に話すので確実に出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
◆ 全員が参加できる授業を目指す。

【Outline and objectives】
Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their listening comprehension English abilities through watching news reports. We will also have discussions in English on current topics related to Japanese society, culture and events. Depending on class size, students may be asked to give presentations on selected topics.

LANd200CA

ドイツ語セミナー A

新田　誠吾

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語既修者を対象に，ドイツ語で日常生活の基本的な意思疎通ができることを目ざします。あわせてドイツ語圏の文化、社会について考察し，理解を深めます。

【到達目標】
1. 日常生活でよく用いられるドイツ語の表現を理解できる。
2. 日常の身近な事柄に関して，ドイツ語を使って情報交換ができる。
3. 自分自身のことや生活に必要な事柄について，簡単な言葉で説明できる。
4. ドイツ語圏の文化，社会の特定の話題について人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではできるだけ「ドイツ語を話す」ことに集中します。グループワークが中心で，映像も取り入れて，100 分間楽しく学べるようにします。授業の最後には，毎回リアクションペーパーの提出があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Wir suchen das Hotel Maritim (1)	授業の進め方と勉強方法について 道案内
2	Wir suchen das Hotel Maritim (2)	建物の位置関係（前置詞を使った表現）
3	Wie findest du Ottos Haus ? (1)	感想を述べる（形容詞を使った表現）
4	Wie findest du Ottos Haus ? (2)	住宅に関連する表現（広さ・家賃など） ドイツ人の住宅に関するこだわりとは
5	In Giesing wohnt das Leben ! (1)	自分の好みを表現する。（gern, gefallen を使った表現）
6	In Giesing wohnt das Leben ! (2)	テキスト読解
7	Landeskunde	ドイツの文化事情を映像で知る
8	Wir haben hier ein Problem (1)	故障に対処する。
9	Wir haben hier ein Problem (2)	修理を依頼する。
10	Wer will Popstar werden ?	自分の意思を伝える。（助動詞を使った表現）
11	Geben Sie ihm doch diesen Tee ! (1)	提案する。（命令法）
12	Geben Sie ihm doch diesen Tee ! (2)	身体の調子を言う。（風邪や病気の表現）
13	Landeskunde	健康の維持 ドイツ人の健康へのこだわりとは
14	授業内試験	口頭試験と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学習得には予習・復習が重要なため，毎回課題があります。勉強の手順がわかるように，授業で説明します。

【テキスト（教科書）】
Menschen Deutsch als Fremdsprache Kursbuch (A1.2), Hueber

【参考書】
参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20 %)，口頭試験 (30 %)，筆記試験 (50 %）で，60 %以上を合格とします。正当な理由がなく 5 回以上欠席した場合は，原則単位を認定しません。なお，遅刻は 30 分を 1 単位として，3 単位で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
文法の説明は、基本からていねいに行います。進度をゆっくりにして無理なく学べるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン、タブレット等で、教科書の音声を聞く必要があります。

【その他の重要事項】
原則，ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline and objectives】
In class, participants will study in groups. "Listening" and "speaking" play a central role. While watching images of the German-speaking world, we will discuss about society, culture and customs.

LANd200CA

ドイツ語セミナーB

新田　誠吾

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語既修者を対象に，ドイツ語で日常生活の基本的な意思疎通ができることを目ざします。あわせてドイツ語圏の文化、社会について考察し，理解を深めます。

【到達目標】
1. 日常生活でよく用いられるドイツ語の表現を理解できる。
2. 日常の身近な事柄に関して，ドイツ語を使って情報交換ができる。
3. 自分自身のことや生活に必要な事柄について，簡単な言葉で説明できる。
4. ドイツ語圏の文化，社会の特定の話題について人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではできるだけ「ドイツ語を話す」ことに集中します。グループワークが中心で，映像も取り入れて，100 分間楽しく学べるようにします。授業の最後には，毎回リアクションペーパーの提出があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Der hatte doch keinen Bauch (1)	授業の進め方と勉強方法について 過去の出来事を表現する。
2	Der hatte doch keinen Bauch (2)	現在完了形
3	Komm sofort runter ! (1)	「〜しなさい」という命令表現を学ぶ。
4	Komm sofort runter ! (2)	命令表現
5	Bei Rot musst du stehen, bei Grün darfst du gehen. (1)	「〜しなければならない」（義務の表現）
6	Bei Rot musst du stehen, bei Grün darfst du gehen. (2)	「〜してはいけない」（禁止の表現）
7	Landeskunde	ドイツの社会のルールを映像で知る
8	Am besten sind seine Schuhe !	衣類に関する表現
9	Ins Wasser gefallen (1)	気候の表現
10	Ins Wasser gefallen (2)	休暇の過ごし方 ドイツのワークライフバランス
11	Ich würde am liebsten jeden Tag feiern. (1)	ドイツのお祭り・行事
12	Ich würde am liebsten jeden Tag feiern. (2)	クリスマス・新年・カーニバル
13	Landeskunde	ドイツのお祭りを映像で見る
14	授業内試験	口頭試験と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学習得には予習・復習が重要なため，毎回課題があります。勉強の手順がわかるように，授業で説明します。

【テキスト（教科書）】
Menschen Deutsch als Fremdsprache Kursbuch (A1.2), Hueber

【参考書】
参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20 %)，口頭試験 (30 %)，筆記試験 (50 %）で，60 %以上を合格とします。正当な理由がなく 5 回以上欠席した場合は，原則単位を認定しません。なお，遅刻は 30 分を 1 単位として，3 単位で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
文法の説明は、基本からていねいに行います。進度をゆっくりにして無理なく学べるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン、タブレット等で、教科書の音声を聞く必要があります。

【その他の重要事項】
原則，ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline and objectives】
In class, participants will study in groups. "Listening" and "speaking" play a central role. While watching images of the German-speaking world, we will discuss about society, culture and customs.

LANf200CA

フランス語セミナーA

橋本　到

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・日常的な場面に設定されたフランス語のやりとりを聞き、概要をつかんだあと、背景にある日常習慣・文化的背景への理解を深め、文法を定着させる。以上を通して、日常表現を実感的により深く理解する。

【到達目標】
・フランス語の簡単な日常会話を、それが話されている状況、聴解などから、話されている事柄を断片的にでもつかめ、反応を考え、言えるようになる。
・1 年次に学んだフランス語文法を復習し、その理解を完成させる。
・フランス文化（社会・日常習慣）に関する知識を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、発音する、練習問題を解き、いくらかの応用を考える。一冊以上のフランスに関係する書籍について、レポートをまとめ学期末までに提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	パン屋と買い物表現	店舗（パン屋）での商品の求め方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 2 回	第 1 回の復習、マルシェと数量表現。	前回の復習／マルシェで量を言う。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 3 回	第 2 回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習。
第 4 回	カフェ（店）と、注文の表現	カフェでの注文の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 5 回	第 4 回の復習、駅とチケット予約の表現	前回の復習／駅での予約の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 6 回	第 5 回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習
第 7 回	衣料品（店）と、商品選択の表現	衣料品店での買い物の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 8 回	第 7 回の復習、靴屋、商品非購入の表現	前回の復習／靴屋での買い物の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 9 回	第 8 回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習
第 10 回	診療所と診察申し込みの表現	医者の予約について、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 11 回	第 10 回の復習、歯医者と予約変更	前回の復習／歯医者の予約（の変更）について、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 12 回	第 11 回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習
第 13 回	地下鉄、問い合わせの仕方	地下鉄での問い合わせ、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 14 回	第 13 回の復習、学期末まとめ試験 A	前回の継続ならびに復習／ふりかえりのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】
・新しい dialogue については、理解を早くするために、ざっと読んで、なるべく語句を調べておく
・場所、状況など学習内容に関連することを 10 分程度ネットで調べておく（日本語でもよい）。
【復習】
・課題、練習問題 activités の見直し・Dialogue の読み方の練習。

【テキスト（教科書）】
Communication progressive du Français, 2e édition, Niveau débutant, ISBN-13: 978-2090384451

【参考書】
初級で使用したフランス語の教科書。
森本英夫ほか『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社
東京外語大　フランス語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr

【成績評価の方法と基準】
期末テスト　67 %、平常点（含むレポート）33 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline and objectives】
TThis course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANf200CA

フランス語セミナーB

橋本　到

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・日常的な場面に設定されたフランス語のやりとりを聞き、概要をつかんだあと、背景にある日常習慣・文化的背景への理解を深め、文法を定着させる。以上を通して、日常表現を実感的により深く理解する。

【到達目標】
・フランス語の簡単な日常会話を、それが話されている状況、聴解などから、話されている事柄を断片的にでもつかめ、反応を考え、言えるようになる。
・1 年次に学んだフランス語文法を復習し、その理解を完成させる。
・フランス文化（社会・日常習慣）に関する知識を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、発音する、練習問題を解き、いくらかの応用を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	道路、道筋のやりとり	田舎で迷って道を尋ねる。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 2 回	第 1 回の復習、落とし物、探し物	落とし物をした場合の会話、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 3 回	第 2 回の復習、話に条件を交える（〜だったら、なら）	前回の復習／条件を言う。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 4 回	第 3 回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第 5 回	挨拶、紹介するとき	挨拶・紹介する、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 6 回	第 5 回の復習、赦す、弁解するとき	前回の復習／赦す・詫びる。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 7 回	第 6 回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第 8 回	招待したり、受けたり、断るとき	招待をする／受ける／断る、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 9 回	第 8 回の復習、体調について述べ、薬を買い求める	前回の復習／（薬局で）健康状態について。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 10 回	第 9 回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第 11 回	意見を尋ねたり、述べる	意見を尋ねる、意見を述べる、文法的な知識・語彙の習得
第 12 回	第 11 回の復習、慰めたり、励ます	前回の復習／慰める、励ます。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 13 回	第 12 回の練習の復習	前回の継続ならびに復習
第 14 回	第 13 回の練習と復習、学期末まとめ試験 B	前回の継続ならびに復習／ふりかえりのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】
・新しい dialogue については、理解を早くするために、ざっと読んで、なるべく語句を調べておく
・場所、状況など習う関連することを 10 分程度ネットで調べておく（日本語でもよい）。
【復習】
・課題、練習問題 activités の見直し・Dialogue の読み方の練習。

【テキスト（教科書）】
Communication progressive du Français, 2e édition, Niveau débutant, ISBN-13: 978-2090384451

【参考書】
初級で使用したフランス語の教科書。
森本英夫ほか『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社
東京外語大　フランス語モジュール　http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr

【成績評価の方法と基準】
期末テスト　67 %　平常点　33 %、

【学生の意見等からの気づき】
テキストの音声はノーマルスピードで早いが臨場感がある。テキストはすべてフランス語だが､設問の指示などは見て感覚的にわかるようになったという感想を聞かされている。

【その他の重要事項】
本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline and objectives】
This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANr200CB

ロシア語セミナーA

佐藤　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ロシア語を履修した学生のためのクラスです。ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引き様々なテキストを読解・和訳できる。ロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話力を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】
基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを辞書を引き訳せるようになる。ロシア語のリスニング（検定３級試験過去門など）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年 5 月と 10 月に実施されるロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期はロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させる。対策過去問などを解く。また，生きたロシア語を身近なものとするために，CD や DVD でロシア語をリスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎文法の復習	既習の教科書での基礎文法の復習
第 2 回	ロシア語能力検定試験対策（４級）１	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞
第 3 回	ロシア語能力検定試験対策（４級）２	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読（検定過去問）
第 4 回	ロシア語能力検定試験対策（４級、３級）１	動詞の変化（現在人称変化、過去形、未来形）
第 5 回	ロシア語能力検定試験対策（４級、３級）２	時制の副詞、疑問詞と返答、日常会話の中の命令形
第 6 回	自己紹介文の作成と実践会話	自己紹介（テキスト読解、作文、実践会話、暗唱）
第 7 回	ロシア語能力検定試験対策（４級、３級）３	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第 8 回	ロシア語能力検定試験対策（４級、３級）４	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第 9 回	テキスト読解	テキスト読解（ロシアの市民生活やロシア民話など）
第 10 回	リスニングの練習	リスニングの練習（検定過去問、アニメーションや映画などの映像資料から）
第 11 回	ロシア語能力検定試験対策（３級）１	関係代名詞
第 12 回	ロシア語能力検定試験対策（３級）２	数詞（数詞と名詞の変化）
第 13 回	テキスト読解と視聴覚教材でのリスニング練習	テキスト読解と映像資料でのリスニングの練習
第 14 回	テキスト読解 検定試験対策	テキスト読解、検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシア語能力検定試験に向けて、教科書で基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組む。授業での配布テキストの和訳を試みる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアのニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れる。

【テキスト（教科書）】
・『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2017 年
・『ロシア語能力検定試験合格への手引き－３級・４級対策問題集－』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、￥1620
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291）が望ましい）
・その他のテキストは，適時プリントを配布します。

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404

【成績評価の方法と基準】
原則として、平常点（授業への参加度、質疑応答により判断される語学理解力、予習復習などの学習への取り組み姿勢を含む）70 %、記憶を定着させるための暗唱や音読、ミニテストなどが 30 %で総合的に評価を行います。受講者数が多い場合は、学期末試験を予定します。この場合、平常点 50 %、ミニテスト等 20 %、学期末試験が 30 %の評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。

【その他の重要事項】
ロシア語既習者が対象です。
ロシア語能力検定試験を 10 月か翌年 5 月に受験してください。
春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。
授業計画は授業の展開によって変更があり得ます。

【Outline and objectives】
This course is for students who finished basic Russian course
The aims of this course are: 1) to acquire basic Russian grammar rules; 2) to develop your ability to read and interpret various texts using a dictionary;3) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level 3 and 4; 4) to acquire listening and reading skills along with conversation skills for everyday use. For enhancing our knowledge of the Russian language, we plan to use audiovisual materials such as movies on Russia.

LANr200CB

ロシア語セミナーB

佐藤　裕子

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
10 月のロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指す。試験後は中級文法を学習し、さらに幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。実践的な会話力を身につける。

【到達目標】
・10 月のロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指す。
・さらに中級文法（副動詞と形動詞）を学習し、ニュースや歴史、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。映像資料（映画やニュース等）によるリスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期の初めは 10 月開催のロシア語能力検定試験４級３級の合格を目指し、基礎文法の総復習、対策過去問題を解く。試験終了後はより高度な文章の読解と和訳のために中級文法を学ぶ。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化や歴史関連テキスト，雑誌や新聞の記事、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。映画やニュースのリスニング、実践的な会話の練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文法の復習 検定試験対策 1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第 2 回	文法の復習 検定試験対策 2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第 3 回	文法の復習 検定試験対策 3	露文和訳、和文露訳 (検定試験過去問、想定問題等)
第 4 回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第 5 回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解、
第 6 回	中級文法（被動形動詞 1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞 1），会話練習
第 7 回	中級文法（被動形動詞 2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞 2），会話練習
第 8 回	ニュースのリスニングと和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
第 9 回	テキスト読解と和文露訳 1	テキスト読解（ロシアでの生活と文化，旅行）とそのロシア語作文
第 10 回	テキスト読解と和文露訳 2	テキスト読解と作文（日本の四季と習慣，手紙（ビジネスレターを含む））
第 11 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 1	テキスト読解（ロシア文学作品；チェーホフ）、映像資料のリスニング
第 12 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 2	（ロシア文学作品；プーシキン）、映像資料（映画）のリスニング
第 13 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 3	（ロシア文学作品；ドストエフスキー）、映像資料（映画）のリスニング
第 14 回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 4	テキスト読解（ロシア文学作品トルストイ）、映像資料（映画）のリスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験に向けて、過去問題と対策問題に取り組む。・授業での配布テキストの和訳を試みる。ロシアに関して興味あるテーマを調べ掘り下げる。

【テキスト（教科書）】
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー３級・４級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、￥1620
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291 が望ましい）
・その他のテキストは，適時プリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013 年
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404

【成績評価の方法と基準】
原則として、平常点（授業への参加度、質疑応答により判断される語学理解力、予習復習などの学習への取り組み姿勢を含む）70 %、記憶を定着させるための暗唱や音読、ミニテストなどが 30 %で総合的に評価を行います。受講者数が多い場合は、学期末試験を予定します。この場合、平常点 50 %、ミニテスト等 20 %、学期末試験が 30 %の評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
ロシア文化や生活に触れる機会をつくりたいと思います。

【その他の重要事項】
ロシア語既習者が対象です。
ロシア語能力検定試験を 10 月か翌年 5 月に受験してください。
春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。
授業計画は授業の展開によって変更があり得ます。

【Outline and objectives】
First, we aim to pass the Russian Language Proficiency Test (of Japan) at Levels 3 and 4. After the examination, we plan to study intermediate grammar, read comprehensive genres of text, and gain in-depth understanding of Russian history and culture. We will expand our Russian language ability in all four skills of "reading, listening, speaking, and writing" and acquire practical conversational skills.

LANC200CA

中国語セミナーA

石　碩

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，これまでに学んだ基礎的な知識を活かし，中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し，生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ，中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】
中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら，中級レベルの理解力，読解力，口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第 2 回	第 1 課	読解
第 3 回	第 2 課	読解
第 4 回	１、２課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 3 課	読解
第 6 回	第 4 課	読解
第 7 回	３、４課のまとめ、発表	発表
第 8 回	第 5 課	読解
第 9 回	第６課	読解
第 10 回	５、６課のまとめ、発表	発表
第 11 回	第７課	読解
第 12 回	第８課	読解
第 13 回	７、８課のまとめ、発表	発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を精読し，記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また，関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。

【テキスト（教科書）】
『時事中国語の教科書　2019 年度版』朝日出版社、2019 年。

【参考書】
授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
初年度のため特になし

【その他の重要事項】
２年間中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、事前に面接が必要となります。

【Outline and objectives】
Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANC200CA

中国語セミナーB

石　碩

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，これまでに学んだ基礎的な知識を活かし，中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し，生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ，中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】
中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら，中級レベルの理解力，読解力，口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期のまとめ
第 2 回	第 9 課	読解
第 3 回	第 10 課	読解
第 4 回	９、10 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 11 課	読解
第 6 回	第 12 課	読解
第 7 回	１１、１２課のまとめ、発表	読解
第 8 回	第１３課	読解
第 9 回	第１４課	読解
第 10 回	第１５課	読解
第 11 回	１３、１４、１５課のまとめ、発表	発表
第 12 回	補助教材	読解、発表
第 13 回	補助教材	読解、発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を精読し，記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また，関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。

【テキスト（教科書）】
『時事中国語の教科書　2019 年度版』朝日出版社、2019 年。

【参考書】
授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
初年度のため特になし

【その他の重要事項】
２年間中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、事前に面接が必要となります。

【Outline and objectives】
Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANs200CA

スペイン語セミナーA

芝田　幸一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界遺産、食文化、天然資源、好景気などで世界に注目されている南米ペルーについて、各自がテーマを選び、調べ、（可能な限りスペイン語で）発表し、質疑応答する。その歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。一国の粗い全体像を得ることは、他国との比較を容易にし、ひいては広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりとなるだろう。

【到達目標】
1）ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2）スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる（細かいミスを突き詰めていくことより、スペイン語に慣れて使えるようになることが重視される）。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
発表担当グループは、テキスト等を参考にしてテーマを決める。同テーマの短いスペイン語文をテキスト等から選出して和訳する。同テーマについて各種資料をまとめ、パワーポイント等を使って発表する。教員・学生からの質問・コメント等を踏まえ、次のグループは向上を心がけて発表スタイルや内容を工夫する。教員による概説的講義も適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営について説明。発表グループ分け。アンケート。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第 4 回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第 5 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 6 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 7 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 8 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 9 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 10 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 11 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 12 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 13 回	発表⑨、復習②	グループ発表と質疑応答⑨
第 14 回	期末試験	期末試験（口頭試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習 1：該当スペイン語文の和訳（グループで 10 行～ 1 ページ程度）
準備学習 2：発表準備（リサーチ、パワーポイント資料作成等）

【テキスト（教科書）】
発表テーマ選定や和訳に使う資料は配布する。

【参考書】
『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）
『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）
『ペルー (ARC ﾚﾎﾟｰﾄ) 経済, 貿易, 産業報告書』ARC 国別情勢研究会 (2013)
"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)
ペルー国家統計情報局（https://www.inei.gob.pe/）
その他の参考資料は授業内で示する。

【成績評価の方法と基準】
和訳と発表 50%、平常点 40 %、期末口頭試験 10%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
自己紹介を兼ねたスペイン語復習を取り入れた。教員による概説的講義を増やした。2019 年度はミニ・フィールドワークを実験的に 1 回実施する予定（多摩キャンパス内を歩きながらスペイン語会話を実習する）

【学生が準備すべき機器他】
USB メモリー

【その他の重要事項】
少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応したい。紙媒体・電子等を問わないので毎回スペイン語辞書を持参すること。

【Outline and objectives】
This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

LANs200CA

スペイン語セミナーB

芝田　幸一郎

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界遺産、食文化、天然資源、好景気などで世界に注目されている南米ペルーについて、各自がテーマを選び、調べ、（可能な限りスペイン語で）発表し、質疑応答する。その歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。一国の粗い全体像を得ることは、他国との比較を容易にし、ひいては広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりとなるだろう。

【到達目標】
1）ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2）スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
発表担当グループは、テキスト等を参考にしてテーマを決める。同テーマの短いスペイン語文をテキスト等（春学期より難易度の高いものを含む）から選出して和訳する。同テーマについて各種資料をまとめ、パワーポイント等を使って発表する。教員・学生からの質問・コメント等を踏まえ、次のグループは向上を心がけて発表スタイルや内容を工夫する。教員による概説的講義を適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営について説明。発表グループ分け。アンケート。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語復習。発表グループ分け。
第 3 回	基礎的知識	ラテンアメリカとペルーの概説的講義
第 4 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 5 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 6 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 7 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 8 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 9 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 10 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 11 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 12 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 13 回	復習②	口頭試験の準備
第 14 回	期末試験	期末試験（口頭試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習 1：該当スペイン語文の和訳（グループで 10 行～数ページ程度）
準備学習 2：発表準備（リサーチ、パワーポイント資料作成、学生によってはスペイン語作文等）

【テキスト（教科書）】
発表テーマ選定や和訳に使う資料は配布する。

【参考書】
『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）
『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）
『ペルー（ARC レポート）-経済・貿易・産業報告書』ARC 国別情勢研究会（2013）
"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru（2000）.
ペルー国家統計情報局（https://www.inei.gob.pe/）
エル・コメルシオ紙（http://elcomercio.pe/）
その他の参考資料は授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
和訳と発表 50%、平常点 40 %、期末口頭試験 10%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
自己紹介を兼ねたスペイン語復習を取り入れた。教員による概説的講義を増やした。2019 年度はミニ・フィールドワークを実験的に 1 回実施する予定（多摩キャンパス内を歩きながらスペイン語会話を実習する）

【その他の重要事項】
少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応したい。紙媒体・電子等を問わないので毎回スペイン語辞書を持参すること。

【Outline and objectives】
This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

ECN200CA

労働経済論 A

深井　太洋

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済理論を応用することで，労働市場における諸現象を解釈すると同時に，労働市場に関する統計資料を読み解く．「人手不足」,「外国人労働力」,「教育費の無償化」といったトピックについても紹介する．

【到達目標】
まず，基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する．更に，統計分析の考え方を学んだうえで，働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
プロジェクター資料と板書を組み合わせて講義を進める．理解を助けるため小問題の演習等を行う．プロジェクター資料については，要約版のみを配布する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方，労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル 等
7	市場均衡	競争均衡，買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル，シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観，グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特段の予習は必要ないが，復習は行うこと．特に，授業内で行う小問題は必ず復習すること．
講義は下記の参考書に沿って行う予定なので，参照することを推奨する．
（受講者はミクロ経済学や統計学の最低限の知識を有することが望ましいが，講義内で用いる数学は最小限に留める予定である．）

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．

【参考書】
川口大司『労働経済学　理論と実証をつなぐ』（有斐閣，2017 年）
大森義明『労働経済学』（日本評論社, 2008 年）
Borjas, G『Labor Economics』（McGraw Hill Higher Education, 2012 年）
Angrist, Pischke『Mastering 'Metrics: The Path from Cause to Effect』（Princeton University Press, 2014 年）
川口大司編　『日本の労働市場　経済学者の視点』(有斐閣, 2017 年）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（90%）＋授業内演習（10%）.

【学生の意見等からの気づき】
・コメント・ペーパー等によって，受講者の考えを把握するように心掛ける．
・試験問題は，選択式問題・計算問題・記述式問題から幅広く出題する．

【Outline and objectives】
In this course, we study labor economics with an emphasis on applied microeconomic theory and empirical analysis. We also study the statistics related to the labor economics, such as Labor force survey and so on. Topics to be covered include: labor supply and demand, taxes and transfers, minimum wages, immigration, human capital, education, and discrimination.

ECN200CA

労働経済論 B

深井　太洋

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働経済論 A で学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する．特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する．（取り上げるトピックの例.「介護離職」,「長時間労働」,「待機児童」等）

【到達目標】
働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
主にプロジェクター資料を用いた講義形式によって進める．講義内容の理解を確認するため，演習問題を行うことがある．プロジェクター資料については，要約版のみを配布する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方，労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論, 男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析，労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因, 仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因，介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担の帰着問題，その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で利用した資料をよく復習すること．授業内で提示する参考文献も理解の助けとなる．また，新聞等を読み，政策に関する議論を追うように心掛けてほしい．

【テキスト（教科書）】
特に使用しない．

【参考書】
川口大司『労働経済学　理論と実証をつなぐ』（有斐閣，2017 年）
大森義明『労働経済学』（日本評論社, 2008 年）
Borjas, G『Labor Economics』（McGraw Hill Higher Education, 2012 年）
Angrist, Pischke『Mastering 'Metrics: The Path from Cause to Effect』（Princeton University Press, 2014 年）
大湾秀雄『日本の人事を科学する 因果推論に基づくデータ活用』（日本経済新聞出版社, 2017 年）
川口大司編　『日本の労働市場　経済学者の視点』(有斐閣, 2017 年）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（90%）＋授業内演習（10%）で評価.

【学生の意見等からの気づき】
・コメント・ペーパーによって，授業で扱うトピックに関する受講者の考えを聞きたい．
・試験問題は，選択式問題・計算問題・記述式問題から幅広く出題する．

【Outline and objectives】
Using coceptual framework studied in the Labor economics A, we study the link between these framework and public policy in the real world. Topics to be covered include: unemployment insurance, personnel economics, parental leave, child care, elderly care and so on.

ECN300CA

経済政策論 A

濱秋　純哉

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府は，ダムや道路の建設，教育サービスの提供，及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で，このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して，ミクロ経済学の余剰分析の手法に基づき考察を加える。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，ミクロ経済学の考え方に基づき，外部性の問題，望ましい公共財の供給，及び税制の設計について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け，受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き	完全競争市場における需要曲線と供給曲線
3	市場の働き	消費者余剰と生産者余剰の概念，社会的余剰と市場の効率性
4	市場の働き	弾力性の概念，価格弾力性
5	企業行動と生産者余剰	様々な費用の概念
6	企業行動と生産者余剰	企業の利潤最大化行動と供給曲線
7	企業行動と生産者余剰	総収入と可変費用の差としての生産者余剰
8	外部性	外部性の概念
9	外部性	外部性の存在と市場の効率性
10	外部性	規制，ピグー税，及び排出権市場による外部性の問題の解決
11	公共財	排除可能性と消費の競合性，公共財の供給とフリーライダー問題
12	公共財	非競合財の価格設定，公共財の投資基準，共有地の悲劇の解決策
13	税制の設計	課税の死荷重
14	税制の設計	効率性と公平性から望ましい税制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
八田達夫，2008，『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー，2013，『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 3 版]』東洋経済新報社

【参考書】
小川光・西森晃，2015，『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）と 3 回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業内容に即した復習問題を行う。また，経済学の抽象的な概念の説明の際には，必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】
Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

ECN300CA

経済政策論 B

濱秋　純哉

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府や中央銀行は，財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが，どのような目的で，さらには，どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して，マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また，GDP，物価指数（消費者物価指数と GDP デフレーター），失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題，及び近年の雇用問題についても検討を行う。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること，及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け，受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題	摩擦的失業への政策的対処，最低賃金引き上げの影響
6	雇用問題	日本の失業の特徴
7	雇用問題	若年者の雇用問題，「世代効果」への政策的対処
8	IS-LM モデルの構築	古典派とケインジアン
9	IS-LM モデルの構築	ケインジアンの交差図，乗数効果，IS 曲線の導出
10	IS-LM モデルの構築	貨幣量の測定とコントロール，LM 曲線の導出
11	IS-LM モデルの応用	財政政策の効果とクラウディング・アウト
12	IS-LM モデルの応用	金融政策の効果
13	IS-LM モデルの応用	「流動性の罠」の下での財政政策と金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用	非伝統的金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を履修するにあたり，経済政策論 A を履修済みのことが望ましい。また，授業の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
N・グレゴリー・マンキュー，2017，『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】
福田慎一・照山博司，2016，『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣
小林照義，2015，『金融政策』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）と 3 回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業内容に即した復習問題を行う。

【Outline and objectives】
Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

ECN200CA

公共経済論 A

篠原　隆介

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、完全競争理論を通して、市場経済がもたらす利点を学習する。まず、市場分析の基礎となる、消費者行動と企業行動の理論を学習する。消費者・企業行動の分析の基礎となる消費者の効用最大化問題と企業の利潤最大化問題を学習し、消費者と企業の行動の仕組みを理解する。次に、市場取引の帰結が市場均衡となり、市場均衡では経済厚生の観点から望ましい取引を実現していることを学習する。最後に、より一般的な市場分析の枠組みである交換経済を学習し、厚生経済学の基本定理を理解した上で、市場メカニズムの利点について総括する。

【到達目標】
本講義の目標は、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理できるようになること、そして、現代社会における、市場と政府の望まれるべき関係を客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、特に市場経済の利点を中心に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
完全競争の理論に基づく、政府と市場の役割分担を、標準的なミクロ経済学を用いて、学習する。本講義では、理論分析を主に行うが、本講義の内容が現実世界とどのように関連するのかについて、意識しながら講義を受講して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	市場経済の利点と欠点	市場が持つ利点と欠点の概観、市場経済における政府の役割。
2	消費者行動 (1)	選好と効用関数、予算制約、限界代替率、効用最大化問題について。
3	消費者行動 (2)	所得効果、代替効果、スルツキー分解について。
4	消費者行動 (3)	消費者行動の理論を応用し、最適な税制について考察する。
5	企業行動 (1)	生産費用の概念 (総費用、可変費用、限界費用、平均費用) について。
6	企業行動 (2)	利潤最大化行動における限界収入と限界費用の役割について。
7	企業行動 (3)	完全競争企業の利潤最大化と供給曲線について。
8	市場取引 (1)	消費者余剰、生産者余剰、総余剰。配分効率性について。
9	市場取引 (2)	市場均衡、市場均衡取引と配分効率性について。
10	市場取引 (3)	企業への参入促進政策が市場取引に与える影響について。
11	交換経済 (1)	複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について。
12	交換経済 (2)	複数財取引市場における経済厚生基準、効率性と衡平性について。
13	交換経済 (3)	厚生経済学の基本定理、本定理を通した市場と政府の望ましい関係性。
14	講義総括と問題演習	春学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前後で、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すること。この反復学習が、公共経済論を理解するためには、重要である。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。公共経済論を概観したい場合、参考書欄②もしくは③を見ると良い。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。担当教員作成の資料を授業支援システムにて配布する。

【参考書】
① 板谷淳一、佐野博之『コアテキスト公共経済学』新世社、2013 年
② 佐藤主光『公共経済学 15 講』新世社、2017 年
③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015 年
④ 土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社、2002 年

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（100%）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
練習問題や数値例を多用して、できるだけ分かりやすく講義することを心がける。

【その他の重要事項】
①ミクロ経済学を「現代経済学入門 (基礎)」や「ミクロ経済学」などで学習済みであると、本講義の理解は容易になる。
②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。
③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

【Outline and objectives】
This course deals with a public microeconomics based on the perfect competition theory. First, we review the utility maximization by consumers and the profit-maximization by firms. Then, we study the market interaction between consumers and firms through a partial equilibrium model (the demand and supply theory) and a general equilibrium model (in particular, the pure-exchange economy). Through the equilibrium theories of the markets, we learn the merit of the competition in the markets.

ECN200CA

公共経済論 B

篠原　隆介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、市場の欠点 (失敗) を理解し、それを解消することを目的とした経済制度・政策の設計について学習する。まず、外部性の存在が引き起こす市場の失敗を学習し、外部性の内部化を通じた経済政策の実施が、問題解決の鍵となることを理解する。次に、公共財の存在による市場の失敗を学習し、その応用として、国際環境問題における、国際社会の協調の難しさについて理解する。最後に、メカニズムデザイン理論を学習し、経済主体のインセンティブを考慮に入れた経済制度設計の重要性を理解する。本理論を応用した、分割不可能財の配分問題や公共財供給のただ乗り問題の解決方法を学習する。

【到達目標】
公共経済論 A に引き続き、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理し、現代の社会における、望まれるべき市場と政府の関係を、客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、市場経済の欠陥と政府の役割を考察することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
担当教員作成の講義資料を、板書とスライドを使いながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	市場の失敗と経済政策設計	市場の失敗の概観、問題解決のために望まれる政策とは。
2	外部性 (1)	外部性とは、外部性が存在する経済での市場の失敗について。
3	外部性 (2)	政府の政策と経済政策を通じた外部性の内部化について。
4	外部性 (3)	コースの定理、外部性解消のために交渉が果たす役割について。
5	外部性 (応用)	環境問題における環境税と排出権取引の役割について。
6	公共財 (1)	公共財、準公共財、私的財の理解、公共財供給のモデル構築について。
7	公共財 (2)	公共財供給のパレート効率条件の導出、サミュエルソン条件について。
8	公共財 (3)	公共財供給ゲームの定式化と分析、市場の失敗とただ乗り問題について。
9	公共財 (応用)	国際環境問題への国際社会の取り組みと公共財供給理論について。
10	経済制度設計 (1)	市場の失敗の解消のためのメカニズムの設計について。
11	経済制度設計 (2)	分割不可能財の配分問題とソロモン王のジレンマについて。
12	経済制度設計 (3)	公共財供給とメカニズム設計について、クラーク・メカニズム。
13	経済制度設計 (4)	グローブズ・メカニズムとパレート効率な公共財供給について。
14	講義総括と問題演習	秋学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の前後で、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すること。この反復学習が、公共経済論を理解するためには、重要である。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。公共経済論を概観したい場合、公共経済論 A シラバス参考書欄に挙げた②もしくは③を見ると良い。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。担当教員作成の資料を授業支援システムにて配布する。

【参考書】
公共経済論 A シラバスで挙げた参考書①〜③に加えて、次の文献は、本講義と関連する。
④アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラーノ (2009)『厚生経済学と社会選択論; 第 2 版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳) シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（100%）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
単なる理論学習だけではなく、応用の仕方についても話をしながら、講義を進めます。

【その他の重要事項】
①ミクロ経済学を「現代経済学入門 (基礎)」や「ミクロ経済学」などで学習済みであると、本講義の理解は容易になる。
②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。
③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

【Outline and objectives】
This course deals with a public microeconomics for the market failures. First, we study why market fails in the presence of externalities and public goods. Then, we study how to solve the market failure through government interventions. In particular, in this class, we learn that the governmental policies with the internalization of externalities such as the Pigouvian tax (or subsidies) are effective solutions to the externality problem. Also, we learn that the internalization is possible through bargaining between polluters and pollutees. For the public good provision, a mechanism design approach solves the free-rider problem.

ECN200CA

DemographyA

菅　幹雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】
1.Understand basic concepts and measures
2.Understand age-specific rates and probabilities
3.Understand and be able to compile life table

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of “Population”
2	Basic Concepts and Measures(2)	The Balancing Equation of Population Change
3	Basic Concepts and Measures(3)	The Structure of Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography
4	Basic Concepts and Measures(4)	Instantaneous Growth Rate, Mean Annualized Growth Rate
5	Basic Concepts and Measures(5)	Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
6	Age-Specific Rates and Probabilities(1)	Period Age-specific Rates
7	Age-Specific Rates and Probabilities(2)	Age-standardization
8	Age-Specific Rates and Probabilities(3)	The Lexis Diagram
9	Age-Specific Rates and Probabilities(4)	Age-specific Probabilities
10	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table
11	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	Period Life Tables
12	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	Interpreting the Life Table
13	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	The Life Table Conceived as a Stationary Population
14	Summary	Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Visit homepages of Bureau of Statistics and look at demographic statistics.

【テキスト（教科書）】
Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley,4432 JPY

【参考書】
Nicolas Bacaër,A Short History of Mathematical Population Dynamics,Springer, 5050 JPY

【成績評価の方法と基準】
Worksheets 50%, Term paper about life table 50%

【学生の意見等からの気づき】
This lecture course started last academic year so that no feedbacks from students yet.

【学生が準備すべき機器他】
calculator

【Outline and objectives】
An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA

DemographyB

菅　幹雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】
1.Understand fertility rate
2.Understand and be able to conduct population projection
3.Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of a Basic Period Life Table	Review of a Basic Period Life Table
2	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Periods
3	Multiple Decrement Processes(2)	Associated Single Decrement Life Tables from Period Data
4	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
5	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility,Reproduction Measures
6	Population Projection(1)	Population projection without immigration
7	Population Projection(2)	Projection and Forecasts, Population Projection Methodology, The Cohort Component Methods
8	Population Projection(3)	Cohort Component Methods
9	The Stable Population Model(1)	A Simplified Example of a Stable Population
10	The Stable Population Model(2)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population
11	The Stable Population Model(3)	Intrinsic Growth Rate
12	The Stable Population Model(4)	Momentum of Population Growth
13	Model Age Patterns of Mortality	Model Age Patterns of Mortality, Gompertz
14	Summary	Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Visit homepages of Bureau of Statistics and look at demographic statistics.

【テキスト（教科書）】
Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley,4432 JPY

【参考書】
Nicolas Bacaër,A Short History of Mathematical Population Dynamics,Springer, 5050 JPY

【成績評価の方法と基準】
Worksheets 50%, Term paper about population projection 50%

【学生の意見等からの気づき】
This lecture course started last academic year so that no feedbacks from students yet.

【学生が準備すべき機器他】
calculator

【Outline and objectives】
An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA

開発経済論 A

池上　宗信

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
貧困削減政策の効果を測定する手法、家計の人的資本投資などを、統計資料などを見ながら学びます。そして、貧困家計のリスク緩和・対処、保険などを学びます。

【到達目標】
我が国では少子化が問題になっていますが、南アフリカを除く、サブサハラアフリカの国々では人口増加、失業が問題になっています。このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	栄養・健康 1	貧困と身体的健康の関係。
第 2 回	栄養・健康 2	ランダム化比較試験。
第 3 回	教育 1	貧困家計の就学選択。
第 4 回	教育 2	操作変数法。
第 5 回	出産 1	大家族の問題。
第 6 回	出産 2	妊娠・出産の意思決定。
第 7 回	中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第 8 回	リスク 1	ショックと労働供給
第 9 回	リスク 2	インフォーマル・リスク・シェアリング
第 10 回	リスク 3	分益小作
第 11 回	マイクロ保険	理論と実証研究の結果。
第 12 回	インデックス型農業保険	伝統的な保険との違い、普及率、効果。
第 13 回	乾燥地と遊牧型畜産	家畜の重要性、旱魃の影響、対策。
第 14 回	期末試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう 20 ページほどの文章を事前に指定します。

【参考書】
高野久紀 (2014,2015)「実践　開発経済学　1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号
アビジット・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房
ディーン・カーラン, ジェイコブ・アペル (2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】
中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
試験よりもレポートを望む学生、平常点を成績評価に含めないことを望む学生もいますが、2018 年度の経験から上記の成績評価の方法と基準にします。

【Outline and objectives】
We will study how to measure impact of poverty alleviation policies and human capital investment by poor households. Then, we will study risk reduction and risk coping strategies by poor households and insurance as a poverty alleviation policy.

ECN200CA

開発経済論 B

池上　宗信

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済論 B では、開発経済論 A で学んだ人的資本、リスクの重要性を基礎として、マイクロファイナンスや卒業プログラムなどの貧困削減政策を学びます。

【到達目標】
途上国では貧困削減政策としてマイクロファイナンスや卒業プログラムなどが実施されています。このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	信用 1	アドバース・セレクション、モラル・ハザード
第 2 回	信用 2	マイクロファイナンス
第 3 回	貯蓄	回転型貯蓄信用講、コミットメント
第 4 回	技術革新・普及とその制度	普及を妨げる要因、対策。
第 5 回	技術供与	貧困削減効果。
第 6 回	金銭供与	貧困削減政策としての金銭供与の効果。
第 7 回	中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第 8 回	資産供与	金銭供与との比較。
第 9 回	卒業プログラム	金銭もしくは資産供与と技術供与の補完性。
第 10 回	零細自営業者や小農の経済学	途上国における家計モデル。
第 11 回	起業	貧困者のビジネス。
第 12 回	貧困の罠	理論と実証研究の結果。
第 13 回	貧困と不平等	不平等の貧困に与える影響。
第 14 回	期末試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう 20 ページほどの文章を事前に指定します。

【参考書】
高野久紀 (2014,2015)「実践　開発経済学　1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号
アビジット・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房
ディーン・カーラン, ジェイコブ・アペル (2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】
中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
試験よりもレポートを望む学生、平常点を成績評価に含めないことを望む学生もいますが、2018 年度の経験から上記の成績評価の方法と基準にします。

【Outline and objectives】
Based on the importance of human capital and risk studied in Development Economics A, we will study poverty alleviation policies such as microfinance and graduation program.

ECN200CA

開発経済入門 A

池上　宗信

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の前半では、経済成長、貧困、不平等などの指標を学び、統計資料などを見ながら、我が国とを開発途上国の違いを概説します。この授業の後半では、伝統的な農業から工業化までの経済発展のプロセスを概説します。

【到達目標】
なぜ我が国では食があふれているのに、南アフリカを除く、サブサハラアフリカの国々ではたびたび飢餓が起きるのでしょうか？ このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校地歴の教育における本授業の意味。経済成長の指標	国民総生産、購買力平価
第 2 回	経済成長の理論	ソロー・モデル
第 3 回	産業構造	コーリン・クラークの法則、労働生産性
第 4 回	二重構造、労働移動	ルイス・モデル、ハリス＝トダロ・モデル
第 5 回	貧困と不平等	クズネッツの逆U字仮説。ジニ係数。ローレンツ・カーブ
第 6 回	世界の人口と食料	人口と食料の国際比較
第 7 回	中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第 8 回	経済発展と農業	農業部門の縮小、エンゲルの法則
第 9 回	農業の近代化	慣習的農業と近代農業の比較
第 10 回	企業と雇用	インフォーマル・セクター、競争力
第 11 回	産業集積	集積の利益、規模の経済
第 12 回	制度	植民地、所有権、ソーシャル・キャピタル
第 13 回	汚職	途上国における汚職の現状、要因、経済効果
第 14 回	期末試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう 20 ページほどの文章を事前に指定します。

【参考書】
戸堂康之 (2015)『開発経済学入門』新世社

【成績評価の方法と基準】
中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
試験よりもレポートを望む学生、平常点を成績評価に含めないことを望む学生もいますが、2018 年度の経験から上記の成績評価の方法と基準にします。

【Outline and objectives】
We will study measurements of economic development, poverty, and inequality and review the difference in statistics between developing countries and Japan. In the second half of this class, we will review economic development from traditional agriculture to industrialization.

ECN200CA

開発経済入門Ｂ

池上　宗信

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済入門 B では、開発経済入門 A で扱った経済成長の指標、プロセスの理論を下に、貿易、金融、開発援助などの経済成長の要因を概説します。

【到達目標】
なぜ我が国を含む東アジアの国々は急速に経済発展したのに、南アフリカを除く、サブサハラアフリカの国々は急速に経済発展しなかったのか？ このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	高校地歴の教育における本授業の意味。貿易 1	国際生産ネットワーク
第２回	貿易 2	比較優位、絶対優位
第３回	貿易 3	2 財 1 時点モデル
第４回	貿易 4	輸入代替工業化
第５回	貿易 5	実証、実効保護率
第６回	中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第７回	金融 1	金融仲介の便益、1 財 2 時点モデル
第８回	金融 2	貧困の罠と信用制約
第９回	金融 3	マクドゥーガル=ケンプ・モデル
第１０回	金融 4	実証、ルーカス・パラドックス
第１１回	開発援助 1	ＯＤＡと経済成長。
第１２回	開発援助 2	日本はどのようにＯＤＡを活用しているのでしょうか？ 途上国はもっと支援を求めるべきでしょうか？
第１３回	持続可能な発展	経済成長の及ぼす環境への影響。持続可能な発展とは何か、可能か。
第１４回	期末試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう 20 ページほどの文章を事前に指定します。

【参考書】
戸堂康之 (2015)『開発経済学入門』新世社
澤田康幸（2003）『基礎コース　国際経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】
中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
試験よりもレポートを望む学生、平常点を成績評価に含めないことを望む学生もいますが、2018 年度の経験から上記の成績評価の方法と基準にします。

【Outline and objectives】
Based on measurement and economic development studied in Introductory Development Economics A, we will study trade, finance, and development assistance as factors of economic development.

ECN200CA

経済学史 A

平瀬　友樹

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は，経済理論の歴史について解説を行うものである。この経済学史Aにおいては，ケインズ以前の経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【到達目標】
経済理論の形成過程が、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって、生み出されてきたものであるということに力点を置きながら、社会経済学と新古典派経済学の成立過程について解説を行う。そもそも、『国富論』によって経済学が成立するはるか以前より、保護主義的思想と自由主義的思想の対立が続いてきた。したがって、価値論を中心に据えながら、社会経済学と現代経済学の対立および論点について学ぶことは、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義であると言えよう。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は，①主流派だけではなく非主流派についても詳細な解説を行う，②対象の学説と最新の理論との関連性についても明らかにする，という２つの観点から構成されている。これは，その歴史が新しい（異質な）思考の「積み重ね」というよりも，いくつかの思考の「繰り返し」として表現されうるためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学説史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第 2 回	アダム・スミス以前の経済理論について	重商主義と重農主義について
第 3 回	アダム・スミスの経済理論について	2 つの価値論の誕生・現代経済学と社会経済学の違い
第 4 回	リカードの経済理論について	穀物法論争と差額地代論・現代にも通じる論争と政策決定
第 5 回	リカードの経済理論の成立	比較生産費説について・理論で考えるということ
第 6 回	J.S. ミルの経済理論について	古典派経済学の限界・資本主義をどうとらえるべきか
第 7 回	マルクスの短期的経済分析	搾取とは何か・貧富の格差と投下労働価値説
第 8 回	マルクスの長期的経済分析	利潤率低下の法則とは何か
第 9 回	マルクス経済学の評価について	転化問題を中心に・マルクスの現代的意義について
第 10 回	限界革命について	現代的な価値論の確立・科学革命とは何か
第 11 回	限界革命の立役者たち	ワルラスを中心に
第 12 回	新古典派経済学の成立	マーシャルの経済学・需給による価格決定分析の成立
第 13 回	新古典派経済学に対する挑戦	独占的競争市場の分析を中心に
第 14 回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目は経済史ではなく、経済学史=理論の歴史である。そのため、『現代経済学入門』を履修しておくか、あるいはミクロ経済学・マクロ経済学について同等の予備知識があることは望ましい。

【テキスト（教科書）】
追って指示する。

【参考書】
井上義朗『コア・テキスト　経済学史』新世社
その他にも必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 (60 %)、レポート (30 %) および平常点 (10 %) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
声が聞き取りづらいという指摘があったため、前列に着席することにご協力いただきたい。

【その他の重要事項】
周りの迷惑になるので私語は厳禁とします。この数年は授業内試験でしたが、受講人数によっては (試験期間中の) 定期試験となる場合もあります。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of economic thought before the Keynesian revolution to students taking this course.In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory,especially micro economics and Marxian economics.

ECN200CA

経済学史 B

平瀬　友樹

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は，経済理論の歴史について解説を行うものである。この経済学史Bにおいては，主にケインズ以降の経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【到達目標】
経済理論の形成過程が、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって、生み出されてきたものであるということに力点を置きながら、IS-LM 分析を中心とする旧マクロ経済学とルーカス批判以降の新マクロ経済学の成立過程について解説を行う。旧マクロ経済学と新マクロ経済学の対立および論点について学ぶことは、経済学史 A と同様に、単なる理論的知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義である。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は，①主流派だけではなく非主流派についても詳細な解説を行う，②対象の学説と最新の理論との関連性についても明らかにする，という 2 つの観点から構成されている。これは，その歴史が新しい（異質な）思考の「積み重ね」というよりも，いくつかの思考の「繰り返し」として表現されうるためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第 2 回	ケインズ革命以前のマクロ経済思想	貨幣数量説と市場に対する評価
第 3 回	ケインズ革命によって失われたマクロ経済分析	ヴィクセルによる累積過程の分析
第 4 回	ケインズ革命	ケインズ自身の理論について・科学革命の実際
第 5 回	ケインズ革命の普及	ヒックスによる IS − LM 分析・その功績と功罪について
第 6 回	ケインズ革命にみる理論と実際	消費関数および投資関数をめぐる論争、理論と現実の捉え方
第 7 回	戦後の経済理論の発展について	ケインジアンによる経済成長論
第 8 回	経済成長論の誕生	新古典派による経済成長論
第 9 回	新古典派総合の誕生	理論と政策の関係性について
第 10 回	新古典派総合の終焉	自然失業率仮説とスタグフレーション
第 11 回	新しいマクロ経済学の誕生	ルーカス批判とは何か　新自由主義との関連について
第 12 回	計量経済学の誕生	IS-LM 分析ベースの定量的分析の紹介
第 13 回	現代の経済学について	ルーカス批判を超えて・RBC を中心に
第 14 回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本科目は経済史ではなく、経済学史=理論の歴史である。そのため、『現代経済学入門』を履修しておくか、あるいはミクロ経済学・マクロ経済学について同等の予備知識があることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
追って指示する。

【参考書】
井上義朗『コア・テキスト　経済学史』新世社
その他にも必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 (60 %)、レポート (30 %) および平常点（10 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
声が聞き取りづらいという指摘があったので、前列に着席することにご協力いただきたい。

【その他の重要事項】
周りの迷惑となる私語は厳禁とします。また、この数年は授業内試験でしたが、受講人数によっては（試験期間中の）定期試験となる場合もあります。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of economic thought after the Keynesian revolution to students taking this course.In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory,especially macro economics.

ECN200CD

経済地理Ａ

近藤　章夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、都市・地域経済の基礎と応用、産業の立地論、経済の空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	人口と経済成長①	人口構造と人口転換
第 3 回	人口と経済成長②	経済成長と発展格差
第 4 回	都市経済の基礎①	都市化と都市発展
第 5 回	都市経済の基礎②	都市内部構造と都市システム
第 6 回	産業の立地①	立地論の系譜とアプローチ
第 7 回	産業の立地②	工業立地論の枠組と応用
第 8 回	経済の空間構造①	日本の地域構造
第 9 回	経済の空間構造②	地域構造の比較制度分析
第 10 回	都市・地域経済の応用①	地域成長と地域間交易
第 11 回	都市・地域経済の応用②	地域間格差と人口移動
第 12 回	国土計画と地域政策①	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第 13 回	国土計画と地域政策②	都市・地域問題の現状と新たな政策
第 14 回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
河野稠果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会
デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン桐原
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣
竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
中間・期末レポートの評価（80%）が中心となる。授業時リアクションペーパー（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（10%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】
The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD

経済地理Ｂ

近藤　章夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
第 3 回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
第 4 回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
第 5 回	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
第 6 回	経済学と集積①	経済成長と集積の関係
第 7 回	経済学と集積②	空間経済学と集積
第 8 回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第 9 回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第 10 回	自動車産業の集積①	JIT 生産システムと近接性
第 11 回	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
第 12 回	ハイテク産業の集積①	シリコンバレーモデルと産学連携
第 13 回	ハイテク産業の集積②	知識経済とイノベーション
第 14 回	まとめ	経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健兒（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
中間・期末レポートの評価（80%）が中心となる。授業時リアクションペーパー（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（10%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】
The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of industrial agglomeration in economic geography. Key themes focus on innovation, technological and managerial change, productivity, creativity, globalization, and changing geographies of spatial convergence.

ECN200CA

経済の数理 A

佐柄　信純

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学やゲーム理論をより深く理解するために必要な数学を厳選して講義します．凸解析，不動点定理，最適化理論を丁寧に解説します．計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です．

【到達目標】
受講者に求められるのは，自分の頭で考え，論理を粘り強く追って行く根気です．本講義を通して「(数学の）本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに，「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います．経済分析への応用を重視しますので，公務員・公認会計士試験，大学院受験の対策としても本講義を活用することができます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
数学は「積み重ね」の学問です．それまでに導入した概念に基づき，新たな概念を構築する形で講義は進みます．動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い，テキスト通りに授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ユークリッド空間 (1)	ベクトル空間
第 2 回	ユークリッド空間 (2)	ベクトル空間の次元
第 3 回	ユークリッド空間 (3)	ベクトル空間の距離
第 4 回	位相の導入 (1)	近傍，開集合，閉集合
第 5 回	位相の導入 (2)	無限ベクトル列の収束
第 6 回	位相の導入 (3)	連続関数
第 7 回	射影定理とその応用 (1)	射影定理
第 8 回	射影定理とその応用 (2)	直交補空間とその性質
第 9 回	射影定理とその応用 (3)	距離の最小化問題
第 10 回	凸集合とその性質 (1)	集合の凸包
第 11 回	凸集合とその性質 (2)	凸集合の内部と閉包
第 12 回	超平面とその応用 (1)	超平面
第 13 回	超平面とその応用 (2)	ファルカスの定理
第 14 回	超平面とその応用 (3)	支持超平面と分離定理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます．授業内での問題演習を重視し，必要に応じて，適宜，宿題を課します．

【テキスト（教科書）】
田中謙輔『凸解析と最適化理論』（牧野書店，1994 年）

【参考書】
[1] 今野 浩・山下 浩『非線形計画法』（日科技連，1978 年）
[2] 小宮英敏『最適化の数理 I：数理計画法の基礎』（知泉書館，2012 年）
[3] 坂和正敏『非線形システムの最適化：一目的から多目的へ』（森北出版，1986 年）
[4] 久志本 茂『最適化問題の基礎』（森北出版，1979 年）
[5] 福島雅夫『非線形最適化の基礎』（朝倉書店，2001 年）
[6] O．L．マンガサリアン『非線形計画法』（関根智明 訳，培風館，1972 年）

【成績評価の方法と基準】
レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します．

【Outline and objectives】
In this course convex analysis, fixed point theorems, and optimization theory are lectured.

ECN200CA

経済の数理 B

佐柄　信純

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学やゲーム理論をより深く理解するために必要な数学を厳選して講義します．凸解析，不動点定理，最適化理論を丁寧に解説します．計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です．

【到達目標】
受講者に求められるのは，自分の頭で考え，論理を粘り強く追って行く根気です．本講義を通して「(数学の）本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに，「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います．経済分析への応用を重視しますので，公務員・公認会計士試験，大学院受験の対策としても本講義を活用することができます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
数学は「積み重ね」の学問です．それまでに導入した概念に基づき，新たな概念を構築する形で講義は進みます．動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い，テキスト通りに授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	上半および下半連続関数とその応用 (1)	上半および下半連続関数
第 2 回	上半および下半連続関数とその応用 (2)	エークランドの定理
第 3 回	不動点定理とその周辺 (1)	縮小写像と不動点
第 4 回	不動点定理とその周辺 (2)	ハウスドルフの距離
第 5 回	不動点定理とその周辺 (3)	集合値縮小写像と不動点
第 6 回	凸関数と方向微分 (1)	凸関数と準凸関数
第 7 回	凸関数と方向微分 (2)	方向微分とエビグラフ
第 8 回	凸関数と方向微分 (3)	凸関数と劣微分
第 9 回	微分可能な凸関数 (1)	勾配ベクトルと劣勾配ベクトル
第 10 回	微分可能な凸関数 (2)	凸関数の最適化問題
第 11 回	最適化問題 (1)	制約条件なしの最適化問題
第 12 回	最適化問題 (2)	不等式制約条件をもつ最適化問題
第 13 回	最適化問題 (3)	制約想定と最適化問題
第 14 回	最適化問題 (4)	双対最適化問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます．授業内での問題演習を重視し，必要に応じて，適宜，宿題を課します．

【テキスト（教科書）】
田中謙輔『凸解析と最適化理論』（牧野書店，1994 年）

【参考書】
[1] 岡田章『ゲーム理論（新版）』（有斐閣，2011 年）
[2] 中山幹夫・船木由紀彦・武藤滋夫『協力ゲームの理論』（勁草書房，2008 年）
[3] 武隈愼一『数理経済学』（新世社，2001 年）
[4] 山崎昭『ミクロ経済学』（知泉書館，2006 年）

【成績評価の方法と基準】
レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します．

【Outline and objectives】
In this course convex analysis, fixed point theorems, and optimization theory are lectured.

PRI200CA

データ解析入門A

宮脇　典彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計学の基本的な考え方に基づき，図やグラフを描き，基本統計量を計算し，2 つの変数の間の関係を確認するなどの，データ分析の基本的な手法を身につける。

【到達目標】
数値データおよびカテゴリーデータの基礎的な解析手法を学習し，実際にアンケート調査を実施することで応用力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は実習形式で行います。与えられる課題は，各人が自主的に行うことになります。Windows 上で “SPSS” という統計解析用のソフトウェア用いてデータの集計・作表や解析を行いますので，Windows の操作ができることが履修の前提となります。
データ解析の基本的な手法を解説した後，４～５人のグループを作り，ある団体から依頼されたというシナリオの下に，アンケート調査を企画・実施します。
この科目はいわゆる “講義” ではなく，むしろ理系の “実験・演習” に近いものと理解してください。次々と新しい分析ツールを学んでいくため，授業への毎回の出席は不可欠です。
本講義を履修するだけでは，データ解析の技術を取得する段階に止まってしまうので，秋学期の「データ解析入門Ｂ」を同一年度内に必ず履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	データ解析と統計ソフトの概説
第 2 回	尺度構造と入力	変数の尺度構造・データの入力方法
第 3 回	データの加工	新しい変数の作成，ソーティング
第 4 回	数値データの解析（1）	入力とグラフ化
第 5 回	数値データの解析（2）	基本統計量（平均，分散など）とその意味
第 6 回	数値データの解析（3）	基本統計量（平均，分散など）を求める
第 7 回	数値データの解析（4）	２つの変数の関係
第 8 回	カテゴリーデータの解析（1）	入力と加工
第 9 回	カテゴリーデータの解析（2）	集計とグラフ化
第 10 回	カテゴリーデータの解析（3）	２つの変数の関係
第 11 回	カテゴリーデータの解析（4）	多重回答データの処理
第 12 回	アンケート調査（1）	基本設計
第 13 回	アンケート調査（2）	詳細設計
第 14 回	小テスト・アンケート調査（3）	パイロットサンプルによる最終設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①テキストを事前に予習し，毎回の授業の後復習を行う。
②数回の課題に取り組む。
③グループごとにアンケート調査を計画する。

【テキスト（教科書）】
宮脇・和田・阪井著 『SPSS によるデータ解析の基礎（改訂版）』 培風館，2011 年

【参考書】
テキストに必要な参考書は指定してあります。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）
レポートとアンケート調査設計（30 %）
小テスト（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎回新しい手法を学ぶので大変だという声が多いので，必ず前の週の復習を２０分ほどかけて行っています。

【学生が準備すべき機器他】
実習室に設置されたパソコンを使用します。

【Outline and objectives】
We learn and acquire basic methods of data analysis such as creation of tables and graphs, calculation of basic statistics, and confirmation of relationship between two variables.

PRI200CA

データ解析入門Ｂ

宮脇　典彦

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①「データ解析入門Ａ」で作成したアンケート調査の実施しを通じて，データ解析の基本的な知識とスキルを実践的に身につける。
② 回帰分析の基本的な理論を学び，実際のデータを用いて回帰モデルを作成することにより回帰分析のスキルを身につける。

【到達目標】
アンケート調査の分析結果を報告書にまとめ履修者全員の前で発表することにより，データ解析の手法を経験的に体得するとともにプレゼンテーション能力をも身につける。
回帰分析における最小二乗法の考え方，推定および検定，変数選択法などの基礎的な理論を学び，実際のデータを用いて回帰モデルを作成することにより，回帰分析における一連のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
前半には，春学期に行ったアンケート調査の解析を進め，グループ毎に結果を発表してもらいます。
次に「回帰分析」とよばれる手法を解説し，実際のデータを用いて各自がオリジナルな回帰モデルを構築するという体験を通じて，データ解析を行う上でさらに高度な知識を身に付けていきます。
(「データ解析入門Ａ」をその年度に履修していることが，本科目履修の前提となります。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アンケート調査の解析（1）	データの入力
第 2 回	アンケート調査の解析（2）	単純集計
第 3 回	アンケート調査の解析（3）	クロス集計
第 4 回	アンケート調査の解析（4）	総合的な分析１
第 5 回	アンケート調査の解析（5）	総合的な分析２
第 6 回	アンケート調査の発表（1）	前半のグループのプレゼンテーション
第 7 回	アンケート調査の発表（2）	後半のグループのプレゼンテーション
第 8 回	回帰分析の基礎	相関と回帰・最小２乗法の考え方
第 9 回	単回帰分析（1）	回帰係数の推定
第 10 回	単回帰分析（2）	決定係数、回帰係数の検定
第 11 回	重回帰分析（1）	回帰係数の推定，決定係数と F 検定
第 12 回	重回帰分析（2）	各回帰係数の検定・変数選択法
第 13 回	回帰モデルの作成（1）	実際のデータを用いた回帰モデルの作成
第 14 回	回帰モデルの作成（2）	作成した回帰モデルの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①グループごとにアンケート調査を実施・解析し，報告書を提出し，授業内で解析結果を発表する。
②テキストを事前に予習し，毎回の授業の後復習を行う。
③各人が自分独自の回帰モデルを作成する。

【テキスト（教科書）】
宮脇・和田・阪井著 『SPSS によるデータ解析の基礎（改訂版）』 培風館，2011 年

【参考書】
教科書に必要な参考書は指定してあります。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）
アンケート調査報告書・プレゼンテーション（30 %）
回帰モデルレポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
「回帰分析が難しい」というコメントが多いので，できる限り平易に説明するよう心がけています。

【学生が準備すべき機器他】
実習室に設置されたパソコンを使用します。

【Outline and objectives】
1. We acquire the basic knowledge and skills of data analysis through implementation and analysis of questionnaire survey created in "Introduction to Data Analysis A".
2. We learn and acquire the basic theory and skills of regression analysis by creating regression models using actual data.

ECN200CA

アメリカ経済論 A

河村　哲二

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は，A，B を通して，パックス・アメリカーナの盛衰という長期的視点に立って，第二次大戦後，世界経済をリードしたアメリカ経済の発展構造の特質と問題点を解明し、そうした長期的・総合的な視点にたって、2000 年代末のアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機、さらに最近の「トランプ現象」など、日本経済・世界経済の動向の理解に不可欠なアメリカ経済の現状と課題について理解を深める。

【到達目標】
アメリカ経済論 A では，アメリカ経済の長期的な発展構造の変遷とその特質を学び、1970 年代を境にした戦後パックス・アメリカーナ全盛期の構造からの大きな再編と転換がアメリカおよび世界にもつ意味を、長期・歴史的な視点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は，スライドを掲示し、テキスト『現代アメリカ経済』と『アメリカ経済入門』を随時使用して進める。受講生は WEB 公開される講義スライド・その他の資料をダウンロードし、テキスト・参考書とともに、講義中および予習・復習に利用して学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	アメリカ経済論を学ぶ意義。
第 2 回	序論　アメリカの社会経済的特質と歴史過程	歴史的発展過程にみるアメリカ的特質。
第 3 回	第 1 章　第一次大戦前の経済発展とその特徴 1. 初期の経済発展	植民地期から独立革命・南北戦争に至る経済発展のプロセスと特徴。
第 4 回	2. 国民経済の発展	南北戦争に至る経済発展の特徴（国土形成・産業革命・国民経済の形成）。
第 5 回	3. 工業・農業発展と「ビッグビジネス」の登場	南北戦争後の工業・農業発展と「ビッグ・ビジネス」の登場。
第 6 回	第 2 章　戦間期 1. 第一次大戦と 1920 年代	戦間期前半期の経済発展 (「永遠の繁栄」) と「大恐慌)。
第 7 回	2. 株式ブームの発展と世界経済的不均衡	耐久消費財ブームの限界・「株式ブーム」の発展と崩壊。
第 8 回	3. 世界大恐慌とニュー・ディール (1) ニュー・ディール	世界大恐慌の発生とニューディール政策の登場。
第 9 回	(2) ニュー・ディールの限界と 1937 年恐慌	ニューディール政策の限界。
第 10 回	第３章　戦後パックス・アメリカーナの形成	第二次大戦戦時経済と戦後パックス・アメリカーナの形成。
第 11 回	1．第二次大戦期戦時経済 (1) 戦時経済システム	戦時経済システムの概要とその特徴。
第 12 回	(2) 戦時経済システムによる経済発展と制度転換	戦時経済下の制度構造・システム転換。
第 13 回	２. 戦後パックス・アメリカーナシステムの登場 (1)「持続的成長」の国内システムの登場	戦後「持続的成長」のメカニズムの形成 (国内体制)。
第 14 回	(2)「持続的成長」の世界政治経済システムの形成 講義内容のまとめ	戦後「持続的成長」のメカニズムの形成 (パックス・アメリカーナの世界政治経済体制)。 戦後パックス・アメリカーナの確立の歴史的意義。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義スライド資料とテキストの当該箇所の予習・復習をする。そのなかでテキスト『現代アメリカ経済』の章末練習問題の解答を作成する。

【テキスト（教科書）】
河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣，2003 年）、河村哲二・弘兼憲史著『アメリカ経済入門』（幻冬舎、2009 年）。

【参考書】
テキスト『現代アメリカ経済』各章末の参考文献一覧から適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績は，主に期末筆記試験によって評価する (90%)。これに課題レポートの評価を加味する（10～20 点の範囲で筆記試験結果に加点）(10%)。

【学生の意見等からの気づき】
講義スライド資料における各種の画像資料の提示や図式化が、大きく理解を助けるとして好評なため、引き続き拡充を図る。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

【担当教員の専門分野等】
理論経済学　アメリカ経済論・グローバル経済論

【Outline and objectives】
This lecture elucidates the specific futures of the U.S. post-war economy that lead the world economy, from a long-term perspective of its historical development. Through the whole lecture of A and B, it aims at deepening the understanding of the contemporary states and problems of the U.S. economy in the 2000s. It discusses the important topics of the current issues of the U.S. economy, including the global financial and economic crisis in the late 2000s and the "Trump phenomenon".

ECN200CA

アメリカ経済論 B

河村　哲二

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦後パックス・アメリカーナの衰退・転換とアメリカ経済の「グローバル資本主義化」という視角から、1980 年代以降のアメリカ経済の現状と問題点を解明し，アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の問題、さらに「トランプ現象」と関連したパックス・アメリカーナの変容の行方を展望する。

【到達目標】
春学期のアメリカ経済論 A の講義を受けて，1970 年代を境にグローバル化をを通じた「グローバル成長連関」の出現によって新しい経済発展の構造が登場したアメリカ経済が、アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機によってさらに大きな変貌を遂げようとしていることを、歴史的な背景とともに学び、アメリカおよび世界経済の現状と今後の行方を展望することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は、講義計画にそって、スライドを提示しながら進める。受講生は、アップロードされたスライド講義資料とその他参考文献を講義中および予習・復習に利用して学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論　戦後パックス・アメリカーナの衰退と転換	戦後パックス・アメリカーナの衰退と転換と経済グローバル化の意義。
第 2 回	第１章　戦後パックス・アメリカーナ １．戦後「持続的成長」システムの特徴 (1) 戦後企業体制と政府機能	戦後パックス・アメリカーナの「持続的成長」のシステムの特徴：戦後企業体制と政府機能／世界編成。
第 3 回	(2) 戦後世界の政治経済システム	国際通貨体制・通商体制・軍事的枠組み。
第 4 回	２．戦後パックス・アメリカーナの衰退と転換	内在的問題の発展と衰退。
第 5 回	(1)「レーガノミックス」	1980 年代以降のアメリカ経済の変貌と「レーガノミックス」。
第 6 回	(2) 金融の変貌	金融革新・「ファイナンシャリゼーション」の展開。
第 7 回	(3) 企業体制・労使関係の転換	戦後企業体制の転換とグローバル化。
第 8 回	３．「グローバル成長連関」の発展 (1) グローバル・シティ	「グローバル・シティ」の重層的発展。
第 9 回	(2)「新帝国循環」と金融的発展	アメリカを中心とする国際的資金循環と金融的発展の特徴。
第 10 回	４．1990 年代の長期好況 (1)IT 革命とニューエコノミー	1990 年代長期好況・「IT ブーム」とその限界。
第 11 回	(2) アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機 ①「シャドウバンキング・システム」と住宅ブーム	「住宅ブーム」のメカニズムと「サブプライム問題」の発展。
第 12 回	②グローバル金融危機の展開	グローバル金融危機・経済危機のプロセスと影響。
第 13 回	③緊急景気対策	緊急景気対策の特徴と限界。
第 14 回	５．経済回復過程の特徴と問題点 まとめと展望	アメリカ経済の回復過程の現状。 講義の総括とパックス・アメリカーナの行方の展望。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義スライド資料とテキストの当該箇所を用い、参考文献・Web 検索なども活用して予習・復習をする。課題レポートで中間的なまとめを行う。

【テキスト（教科書）】
河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣，2003 年）／河村哲二・弘兼憲史著『知識ゼロからのアメリカ経済入門』（幻冬舎、2009 年）。

【参考書】
『現代経済の解読（第 3 版）』（御茶の水書房、2017 年）、『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌』（ナカニシヤ出版、2018 年）、および、テキスト『現代アメリカ経済』各章末の参考文献・その他から講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
主に期末筆記試験によって評価する (90%)。これに課題レポートの評価を加味する（10～20 点の範囲で筆記試験結果に加点）(10%)。

【学生の意見等からの気づき】
講義資料における各種画像資料の提示や図式化を引き続き拡充する。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

【Outline and objectives】
Following the discussions in the lecture of the U.S. Economy A, this lecture aims at elucidating specific features and the problems of the U.S. economy after the 1980s, from a perspective of the decline and transfiguration of the postwar Pax Americana system and its transformation into the "Global Capitalism", including the U.S. centered global financial and economic crisis and the "Trump Phenomenon", thereby giving a prospect of the future of the Pax Americana system.

ECN200CA

ヨーロッパ経済論 A

進藤　理香子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第二次大戦の敗戦後、東西分断という困難の下で復興を遂げたドイツは、1990年の再統一を経て今日欧州トップの経済大国へと成長した。本講は欧州経済統合の礎となる 1945 年から 80 年代半までのヨーロッパの社会経済的発展を東西ドイツの軌跡及び冷戦期の国際関係から考察することを目的とする。

【到達目標】
第二次大戦後の世界情勢、とりわけ米ソ冷戦体制とヨーロッパ経済統合の歴史的プロセスを理解する。また今日の欧州連合に受け継がれる西ドイツ社会的市場経済概念を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
・一講義ごと主要テーマを設定し、必要に応じてレジュメを配布。
・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代欧州社会におけるドイツの位置	ドイツ問題を中心に戦後ヨーロッパの発展を学ぶ意義について。
第 2 回	第二次大戦終結と連合国占領政策	連合国によるドイツ四か国分割統治と占領政策（非軍事化、賠償、国境問題、ニュルンベルク裁判）を学ぶ。
第 3 回	マーシャルプランと西ヨーロッパの経済復興	アメリカ主導の復興支援、トルーマン・ドクトリンと東西陣営形成を見る。
第 4 回	通貨改革と東西ドイツ	東西占領地区相異なる通貨改革によるドイツの政治的、経済的分断の過程を見る。
第 5 回	ドイツ連邦共和国アデナウアー政権と冷戦体制	西ドイツ国際社会への復帰と安全保障問題、米ソ冷戦構造を把握する。
第 6 回	西ドイツ社会的市場経済と経済相エアハルト	社会的市場経済、その理論的背景と西ドイツにおける実践に関し学ぶ。
第 7 回	西ドイツ経済の奇跡	高度経済成長、大衆消費社会と生活水準の向上について見る。
第 8 回	石炭・鉄鋼問題と西ヨーロッパの協調	フランスとドイツの歩み寄り、欧州石炭鉄鋼共同体の結成について学ぶ。
第 9 回	ヨーロッパ市場統合の模索	独仏主導の欧州経済共同体と、英国・北欧諸国主導の欧州自由貿易連合について見る。
第 10 回	ヨーロッパ福祉国家の諸モデル	イギリス、スウェーデン、西ドイツを例に欧州福祉国家概念を学ぶ。
第 11 回	ドイツ民主共和国とベルリンの壁	ソ連・東欧社会主義体制、東ドイツを考察する。
第 12 回	西ドイツ・ブラント首相の東方政策	欧州東西対立における転機となった西ドイツ新東方外交、全欧安全保障協力会議への道を見る。
第 13 回	ブレトン・ウッズ体制の崩壊とオイルショック	高度経済成長の終焉、70 年代世界経済の停滞と西欧、東欧の状況を見る。
第 14 回	ケインズ主義から新自由主義へ	英国サッチャー政権の小さな政府に代表される 80 年代新自由主義的政策の潮流を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・数回に一回、レポートの提出を求める。
・参考文献として挙げたテキストにとらわれず、独自に関連分野の書物を開拓し、戦後ヨーロッパの発展に関する学問的関心を高めることを希望する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、あるいはプリントを配布する。

【参考書】
・W.・アーベルスハウザー著、酒井昌美訳『現代ドイツ経済論 ： 一九四五－八〇年代にいたる経済史的構造分析』朝日出版社、1994 年
・猪木武徳『戦後世界経済史：自由と平等の視点から』中央公論新社、2009 年
・戸原四郎、加藤栄一編『現代のドイツ経済：統一への経済過程』有斐閣、1992 年
・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会、2007 年

【成績評価の方法と基準】
試験 50 %、レポート 50 %。レポート未提出者は試験受験資格無し。

【学生の意見等からの気づき】
対象の理解、習熟度を高めるため、レポート、試験共に論述を重視。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to study the socio-economic and political developments in Europe from 1945 to the mid-1980s, mainly during the Cold War period, in an historical perspective. Particular interest will be paid to the development of Germany which was divided into two states, in the West and in the East, after the country's defeat in World War II.

ECN200CA

ヨーロッパ経済論 B

進藤　理香子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1980 年代末から 90 年代初頭、ソ連型社会主義は東欧全土へ拡大した大衆抗議運動を前に終わりを遂げた。本講は 80 年代から現在に至るヨーロッパ情勢に関し、東欧革命、冷戦の終結、ドイツ再統一からヨーロッパ連合の成立、EU 東方拡大の流れにおいて跡付けつつ、今日なお変容を続ける EU の政策と実践に関し考察する。

【到達目標】
冷戦と東西陣営対立の終焉が世界経済に及ぼした影響を理解する。欧州連合（EU）の成立に関し、欧州単一市場形成・通貨統合、EU 独自のガバナンスを理解する。EU 諸国の均一性と多様性を把握し、域内のみならず域外に対し今後 EU が担うべき課題を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
・一講義ごと主要テーマを設定し、必要に応じてレジュメを配布。
・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会主義体制、停滞から改革へ	ソ連のグラスノスチとペレストロイカ。チェルノブイリ原発事故と東欧被災、体制への不信の高まりなどを見る。
第 2 回	1989 年東欧革命	東欧社会主義諸国（ポーランド、ハンガリー、チェコスロバキア、バルト三国他）の民主化運動から冷戦終結まで。
第 3 回	東ドイツ平和革命	ベルリンの壁崩壊をもたらした東ドイツ民主化運動と社会状況について。
第 4 回	ドイツ再統一と国際関係	統一の前提条件となった連合国及び周辺国による承認問題（ドイツ最終規定条約、東部国境問題）。
第 5 回	ドイツ東西経済格差と統一の負担	移行期の負担、旧東独の政治的清算など統一に伴う諸問題を考察する。
第 6 回	ヨーロッパ共同体からヨーロッパ連合へ	単一市場形成、単一欧州議定書、マーストリヒト条約に関し学ぶ。
第 7 回	経済通貨統合と欧州中央銀行	欧州通貨統合、単一通貨ユーロ導入までの過程を学ぶ。
第 8 回	ヨーロッパ連合の機構と運営	欧州理事会、欧州議会など根幹となる組織と EU 独自のガバナンスを学ぶ。
第 9 回	ヨーロッパ連合の東方拡大	東欧旧社会主義諸国の移行経済と EU 加盟条件をめぐる議論に関し見る。
第 10 回	ヨーロッパ連合加盟諸国の経済・社会構造	EU 各国の特色、経済力格差、社会の均一性と多様性について考える。
第 11 回	ヨーロッパ連合の通商と農業問題	共通通商政策（関税同盟）、共通農業政策（補助金政策）について見る。
第 12 回	ヨーロッパ連合のエネルギー・環境問題	EU エネルギー市場統合の模索を通商産業、環境政策との関連で見る。
第 13 回	ヨーロッパ連合の共通外交、安全保障問題	国際紛争への対応、国連及び NATO との協調に関して見る。
第 14 回	ヨーロッパ連合の労働市場と難民問題	労働者移動と域外からの流入、難民受入れ大国ドイツの社会問題等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・数回に一回、レポートの提出を求める。
・参考文献として挙げたテキストにとらわれず、独自に関連分野の書物を開拓し、現代ヨーロッパの発展に関する学問的関心を高めることを希望する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、あるいはプリントを配布する。

【参考書】
・遠藤乾『欧州複合危機』中央公論新社、2016 年
・小川和男『東欧：再生への模索』岩波書店、1995 年
・庄司克宏『欧州連合：統治の論理とゆくえ』岩波書店、2007 年
・戸原四郎、加藤榮一、工藤章編『ドイツ経済：統一後の 10 年』有斐閣、2003 年
・羽場久美子、溝端佐登史『ロシア・拡大 EU』、ミネルヴァ書房、2011 年
・田中・長部・久保・岩田『現代ヨーロッパ経済』第 5 版、有斐閣、2018 年
・『NHK スペシャル社会主義の 20 世紀』日本放送出版協会、全 6 巻、1990/91 年

【成績評価の方法と基準】
試験 50 %、レポート 50 %。レポート未提出者は試験受験資格無し。

【学生の意見等からの気づき】
対象の理解、習熟度を高めるため、レポート、試験共に論述を重視。

【Outline and objectives】
This course focuses on the socio-economic and political developments in Europe from the end of the Cold War period until today´s European Union. Special consideration will be given to the historical events like the collapse of the Soviet Union, the peaceful revolution of 1989 in Eastern Europe, the reunification of the two German states, and the establishment of the European Union and its enlargement to the east.

ECN200CA

現代アジア経済論 A

馬場　敏幸

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドによる講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	経済発展と諸産業１	産業発展とその諸段階　概要　産業構造と情報化
3	経済発展と諸産業２	電気電子産業、自動車産業
4	経済発展と諸産業３	工業化戦略、WTO　貿易構造の変遷、貿易協定
5	経済発展と諸産業４	サポーティング産業
6	韓国１	国講義１：面積、人口、GDP、人口構成（統計資料）国（地域）の成立の概略　（年表資料）宗教・政治体制・資源・主要産業・文化など
7	韓国２	国講義２：主要産業、貿易、投資、歴代主要人物、政策、発展の経緯、日本との関係など
8	シンガポール１	国講義１
9	シンガポール２	国講義２
10	台湾１	国講義１
11	台湾２	国講義２
12	香港１	国講義１
13	香港２	国講義２
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。また参考にあげた URL の使い方に習熟しておくとアジアの様々な情勢のデータ収集に大いに役立つ。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
馬場敏幸 (2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料は以下。外務省アジア（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html）、JETRO アジア（https://www.jetro.go.jp/world/asia/）世界銀行オープンデータ（https://data.worldbank.org/）、国連データ (http://data.un.org/)、国連商品貿易統計データベース (https://comtrade.un.org/)、HS コード（輸出統計品目標 2018 ： http://www.customs.go.jp/yusyutu/2018/index.htm）、世界の統計 2017（http://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.htm）

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 70～80%の評価をする。また、授業中に数度練習問題を出し、この分の合計 20～30%を期末試験に加点し、100 %として最終的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
まわりの私語など集中力の妨げるとの意見がみられる。授業中に学習する環境作りのため、授業中の私語・スマホ使用は禁止とし、守れない場合は注意します。

【学生が準備すべき機器他】
講義でオンラインデータベースを紹介し、使用方法を学ぶ。PC 持参を推奨する。

【その他の重要事項】
本講義とともに現代アジア経済論Ｂ（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、Ａ・Ｂ双方での履修を望む。

【Outline and objectives】
In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time.　You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep.　I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area.

ECN200CA

現代アジア経済論 B

馬場　敏幸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドによる講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、 地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN の成立	ASEAN の成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	為替制度の変容と経済への影響	ブレトンウッズ体制、ニクソンショック、プラザ合意、アジア経済通貨危機など
4	世界に大きな影響を与えた出来事	アジア経済通貨危機、サブプライムローン問題、リーマンショック・世界同時不況、欧州通貨危機、東日本大震災、東電原発事故など
5	タイ１	国講義１：面積、人口、GDP、人口構成（統計資料）国（地域）の成立の概略　（年表資料）宗教・政治体制・資源・主要産業・文化など
6	タイ２	国講義２：主要産業、貿易、投資、歴代主要人物、政策、発展の経緯、日本との関係など
7	マレーシア１	国講義１
8	マレーシア２	国講義２
9	インドネシア１	国講義１
10	インドネシア２	国講義２
11	フィリピン１	国講義１
12	フィリピン２	国講義２
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
馬場敏幸 (2013)『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料は以下。外務省アジア、JETRO アジア、世界銀行オープンデータ、国連データ、国連商品貿易統計データベース、HS コード、世界の統計 2017　（各 URL は現代アジア経済論 A を参照）

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 70～80%の評価をする。また、授業中に数度練習問題を出し、この分の合計 20～30%を期末試験に加点し、100 %として最終的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
まわりの私語など集中力の妨げるとの意見がみられる。授業中に学習する環境作りのため、授業中の私語・スマホ使用は禁止とし、守れない場合は注意します。

【学生が準備すべき機器他】
講義でオンラインデータベースを紹介し、使用方法を学ぶ。PC 持参を推奨する。

【その他の重要事項】
本講義とともに現代アジア経済論 A の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため，A・B 双方での履修を望む。

【Outline and objectives】
In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries.

ECN200CA

中国経済論 A

菊池　道樹

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代中国におけるマクロ経済の成長動向とその要因を理解したうえで、高度成長をもたらしてきた要因を、歴史、制度、政策の面から、日本や欧米諸国との比較において検討する
中国が計画経済体制から市場経済体制への移行を開始してから今年は 40 年目を迎える。この間，中国の GDP は年平均実質で 9 %を上回る高成長率を維持し、２０１０年には日本を抜き世界第 2 位の規模に達した。今や世界経済の動向は中国をぬきにして語ることはできないと言っても過言ではない。こうした中国経済のマクロの動向、成長要因の分析と今後の課題を検討することが本講義の課題である。

【到達目標】
１９７８年に市場経済体制への転換が開始されて以降の、中国におけるマクロ経済の動向と現状を正確に把握し、今後の中国経済の見通しについて、各自自らの見解を他の人々に説明ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、パワーポイントを用いて各回ごとの要点を説明する。数回にわたり主なテーマについてレポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界のなかの中国経済	現代中国の経済、社会の現状と今後のみどころを紹介。
第 2 回	国際比較の観点からみた中国経済	日本やアジア諸国の経済成長との比較。
第 3 回	中国経済史の再検討-高成長との連続性の観点から	「中国停滞論」の見直し。マディソン仮説の意義を検討。
第 4 回	社会主義経済体制の形成、展開、挫折	毛沢東の目指した社会主義体制とは？国営企業と人民公社の実態と破綻の分析。
第 5 回	市場経済体制への移行のプロセスと現状	中国が選択した漸進主義、社会主義市場経済体制とは？
第 6 回	投資・輸出主導型成長の軌跡、特徴、問題点	３０年余にわたる成長要因について、高投資が可能となった背景、輸出拡大のプロセスに焦点をあてて分析。
第 7 回	「世界の工場　中国」の形成と展開	中国型２部門間モデルから「世界の工場」へ。
第 8 回	「世界の工場」から「工業強国」へ	産業集積の発展。 政府主導のイノベーションの動向、国際競争力の進展。
第 9 回	労働市場の変化-「過剰労働の世界」から「労働不足の世界」へ	経済体制改革に伴う都市、農村における労働市場の変化特に「労働不足」と大卒の就職難というミスマッチについて分析。
第 10 回	成長と格差　（1）	地域格差、都市・農村間の格差の実態ーその背景と問題点。
第 11 回	成長と格差　（2）	所得格差、貧困問題を国際比較から検討。
第 12 回	成長モデルの転換-「中所得国の罠」の不安	中所得国の多くが共通して直面している、経済の停滞状況に陥らずに成長の持続が可能か否かを検討。
第 13 回	経済成長と政治体制（１）-「北京コンセンサス」をめぐって	中国型開発独裁体制の分析、「中国モデル」よばれるシステムについて議論を整理したうえでその普遍性について検討。
第 14 回	経済成長と政治体制（２）- 民主主義体制の可能性	体制に批判的な様々な動きを紹介し、今後の展望を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞や雑誌、テレビの中国関連の報道（例えば、「NHK スペシャル」）にふれ、重要と思われる記事などはメモをとっておくことが望ましい。
第３、５、１１、１４回の終了時にレポート提出を、またそれ以外の回においては、授業の感想文を提出してもらう予定。

【テキスト（教科書）】
市販の書物を教科書として指定しない。毎回パワーポイントで編集したレジメ、統計・資料を配布し、これをもとに授業を進める。

【参考書】
ドナルド・コース、王寧、『中国共産党と資本主義』（日経 BP 社）

【成績評価の方法と基準】
定期試験　　80 %
課題の提出　　20 %

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイント、配布資料には要点をすべて書き込むのではなく、適当に空欄を設け、講義を聴きながら書き込むような工夫をしたい。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will study the development trend and factors of China 's macroeconomic economy under market economy system.
Among Chinese economists and policy officials, it is called economic system of socialism with Chinese character. We will consider its characteristics in comparison with the economic system with developed countries.
At the same time, analysis of the Chinese economy is essential from the viewpoint of development economics and transition economics theory.
Specifically, the following points will be the major issues to be examined
— Market economy system under the socialist system、Transition to the Chinese economy、Macroeconomic control system, role of government, regional development and disparity, trap of middle income country, relation between economic growth and political system.

ECN200CA

中国経済論 B

菊池　道樹

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の高度経済成長のミクロ要因としての企業組織の改革、および今後の成長に影響を及ぼす、人口・労働、食糧、農業・農村、環境問題などについて具体的なデータを用いて明らかにし、今後の問題点を検討する。

【到達目標】
中国企業の組織上の特徴、人口・労働市場の動向、食糧と農業、環境問題について、経済学の基礎知識をもとに正確に理解したうえで、今後の見通しを自分なりの見解を述べることができことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
中国経済が高成長を持続させる、ミクロ的要因としての新たな企業組織の展開について検討したうえで、今後の成長を左右すると思われる課題としての、人口労働、食糧・農業、環境・資源、政治体制などのトピックスをとりあげる。全体を通じて、今後の世界経済のなかで中国が果たす役割を見通す手がかりを得ることをめざす。
　数回にわたり、主なテーマについてレポートを提出してもらう。
パワーポイントを使用するほか、講義に関連する映像や写真を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	企業改革のプロセスと企業組織多様化の現状	経済制度改革に伴う、企業改革の動向と多様な企業組織の実情。
第 2 回	国有企業の成長の事例-「ハイアール企業集団」	国際的知名度が高い「ハイアール企業集団」をとりあげ、大規模企業における組織上の特徴を日本的経営と比較。
第 3 回	民間企業の成長の事例-「正泰企業集団」	代表的な民間企業、「正泰企業集団」を中心に, 中国独特の家族経営の組織上の特徴を検討。
第 4 回	対外開放政策の展開	１９７９年以降の中国政府による外資導入、貿易拡大政策を検討。
第 5 回	貿易の拡大の動向と現状	品目、相手国別に貿易の動向を概観したうえで、経済成長に及ぼした影響と現状について検討。
第 6 回	海外企業による投資の展開と現状	分野毎に投資額の推移の概観、経済成長に及ぼした影響と最近の実情も検討。
第 7 回	人口問題（1）-「一人っ子政策」の背景	「一人っ子政策」をとるにいたった事情を人口動態、毛沢東など指導者の考えについて考察。
第 8 回	人口問題（2）-「一人っ子政策」の展開と転換	「一人っ子政策」が経済成長に及ぼしてきた影響、政策の転換を実行する背景について検討。
第 9 回	「人口ボーナス（紅利）」の終焉	経済成長を促進する要因であった生産年齢人口の減少傾向を論証したうえで、日本など他国との比較において今後の見通しについて検討。
第 10 回	「未富先老」（豊かになる前に老いる）時代の到来？	医療や年金など社会保障制度について検討。
第 11 回	農業問題（１）-農業生産の動向と農業政策	農業生産動向と問題点を概観。農業の産業化という新たな動向にも注目。
第 12 回	農業問題（２）-食糧問題の推移と現状	レスター・ブラウンの問題提起、中国の新たな食糧問題。
第 13 回	農業問題（３）-「三農」問題と中国農業の行方	農民の貧困、農業の低迷、農村と都市の間の格差問題を分析。
第 14 回	経済成長と環境-環境汚染と政府の対応	経済成長に伴う環境問題の発生と推移、政府の対応、政策の変遷について紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第３、６、１０、１３回の講義が終了後にレポートを、それ以外の回終了後には感想を提出。「中国経済論 A」同様、中国の企業や農業、政治動向などに関する新聞、テレビの報道に接しておくこと。

【テキスト（教科書）】
市販の書物をテキストとしては使わず、毎回、パワーポイントで編集したレジメ、資料を配布し、それに沿って授業を進める。

【参考書】
「海爾（ハイアール）集団」（王曙光、東洋経済新報社)、「中国低層訪談録」（廖亦武、中国書店)、「中国で環境問題にとりくむ」（定方正毅、岩波新書）など興味深い本がたくさんあるので親しんでほしい。また、ドナルド・コース、王寧『中国共産党と資本主義』（日経 BP 社）にはぜひ挑戦してほしい。

【成績評価の方法と基準】
定期試験　　80 %
課題の提出　 20 %

【学生の意見等からの気づき】
「中国経済論 A」同様、パワーポイント、配布資料は工夫をしたい。また、双方向的な授業の進め方を取り入れる。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will study the characteristics of China's micro economy under market economy system.
Specifically, it includes (1) Chinese enterprise organization - state enterprises, private enterprises, (2) external economic relations - trade, investment, Japan - China economic relations, (3) population and economy, (4) economic growth and environmental problems.
Both are considered in comparison with the process of economic growth in developed countries.

ARS200xCA

世界の文化と思想 A

橋本　到

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外の文化と思想を理解するために、地域としてフランスを選び、文化と思想に関連する代表的な複数のテーマについて、それぞれ概観したのち、様々な研究蓄積、諸資料を踏まえて考察を加えることにより、当該地域の歴史や社会について、我が国と関連付けて広い視野に立ち、公正に理解できるようになることを目的とする。

【到達目標】
文化・思想に関連するテーマのうち、文学、言語、芸術（ジャポニズム）に焦点を当て、次の三点についてその概要と文化的意義を解説する。文学においては、近現代（18 世紀から 19 世紀）の人間の理解の変遷を文学のなかに見る。言語については、国際関係のなかで言語（フランス語）が国家形成に関わり、また、今後、国際関係の中でどのような意味を持つか、そして、芸術においては、自国の文化の再生に国外から異質なものを取り入れることの意義を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。映像資料の視聴、また、二回のレポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文学（1）	フランス文学の展開と重要な概念、人間理解にかかわる変遷などの概説
第 2 回	文学（2）	18 世紀文学に見る、人間理解の深化について
第 3 回	文学（3）	19 世紀文学に見る、人間理解の方向性（経済的存在としての人間）
第 4 回	映像資料（1）	上記（第 1 回から第 3 回）にかかわる実例（社会的上昇への欲望、手段としての金銭など）
第 5 回	言語と言語政策（1）	フランスの地方と統合の歴史、フランス語の歴史
第 6 回	言語と言語政策（2）	フランスの古典期から現代にかけての言語政策
第 7 回	言語と言語政策（3）	複言語主義（英語と対峙するフランス語）
第 8 回	言語と言語政策（4）	フランスの国内言語への政策
第 9 回	言語と言語政策（5）	外国語教育の実情と課題
第 10 回	ジャポニズム（1）	フランスから見た日本、幕末までの日仏関係、1890 年以前のフランス・ジャポニズム
第 11 回	ジャポニズム（2）	1890 年以降のフランス・ジャポニズム
第 12 回	ジャポニズム（3）	アニメ輸出、日仏の交流
第 13 回	映像資料（2）	上記（第 10 回から第 13 回）にかかわる実例
第 14 回	復習と進度の調整	これまでの講義をどれだけ理解したか復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のノート、配布物は適宜ふりかえり、講義の理解が円滑になるよう努力する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
・『新版フランス文学史』白水社（1992）。
・カルヴェ『言語政策とは何か』白水社（2000）。
・ジャポニズム学会『ジャポニズム入門』（2000）思文閣。
その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 80 %、二回のレポート各 10 %として成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義用の資料は、受講者の理解を助けるために作成しているが、さらに改良したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを、各自、利用できるようにしておくこと。

【Outline and objectives】
This course aims to encourage students to be interested in overseas, notably French culture and thought. For that purpose, we outline a number of representative themes related to French culture and thought and consider them as necessary based on research results. The goal is to allow students to understand French culture and society in broad terms in relation to Japan and to be able to understand fairly.

ARS200xCA

世界の文化と思想 B

橋本　到

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外の文化と思想を理解するために、地域としてフランスを選び、文化と思想に関連する代表的な複数のテーマについて概観したのち、様々な研究蓄積、諸資料を踏まえて考察を加えることにより、当該地域の歴史や社会について、我が国と関連付けて広い視野に立ち、公正に理解できるようになることを目的とする。

【到達目標】
文化・思想に関連するテーマのうち、植民地問題、移民問題をめぐる考え、構造主義哲学についてその概要を知り、植民地問題においては、アルジェリアをめぐる様々な苦悩、移民問題については、移民・受け入れ側双方のアイデンティティー、また、構造主義については、様々な矛盾の果に近代あるいはヨーロッパに向き合った知性の軌跡として構造主義が生まれたことを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。映像資料の視聴、また、二回のレポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アルジェリア・植民地問題（1）	フランスの植民地問題の概説
第 2 回	アルジェリア・植民地問題（2）	アルジェリア問題への知識人の対応
第 3 回	アルジェリア・植民地問題（3）	ド・ゴールによる解決とそれが残したもの
第 4 回	映像資料（1）	上記（第 1 回から第 3 回）にかかわる実例（知識人の態度）
第 5 回	移民問題（1）	フランスにおける移民問題の概説
第 6 回	移民問題（2）	フランスとヨーロッパの状況
第 7 回	移民問題（3）	アルジェリア系移民の教育問題
第 8 回	映像資料（2）	上記（第 5 回から第 7 回）に関連する映像
第 9 回	思想（1）	構造主義に達するまでの道のり。
第 10 回	思想（2）	ソシュール、フーコーの考え。
第 11 回	思想（3）	バルト、レヴィ=ストロースの考え。
第 12 回	思想（4）	ラカンの考え
第 13 回	思想（5）	リセにおける哲学教育
第 14 回	復習と進度の調整	これまでの講義を必要に応じてふりかえり、どれだけ理解したか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時間いっぱい講義することが多く、質問などがしにくいので、時間的に余裕をもって切り上げるようにしたい。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。

【参考書】
・ベルヴィエ『アルジェリア戦争 — フランスの植民地支配と民族の解放』白水社、クセジュ文庫。
・バンセル『植民地共和国フランス』（2011）岩波書店。
・久米博『現代フランス哲学』（1998）、新曜社。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 80 %、二回のレポートを各 10 %として成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
初年度講義につきなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを、各自、利用できるようにしておくこと。

【Outline and objectives】
This course aims to encourage students to be interested in overseas, notably French culture and thought. For that purpose, we outline a number of representative themes related to French culture and thought and consider them as necessary based on research results. The goal is to allow students to understand French culture and society in broad terms in relation to Japan and to be able to understand fairly.

SES200CA

環境科学 A

藤田　貢崇

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、地球の環境が太陽系の中で、いかに特徴的であるかを学ぶとともに、地球の形成史の中でどのように環境が変化してきたかを理解します。かけがえのない地球環境が汚染されている現状と、それをどう解決していくかの具体策を探りながら、環境に配慮した生活とはどのようなものであるかを考えます。

【到達目標】
地球環境の特殊性と、地球環境問題の理解ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は、太陽系の成り立ちと惑星の環境、地球環境の形成、現在の環境汚染、環境負荷を低減する技術と生活への応用等の 4 つのサブテーマから構成され、前半では天体としての地球の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の話題を提供します。太陽系の惑星や環境問題に興味のある学生の積極的参加を希望します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第 2 回	天体としての地球	地球環境の特殊性・ハビタブルゾーン
第 3 回	太陽系 (1)	太陽系の概観・形成史
第 4 回	太陽系 (2)	地球型惑星の特徴・金星と地球の類似点と相違点
第 5 回	地球環境の変遷	地球環境の形成史・環境の変遷
第 6 回	地球温暖化	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 7 回	酸性雨	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 8 回	有害物質の越境移動	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染・放射性廃棄物
第 9 回	砂漠化と都市気候	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第 10 回	生物多様性の減少	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第 11 回	オゾン層の破壊	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 12 回	宇宙の環境	宇宙開発・スペースデブリ
第 13 回	環境ビジネス	環境関連技術の進展
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュースなどで紹介される環境技術関連ニュースに注意しておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。

【参考書】
参考図書は授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験による 100 %の評価とし、60 %以上の得点率で単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
本科目は、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course tries to know how to make harmonious coexistence with the global environment and the specificity of Earth environment.

SES200CA

環境科学 B

藤田　貢崇

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代生活で重要な問題となっている環境関連の話題（海洋汚染の問題、原子力発電の問題、再生可能エネルギーの問題など）を取り上げ、それらの概要について学び、それらの問題についてジャーナリズムがどのように報じてきたかを理解する。
これらのことから、自らが環境問題について考える方法論を学び取り、今後さまざまな環境問題が発生する中で、どのように情報を取得し、どう評価するかを判断する能力を習得する。

【到達目標】
海洋汚染の問題、原子力発電の問題、再生可能エネルギーの問題などについて、何が課題になっているかを理解する。
それらの環境問題がどのように報じられているかを理解し、ジャーナリズムがすべての情報を示しているわけではないことを理解する。
自らが環境問題を考えるとき、そのような手法で情報を集め、それらをどのように評価するかを判断できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行い、配付された資料を読み、場合によってはさまざまな情報源にアクセスして理解を深める。必要に応じて、特定の課題について少人数で議論することもある。
環境問題は、すべての人々に関係する問題であるため、各自がさまざまな環境問題について、どのように考えるかを意識して授業に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第 2 回	環境問題とは何か	環境問題の成立要因や歴史について知る
第 3 回	環境問題の情報源	私たちが日常的に環境問題をどのように入手しているかを考え、問題点を探る
第 4 回	海洋汚染の事実	海洋汚染の事例を探る
第 5 回	海洋汚染の報道	海洋汚染がどのように報道されているかを知る
第 6 回	海洋汚染の改善	海洋汚染への対策の実例を探り、それらの効果を知る
第 7 回	原子力発電のしくみ	原子力発電やその他の発電のしくみについて理解する
第 8 回	原子力発電の利点と欠点	原子力発電の利点と欠点について理解する
第 9 回	原子力発電に関する報道	原子力発電がどのように報道されているかを知る
第 10 回	原子力発電の将来	原子力発電は今後、どのようにあるべきかを議論する
第 11 回	再生可能エネルギーのしくみ	さまざまな再生可能エネルギーのしくみについて理解する
第 12 回	再生可能エネルギーの利点・欠点と報道	再生可能エネルギーの利点・欠点について理解し、どのように報道されているかを理解する
第 13 回	環境問題とジャーナリズム	環境問題をジャーナリズムがどのように扱っているかを知り、またどうあるべきかを考える
第 14 回	まとめ	これまでの学習内容を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュースなどで紹介される環境技術関連ニュースに注意しておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。

【参考書】
参考図書は授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験による 100 %の評価とし、60 %以上の得点率で単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
本科目は、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course tries to know how to get information about global environment problems. Students consider responsibilities of journalism for environment problems more objectively.

MAN200CA

国際ビジネス論 A

山本　功

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネスに関わる限り、国際的な関わりを避けることはできない。本講義は国際的ビジネスに関わる際に重要と考えられるテーマを取り上げて概括する。その際、思考の 3 原則（本質的に考える、総合的に考える、長期的に考える）を念頭に置く。

【到達目標】
本授業を通じて、受講生は、デジタリアル経済時代におけるビジネスに関わる際に有用なビジネス分析の思考の枠組みとスキルを身に着けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業で使用する資料を PDF ファイルの形で提供する。簡単なリアクション・ペーパーを提出してもらう。現実の動きとして、いくつかの授業の冒頭で、日経新聞の記事を取り上げ、コメントしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ビジネスとは？	ビジネスとは何か。
2	ビジネスの担い手としての企業	ビジネスを担う主体である企業の本質とは何かを概観する。
3	経営とは？	企業には経営が必要だが、そもそも経営とは？
4	意思決定の基本	ロジカル思考、PDCA などビジネスにおける分析・意思決定アプローチを概観する。
5	企業分析①	事業戦略、企業戦略を考えるための分析ツールを概観する。
6	企業分析②	財務分析の基本となる財務諸表を概観する。
7	企業分析③	財務分析ツールを概観する。
8	企業分析④	Apple の企業分析。
9	企業分析⑤	日本企業の収益性分析。
10	企業分析⑥	株価の意味とは。
11	企業分析⑦	バリュエーション
12	企業分析⑧	ラクスルを分析する。
13	企業分析⑨	Google Amazon Apple Facebook などの台頭が意味することを考える。
14	企業分析⑩	日本企業の課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
提供された PDF を授業前後に読む。各授業で紹介された参考書を読み、論点を整理してみる。

【テキスト（教科書）】
PDF を提供する。

【参考書】
授業の際に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期中レポート（30 %）、期末試験（70 %）で成績評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特にコメント等はない。

【Outline and objectives】
No business cannot avod the international influences. This lecture will pick up the essential themes related to the international businesses. The themes are scrutinized based on “three principles of thinking” which are; thinking the core, thinking the big picture, and thinking in the long term.

MAN200CA

国際ビジネス論 B

山本　功

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本スタンスは国際ビジネス論 A と同じだが、本講義は、資本主義全体を概括し、企業と資本市場の在り方に検討を加え、新規事業開発の基本的アプローチを論ずる。最後に、キャリアパスの考え方に言及する。

【到達目標】
本授業を通じて、受講生は、資本主義の現在を俯瞰的に捉えることに加え、近年注目されているコーポレート・ガバナンスに関する理解を深め、日本企業・日本経済の再生戦略、資産運用戦略などを考えるための基本的知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業で使用する資料を PDF ファイルの形で提供する。簡単なリアクション・ペーパーを提出してもらう。授業の進捗状況及び受講生の要望により強調するテーマを適宜変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	資本主義とは①	資本主義の歴史の中で株式会社を位置づける。
2	資本主義とは②	資本主義の現状を考える。
3	コーポレート・ガバナンス①	企業ガバナンスの変遷を概観する。
4	コーポレート・ガバナンス②	株式会社のガバナンスに関する基本的論点を整理する。。
5	コーポレート・ガバナンス③	投資家・株主によるガバナンスに関する主要論点を整理する。
6	コーポレート・ガバナンス④	日本の株式会社ガバナンスと投資家の関係を考える。
7	いい会社とは	いい会社とは。それを判断するために何を見るか。
8	資本主義とは③	資本主義の未来を考える。
9	日本企業の新陳代謝と資本市場①	効率経営を考える。
10	日本企業の新陳代謝と資本市場②	M&A の功罪を考える。
11	日本企業の新陳代謝と資本市場③	スピンオフの功罪を考える。
12	新規事業開発①	新規事業開発のアプローチを考える。
13	新規事業開発②	不と未、リボン・モデルの活用。
14	キャリア・パスを考える	WCM モデルの活用。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
提供された PDF を授業前後に読む。各授業で紹介された参考書を読み、論点を整理してみる。

【テキスト（教科書）】
PDF を提供する。

【参考書】
授業の際に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期中レポート（30 %）、期末試験（70 %）で成績評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特にコメント等はない。

【Outline and objectives】
The basic approach is the same as that of International Business A. This lecture will touch upon the history if capitalism, the relationship between corporation and the capital market, and the basic approach to develop new businesses. The last theme will be career development.

ECN200CA

現代ファイナンス入門A

湯前　祥二

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します．ファイナンスでは，リターンとリスクという 2 つのキーワードを中心に据えて，資産運用にまつわる具体的な問題を扱います．

【到達目標】
株式会社について理解し，株式の理論価格を計算することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち，賢い選択をする」ための道具です．日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で，ポイントは無駄（無駄な手数料，無駄なリスク）を省くことです．
春学期は，株式の理論価格を題材にして，リターンを中心に学びます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第 2 回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第 3 回	事業循環	材料仕入れ，製造，販売，決算
第 4 回	財務諸表・事業計画	損益計算書，貸借対照表，改善ポイント
第 5 回	財務諸表分析	有価証券報告書
第 6 回	収益性の分析	資本利益率
第 7 回	安定性の分析	株主資本比率
第 8 回	デュポン・システム	株価と財務比率
第 9 回	株価の分解	EPS と PER
第 10 回	配当利回り	株価と DPS
第 11 回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第 12 回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第 13 回	株主資本の増加と配当の成長	サステイナブル成長率
第 14 回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「授業支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
井手正介，高橋文郎（2001），証券投資入門，日本経済新聞社．
井手正介，高橋文郎（2005），証券分析入門，日本経済新聞社．
井出正介（2008），株式投資入門，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

【Outline and objectives】
This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

ECN200CA

現代ファイナンス入門B

湯前　祥二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します．ファイナンスでは，リターンとリスクという 2 つのキーワードを中心に据えて，資産運用にまつわる具体的な問題を扱います．

【到達目標】
リターンとリスクについて理解し，両者を計算で求め，投資判断に用いることができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち，賢い選択をする」ための道具です．日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で，ポイントは無駄（無駄な手数料，無駄なリスク）を省くことです．
秋学期はリスクを扱います．リスク管理に必要な，リスク指標の計算方法や，リスク分散を学びます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第 2 回	インデクス運用	市場ポートフォリオ
第 3 回	アクティブ運用	成功の条件
第 4 回	複利	最初の数字の賭け，割り算距離
第 5 回	複利計算の頻度	半年複利，連続複利
第 6 回	確定利付証券	元本，クーポン
第 7 回	金利期間構造	期間構造仮説
第 8 回	リスク管理	金融工学の機能
第 9 回	分布	離散型と連続型
第 10 回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第 11 回	標準偏差と VaR	正規分布
第 12 回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第 13 回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第 14 回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「授業支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
井手正介，高橋文郎（2001），証券投資入門，日本経済新聞社
井手正介，高橋文郎（2005），証券分析入門，日本経済新聞社
井出正介（2008），株式投資入門，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

【Outline and objectives】
This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

LANe200CA

Business Communication Ⅰ A

Richard Evanoff

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

2016 年度以降入学生

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will learn the basics of international business communication.

【到達目標】
This course is intended to prepare students to use English in international business situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Both the teacher and students will present chapters from the textbook, with selected exercises for students. Supplementary lectures will be given by the teacher on topics not covered by the textbook.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Explanation by teacher
2	Globalization in Business and Culture	Lesson 1 in textbook
3	Business Manners: Body Language	Lesson 2 in textbook
4	Names, Titles, and Terms of Respect	Lesson 3 in textbook
5	Business Etiquette	Lesson 4 in textbook
6	Individualism and Group Spirit	Lesson 5 in textbook
7	Working Overseas	Lesson 6 in textbook
8	Coping with Language and Culture Shock	Lesson 7 in textbook
9	Hospitality and Friendship	Lesson 8 in textbook
10	Negotiations: Cultural Differences	Lesson 9 in textbook
11	Negotiation for "Win-Win" Solutions"	Lesson 10 in textbook
12	International Business Negotiations	Supplementary lecture (1)
13	Cross-cultural Business Management	Supplementary lecture (2)
14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Home preparation for student presentations is required.

【テキスト（教科書）】
Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
Nones

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course focuses on the following activities: preparing and giving presentations of chapters from the textbook, listening to lectures given the teacher, and discussing material presenting both in the textbook and by the teacher.

LANe200CA

Business Communication Ⅰ B

Richard Evanoff

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

2016 年度以降入学生

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will learn the basics of international business communication.

【到達目標】
This course is intended to prepare students to use English in international business situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Both the teacher and students will present chapters from the textbook, with selected exercises for students. Supplementary lectures will be given by the teacher on topics not covered by the textbook.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Explanation by teacher
2	US and Japanese Business: A Case Study	Lesson 11 in textbook
3	Marketing, Advertising, and Distribution	Lesson 12 in textbook
4	Communication in the "Thumb Generation"	Lesson 13 in textbook
5	Women in the International Workplace	Lesson 14 in textbook
6	Changes in Employment Systems	Lesson 15 in textbook
7	Establishing Trust in International Business	Lesson 16 in textbook
8	International Business and the Internet	Lesson 18 in textbook
9	Business and the Law: Foreign Lawsuits	Lesson 18 in textbook
10	Questions about Globalization and Free Trade	Lesson 19 in textbook
11	What is Success in the Global Business World?	Lesson 20 in textbook
12	Advertising and Public Relations	Supplementary lecture (1)
13	Intercultural Communication and Globalization	Supplementary lecture (2)
14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Home preparation for student presentations is required.

【テキスト（教科書）】
Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course focuses on the following activities: preparing and giving presentations of chapters from the textbook, listening to lectures given the teacher, and discussing material presenting both in the textbook and by the teacher.

LANe200CA

Business Communication Ⅰ A

グレン・ファーン

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学生

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This elementary level business English course will help students to learn specialized vocabulary that they can use in a business environment. The lessons in the textbook not only contain speaking exercises but also, reading, grammar as well as short writing activities. In addition to the textbook activities, students will watch/listen and discuss a podcast. The internet will be used by students to collect additional material for inclass activities.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Discussion of course requirements. Introduction of study materials.
2	Talking About Your Company	Describing a company and its products/services.
3	Talking About Your Company	Describing a company and its products/services.
4	Making Conversation	Socializing at business events(1).
5	Making Conversation	Socializing at business events(2).
6	Arranging Meetings and Schedules	Making requests and giving suggestions.
7	Arranging Meetings and Schedules	Talking on the telephone.
8	Getting Ahead	Cover letters and resumes.
9	Getting Ahead	Common job interview questions.
10	Turning a Company Around	Identifying the problem. A case study.
11	Turning a Company Around	Identifying a solution.
12	Describing Processes	An introduction to describing a process.
13	Describing Processes	Describing the process of solving a problem.
14	Review	Summary and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
. keep a vocabulary notebook
. preview/review vocabulary for each unit regularly
. preview/review unit grammar regularly
. ask questions if you need help

【テキスト（教科書）】
Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman,　ISBN 9780130883964

【参考書】
English dictionary

【成績評価の方法と基準】
1. Overall effort and attitude　25%
2. Participation in class discussions　25%
3. Speaking tests　25%
4. Projects/presentations/reports　25%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【Outline and objectives】
This elementary level business English course will help students to learn specialized vocabulary that they can use in a business environment. The lessons in the textbook not only contain speaking exercises but also, reading, grammar as well as short writing activities. In addition to the textbook activities, students will watch/listen and discuss a podcast. The internet will be used by students to collect additional material for inclass activities.

LANe200CA

Business Communication Ⅰ B

グレン・ファーン

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

2016 年度以降入学生

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This elementary level business English course will help students to learn specialized vocabulary that they can use in a business environment. The lessons in the textbook not only contain speaking exercises but also, reading, grammar as well as short writing activities. In addition to the textbook activities, students will watch/listen and discuss a podcast. The internet will be used by students to collect additional material for inclass activities.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Discussion of course requirements. Introduction of study materials.
2	Teamwork	The language of teamwork(1).
3	Teamwork	The language of teamwork(2).
4	Managing Change	Innovation and change(1).
5	Managing Change	Innovation and change(2).
6	Clients and Customers	Language for customer service(1).
7	Clients and Customers	Language for customer service(2).
8	Corporate Goals	Identifying and describing goals(1).
9	Corporate Goals	Identifying and describing goals(2).
10	Describing and Comparing Products	Language for describing and comparing products/services(1).
11	Describing and Comparing Products	Language for describing and comparing products/services(2).
12	Challenges to Management	Language for negotiating(1).
13	Challenges to Management	Language for negotiating(2).
14	Review	Summary and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
. keep a vocabulary notebook
. preview/review vocabulary for each unit regularly
. preview/review unit grammar regularly
. ask questions if you need help

【テキスト（教科書）】
Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman,ISBN 9780130883964

【参考書】
English dictionary

【成績評価の方法と基準】
1. Overall effort and attitude　25%
2. Participation in class discussions　25%
3. Speaking tests　25%
4. Projects/presentations/reports　25%

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【Outline and objectives】
This elementary level business English course will help students to learn specialized vocabulary that they can use in a business environment. The lessons in the textbook not only contain speaking exercises but also, reading, grammar as well as short writing activities. In addition to the textbook activities, students will watch/listen and discuss a podcast. The internet will be used by students to collect additional material for inclass activities.

ECN200CA

経済データ分析 A

明城　聡

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計学・計量経済学を応用した経済データの分析

【到達目標】
統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上で Excel を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って Excel を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いてレポートとして提出するものとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の計量化 ・ローレンツ曲線
6	関係の記述	・散布図 ・偏相関、時差相関、自己相関 ・相関関係と因果関係
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定	・仮説検定と有意水準 ・母平均・母分散に関する検定・推定 ・2 群比較
10	平均に関する群間比較	・分散分析 ・1 元配置法と 2 元配置法
11	外れ値の処理	・外れ値の検出 ・外れ値の処理
12	クロス集計と関連分析	・クロス集計表 ・独立性の検定
13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】
統計学の参考書としては
・「統計学入門」、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会
EXCEL の使い方やデータ分析については
・滝川好夫・前田洋樹「経済学のための Excel 入門」日本評論社

【成績評価の方法と基準】
宿題 (20%) と課題レポート (80%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを利用します。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in the exercise using PC and statistical software (EXCEL).

ECN200CA

経済データ分析Ｂ

明城　聡

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計パッケージを利用したより高度な経済データ分析

【到達目標】
秋学期の授業では、統計パッケージ R を用いた演習を行います。R の特徴は Excel よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学の手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・K 変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期の経済データ分析 A に加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてレジメを配布します。

【参考書】
R の操作やデータ分析については
・「R による統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店
・「R による計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店
計量経済学については
・山本拓「計量経済学」新世社
統計学の参考書としては
・「統計学入門」、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
宿題 (20%) と課題レポート (80%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使います。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
Objectives of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

ECN200CD

経済地理

近藤　章夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、都市・地域経済の基礎と応用、産業の立地論、経済の空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	人口と経済成長①	人口構造と人口転換
第 3 回	人口と経済成長②	経済成長と発展格差
第 4 回	都市経済の基礎①	都市化と都市発展
第 5 回	都市経済の基礎②	都市内部構造と都市システム
第 6 回	産業の立地①	立地論の系譜とアプローチ
第 7 回	産業の立地②	工業立地論の枠組と応用
第 8 回	経済の空間構造①	日本の地域構造
第 9 回	経済の空間構造②	地域構造の比較制度分析
第 10 回	都市・地域経済の応用①	地域成長と地域間交易
第 11 回	都市・地域経済の応用②	地域間格差と人口移動
第 12 回	国土計画と地域政策①	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第 13 回	国土計画と地域政策②	都市・地域問題の現状と新たな政策
第 14 回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
河野稠果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会
デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン桐原
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣
竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
期末レポートの評価（80%）が中心となる。授業時リアクションペーパー（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（10%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】
The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD

産業集積論

近藤　章夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、産業の歴史と地理に焦点をあて、産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における集積の実態を概説する。

【到達目標】
現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料と板書を基本とする。予習は必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第 3 回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第 4 回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第 5 回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第 6 回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第 7 回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第 8 回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第 9 回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第 10 回	自動車大国日本の行方②	日本的生産システムとグローバル戦略
第 11 回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第 12 回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第 13 回	知識経済化とグローカル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第 14 回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
松原宏編（2018）『産業集積地域の構造変化と立地政策』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
期末レポートの評価（80%）が中心となる。授業時リアクションペーパー（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（10%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】
The aim of this lecture is to give participants a comprehensive survey of geographical agglomeration in industrial geography. Key themes focus on historical and geographical change, locaization and globalization, and changing geographies of industries.

MAN200CA

会計学入門A

石田　惣平

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計は会社を映す鏡であり、会計を理解することで会社を深く知ることができます。本講義では、財務諸表を読み解き、それをもとに会社を分析できるようになることを目標としています。

【到達目標】
財務諸表を読み解き、それをもとに会社を分析できるようになることが講義の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
プレゼンテーション形式で講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション
2	会計の種類と役割	会計の種類と役割
3	財務会計のシステムと原則	財務会計のシステムと原則
4	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
5	仕入・生産活動	仕入・生産活動
6	販売活動	販売活動
7	中間テスト	中間テスト
8	設備投資と研究開発	設備投資と研究開発
9	資金の管理と運用	資金の管理と運用
10	国際活動	国際活動
11	税金と配当	税金と配当
12	財務諸表の作成と公開	財務諸表の作成と公開
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習箇所については、授業において適宜、指示します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
中間テストを 40 点、期末テストを 60 点の計 100 点満点で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12 桁）。

【その他の重要事項】
会計学入門 B も合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary knowledge needed to understand and analyze financial statements.

MAN200CA

会計学入門B

石田　惣平

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計は会社を映す鏡であり、会計を理解することで会社を深く知ることができます。本講義では、財務諸表を読み解き、それをもとに会社を分析できるようになることを目標としています。

【到達目標】
財務諸表を読み解き、それをもとに会社を分析できるようになることが講義の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
プレゼンテーション形式で講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション
2	財務諸表分析の基礎	財務諸表分析の基礎
3	財務諸表の見方	財務会計のシステムと原則
4	貸借対照表データによる安全性分析	貸借対照表データによる安全性分析
5	損益計算書データによる収益性分析	損益計算書データによる収益性分析
6	相互関係比による収益性分析	相互関係比による収益性分析
7	中間テスト	中間テスト
8	効率性分析	効率性分析
9	キャッシュフロー・データによる分析	キャッシュフロー・データによる分析
10	損益分岐点分析	損益分岐点分析
11	キャッシュフローにもとづく株式価値評価	キャッシュフローにもとづく株式価値評価
12	会計利益もとづく株式価値評価	会計利益もとづく株式価値評価
13	利益マネジメントと財務諸表分析	利益マネジメントと財務諸表分析
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習箇所については、授業において適宜、指示します。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
中間テストを 40 点、期末テストを 60 点の計 100 点満点で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12 桁）。

【その他の重要事項】
会計学入門 A も合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary knowledge needed to understand and analyze financial statements.

MAN200CA

原価計算 A

梅津　亮子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日的課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

【到達目標】
原価計算システムの理論構造を理解し、各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算（ABC）の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算（ABC）の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。

【テキスト（教科書）】
小川洌・小澤康人編『原価会計の基礎』創成社。

【参考書】
必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 90 %、小テスト 10 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】
The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA

原価計算 B

梅津　亮子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であって、原価計算の仕組みを考察する意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日的課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

【到達目標】
原価計算システムの理論構造を理解し、各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価、連産品と副産物の区別
第 11 回	標準原価計算①	実際原価の問題点、標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。

【テキスト（教科書）】
小川洌・小澤康人編『原価会計の基礎』創成社。

【参考書】
必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 90 %、小テスト 10 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】
The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA

コーポレートガバナンス論 A

胥　鵬

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コーポレート・ガバナンス論 A のテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】
コーポレート・ガバナンス論 A の学習目標は、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
インターネット、ビジュアル資料を通じて、豊富なデータベースを利用して、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてわかりやすく説明し、グループ課題を通じてレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第 2 回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第 3 回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第 4 回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第 5 回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第 6 回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第 7 回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第 8 回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第 9 回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第 10 回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第 11 回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第 12 回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第 13 回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第 14 回	グループ課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みたい。

【テキスト（教科書）】
テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】
宮島英昭［2007］(編著)『日本の M&A 』、東洋経済新報社
宮島英昭編［2011］『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社、近刊

【成績評価の方法と基準】
平常点とグループ期末課題レポートで評価する。全体評価＝平常点（30%）＋期末グループ課題レポート（70%）で評価。なお、成績評価にはグループ課題参加が必須。

【学生の意見等からの気づき】
早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン持参

【その他の重要事項】
米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】
ＭＢＯ、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析

【Outline and objectives】
The theme of Corporate Governance Theory A is to learn systems such as general shareholders' meeting, exercise of voting rights, stewardship code, individual disclosure of the exercise of voting rights by institutional investors, understand the relationship between exercise of voting rights and corporate governance using data.

MAN200CA

コーポレートガバナンス論Ｂ

胥　鵬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コーポレート・ガバナンス論 B のテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】
コーポレート・ガバナンス論 B の学習目標は、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第 2 回	取締役会	規模、構成と独立性
第 3 回	監査役の義務	監査役は目付役
第 4 回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第 5 回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第 6 回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第 7 回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第 8 回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第 9 回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第 10 回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進
第 11 回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第 12 回	1 億円以上役員報酬の開示	1 億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第 13 回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第 14 回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集したコーポレートガバナンス報告書等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みる。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】
宮島英昭［2007］(編著)『日本の M&A 』、東洋経済新報社
宮島英昭編［2011］『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社、近刊
参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】
平常点と期末課題レポートで評価する。全体評価＝平常点（30%）＋期末グループ課題レポート（70%）で評価。最初の 1 回目や 2 回目で受講者をグループ分けする。なお、成績評価にはグループ課題参加が必須。

【学生の意見等からの気づき】
早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン持参

【その他の重要事項】
米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】
ＭＢＯ、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

【Outline and objectives】
The theme of Corporate Governance Theory B is choice of a Board of Corporate Auditors, or a committee such as audit etc., or a nominating committee etc., the board of directors, outside directors, executive compensation, stock options, corporate governance code.

CAR200CA

企業実務研究 A

武田　浩一

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最新の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。自らのビジネス体験に基づいて講義していく。
本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。
そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】
本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、講師と受講生によるクロストークの時間を設けるので、積極的に発言しなければならない。その上で、質疑応答と小レポートも毎回提出しなければならない。実務研究という科目の性格上、積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、私語や授業態度の悪い学生は論外である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（出席必須）	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	中国のビジネス事情	「中国の合弁事情」
第 3 回	ブラジルのビジネス事情	「ブラジルの物流事情」
第 4 回	インドのビジネス事情	インドのビジネス事業に関する講義
第 5 回	アメリカのビジネス事情	「アメリカの IT ベンチャーと事業投資」
第 6 回	中東のビジネス事情	「中東ビジネスの特異性」
第 7 回	ヨーロッパのビジネス事情	「欧州通貨統合と金融市場」
第 8 回	ロシアのビジネス事情	「中国ビジネスとの比較など」
第 9 回	アセアンのビジネス事情	「アセアン経済共同体（AEC）と事業投資」
第 10 回	その他	中央省庁の仕事（例）
第 11 回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第 12 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（1）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 13 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（2）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 14 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（3）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講師が用意した資料を「授業支援システム」上で事前にアップロードするので、各自予習してくること。

【テキスト（教科書）】
各講師が用意するレジュメ

【参考書】
各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（100%）。
私語厳禁。授業態度の悪い学生も不可とする。
※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度、授業評価アンケートで、インターンシップに関してのガイダンスが分かりにくかったという指摘受けたので、インターンシップのガイダンスをわかりやすく、丁寧にすることを心がける。

【その他の重要事項】
履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第 1 回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

【Outline and objectives】
This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business.

CAR200CA

企業実務研究Ｂ

武田　浩一

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。

【到達目標】
インターンシップの経験をより具体的によりわかり易くプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。
参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要説明・報告スケジュールの確認
第 2 回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①
第 3 回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第 4 回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第 5 回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第 6 回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第 7 回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第 8 回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第 9 回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第 10 回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第 11 回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第 12 回	受講者による報告、討論⑪	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑪
第 13 回	受講者による報告、討論⑫	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑫
第 14 回	受講者による報告、討論⑬	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
『理論と実践で自己決定力を伸ばす　キャリアデザイン講座』日経 BP 社、2009 年

【成績評価の方法と基準】
①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000 字、A4）（25%）
③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない。）（25%）
派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。未手続き者は不可とする。
また、当然ながら、サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可とする。
※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
同一企業のインターンシップ参加者がかなり多数の場合の各自のプレゼンの仕方を工夫したい。

【その他の重要事項】
履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1 回目の講義に必ず出席すること。

【Outline and objectives】
This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business.　Students should officially register for the summer internship in which they are completing the internship requirements.

ECN300CA

現代経済学応用 A

島澤　諭

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
入門レベルの経済学を習得した学生を対象に、マクロ経済学の基礎理論を体系的に講義する。現実のマクロ経済問題を考える際の基礎となるマクロ経済指標の読み方からマクロ理論モデルの基本概念から最近のトピックスまでを幅広く紹介する予定。

【到達目標】
現実のマクロ経済を理解するうえで欠かすことのできない、オーソドックスなマクロ経済理論について、理解する。また、日本のマクロ経済を取り巻く問題を把握する。その上で、日本のマクロ経済を取り巻くさまざなま環境変化を考慮したとき、今後の日本経済がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。なお、公務員試験や大学院の受験を目指す学生にも配慮して講義レベルを設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進める。理論の説明の際は、数式やグラフを多用するため、板書は多めとなる。理論の理解の補強を図るため、最新のマクロ経済情勢を踏まえながら、日本のマクロ経済が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の内容紹介
第 2 回	マクロ経済学とは何か？	ミクロ経済学、マクロ経済学、新古典派、ケインジアン、部分均衡分析、一般均衡分析
第 3 回	GDP とは何か？（1）	国民経済計算、フロー、ストック
第 4 回	GDP とは何か？（2）	日本のマクロ経済指標
第 5 回	経済成長と人口、技術の役割（1）	ハロッド＝ドーマーモデル
第 6 回	経済成長と人口、技術の役割（2）	ソロー＝スワンモデル
第 7 回	経済成長と人口、技術の役割（3）	成長会計、内生的成長モデル
第 8 回	消費の決定（1）	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
第 9 回	消費の決定（2）	貯蓄率の推移
第 10 回	投資の決定（1）	投資の種類、投資の限界効率、アニマルスピリッツ
第 11 回	投資の決定（2）	最適資本ストック、トービンの q
第 12 回	労働市場と失業（1）	日本の労働市場、失業の種類、失業率の定義
第 13 回	労働市場と失業（2）	フィリップス曲線
第 14 回	まとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースを TV や新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
柴田章久、宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013 年

【参考書】
[1] 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久『マクロ経済学 新版』、有斐閣、2016 年
[2] 井堀利宏『入門マクロ経済学 第3版』、新世社、2011 年
[3] 浅子和美・倉澤資成・加納悟『マクロ経済学 第2版』、新世社、2009 年
[4] 竹田 陽介・小巻 泰之『マクロ経済学をつかむ』、有斐閣、2006 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）及び筆記テストによる期末試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい授業及び板書を心掛ける

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること

【Outline and objectives】
In this course, the students study the several macroeconomic models with/without micro-foundations.

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of macroeconomic theory, by using data of Japanese economy.

ECN300CA

現代経済学応用 B

島澤　諭

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2010 年度以降入学者※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
入門レベルの経済学を習得した学生を対象に、マクロ経済学の基礎理論を体系的に講義する。現実のマクロ経済問題を考える際の基礎となるマクロ経済指標の読み方からマクロ理論モデルの基本概念から最近のトピックスまでを幅広く紹介する予定。

【到達目標】
現実のマクロ経済を理解するうえで欠かすことのできない、オーソドックスなマクロ経済理論について、理解する。また、日本のマクロ経済を取り巻く問題を把握する。その上で、日本のマクロ経済を取り巻くさまざなま環境変化を考慮したとき、今後の日本経済がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。なお、公務員試験や大学院の受験を目指す学生にも配慮して講義レベルを設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進める。理論の説明の際は、数式やグラフを多用するため、板書は多めとなる。理論の理解の補強を図るため、最新のマクロ経済情勢を踏まえながら、日本のマクロ経済が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の内容紹介
第 2 回	所得分配と格差（1）	限界原理
第 3 回	所得分配と格差（2）	日本の格差の姿
第 4 回	再分配政策（1）	公的扶助、社会福祉、社会保険、公衆衛生
第 5 回	再分配政策（2）	ジニ係数、ローレンツ曲線、負の所得税
第 6 回	政府支出の役割（1）	政府の役割、アナウンスメント効果
第 7 回	政府支出の役割（2）	乗数効果
第 8 回	少子高齢化と財政（1）	日本の人口と財政の姿
第 9 回	少子高齢化と財政（2）	世代間格差、世代会計
第 10 回	政策決定の政治経済学（1）	中位投票者の定理、投票行動、良い棄権と悪い棄権
第 11 回	政策決定の政治経済学（2）	シルバーデモクラシー
第 12 回	開放経済	国際収支、為替レート
第 13 回	景気循環理論	日本の景気循環、CI と DI、景気基準日付
第 14 回	まとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースを TV や新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
柴田章久、宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013 年

【参考書】
[1] 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久『マクロ経済学 新版』、有斐閣、2016 年
[2] 井堀利宏『入門マクロ経済学 第3版』、新世社、2011 年
[3] 浅子和美・倉澤資成・加納悟『マクロ経済学 第2版』、新世社、2009 年
[4] 竹田 陽介・小巻 泰之『マクロ経済学をつかむ』、有斐閣、2006 年
[5] 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』、日本経済新聞出版社、2017 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）及び筆記テストによる期末試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい授業及び板書を心掛ける

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること

【Outline and objectives】
In this course, the students study the several macroeconomic models with/without micro-foundations.

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of macroeconomic theory, by using data of Japanese economy.

ECN300CA

日本経済史 A

長原　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1)　明治維新（1868 年）から第一次世界大戦にかけての日本資本主義の「形成− 成立」過程を「史実」として現れる歴史具体的な過程として理解すること。
(2)　単なる「史実」の〝羅列〟ではなく、これらの「史実」が日本における産業資本の確立を構成する 3 つの「商品」————資本・労働・土地————とその蓄積の維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解できるようになること。

【到達目標】
到達目標は以下の 2 点である。
(1)　日本における「歴史的近代」が成立していく過程を「資本」形成の視点から大摑みにできるようになること。
(2)　その際、具体的「史実」とその「理論− 論理」的理解を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
1 大テーマごとに「レジュメ」を配布する。
2 レジュメに基づく徹底的な Note-Taking を指導する。
3 最初の 10 分は前回講義復習、最後の 10 分は当日講義についての質問にあてる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済史と経済理論 (1)	経済史理解に最低限必要な経済理論を講義する。
第 2 回	経済史と経済理論 (2)	経済史概念と理論的概念の「照合」を行う。
第 3 回	明治維新の「政治経済学」(1)	「地租改正」の政治経済史意義について
第 4 回	明治維新の「政治経済学」(2)	「秩禄処分」の政治経済史意義について
第 5 回	明治維新の「政治経済学」(3)	「殖産興業」の政治経済史意義について
第 6 回	明治維新の「政治経済学」(4)	「大熊財政」と「松方財政」：これまでの「小括」
第 7 回	日本における産業革命 (1)	日本における「産業革命」の特殊性：軽工業分門 (1)
第 8 回	日本における産業革命 (2)	日本における「産業革命」の特殊性：重工業部門 (2)
第 9 回	日本における産業革命 (3)	日本における再生産構造の特殊性
第 10 回	産業資本の社会経済構造 (1)	1890 年恐慌の意味
第 11 回	産業資本の社会経済構造 (2)	財閥と地主制
第 12 回	産業資本の社会経済構造 (3)	二重構造
第 13 回	日本資本主義と「戦間期」：日本経済史 B のために	第一次世界大戦の意味
第 14 回	総括と質問日	日本経済史 A の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。

【テキスト（教科書）】
授業中に配布するレジュメ

【参考書】
三和良一『概説　日本経済史　近現代』[第 3 版]、東京大学出版会、2012 年、2500 円＋税
中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、初版、第 2 刷、2015 年、2800 円＋税

【成績評価の方法と基準】
記述式の定期試験によって成績を評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
講義冒頭で前回講義のサマリーを行うことが求められていることに気づかされた。

【専門分野】
日本経済史・経済理論

【研究テーマ】
経済史方法論・経済理論

【主要業績】
『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

【Outline and objectives】
(1) Our class aims at understanding the specific period from the Meiji Restoration (1868) to the WWI as the "formation-establishment" process of Japanese Capitalism.
(2) (1) is, however, composed not simply of chronologically “sorting out” the historicals facts but rather of theoretico-historical grasping of the productive factors of capitalism such as capital, labour, and land in relation to the establishment of the modern social institutions of course including the State called “Nippon”.

ECN300CA

日本経済史 B

長原　豊

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1)　「戦間期」日本資本主義の展開を「史実」に基づいて跡づけ、世界史的なフォーディズム体制からポスト・フォーディズム体制への移行の日本における準備段階を理解すること。
(2)　　単なる「史実」の〝羅列〟ではなく、これらの「史実」が日本における金融資本の確立・再変質とその維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解すること。
(3)　戦後経済の日本経済論としての理解のための俯瞰図を獲得すること。

【到達目標】
到達目標は以下の 2 点である。
(1)　日本の「歴史的近代」が「戦間期」にたどる過程を世界史的観点から捉えること。
(2)　またそのさい、「史実」とその「理論− 論理」的理解を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
(1)　大テーマごとに「レジュメ」を配布する。
(2)　レジュメに基づく徹底的な Note-Taking を指導する。
(3)　最初の 10 分は前回講義復習、最後の 10 分は当日講義についての質問にあてる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第一次世界大戦の「世界史」的意義 (1)	パクス・ブリタニカの黄昏と日本経済
第 2 回	第一次世界大戦の「世界史」的意義 (2)	金本位体制の「変質」の「世界経済史」的意味
第 3 回	第一次世界大戦の「世界史」的意義 (3)	市場と国家− 制度の変容を比較史的に総括する。
第 4 回	戦間期における景気循環	戦間期における「景気循環」の特徴を一括的に整理する。
第 5 回	戦間期における日本経済の新展開	日本経済の「成長」とそれに付随する社会問題の展開を跡づける。
第 6 回	戦間期における経済政策 (1)	戦間期における「政策」の一覧表を呈示し、その意味を整理する。
第 7 回	戦間期における経済政策 (2)	第 6 回講義の続き（産業政策）。
第 8 回	戦間期における経済政策 (3)	第 7 回講義の続き（社会政策と農業政策）。
第 9 回	昭和恐慌	(1) 金融恐慌 →(2) 井上財政と金解禁 →(3) 昭和恐慌を一連の過程として説明する。
第 10 回	「高橋財政」の政策体系 (1)	「高橋財政」の政策体系をその現代的意味から理解する。
第 11 回	「高橋財政」の政策体系 (2)	第 10 回講義のつづき。
第 12 回	戦時経済の今日的意味	「高橋財政」と「戦時統制経済」との連続性と非連続性
第 13 回	戦後日本経済を理解するために	1945 年体制と 1955 年体制
第 14 回	日本経済史 B の総括と質問日	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。

【テキスト（教科書）】
授業中に配布するレジュメ

【参考書】
三和良一『概説　日本経済史　近現代』[第 3 版]、東京大学出版会、2012 年、2500 円＋税
中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、初版、第 2 刷、2015 年、2800 円＋税

【成績評価の方法と基準】
記述式の定期試験によって成績を評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
講義冒頭で前回講義のサマリーを行うことが求められていることに気づかされた。

【専門分野】
日本経済史・経済理論

【研究テーマ】
経済史・経済史方法論・経済理論

【主要業績】
『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

【Outline and objectives】
(1)　Our class aims at historically trace the development of Japanese Capitalism and and the necessary changes associated with it in the inter-war phase based and then to define the former as the part of the preliminary stage for the world-wide transformation from the fordism to the post-fordism.
(2)　(1) is, however, composed not simply of hronologically “sorting out” the historicals facts but rather of theoretico-historical grasping of the estabslihsment of Japanese Finance Capitalism and the social institutions closely associated with it.
(3)　(1) and (2) also aim at having a bird’s-eyes view of the Japanese Economy after the WWII.

ECN200CA

社会経済思想史 A

後藤　浩子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパにおける重商主義の形成」
本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状況を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17 世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやコルベールの財政政策に支えられたルイ 14 世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらしうる国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】
学生が、この講義を通して、17 世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの見方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第 1 サイクル。以降 14 回までの本学期の講義内容は、高校世界史 A ／ B における「ヨーロッパの拡大と大西洋世界： 16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (2)	重商主義の実相
第 3 回	資本蓄積システムの第２サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第 4 回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド (1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第 5 回	ポスト・オランダをめぐる競争:フランス対イングランド (2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第 6 回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とペティへの影響
第 7 回	W・ペティ (1)	経歴とアイルランド測量
第 8 回	W・ペティ (2)	『租税貢納論』
第 9 回	W・ペティ (3)	『政治算術』
第 10 回	Ｊ・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第 11 回	Ｊ・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第 12 回	Ｃ・ダヴナント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第 13 回	Ｄ・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第 14 回	資本蓄積システムの第３サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、毎回の講義の後に、A4 のリアクション・ペーパーに講義の内容をまとめたレポートを作成し、次回の授業の際にそれを提出します。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を配布します。

【参考書】
イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）
ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
米田昇平『欲求と秩序： 18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と春学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想史的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline and objectives】
"The formation of mercantilism in Europe"
To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth-and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it provides an introduction to major theorists of social and economic thought of that time.
In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial supremacy. Against this backdrop, questions such as “what is the strength of nation?” and “what regime brings economic prosperity?” were discussed among intellectuals, which was to form mercantilism.

ECN200CA

社会経済思想史 B

後藤　浩子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「重商主義批判の流れと経済学の形成」
戦費調達の必要に迫られ、17 世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17 世紀来のコルベール的工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18 世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は 1720 年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沫事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は『国富論』に結実します。

【到達目標】
学生が、この講義を通して、17 世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18 世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義形式となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降 14 回までの本学期の講義内容は、高校世界史 A ／ B における「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と 18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第 3 回	ボワギルベール (1)	欲求と富
第 4 回	ボワギルベール (2)	自然的自由の体制の希求
第 5 回	Ｊ・Ｆ・ムロン (1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第 6 回	Ｊ・Ｆ・ムロン (2)	貨幣と信用
第 7 回	Ｒ・カンティロン (1)	商業の一般法則の分析
第 8 回	Ｒ・カンティロン (2)	市場価格と貨幣流通
第 9 回	Ｆ・ケネー (1)	「経済表」：国富の循環の分析
第 10 回	Ｆ・ケネー (2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第 11 回	Ａ・スミス (1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第 12 回	Ａ・スミス (2)	「重商主義体系」批判
第 13 回	Ａ・スミス (3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第 14 回	Ａ・スミス (4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、毎回の講義の後に、A4 のリアクション・ペーパーに講義の内容をまとめたレポートを作成し、次回の授業の際にそれを提出します。

【テキスト（教科書）】
とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を配布します。

【参考書】
イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）
ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
米田昇平『欲求と秩序： 18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）
ジャン=フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015 年）

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と秋学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想史的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline and objectives】
"Criticism of mercantilism and formation of political economy"
In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.

ECN300CA

農業経済論 A

西澤　栄一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の農業は、農家の減少や耕作放棄地の増加、農産物の市場開放などのさまざまな課題に直面している。こうした農業の問題は、私たちの生活や経済全体に密接に関係している。この授業では、経済学の手法を用いつつ、日本の農業の分析と考察を行う。

【到達目標】
①日本農業の現状を理解する。
②食料・農業問題の経済学的な分析手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。現代経済学入門を履修済みであることを想定して授業を進める。経済政策論 A または公共経済論 A を履修済みであるか、同時履修が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業ガイダンスと日本農業の現在
第 2 回	食生活の変遷	エンゲルの法則、食の外部化
第 3 回	食料の需要・供給	フードシステム、弾力性
第 4 回	食の安全	GAP、HACCP
第 5 回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第 6 回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第 7 回	食料自給率からみる日本農業	食料自給率と食料自給力
第 8 回	農業の生産組織と土地	農業経営体、法人化、集落営農
第 9 回	農業生産の技術	BC 技術と M 技術
第 10 回	コメの生産と流通	食糧管理制度、経営所得安定対策
第 11 回	世界の食料問題	フード・セキュリティ
第 12 回	価格政策と貿易政策	価格支持政策、GATT、WTO
第 13 回	アメリカ・ヨーロッパの農業と農業政策	アメリカ農業法、EU の共通農業政策
痔 14 回	まとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
農業・農村に関心をもってもらいたい。新聞・雑誌・書籍等から情報を積極的に集め、農業・農村とその政策の動向を把握すること。テキストは使用しないが、内容をしっかり理解するために、参考書の欄の冒頭に示した本を通読してほしい。また、各回で紹介する参考書も参照のこと。授業は各回完結ではなく、それまでの内容を踏まえて進めていくので、前回までの内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】
荏開津典生・鈴木宣弘 (2015)『農業経済学 第 4 版』岩波書店
生源寺眞一（2013）『農業と人間』岩波書店

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
スマートフォンの使用は控えること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students conduct an economic analysis of Japanese agriculture.

ECN300CA

農業経済論 B

西澤　栄一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、農業・農村を資源・環境および社会との関連でとらえ、現在の課題を把握する。これに関連して、森林・林業および水産業の現状を、経済学的な手法を用いて理解する。

【到達目標】
①日本の農山村に関わる問題について理解する。
②日本の森林・林業と水産業の現状を理解する。
③資源の管理に関わる経済学的な分析手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。なお、現代経済学入門を履修済みであることを想定して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際貿易の理論	貿易の利益、比較生産費説
第 2 回	世界の農業類型	保水/除草農業、休閑/中耕農業
第 3 回	農業と環境	多面的機能、野生鳥獣害
第 4 回	農山村の変遷と現状	中山間地域、地方創生
第 5 回	農村資源とエネルギー	再生可能エネルギー
第 6 回	農村における地域づくり	都市農村交流、グリーンツーリズム
第 7 回	日本の森林と林業	森林整備、多面的機能
第 8 回	森林と林政の展開	森林・林業基本法
第 9 回	森林管理の課題	持続可能な森林経営
第 10 回	木材の貿易	熱帯林の減少、森林認証
第 11 回	水産資源と水産業	日本の水産業の現状と課題
第 12 回	水産業の展開過程	漁業法、水産基本法
第 13 回	日本の漁業政策	漁業権、漁業協同組合、漁業経営安定対策
第 14 回	水産資源の管理	TAC、ITQ、IUU、地域漁業管理機関

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は特定のテキストに沿って行うわけではないが、内容をしっかり理解するために参考書の欄に掲げた資料を読んでおくこと。農林水産省のホームページで閲覧できる。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。さらに、授業のあとは内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】
農林水産省『食料・農業・農村白書』各年版
林野庁『森林・林業白書』各年版
水産庁『水産白書』各年版
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
スマートフォンの使用は控えること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of rural areas as well as forestry and fisheries in Japan.

ECN300CA

社会政策論 A

菅原　琢磨

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、それへの制度対応、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
・社会政策論で扱われる対象を理解し、社会政策の歴史的経緯の概要を説明できる。
・現代日本の雇用問題、労働政策の概要を理解し説明できる。
・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
・わが国の社会福祉制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
「社会政策」が包摂する領域は広がりをみせているが、人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策を総称したものと捉えられる。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生起した社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会政策とは	社会政策の意義、対象領域
2	社会政策の歴史	社会政策の歴史的経過、概略史
3	雇用・労働にかかる保険制度	雇用保険制度と労働者災害保険
4	雇用・労働政策と社会変化	若年・女性労働市場の現状と対応
5	医療制度の歴史	医療保険制度の概要と歴史的経緯
6	医療制度の概要	医療費、診療報酬、医療提供体制
7	貧困・不平等と社会政策	貧困概念と社会的不平等
8	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
9	介護の歴史的展開	制度発足の歴史的経緯と理念
10	介護保険制度の現状と課題	制度と動向、今後の対応
11	年金制度の歴史的展開	年金制度の概要と歴史的経緯
12	年金制度の現状と課題	年金制度改革と今後の対応
13	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革
14	これからの日本と社会保障制度改革（全体総括）	少子高齢化、グローバル社会と今後の社会保障制度のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内でも時事問題の背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。講義資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】
以下で示す以外にも、講義中に参考となる文献は適宜紹介する。
OECD 編著『図表でみる世界の社会問題 2　OECD 社会政策指標　貧困・不平等・社会的排除の国際比較』明石書店、2008 年
国立社会保障・人口問題研究所編『社会保障制度改革　日本と諸外国の選択』東京大学出版会、2005 年
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第 15 版）』有斐閣、2018 年

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績（70 %）、課題レポート（30 %）による。
定期試験、課題レポートはともに、講義内で扱ったトピックスのうち最も重要な点について基礎的理解が出来ているかどうかを問う内容である。

【学生の意見等からの気づき】
講義冒頭における新聞記事を用いた時事、社会問題の解説について要望が強い。今年度もこれらに配慮した講義構成とする。

【その他の重要事項】
医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験した担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline and objectives】
The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of the issues of social policy in the field of employment, health care, pension, long-term care and welfare for the poor, elderly or children.

ECN300CA

社会政策論 B

菅原　琢磨

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の「社会政策論 A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。単に知識の修得を目指すのではなく、現実の社会問題を「材料」として受講者自身の頭で検討、思考する能力の涵養を促す講義としたい。

【到達目標】
わが国が直面する主要な社会政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義ではこれらのトピックスを進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。これらの「材料」を踏まえ、各々の問題の本質をどのように捉え、改善策を考えていくか、受講生自身の思考を促す講義としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義概要と課題	社会政策の意義、対象領域の復習
2	雇用・労働政策の今日的課題	労働基準、最低賃金、雇用形態、若年労働、女性労働、外国人労働
3	児童・高齢者・障害者の福祉	待機児童、成年後見、障害者自立支援
4	貧困・格差・不平等	現代日本の貧困・格差・不平等
5	生活保護の課題	制度の方向性（自立支援、就労支援）
6	医療提供体制と医療政策	医療提供制度、医師・看護師不足
7	医療財政と医療政策	医療財政と負担のあり方
8	医療の国際比較	医療制度、政策の国際比較
9	介護問題と介護提供体制	介護提供体制にかかる諸問題
10	介護の財政問題	介護財政にかかる諸問題
11	介護の国際比較	介護制度、政策の国際比較
12	年金問題の概要	年金問題の論点整理
13	年金制度改革	持続可能な年金制度と制度改革
14	これからの日本社会と社会政策（全体総括）	少子高齢化社会への対応、財政規律と制度の持続可能性、グローバル化への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会政策論Ａで扱った内容の理解を前提として講義を実施する。日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。また講義資料を講義後に授業支援システムを通じてアップロードするので、各自、それを用いて十分講義内容を復習すること。

【テキスト（教科書）】
講義で必要な資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】
駒村康平『福祉の総合政策』創生社、2011 年
島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011 年
大竹文雄『格差と希望－誰が損をしているか？』筑摩書房、2008 年

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績（70 %）、課題レポート（30 %）による。
定期試験、課題レポートはともに、講義内で扱ったトピックスについて正確な基礎知識をベースに論理的に自分の考えを展開できるかどうかを問う内容である。

【学生の意見等からの気づき】
講義冒頭における新聞記事を用いた時事、社会問題の解説について要望が強い。今年度もこれらに配慮した講義構成とする。

【その他の重要事項】
医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験した担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline and objectives】
Based on the basic knowledge of Social Policy A, this lecture addresses real policy issues we are now facing and fosters the ability to think about the political solution.

ECN300CA

社会保障論 A

小黒　一正

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】
社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会保障に関する情報は、日々のニュースに溢れている。ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】
小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】
厚生労働省『厚生労働白書』各年版
鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】
The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of Japanese social security system, compared with the one of other developed countries.
This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN300CA

社会保障論 B

小黒　一正

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】
日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会保障に関する情報は、日々のニュースに溢れている。ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】
小塩隆士『コア・テキスト　財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】
阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『アベノミクスでも消費税は 25 %を超える』PHP 研究所
小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説　日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説　日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of macroeconomics and public economics.
This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level.

ECN300CA

金融各論Ｉ A

高橋　秀朋

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識であるマネー（貨幣）の時間価値の概念、一物一価の法則と裁定、リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。また、銀行のアセット・ライアビリティ・マネジメントや投資信託の資産運用でそれらがどのように利用されているかも実例やデータを交えて詳しく解説していく。

【到達目標】
本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略の意義を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データをはじめとした統計データを分析し、客観的な証拠を提示できるような力も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、数学や統計的な知識を利用して、ファンドがどのような方法で資産を運用しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義は授業形式、演習形式（Excel）、質疑応答で構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マネーの時間価値	将来価値、現在価値、IRR
2	債券価格と裁定理論	債券価格の計算
3	債券のデュレーション	イミュニゼーション
4	リスク資産評価 1	2 項 1 期間モデル
5	リスク資産評価 2	複数期間モデル
6	株式収益率の分析	株式収益率の基本統計量
7	株式収益率の分析	シミュレーション
8	分散化 1	ポートフォリオの構築
9	分散化 2	数値例を用いた分析
10	分離定理	無リスク資産の導入
11	資本市場モデル	資本市場モデルの理論的背景
12	資本市場モデルの実証	市場インデックスの分散化の検証
13	投資分析	投資信託のパフォーマンス評価
14	投資戦略	ポータブル・アルファ戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
S. Benninga『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

【参考書】
齊藤誠『金融技術の考え方・使い方- リスクと流動性の経済分析』（有斐閣、2000 年）
手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011 年）
ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 8th ed.』（McGraw-Hill, 2010）

【成績評価の方法と基準】
期末レポートによって 80%の評価をする。また、授業中に毎回課題を出し、この分の合計 40%を期末レポートに加点し、100%を超える点は切り捨てる。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】
講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている、自分の PC もしくは大学貸出の PC を講義前に準備しておくこと。

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis such as present value, yield to maturity, arbitrage, risk, and risk diversification. This course also introduces how the theories and methods in investment are utilized into the practical world. I introduce asset/liability management by banks and evaluation of investment performance. To explain practical uses of the theories and the methods in investment analysis more easily, data and simulation-based analyses are employed.

ECN300CA

金融各論ＩＢ

高橋　秀朋

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身についている者を対象として、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、2 項モデル・BS モデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

【到達目標】
本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、数学や統計的な知識を利用して、企業や投資ファンドがどのような方法で資産や企業を評価しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義は授業形式、演習形式（Excel）、質疑応答で構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オプションの概説	オプションペイオフの構造
2	様々なオプション戦略	バタフライ・スプレッド等
3	オプション評価 1	2 項 1 期間モデル
4	オプション評価 2	2 項多期間モデル
5	オプション評価 3	ブラック・ショールズ・モデル
6	オプション評価 4	多期間 2 項モデルの BS モデル近似
7	オプション複製	デルタ・ヘッジング
8	シミュレーション	モンテカルロ法
9	シミュレーション応用	投資シミュレーション
10	オプションによる保険	ポートフォリオ・インシュアランス
11	転換社債評価	株式とオプションによる複製
12	企業の投資意思決定	NPV による投資意思決定
13	リアル・オプション 1	撤退オプション
14	リアル・オプション 2	拡張オプション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
S. Benninga『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

【参考書】
Z・ボディー、R・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年）
R・ブリーリー、S・マイヤーズ、F・アレン（著）、藤井 眞理子、国枝 繁樹（翻訳）『コーポレートファイナンス　第 8 版（上・下）』（日経 BP 社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】
期末レポートによって 80%の評価をする。また、授業中に毎回課題を出し、この分の合計 40%を期末レポートに加点し、100%を超える点は切り捨てる。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】
講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている、自分の PC もしくは大学貸出の PC を講義前に準備しておくこと。

【Outline and objectives】
This course provides lectures to understand and valuate the basic derivatives and their applications in the financial risk management and investment. Concretely, we focus on the theories and the methods in option pricing (binomial and Black-Sholes model), portfolio insurance, and real option. To understand practical application of the theories and the methods in derivatives more easily, I introduce numerical examples and conduct simulation-based analyses.

POL300CA

政治過程論

岡﨑　加奈子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの暮らす現代社会において、政治の果たす役割は重要である。しかしながら、私たちは、政治的調整・決定の過程の実態についてどれほど理解し、思考しているだろうか。本講義では、政治過程論についての基礎的概念を身につけ、現代日本の政治過程についての幅広い知識と理解を深め、今日の政治課題について深く考察することを目的とする。

【到達目標】
本講義では以下の点を到達目標とする。
学生が現代社会の政治をめぐる制度や政治過程について、幅広い知識と理解を得られること。
学生が政治的な事象について自ら考察し、社会と自分との関係性について幅広く思考する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、現代日本における政治制度・政治過程について講義をすすめていく。その際、国会、政党、市民などについて理解するとともに、これらが政治過程の中でどのような位置にあるかを考察していく。
講義では学生は、毎回、質問や意見を提出し、次回の講義でその内容について全体で共有する。また授業内におけるレポート作成を複数回予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	序章	政治過程論とは何か
第２回	現代社会と政治過程	現代社会の特徴と政策の果たす役割
第３回	権力とは何か	権力と政治について
第４回	代表制	民主主義と代表制について
第５回	近代議会政治の展開	近代議会の形成と議会政治
第６回	国会審議制度	日本の国会審議のしくみ
第７回	立法過程	閣法・議員立法の審議
第８回	官僚制と利益団体	政治過程における官僚と利益団体
第９回	政党	近代以降の政党の発達
第 10 回	政党制	政党制について
第 11 回	政党政治	現代日本の政党情勢
第 12 回	世論・メディア	世論の形成とメディアの影響
第 13 回	市民とは何か	現代社会における市民の政治意識と政治参加
第 14 回	まとめ	これまでの振り返りと講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、毎回のレジュメおよびノートをもとに復習すること。また本講義は、時事的な政治事象と関連づけた講義内容となることから、学生は、日ごろから新聞などをよく読むこと、さらに、講義の中で紹介する参考文献等について読むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (65%) および平常点 (35%) により、総合的に評価をおこなう。平常点は授業内レポートおよび平素の授業内の取り組みにより構成される。

【学生の意見等からの気づき】
政治的な事象について、講義の内容を通じてより深く思考できる力を養うことを意識し、講義をおこなっていく。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of political process. This course deals with the basic concepts and principles of the party system, the bureaucracy and the Diet in Japan.
At the end of the course, participants are expected to understand the basic political science and key challenges related to the political process in the modern society.

POL300CA

国際政治論

曹　海石

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際政治学の基礎知識を学ぶ。

【到達目標】
この講義では、国際政治をめぐる様々な概念と理論を紹介すると同時に、「国際政治を見る目」を養うトレーニングを行う。受講生には、毎回授業の最後に質問を出してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、社会科学という視点と歴史的な観点から、国際政治における主要な概念と理論を分析しながら、現代の世界を考えていく。また、中国・朝鮮半島及び東南アジア諸国の開発・近代化、政治体制とその移行、民主化とナショナリズムを、日本の戦後史と関連付けながら相互関係を考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	国際連合と国際政治とは何か	第二次世界大戦、国際連合、米ソ関係、多極化
第２回	東西冷戦と朝鮮戦争	国連軍、中国志願軍、サンフランシスコ講和会議、日米同盟
第３回	現代中国の政治と外交	毛沢東、文化大革命、一人っ子政策、改革開放政策
第４回	戦後の日中関係史	民間貿易協定、国交正常化、天皇陛下訪中、ＯＤＡ、尖閣諸島問題
第５回	台湾問題と米中関係	金門砲撃、一国二制度、米国の台湾関係法、台湾ナショナリズム
第６回	中国の少数民族問題	チベット、新疆ウイグル自治区、ダライラマ
第７回	韓国の政治と外交	李承晩ライン、軍事独裁、民主化運動、太陽政策
第８回	日韓関係	日韓基本条約、金大中事件、日本文化の開放、韓流ブーム
第９回	北朝鮮の政治と外交	金日成、先軍政治、核戦略、世襲体制
第１０回	南北朝鮮関係	離散家族、経済支援、首脳会談、開城工業団地
第１１回	日朝関係	朝鮮人帰国事業、拉致問題、万景峰号旅客船、日朝平壌宣言
第１２回	知られざる中朝関係	相互援助協力条約、古朝鮮と領土問題、東北歴史工程、高句麗問題
第１３回	日本と東南アジア諸国	ＯＤＡ、アセアン・プラス３、ＦＴＡ、南シナ海問題
第１４回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生諸君には常に新聞、テレビ、インターネットなどを通じて最近の国際ニュースを把握することを期待する。また、テキスト、参考書を読むことを勧める。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
１、河辺一郎『国連と日本』岩波新書、1996 年。
２、下斗米編『アジア冷戦史』中央公論新社、2004 年。
３、天児慧編『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010 年。
４、鐸木昌之『北朝鮮』東京大学出版会、1992 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度４０％、期末テスト６０％

【学生の意見等からの気づき】
日本のテレビや新聞では報道されていない内容、裏話などをもっと追加すること。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline and objectives】
Learn the basic knowledge of international politics

ECN300CA

経済統計論 A

菅　幹雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済統計論Ａでは産業統計を取り上げる。事業者についての行政記録情報から出発して、ビジネスレジスター、経済センサス、各種産業統計を経て産業連関表に至るまでの流れを説明する。

【到達目標】
経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いた講義形式である。また統計表に関する計算のワークシートを配布する。それに学生が計算・記入してもらうことにより、着実に内容を理解してもらう。また学習状況を確認するためレポートや授業内ワークシートなどを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済統計のしくみ、事業所・企業についての行政記録情報	経済統計のしくみ、産業統計の流れ、商業・法人登記、労働保険情報、EDINET
2	産業統計の基礎知識	統計単位、産業分類（JSIC,ISIC,NAICS,NACE）、生産物分類（CPC,NAPCS,CPA）
3	経済センサス- 基礎調査	事業所統計調査、経済のサービス化、調査方法、ローリング調査
4	ビジネスレジスター	母集団名簿、統計調査のインフラストラクチャー、レジスター統計
5	経済センサス- 活動調査（１）	調査方法、企業と事業所、個人企業と法人企業、単独事業所企業と複数事業所企業
6	経済センサス- 活動調査（２）	調査結果の分析事例の紹介、経営指標を用いた産業間比較、特化係数を用いた地域分析
7	工業統計	工業の年次統計調査、工場法、重工業化、高度成長、軽薄短小、空洞化
8	経済構造実態調査（１）	商業の年次統計調査、流通革命、流通経路、業種と業態、大店法、規制の強化と緩和、立地環境特性
9	経済構造実態調査（２）	サービス産業の年次統計調査、情報化社会（情報通信業、専門・技術サービス業）、高齢化社会（医療・介護業）、観光立国（交通業、宿泊・飲食業）
10	産業連関表（１）	ワシリー・レオンチェフ、DVD『１３プラス』視聴
11	産業連関表（２）	産業連関表のしくみ、ケネーの経済表、相互依存関係、産業連関表の作成方法、接続表、地域間表
12	産業連関表（３）	産業連関分析
13	産業連関表（４）	供給・使用表への展開, リチャード・ストーン、コモ法
14	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で説明する各種統計について、府省のホームページに入り、実際にダウンロードして見てみること。

【テキスト（教科書）】
清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館　3564 円

【参考書】
福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会　1620 円

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、ワークシート・レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
黒板の字が薄いとの指摘があったので、なるべく見やすく書くようにする。

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【Outline and objectives】
In Economic Statistics A, students learn industry statistics. Start from the administrative record of businesses, I will explain the flow of producing industry statistics; business register, economic census, annual industry statistics to the input-output table.

ECN300CA

経済統計論 B

菅　幹雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済統計論Ｂでは世帯統計を取り上げる。個人・世帯の行政記録情報から出発して、国勢調査、家計調査、消費者物価指数という流れを説明する。

【到達目標】
経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いた講義形式である。また統計表に関する計算のワークシートを配布する。それに学生が計算・記入してもらうことにより、着実に内容を理解してもらう。また学習状況を確認するためレポートや授業内ワークシートなどを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	個人・世帯についての行政記録情報	世帯統計の流れ、住民基本台帳、戸籍法による届出、出入国管理記録
2	国勢調査（1）	国勢調査の必要性、選挙区の区割り、標本調査のサンプリングフレーム、調査方法、調査員調査
3	国勢調査（2）	人口の基本的属性、人口ピラミッド、団塊の世代、人口の高齢化、標準世帯、単身世帯の増加、首都圏への人口集中
4	国勢調査（3）	人口の経済的属性、就業状態、産業と職業、ペティ＝クラークの法則
5	人口推計と人口予測	人口学的方程式、中間年人口の推計、人口の将来予測、出生率、死亡率、純移動率、コーホート変化率
6	家計調査（1）	標本抽出法、単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出、層化多段抽出、標本誤差
7	家計調査（2）	家計簿、調査方法、エンゲル係数、エンゲルの法則、シュワーベの法則
8	家計調査（3）	ローレンツ曲線、ジニ係数、相対的貧困率、全国消費実態調査
9	家計調査（4）	家計簿アプリを使って実際に自分の家計簿を作成した結果を各自発表、アンケート調査
10	消費者物価指数（1）	指数算式、指数のテスト、速報性
11	消費者物価指数（2）	理論的生計費指数、パーシェ・チェック、基準改定、CPI ショック、連鎖指数
12	消費動向指数（1）	実質化、1か月の日数の影響、世帯人員の影響、世帯主の年齢の影響
13	消費動向指数（2）	高額消費、家計消費状況調査、単身モニター調査、傾向スコア
14	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で説明する各種統計について、府省のホームページに入り、実際にダウンロードして見てみること。

【テキスト（教科書）】
清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館　3564 円

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験 60 %、ワークシート・レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
黒板の字が薄いとの指摘があったので、なるべく濃く書く。

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【Outline and objectives】
In Economic Statistics B, students learn household statistics. Start from the administrative record of individuals and households, I will explain the flow of producing household statistics; population census, household expenditure survey and consumer price index.

ECN300CA

情報経済論 A

鈴木　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ゲーム理論」は、経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われているほか、企業組織や多くのビジネスシーンでも基礎理論として用いられている。本講義では、「ゲーム理論とその応用」について、基礎からやや高度な内容まで体系的に理解し、その応用の仕方も学ぶ。

【到達目標】
経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われている「ゲーム理論・契約理論」の方法論（考え方や分析の仕方）を体系的に学ぶことを通じて、現代社会を主体的に考察し、問題解決に向けて公正な判断を下す能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』 に沿って、数値例、図解、最適化(最適化条件の導出) というアクセスしやすい分析手法を使って授業を進める。教室では黒板を使っての講義形式となり、教員の説明を聞きながら学生がノートをとり、理解するというスタイルとなる。１００分授業となるため、理解度確認のための演習の時間を設けるなど、受講生を助ける工夫は出来るだけする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲーム理論とは	ゲーム理論の導入的説明およびゲーム理論で使う数学について
第 2 回	静学ゲーム①	ゲームの基礎と同時手番ゲーム。支配戦略均衡とナッシュ均衡。
第 3 回	静学ゲーム②	ナッシュ均衡の解釈。色々なゲームの例。クールノー競争。
第 4 回	静学ゲーム③	混合戦略均衡とその解釈
第 5 回	時間を通じたゲーム①	基礎理論：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
第 6 回	時間を通じたゲーム②	応用例①「参入阻止」と「意味のある脅し」
第 7 回	時間を通じたゲーム③	応用例②　経済政策ゲーム：ルールか裁量か
第 8 回	くり返しゲーム①	基礎理論　協調均衡達成のメカニズム
第 9 回	くり返しゲーム②	応用例①　共有資源の管理における協調行動
第 10 回	くり返しゲーム③	応用例②　グローバルガバナンスと国際協調
第 11 回	交渉理論①	最後通牒ゲーム：理論予測と実験結果　公正さの考慮
第 12 回	交渉理論②	最後通牒ゲームと行動ゲーム理論
第 13 回	オークション①	ゲームの解概念：弱支配戦略、劣位戦略、劣位戦略のくりかえし削除
第 14 回	オークション②	ファーストプライスおよびセカンドプライス・オークションの比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書『完全理解　ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016　および　授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート 2 回）も提示される。

【テキスト（教科書）】
鈴木豊『完全理解　ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

【参考書】
① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
③ マクミラン 『経営戦略のゲーム理論』(伊藤・林田訳)（有斐閣）
④ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、授業内で提示した課題（レポート 2 回）30 %

【学生の意見等からの気づき】
１００分授業となるため、授業中の理解度確認演習をできる限り確保する。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

【Outline and objectives】
This course deals with Game Theory and its Applications. Games theory provides a set of analytical tools that can be used to model the strategic interactions between “players” (decision-makers). Ideas such as Nash equilibrium, backward induction, commitment, credibility, bargaining, and repeated interaction and cooperation are introduced. A variety of applications will also be discussed.

ECN300CA

情報経済論 B

鈴木　豊

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「契約理論（Contract Theory）」について体系的に学ぶ。
（Ⅰ）不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
（Ⅱ）プリンシパル＝エージェントの理論:モラルハザード
（Ⅲ）プリンシパル＝エージェントの理論:アドバース・セレクション
（Ⅳ）不完備契約の理論

【到達目標】
春学期の「ゲーム理論」に続き、その応用分野と位置付けられる「契約理論」の方法論を系統的・体系的に学ぶことによって、現代社会を主体的に考察し、課題解決に向けて公正な判断を下す能力をさらに向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』 に沿って、数値例、図解、最適化(最適化条件の導出) というアクセスしやすい分析手法を使って授業を進める。教室では黒板を使っての講義形式となり、教員の説明を聞きながら学生がノートをとり、理解するというスタイルとなる。１００分授業となるため、理解度確認のための演習の時間を設けるなど、受講生を助ける工夫は出来るだけする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	不確実性と情報の経済学①	不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度
第 2 回	不確実性と情報の経済学②	期待効用最大化とその使い方、リスクプレミアム
第 3 回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	固定給とモラルハザード
第 4 回	モラルハザード②	歩合給とインセンティブ効果、簡単なエージェンシーモデルの解
第 5 回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避的エージェント）
第 6 回	モラルハザード④：複数エージェントの理論	チーム生産におけるフリーライダー問題とその解決（ペナルティースキーム）
第 7 回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セレクション①	逆選択の例
第 8 回	アドバース・セレクション②	逆選択を解決する仕組みとしての自己選択メカニズム
第 9 回	アドバース・セレクション③	自己選択メカニズムの最適解の導出、図解、含意
第 10 回	不完備契約①	関係特殊的投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル
第 11 回	不完備契約②	関係特殊的投資とホールドアップ問題：一般化と外部機会の存在
第 12 回	不完備契約③	「資産所有 (財産権)」アプローチ①基本モデル　残余コントロール権
第 13 回	不完備契約④	「資産所有（財産権)」アプローチ②企業の境界の決定
第 14 回	不完備契約⑤	組織における権限配分、権限委譲について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書『完全理解　ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016　および　授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート 2 回）も提示される。

【テキスト（教科書）】
鈴木豊『完全理解　ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

【参考書】
① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
③ オリバー・ハート『企業 契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会 2010
④ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、授業内で提示した課題（レポート 2 回）30 %

【学生の意見等からの気づき】
１００分授業となるため、授業中の理解度確認演習をできる限り確保する。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

【Outline and objectives】
This course deals with the main topics in Contract Theory and Information Economics. Building up on the game theoretical concepts studied in the spring semester, we cover the tools and techniques used in models of Moral Hazard, Adverse Selection, and Incomplete Contracts. A variety of applications will also be discussed.

ECN300CA

世界経済史 A

田中　延幸

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、今日の経済の基盤である市場経済あるいは資本主義というシステムが 20 世紀を通じてどのように変化してきたのかを説明する。その際、狭義の「経済」に加え、「社会」や「ヨーロッパ統合」にも留意する。さらに、世界経済 (国際経済) の変化ばかりではなく、国民経済 (イギリス・フランス・ドイツ・アメリカの経済) の変化も重視する。したがって、この授業を通じて、市場経済あるいは資本主義の多様性について学ぶ。なお、世界経済史 A では、世紀転換期から 1930 年代までを扱う。

【到達目標】
20 世紀における欧米諸国 (イギリス・フランス・ドイツ・アメリカ) の経済の特徴を理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	世界史の時代区分と「現代」=「20 世紀」の定義
第 2 回	世紀転換期の経済と社会 (1)	世紀転換期における世界経済の変化
第 3 回	世紀転換期の経済と社会 (2)	世紀転換期におけるイギリスの経済と社会
第 4 回	世紀転換期の経済と社会 (3)	世紀転換期におけるフランスの経済と社会
第 5 回	世紀転換期の経済と社会 (4)	世紀転換期におけるドイツの経済と社会
第 6 回	世紀転換期の経済と社会 (5)	世紀転換期におけるアメリカの経済と社会
第 7 回	第一次世界大戦期の経済と社会	第一次世界大戦期における世界経済の変化
第 8 回	1920 年代の経済 (1)	1920 年代におけるヨーロッパ経済
第 9 回	1920 年代の経済 (2)	1920 年代におけるアメリカ経済
第 10 回	1930 年代の経済	1930 年代における世界経済の変化
第 11 回	1930 年代大不況と不況対策 (1)	1930 年代大不況期におけるイギリスの不況対策
第 12 回	1930 年代大不況と不況対策 (2)	1930 年代大不況期におけるフランスの不況対策
第 13 回	1930 年代大不況と不況対策 (3)	1930 年代大不況期におけるドイツの不況対策
第 14 回	1930 年代大不況と不況対策 (4)	1930 年代大不況期におけるアメリカの不況対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の冒頭に、前の回の授業の内容に関する質問が出されるので、質問に答えることができるよう、前の回の授業の内容をしっかり復習する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】
馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』(晃洋書房)

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60%、平常点 (授業中の質問に対する回答など、授業への意欲)40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This lecture covers changes of market economy in Western world, particularly in the UK, France, Germany and the USA during the first half of the 20th century. Furthermore, not only economy in a narrow sense, but also society will be treated. Then, particularly following subjects will be taken up: Economy and society during the transition period from the end of the 19th century to the beginning of the 20th century, economy and society during and after the First World War, and economy and society during the Great Depression in the 1930's.

ECN300CA

世界経済史 B

田中　延幸

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、今日の経済の基盤である市場経済あるいは資本主義というシステムが 20 世紀を通じてどのように変化してきたのかを説明する。その際、狭義の「経済」に加え、「社会」や「ヨーロッパ統合」にも留意する。さらに、世界経済 (国際経済) の変化ばかりではなく、国民経済 (イギリス・フランス・ドイツ・アメリカの経済) の変化も重視する。したがって、この授業を通じて、市場経済あるいは資本主義の多様性について学ぶ。なお、世界経済史 B では、第二次世界大戦以降の時代を扱う。

【到達目標】
20 世紀における欧米諸国 (イギリス・フランス・ドイツ・アメリカ) の経済の特徴を理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「現代」の始期に関する 4 つの説
第 2 回	第二次世界大戦期の経済	第二次世界大戦期における世界経済の変化
第 3 回	国際経済秩序の再編	ブレトン・ウッズ体制と IMF-GATT 体制
第 4 回	ヨーロッパの戦後改革 (1)	イギリスの戦後改革
第 5 回	ヨーロッパの戦後改革 (2)	フランスの戦後改革
第 6 回	ヨーロッパの戦後改革 (3)	西ドイツの戦後改革
第 7 回	ヨーロッパ統合の進展	ECSC と EEC
第 8 回	独仏経済関係の発展	独仏中軸のヨーロッパ経済統合
第 9 回	ヨーロッパ経済の黄金時代	ヨーロッパにおける輸出主導型高度成長
第 10 回	国際通貨危機	アメリカ経済の動揺とドル危機
第 11 回	国際経済秩序の転換	ブレトン・ウッズ体制の崩壊とアメリカの債務国化
第 12 回	アメリカ発の金融危機	リーマン・ショックと世界金融危機
第 13 回	ネオ・リベラリズムとグローバリゼーション	アングロ・サクソン型ネオ・リベラリズムの台頭とグローバリゼーションの進展
第 14 回	グローバリゼーションと EU	グローバリゼーションへの EU の大陸ヨーロッパ的対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の冒頭に、前の回の授業の内容に関する質問が出されるので、質問に答えることができるよう、前の回の授業の内容をしっかり復習する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】
馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』(晃洋書房)

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60%、平常点 (授業中の質問に対する回答など、授業への意欲)40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This lecture covers changes of market economy in Western world, particularly in the UK, France, Germany and the USA during the second half of the 20th century. Furthermore, not only economy in a narrow sense, but also society will be treated. Then, particularly following subjects will be taken up: Economy and society during the Second World War, restructing of the international economic order after the war, reconstruction policy in the UK, France and Germany after the war, the golden age of the European economy, transformation of the international economic order, and European Integration.

ECN300CA

地方財政論 A

関口　浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「地方財政論」は地方公共団体の歳出・歳入を中心とする経済活動のあり方を研究する学問である。近年、地方創生が模索されているものの、目立った動きにはなっていない。本講義では、地方財政の理論と歴史を踏まえ、わが国の地方財政制度を中心にその現状と問題点、シャウプ勧告の歴史的意義と限界を含め、地方財政の一般理論および原則論を概説する。

【到達目標】
講義を契機として、地方財政の理論と実際そして地方財政制度の基本的な知識を習得することにより、地方財政制度および政策の経済的意義と問題点を明らかにして、地域社会への参加の手がかりを得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式とするが、毎回講義の感想等を提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。なお、本講義では通年で実施することを前提に進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	Ⅰ．緒論 (地方財政と地方財政論)	１．地方財政の役割〈教科書：地方財政 (1)〉
第２回	Ⅰ．緒論 (地方財政と地方財政論)	２．中央集権化と地方分権化〈教科書：地方財政 (1)〉
第３回	Ⅰ．緒論 (地方財政と地方財政論)	３．地方自治の財政理論〈教科書：地方財政 (1)〉
第４回	Ⅰ．緒論 (地方財政と地方財政論)	３．地方自治の財政理論〈教科書：地方財政 (1)〉
第５回	Ⅱ．政府間財政関係	１．中央と地方の事務配分〈教科書：地方財政 (1)〉
第６回	Ⅱ．政府間財政関係	２．中央と地方の財政関係〈教科書：地方財政 (1)〉
第７回	Ⅱ．政府間財政関係	３．地方歳入〈教科書：地方財政 (1)〉
第８回	Ⅱ．政府間財政関係	４．地方歳出〈教科書：地方財政 (1)〉
第９回	Ⅱ．政府間財政関係	５．主要先進国の政府間財政関係〈教科書：地方財政 (1)〉
第 10 回	Ⅱ．政府間財政関係	６．国庫補助負担金 (1) 歴史〈教科書：地方財政 (1)〉
第 11 回	Ⅱ．政府間財政関係	６．国庫補助負担金 (2) 制度〈教科書：地方財政 (1)〉
第 12 回	Ⅱ．政府間財政関係	６．国庫補助負担金 (3) 理論〈教科書：地方財政 (1)〉
第 13 回	Ⅱ．政府間財政関係	７．地方財政調整制度 (1) 歴史・制度〈教科書：地方財政 (1)〉
第 14 回	Ⅱ．政府間財政関係	７．地方財政調整制度 (2) 理論・実際〈教科書：地方財政 (1)〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習にあたり、シラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。

【テキスト（教科書）】
佐藤進・関口浩著『財政学入門［新版］』同文舘、平成 31 年。

【参考書】
１．片桐正俊編『財政学 (第３版)』東洋経済新報社、平成 26 年。
２．池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣、平成 27 年。
３．池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成 31 年。
４．その他の参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】
１．評価については第１回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
２．目安として、定期試験 (70 %) を中心にして、出席票のコメント (30 %)、講義最終回指定提出物 (必須) 等を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「地方財政論」では、より現実的な問題を扱うことになるので、各回の予習、復習を確実にしてほしい。

【その他の重要事項】
１．関連科目は「財政学Ａ・Ｂ」であり、併せて履修するか、履修済みであることが受講生自身の理解度を深めるために望ましい。
２．詳細については第１回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。

【Outline and objectives】
This lecture gives you outlines for a general theory of the local public finance and principle theory mainly on a local public finance system of our country.

ECN300CA

地方財政論Ｂ

関口　浩

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「地方財政論」は地方公共団体の歳出・歳入を中心とする経済活動のあり方を研究する学問である。近年、地方創生が模索されているものの、目立った動きにはなっていない。本講義では、地方財政の理論と歴史を踏まえ、わが国の地方財政制度を中心にその現状と問題点、シャウプ勧告の歴史的意義と限界を含め、地方財政の一般理論および原則論を概説する。

【到達目標】
講義を契機として、地方財政の理論と実際そして地方財政制度の基本的な知識を習得することにより、地方財政制度および政策の経済的意義と問題点を明らかにして、地域社会への参加の手がかりを得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式とするが、毎回講義の感想等を提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。なお、本講義では通年で実施することを前提に進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	Ⅲ．地方税	１．地方税原則と地方税体系〈教科書：地方財政 (2)〉
第２回	Ⅲ．地方税	２．住民税 (1) 個人住民税〈教科書：地方財政 (2)〉
第３回	Ⅲ．地方税	２．住民税 (2) 法人住民税〈教科書：地方財政 (2)〉
第４回	Ⅲ．地方税	３．事業税〈教科書：地方財政 (2)〉
第５回	Ⅲ．地方税	４．固定資産税 (1) 歴史・制度〈教科書：地方財政 (2)〉
第６回	Ⅲ．地方税	４．固定資産税 (2) 理論・実際〈教科書：地方財政 (2)〉
第７回	Ⅲ．地方税	５．受益者負担〈教科書：地方財政 (2)〉
第８回	Ⅳ．地方債	１．地方債の特性〈教科書：地方財政 (2)〉
第９回	Ⅳ．地方債	２．地方債の制度〈教科書：地方財政 (2)〉
第 10 回	Ⅳ．地方債	３．地方債発行・消化の問題〈教科書：地方財政 (2)〉
第 11 回	Ⅴ．地方公営企業	１．地方公営企業 ２．第３セクター〈教科書：地方財政 (2)〉
第 12 回	Ⅵ．福祉と政府間財政関係	１．介護保険財政の諸問題〈教科書：社会保障の財政〉
第 13 回	Ⅵ．福祉と政府間財政関係	２．保育所財政の諸問題〈教科書：社会保障の財政〉
第 14 回	Ⅶ．自治体財政分析	１．各都道府県財政の現状と問題点 ２．各市町村財政の現状と問題点〈教科書：地方財政 (2)〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習にあたり、シラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。

【テキスト（教科書）】
佐藤進・関口浩著『財政学入門［新版］』同文舘、平成 31 年。

【参考書】
１．片桐正俊編『財政学 (第３版)』東洋経済新報社、平成 26 年。
２．池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣、平成 27 年。
３．池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成 31 年。
４．その他の参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】
１．評価については第１回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
２．目安として、定期試験 (70 %) を中心にして、出席票のコメント (30 %)、講義最終回指定提出物 (必須) 等を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「地方財政論」では、より現実的な問題を扱うことになるので、各回の予習、復習を確実にしてほしい。

【その他の重要事項】
１．関連科目は「財政学Ａ・Ｂ」であり、併せて履修するか、履修済みであることが受講生自身の理解度を深めるために望ましい。
２．詳細については第１回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。

【Outline and objectives】
This lecture gives you outlines for a general theory of the local public finance and principle theory mainly on a local public finance system of our country.

ECN300CA

産業組織論 A

河村　真

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、完全競争モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。産業組織論 B も併せて履修していただければなおよい。

【到達目標】
完全競争下での企業の生産量の決定、供給曲線の導出および均衡価格、数量の決定までの説明の流れをを理解できるようにする。同時に、この説明を具体的な市場に当てはめ、解釈できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科はは「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
完全競争モデルの理解に必要な生産者の理論から解説する。完全競争下の企業の生産量の決定、さらに、供給曲線の導出から、市場での均衡価格および数量の決定が主な内容となる。完全競争を仮定した際の現実の市場での価格、数量の決定がいかなる要因により変化するかも応用問題として考える。講義のスタイルは、図解を中心とした板書とその解説を通じて行う。そのため、受講者には、ノートを丹念にとることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	産業組織論の枠組み	完全競争の条件と不完全競争
第 2 回	産業組織論の現実への応用例	産業組織論のトピックとしての不完全競争の具体例の例示
第 3 回	企業の生産技術	生産関数の説明
第 4 回	企業の生産技術	生産関数から費用関数の導出
第 5 回	企業の生産技術	費用関数から限界費用関数と平均費用関数の導出
第 6 回	企業の生産技術	生産関数、費用関数、平均・限界費用関数の対応関係
第 7 回	完全競争下の企業の生産量の決定	収入関数と費用関数を用いた利潤最大化生産量の図解
第 8 回	完全競争下の企業の生産量の決定	限界収入関数と限界費用関数を用いた生産量決定の図解
第 9 回	個別供給曲線の導出	財の市場価格の変化が企業が選ぶ利潤最大化生産量をどう変化させるかを知るための個別供給曲線
第 10 回	個別供給曲線のシフトの要因	個別供給曲線が完全競争モデルの下で、どのような要因によりシフトするかの説明
第 11 回	企業の個別供給曲線から市場供給曲線の導出	各企業の個別供給曲線を足し合わせることにより求められる企業全体の生産量の合計と市場価格との関係
第 12 回	市場需要曲線の説明（簡単な消費者理論の説明を含む）	消費者の理論にある予算制約化の効用最大化行動の結果として導かれる市場需要曲線（簡単に復習）
第 13 回	完全競争モデルでの市場均衡	市場需要曲線と市場供給曲線の交点における均衡価格と均衡数量の決定（ワルラス的調整過程を用いて説明）
第 14 回	比較静学による完全競争モデルの現実への応用例	完全競争が想定しやすい具体的な産業をイメージし、技術革新が生じたた場合、完全競争モデルを用いて、価格、数量の変化の結果を予測する過程を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、講義において板書による図解で完全競争モデルの成り立ちを理解できるよう準備しているつもりであるので、予習の必要はない。しかし、多くの図を系統だてて説明するので、講義中にノートにとった図解を講義後、何度か自分で再現し、説明の順序に従い並べてみて、図による完全競争モデルの理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
基本的に指定しない。

【参考書】
学生諸君から要請があれば、講義冒頭に紹介。

【成績評価の方法と基準】
完全競争モデルの理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中において行う試験の点数のみにより行う。（定期試験点数による評価： 100 %）

【学生の意見等からの気づき】
図などの板書が見づらいという指摘を受けた。大きめに図を板書することで対応したい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline and objectives】
The aim of the course is to get the view on competitive market equilibrium and comparative statics.To get the competitive equilibrium, understanding production function, cost function, average and marginal cost function, and supply function is required. Deriving the functions and the equilibrium should be explained by using related graphs.

ECN300CA

産業組織論 B

河村　真

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
独占モデルおよびクールノ複占モデルの解説、さらに、完全競争均衡、独占均衡およびクールノ複占均衡を比較し、それぞれの均衡の評価についても説明を加える。

【到達目標】
産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、独占モデルおよびクールノ複占モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科はは「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
　完全競争モデルとの比較を通じて、独占モデルおよびクールノの複占モデルの図による解説を行う。さらに、完全競争と比較し、企業の数が少なくなることによる均衡価格と均衡数量の変化に着目する。さらに、独占モデルおよびクールノ複占モデルを用いて具体的な産業が直面する課題の解釈の仕方を紹介する。講義は、板書による図を用いた説明を多用するため、受講者には、丹念なノートテイクが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	産業組織論 A の期末試験の解答の解説	完全競争モデルにおける比較静学の応用例に重点を置く。
第 2 回	独占モデル	独占下の企業と完全競争下の企業の想定の違い
第 3 回	独占モデル	独占企業が直面する収入関数（又は限界収入関数）の説明
第 4 回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（収入関数と費用関数を用いて）
第 5 回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（限界収入と限界費用関数を用いて）
第 6 回	独占モデルの応用例	自然独占下における公益事業の料金規制に関する議論
第 7 回	クールノ複占モデル	企業 2 社からなる複占モデルにおける想定の違いとクールノ均衡の特徴
第 8 回	クールノ複占モデル	残余需要曲線の導出と各企業の利潤最大化生産量の導出
第 9 回	クールノ複占モデル	各企業の反応関数の導出と各社生産量と均衡価格の決定
第 10 回	独占，寡占および完全競争均衡の比較および独占の死荷重	独占、クールノ複占および完全競争下で予想される均衡数量、均衡価格の比較とその評価
第 11 回	市場集中度と利潤率の相関（実証研究の紹介）	市場集中度と利潤率の間に正の相関があるか統計学的検定を行った計測結果の紹介
第 12 回	クールノ複占モデルの現実への応（Ⅰ）	ネットワーク外部性が存在する市場での規格標準化のメリット（事例研究）
第 13 回	クールノ複占モデルの現実への応（Ⅰ）	12 回の事例研究の結果をクールノ複占モデルを用いて解釈
第 14 回	クールノ複占モデルの現実への応（Ⅱ）	製造業で川下（製品製造）、川上（原材料製造）の企業の垂直統合（合併）の経済学的合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、講義中の図による説明の板書をノートテイクしていただければ、理解できるように準備をするつもりである。しかし、多くの図と煩雑な操作による図の合成を行うので、講義中だけでは理解しきれない面もあると思われる。従って、講義後、自分で、講義中の説明に用いた図の再現とどういう手順で図を合成していったかを各自で復習してほしい。

【テキスト（教科書）】
特に教科書は指定しない。

【参考書】
学生から要請あれば、本講義冒頭で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　独占モデルおよびクールノモデルおよびそれらの応用例の理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中に行われる試験の点数により行う。（定期試験点数による評価： 100 %）

【学生の意見等からの気づき】
板書に関して、図が見えづらいという指摘があり、板書の書き方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【Outline and objectives】
The first aim of the course is to get the view on monopoly and cournot duopoly market equilibrium. Secondly, comparing competitive, monopoly, and cournot duopoly market equilibria, competitive market equilibrium is showed to be best performed in the sense of maximizing social welfare.　This could be the reason why the competitive market equilibrium would be used as benchmark in evaluating specific competition policy.

ECN300CA

金融各論Ⅱ A

武田　浩一

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，経済の中で金融システムがどのように機能していて，どのように変化していくのかということを，経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は，不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため，金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために，たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも，その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず，経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないでしょうか。この講義では，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。
講義の全般的な方針として，金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが，難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため，理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を，日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。
この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが，この講義をきっかけにして，金融の本当の面白さに触れ，それぞれの興味に応じて，講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	金融取引とリスク①	リスクとは何か
第 2 回	金融取引とリスク②	リスクの測り方
第 3 回	金融取引とリスク③	ポートフォリオとリスク
第 4 回	金融取引とリスク④	リスクと不確実性
第 5 回	非対称情報下での金融取引①	モディリアーニ＝ミラーの命題とは
第 6 回	非対称情報下での金融取引②	逆選択とモラルハザード
第 7 回	非対称情報下での金融取引③	エージェンシー・コストについて
第 8 回	非対称情報下での金融取引④	情報的観点から見た金融取引手法の意義
第 9 回	金融の証券化と市場型間接金融①	証券化とは
第 10 回	金融の証券化と市場型間接金融②	証券化の現状と課題
第 11 回	金融の証券化と市場型間接金融③	市場型間接金融とは
第 12 回	金融の証券化と市場型間接金融④	シンジケート・ローンとは
第 13 回	不良債権と企業再生①	不良債権問題の構図
第 14 回	不良債権と企業再生②	不良債権問題の原因と対応策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば，この講義の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが，講義全般にわたる参考書として，内田浩史『金融』（有斐閣，2016 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については，講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
時事的なテーマを始めとした現実の経済，ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方，考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline and objectives】
This is a course on the microeconomics of money, banking and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

ECN300CA

金融各論Ⅱ B

武田　浩一

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，経済の中で金融システムがどのように機能していて，どのように変化していくのかということを，経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は，不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため，金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために，たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも，その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず，経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないでしょうか。この講義では，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。
講義の全般的な方針として，金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが，難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため，理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を，日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。
この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが，この講義をきっかけにして，金融の本当の面白さに触れ，それぞれの興味に応じて，講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定
第 2 回	資産価格と金融危機②	金融危機とは
第 3 回	資産価格と金融危機③	通貨危機と銀行危機
第 4 回	資産価格と金融危機④	金融危機のメカニズムについて
第 5 回	金融規制と金融機関行動①	競争制限的規制と金融機関行動
第 6 回	金融規制と金融機関行動②	自己資本比率規制と金融機関行動
第 7 回	金融規制と金融機関行動③	セーフティーネットと金融機関行動
第 8 回	金融規制と金融機関行動④	預金者・投資家の行動と金融規制
第 9 回	金融市場と投資家心理①	投資家心理
第 10 回	金融市場と投資家心理②	投資家のリスクに対する態度
第 11 回	金融市場と投資家心理③	投資家行動と市場価格の変動
第 12 回	金融市場と投資家心理④	投資家行動モデル
第 13 回	複雑系と金融市場①	複雑系とは
第 14 回	複雑系と金融市場②	金融市場とカオス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば，この講義の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが，講義全般にわたる参考書として，内田浩史『金融』（有斐閣，2016 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については，講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
時事的なテーマを始めとした現実の経済，ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方，考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので，その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline and objectives】
This is a course on the microeconomics of money, banking and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

ECN300CD

金融ビジネス論 A

武田　浩一

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，経済の中で金融システムがどのように機能していて，どのように変化していくのかということを，経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は，不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため，金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために，たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも，その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず，経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないでしょうか。この講義では，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。
講義の全般的な方針として，金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが，難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため，理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を，日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。
この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが，この講義をきっかけにして，金融の本当の面白さに触れ，それぞれの興味に応じて，講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	金融取引とリスク①	リスクとは何か
第 2 回	金融取引とリスク②	リスクの測り方
第 3 回	金融取引とリスク③	ポートフォリオとリスク
第 4 回	金融取引とリスク④	リスクと不確実性
第 5 回	非対称情報下での金融取引①	モディリアーニ＝ミラーの命題とは
第 6 回	非対称情報下での金融取引②	逆選択とモラルハザード
第 7 回	非対称情報下での金融取引③	エージェンシー・コストについて
第 8 回	非対称情報下での金融取引④	情報的観点から見た金融取引手法の意義
第 9 回	金融の証券化と市場型間接金融①	証券化とは
第 10 回	金融の証券化と市場型間接金融②	証券化の現状と課題
第 11 回	金融の証券化と市場型間接金融③	市場型間接金融とは
第 12 回	金融の証券化と市場型間接金融④	シンジケート・ローンとは
第 13 回	不良債権と企業再生①	不良債権問題の構図
第 14 回	不良債権と企業再生②	不良債権問題の原因と対応策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば，この講義の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが，講義全般にわたる参考書として，内田浩史『金融』（有斐閣，2016 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については，講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
時事的なテーマを始めとした現実の経済，ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方，考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので，その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline and objectives】
This is a course on the microeconomics of money, banking and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

ECN300CD

金融ビジネス論 B

武田　浩一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，経済の中で金融システムがどのように機能していて，どのように変化していくのかということを，経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は，不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため，金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために，たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも，その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず，経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないでしょうか。この講義では，基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ，それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。
講義の全般的な方針として，金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが，難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため，理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を，日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。
この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが，この講義をきっかけにして，金融の本当の面白さに触れ，それぞれの興味に応じて，講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定
第 2 回	資産価格と金融危機②	金融危機とは
第 3 回	資産価格と金融危機③	通貨危機と銀行危機
第 4 回	資産価格と金融危機④	金融危機のメカニズムについて
第 5 回	金融規制と金融機関行動①	競争制限的規制と金融機関行動
第 6 回	金融規制と金融機関行動②	自己資本比率規制と金融機関行動
第 7 回	金融規制と金融機関行動③	セーフティーネットと金融機関行動
第 8 回	金融規制と金融機関行動④	預金者・投資家の行動と金融規制
第 9 回	金融市場と投資家心理①	投資家心理
第 10 回	金融市場と投資家心理②	投資家のリスクに対する態度
第 11 回	金融市場と投資家心理③	投資家行動と市場価格の変動
第 12 回	金融市場と投資家心理④	投資家行動モデル
第 13 回	複雑系と金融市場①	複雑系とは
第 14 回	複雑系と金融市場②	金融市場とカオス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので，講義で分からないことがあるときには，教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。
金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば，この講義の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが，講義全般にわたる参考書として，内田浩史『金融』（有斐閣，2016 年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については，講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
時事的なテーマを始めとした現実の経済，ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方，考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので，その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline and objectives】
This is a course on the microeconomics of money, banking and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

ECN300CA

企業金融論 A

胥　鵬

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、キャッシュ・フローと現在価値を中心に、国内海外の負債による資金調達の制度と実務および、デット・ファイナンスに関連する基礎理論のうち重要なものを学ぶ。日本では、80 年代後半以降の社債市場の規制緩和により、デット・ファイナンスが大きく変化してきた。また、90 年代末にゼロ金利政策などの非伝統的金融政策が日本、米国と欧州で実施されてきた。この講義では、こうした金融政策の変遷も理解する。

【到達目標】
この講義では、内外の研究蓄積を踏まえ、銀行借入や社債などの負債による資金調達の企業金融問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。負債に関連する割引現在価値、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスク（格付）の諸概念を理解し、上場企業の財務諸表などの統計資料を見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
パソコン、とりわけ、エクセルで財務関数を中心に割引現在価値を応用して金利と債券の価格，金利リスクおよび債券の信用リスクの関係をわかりやすく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	企業金融とは	企業の財務諸表からみた負債と資金調達について
第 2 回	将来価値	定期預金の満期残高と将来価値について
第 3 回	時は金なり	金利、現在価値と将来価値の計算について
第 4 回	リボ払い	手数料 (金利) と返済額の計算
第 5 回	銀行ローンの返済方法	元金均等返済と元利均等返済について
第 6 回	住宅ローンの返済方法	ボーナス併用について
第 7 回	利付債券	債券の基本概念を学ぶ
第 8 回	金利と債券価格	金利変化によって債券価額が変動する仕組
第 9 回	金利と債券価格	金利変化によって債券価格や設備投資の評価が変動する仕組
第 10 回	金利リスク	金利に対する債券価格の感応度と債券のリスク
第 11 回	格付と信用リスク	格付と社債のプレミアム
第 12 回	ゼロクーポン債	スポット・レートとイールドカーブ
第 13 回	金利政策	短期金利操作からイールドカーブ操作へ
第 14 回	グループ課題	今までの内容を確かめるために、グループ課題として償還期限、格付けと利回りのデータをダウンロードしてグラフを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
割り当てられた課題を完成するため、エクセルの演算・財務関数などの使い方をマスターするように。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】
中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

【成績評価の方法と基準】
出席と期末グループ課題レポートで評価する。全体評価＝平常点（30%）＋期末グループ課題レポート（70%）で評価。なお、成績評価対象にはグループ課題参加が必須。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけゆくっり話すように。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンを持参するように。

【その他の重要事項】
教職、ＦＰなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】
ＭＢＯ，株式持合，役員報酬，中小企業金融，コミットメント・ライン，銀行ガバナンスと銀行リスク，会社法の経済分析，来日観光客の決定要因等々

【Outline and objectives】
In this lecture, we learn important points out of basic theory related to domestic and international debt financing systems and practices, mainly focusing on cash flow and present value. Debt finance has changed greatly in Japan due to deregulation of corporate bond markets since the late 1980s. Also, non-conventional monetary policy such as zero interest rate policy was implemented in Japan, the United States and Europe since the end of the 1990s. In this lecture, we also learn the transition of such monetary policy.

ECN300CA

企業金融論Ｂ

胥　鵬

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
B では、期待株式投資収益率，株式投資収益率の標準偏差，二つの銘柄の株式投資収益率の相関などを中心に学ぶ。続いて、分散投資の基本的な考え方を理解する。その上で、危険資産からなる有効ポートフォリオと安全資産の投資組み合わせを勉強し、資本市場線と証券市場線の考え方を用いて株式のリスクとリターンの関係を。理論だけでなく、株価等の統計資料を用いて株式のリスクの計測方法もマスターする。

【到達目標】
B では、A の中で扱った負債による資金調達に続いて、株式と資金調達について理解することが目標である。特に株式のリスクに関する理論（capital asset pricing model, CAPM）を把握することが目標である。さらに統計や資料などを自分で収集して、簡単な統計手法を用いて配当異動、新株発行と自己株式取得等の株価に及ぼす効果を CAPM に基づいて計測し、結果を主体的に考察し、公正に判断できるようになることが目標の 2 つ目である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
パソコン、とりわけ、エクセルで期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関などをわかりやすく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配当割引モデル	成熟企業ｖｓ成長企業
第 2 回	株式投資のリターン	期待投資収益率を計算する
第 3 回	株式投資のリスク	投資収益率の偏差、分散と標準偏差を計算する
第 4 回	株式同士の相性	共分散、相関とポートフォリオのリスクについて
第 5 回	分散投資	すべての卵を同じかごに入れるな
第 6 回	有効ポートフォリオ	リスクとリターンのトレードオフ
第 7 回	ＣＡＰＭ	資本市場線、証券市場線とベータ
第 8 回	異常収益率	個別株式投資収益率と市場収益率を用いてベータと異常収益率を計測する
第 9 回	資金調達の統計資料	借入、転換社債と新株発行などの企業金融について
第 10 回	資金調達方法と株価	資金調達の新聞報道で株価は変動する
第 11 回	配当政策の統計資料	増減配と株価
第 12 回	新規上場	株式上場の仕組みについて
第 13 回	バイアウト	上場株式を取得して非上場への仕組みについて
第 14 回	グループ課題	株価データをダウンロードして企業金融関連の新聞報道の株価に対する効果を計測する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターすること。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】
中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

【成績評価の方法と基準】
出席と期末グループ課題レポートで評価する。全体評価＝平常点（30%）＋期末グループ課題レポート（70%）で評価。なお、成績評価対象にはグループ課題参加は必須。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり話すこと。

【学生が準備すべき機器他】
履修生はノートパソコンを持参するように。

【その他の重要事項】
教職、ＦＰなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】
ＭＢＯ，株式持合，役員報酬，中小企業金融，コミットメント・ライン，銀行ガバナンスと銀行リスク，会社法の経済分析，来日観光客の決定要因等々

【Outline and objectives】
In course B,we first learn about the expected rate of return on stock investment, the standard deviation of rate of return, and the correlation of rate of return between two stocks. Next, we learn the basic idea of diversified investment. Then we study efficient portfolio, the capital market line, the security market line and the risk measures of stock investment. In addition to theory, we also use statistical data such as stock price to master the method of measuring the risk of stocks.

ECN300CA

国際金融論 A

ブー・トウン・カイ

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野、経済学の基本的な考え方
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支勘定
5	貨幣とは	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	為替レートとは	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
13	現実における購買力平価	購買力平価からの乖離、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果
14	為替レート決定の実証分析	為替レート決定の理論を整理し、データを用いて検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次（著）、新世社 2014 年.

【参考書】
1.『入門国際金融』第 4 版、高木信二、日本評論社 2011 年.
2.“International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 (2014/7/3).

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 30%、中間試験： 30 %、学期末試験： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ほぼ毎回授業の最後の 10 分で小テストを行い、その回で学んだ内容に対する理解度を確認する。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline and objectives】
International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These international transactions are mainly transactions in goods&services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this cousrce we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

ECN300CA

国際金融論 B

ブー・トウン・カイ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	為替レートと実体経済（1）	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
2	為替レートと実体経済（2）	為替レートと経常収支
3	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LM モデルの復習
4	開放経済分析の理論的枠組み	マンデル・フレミングモデル
5	開放マクロ経済政策	変動相場制・固定相場制における金融・財政政策の仕組みと効果
6	為替介入	介入の仕組み、胎化と不胎化、リスク・プレミアムとポートフォリオ・バランス効果
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	トリレンマと為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、及び為替制度の選択
9	通貨危機（1）	通貨危機の歴史
10	通貨危機（2）	通貨危機に関する理論
11	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
12	共通通貨	ユーロという共通通貨と最適通貨圏の理論
13	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。
14	グローバルインバランス	世界的な経常収支不均衡問題の現状、要因、政策的対応を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年.

【参考書】
1.『入門国際金融』第 4 版、高木信二、日本評論社 2011 年.
2.“International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 (2014/7/3).

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 30%、中間試験： 30 %、学期末試験： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
ほぼ毎回授業の最後の 10 分で小テストを行い、その回で学んだ内容に対する理解度を確認する。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline and objectives】
International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These international transactions are mainly transactions in goods&services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this cousrce we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

ECN200CA

計量経済学 A

宮﨑　憲治

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を受講することによって, 古典的な回帰分析の理論を説明することができ, 一部の実証論文の内容を理解することができ, EXCEL をもちいて実証分析ができるようになり, 現代の社会について主体的に考察できるようになる.

【到達目標】
誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を, テキストにしたがって講義する. データの扱い方, 確率論の復習, 統計学の復習, 単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する. 適宜宿題を課し, 授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって, 講義をする. 適宜宿題を課す. 授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2 つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布 2 つ以上の事柄の確率変数
6	計量経済学のための確率論	連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは? 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか? 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か?
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計学を受講していることが望ましい.

【テキスト（教科書）】
田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】
山本拓・竹内明香 (2013)「入門計量経済学— Excel による実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」 新生社
中室牧子・津川友介 (2017)「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社
伊藤公一朗 (2017)「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】
数式をなるべく使わないように心がけたい.

【学生が準備すべき機器他】
大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが, 自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい.

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります.

【Outline and objectives】
When you take a course, you can explain a classical regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with EXCEL, and consider our society with an independent perspective.

ECN200CA

計量経済学 B

宮﨑　憲治

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業を受講することによって, 現代的な回帰分析の理論を説明することができ, 一部の実証論文の内容を理解することができ, R をもちいて実証分析ができるようになり, 現代の社会について主体的に考察できるようになる.

【到達目標】
誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を, テキストにしたがって講義する. データの扱い方, 確率論の復習, 統計学の復習, 単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する. 適宜宿題を課し, 授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって, 講義をする. 適宜宿題を課し, 授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2 つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら? 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期の計量経済学 A を受講していることが望ましい.

【テキスト（教科書）】
田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】
星野匡郎, 田中久稔 (2016)「R による実証分析 —回帰分析から因果分析へ」 オーム社
中室牧子・津川友介 (2017)「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社
伊藤公一朗 (2017)「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】
数式をなるべく使わないように心がけたい.

【学生が準備すべき機器他】
大学のパソコンにも導入されている R を用いますが, 自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい.

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります.

【Outline and objectives】
When you take a course, you can explain a modern regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with R, and consider our society with an independent perspective.

ECN300CA

数理統計学 A

宮脇　典彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し，実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら，身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。
既に 1 年次配当の「統計学」を履修して興味をもった学生はもちろん，将来何らかの形で実証的な分析を行いたいと考えている皆さんに是非履修してもらいたいと希望しています。
「数理統計学A」では，Excel の基本操作を説明した後，統計学の基礎となる確率について学びます。

【到達目標】
確率の基礎的な考え方を，Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
確率を基礎から勉強し，Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。Excel がインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概説，記述統計（1）	確率と統計の考え方についての入門的説明，データの中心，広がり，偏り，さまざまな平均値
第 2 回	記述統計（2）	度数分布とヒストグラム，ローレンツ曲線とジニ係数，2 変数データの整理
第 3 回	Excel による解析（1）	Excel の基本，分析ツールによる計算
第 4 回	Excel による解析（2）	Excel でつくる度数分布表，2 変数の関係
第 5 回	確率（1）	標本空間と確率
第 6 回	確率（2）	等確率の世界，条件つき確率と独立性
第 7 回	確率（3）	ベイズの公式
第 8 回	確率変数と分布（1）	離散型確率変数と確率関数
第 9 回	確率変数と分布（2）	同時確率関数
第 10 回	確率変数と分布（3）	連続型確率変数と密度関数
第 11 回	分布の代表値	期待値と分散，標準偏差（Excel による実習）
第 12 回	基本的な分布（1）	主な離散分布（Excel による実習）
第 13 回	基本的な分布（2）	主な連続分布（Excel による実習）
第 14 回	基本的な分布（3）	正規分布（Excel による実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業での理解を深めるため次回の講義内容を予習し，Excel による実習などを通じて毎回の講義内容をしっかり復習します。

【テキスト（教科書）】
森棟公男他著「統計学（改訂版）」，有斐閣（2015 年）

【参考書】
大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」，新世社（2011 年）
加納・浅子著「入門　経済のための統計学［第 3 版］」，日本評論社（2011 年）
篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析〔第 2 版〕」，サイエンス社（2009 年）
田中勝人著「基礎コース 統計学［第 2 版］」，新世社（2010 年）
豊田利久他著「基本統計学〔第 3 版〕」，東洋経済（2015 年）
石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」，東京図書（2013 年）
藤本壱著「Excel でできるらくらく統計解析」，自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）・・・就職活動のため授業に参加できない学生には別途配慮します
レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
Excel での実習を交えながら，数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう，確率の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされたパソコン（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）

【Outline and objectives】
Learn probability theory which is the basis of statistics

ECN300CA

数理統計学 B

宮脇　典彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は，データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し，実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら，身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。
「数理統計学B」では，「数理統計学A」の知識を前提として統計的推測（推定・検定）の基礎的な手法を学び，時間が許せば回帰分析の考え方に触れます。

【到達目標】
統計学の基礎的な考え方を，Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
標本分布や推定と検定の基礎的な考え方を講義し，Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。必要に応じて，Excel がインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	標本分布（1）	標本と標本平均
第 2 回	標本分布（2）	チェビシェフの不等式と大数の法則
第 3 回	標本分布（3）	中心極限定理と正規分布による近似
第 4 回	標本分布（4）	中心極限定理と正規分布による近似（Excel による実習）
第 5 回	正規分布から派生する分布（1）	カイ 2 乗分布，t 分布
第 6 回	正規分布から派生する分布（2）	F 分布
第 7 回	正規分布から派生する分布（3）	カイ 2 乗分布，t 分布，F 分布（Excel による実習）
第 8 回	推定（1）	推定の考え方（点推定と区間推定）
第 9 回	推定（2）	正規母集団と二項母集団の推定（Excel による実習）
第 10 回	推定（3）	点推定の規範・さまざまな推定法
第 11 回	検定（1）	検定の考え方
第 12 回	検定（2）	検定における検出力
第 13 回	検定（3）	正規母集団に関する検定（Excel による実習）
第 14 回	検定（4）	二項母集団に関する検定（Excel による実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業での理解を深めるため次回の講義内容を予習し，Excel による実習などを通じて毎回の講義内容をしっかり復習します。

【テキスト（教科書）】
森棟公男他著「統計学（改訂版）」，有斐閣（2015 年）

【参考書】
大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」，新世社（2011 年）
加納・浅子著「入門　経済のための統計学［第 3 版］」，日本評論社（2011 年）
篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析〔第 2 版〕」，サイエンス社（2009 年）
田中勝人著「基礎コース 統計学［第 2 版］」，新世社（2010 年）
豊田利久他著「基本統計学〔第 3 版〕」，東洋経済（2015 年）
石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」，東京図書（2013 年）
藤本壱著「Excel でできるらくらく統計解析」，自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）
レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
Excel での実習を交えながら，数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう，統計学の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされたパソコン（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）

【Outline and objectives】
Learn the basic methods of statistical inference such as estimation and hypothesis testing

COT300CA

コンピューター科学 A

小沢　和浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピューターとネットワークの発展の歴史を背景に、デジタル演算や信号処理の仕組みを理解することを目標とする。さらにコンピューターによるデータの処理からネットワーク上でのデータの通信法などその基本原理を学ぶ。

【到達目標】
コンピューターとネットワークの発展の歴史を理解する。さらに、デジタル演算や信号処理の仕組みの理解を目標とする。さらに、コンピューターによるデータの処理からネットワークでの情報通信の仕組みを理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は PC を使うため情報演習教室にて行う。テキストを指定するが講義はあらかじめ用意した資料に基づいて行う。また、講義内容の確認として演習問題を解くこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの歴史	計算機の原理を簡単に説明し、コンピューターの発展の歴史を分かりやすく紹介する。
第 2 回	情報量とコンピューターによる情報の表現	情報量の定義と二値論理を紹介し、コンピューターによる情報の表現を実例を通して理解する。
第 3 回	情報のコード化と補数による演算	コンピューター上で用いられる情報のコード化と補数による減算の方法を演習を通して習得する。
第 4 回	論理演算とディジタル回路	データの入出力関係を記述するブール代数を簡単に説明する。
第 5 回	ディジタル回路の基礎	コンピューターを構成する基本素子について解説し論理演算を実現する回路の構成法について学習する。
第 6 回	コンピューターの種類と構成要素	コンピューターの種類についての解説を行う。さらに、コンピュータシステムの基本構成要素について解説を加える。
第 7 回	アルゴリズムとソフトウエア開発	プログラムの実例をいくつか挙げてアルゴリズムの解説を行う。また、簡単なプログラミング実習をする。
第 8 回	プログラミング	簡単なプログラミング実習をする。
第 9 回	ネットワークの基本技術	簡単なプログラミング実習をする。
第 10 回	インターネットの最近の動向	インターネットの歴史と現在のネットワーク機器。
第 11 回	ネットワークの構成	代表的なコマンドを利用してネットワーク構成を確認する。
第 12 回	ネットワークセキュリティキー	暗号と認証の仕組みや様々な脅威について。
第 13 回	システム構築とデータベース	コンピューターシステムの構築法とデータベース。
第 14 回	復習	今までの講義の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容を理解するために十分な復習が必要。

【テキスト（教科書）】
講義の始め (ガイダンス時) に指示する。

【参考書】
必要に応じて講義の途中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって 100%の評価をする。

【学生の意見等からの気づき】
演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習教室の PC およびノート PC（講義中のみ貸し出す）を用いることがある。

【Outline and objectives】
This course aims at 1) learning the background history of computers and their network development ; 2) understanding the mechanism of digital arithmetic operations and signal processing; and 3) acquiring the basic knowledge of data analyses and data communications methods by computers.

COT300CA

コンピューター科学 B

小沢　和浩

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネット上で配布されているオープンソースのソフトウエアを利用して、少し高度で実践的なコンピューターの利用法を習得する。また、コンピューターでの処理手続きのアルゴリズムを理解するために、データ解析や数値計算のアルゴリズムを例にして、外部手続きとしてそのプログラム化を試みる。

【到達目標】
少し高度で実践的なコンピューターの利用法を習得することを目標とする。データ解析や数値計算のアルゴリズムを例にして、アプリケーションソフトの外部手続きとしてプログラム化を試み、コンピューターで処理される手続きのアルゴリズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
ネットワーク利用を前提としたコンピュータシステムの利用法の習得を目指し、実習による演習を交えて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オープンソースウェアの利用 (1)	Office 系ソフトの利用法 (1)
第 2 回	オープンソースウェアの利用 (2)	Office 系ソフトの利用法 (2)
第 3 回	オープンソースウェアの利用 (3)	Office 系ソフトの利用法 (3)
第 4 回	マクロプログラム	簡単なマクロプログラム作成法を理解する。
第 5 回	関数の作成	マクロプログラムによるユーザ定義関数の作成法を理解する。
第 6 回	様々なツールによる回帰分析	内部関数やアドインプログラムの利用法を理解する。
第 7 回	反復計算のアルゴリズム	循環参照による反復計算やソルバーによる解の探索を行う。
第 8 回	マクロとユーザ定義関数の応用	相関係数や最小二乗法のアルゴリズムを作成する。
第 9 回	モンテカルロシミュレーション	確率分布に従う乱数の発生とシミュレーションを行う。
第 10 回	線形計画法による最適化問題	簡単な最適化問題を線形計画法により解く。
第 11 回	統計解析ソフトの利用	統計解析ソフトの利用法を理解する。
第 12 回	数式処理ソフトの利用法	代数計算なども可能な数式処理ソフトを利用する。
第 13 回	地理情報システムの利用法	GIS ソフトを用いて簡単な地理情報の分析を行う。
第 14 回	自動制御のアルゴリズム	PID 制御について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では実習も取り入れて行う。各自できることは予習復習を行うことを推奨する。また、演習の課題も期日までに必ず提出すること。

【テキスト（教科書）】
講義の中で紹介する。

【参考書】
必要であれば講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の演習 (50%) と課題の提出 (50%) を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
内容が理解できるように演習を多く取り入れる。

【その他の重要事項】
注）ネットワーク関連の題材は大部分が「コンピューター科学 A」に移りました。

【Outline and objectives】
This course will help students acquiring skills of practical applications of computers for advanced analysis using public-domain software. For better understanding of the algorithms of computer data processing, simple programming for external procedures of data analyses and numerical computation are introduced by examples.

ECN300CA

現代社会と情報 A

坂本　憲昭

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報システム・IT は社会の隅々まで深く浸透し，どのようなビジネスにおいても，それらを活用することが必須であり，IT と経営全般に関する総合的知識が不可欠です。そのために経営戦略，マーケティング，法務，情報セキュリティなどの知識を学びます。具体的には，これらの職業人としての知識を集約した「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験 IT パスポート試験の内容を活用します。

【到達目標】
職業人として社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の取得，現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を習得し，情報が現代社会に及ぼす影響を理解します。具体的に，(1) 情報システムを業務に活用し，情報システムの投資対効果，要求定義から発注，検品・検証までの一連の流れを理解します。(2) 企業における問題発見・問題解決のために，業務の把握，データ収集・分析・解析，解決策の策定などに寄与する IT ツールの知識と活用方法を習得します。(3) 情報システムを安全に利用するためのセキュリティや法などの知識，情報モラルや情報倫理などを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
授業内容は，国家資格，情報処理技術者試験，ＩＴパスポートのストラテジ系，マネジメント系（IT 管理）の一部，情報システムに必要なインダストリ，情報倫理です。講義内容は大きく３本柱になります。それぞれにおいて，「講義と演習問題＞試験」のサイクルで授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび現代社会における情報システム	情報化社会において求められる職業人としての知識について
第 2 回	ストラテジ系（企業活動）	企業活動，企業の組織，最高情報責任者 CIO，コンプライアンス，OR や IE など
第 3 回	ストラテジ系（業務把握ツール）	問題発見のための業務把握のための ICT ツール，情報ツール
第 4 回	ストラテジ系（業務分析ツツール）	問題解決のための業務解析，業務分析のためのツールと活用事例
第 5 回	ストラテジ系試験	ストラテジ系の確認となる中間試験，振り返りと問題解説
第 6 回	ストラテジ系（経営戦略策定ツール）	経営戦略策定のためのデータ収集手法など
第 7 回	ストラテジ系（分析手法）	ビジネス戦略策定のためのデータ分析手法など
第 8 回	ストラテジ系（情報システム）	情報システム戦略の策定と事例紹介，アローダイアグラムなど
第 9 回	ストラテジ系（ビジネスインダストリ技術）	規格，標準化，電子商取引社会などの情報システム，ビジネスインダストリ
第 10 回	ビジネスインダストリ事例	情報社会におけるビジネスインダストリに関する事例紹介
第 11 回	マネジメント系試験	マネジメント系の確認となる中間試験，振り返りと問題解説
第 12 回	情報倫理（ネットワーク倫理，情報化社会）	情報セキュリティ，情報社会における法と企業または個人の責任，情報倫理
第 13 回	情報倫理（知的財産権）	知的財産権について
第 14 回	情報倫理試験	情報倫理および情報産業に関する試験，振り返りと問題解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業時間内に演習問題を行うので，間違えた問題は授業外に復習します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せずに，教員による自作資料は授業支援システムに掲載し，演習問題は印刷したものを配布します。

【参考書】
情報処理技術者試験「IT パスポート」の参考書および問題集が参考になります。

【成績評価の方法と基準】
3 回の試験結果で評価します。各試験を 100 点満点とし，3 回の試験結果の合計が 100 点満点になるように換算し，60 点以上で合格となります。なお，2019 年度，今年度の試験方法を見直す予定です。

【学生の意見等からの気づき】
準備したスライドを提示した際に，早くなることがあるので，確認しながら進めるようにします。マイクの持ち方に失敗して聞き取りにくいことがあり，注意します。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
ガイダンスには必ず出席してください。やむを得ず欠席した場合は，授業支援システムにある配布資料「ガイダンス」を必ず参照してください。試験欠席に対して追試や課題はありません。公欠には対応します。評価の方法や公欠の対応などもすべて授業支援システムにある「ガイダンス」に記載しています。 質問等は授業終了直後の昼休み時間を利用してください。

【Outline and objectives】
Information systems and technology are now used in every aspect of society, and therefore, it is essential to utilize them in any kind of business. Comprehensive knowledge of information technology and management, in general, is required. As preparation for this society, students learn management strategy, marketing, legal affairs and information security in this course. We will utilize the contents of a national exam called IT Passport, which is based on 'Act on Facilitation of Information Processing,' collective knowledge for professionals.

ECN300CA

現代社会と情報Ｂ

菅　幹雄

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術の発展は、情報・知識の自由な創造・流通・共有化を可能にし、それは経済・社会に大きな変革をもたらした。一方、個人に関する大量の情報が集積・利用されたことに伴い、個人情報保護についての不安も顕在化した。個人情報を保護しつつ、ミクロデータ（個体情報が記録されたデータ）をいかに社会全体の利益のために活用すべきかを論じる。

【到達目標】
個人情報保護の重要性を十分に認識した上で、ミクロデータ活用の有効性を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行なう。試験を１回実施する。レポートやワークシートを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報化社会を予測した人々	梅棹忠夫『情報産業論』、林雄二郎『情報化社会』、ダニエル・ベル『脱工業社会の到来』、ドォロネ、ギャドレ『サービス産業学説史』
2	メインフレームによる支配	マクナマラ、DVD『フォッグ・オブ・ウォー』視聴、デビッド・ハルバースタム『ベスト＆ブライテスト』
3	シリコン・バレーのベンチャー企業によるマイクロプロセッサーの開発	DVD『シリコン・バレーの百年』視聴
4	パーソナルコンピュータの登場	アップル、DVD『スティーブ・ジョブズ：ラスト・メッセージ』視聴
5	ネット社会の到来	村井純『インターネットの基礎』、西垣通『IT 革命―ネット社会のゆくえ』、西垣通『ウェブ社会をどう生きるか』
6	検索エンジンとターゲット広告	佐々木俊尚『グーグル― Google 既存のビジネスを破壊する』、エリック・シュミット、 ジャレッド・コーエン『第五の権力』、DVD『グーグル革命』視聴
7	ビッグデータとデータマイニング	ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー、ケネス・クキエ『ビッグデータの正体』、西垣通『ビッグデータと人工知能』
8	人工知能と深層学習	西垣通『ビッグデータと人工知能』、涌井良幸、涌井貞美『Excel でわかるディープラーニング超入門』、、新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』
9	ジョージ・オーウェルの『１９８４』と監視社会	DVD『１９８４』視聴、デイヴィッド・ライアン『監視社会』
10	個人情報保護（１）	住民基本台帳ネットワーク、個人情報保護法、堀部政男『プライバシーと高度情報化社会』
11	個人情報保護（２）	年金記録問題、マイナンバー
12	公的ミクロデータの利活用（１）	統計法、匿名データ
13	公的ミクロデータの利活用（２）一般用ミクロデータ	一般用ミクロデータ
14	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容の欄に示した参照する文献を読んでみること。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint の出力を授業支援システムにアップする。

【参考書】
各回の内容の欄に参照する文献を示した。

【成績評価の方法と基準】
試験 60 %、レポート・ワークシート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
黒板の字が薄いとの指摘があったので、なるべく見やすく書くようにする。

【Outline and objectives】
The development of information and communication technology has enabled the free creation, distribution and sharing of information and knowledge, which brought about major reforms in the economy and society. On the other hand, concern about personal information protection became obvious as a large amount of information about individuals was accumulated and used. While protecting personal information, discuss how to utilize micro data (data on which individual information is recorded) for the benefit of society as a whole.

ECN300CA

比較経済システム論 A

Oliynyk Oleh

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will consider the classification of countries, the main indicators of economic systems, on the basis of which a comparative analysis will be conducted.

【到達目標】
1) To master the essence of economic systems.
2) To understand the universal economic principles.
3) To determine the determining forces of economic systems.
4) To acquire skills in conducting a comparative analysis of economic system.
5) To enhance the ability to evaluate economic system.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
Lecture, presentation, quizzes, in-class activities, discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the Study of Comparative Economic Systems	Explanation of course objectives and expectations. Explanation of essence of Economic System, institutions and economic Principles. 1.1 Variety of Economic Systems. 1.2 Forces creating economic systems. 1.3 What an Economic System is. 1.4 Economic Institution and Economic Power. 1.5 University of Economic Principles. 1.6 The Study of Comparative Economic System.
第 2 回	Classification of Countries	2.1 Advanced Economies 2.2 Emerging Market and Developing Economies
第 3 回	Output	3.1 Summary of World Output 3.2 Advanced Economies: Real GDP and Total Domestic Demand 3.3 Advanced Economies: Components of Real GDP 3.4 Emerging Market and Developing Economies: Real GDP
第 4 回	Inflation	4.1 Summary of Inflation. 4.2 Advanced Economies: Consumer Prices 4.3 Emerging Market and Developing Economies: Consumer Prices
第 5 回	Financial Policies	5.1 Major Advanced Economies: General Government Fiscal Balances and Debt
第 6 回	Foreign Trade and Current Account Transactions	6.1 Summary of World Trade Volumes and Prices. 6.2 Summary of Current Account Balances 6.3 Advanced Economies: Balance on Current Account. 6.4 Emerging Market and Developing Economies: Balance on Current Account.
第 7 回	Balance of Payments and External Financing	7.1 Summary of Financial Account Balances Flow of Funds 7.2 Summary of Net Lending and Borrowing
第 8 回	Technology and Innovation	8.1 The international divide in research and development capabilities 8.2 Technology readiness and innovation 8.3 Building skills for complementary with new technologies
第 9 回	Global Competitiveness	9.1 Tool for understanding and assessing Competitiveness. 9.2 Regional and country results 9.3 Global trends and implications
第 10 回	Enabling environment	10.1 Institutions 10.2 Infrastructure 10.3 ICT adoption 10.4 Macroeconomic stability
第 11 回	Human Capital	11.1 Health 11.2 Skills
第 12 回	Markets	12.1 Product market 12.2 Labor market 12.3 Financial market 12.4 Market size
第 13 回	Innovation Ecosystem	13.1 Business dynamism 13.2 Innovation capability 13.3 Financial market 13.4 Market size
第 14 回	Presentations	Student presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Presentation.

【テキスト（教科書）】
Some Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】
To be supplied later.

【成績評価の方法と基準】
In-class activities 40%
Quizzes 30%
presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
n/a

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentation.

【Outline and objectives】
The course will consider the classification of countries, the main indicators of
economic systems, on the basis of which a comparative analysis will be conducted.

ECN300CA

比較経済システム論Ｂ

Oliynyk Oleh

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will consider the essence of capitalism, model of capitalist systems, comparative analysis of economic systems, advantages and shortcomings of capitalist countries.

【到達目標】
1)To master the essence of capitalist Economy.
2)To study the deferent model capitalist economic model.
3)To study the economic systems of USA, Germany and Japan.
4)To compare the economic system of USA, Germany and Japan.
5)To identify the comparative advantages of USA, Germany and Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】
Lecture, presentation, quizzes, in-class activities, discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	1.The institutions of a Capitalist Economy	Explanation of course objectives and expectations. Explanation of essence of Capitalist Economic System, institutions and economic Principles. 1.1Definition of　Capitalism 1.2 Private Property 1.3 Freedom of Individual Initiative 1.4 Competition 1.5 The profit motive
第 2 回	Models of Capitalist Economies	2.1 Free market Economy 2.2 State-governed Economy 2.3 Social market Economy
第 3 回	American capitalism(Economy)	3.1 Role of entrepreneurship 3.2 Role of the Business 3.3 Role of the State
第 4 回	Social system in USA	4.1 Medical care 4.2 Pension 4.3 Social protection
第 5 回	Human capital in USA	5.1 Education 5.2 Science 5.3 Innovation
第 6 回	German capitalism (Economy)	6.1 Role of entrepreneurship 6.2 Role of Business 6.3 Role of State
第 7 回	Social system in Germany	7.1 Medical care 7.2 Pension 7.3 Social protection
第 8 回	Human capital in USA	8.1 Education 8.2 Science 8.3 Innovation
第 9 回	Japan capitalism (Economy)	9.1 Role of entrepreneurship 9.2 Role of Business 9.3 Role of State 9.4 Innovation
第 10 回	Social system in Japan	10.1 Medical care 10.2 Pension 10.3 Social protection
第 11 回	Human capital in Japan	11.1 Education 11.2Science 11.3 Innovation
第１２回	Technology	12.1 USA 12.2 Germany 12.3 Japan
第１３回	Comparative analysis	13.1 Economy 13.2 Social system 13.3 Human capital
第１４回	Presentation	Student Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class.

【テキスト（教科書）】
Some Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】
To be supplied later.

【成績評価の方法と基準】
In-class activities 40%
Quizzes 30%
presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
n.a.

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentation

【Outline and objectives】
The course will consider the essence of capitalism, model of capitalist systems, comparative analysis of economic systems, advantages and shortcomings of capitalist countries.

LANe200CA

Business Research Seminar A

戸田　博之

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】
This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Intel Japan Marketing 1	Good Speakers
2	Elements of introduction Intel Japan Marketing 2	Preparation
3	Data Coca-cola 1	Describe Details
4	Coca-cola 2	Brainstorming & Clustering
5	Chanel	Transitions & Connectors
6	Christian Dior	Audience Analysis
7	Sapporo Beer 1	Selecting Details
8	Sapporo Beer 2	Explaining Causes
9	MUJI 1	Explaining Reasons
10	MUJI 2	Case 1
11	Negotiating with Headquarters 1	Case 2
12	Negotiating with Headquarters 2	Case 3
13	JR Kyushu 1	Case 4
14	JR Kyushu 2	Demonstration

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The course needs preparation and review.　Active participation is strongly encouraged.

【テキスト（教科書）】
1. M. Hood. Dynamic Presentations, Kinseido
2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】
Yoshio Sugita & Richard R. Caraker.　Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】
Class partcipation and contribution 30%
Class presnetaions 40%
Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】
PC, DVD, Internet connection

【Outline and objectives】
Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

LANe200CA

Business Research Seminar B

戸田　博之

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】
This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Shiseido Chaina 1	Good Speakers
2	Shiseido China 2	Preparation
3	Toshiba Vietnam 1	Describe Details
4	Toshiba Vietnam 2	Brainstorming & Clustering
5	Intel Japan Communication Strategy 1	Transitions & Connectors
6	Intel Japan Communication Strategy 2	Audience Analysis
7	Meigetsudo 1	Selecting Details
8	Meigetsudo 2	Explaining Causes
9	Global MUJI 1	Explaining Reasons
10	Gloabal MUJI 2	Case 1
11	Shiseido Italy	Case 2
12	Shiseido France	Case 3
13	Toshiba HR	Case 4
14	Konica Minolta	Demonstration

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The course needs preparation and review.　Active participation is strongly recommended.

【テキスト（教科書）】
1. M. Hood. Dynamic Presentations, Kinseido
2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】
Yoshio Sugita & Richard R. Caraker.　Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】
Class partcipation and contribution 30%
Class presnetaions 40%
Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】
PC, DVD, Internet connection

【Outline and objectives】
Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

PHL300CA

日本思想史

古澤　直人

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本思想の基層にある伝統思想を検討する。次に国際的な背景といえる中華思想，貴族思想としての小中華思想，宗教思想としての神仏習合思想など重要なトピックを説明する。武士の思想としての忠誠と反逆は重点をおいて詳細に検討する。さらに政治思想としての公権授受思想，合議の思想，徳治主義などを考察する。思想史にかんするいくつかのテーマを論述する活動を通じて，事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【到達目標】
現代に影響を及ぼしている日本における基層の倫理・宗教・政治思想を学ぶ。各時代の国際環境の中で影響をもった外来思想の意味を考える。日本思想史の伝統的なテーマである武士の思想としての忠誠と反逆について理解を深める。関連史料を読み解きつつ，解釈の多様性や因果関係の考察など歴史的思考力の獲得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回授業で配付するプリント教材を参照しつつ、パワーポイントにそって講義を進める。史料を読み、史料から思想を読み取る。リアクションペーパーを毎回提出してもらう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際環境としての中華思想	礼，天下，王道理論，徳治主義，東アジアの国際秩序 日本史の教育における本授業の意味
2	小中華思想	中国文化と国粋主義，辺土小国思想，罪と穢れと災い，ケガレ意識
3	神仏習合思想	日本の宗教思想，神と仏の関係，神宮寺建立，本地垂迹説，御霊信仰
4	儒教の道徳思想	四書五経，孔子と『論語』
5	日常生活のなかの陰陽道思想	陰陽と五行，日時の占定，方違え，安倍晴明の占い
6	歴史思想	『源氏物語』と『平家物語』，読者層の違い，歴史観への影響
7	武士の思想①：平清盛を通じて	忠と孝，反逆，天皇の信義，海洋国家思想
8	武士の思想②：源頼朝を通じて	冷酷と温情，頼朝の政治思想，京都派と東国派
9	武士の思想③：木曽義仲を通じて	京都の義仲，異質な存在としての武士
10	武士の思想④：源義経を通じて	判官贔屓，伝説，合戦のルール，反逆と没落
11	幕府成立をめぐって	公権授受思想，朝廷権威か第２の主権か，形式と実体
12	承久の乱と徳治思想	朝廷の権威，政子の演説，天皇権威の失墜
13	御成敗式目の思想	強きものと弱きもの，北条泰時の思想，道理の思想
14	復習，試験と解説	授業内容についての復習、試験，質問への返答など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にプリントに目を通しあらましを理解し，授業後に授業内容について復習しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業プリントを授業支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】
家永三郎『日本道徳思想史』（岩波書店，1977 年改版）

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価が中心（80 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20 %）として総合評価。なお平常点が所定に満たない学生は採点対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
回によって内容が多すぎるという指摘があるので厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保ちたい。私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【その他の重要事項】
高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

【Outline and objectives】
Learn the ethics, religion and political thought of the underlying strata in Japan that is affecting the present age.Think about the meaning of foreign ideas with influence in the international environment of each era.Understand loyalty and rebellion as samurai thought.

HIS300CA

日本文化史

古澤　直人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本生活文化の形成について理解を深める。応仁の乱後の分裂の時代を経て，地域ごとの小国家ともいえる戦国大名領国が作られ，生活・文化の地域的特色が形成される。さらに織豊統一政権によって日本は再統合され，統一した文化が形成される。以上の過程について知見を得る。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い，解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力の獲得をめざす。

【到達目標】
猿楽，茶の湯，畳敷き建物など，今日「日本的」とされる生活文化の多くは室町時代に成立している。また郷土の英雄や県民意識（お国ぶり）の源流も室町時代後期を起点とする。北山文化・東山文化が生まれた後，郷土に根ざした生活文化が形成される室町時代中期から，統一した文化が形成される織豊期・近世初頭の時期に焦点をあてて学ぶ。文化史にかんするいくつかのテーマを論述する活動を通じて，事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業支援システムからダウンロードしたプリント教材を参照しつつ、パワーポイントにそって講義を進める。リアクションペーパーを毎回提出してもらう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	公家文化の諸相	和歌会，装束，雅楽，蹴鞠，日本史の教育における本授業の意味
2	庶民文化の諸相	猿楽（能），風流，御伽草子
3	文化史上の応仁の乱	内藤湖南の指摘，父の意向と家臣の支持，京都焼亡
4	応仁の乱と東山文化	足軽の活躍，東西幕府，山城国一揆，日野富子，東山文化
5	東国戦国の開始	応仁の乱後の関東，北条早雲と太田道灌，江戸城築城
6	後北条氏の領国支配と文化	小田原城奪取，相模支配，早雲寺殿 21 箇条の思想
7	西国の戦国と文化	大内と尼子，国人から戦国大名へ，大内氏の文化
8	毛利氏の領国支配と文化	石見銀山をめぐって，中国制覇，元就の思想
9	戦国大名武田氏とその文化	甲斐国の特徴，法典と家訓，治水，甲州金，信玄堤
10	戦国大名上杉謙信とその思想	祈禱と旗，謙信の 2 面作戦，謙信の筋目
11	織田氏の領国支配と新政策	信秀の活動，岐阜での新政策，加納楽市
12	信長の統一事業と文化	都市の直轄，叡山焼討，安土城と文化，天下人
13	信長と南蛮文化	宗教勢力との対決，木綿と鉄砲，中世文化の否定，南蛮寺，神格化
14	復習，試験と解説	授業内容の復習、質問への返答など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に授業支援システムからダウンロードしたプリントに目通しし，授業後に授業内容を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業プリントを授業支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】
永原慶二『戦国時代』上・下（小学館ライブラリー）。このほか授業で逐次提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価が中心（80 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20 %）として総合評価。なお平常点が所定に満たない場合は採点対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
1 コマの内容が多すぎるという指摘があり厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保つようにしたい。私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【その他の重要事項】
高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

【Outline and objectives】
Understand the formation of Japanese life culture.After the era of split after Onin's disturbance, the Sengoku Daimyo Domain, which can be regarded as a small country by region, is created, and regional features of living and culture are formed. Furthermore, Japan is reunited by the Unified Oda − Toyotomi regime, and a unified culture is formed. Obtain knowledge about the above process.

PHL300CA

日本文化論

池田　雄一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「神話としての日本文化」
◉神話は、物語の普遍的なパターンであると同時に、世界の説明原理でもある。形式面から見ると、神話は、現実の模倣という側面を排除した、抽象的な物語進行の組み合わせである。内容面からみると、神話は人類の起源、正当化された暴力、誕生や死といった非日常的な出来事などを、物語へと加工したものだと考えることができる。
◉その一方で、今日の日本においても神話はつねに発生しつづけている。神話とは現在進行形の出来事なのである。
◉そのような観点から、日本の文化を神話として読み解いていくのが、この授業の目的である。映画、漫画、アニメーションなどのエンターテイメント作品を中心にあつかう予定である。

【到達目標】
◉一見すると、ただの娯楽のような作品でも、見る角度を変えると、違った意味やメッセージを持つことがある。
◉そのような見方は、メディア・リテラシーと共通するものである。本授業では、神話学の理論を習得することによって、こうしたものの見方を獲得することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。
ただし学生の見解を授業材料としたいので、たくさん当てます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、成績評価等の説明。文化を考えるにあたっての基本的な考え方の説明。
第 2 回	洪水神話	『日本沈没』その他
第 3 回	プロメテウス神話	『ゴジラ』その他
第 4 回	◉理論編	メディアと文化
第 5 回	オリンピック	『民族の祭典』その他
第 6 回	人類の起源	創世神話
第 7 回	人類の起源	様々なアンドロイド
第 8 回	◉理論編	神話の記号学
第 9 回	英雄神話	ロマンスと神話とＳＦ
第 10 回	英雄神話	暴力の文法
第 11 回	恐怖のスペクタクル	Ｊホラー／ゾンビ映画
第 12 回	◉理論編	文化とナショナリズム
第 13 回	神話からユートピアへ	トマス・モア『ユートピア』その他
第 14 回	ユートピアからＳＦへ	H・G・ウェルズの小説等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◉毎回の授業ごとに「お題」を出すので、それについて考えてきてほしい。授業時にその考えを聞かせてもらう。
◉授業後に、ミニレポートをだしてもらう。提出方法は人数次第で決める。

【テキスト（教科書）】
とくになし。必要なコピーを授業で配る程度。

【参考書】
R・バルト『現代社会の神話』下澤和義訳、みすず書房
G・ドゥヴォール『スペクタクルの社会』木下誠訳、筑摩書房
D・スーヴィン『SF の変容』大橋洋一訳、国文社
いずれも強いて買う必要はない。

【成績評価の方法と基準】
ミニレポート（40 %）
期末レポート（60 %）
課題は授業時に発表する

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
Myth is a universal pattern of the story and at the same time it is the explanatory principle of the world. From a formal perspective, the myth is a combination of abstract narrative progression, excluding aspects of reality imitation. From the viewpoint of content, it can be thought that myths are processed into stories, such as the origins of human beings, justified violence, unusual events such as birth and death.
Meanwhile, myths are constantly occurring in today's Japan as well. Myth is now a progressive event.
From that point of view, it is the purpose of this lesson to read Japanese culture as myths. It plans to focus on entertainment works such as movies, cartoons, and animation.

SES300CA

地球環境論 A

山﨑　友紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解し、人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。そのために地球の成り立ち、自然環境の仕組みを総括的に学習する。

【到達目標】
諸資料を活用し、地理的条件とも関連づけながら、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
地球を取り巻く大気環境、地球の構造、環境の変遷に伴う生物・人類進化・国際社会の現状に至るまでを学習する。地球の成り立ち、生物から見た環境要素との関係（エコロジー）、地球環境の歴史的変化と生物との関係などについて触れる。授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を “みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	ＶＴＲと演習	参考となるビデオ観察、グラフを用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性と意義
14	総復習と演習	春学期全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料や課題は授業支援システムで配布する。

【テキスト（教科書）】
1『地球環境学入門　第２版』山﨑友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】
1『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、授業への取組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおり）

【学生の意見等からの気づき】
理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】
学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。
「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline and objectives】
In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

SES300CA

地球環境論 B

山﨑　友紀

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。

【到達目標】
自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
公害の歴史や化学史を参照しながら、地球規模での人間と環境との関わりについて学習する。また環境汚染の発生メカニズムとその現状、環境汚染物質が自然環境にもたらす影響について、さらには環境保全の技術と社会との関わりについて理解する授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、計画、評価方法、テキストの紹介。環境とは何か、エコとは何か
2	生態系	生態系と生物多様性、里地・里山の役割
3	資源とエネルギー	エネルギーとは何か。化石燃料を中心とした問題
4	非化石燃料と核燃料	発電および動力源としてのエネルギー資源
5	非金属資源と金属資源、生物資源	各種資源の地球規模、日本国内規模での問題
6	原子力発電	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
7	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
8	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
9	地球大気の異変	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
10	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
11	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
12	食品と環境	食品汚染、農業問題、毒とは何か
13	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
14	環境と経済・総復習	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。演習を交えた総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1)『地球環境学入門　第２版』　山﨑友紀　（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】
1)『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2)『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata , Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】
授業内でレポートや小試験 (40%) を行い、期末筆記試験 (60%) を行う。合計の 60 %以上得点できた場合に単位を認める。

【学生の意見等からの気づき】
理科系科目の苦手な学生も理解できるように努める

【学生が準備すべき機器他】
授業の予習復習の際に授業支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】
学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。

「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline and objectives】
The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

ECN300CA

環境政策論 A

西澤　栄一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】
①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
　主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。なお、現代経済学入門を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。くわえて、環境経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス＆環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	エネルギー需給、エネルギー政策
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、ボーモル・オーツ税、汚染者負担原則、二重の配当
第 11 回	排出取引	仕組み、税との比較、EU の制度
第 12 回	環境補助金・デポジット制度	助成金、特別償却、長期の効率性、課税と補助金の組み合わせ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　テキストは使用しないが、内容をしっかり理解するために、下記の参考書のどちらかを通読してほしい。また、各回で紹介する参考書も参照のこと。授業は各回完結ではなく、それまでの内容を踏まえて進めていくので、前回までの内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
　テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】
　栗山・馬奈木 (2016)『環境経済学をつかむ 第 3 版』有斐閣
　一方井誠治 (2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】
　期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
　私語がうるさいという苦情が寄せられている。私語をしないこと。

【その他の重要事項】
　スマートフォンの使用は控えること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students consider environmental policies from the viewpoint of economic theory.

ECN300CA

環境政策論 B

西澤　栄一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】
①日本の環境政策の実態について理解する。
②環境政策の形成過程を理解する。
③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
　主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、濃度規制と総量規制、アスベスト問題
第 4 回	交通と環境	自動車 NOx・PM 法、交通需要マネジメント
第 5 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第 6 回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法、スーパーファンド法
第 7 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第 8 回	自然環境保全 ①生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 9 回	自然環境保全 ②自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 10 回	廃棄物対策	廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	環境税の政策過程、政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境マネジメント、環境報告書
第 14 回	企業と環境問題②	環境会計、ESG 投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業は特定のテキストに沿って行うわけではないが、内容をしっかり理解するために『環境白書』を読んでおくこと。環境省のホームページで閲覧できる。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。さらに、授業のあとは内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
　テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】
　西尾哲茂 (2017)『わか〜る 環境法』信山社
　神山智美 (2018)『自然環境法を学ぶ』文眞堂

【成績評価の方法と基準】
　期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
　私語がうるさい苦情が寄せられている。私語をしないこと。

【その他の重要事項】
　スマートフォンの使用は控えること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of current environmental law, politics, and policy in Japan.

HSS300CA

スポーツ経済論

杉本　龍勇

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会におけるスポーツの多様な意義、役割などを踏まえ、スポーツの経済効果に関する基礎知識を理解する。

【到達目標】
スポーツを社会的側面、経済的側面から理解することを目指す。具体的には、「スポーツの社会的役割」「スポーツの経済的役割」「スポーツビジネス」について、基本的な概要を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的な事例を参考に取り上げ、スポーツの社会的、経済的な側面について説明をする。そしてスポーツの現状について多面的に考えていきたい。特に、様々なスポーツの経済効果に対する今後の可能性を踏まえながら、経済学や経営学の基礎と照らし合わせて講義を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツと経済の関わり	スポーツと経済の関連について説明する
第 2 回	現代社会とスポーツ	スポーツの社会的役割について
第 3 回	スポーツの政策	日本のスポーツ政策について
第 4 回	高齢化社会とスポーツ	高齢化社会におけるスポーツの経済的役割について
第 5 回	子供とスポーツ	現在の子供に対するスポーツの経済的役割について
第 6 回	スポーツの経済的発展	スポーツのビジネス化のプロセスと今後の予測について
第 7 回	スポーツの経済効果	スポーツによる経済効果の概要とマクロ経済との関わりについて
第 8 回	スポーツイベントの経済効果	オリンピックを中心に、スポーツイベントによって派生する経済効果について
第 9 回	スポーツ産業の構造 1	スポーツ産業全般の仕組みについて
第 10 回	スポーツ産業の構造 2	スポーツ産業の各分野について
第 11 回	スポーツの需要 1	スポーツの需要（消費者行動）の特徴について
第 12 回	スポーツの需要 2	スポーツの需要（消費者行動）の特徴について
第 13 回	スポーツのマーケティング 1	ビジネスとしてのスポーツの経営方法について
第 14 回	スポーツのマーケティング 2	スポーツビジネスにおけるブランディングについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スポーツ関連の時事問題をテレビ、雑誌、新聞、Web などを使って調べる。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
「スポーツ産業論入門」　原田宗彦編著　杏林書院
「スポーツマネジメント　スポーツビジネスの理論と実際」
　ボニー L・パークハウス編著　日本スポーツ産業学会監訳
　大修館書店
「スポーツマーケティング交換課程の経営」
　スポーツマネジメント研究会　編訳

【成績評価の方法と基準】
平常点： 50%
試験（論述）： 50%

【学生の意見等からの気づき】
スライドの作成において工夫をし、講義内容の聴講とノート作成のバランスが適切になるように努める。また、イメージがしやすい具体例を挙げるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを使って講義を行う。また講義で使用する資料は授業支援システムを用いて配布するの得、講義前にプリントアウトして持参すること。

【その他の重要事項】
資料だけでなく、講義内容をノートに書き留めることを薦める。

【Outline and objectives】
The purpose is to acquire basic knowledge about economic impact of sports.　For the purpose, it is based on understanding about social significance and influence of sports.

ECN300CA

国際貿易論 A

武智　一貴

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国際取引に関係する様々なコストの源泉と影響を分析する。特に、国際貿易と知的財産権保護の関係に焦点を当て、各国国内制度の違いの重要性と国際取引に及ぼす影響を講義する。

【到達目標】
知的財産権と国際的な取引・取引コストに関して理解する事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
知的財産法（著作権法、特許法）や独占禁止法と国際取引との関係について考える。また、貿易コストに関して、関税・輸送費・情報コストなどの影響を分析する。主に英文学術雑誌に公刊された論文を用いて、国際取引と制度を分析するための基本となる考え方とそれに関連した国際貿易論を講義する。国際経済学の基本と統計分析の基礎を習得済みであることを前提とする。また、授業支援システムから論文をプリントアウトし学習しておくことが必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	国際取引と所有権、制度
2)	各国の制度の違いと国際取引	日本・アメリカの比較、統計分析の考え方
3)	知的財産取引と制度	各国の制度の概要
4)	特許法の概要	日本、アメリカの特許制度に関する解説
5)	特許法の国際取引に与える影響 I	理論分析
6)	特許法の国際取引に与える影響 II	実証分析
7)	累積的イノベーションと特許保護	イノベーションのタイプと特性
8)	保護強化の帰結	コモンズとアンチコモンズの悲劇
9)	国際的な知的財産権保護	TRIPS の特徴
10)	貿易コストとは何か	貿易コストの概要
11)	貿易コストの測定	いかに貿易コストの大きさを測るのか
12)	貿易コストの測定とその問題	セレクション問題
13)	貿易コストの影響 I	国境効果
14)	貿易コストの影響 II	インフラの影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムの資料を事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムから資料を講義前にダウンロードしプリントアウトしておくこと。

【参考書】
授業支援システムにより文献を配布する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（１００%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
より分かりやすい板書により解説を行う予定。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する

【Outline and objectives】
This course is intended to analyze the source and consequences of trade costs. In particular, we focus on the relationship between international trade and intellectual property rights protection.

ECN300CA

国際貿易論 B

武智　一貴

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国際貿易ルールをつかさどる国際機関である世界貿易機関 (World Trade Organization, WTO) の役割について紹介する。

【到達目標】
様々な貿易紛争を例に WTO の機能と役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
板書を主に用いて WTO の下での貿易紛争を経済学的な観点から分析する。紛争の中心となる論点については講義において出席者によるディスカッション・意見を求めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	GATT,WTO とは何か
2)	WTO 成立の理論的背景	国際機関の設立の理念
3)	WTO 成立の歴史	GATT から WTO へ
4)	WTO の基本理念	最恵国待遇、内国民待遇、数量規制の禁止など
5)	内国民待遇に関する紛争	内国民待遇に関する紛争例
6)	内国民待遇と日本の酒税	焼酎の税率
7)	内国民待遇の分析	同種の産品とは何か
8)	日本の酒税に関する紛争の帰結	市場の確定と代替の弾力性
9)	セーフガードとは何か	WTO 下における数量制限
10)	日本の２輪車輸出とセーフガード	アメリカによるセーフガード発動の背景と経過
11)	セーフガードの分析	２輪車に対するセーフガードの影響
12)	日本による野菜セーフガード	中国からの野菜輸入に対するセーフガード発動の背景
13)	日本によるセーフガードの分析	野菜に対するセーフガードの影響
14)	その他の WTO 下の紛争	アンチダンピング、TRIPS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料を事前にダウンロードし読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業支援システムを通じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
進度は出席学生に応じて変化させる予定です。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】
In this course, we will learn the role of the international organization (World Trade Organization (WTO)), which governs the rule of international trade.

ECN300CA

企業経済論 A

砂田　充

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に，ミクロ経済学分析の基礎概念，独占企業の行動及びマーケティング戦略としての様々な価格差別の態様について学習する。また，企業行動と政府規制の関係についても学習し，資本主義経済における企業と政府の役割や企業の経営戦略が消費者に与える影響を学ぶ。

【到達目標】
企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また，企業が日々の活動で行っている様々なマーケティング戦略の仕組みと効果，独占企業と政府規制の関係について経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	経済学のための数学基礎	関数・連立方程式・微分
3	企業経済学の課題と歴史	SCP パラダイム
4	ミクロ経済学の基礎概念①	消費者行動と需要の価格弾力性
5	ミクロ経済学の基礎概念②	企業の費用構造
6	ミクロ経済学の基礎概念③	機会費用とサンクコスト
7	ミクロ経済学の基礎概念④	市場均衡と経済厚生
8	独占	独占企業の価格設定と非効率性
9	価格差別①	価格差別の手段と効果
10	価格差別②	市場分割
11	価格差別③	バンドル
12	価格差別④	二部料金
13	価格差別⑤	抱き合わせ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な数学の計算については講義でも簡単に解説を行うが，高校の数学の教科書を利用する等して，各自で十分な自習を行っておくこと。また、ミクロ経済学の基礎についても自習を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】
泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣，2008 年）．
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社，2010 年）．
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第 2 版）』（日本評論社，2013 年）．
丸山雅祥『経営の経済学［第 3 版］』（有斐閣，2017）．
Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（85%）と平常点（15%）。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】
受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては，レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline and objectives】
We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the following topics: demand and supply, monopoly, price discrimination. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept. Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

ECN300CA

企業経済論 B

砂田　充

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に，ゲーム理論の基礎，寡占市場，市場構造指標と市場支配力，カルテル，合併及び垂直的取引関係について学習し，わが国の様々な産業・市場で典型的な寡占市場における企業間競争の仕組みと社会・経済への影響を学習し，政府規制の役割についても学ぶ。

【到達目標】
企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また，企業間競争と様々な経営戦略（協調行為・垂直的取引制限等）の仕組みと効果を経済学的に理解し，企業と政府規制の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	ゲーム理論の基礎	企業行動とゲーム理論
3	寡占市場①	クールノー競争とベルトラン競争
4	寡占市場②	寡占の市場行動
5	寡占市場③	シュタッケルベルグ競争
6	寡占市場④	製品差別化
7	カルテル①	カルテルの経済分析
8	カルテル②	カルテル規制
9	市場構造分析①	市場支配力
10	市場構造分析②	市場画定
11	垂直的取引①	垂直的取引と企業間関係
12	垂直的取引②	垂直的統合による効率性と排除
13	垂直的取引③	垂直的取引制限の競争効果
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な数学の計算については講義でも簡単に解説を行うが，高校の数学の教科書を利用する等して，各自で十分な自習を行っておくこと。また、ミクロ経済学の基礎についても自習を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】
泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣，2008 年）．
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社，2010 年）．
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第 2 版）』（日本評論社，2013 年）．
丸山雅祥『経営の経済学［第 3 版］』（有斐閣，2017）．
Belleflamme, P., and M., Pelitz. Industrial Organization: Markets and Strategies, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】
期末試験による（85%）と平常点（15%）。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】
受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては，レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline and objectives】
We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: oligopoly, vertical and horizontal product differentiation, cartel, market power, vertical integration and restraint. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept. Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

ECN200CA

Principles of Economics A

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter13、Chapter14、Chapter19、Chapter20、Chapter21 を取り上げます。講義は英語で行われる。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、ゲーム理論や競争が現実経済に与える影響とマクロ経済学の基本を理解できるようになる。
The goal of this course is to introduce students to the topics of game theory, competition and macroeconomics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。
The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Game Theory and Strategic Play	Simultaneous Move Games
2	Game Theory and Strategic Play	Nash Equilibrium
3	Game Theory and Strategic Play	Extensive-Form Games
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Oligopoly
5	Oligopoly and Monopolistic Competition	Monopolistic Competition
6	Oligopoly and Monopolistic Competition	The "Broken Invisible Hand"
7	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	National Income Accounts: Production = Expenditure = Income
8	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What Isn't Measured by GDP?
9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	Real vs. Nominal
10	Aggregate Incomes	Inequality Around The World
11	Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
12	Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
13	Economic Growth	How Does a Nation's Economy Grow?
14	Economic Growth	The History of Growth and Technology

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題をしてテキストを読みます。
Students are expected to read the relevant material before class and complete all homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】
特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】
宿題と小テスト：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％
Homework: 30%
Midterm Exam: 30%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。
None.

【Outline and objectives】
In this course, we continue to study of economic principles by studying chapters 13, 14, 19, 20 and 21 from Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson

ECN200CA

Principles of Economics B

ジェス　ダイヤモンド

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。 本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter23、Chapter24、Chapter25、Chapter26 を取り上げます。講義を英語で行われる。

【到達目標】
経済学に関する基本的な知識を応用し、経済成長や金融制度、財政政策と金融政策が現実経済に与える影響を理解できるようになる。
The goal of this course is to continue our of macroeconomics, focusing on the topics of growth, the monetary system, fiscal policy and monetary policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。
The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment; Equilibrium in the Labor Market
2	Employment and Unemployment	Why Is There Unemployment?; Job Search and Frictional Unemployment
3	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
4	Credit Markets	What Is the Credit Market?
5	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation: Putting Supply and Demand Together
6	Credit Markets	What Banks Do ①
7	Credit Markets	What Banks Do ②
8	The Monetary System	Money, Prices and GDP ①
9	The Monetary System	Money, Prices and GDP ②
10	The Monetary System	Inflation
11	The Monetary System	The Federal Reserve
12	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
13	Short-Run Fluctuations	Macroeconomic Equilibrium and Economic Fluctuations
14	Short-Run Fluctuations	Modeling Expansions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題をしてテキストを読みます。
Students are expected to read the relevant material before class and complete all homework assignments.

【テキスト（教科書）】
Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】
特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】
宿題と小テスト：３０％
中間試験：３０％
期末試験：４０％
Homework: 30%
Midterm Exam: 30%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。
None.

【Outline and objectives】
In this course, we continue to study of macroeconomics by studying chapters 23-26 from Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson

ECN300CA

International Economics A

倪　彬

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】
The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What's international economics?
2 回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3 回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4 回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5 回目	HO model	Factor endowment and HO model
6 回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7 回目	Trade policy (1)	Tariff
8 回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9 回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10 回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11 回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12 回目	Outward FDI	Japanese firms' oversea expansion and the hollowing out
13 回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14 回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion.

【テキスト（教科書）】
Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 , 2014.

【参考書】
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第２版、有斐閣、2013 年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012 年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】
(1)participation (stamp sheet) 20%
(2)homework 20%　(two take-home tests)
(3)final exam 60% (written exam, notes not allowed)

【学生の意見等からの気づき】
It will be the second time for me to teach this course.

【Outline and objectives】
The objective is to help the students form a general idea of international trade in the context of globalization.

ECN300CA

International Economics B

倪　彬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world.

【到達目標】
Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:
* To understand the balance of payment;
* To understand how a foreign exchange market operates
* To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
* To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What is international finance?
2 回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3 回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4 回目	National accounts	The system of national accounts
5 回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6 回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7 回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8 回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9 回目	Fiscal policy	Governmental spending
10 回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11 回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12 回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13 回目	Monetary union	The birth of euro, and other possiblity
14 回目	Review	To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion.

【テキスト（教科書）】
Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 , 2014.

【参考書】
高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年.

【成績評価の方法と基準】
(1)participation (stamp sheet) 20%
(2)homework 20%　(two take-home tests)
(3)final exam 60% (written exam, notes not allowed)

【学生の意見等からの気づき】
It will be the second time for me to teach this class.

【Outline and objectives】
The objective is to help the students form a general idea of international finance in the context of globalization.

ECN300CA

Area Studies A

Oliynyk Oleh

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The appearance on the world map of a new independent state, Ukraine, has changed the political map of the world. This event influenced on the alignment of political forces primarily in Europe. The course will reveal the main concept of foreign policy of Ukraine since 1991.

【到達目標】
1) To understand the essence of foreign policy of Ukraine since 1991.
2) To study the main mechanism, directions, functions, basics and principles of Foreign policy of Ukraine.
3) To determine strategic priorities and partnerships of Ukraine.
4) To acquire skills in formulating the Foreign policy.
5) To enhance the ability to evaluate Foreign policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
Lecture, presentation, quizzes, in-class activities, discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course objectives and expectations Variety of Economic Systems.
2	Historical aspects of getting an independence of Ukraine	Explain the historic preconditions of getting independence of Ukraine.
3	Basics and tasks of Foreign policy of Ukraine	Study the basic approaches and tasks of FPU.
4	Principles and main directions of FPU	Ukrainian principles are based on the UN principles of peaceful coexistence.
5.	Functions and mechanism of FPU	Through functions and mechanism Ukraine.
6	Institutional organization of FPU	Ukraine institutions protect the Foreign policy interests of Ukraine.
7	Ukraine and EU	Ukraine foresees their future in EU.
8	Ukraine and USA	USA strongly support Ukraine in its struggle against Russia.
9	Ukraine and China	China and Ukraine have the relations of strategic partnership.
10	Ukraine and Japan	Japan supports Ukraine by providing the biggest financial aid.
11	Ukraine and Middle East	Ukraine sees the Middle East as perspective region.
12	Ukraine and Russia	Ukraine heroically fight against Russian invasion.
13	Ukraine and International organizations	Ukraine strongly shares the principle of International organizations.
14	Presentations	Student presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Presentation.

【テキスト（教科書）】
Some Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】
To be supplied later.

【成績評価の方法と基準】
In-class activities 40%
Quizzes 30%
presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
n/a

【その他の重要事項】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentation.

【Outline and objectives】
The appearance on the world map of a new independent state, Ukraine, has changed the political map of the world. This event influenced on the alignment of political forces primarily in Europe. The course will reveal the main concept of foreign policy of Ukraine since 1991.

ECN300CA

Area Studies B

Oliynyk Oleh

開講時期：**秋学期授業/Fall**　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Japan as the third biggest country in the world plays an important role in international development and poverty reduction through the international cooperation. Japan has consistently relied on peaceful means to address issues that international community has been facing. Japan's development assistance aims to maximize people's power to pursue growth and development in developing countries.

【到達目標】
1)To understand the mission of Japanese International Cooperation
2)To learn the how Japan address the global challenges
3)To study the process of Formulating and implementation of Aid Policy
4)To acquire skills in analyzing the economic policy
5)To enhance the ability to assess the economic policy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
Lecture, presentation, quizzes, in-class activities, discussions

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Contemporary Role of International Cooperation	1.1 The mission of Japanese International Cooperation 1.2 Priorities for Japanese International Cooperation 1.3 Diplomatic Infrastructure
2	Changes in the International Economic Environment and International Cooperation	2.1 Globalisation and developing Counties 2.2 Promoting development of initiatives for trade and Economic partnership agreement 2.3. Corporate contributions for development and promotion of cooperation between public and private sector 2.4 Securing natural recourses and energy and International Cooperation
3	The Climate change issue	3.1 The escalating issue of global warming 3.2 Climate control measures with Japanese assistance for developing countries 3.3 Japan's "Cool Earth 50" proposal 3.4 Japan Leadership
4	Trends in International Aid and Japan's efforts	4.1 Trend in international aid 4.2 Trends in Assistance in recent Year 4.3 Issues involving efforts to improve aid effectiveness and Japan's response
5	Assistance for each region	5.1 Asia 5.2 Caucasus 5.3 Africa 5.4 Middle East 5.5 Latin America and the Caribbean 5.6 Oceania 5.7 Europe
6	Formulating and implementation of Aid Policy	6.1 System for formulating and implementation of Aid Policy 6.2 Increasing public participation 6.3 Matters essential to effective implementation
7	Activities and Initiatives by Issue	7.1 Poverty Reduction 7.2 Peacebuilding 7.3 Gender and Development 7.4 Climate Change
8	Activities and Initiatives by Issue	8.1 Infrastructure 8. 2 Human Resource Development 8.3 Global Environment 8.4 Rural Development 8.5 Industrial Development and Public Policy
9	Cooperation with Partners	9.1 Public-Private Partnerships and Partnership with Japanese Private Sector 9.2 Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development (SATREPS) 9.3 Citizen Participation 9.4 Volunteer Programs
10	Cooperation with Partners	10.1 Emergency Disaster Relief 10.2 Research 10.3 Enhancing Development Partnerships and Actions toward Achieving the SDGs 10.4 Support for Japanese Emigrants and Their Descendants
11	Japan and Ukraine cooperation	11.1 Historic aspect of cooperation 11.2 Form and direction of cooperation 11. Japan aid to Ukraine
12	Types of Cooperation	12.1 Technical Cooperation 12.2 Finance and Investment Cooperation 12.3 Grants 12.4 Environmental and Social Considerations 12.5 Recruiting and Training Human Resources for International Cooperation
13	Organizational Management and Information	13.1 History of JICA 13.2 Corporate Governance 13.3 Public Relations Activities 13.4 Domestic and Overseas Offices
14	Presentation	Student presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Presentation.

【テキスト（教科書）】
Some Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】
To be supplied later.

【成績評価の方法と基準】
In-class activities 40%
Quizzes 30%
presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
n/a

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentation

【Outline and objectives】
Japan as the third biggest country in the world plays an important role in international development and poverty reduction through the international cooperation. Japan has consistently relied on peaceful means to address issues that international community has been facing. Japan's development assistance aims to maximize people's power to pursue growth and development in developing countries.

ECN300CA

地域経済論 A

川邊　安彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
トランプ政権が成立した以降で PPT の枠組みが変化し、世界経済に変化も兆しが見え始めている。欧州では、英国が EU から離脱することになり、中国ではめざましい経済上昇がが鈍化し始め、中南米ではブラジル政権の変化の後にメキシコ政権が変化した。アセアンにおいてもタイの政権が変化しようとしている。この講義では、前期にタイを中心としたアセアンと後期については、メキシコを中心とした中南米の現状までの変化から今後の変化を読み取る講義形式を行う。

【到達目標】
経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在必要な要素になっている。本講義では、日本と関係が近いアセアンの中心のタイや中南米の中で日本と深い関係があるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解することでグローバルな観点からの経済学を学ぶ力を養うものとする。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで
他人に意見を聴きながらまとめる力をつけられる形式を講義内で試みたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義方式で進めるが、双方向の講義やグループディスカッションを交えたチーム毎の意見を述べることにより講義内容の理解度を深める内容で進める。毎回、学生のチーム毎の質疑・応答の形による自分自身の理解度と説明・説得力の向上を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第２回	現在のタイ経済の状況	アセアンの多地域との差の認識。アセアン以外の類似国との差異確認。
第３回	タイの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から視た強みと弱み
第４回	タイの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から視た強みと弱み
第５回	タイのバンコクと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第６回	タイの交通網について	アセアンの他の地域との比較、平均年収との差からの分析
第７回	前半の講義内容をまとめたレポート作成、講義内レポート各４０分で２レポートの作成	講義内容の理解確認、レポートに対する慣れ
第８回	前回のレポートのフィードバック	理解度の内容説明、書き方のポイント説明
第９回	サンプル１：クラビ県の魅力と将来性	世界を代表するピピ島の悩みや現状から見える将来性
第１０回	サンプル２：プーケットの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析
第１１回	サンプル３：ラノーン県の魅力と将来性	今後、発展するための施策とは？
第１２回	クラビ県、プーケット、ラノーン県の比較	分析から見出せるものは何か？
第１３回	各グループが選んだ県の特長のまとめ	何を今後に狙いとするのか？ 各グループでまとめる
第１４回	タイについての自分なりなレポート、自由課題、A4　1 枚程度、講義内で提出	過去、現在、未来の構図で経済的なまとめ方で記入

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス第１４回の中でタイのアセアンの位置付けを理解する。自動車産業、電気産業、観光など視点は自由。全てが講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要。

【テキスト（教科書）】
特に、教科書はありません。
理由：日本においてタイの産業と他国との分析した書籍は発行されていません。

【参考書】
興味のある学生は、タイ政府公式 HP を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】
各回共にグループディスカッションを行ってもらいます。
事前にシラバスで独自の事前学習が必要です。
発表者やリーダー、グループメンバーとしての個性を尊重します。
講義内でのレポートが、評価対象の基準になります。また、発表の独自性・意見の裏付けとなる根拠説明などの視点で追加評価を行います。
講義内レポートは、２回。１回の配点は、５０％を満点として２回分の評価になります。論理分析・数値表記の無いものは、内容が優れていても１回分で３０％までの評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。
次回以降の講義に反映する前提です。

【学生が準備すべき機器他】
スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器。

【Outline and objectives】
A structure of PPT changes after political power of Tramp in USA was concluded, and a change has also begun to see a sign as global economy. The United Kingdom left from the EU in Europe, and remarkable financial rise up began from China, and new Mexican political opinion changed after a change in Brazilian political opinion in Latin America. Thailand political opnion is also going to change in ASEAN. The lecture form which reads future's change from a change to the current state ofAsean where Thailand was made the center is performed about the A, ASEAN which think the class in this lecture.

ECN300CA

地域経済論 B

川邊　安彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
トランプ政権が成立した以降で PPT の枠組みが変化し、世界経済に変化も兆しが見え始めている。欧州では、英国が EU から離脱することになり、中国ではめざましい経済上昇がが鈍化し始め、中南米ではブラジル政権の変化の後にメキシコ政権が変化した。アセアンにおいてもタイの政権が変化しようとしている。この講義では、前期にタイを中心としたアセアンと後期については、メキシコを中心とした中南米の現状までの変化から今後の変化を読み取る講義形式を行う。

【到達目標】
経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在必要な要素になっている。本講義では、日本と関係が近いアセアンの中心のタイや中南米の中で日本と深い関係があるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解することでグローバルな観点からの経済学を学ぶ力を養うものとする。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで
他人に意見を聴きながらまとめる力をつけられる形式を講義内で試みたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義方式で進めるが、双方向の講義やグループディスカッションを交えたチーム毎の意見を述べることにより講義内容の理解度を深める内容で進める。毎回、学生のチーム毎の質疑・応答の形による自分自身の理解度と説明・説得力の向上を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第２回	現在のメキシコ経済の状況	中南米の多地域との差の認識。中南米以外の類似国との差異確認。
第３回	メキシコの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から視た強みと弱み
第４回	メキシコの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から視た強みと弱み
第５回	首都メキシコシティと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第６回	メキシコの交通網について	中南米の他の地域との比較、平均年収との差からの分析
第７回	前半の講義内容をまとめたレポート作成、講義内レポート各４０分で２レポートの作成	講義内容の理解確認、レポートに対する慣れ
第８回	前回のレポートのフィードバック	理解度の内容説明、書き方のポイント説明
第９回	サンプル１：首都メキシコ DF の魅力と将来性	世界を代表するビジネス構造の悩みや現状から見える将来性
第１０回	サンプル２：ゴールデントライアングルの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析
第１１回	サンプル３：他の地域との産業構造の差と将来性	今後、発展するための施策とは？
第１２回	メキシコとブラジルや他の中南米諸国との比較	分析から見出せるものは何か？
第１３回	各グループが選んだ国の特長のまとめ	何を今後に狙いとするのか？ 各グループでまとめる
第１４回	メキシコについての自分なりなレポート、自由課題、A4　１枚程度、講義内で提出	過去、現在、未来の構図で経済的なまとめ方で記入

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス第１４回の中でメキシコの中南米での位置付けを理解する。自動車産業、電気産業、観光、農業など視点は自由。全てが講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要。

【テキスト（教科書）】
特に、教科書はありません。
理由：日本語での正確なメキシコの産業と他国との分析した書籍は発行されていません。

【参考書】
興味のある学生は、メキシコ政府公式 HP を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】
各回共にグループディスカッションを行ってもらいます。
事前にシラバスで独自の事前学習が必要です。
発表者やリーダー、グループメンバーとしての個性を尊重します。
講義内でのレポートが、評価対象の基準になります。また、発表の独自性・意見の裏付けとなる根拠説明などの視点で追加評価を行います。
講義内レポートは、２回。１回の配点は、５０％を満点として２回分の評価になります。論理分析・数値表記の無いものは、内容が優れていても１回分で３０％までの評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。
次回以降の講義に反映する前提です。

【学生が準備すべき機器他】
スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器。

【Outline and objectives】
A structure of PPT changes after political power of Tramp in USA was concluded, and a change has also begun to see a sign as global economy. The United Kingdom left from the EU in Europe, and remarkable financial rise up began from China, and new Mexican political opinion changed after a change in Brazilian political opinion in Latin America. Thailand political opnion is also going to change in ASEAN. The lecture form which reads future's change from a change to the current state of Latin America where Mexico was made the center is performed about the B, Latin America which think the class in this lecture.

MAN200CA

簿記Ⅱ A

岸　牧人

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中級程度の複式簿記（商業簿記）および決算書の作成過程，作成方法について学習します。

【到達目標】
この講義では以下の諸点を到達目標とします。
(1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
(2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
(3) 上記の (1)，(2) を前提とした決算書の作成について学習します。
(4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後，プリントによって補足説明を行い，演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	商品売買取引	分記法，売上原価対立法，三分法による会計処理と決算整理，値引・返品・割戻・割引の会計処理
第２回	商品の期末評価	棚卸減耗損と商品評価損の会計処理方法および損益計算書における表示方法
第３回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法，銀行勘定調整表の作成方法
第４回	債権・債務取引	手形の不渡りと更改，クレジット売掛金，電子記録債権債務，債務の保証
第５回	有価証券取引（１）	有価証券の種類と購入時における会計処理
第６回	有価証券取引（２）	有価証券の売却時の会計処理，期末評価
第７回	中間試験	第１回～第６回までの内容について中間試験および解答・解説を行います。
第８回	有形固定資産取引（１）	有形固定資産の取得，減価償却，売却に関する会計処理
第９回	有形固定資産取引（２）	有形固定資産の割賦購入，建設仮勘定，改良と修繕，除却と廃棄，買い換えに関する会計処理
第１０回	リース取引	ファイナンス・リース取引，オペレーティング・リース取引の会計処理
第１１回	無形固定資産取引	特許権，商標権，研究開発費の会計処理
第１２回	引当金	貸倒引当金，修繕引当金，退職給付引当金，商品保証引当金，賞与引当金，役員賞与引当金，売上割戻引当金，返品調整引当金の会計処理
第１３回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算，外貨建取引および為替予約の会計処理
第１４回	企業会計における税金	企業会計に関する税金の種類，法人税の申告と納税，消費税の会計処理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。

【テキスト（教科書）】
TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】
TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】
中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
簿記Ⅰ（簿記入門）と比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12 桁），プリントを綴じるための 2 穴のファイル

【Outline and objectives】
The aim of this course is to understand intermediate level of commercial bookkeeping.

MAN200CA

簿記Ⅱ B

岸　牧人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中級程度の複式簿記（商業簿記）および決算書の作成過程，作成方法について学習します。

【到達目標】
この講義では以下の諸点を到達目標とします。
(1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
(2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
(3) 上記の (1)，(2) を前提とした決算書の作成について学習します。
(4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後，プリントによって補足説明を行い，演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	株式の発行	株式会社における純資産の構成，株式の発行時における会計処理
第２回	剰余金の配当と処分	株式会社の決算手続、利益準備金の積立，株主資本等変動計算書の作成
第３回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上，サービス業における役務収益と役務原価の計上
第４回	製造業の決算処理	製造原価報告書の作成，製造原価と売上原価の関連性および会計処理
第５回	税効果会計（１）	課税所得の算定方法，一時差異と永久差異，税効果会計の基礎
第６回	税効果会計（２）	繰延税金資産と繰延税金負債の認識と計上，法人税等調整額の計上方法
第７回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併，パーチェス法による合併の会計処理，事業譲渡の会計処理
第８回	中間テスト	第１回～第７回までの内容について中間試験および解答・解説を行います。
第９回	本支店会計（１）	本支店会計の意義，本支店間取引，支店間取引に関する会計処理
第１０回	本支店会計（２）	本支店会計における決算手続，本支店合併財務諸表の作成方法
第１１回	連結会計（１）	連結財務諸表の意義と特徴，連結会計における連結修正仕訳の意義，支配獲得日の連結（資本連結）
第１２回	連結会計（２）	資本と投資の相殺消去，支配獲得後の連結修正仕訳，開始仕訳と期中仕訳の意義，連結精算表の作成方法
第１３回	連結会計（３）	成果連結と連結修正仕訳，内部取引と債権債務の相殺消去，未実現利益の消去（ダウンストリーム，アップストリーム）
第１４回	期末試験	第 13 回までの内容について期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。

【テキスト（教科書）】
TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】
TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】
中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（12 桁）、プリントを閉じるための 2 穴のファイル

【その他の重要事項】
この講義は簿記Ⅱ A で学習した内容を前提として展開します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to understand intermediate level of bookkeeping.

MAN300CA

財務諸表論 A

竹口　圭輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち，財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。
具体的には，財務会計を巡る基本的な概念や制度について復習しつつ，連結グループ会計，金融商品会計，退職給付会計，企業結合会計など会計基準の国際対応を受けて近年整備されてきた会計基準を取り上げていきます。また，それら会計基準を通じてアウトプットされる情報をいかに読みこなしていくかを学んでいきます。

【到達目標】
財務諸表論 A では，財務会計論の応用論点に関する理解だけでなく，国際的な文脈の中で会計情報を読みこなすスキルの獲得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また，毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計と企業行動のリンケージ
3	会計制度の論理と体系	会計公準と企業会計原則
4	企業のディスクロージャー	ディスクロージャーの必要性と制度開示
5	連結グループの会計 (1)	連結財務諸表と企業行動
6	連結グループの会計 (2)	セグメント情報の開示
7	金融商品の会計 (1)	有価証券の会計・リース取引の会計
8	金融商品の会計 (2)	デリバティブ・ヘッジ会計
9	従業員給付の会計 (1)	ストック・オプション会計
10	従業員給付の会計 (2)	退職給付会計
11	企業結合・事業分離の会計	M&A の会計
12	グローバリゼーションの会計	外貨建取引の会計と在外子会社の換算
13	会計基準の国際化	IFRS との比較
14	期末テスト	単位認定試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に授業支援システム上で公開するので，各自ダウンロードし予習してきてください。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
伊藤邦雄『新・現代会計入門< 第 3 版> 』日本経済新聞社、2018 年

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価基準点の内訳＞
・毎講義時の小テスト（50 %）
　※半数以上未受験の場合は無条件に不可とします。
・定期試験（50 %）
＜成績評価基準＞
A+　90 点以上
A　　80 点以上
B　　70 点以上
C　　60 点以上

【学生の意見等からの気づき】
小テストの出題方法・タイミング等について工夫しながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので，履修登録の確定を待たずに，各自，自己登録（科目コード： K6745）を済ませてください。

【その他の重要事項】
本講義は，カリキュラム・ツリー上の位置づけから，簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。「簿記Ｉ」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline and objectives】
Financial accounting is the language of business that is essential for understanding corporate behavior. Without understanding of financial accounting, we can not understand firms.
The purpose of this course is to provide practical knowledge and skills of financial accounting. This course helps students understand how firms communicate through financial statements.

MAN300CA

財務諸表論 B

竹口　圭輔

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち，財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。
この授業では，実際の財務諸表を用いて，現実の企業活動を読みこなしていくことに注力し，自らの手でファンダメンタル分析，会計戦略分析，企業価値評価などを行っていきます。

【到達目標】
財務諸表論 B では，ファンダメンタル分析ならびに企業価値評価に関するスキルの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また，毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業価値評価のフレームワーク	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	財務諸表から読む企業活動 (1)	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	財務諸表から読む企業活動 (2)	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	戦略的ファンダメンタル分析 (1)	企業価値とファンダメンタル分析
6	戦略的ファンダメンタル分析 (2)	グループ経営分析
7	経営戦略分析	経営戦略分析のためのフレームワーク
8	会計戦略分析	会計利益の特性と会計政策
9	ケーススタディー (1)	特定業界のファンダメンタル分析
10	企業価値とバリュエーション (1)	企業価値評価の手法
11	企業価値とバリュエーション (2)	資本コストの概念と株主資本コストの推定
12	企業価値とバリュエーション (3)	会計利益による企業評価モデル
13	会計・財務数値と市場評価	株式市場と企業のファンダメンタルズ
14	ケーススタディー (2)	特定企業のバリュエーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に授業支援システム上で公開するので，各自ダウンロードし予習してきてください。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社、2014 年

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価基準点の内訳＞
・毎講義時の小テスト（50 %）
　※半数以上未受験の場合は無条件に不可とします。
・期末レポート（50 %）
＜成績評価基準＞
A+　90 点以上
A　80 点以上
B　70 点以上
C　60 点以上

【学生の意見等からの気づき】
小テストの出題方法・タイミング等について工夫しながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに，各自，自己登録（科目コード： K6746）を済ませてください。

【その他の重要事項】
簿記や財務諸表に対する基礎的理解があることを前提に講義を進めていくため，基本的な内容については授業内でフォローしません。そのため「簿記Ｉ」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline and objectives】
This course starts with a review of financial reporting and then focuses on various modules of fundamental analysis, including performance evaluation, earnings quality, strategic analysis and valuation. The goal of this lesson is to practice corporate valuation.

MAN300CA

管理会計 A

梅津　亮子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営の場面では、経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定をしていかなければなりません。管理会計の役割は、経営者及び管理者が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義は、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、まず、伝統的な管理会計の理論・技法について専門知識を習得していきます。その上で、急速に変化する経済環境のもとでは、経営者及び管理者の管理会計に対するニーズも変化することを踏まえ、管理会計の新しいテーマについても知識・理解を深めていきたい。

【到達目標】
管理会計の基礎理論を理解し、管理会計情報を使用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経営活動と会計情報	経営管理と会計情報、経営管理プロセス、経営者の役割
第 2 回	管理会計の基礎①	財務会計情報と管理会計情報の相違
第 3 回	管理会計の基礎②	管理会計の体系、計画と統制、業績管理会計と意思決定会計
第 4 回	管理会計の基礎③	制度的原価概念、管理会計上の原価概念
第 5 回	短期利益計画	利益管理、コスト・ビヘイビア、大綱的利益計画
第 6 回	ＣＶＰ分析①	損益分岐点図表、利益図表、損益分岐点の算出
第 7 回	ＣＶＰ分析②	経営リスク、経営レバレッジ、安全余裕率
第 8 回	感度分析	損益分岐点の引き下げ、利益改善のためのアプローチ
第 9 回	多品種製品のＣＶＰ分析	線形計画法、制約条件、セールス・ミックス
第 10 回	原価分解	原価予測、実績データに基づく方法、実績データを利用しない方法
第 11 回	全部原価計算方式によるＣＶＰ分析	ＣＶＰ分析の仮定、全部原価計算による損益分岐点の算定
第 12 回	ＡＢＣ／ＡＢＭ①	原価構造の変化、製品原価の歪み、ＡＢＣの計算構造
第 13 回	ＡＢＣ／ＡＢＭ②	ＡＢＣとＡＭＢの関係、アクティビティ分析
第 14 回	品質コストマネジメント	予防コスト、評価コスト、内部失敗コスト、外部失敗コスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。

【テキスト（教科書）】
武脇誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】
必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 90%、小テスト 10 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】
Managerial accounting emphasizes the use of accounting information to support management in better decision-making in a variety of business contexts. The aim of this course is to help students acquire knowledge and understanding of management accounting techniques for planning and control, budgeting, monitoring performance, cost allocation and assignment, management control, responsibility accounting.

MAN300CA

管理会計 B

梅津　亮子

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営の場面では、経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定をしていかなければなりません。管理会計の役割は、経営者及び管理者が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義は、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、まず、伝統的な管理会計の理論・技法について専門知識を習得していきます。その上で、急速に変化する経済環境のもとでは、経営者及び管理者の管理会計に対するニーズも変化することを踏まえ、管理会計の新しいテーマについても知識・理解を深めていきたい。

【到達目標】
管理会計の基礎理論を理解し、管理会計情報を使用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	予算管理①	予算管理の機能、予算編成方針、予算の体系
第 2 回	予算管理②	予算編成プロセス、予算スラック、予算ゲーム
第 3 回	予算管理③	変動予算・固定予算、予算統制、ゼロベース予算
第 4 回	事業部制会計①	職能別組織と事業部制組織、責任会計、責任中心点
第 5 回	事業部制会計②	事業部管理者の業績評価、事業部それ自体経済性評価
第 6 回	事業部制会計③	ＲＯＩと残余利益、社内資本金制度、振替価格
第 7 回	意思決定会計	経営意思決定の定義と種類、意思決定プロセス
第 8 回	業務的意思決定①	特別注文の意思決定、追加加工か販売かの意思決定
第 9 回	業務的意思決定②	自製か購入かの意思決定、既存製品の生産・販売に関する意思決定
第 10 回	設備投資意思決定①	キャッシュ・フローの予測、貨幣の時間価値、資本コスト
第 11 回	設備投資意思決定②	会計的利益率法、回収期間法、正味現在価値法、内部利益率法
第 12 回	設備投資意思決定③	相互排他的投資案、ＮＰＶ法とＩＲＲ法の比較、再投資の仮定
第 13 回	原価企画	原価企画・原価維持・原価改善、源流管理、目標原価とＶＥ
第 14 回	バランスト・スコアカード	戦略マップ、バランスト・スコアカード

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の講義内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。

【テキスト（教科書）】
武脇誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】
必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 90%、小テスト 10 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】
Managerial accounting emphasizes the use of accounting information to support management in better decision-making in a variety of business contexts. The aim of this course is to help students acquire knowledge and understanding of management accounting techniques for planning and control, budgeting, monitoring performance, cost allocation and assignment, management control, responsibility accounting.

LANe300CA

Business Communication Ⅱ A

Robert DeReza

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2 単位**

2010～2015 年度入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will become more "business literate" and "global minded" by through examining current issues in business.

【到達目標】
Students will improve communication and presentation skills to compete in a global marketplace.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
By reading and discussing articles and sharing ideas in small groups students will become familiar with basic business concepts and terminology, and practice giving presentations in the workplace.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the class.
2	Voice and Tone	Passive vs Active voice; Register
3	Loyalty in Business	Article & Discussion: Keeping a customer base.
4	Innovation	Article & Discussion: How to attract customers
5	Keeping Employees	Article & Discussion: Competing Globally
6	Competition	Article & Discussion: Competing Globally
7	Midterm	Exam on covered topics
8	Political Correctness	Considering Language in your Business
9	Presentation Practice	Planning
10	Presentation Practice	Middle of the presentation
11	Presentation Practice	Conclusions
12	Presentations	Giving a presentation
13	Final Exam	Exam on vocabulary, language, and topics covered
14	Review	Review; Writing assignment corrections

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review material before class, prepare for presentations, and participate in class discussions.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. The articles (mainly from the English version of the Nikkei Newspaper) are available via the library database or given in class.

【参考書】
Nikkei Newspaper (in Japanese or English)
The Economist
The Atlantic
The Japan Times

【成績評価の方法と基準】
(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
(2) Exams and short group presentations (60%): Students must score at least 60% on the quiz in order to pass the course.
The participation policy for this class is strict, and students should consider it very carefully before registering. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見等からの気づき】
None. Students are welcome to make requests and voice complaints at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
Get the Merriam Webster (free) app for your cell phone!

【その他の重要事項】
THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS (OF EACH SEMESTER) TO APPLY.
Students are strongly encouraged to complete Business Communication I before enrolling in this course.

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will become more "business literate" and "global minded" by through examining current issues in business.

LANe300CA

Business Communication Ⅱ B

ジュリア・ヨング

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2010～2015 年度入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. Their preparation entails not only improving workplace communication skills. It also means that they should become more "business literate" (knowing the basics of business) and "global minded" (being able to express their opinions on Japanese companies, business leaders, markets, and the general state of the economy).

【到達目標】
To help students communicate with confidence (in English) about issues related to business and the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
By reading and discussing articles on Japanese business mainly from the Nikkei Newspaper, students will become more familiar with basic business concepts as well as terminology that they can use in any workplace environment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: What draws tourists to Japan?	Experiences, not brands, seen drawing Asians to Japan, Nikkei April 26, 2016
2	Business and Culture	Japanese tourism industry; cultural capital
3	Business and Culture	The 'sento' gets a new look, Nikkei Asian Review, Sept 3, 2015
4	Business and Culture	Foreign students in Japan: trends since the 1980s
5	Practical business skills: presentation	Thinking critically about statistical information; presenting data
6	Business and Culture	Attracted by culture: Japan's vocational schools welcoming influx of foreign Students, Nikkei, Sept 11, 2015; writing assignment
7	Niche markets for Japanese goods	Used 'mamachari' popular in London Cheap, no-frills bikes find niche as replacement for theft victims, Japan Times, Nov 15, 2013
8	Assessment 1	Quiz
9	Business and Innovation	What is innovation? Giving a "sales pitch" for some unusual Japanese inventions
10	Business and Innovation	Discussing innovation and age; watch and discuss "The Intern" Writing assignment
11	Japan's changing Employment System	Debate preparation
12	Japan's changing Employment System	Debate
13	Practical business skills	Writing assignment review Business letter and email writing
14	Review and discussion	Submit final assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) Taking business courses offered at Hosei; reading/watching Japanese business news
(2) Preparing for the quiz

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. The articles (mainly from the English version of the Nikkei Newspaper) are available from the library database.

【参考書】
Nikkei Newspaper (in Japanese or English)
The Economist
The Atlantic
The Japan Times

【成績評価の方法と基準】
(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
(2) Quiz (60%): Students must score at least 60% on the quiz in order to pass the course.
The participation policy for this class is strict, and students should consider it very carefully before registering. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

【学生の意見等からの気づき】
None. Students are welcome to make requests or voice complaints at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
Get the (free) Merriam Webster app for your cell phone!

【その他の重要事項】
THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS (OF EACH SEMESTER) TO APPLY.
Students are strongly encouraged to complete Business Communication I before enrolling in this course.
The articles and activities are subject to change. Any changes will be announced in class.
Joint activities with another class (such as a debate) may be organized during the semester.

【None】
However, students are strongly encouraged to complete Business Communication I before enrolling in this course.

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. Their preparation entails not only improving workplace communication skills. It also means that they should become more "business literate" (knowing the basics of business) and "global minded" (being able to express their opinions on Japanese companies, business leaders, markets, and the general state of the economy).

LANe300CA

Business Communication Ⅱ A

グレン・ファーン

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学生

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of international business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, vocabulary, critical thinking skills, and presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching and listening to a short video; reading, writing, and discussing topics related to a variety of case studies. Students will be given homework and assignments. The teacher will provide students with relevant materials, in order to develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Expectations
2	Case Study #1	Coco Channel
3	Group work	Develop a presentation and student consultations
4	Student presentations	Communication practice
5	Case Study #2	Thomas Edison
6	Group work	Develop a presentation and student consultations
7	Student presentations	Communication practice
8	Case Study #3	Walter E. Disney
9	Group work	Develop a presentation and student consultations
10	Student presentations	Communication practice
11	Case Study #4	Steve Jobs
12	Group work	Develop a presentation and student consultations
13	Student presentations	Communication practice
14	Summary	Course review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
· Keep a vocabulary notebook
· Read assigned materials

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. All materials will be provided by the instructor.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
1.Participation in class discussion and activities . 40%
2.Reports 20%
3.Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
A good dictionary, as well as note paper and pens.

【その他の重要事項】
Not applicable

【Outline and objectives】
The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of international business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, vocabulary, critical thinking skills, and presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching and listening to a short video; reading, writing, and discussing topics related to a variety of case studies. Students will be given homework and assignments. The teacher will provide students with relevant materials, in order to develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

LANe300CA

Business Communication Ⅱ B

グレン・ファーン

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学生

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of international business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, vocabulary, critical thinking skills, and presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching and listening to a short video; reading, writing, and discussing topics related to a variety of case studies. Students will be given homework and assignments. The teacher will provide students with relevant materials, in order to develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】
To help students improve their English communication skills, so that they can communicate effectively using English in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Lecture, individual tasks, pair work, group work

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Expectations
2	Case Study #1	Corporate culture and ethics
3	Group work	Develop a presentation and student consultations
4	Student presentations	Communication practice
5	Case Study #2	Crowd funding a project
6	Group work	Develop a presentation and student consultations
7	Student presentations	Communication practice
8	Case Study #3	Big data and AI
9	Group work	Develop a presentation and student consultations
10	Student presentations	Communication practice
11	Case Study #4	Social media in business
12	Group work	Develop a presentation and student consultations
13	Student presentations	Communication practice
14	Summary	Course review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
· Keep a vocabulary notebook
· Read assigned materials

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. All materials will be provided by the instructor.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
1.Participation in class discussion and activities . 40%
2.Reports 20%
3.Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
A good dictionary, as well as note paper and pens.

【その他の重要事項】
Not applicable

【Outline and objectives】
The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of international business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, vocabulary, critical thinking skills, and presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by watching and listening to a short video; reading, writing, and discussing topics related to a variety of case studies. Students will be given homework and assignments. The teacher will provide students with relevant materials, in order to develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

MAN300CA

監査論 A

岸　牧人

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
監査の基本的な枠組みと，金融商品取引法に基づく公認会計士監査及び会社法に基づく監査役等による監査制度について講義する。監査とは何を目的とするものか，またいかなる行為であるかについて理解するとともに，監査制度と経済社会とのかかわりについて理解することを目的とする。

【到達目標】
本講義の到達目標は次の 4 点に集約される。①監査という行為の本質について理解する。②会社法に基づく監査役等による監査の意義について理解する。③金融商品取引法に基づく公認会計士による監査の意義について理解する。④監査基準の意義と体系について理解する。具体的には，①では，一般的，あるいは抽象的なイメージとしての「監査」と，企業単位の経済活動において展開される「監査」との相違点を見出すこと，②では，コーポレート・ガバナンスの一環として位置づけられる監査役等による監査の全体像について理解すること，③では，上場企業等が発行する財務諸表の信頼性を確保するために実施される公認会計士監査の意義と役割について理解すること，④では，監査基準における財務諸表監査の目的と一般基準について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。毎回の講義の最後に，翌講義に向けて予習すべき論点を提示し，予習を前提として講義を進める。また，講義内レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	監査の基本的な考え方と二つの系列の監査	監査に対する一般的なイメージと，経済社会において展開される監査との異同点について学習する。
第 2 回	企業不正と監査	企業不正の具体的なケースと監査とのかかわりについて学習し，二つの系列の監査との関係について理解する。
第 3 回	監査の種類	会計監査と業務監査，外部監査と内部監査，法定監査と任意監査のそれぞれの特質について学習する。
第 4 回	監査の史的展開	経済社会の時代的変遷と監査の変容過程について，特に 19 世紀以降の監査形態の変化について理解する。
第 5 回	商法監査の成立	旧商法における監査役監査の意義と役割について学習する。特に，監査役の権限と機能について学習する。
第 6 回	会社法監査の成立	商法特例法，委員会等設置会社の導入を経て，現在の会社法監査に至る過程と時代的背景について学習する。
第 7 回	証券取引法監査の成立	証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立過程について学習する。
第 8 回	金融商品取引法監査の成立	現在の金融商品取引法の意義を理解した上で，財務諸表監査の役割について学習する。
第 9 回	公認会計士法における公認会計士の業務と責任	公認会計士法の概要と，公認会計士の業務について学習する。特に，「1 項業務」と「2 項業務」の関係について理解する。
第 10 回	監査法人制度	監査法人制度の意義と概要について，特に社員の権限と責任，指定社員，特定社員，ネットワーク・ファームの現状について学習する。
第 11 回	公認会計士監査における職業倫理	日本公認会計士協会による倫理規則の意義と体系について学習する。
第 12 回	監査基準の設定と改訂	監査基準の設定過程と，累次の改訂過程について，改訂に対する時代的要請とともに学習する。
第 13 回	監査基準一般基準の内容と意義	監査基準の一般基準における監査人の適格性，独立性，正当な注意の諸概念とその他の一般基準項目について学習する。
第 14 回	監査の品質と品質管理基準	監査の品質に関する考え方と品質管理基準の意義について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で講義内レポートの提出を求める。また、翌講義の内容に関する予習シートを配付し、提出を求める。

【テキスト（教科書）】
長吉眞一，岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版），中央経済社，2,800 円（税抜）

【参考書】
石田三郎，林隆敏，岸牧人編著『監査論の基礎』（第 3 版），東京経済情報出版，2012 年

【成績評価の方法と基準】
予習シート 40%、講義内レポート 60%によって評価する。
試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では，専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【Outline and objectives】
This course introduces the nature and the foundation of auditing. Basically, Japanese institution of auditing made pursuant to Securities Exchange Law and Companies Law of Japan.

MAN300CA

監査論 B

岸　牧人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務諸表監査の基礎理論とプロセスについて理解するとともに，証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか，また果たすべきかについて考察するための知見を得る。

【到達目標】
「期末商品（原価 1,000）の時価が 800 であったので評価替えを行う」,「期末売掛金残高に対して 2%の貸倒引当金を設定する」－簿記の問題でよく見るこれらの取引は, 簿記の基本を理解している人であれば瞬時に仕訳することができるであろう。これは「会計アタマ」である。対して,「期末商品の評価額は本当に 800 なのか？」,「貸倒引当金の設定率は 2%でいいのか？」－こうした考え方は「監査アタマ」でないとできない。この講義では,「監査アタマ」で企業会計上の取引を考えることによって, 財務諸表の信頼性（適正性）を確かめるためには何が必要で, その結果をどのように利用者に伝達するのかを考える。その上で, 実際の証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか, また果たすべきかについて, 論理立てて考察するための知見を得ることを本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。講義の最後に，翌講義に向けて予習すべき論点を提示し, 提示した論点に関する予習を前提として講義を進める。また，講義内レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「会計アタマ」から「監査アタマ」へ	監査の基礎理論を学習するために必要な理論的枠組みを提示する。
第 2 回	財務諸表監査の基本的プロセス	財務諸表監査のプロセスにおけるアサーションと監査要点，及び監査手続と監査証拠の基本的関係について学習する。
第 3 回	監査意見形成の基本構造	監査意見の形成過程について，伝統的アプローチ，戦略的アプローチ，リスク・アプローチの変遷過程から学習する。
第 4 回	内部統制の評価と財務諸表監査	内部統制概念の変遷について学習し，内部統制の評価が財務諸表監査においてどのように位置付けられるかについて理解する。
第 5 回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの基本的な考え方	リスク評価手続及び運用評価手続の具体的な内容と意義について学習する。
第 6 回	監査計画と監査上の重要性	監査計画の基本的な内容と，監査上の重要性概念について学習する。
第 7 回	実証手続の意義と効用	分析的実証手続と詳細テストに関して，その具体的な内容と意義について，特に監査証拠との関係を理解する。
第 8 回	監査報告書の意義と構造	標準監査報告書の様式と記載事項，及び財務諸表の適正性の要件と監査人の実質判断について，実例を用いて学習する。
第 9 回	除外事項の意義と特質	除外事項の種類と発生原因，及び除外事項付意見との関係について，実例を用いて学習する。
第 10 回	追記情報の意義と種類	強調事項とその他の記載事項の意義について，実例を用いて学習する。
第 11 回	財務諸表監査における継続企業の前提に関する検討	いわゆる「ゴーイング・コンサーン注記」の意義と財務諸表監査における位置づけについて，実例を用いて学習する。
第 12 回	内部統制報告制度と内部統制監査	内部統制監査の意義と概要について，特に財務諸表監査との関係について学習する。
第 13 回	四半期報告制度と四半期レビュー	四半期報告制度の意義，及び四半期レビューの特質について学習する。
第 14 回	「監査における不正リスク対応基準」の意義	監査と企業不正との関係について，特に職業的懐疑心の観点から学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で講義内レポートの提出を求める。また翌講義の内容に関する予習シートを配付し、提出を求める。

【テキスト（教科書）】
長吉眞一，岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版），中央経済社，2,800 円（税抜）

【参考書】
石田三郎，林隆敏，岸牧人『監査論の基礎』（第 3 版），東京経済情報出版，2012 年

【成績評価の方法と基準】
予習シート 40%、講義内レポート 60%によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では，専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【Outline and objectives】
This course introduces the nature and the foundation of auditing. Basically, Japanese institution of auditing made pursuant to Securities Exchange Law and Companies Law of Japan.

ECN300CA

リスク・マネジメントA

湯前　祥二

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，リスク管理の考え方と手法を身につけ，実際に活用できることを目標とします．

【到達目標】
リスク測度について理解し，値を計算で求めることができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
家計でもビジネスでも，リスクを全く取らなければリターンも低いままです．一方，過剰なリスクは破綻につながります．リスク管理は，負担可能なリスクの限度を見極めて，要求される利回りを実現することに役立ちます．
現代ファイナンス入門の講義で，現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に，講義します．
春学期は，現在価値，リスクを中心に扱います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ファイナンスとは何か	ファイナンスを学ぶ理由
第 2 回	将来価値	複利計算の頻度と実効金利
第 3 回	現在価値	単利の発想と複利の発想
第 4 回	採択ルール	正味現在価値
第 5 回	アニュイティ	複数回のキャッシュフロー
第 6 回	資産価値評価	一物一価の法則と裁定
第 7 回	三角裁定	為替とクロスレート
第 8 回	リスク	リスク回避とリスク測度
第 9 回	リスク管理	リスク管理の基本テクニック
第 10 回	リスク移転	ヘッジと保険と分散
第 11 回	動機付け問題	モラル・ハザードと逆選択
第 12 回	確率分布	正規分布
第 13 回	リスク測度	期待収益率とボラティリティ
第 14 回	まとめ	ファイナンスの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「授業支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
ボディ，マートン，クリートン（2011），『現代ファイナンス論　原著第 2 版　意思決定のための理論と実践』，ピアソン桐原．
ルーエンバーガー（2015），『金融工学入門第 2 版』，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

【Outline and objectives】
This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

ECN300CA

リスク・マネジメントB

湯前　祥二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，リスク管理の考え方と手法を身につけ，実際に活用できることを目標とします．

【到達目標】
金融派生商品について理解し，理論価格を計算で求めることができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
家計でもビジネスでも，リスクを全く取らなければリターンも低いままです．一方，過剰なリスクは破綻につながります．リスク管理は，負担可能なリスクの限度を見極めて，要求される利回りを実現することに役立ちます．
現代ファイナンス入門の講義で，現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に，講義します．
秋学期は，ポートフォリオ理論，金融派生商品を扱います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ポートフォリオ選択	原則と戦略
第 2 回	前提条件	ホライズンとリスク許容度
第 3 回	トレードオフ	危険資産と無リスク資産
第 4 回	目標期待リターンの達成	ポートフォリオの効率性
第 5 回	リスク分散	二つの危険資産
第 6 回	ポートフォリオのリスク	最小分散ポートフォリオ
第 7 回	先渡し契約，先物契約	先渡し価格，債務不履行の防止
第 8 回	パリティ	裁定取引と先渡しの理論価格
第 9 回	金融先物	複製とインプライド配当
第 10 回	オプション	条件付き請求権
第 11 回	ペイオフ	本源的価値と時間的価値
第 12 回	オプション・プレミアム	株価モデル
第 13 回	動的複製戦略	ブラック・ショールズ式
第 14 回	まとめ	金融派生商品の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義に使う図表をまとめた資料を，随時，「授業支援システム」で配布します．受講者は，この資料を講義までに取得して，目を通しておいてください．わからない内容があれば調べ，関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい．この資料は，印刷したものを，講義に持参してください．また，関数電卓を利用するので，使用法に慣れてください．

【テキスト（教科書）】
なし．

【参考書】
ボディ，マートン，クリートン（2011），『現代ファイナンス論　原著第 2 版　意思決定のための理論と実践』，ピアソン桐原．
ルーエンバーガー（2015），『金融工学入門第 2 版』，日本経済新聞出版社．

【成績評価の方法と基準】
試験によって評価します（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
ノートに書き写す時間と，説明を聞く時間が重ならないよう努めます．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を使用します．

【Outline and objectives】
This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

ECN300CA

企業経営史 A

飯塚　陽介

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義の目的は、ビジネスのあり方における時代・地域に応じた多様性をそれを生み出した背景とともに知ることで、各地域のビジネスのあり方について、広い視野から比較し関連づけて考察する力を身につけることにあります。具体的には、19 世紀以降の欧米諸国及び日本におけるビジネスのあり方を概論します。A では、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。企業は現代の経済社会において大きな部分を構成しています。企業活動について歴史的背景にまで遡って深く理解することは、現代の社会について主体的に考察する上での助けとなるでしょう。なお、講義の中では、適宜、グラフや図表といった統計資料も活用します。

【到達目標】
（1）現代企業が出現した経緯を説明できる。
（2）日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
（3）歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
（4）企業・産業の歴史についての文献を収集できる。
（5）収集した文献を用いて、企業・産業の歴史を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業となります。講義は主に板書にて実施します。講義とは別に、各自で個別企業・産業について調査をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	規模の経済の発見	産業革命期の英国において「規模の経済」はいかに発見されたのか？
2	市場経済の中の企業	産業革命期の企業活動はあくまで「市場」による調整を前提としていた。
3	産業革命期の在来産業	在来産業において生じた革新とは？
4	産業革命と金融ビジネス	産業革命を支えた金融ビジネス。
5	大量生産体制への途	アメリカでの大量生産への模索
6	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究計画書のテーマの調整と調査法についての簡単なレクチャー。
7	市場的調整から管理的調整へ　及び　中間テスト	19 世紀アメリカにおいて市場的調整を代替する大企業はなぜ出現したのか？
8	専門経営者と経営階層組織	19 世紀アメリカにおいて経営階層組織はなぜ発達したのか？
9	経営者企業の成立と経営階層組織の発達	さらに発達を遂げるアメリカ大企業の経営階層組織。
10	ヨーロッパにおける現代企業の登場	19 世紀末、ヨーロッパにおいても「大企業」が出現した。
11	ヨーロッパ大企業の諸特徴	ただし、ヨーロッパ大企業はその組織においてアメリカの大企業とは異なる特徴を備えていた。
12	日本における大企業の登場	欧米に対して後発国である日本に大企業が出現した理由は？
13	日本の企業と財閥	日本の大企業の特徴とは？
14	講義の総括　及び　期末テスト	半期の講義を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）学期を通じて、持ち込み不可の 2 回のテストに備え、復習する。
（2）学期最初の数週間は研究計画書を作成する。
（3）学期後半は各自のテーマに沿って長文のレポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いません。

【参考書】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。

【成績評価の方法と基準】
評価項目（1）中間テストと期末テスト（30 %）（到達目標（1）（2）と関連します。15 点満点のテスト（持ち込み不可）を 2 度実施します）
評価項目（2）研究計画書（10 %）（到達目標（3）と関連します）
評価項目（3）期末レポート（60 %）（到達目標（4）と（5）と関連します。原則として、1 冊以上の文献資料を明示することを要求します）

【学生の意見等からの気づき】
慣れない調査研究の過程で、障害にぶつかる事例も散見された。研究テーマは事前報告を義務付けているが、適宜、テーマ変更の機会も与えていきたい。

【その他の重要事項】
経営戦略・経営組織に関する基礎的な知識があることが望ましい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to gain the ability to understand the regional and historical diversity of business which are affected by economic, social, and cultural context.
In first semester, We focus on the period from the end of the 19th century to the beginning of the 20th century. We will consider the following issues. Who and How was the economy of scale discovered during the British Industrial Revolution? What role did the financial industry play in the industrial revolution in Britain and other European countries? Why did the mass production system and managerial enterprises emerge in in the United States? What are the differences between large companies in Japan, the US and Europe?
Through examining these issues, you will gain the ability to understand business diversity form a historical perspective. This ability will help you to understand autonomously about today's companies.
In this lecture, students will be asked to collect literature on the history of individual companies and prepare long-term reports based on them. So, You will be able to master how to read historical materials.

ECN300CA

企業経営史 B

飯塚　陽介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義の目的は、ビジネスのあり方における時代・地域に応じた多様性をそれを生み出した背景とともに知ることで、各地域のビジネスのあり方について、広い視野から比較し関連づけて考察する力を身につけることにあります。B では、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。企業は現代の経済社会において大きな部分を構成しています。企業活動について歴史的背景にまで遡って深く理解することは、現代の社会について主体的に考察する上での助けとなるでしょう。なお、講義の中では、適宜、グラフや図表といった統計資料も活用します。

【到達目標】
（1）現代企業が出現した経緯を説明できる。
（2）日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
（3）歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
（4）企業・産業の歴史についての文献を収集できる。
（5）収集した文献を用いて、企業・産業の歴史を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
板書中心の講義形式です。その他、授業外に各自で調査をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アメリカの大企業体制	戦後アメリカの豊かな社会。
2	戦後アメリカと新産業の誕生：豊かな社会と政府	豊かな社会と政府の関与を背景として、新産業が誕生した。
3	戦後ヨーロッパ大企業	戦後には、ヨーロッパでも大企業が出現した。その要因と特徴とは？
4	日本の大企業（1）：戦後改革とその影響	アメリカ主導の戦後改革は日本企業の「アメリカ化」をもたらしたのか？
5	日本の大企業（2）：ジャパン・アズ・ナンバーワンの源流及び中間テスト	戦後日本企業の競争力の源泉たる「日本的経営」と「日本的生産システム」の源流を論じます。
6	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究計画書のテーマの調整と研究指導。
7	日本株式会社論を越えて	日本の政府・民間関係は異質なのか？
8	消費の大衆化と企業：松下・ダイエー・吉野家	消費の大衆化は新しい経営手法の導入を企業に求めた。
9	日本の大企業の戦略と組織	日本の大企業の戦略と組織における特徴と課題とは？
10	金融センターの興亡	興亡を繰り返す金融センターの姿。
11	マーシャルの産業地域論と地域の興亡	産業地域のメリットは永続的なのか？
12	ポスト大企業体制の時代	1970 年代以降のアメリカを題材として、大企業体制の動揺を描く。
13	アジア企業の勃興と経営者資本主義論の相対化	経営者企業へと至る「企業経営の進化」は必然なのか？
14	講義総括及び期末テスト	半期の講義を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）学期を通じて、持ち込み不可の 2 回のテストに備え、復習する。
（2）学期最初の数週間は研究計画書を作成する。
（3）学期後半は各自のテーマに沿って長文のレポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いません。

【参考書】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。

【成績評価の方法と基準】
評価項目（1）中間テストと期末テスト（30 %）（到達目標（1）（2）と関連します。15 点満点のテスト（持ち込み不可）を 2 度実施します）
評価項目（2）研究計画書（10 %）（到達目標（3）と関連します）
評価項目（3）期末レポート（60 %）（到達目標（4）と（5）と関連します。原則として、1 冊以上の文献資料を明示することを要求します）

【学生の意見等からの気づき】
レポート作成時の資料収集について、より具体的な指導・助言をはかり、学生がより効果的な調査が実施できるように支援していきたい。

【その他の重要事項】
経営戦略・経営組織に関する基礎的な知識があることが望ましい。
春学期の「企業経営史 A」も履修することを推奨する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to gain the ability to understand the regional and historical diversity of business which are affected by economic, social, and cultural context.
In second semester, We focus on the period from the end of World War I to the present. We will consider the following issues. How was established the Large Company Centered System in United States, Europe, and Japan? What is the difference between systems in these areas?
Through examining these issues, you will gain the ability to understand business diversity form a historical perspective. This ability will help you to understand autonomously about today's companies.
In this lecture, students will be asked to collect literature on the history of individual companies and prepare long-term reports based on them. So, You will be able to master how to read historical materials.

MAN300CA

国際会計制度 A

田中　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。会計情報は企業を知るうえで最も有用な情報の 1 つであり、それゆえに「事業の言語」と呼ばれる。企業が国境を越えて活動する昨今、会計制度も国家の枠を越えて変容を遂げている。
まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。
英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】
国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義前半は財務諸表の基礎について解説する。こうした解説は講義の後半でも適宜実施する。講義後半では、基準間の差異に留意しながら、国内外企業の財務分析を行う。分析対象企業は自身で選び、関心の近い者同士でグループを組む（1 人でも可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と計画説明。受講生の関心の確認。
2	会計のフレームワーク	会計制度の論理と体系、企業会計の機能など。
3	損益計算書	損益計算書の構造と役割を確認。
4	貸借対照表（資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
5	貸借対照表（負債・純資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
6	財務分析の概要	会計情報を用いた分析手法（ファンダメンタル分析）の概要。
7	実践・財務分析①	自身が選んだ企業について財務分析を行う
8	実践・財務分析②	フィードバックをもとに分析を改善する（中間レポート）
9	IFRS の基礎概念①	原則主義、経済的実質優先主義。
10	IFRS の基礎概念②	資産負債観、公正価値、親会社概念とエンティティ概念。
11	収益認識基準	収益、工事契約、外貨為替レート変動の影響。
12	包括利益の表示	その他包括利益計算書項目。
13	実践・財務分析③	9～12 回を踏まえて、財務分析を改善する
14	期末テスト	単位認定試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。
NewsPicks というアプリが情報収集におすすめ。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】
『新・現代会計入門 第 2 版』伊藤邦雄　日本経済新聞出版社　2016 年
『IFRS 国際会計基準の基礎 第 4 版』平松一夫　中央経済社　2015 年
『エッセンシャル IFRS （第 5 版）』秋葉賢一　中央経済社　2016 年
『国際会計論』森川八洲男　白桃書房　2015 年　ほか

【成績評価の方法と基準】
講義時に配布する質問票（10%）
中間レポート（40%）
期末テスト（50%）

【学生の意見等からの気づき】
講義の冒頭に前回の復習を実施するため、理解の助けとして欲しい。

【その他の重要事項】
国際会計制度 B と合わせて受講すること。
第 7 回・8 回が中間レポートの材料になる。この回に出席できない場合は 1 週間前までに相談すること（直接または y.tanaka@hosei.ac.jp まで）。

【Outline and objectives】
Student will be introduced to the differences of international accounting standards and financial analysis of domestic and foreign companies.
Accounting information is one of the most useful information for knowing companies, hence it is called "business language". As well as companies are crossing over borders, accounting systems are also changing beyond national boundaries.
Upon completion of the course, the student is expected to be able to:
(1)Understand to international accounting systems
(2)Understand how they affect on accounting information
(3)Analyze corporate accounting data

MAN300CA

国際会計制度 B

田中　優希

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際会計制度 A ひ引き続き、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。
まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。
英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】
国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の内容を踏まえ、国際会計制度が会計数値の作成に与える影響と、それらを踏まえた分析手法を学ぶ。国際会計制度 A と合わせた履修を強く推奨する。
有形固定資産、金融商品、引当金、リース会計、退職給付会計、株式報酬取引、外貨換算会計、企業結合、連結会計、セグメント情報、農業会計などを取り上げる。
春学期同様、国内外の企業の分析も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的、受講生の関心の確認。
2	引当金会計	引当金の認識・測定、偶発債権・偶発債務の認識・測定、環境修復引当金と資産除去債務。
3	リース会計	オペレーティング・リース、ファイナンシャル・リースの認識と測定、航空会社の分析例。
4	従業員給付に関する会計 外貨換算会計	退職給付会計、株式報酬取引。 外貨建取引の会計処理、外貨表示財務諸表の換算方法。
5	無形資産の会計	のれんの会計処理、研究開発費の会計処理。
6	連結会計	持分法、共同契約、他の事業体に対する持分の表示。
7	セグメント情報、継続事業と非継続事業の表示	セグメント情報の開示基準、売却目的で保有する固定資産および廃止事業の開示。
8	IFRS 財務諸表分析のポイント	営業利益と当期純利益の数値変化
9	IFRS 財務諸表分析（1）	自身が選んだ企業について財務分析。グループワーク。
10	IFRS 財務諸表分析（2）	第 9 回の続き
11	IFRS 財務諸表分析（3）	第 10 回の続き
12	IFRS 財務諸表分析（4）	第 11 回の続き（プレゼン資料提出）
13	各国の会計制度（1） 期末レポート課題提示	欧州圏の会計制度
14	各国の会計制度（2） 最新トピック紹介	アジア圏の会計制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。NewsPicks というアプリが情報収集におすすめ。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】
国際会計制度 A を参照

【成績評価の方法と基準】
講義時に配布する質問票（20%）
グループワークのプレゼンテーション（30%）
期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】
講義の冒頭に前回の復習を行う。

【その他の重要事項】
国際会計制度 A と合わせて受講すること。

【Outline and objectives】
Student will be introduced to the differences of international accounting standards and financial analysis of domestic and foreign companies.
Accounting information is one of the most useful information for knowing companies, hence it is called "business language". As well as companies are crossing over borders, accounting systems are also changing beyond national boundaries.
Upon completion of the course, the student is expected to be able to:
(1)Understand to international accounting systems.
(2)Understand how they affect on accounting information.
(3)Analyze corporate accounting data.

MAN300CA

企業経営論 A

川邊　安彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要は情報化が社会に及ぼす影響・効果を学び、情報倫理などを理解する。
情報と企業経営についての関わりを通して経営（マネジメント）の本質を学ぶ。A の目的は、新規企業のスタートの具体的な手法、戦略について重点を置く。過去の論文などの文献や具体的な事例を各自事前調査することで企業経営をテーマ毎に仮想体験しながら具体的な内容を議論し何を行うことで何が得られるのか？ を認識できる場面設定を行う。企業経営の推論を立て実際に起こった事象から検証する。

【到達目標】
新規企業における検討項目を具体的な企業設立（仮設）を前提として各種の経営活動に必要な定量的なツールを使い具体的に検討を行えるスキルを身につけることを到達目標とする。企業経営論という観点から単純なデータ整理ではなく参加型のクロスファンクションという視点の講義を実施し情報を得るだけでなく教員・学生との対話、学生間のコミュニケーションを行う形式から本格的な模擬検討会で自分自身で解を導くプロセスを経験する。
また、教員免許状取得のための選択科目という視点で情報と職業の観点から情報分析手法の理解を深めることを求める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
①シラバスの内容を事前に確認し指示事項を準備する。
②毎回講義参加者間でディスカッションを行い、グループ毎に発表する。
③発表内容毎に質疑を全員で行い事前確認した内容の意味を共有する。
④教員側からコメントや資料の意味についての説明を行う。
⑤講義理解の確認の為、３回の講義内レポート型小論文提出簡単なレポートの提出。手書き可。
⑥最終講義は、自分自身で考える起業プランを論文形式にまとめる。手書き可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・企業組織論 ＜組織論＞ 「企業経営とは？」内容の２項についてネットで事前調査を行い参加の事	実例説明を学生視点でディスカッション後、具体的な説明：① IBM ラップトップ事業 ②日産自動車の商用車事業
②	基盤技術の重要性 ＜技術進化と原価＞ 事前課題：日本の電機業界の辿った道、具体的には事例日本のスーパーコンピューター実績調査	学生による説明及びディスカッション後、現状の未来予想を説明
③	創造性・ダイレクション ＜企画立案手法＞ 事前課題：アップルの優位性、過去の実績の確認	実績からの推測・課題顕在化手法と未来への考察
④	事業運営の考え方 ＜技術・実績からの危険予知手法＞ 事前課題：リチウム電池メーカの変遷、過去の実績の確認	過去の実績から未来を予測する手法、技術と実績からのリスクマネージメント
⑤	小論文①、講義時間内での実施・提出 事前課題無し、出席までに自分で構想を練る	第①～④回目までの講義理解度確認
⑥	マーケティング手法の説明 ＜情報処理能力の最大化を図る＞ 事前課題：今後の乗り物の在り方	情報（ネットや他の手法で）収集を行い推論を構築
⑦	マーケット創出 ＜全く新しい考え方等の検討①＞ 事前課題：個人所有の物の在り方、例：自動車など	自分の構想・推論を作成し、展開する
⑧	マーケット創出 ＜全く新しい考え方等の検討②＞ 事前課題：社会が求める物の在り方、例：乗り物など	独自の意見をデータに基づき説明
⑨	小論文②、講義時間内での実施・提出 事前課題無し、出席までに自分で構想を練る	第⑥～⑧回目までの講義理解度確認
⑩	目標値の設定 ＜企業経営における目標値の理解＞ 事前課題：あなたが企業する会社像とは？	具体的に箇条書きで３項目を準備し、グループ・ディスカッション時に狙いと訴求力について議論する
⑪	企業経営における脅威① ＜安全リスクマネジメントの理解＞ 事前課題：過去の広義な事故事例の調査	安全リスクマネージメントから何を思い浮かべるのか？
⑫	企業経営における脅威② ＜安全リスクマネジメントの理解＞ 事前課題：企業に与える影響の調査	不測の事態、出来事という曖昧な表現が許されない事実の理解
⑬	小論文③、講義時間内での実施・提出 事前課題無し、出席までに自分で構想を練る	第⑩～⑫回目までの講義理解度確認
⑭	講義内での小論文④作成	自分の起業プランを論文形式にまとめる ＜注意事項：リスクとオポチュニティの明確化＞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①必ず課題の事前調査を行い講義に参加すること。
② 100 %参加して頂く前提ですが、都合により欠席する場合は事前に連絡の事。
連絡先は、第１回目の講義時に説明します。
③グループディスカッションメンバーは、講義毎に適当に設定します。毎回メンバーが異なる様に着席することを心掛けてください。

【テキスト（教科書）】
特になし。但し、自ら情報収集し裏付けを付けた内容で論理展開すること。

【参考書】
教職課程の情報という観点から情報科教育法（改訂３版）久野靖、辰巳丈夫著を参考書とする。

【成績評価の方法と基準】
４回の小論文①～④から情報の正確性及び経営ツールの活用レベルから定量的に判断を行う。
具体的には、１回２５％として４回分で１００％の評価とします。
内容が提出程度で論理・数値分析が無い場合は１０％～１３％の評価になります。

【学生の意見等からの気づき】
過去の他の講義経験から具体的な内容説明からの構成を求められました。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。事前準備をしっかりしてください。スマホ持参は可。

【その他の重要事項】
講義内のグループディスカッションの論議の時間は、しっかり討議してください。

【Outline and objectives】
The outline of taget the learning points based on information of society effect and ethics.
Learn the essence of management : Start up method and strategy of new biz. based on IBM & Apple etc., Nissan's Bisiness unit and STAMP/STPA of MIT.
Must be team building and free discussion in class all of them.
Language : Japanese, English and Spanish.

MAN300CA

企業経営論Ｂ

川邊　安彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要は現在の日本においては新規事業の成立が困難な中で海外における事業展開手法を学び、新たな事業拡大の方法を学びます。特に、マネジメントは、人の活用及び組織の目標達成が不可欠です。
B の目的は、海外における人的な活用及び組織目標の設定・達成手法について学ぶことに主眼を置きます。

【到達目標】
新規企業のスタートにおける検討項目を具体的な企業設立（仮説）前提として本質的な課題から新規事業設立の可能性及び手順を身につけることを目標とする。
企業経営論という観点から単純なデータ整理ではなく参加型のクロスファンクションという視点の講義を実施し情報を得るだけでなく教員・学生との対話、学生間のコミュニケーションを行う形式で海外における新規企業のスタートの具体的な方法、手法、戦略について重点を置きます。過去の事例及び進捗中案件を講義内で説明しながら、実際の課題及び対策案をディベート形式で討議を進め内容の理解を疑似的に経験し深めます。
また、教員免許状取得のための選択科目という視点で情報と職業の観点から情報分析手法の理解を深めることを求める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
①シラバスの内容を事前に確認し指示事項を準備する。
②毎回講義参加者間でディスカッションを行い、グループ毎に発表する。
③発表内容毎に質疑を全員で行い事前確認した内容の意味を共有する。
④教員側からコメントや資料の意味についての説明を行う。
⑤講義理解の確認の為、３回の講義内レポート型小論文提出簡単なレポートの提出。手書き可。
⑥最終講義は、自分自身で考える起業プランを論文形式にまとめる。手書き可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、タイの Koqoon mobilities co., ltd. をネットで検索し内容を事前に確認。講義内容でこの会社の意義や本質的な目的を読み取る	事業の事業計画と将来の説明。課題、将来の問題の討議を行う。
②	海外の起業経営とは？ 事前課題：どのように事業案件を見出したのか？ 顕在化。	グループディスカッション形式で検討。各グループ発表。必要に応じて日産の中国大連工場設立の話。
③	事前課題：過去の事業案件との差は何か？例：自分で情報収集を行い、過去と未来の差が見出せる海外事業の事例から論じる。	グループディスカッション形式で検討。各グループ発表。必要に応じて日産単独時代とルノー・日産との差
④	事前課題：政府の考え方・民間の考え方・大学の考え方の差（産学官の温度差）	困難な目標設定の手法とは？必要に応じて GRANT とは？
⑤	小論文①、講義時間内での実施・提出事前課題無し、出席までに自分で構想を練る	第①～④回目までの講義理解度確認
⑥	事前課題：ビジネスの成立に欠かせない両方向からの必要性とは？例： MOU、関税障壁	あなたが社長ならば、どの国で何を作りどこへ売りますか？ 何故？
⑦	事前課題：海外事業の本質的な課題とは？ヒント：言語、習慣、時差、国、宗教、通貨など切り口を探すこと	グループでどうして？ 何故？ を繰り返すこと。
⑧	事前課題：仮に目標値が設定できた場合の資金調達の方法とは？	考えられる全ての長所・短所を議論すること。
⑨	小論文②、講義時間内での実施・提出事前課題無し、出席までに自分で構想を練る	第⑥～⑧回目までの講義理解度確認
⑩	事前課題：試作品の構成手法について具体的には、何（製品、金型）をどのように買うのか？、何がリスクか？	考えられる全ての項目・費目を議論すること。
⑪	事前課題：試作品から量産品への展開について、何がリスクか？	考えられる全ての項目について調査ください。関連論文があれば提示ください。ヒント：日程管理
⑫	事前課題：将来の展開性によるビジネスの安定性について	ビジネスの安定性、死の谷とは？ 事前に調べること。
⑬	小論文③、講義時間内での実施・提出事前課題無し、出席までに自分で構想を練る	第⑩～⑫回目までの講義理解度確認
⑭	講義内での小論文④作成	自分の海外における起業プランを論文形式にまとめる＜注意事項：リスクとオポチュニティの明確化＞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①必ず課題の事前調査を行い講義に参加すること。
② 100 ％参加して頂く前提ですが、都合により欠席する場合は事前に連絡の事。
連絡先は、第１回目の講義時に説明します。
③グループディスカッションメンバーは、講義毎に適当に設定します。毎回メンバーが異なる様に着席することを心掛けてください。

【テキスト（教科書）】
特になし。但し、自ら情報収集し裏付けを付けた内容で論理展開すること。

【参考書】
教職課程の情報という観点から情報科教育法（改訂３版）久野靖、辰巳丈夫著を参考書とする。

【成績評価の方法と基準】
４回の小論文①～④から情報の正確性及び経営ツールの活用レベルから定量的に判断を行う。
具体的には、１回２５％として４回分で１００％の評価とします。
内容が提出程度で論理・数値分析が無い場合は１０％～１３％の評価になります。

【学生の意見等からの気づき】
過去の他の講義経験から具体的な内容説明からの構成を求められました。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。事前準備をしっかりしてください。スマホ持参は可。

【その他の重要事項】
講義内のグループディスカッションの論議の時間は、しっかり討議してください。

【Outline and objectives】
Outline of learning the method of business expansion in overseas, how do we start up the business development in overseas. Now, the new business is difficult to establish in Japan.
The aim of B is to focus on learning about overseas human usage and setting and achieving organizational objectives.
Language : Japanese, English and Spanish.

LAW200CA

日本国憲法 A

榎 透

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業のテーマは「憲法とは何のために存在するか」「日本国憲法に定められた国の仕組みとはどのようなものか」である。この授業では、まず、西欧の立憲主義思想や憲法規範の特徴を概観し、政治は憲法に基づき行われること、憲法は公権力を制限する法であることを講じる。ついで、日本国憲法の定める国民主権、民主政治の仕組み（国会、内閣、裁判所、地方自治等）、および平和主義について解説する。
　この授業は、制度の単なる解説にとどまらず、法的な思考に基づく日本国憲法の特徴を説明し、それとともに、憲法やそれに基づく民主政治を手がかりに現代社会を主体的に考察するための素材を提示する。本科目の学習によって、主権者に必要な資質を身につけることができるようになる。

【到達目標】
(1) 憲法とはどのような法であるかを理解し説明できる。
(2) 日本国憲法の定める統治機構の特徴を正確に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	憲法とは何か (1) 国家の役割、法律の役割、憲法の役割	国家の役割、法律の役割、憲法の役割について学ぶ。また、社会・公民の教育における本授業の意味にふれる。
第 2 回	憲法とは何か (2) 憲法の内容と特質	立憲主義に基づく憲法にはどのような内容が盛り込まれるのか、また、その憲法の特質はどのようなものかを学ぶ。
第 3 回	日本憲法史	憲法の内容と特質を確認しつつ、日本憲法史を学ぶ。
第 4 回	統治のメカニズム総論	国民主権、権力分立、国民の政治参加・選挙の仕組みについて学ぶ。
第 5 回	国会の地位と役割	国会の地位、組織、権限について学ぶ。
第 6 回	内閣の役割	内閣の組織と権能について学ぶ。また、内閣総理大臣の権能について学ぶ。
第 7 回	裁判所の役割	裁判所の組織、司法権の概念と範囲、司法権の独立について学ぶ。
第 8 回	違憲審査制	違憲審査制の意義を理解し、その上で、抽象的違憲審査制と付随的違憲審査について学ぶ。
第 9 回	財政と地方自治	財政と地方自治について学ぶ。
第 10 回	天皇制	憲法の定める天皇制度について学ぶ。
第 11 回	平和主義	日本国憲法 9 条の解釈論を学ぶ。
第 12 回	憲法改正の仕組み	憲法改正の手続きと限界について学ぶ。
第 13 回	まとめ	これまでの内容を確認する。
第 14 回	総合	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 配布レジュメを読んで予習・復習する。特に授業で指示した事項については、念入りに復習し小テストに備える。
2. 日々のニュースの中に含まれる憲法的な論点を探して考える。

【テキスト（教科書）】
六法（『ポケット六法』など小型のものでよい）

【参考書】
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第 6 版）』（岩波書店、2015 年）
長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第 6 版）』（有斐閣、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
・期末試験を実施する（70 %）。期末試験は、到達目標 (1)(2) に対応して、憲法に関する知識・理解・思考・判断を測る問題を出題する。
・授業中に複数回小テストを実施する（30 %）。小テストは、到達目標 (1)(2) に対応して、憲法に関する基礎知識の理解を測る問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の資料の配布に授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
　The theme of this class is "What is the Constitution?" and "What is the structure of the government defined in the Constitution of Japan?" In this class, we first outline the features of the Constitutionalism and the Constitutional law. We can understand that politics is done according to the Constitution, and that the Constitution is the law which restricts government. Next, we can understand the sovereignty of the people, the mechanism of democratic politics (the Diet, Cabinet, Courts, Local government), and pacifism, as stipulated by the Constitution of Japan.
　In this class, we can understand not only the outline of the system but also the characteristics of the Japanese Constitution based on legal thinking. Also, in this class, we can acquire materials to consider contemporary society from a broad perspective. By learning this subject, we can acquire the necessary qualities as citizens in civil society.

LAW200CA

日本国憲法 B

榎 透

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業のテーマは、「憲法の定める基本的人権とはどのようなものか」である。この授業では「憲法とはどのような法であるか」を常に意識しながら、日本国憲法の定める基本的人権について説明する。
　この授業は、人権の内容を解説するだけでなく、法的な思考に基づく日本国憲法の定める基本的人権の特徴を説明し、現代社会について幅広い視野に立って考察できるようになるための素材を提示する。本科目の学習によって、市民社会における公民として必要な資質を身につけることができる。

【到達目標】
(1) 憲法とはどのような法であるかを理解し説明できる。
(2) 日本国憲法の定める人権について、その意義・内容を正確に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。また、適宜、グループディスカッション等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人権総論 (1) 基本的人権とは何か	憲法の定める人権と、世間で流通する「人権」との違いを学ぶ。
第 2 回	人権総論 (2) 個人の尊重と基本的人権の概要、人権の限界	人権の根底にある「個人の尊重」という考え方を学ぶ。その上で、自由権と社会権、人権の限界について学ぶ。
第 3 回	人権総論 (3) 教育現場における人権	グループディスカッションにより、校則と人権の問題を考える。
第 4 回	信教の自由	信教の自由と政教分離について学ぶ。
第 5 回	思想・良心の自由	思想および良心の自由について学ぶ。関連する事例を取り上げてグループディスカッションを行う。
第 6 回	表現の自由 (1) 意義、政治的言論、報道の自由	表現の自由の意義・重要性、特に民主主義社会における表現の重要性を学ぶ。
第 7 回	表現の自由 (2) わいせつ表現、ヘイトスピーチ	わいせつ表現、ヘイトスピーチを素材として、表現の自由を規制する意味や問題点を学び、議論する。
第 8 回	表現の自由 (3) 多様な表現方法と表現の自由	ネット、ビラ配布、集会・結社など多様な表現行為が表現の自由で保障される意味を学ぶ。
第 9 回	経済的自由 (1) 職業の自由	経済活動に不可欠である、職業の自由について学ぶ。
第 10 回	経済的自由 (2) 財産権	経済活動に不可欠である、財産権について学ぶ。
第 11 回	社会権、参政権	社会権（特に生存権）、参政権について学ぶ。
第 12 回	法の下の平等	平等の理論を学び、関連する問題についてグループディスカッションを行う。
第 13 回	まとめ	これまでの内容を確認する。
第 14 回	総合	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 配布レジュメを読んで予習・復習する。
2. 授業で指示した資料を読み、ディスカッション等とレポートに備える。
3. 日々のニュースの中に含まれる憲法的な論点を探して考える。

【テキスト（教科書）】
六法（『ポケット六法』など小型のものでよい）

【参考書】
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第 6 版）』（岩波書店、2015 年）
長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第 6 版）』（有斐閣、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
・期末試験を実施する（70 %）。期末試験は、到達目標 (1)(2) に対応して、憲法に関する知識・理解・思考・判断を測る問題を出題する。
・グループディスカッション等を行い、それを踏まえたレポートを課す（30 %）。到達目標 (1)(2) に対応して、それらを評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
受講生の資料の配布に授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
　The theme of this class is "What is constitutional human rights?" In this class, we can understand the characteristic of the constitutional law and human rights as stipulated by the Constitution of Japan. In particular, we study the equal under the law, suffrage, freedom of thought and conscience, freedom of religion, freedom of expression, freedom to choose his occupation, the right to own or to hold property and the right to maintain the minimum standards of wholesome and cultured living.
　In this class, We can understand not only the contents of human rights but also the characteristics of fundamental human rights as defined by the Japanese Constitution. Also, in this class, we can acquire materials to consider contemporary society from a broad perspective. By learning this subject, we can acquire the necessary qualities as citizens in civil society.

LAW200CA

民法一部 A

菅　富美枝

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法の中でも、特に、総則を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】
民法総則 (民法典第 1 編）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。教科書は、主に復習用に用いられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	民法総論	民法とは何か
第 2 回	総則①	契約の成立
第 3 回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第 4 回	総則③	意思表示（2）錯誤
第 5 回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第 6 回	総則⑤	権利の主体：「人」
第 7 回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第 8 回	総則⑦	代理（2）無権代理
第 9 回	総則⑧	代理（3）表見代理
第 10 回	総則⑨	法人
第 11 回	総則⑩	契約の有効性
第 12 回	総則⑪	契約の効力発生時期、時効
第 13 回	総則⑫	時効制度
第 14 回	総合	総復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』（日本経済新聞社）
六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】
池田真朗『スタートライン民法総論【第 2 版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第 2 版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】
授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（１５％）と学期末試験による評価（８５％）

【学生の意見等からの気づき】
前年度同様、黒板の活用に心掛ける。

【その他の重要事項】
「法学 B」を履修済みか、履修中であることが望ましい。なお、使用教科書は同一である。

【Outline and objectives】
This course aims to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in Contract Law.

LAW200CA

民法一部 B

菅　富美枝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】
物権（第２編第１，２，３章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
物権法について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。教科書は、主として復習用に用いられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	物権法序説	「物」の概念
第 2 回	物権①	所有権（1）所有権の内容、効力
第 3 回	物権②	所有権（2）所有権の取得
第 4 回	物権③	所有権（3）共同所有関係
第 5 回	物権④	占有権
第 6 回	物権⑤	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第 7 回	物権⑥	物権変動（2）対抗要件主義
第 8 回	物権⑦	物権変動（3）契約による動産物権変動の対抗要件
第 9 回	物権⑧	物権変動（4）公信の原則
第 10 回	物権⑨	問題演習（1）不動産物権変動
第 11 回	物権⑩	問題演習（2）動産物権変動
第 12 回	物権⑪	問題演習（3）所有権、建物の区分所有権
第 13 回	物権⑫	物権と債権の区別
第 14 回	総合	総復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』（日本経済新聞社）
六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】
池田真朗『スタートライン民法総論【第 2 版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第 2 版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】
授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（１５％）と学期末試験による評価（８５％）

【学生の意見等からの気づき】
前年度同様、黒板の活用に心掛ける。

【その他の重要事項】
「法学 B」を履修済みか、履修中であることが望ましい。なお、使用教科書は、同一である。

【Outline and objectives】
This course aims to introduce you to Property Law. During the couse, close attention to their functions in Contract Law should be paid.

LAW300CA

民法二部 A

菅　富美枝

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法の中でも、特に、取引に直接関係する債権法（①契約法総論、②契約法各論）を中心に学ぶ。2020 年に施行が予定されている改正法に従って講義を行う。最新の契約法の内容を修得できる。

【到達目標】
取引生活を営む上でわれわれは様々な契約関係の当事者になるが、その際のトラブル発生に備えて、また、トラブルが発生したときの解決方法として、契約法を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
契約法について、レジュメを元に解説が進められる。適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。教科書は、主として復習用に用いられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	契約法総論①	契約法とは何か (契約の成立から消滅まで)
第 2 回	契約法総論②	契約の成立
第 3 回	契約法総論③	契約の効力
第 4 回	契約の解除①	要件
第 5 回	契約の解除②	効果
第 6 回	契約法各論①	贈与· 交換
第 7 回	契約法各論②	売買契約の成立
第 8 回	契約法各論③	売買契約の効果
第 9 回	契約法各論④	契約不適合責任
第 10 回	契約法各論⑤	消費貸借· 使用貸借
第 11 回	契約法各論⑥	賃貸借契約①意義、期間)
第 12 回	契約法各論⑦	賃貸借契約②効力、終了
第 13 回	契約法各論⑧	労務提供型契約· その他の典型契約
第 14 回	総合	総復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』（日本経済新聞社）
六法全書 (いずれの出版社のものでもよい)

【参考書】
内田貴『民法Ⅱ【第 3 版】』、『民法Ⅲ【第 3 版】』 (東京大学出版会)

【成績評価の方法と基準】
授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（15 %）と学期末試験による評価（85 %）。

【学生の意見等からの気づき】
黒板の活用に心掛ける。

【Outline and objectives】
This course introduces Obligation Law which is directly relevant to tradings. In the end of this course stundents will acquire the most recent knowledge of the ammended Civil Code which is to be implemented in 2020, and then have a good understanding of the neweset Contract Law.

LAW300CA

民法二部 B

菅　富美枝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
契約関係にないにもかかわらず義務を負う場合として、不当利得法、不法行為法について学ぶ。さらに、金融法について学ぶ。

【到達目標】
①契約関係にない場合であっても義務を負う例外として、不当利得法や不法行為法について、基本的な知識を修得する。
②事業拡大のための融資・借入れの仕組み、そのための担保制度の仕組みを学ぶことによって、金融法に関する知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
債権法について、教科書の流れにしたがって、レジュメを元に解説が進められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	不当利得	不当利得法序説
第 2 回	不法行為①	不法行為法序説
第 3 回	不法行為②	成立要件
第 4 回	不法行為③	効果
第 5 回	不法行為④	特殊な不法行為
第 6 回	不法行為⑤	共同不法行為、不法行為の特別法
第 7 回	債権総論①	債権総論序説· 債権の目的
第 8 回	債権総論②	債権の効力① 強制履行· 債務不履行
第 9 回	債権総論③	債権の効力② 損害賠償
第 10 回	債権総論④	債権の効力③ 受領遅滞· 弁済の提供
第 11 回	債権総論⑤	責任財産の保全① 債権者代位権
第 12 回	債権総論⑥	責任財産の保全② 詐害行為取消権
第 13 回	債権総論⑦	多数当事者の債権関係 (連帯債務· 保証債務)
第 14 回	総合	総復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』（日本経済新聞社）
六法全書 (いずれの出版社のものでもよい)

【参考書】
内田貴『民法Ⅱ【第 3 版】』、『民法Ⅲ【第 3 版】』 (東京大学出版会)

【成績評価の方法と基準】
授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（15 %）と学期末試験による評価（85 %）。

【学生の意見等からの気づき】
黒板の活用に心がける。

【その他の重要事項】
「法学 B」または「民法 1 部」を履修済みか、履修中であることが望ましい。教科書はいずれも同じである。

【Outline and objectives】
This course aims to introduce you to Unjustrichment, Tort Law, and Financial Law.

LAW200CA

商法一部 A

笹久保　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】
・会社法上の制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。憲法、民法又は刑法と異なり、会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。なお、本授業の受講者は、是非とも、秋学期の「商法一部Ｂ」も受講してもらいたい。秋学期も受講することで会社法の全体を理解することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	会社法　総論	前提知識や用語等の解説
第 2 回	株式会社の設立 1	設立総論に関する解説
第 3 回	株式会社の設立 2	発起人・定款に関する解説
第 4 回	株式会社の設立 3	設立手続きに関する解説
第 5 回	株式会社の設立 4	発起人等の責任に関する解説
第 6 回	株式会社の設立 5	設立の瑕疵・仮装払込み等に関する解説
第 7 回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第 8 回	株式会社の機関 株主総会 1	株主総会の権限・種類・招集に関する解説
第 9 回	株式会社の機関 株主総会 2	株主総会の議事・議決権に関する解説
第 10 回	株式会社の機関 株主総会 3	株主総会の決議・決議の瑕疵等に関する解説
第 11 回	株式会社の機関 取締役 1	取締役の権限等に関する解説
第 12 回	株式会社の機関 取締役 2	取締役会の招集・決議等に関する解説
第 13 回	株式会社の機関 取締役 3	代表取締役・表見代表取締役に関する解説
第 14 回	株式会社の機関 取締役 4	取締役の義務及び責任に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。
復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』）を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』（商事法務、2015）

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
受講生は最新の六法を持参すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW200CA

商法一部 B

笹久保　徹

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本授業は商法の会社法に関する講義である。
　受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】
・会社法上の制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　本授業は講義形式である。憲法、民法又は刑法と異なり、会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。
　本授業の受講者は、できれば春学期の「商法一部Ａ」を受講しておいて頂きたい（もちろん秋学期から受講してもかまわない。）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	会社法　総論	会社法を学ぶための前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第 2 回	株式会社の機関 株主と取締役の関係	株主による取締役の責任を追及する方法（株主代表訴訟等）に関する解説
第 3 回	株式会社の機関 監査役、会計監査人、会計参与	監査役・会計監査人・会計参与に関する解説
第 4 回	株式会社の機関 その他	指名委員会等設置会社及び監査等委員会設置会社に関する解説
第 5 回	株式 1	株主の権利・株主平等原則に関する解説
第 6 回	株式 2	株式の内容・種類に関する解説
第 7 回	株式 3	株主名簿・株券に関する解説
第 8 回	株式 4	株式譲渡・自己株取得に関する解説
第 9 回	株式 5	株式の併合・分割・株式の単位等に関する解説
第 10 回	募集株式 1	募集株式の概論・発行手続に関する解説
第 11 回	募集株式 2	募集株式の発行等の瑕疵等に関する解説
第 12 回	新株予約権 1	新株予約権に関する解説
第 13 回	新株予約権 2	新株予約権の発行等の瑕疵等に関する解説
第 14 回	組織再編	合併等の組織再編に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。
　復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』）を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
　柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』（商事法務、2015）

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】
　期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
　資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
　受講生は最新の六法を持参すること。
　テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW300CA

商法二部 A

笹久保　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。
商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】
・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
・商法に関心を持ち、現実社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。
なお、本授業の受講生は、是非とも、秋学期の「商法二部Ｂ」も受講してもらいたい。秋学期の授業も受講することで商法総則・商行為法の全体を理解することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 商法の意義と法源（1）	ガイダンス及び商法の意義について解説する。
第 2 回	商法の意義と法源（2）	商法の法源について解説する。
第 3 回	商人と商行為（1）	商人について解説する。
第 4 回	商人と商行為（2）	商行為について解説する。
第 5 回	商号（1）	商号の意義等について解説する。
第 6 回	商号（2）	商号と名板貸について解説する。
第 7 回	商業登記	商業登記について解説する。
第 8 回	商業帳簿	商業帳簿について解説する。
第 9 回	商業使用人（1）	支配人について解説する。
第 10 回	商業使用人（2）	支配人以外の商業使用人について解説する。
第 11 回	代理商	代理商について解説する。
第 12 回	営業（1）	営業の意義について解説する。
第 13 回	営業（2）	営業譲渡について解説する。
第 14 回	商法総則　事例研究	商法総則に関する各回の講義で詳しく触れることができなかった重要判例を取り上げて検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は各自ができる範囲でやること（気楽な気持ちでテキストを眺めるだけでもよい。）。復習に力を注いでもらいたい。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】
近藤光男『商法総則・商行為法〔第 7 版〕』(有斐閣法律学叢書)（有斐閣、2018）本体価格 2800 円

【参考書】
江頭憲治郎＝山下友信編「商法 (総則・商行為) 判例百選〔第 5 版〕」(別冊ジュリスト No.194)（有斐閣、2008 年）本体価格 2400 円

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で評価する（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は商法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
受講生は、最新の六法を持参すること。
六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。
なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline and objectives】
This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society.

LAW300CA

商法二部 B

笹久保　徹

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。
　商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】
・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
・商法に関心を持ち、現実社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。
　なお、本授業の受講生は、春学期の「商法二部A」を受講していることが望ましいが、本授業から受講してもかまわない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 商行為法　総則（1）	ガイダンス及び契約の成立等について解説する。
第 2 回	商行為法　総則（2）	商行為の代理等について解説する。
第 3 回	売買（1）	商事売買について解説する。
第 4 回	売買（2）	消費者売買について解説する。
第 5 回	匿名組合	匿名組合について解説する。
第 6 回	仲介営業（1）	仲立営業について解説する。
第 7 回	仲介営業（2）	問屋営業について解説する。
第 8 回	運送営業（1）	物品運送について解説する。
第 9 回	運送営業（2）	旅客運送について解説する。
第 10 回	運送取扱営業	運送取扱営業について解説する。
第 11 回	寄託	場屋営業等について解説する。
第 12 回	倉庫営業	倉庫営業について解説する。
第 13 回	交互計算	交互計算について解説する。
第 14 回	商行為法　事例研究	商行為法に関する各回の講義で詳しく触れることができなかった重要判例を取り上げて検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は各自ができる範囲でやること（気楽な気持ちでテキストを眺めるだけでもよい。）。復習に力を注いでもらいたい。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】
　近藤光男『商法総則・商行為法〔第 7 版〕』(有斐閣法律学叢書)（有斐閣、2018）本体価格 2800 円

【参考書】
　江頭憲治郎＝山下友信編「商法 (総則・商行為) 判例百選〔第 5 版〕」(別冊ジュリスト No.194)（有斐閣、2008 年）本体価格 2400 円

【成績評価の方法と基準】
　期末試験の成績で評価する（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は商法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
　資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】
　受講生は、最新の六法を持参すること。
　六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。
　なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履行済みを前提としていないため、両授業を並行して履行してもかまわない。

【Outline and objectives】
This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course.　The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society.

LAW300CA

経済法 A

山田　務

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
独占禁止法は、消費者の利益と経済の民主的発展を確保するための事業活動の基本的ルールを定めたもので、経済憲法とも呼ばれている。また、競争政策を実施するための基本的法律である。このような独占禁止法について、基礎となる経済学の考え方、禁止行為の内容、日本経済における役割と最近の課題について、他の法律との関係も踏まえて講義を行う。
学生が、今後の企業活動や消費生活において身近に接することとなる独占禁止法について理解し、経済理論と実際の経済政策（競争政策）との関係について理解することを目的とする。

【到達目標】
①目的、禁止行為、措置の内容等、独占禁止法の基本的内容について知識を得る。②独占禁止法・競争政策の視点を通じ、経済の仕組み、最近の課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。
時々、講義内容について確認的な小テストを行う。また、学生からの質問、意見の表明を歓迎するとともに、質問の投げかけを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1）	ガイダンス	講義の内容、独占禁止法を学ぶ意義
2）	独占禁止法の概要（1）	独占禁止法の目的、日本経済における役割、歴史、課題
3）	独占禁止法の概要（2）	禁止行為、違反行為に対する措置等の全体像
4）	独占禁止法の基礎となる経済理論	独占禁止法を理解する上で参考となるミクロ経済学の考え方
5）	独占禁止法の基本概念	規制の基本的枠組み、「事業者」「市場支配力」等の基本的用語
6）	カルテル、入札談合規制（1）	カルテル等の目的・種類、カルテルの経済分析
7）	カルテル、入札談合規制（2）	禁止行為の内容、最近の事件
8）	カルテル、入札談合規制（3）	カルテル等の発見・抑止のための施策（課徴金制度、官製談合防止制度等）
9）	事業者団体に対する規制	事業者団体の活動、禁止行為の内容、最近の事件
10）	私的独占規制	大企業の市場支配的行為の規制内容、最近の事件
11）	合併・株式保有等の規制（1）	合併・株式保有の目的、合併等の経済分析、禁止される合併等の内容
12）	合併・株式保有等の規制（2）	合併等の審査手続き、最近の事例
13）	不公正な取引方法規制	不公正な取引方法規制の概要
14）	公正取引委員会の法運用	違反事件の調査、違反に対する措置

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、ネット等で、独占禁止法・競争政策に関する記事、ニュースを読み、関心を持つ。また、授業で配布した資料を熟読するとともに、適宜、参考書で講義に関連する部分を読み、基本的事項を理解する。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
菅久修一他「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務
泉水文雄「経済法入門」有斐閣
川濱昇他「ベーシック経済法―独占禁止法入門」有斐閣
公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委ホームページ

【成績評価の方法と基準】
期末試験（６５％）と平常点（小テストへの対応状況、授業への参加状況等）（３５％）により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まえながら、独占禁止法及び関連する法律の内容、課題等について講義を行う。

【Outline and objectives】
Under the market economy regime, the Antimonopoly Act establishes basic rules of business activities to secure consumer interests and democratic development of the economy and is also called the economic constitution. It is also a basic law for implementing competition policy.
Regarding such antitrust law, we lecture on purpose,basic thinking of economics which is the basis, contents of major prohibited acts, roles in the Japanese economy and recent issues with other related laws.
Students acquire a basic understanding of the Antimonopoly Act which will come close to them in future business activities and consumption life and understand the relationship between economic theory and actual economic policy (competition policy) through the Antimonopoly Act

LAW300CA

経済法 B

山田　務

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
独占禁止法は、消費者の利益と経済の民主的発展を確保するための事業活動の基本的ルールを定めたもので、経済憲法とも呼ばれている。また、競争政策を実施するための基本的法律である。このような独占禁止法について、基礎となる経済学の考え方、禁止行為の内容、日本経済における役割と最近の課題について、他の法律との関係も踏まえて講義を行う。
学生が、今後の企業活動や消費生活において身近に接することとなる独占禁止法について理解し、経済理論と実際の経済政策（競争政策）との関係について理解することを目的とする。

【到達目標】
①目的、禁止行為、措置の内容等、独占禁止法の基本的内容について知識を得る。②独占禁止法・競争政策の視点を通じ、経済の仕組み、最近の課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。
時々、講義内容について確認的な小テストを行う。また、学生からの質問、意見の表明を歓迎するとともに、質問の投げかけを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1）	ガイダンス	講義の内容、春学期の復習
2）	不公正な取引方法規制（1）	不公正な取引方法の内容（総論）とは
3）	不公正な取引方法規制（2）	不当廉売、差別対価・差別的取扱いに対する規制、最近の事件
4）	不公正な取引方法規制（3）	大規模事業者による中小事業者に対する濫用行為の内容、規制の経済分析
5）	不公正な取引方法規制（4）	下請法の概要、最近の事件（メーカーと下請業者の取引等）
6）	不公正な取引方法規制（5）	取引の相手方の事業活動（価格、競争品の取扱い等）を制限する行為の内容、最近の事件
7）	不公正な取引方法規制（6）	競争者を妨害・排除する行為（欺瞞的取引、ボイコット等）の内容、最近の事件
8）	日本経済と競争政策（1）	独占禁止法・競争政策の歴史、課題
9）	日本経済と競争政策（2）	景品表示法、その他の消費者保護法
10）	日本経済と競争政策（3）	政府規制、独占禁止法適用除外制度
11）	日本経済と競争政策（4）	特許等の知的財産制度と独占禁止法、デジタル化に伴う課題
12）	日本経済と競争政策（5）	グローバル化に対応した独占禁止法の運用（国際カルテル等）、課題
13）	日本経済と競争政策（6）	ＷＴＯ（世界貿易機構）の制度、国家間の経済連携協定
14）	まとめ	独占禁止法の役割、法令順守の必要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、ネット等で、独占禁止法・競争政策に関する記事、ニュースを読み、関心を持つ。また、授業で配布した資料を熟読するとともに、適宜、参考書で講義に関連する部分を読み、基本的事項を理解する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
菅久修一他「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務
泉水文雄「経済法入門」有斐閣
川濱昇他「ベーシック経済法―独占禁止法入門」有斐閣
公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委ホームページ

【成績評価の方法と基準】
期末試験（６５％）と平常点（小テストへの対応状況、授業への参加状況等）（３５％）により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まながら、独占禁止法及び関連する法律の内容、課題等について講義を行う。

【Outline and objectives】
Under the market economy regime, the Antimonopoly Act establishes basic rules of business activities to secure consumer interests and democratic development of the economy and is also called the economic constitution. It is also a basic law for implementing competition policy.
Regarding such antitrust law, we lecture on purpose,basic thinking of economics which is the basis, contents of major prohibited acts, roles in the Japanese economy and recent issues with other related laws.
Students acquire a basic understanding of the Antimonopoly Act which will come close to them in future business activities and consumption life and understand the relationship between economic theory and actual economic policy (competition policy) through the Antimonopoly Act

LAW300CA

労働法 A

藤本　茂

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
雇用社会 (労働関係) のトラブルを法的に解決する法領域が労働法である。労働法は労働契約関係での個別的労働関係法，労働組合と使用者の関係を規整する集団的労使関係法そして雇用保障に関する雇用保障法の分野に分かれる。
労働法 A では，まず総論として，労働法の理念から，紛争解決制度までを学ぶ。次いで採用から解雇まで労働契約関係の形成から終了までを取扱う。
雇用社会のあり様と労働法とは密接にかかわっている。内々定や解雇の金銭解決など今日的議論に触れるのは当然である。

【到達目標】
授業の到達目標は，労働法の基礎的知識を学び，将来，社会人となって経験するであろう労働問題について法的に考える眼を養う。労働法の基礎的知識を修得して，自分なりに法的に考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でレジュメを配布し進める。テキストの該当箇所も示しておく。
テーマの「肝」を理解してもらえるよう時事的なことや裁判例を挙げる。
パワーポイントを原則使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要や評価基準，労働法分野の説明
第 2 回	労働法の理念-労働法の生成から考える-	労働法という法分野が生まれた社会的背景について考える。
第 3 回	わが国労働法のよって立つ雇用社会	日本型雇用システムの内容とそこで形成・定着した労働法理。その変容と労働法理の見直しについて考える。
第 4 回	労働関係の主体	労働者（従業員），使用者（会社），労働組合
第 5 回	労働基本権と労働組合	憲法 28 条の意義とその権利を具体化する労働組合の意義について学ぶ。
第 6 回	働き方の決定	労働条件の決定は労働契約にある。労働契約法に触れながら，労働契約関係を権利義務や原則を学ぶ。
第 7 回	処遇格差問題	非正規労働者の多くは有期労働契約。不安定雇用をどう是正するか。賃金などの処遇格差問題をどう解決するか。
第 8 回	就業規則（社内規程集）の機能と法的役割	就業規則は労働条件決定に決定的な影響をもっている。使用者が作成する労働条件になぜ労働者は縛られるのか。
第 9 回	労働紛争解決制度	裁判以外の，労働審判や行政機関による公的紛争解決制度を学ぶ。 労働問題相談窓口についても知る。
第 10 回	採用・内定・試用	労働契約関係の生成-採用と採用の自由の限界，内定制度そして試用制度を学ぶ。
第 11 回	人事異動	配転-同一使用者の下での人事異動の法理を中心にあと出向・転籍を学ぶ。
第 12 回	解雇以外の雇用の終了	労働契約の終了。終了原因からみると解雇以外にいろいろあることを知る。
第 13 回	解雇の自由と法規制	解雇。解雇の法規制について学ぶ。解雇規制緩和の議論は妥当か。
第 14 回	労働法 A のまとめ	労働法 A で扱ったテーマに関して全体的にまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】事前に配布されたプリント (レジュメ) と教科書の該当箇所に目を通しておく。
【復習】講義テーマのポイントについて、自分なりに整理する。

【テキスト（教科書）】
金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦・山本圭子共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ[第４版]』エイデル研究所　2018
金子征史・藤本茂・大場敏彦他『基礎から学ぶ労働法Ⅱ[第２版]』エイデル研究所　2016

【参考書】
参考文献は開講時にあるいは講義時に指示する。
六法はコンパクトなものでいいが，労働基準法施行規則などが掲載されているものが望ましい。具体的には，開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は期末試験（80 %）レポート課題（20%）とし，合計 100 %とする。期末試験は知識の習得を測る穴埋式と記述式を半分ずつ。レポート課題は学期なかばに出す。ホットイッシューを出す。論点を簡潔にまとめているかを重視する。特に意見を問うものではない。

【学生の意見等からの気づき】
声がよく通るようマイクを使う。

【Outline and objectives】
This course will focus on Japanese Labor Law and will introduce students to Labor Law and the Labor Contract Act.
In the introduction to Labor Law, students will study a general overview of Labor Law (Employment Law and Labor Relations Law) and learn about the Dispute Settlement System.
In the Labor Contract Act portion of the course, students will learn about the rules of adoption, transfer and dismissal.

LAW300CA

労働法 B

藤本　茂

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働法 B は，労働法 A を踏まえ，以下の領域を扱う。
①労働組合法の集団的労使関係法を概観する。②労働基準法を中心に賃金や労働時間などの労働条件論を学ぶ。
現代雇用社会のあり様を見ると，労働組合の役割は益々重要である。また，今日的議論には成果主義賃金や高度プロフェッショナル制度など労働条件が多い。

【到達目標】
授業の到達目標は，労働法の基礎的知識を学ぶことによって，将来，社会人となって経験するであろう労働関係に対して自分なりに論点を把握でき法的に検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でレジュメを配布しそれに従って進める。テキストとの関連がつかめるよう該当頁を示す。
テーマの「胆」を理解できるように，時事的な出来事や裁判例を挙げて講義する。
パワーポイントを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の開始に際して	労働組合法と労働基準法について
第 2 回	労働組合，労働協約と法	労働組合が組合員の労働条件を使用者と交渉して決定するシステムを学ぶ。
第 3 回	不当労働行為	法は労働組合の活動の自由を保障するため，使用者の行為を規制する。それが不当労働行為。
第 4 回	労働基準法の特徴	労働の自主性確保の重要性を考える。次に最低労働条件を法定したことの意味を問う。
第 5 回	雇用差別の禁止	非正規雇用の処遇格差問題。 男女賃金差別問題。男女雇用差別の禁止。
第 6 回	賃金規制の意義と最低賃金	労基法の賃金規制を概観する。最低賃金や支払方法。
第 7 回	生活確保のための様々な賃金制度	休業手当，非常時払い，倒産して受け取れなくなった賃金が確保される方法など
第 8 回	法定労働時間の原則	労働時間規制の原点を考える。労働時間規制の意義。ブラック企業と長時間労働にも触れる。
第 9 回	労働時間の弾力化	変形制，フレックス制，みなし制。高度プロフェッショナル制度を取り上げる。
第 10 回	労働時間の例外－時間外休日労働	時間外・休日労働について考える。 サービス残業問題、固定残業手当。残業時間上限規制を学ぶ。
第 11 回	休憩・休日	休憩時間，休日確保に関する労基法の規制の考え方を知る。
第 12 回	休暇制度－年次有給休暇を中心に	年次有給休暇制度の概要，その利用。 年休日の決定方法あれこれ。その他の休暇制度
第 13 回	過労死・過労自殺	過労死認定ライン，過労自殺と労災認定，そして会社への損害賠償について
第 14 回	労働法 B のまとめ	労働法 B のテーマに関して整理してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】事前に配布されたプリント (レジュメ) と教科書の該当箇所に目を通す。
【復習】講義テーマのポイントについて、整理する。

【テキスト（教科書）】
金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦・山本圭子共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ［第４版］』エイデル研究所　2018
金子征史・藤本茂・大場敏彦他『基礎から学ぶ労働法Ⅱ［第２版］』エイデル研究所　2016

【参考書】
参考文献は開講時にあるいは講義時に指示する。
六法はコンパクトなものでいいが，労働基準法施行規則などが掲載されているものが望ましい。具体的には，開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は期末試験（80 %）レポート課題（20%）とし，合計 100 %とする。期末試験は知識の習得を測る穴埋式と記述式を半分ずつ。レポート課題は学期なかばに出す。ホットイッシューを出す。論点を簡潔にまとめているかを重視する。特に意見を問うものではない。

【学生の意見等からの気づき】
声がよく通るようマイクを使う。

【Outline and objectives】
This course will focus on Japanese Labor Law, especially, will introduce students to Labor Unions Act and Labor Standards Act.
First, in the introduction to Labor Unions Act, students will study the fundamental right to Take part in Union, collective bargaining and trade dispute.
Second, the introduction to Labor Standards Act, students will study a general overview of the Act, fundamental labor rights and thinking of minimum working conditions based on the statutory.
Thirdly, students will learn about legal regulations of terms and conditions of labor, mainly, wages, working time, overtime, off on weekends and holidays.

MAN300CA

経営学 A

砂田　充

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業活動のグローバル化に伴い，企業を取り巻く経営環境が複雑化し，企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学，特に経営戦略の基礎的な内容について，経済学的な考え方をベースに学習する。

【到達目標】
事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）及び競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）について，経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また，そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経営学」と「経済学」
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメント
3	経営戦略の成立ちと種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための経済学基礎	需要の特性と費用構造
5	事業戦略の考え方	価値創造と SWOT の分析
6	外部要因の分析①	業界構造分析
7	外部要因の分析②	業界構造分析の事例研究
8	外部要因の分析③	価値相関図
9	内部要因の分析	企業活動と経営資源
10	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
11	コスト優位	コスト・ドライバー
12	差別化優位	差別化ドライバー
13	競争優位の持続可能性	隔離メカニズム
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な数学の計算については講義でも簡単に解説を行うが，高校の数学の教科書を利用する等して，各自で十分な自習を行っておくこと。また、ミクロ経済学の基礎についても自習を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】
浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社，2004 年）．
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣，2010 年）．
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社，2011 年）
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社，2010 年）．
丸山雅祥『経営の経済学［第 3 版］』（有斐閣，2017 年）．
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験による（85%）と平常点（15%）。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】
受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては，レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: cost structure of the firm, value creation, competitor and competition, industry analysis: five-force analysis, competitive advantage, cost and benefit advantage, sustaining competitive advantage. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic. Students are expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

MAN300CA

経営学 B

砂田　充

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業活動のグローバル化に伴い，企業を取り巻く経営環境が複雑化し，企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学，特に経営戦略の発展的な内容について，経済学的な考え方をベースに学習する。

【到達目標】
企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて，経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また，そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業戦略と戦略的行動
2	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
3	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
4	多角化①	多角化の内的・外的要因
5	多角化②	製品ポートフォリオ・マネジメント
6	国際化	国際企業戦略と OLI フレームワーク
7	参入	内部成長，M&A，提携
8	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム
9	寡占の企業間競争①	同質財市場
10	寡占の企業間競争②	製品差別化
11	戦略的行動①	相互依存関係と戦略的行動
12	戦略的行動②	略奪価格と柔道エコノミクス
13	戦略的行動③	設備投資におけるコミットメント
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的な数学の計算については講義でも簡単に解説を行うが，高校の数学の教科書を利用する等して，各自で十分な自習を行っておくこと。また、ミクロ経済学の基礎についても自習を行っておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】
浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社，2004 年）.
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣，2010 年）.
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社，2011 年）
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社，2010 年）.
丸山雅祥『経営の経済学［第 3 版］』（有斐閣，2017 年）.
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験による（85%）と平常点（15%）。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】
受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては，レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: vertical integration: vertical boundaries of the firm, horizontal boundaries of the firm: diversification, globalization, entry and exit, competitive strategy. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic. Students are expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

ECN300CA

特別講義（Basic Economics A）

KALENGA NGOY JOHN

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course provides an opportunity to acquire the introductory knowledge of economics.

【到達目標】
To understand and explain the behavior of the economic agents in the whole economy.To describe the basic economic theories of consumers and producers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】
Lecture, students-activity, and presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction. What is economics?
2	How to think like an economist?	Introductory concepts.
3	Economic activity	Economic systems
4	Economic activity	Diagram of economic flows. Press release presentation 1
5	Introduction to Microeconomic analysis	Basics of Microeconomics, Group presentations 1
6	Introduction to Macroeconomic analysis	Basics of Macroeconomics. Group debate 1
7	Relationship between production and consumption	Demand and supply analysis. Group presentation 2
8	Who get to consume what is produced?	Demand of consumer. Press release presentation 2
9	How should companies combine their production factors?	Production possibilities of the firm. Group debate 2
10	Why wages do not increase?	Labor market and wages. Group presentations 3
11	Why the market is important?	The role of market. Group debate 3
12	Why the price is high or cheap?	How price of goods is determined? Press release presentation 3
13	Why money is important in economy?	Banking and money. Group debate 3
14	What are the world largest economies?	Future of global economy. Group presentations 4. Final report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading materials and preparing group presentations

【テキスト（教科書）】
Tony Cleaver, Economics: The Basics, New York: Routledge, 2014
Thomas Sowell and Tom Weiner, Basic Economics 4th Ed: A Common Sense Guide to the Economy, Blackstone Audio, Inc., 2010.
The textbooks are not required because I will provide the handouts every week.

【参考書】
Cleaver, T. (2014), Economics: The Basics, New York: Routledge.
Hazlitt, H. (2010), Economics in One Lesson: The Shortest and Surest Way to Understand Basic Economics, Basic Books.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 20%; Press release assignments: 10%; Group activities and presentations in class: 30 %; Final report: 40%.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
Upon the completion of this course, students will be able to describe and analyze the rational behavior of households, firms, and government in economy.

ECN300CA

特別講義（Basic Economics B）

KALENGA NGOY JOHN

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course provides an opportunity to acquire the introductory knowledge of economics.

【到達目標】
To describe the basic economic theories of households and firms. To explain the rational behavior of consumers, producers, and government.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】
Lecture, student-activity, and presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction. What is economics?
2	How to think like an economist?	Introductory concepts
3	Economic activity 1	Economic systems
4	Economic activity 2	Demand and supply analysis. Press release presentation 1
5	Efficiency of production factors	Elasticity of demand and supply. Group presentations 1
6	Market economy	The role of the market. Group debate 1
7	Relationship between countries	International trade. Group presentation 2
8	Relationship between countries	Income Inequality. Press release presentation 2
9	The role of government in economy	Negative and positive externalities. Group debate 2
10	Government intervention	Welfare and public goods. Group presentations 3
11	Government intervention	The tragedy of commons. Press release presentation 3
12	Types of markets	Perfect competition. Group debate 3
13	Types of market 2	Monopoly. Group presentations 4
14	Final evaluation	Concluding remarks. Final report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading materials and preparation of group presentations

【テキスト（教科書）】
Tony Cleaver, Economics: The Basics, New York, Routledge, 2014
Thomas Sowell and Tom Weiner, Basic Economics 4th Ed: A Common Sense Guide to the Economy, Blackstone Audio, Inc., 2010.

【参考書】
Cleaver, T. (2014), Economics: The Basics, New York, Routledge, 2014.
Hazlitt, H. (2010), Economics in One Lesson: The Shortest and Surest Way to Understand Basic Economics, Basic Books.
I will provide the handouts every week in class.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 20%; Press release assignments: 10%; Group activities and presentations in class: 30 %; Final report: 40%.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
Upon the completion of this course, students will be able to describe the basic economic theories of households and firms. Also, to explain the rational behavior of consumers, producers, and government at both microeconomic and macroeconomic levels.

ECN300CA

特別講義 （寄付講座　証券市場論）

大和証券株式会社

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の 3 点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。
①金融商品市場の機能と役割を理解する。
②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
③ M ＆ A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】
株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
日本の金融システムは、政府管理下での「秩序優先システム」から、市場という公平な場で評価を受ける「市場型システム」へと、大きくその姿を変えた。資金の調達・運用手法が高度化し、経営戦略としての M&A も目新しいものではない。また、投資対象の広がりとともに、多様な金融商品が開発され、そのリスク管理が問われている。
一方、金融商品取引法の施行にあるように、公正な「市場システム」の維持と投資家保護が金融に携わる者の大きな課題である。
本講義を通して、社会人予備軍でもある学生の皆様に、経済の根幹を支える金融システムとその重要性のみならず、経済を考えるヒントを伝えられれば幸いである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第 2 回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第 3 回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第 4 回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第 5 回	株式市場①	株式の種類
第 6 回	株式市場②	株価の形成要因
第 7 回	債券市場①	債券のキーワード
第 8 回	債券市場②	債券の利回り
第 9 回	投資信託	投資信託の特徴
第 10 回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第 11 回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第 12 回	M＆A	最近の事例紹介
第 13 回	証券関連規制と証券会社総括	証券関連規制の枠組み
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の準備学習については特になし。講義で使用するレジュメと小テストを復習することにより、金融知識が身につくはずであり、新聞、ニュースを自分なりの視点から読み解くよう意識する。

【テキスト（教科書）】
各回講義用のレジュメを配布する。

【参考書】
必要に応じて参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】
予習復習をあまりしておらず、授業のみで完結しているという意見が多かったため、経済を読み解く上で参考となるような文献の案内を行っていきたい。

【その他の重要事項】
現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline and objectives】
This lecture is the basic course on financial products. Taking the following three points into consideration, we will analyze the upcoming role of the financial products on the market.
1.To understand the function and role of the financial products on the market.
2.To learn about main products such as equity, bond, and investment trust.
3.To understand the current trend of the market such as M&A.
We will invite experts who have understanding of financial market as instructors. The lecture will not only cover the key logics of financial market, but also deal with the realistic topics that you face every day.

ECN300CA

特別講義（現代中国の経済政策）

サブタイトル：Chinese modern economic policy

Oliynyk Oleh

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Over 40 years of policy of reform and openness, China has achieved great success, has become the 2nd economy in the world, the largest producer of goods, and it occupies the second place in the world in terms of foreign trade. Over the years of reform, China has transformed from a country that copies technology into a leader in innovative development. The course will consider the success factors of economic development of Chine.

【到達目標】
1)To study the results of policy of reform and openness.
2)To identify the driving force of successful economic development of China.
3)To determine the new normal of current economic policy of China.
4)To acquire skills in analyzing the economic policy.
5)To enhance the ability to assess the economic policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】
Lecture, presentation, quizzes, in-class activities, discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course objectives and expectations of China modern economic policy.
2	Results of 40 years' economic reform of China	Study the results of 40 years' economic development of China
3	Foreign economic policy of China into foreign markets	The proactive foreign economic policy of China provides the accumulation of currency reserves and entrance into foreign markets.
4	Banking system of China	Reform of Banking system of China stipulated the economic development of the country.
5	Cross-border investments of China	Through cross-border investments China has strengthened its positions at outsides markets.
6	Equality and Sustainability: China's main targets in modern economic model	The key for China in modern economic model is to put the issue of equal distribution at an outstanding position in its economic and social development.
7	The new normality of current China economic policy	China has changed its economic development from the export and investment-led growth to qualitative development and more moderate development.
8	Building a moderately prosperous society	Achieving "moderate prosperity" is China's goal in the 13th Five-year Plan.
9	Consumption-led growth in China	China transformed its economic model by expanding domestic demand, pulling up consumption towards a consumption-led growth.
10	Speeding up transition and reform in key field of public service	Speeding up the construction of basic public service system will push forward the consumption-led social transformation.
11	Government transition towards consumption-led growth	The main challenge in the economic transition towards consumption-led growth is the current tendency of growth doctrine government.
12	"One belt, one road of China" Global initiatives of China	In 2013 China initiated the new initiative in order to intensify the win-win cooperation between the countries along the route of initiative.
13	Creating innovative, scientific and technical state	Chine plans to become a leading innovating state.
14	Presentation	Student presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Presentation.

【テキスト（教科書）】
Some Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】
To be supplied later.

【成績評価の方法と基準】
In-class activities 40%
Quizzes 30%
presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
n/a

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentation.

【Outline and objectives】
Over 40 years of policy of reform and openness, China has achieved great success, has become the 2nd economy in the world, the largest producer of goods, and it occupies the second place in the world in terms of foreign trade. Over the years of reform, China has transformed from a country that copies technology into a leader in innovative development. The course will consider the success factors of economic development of Chine.

ECN300CA

特別講義（中国とアメリカの戦略比較分析）

サブタイトル：Comparative analysis of China-US strategies

Oliynyk Oleh

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The importance of the role of the Asia-Pacific region has been evaluated and recognized by the leading countries of the world, the US and China, which have traditionally played an important role in the development of this region. Both countries have deep economic roots and interests in this region and they want to preserve their interest for a long period of time. Course is devoted to reveal the China-US strategy on integration processes in the Asia-Pacific region.

【到達目標】
1) To study the integration process in Asia-Pacific.
2) To identify the strategic interests of China and USA in Asia-Pacific.
3) To determine the USA approaches to Asia-Pacific.
4) To study China's vision and strategy towards Asia-Pacific.
5) To provide students with the tolls to analyses the China and USA policy in Asia-Pacific.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】
Lecture, presentation, quizzes, in-class activities, discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course objectives and expectations of China modern economic policy.
2	Historic preconditions of integration process in Asia-Pacific	Study the preconditions and integration process in Asia-Pacific.
3	USA and ASIA-Pacific integration	Find out the approaches and vision of USA administration towards integration in Asia-Pacific.
4	ASEAN role in Asia-Pacific	After liberation Asia-Pacific countries determined to unite against communism and colonialism.
5	China policy toward ASEAN	China declared strategic interest to ASEAN and conduct policy on close cooperation with ASEAN.
6	"One belt, one road initiative" in South-East Asia	Consider China-Southeast Asia Infrastructure Connectivity and Construction.
7	USA and ASEAN	USA see ASEAN as sphere of its interest.
8	Regional Comprehensive Economic Partnership	China transformed its economic model by expanding domestic demand, pulling up consumption towards a consumption-led growth.
9	APEC as economic model of regional integration in Asia-Pacific	APEC, is the premier forum for facilitating economic growth, cooperation, trade and investment in the Asia-Pacific region.
10	APEC as platform of shared future for Asia-Pacific	APEC declaration for creating new opportunities.
11	Trans-Pacific Partnership	The Trans-Pacific Partnership is a free-trade agreement between the United States and 11 other countries that border the Pacific Ocean.
12	Indo-Pacific region	Trump initiated Indo-Pacific strategy to rejoin the TPP.
13	Japan approach and vision towards integration in Asia-Pacific region	Japan used to play important role in Asia-Pacific regions.
14	Presentations	Student presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly readings to be assigned before each class. Presentation.

【テキスト（教科書）】
Some Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】
To be supplied later.

【成績評価の方法と基準】
In-class activities 40%
Quizzes 30%
presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
n/a

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentation.

【Outline and objectives】
The importance of the role of the Asia-Pacific region has been evaluated and recognized by the leading countries of the world, the US and China, which have traditionally played an important role in the development of this region. Both countries have deep economic roots and interests in this region and they want to preserve their interest for a long period of time. Course is devoted to reveal the China-US strategy on integration processes in the Asia-Pacific region.

ECN300CA

特別講義（映画とドラマの中の経済学）

宮﨑　憲治

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学は、勉強すればすぐ気づくのですが、人間の行動についての学問です。日常生活の不思議を経済学で説明できるときの楽しみを学生に伝えようとしているのですが、なかなかうまくいきません。一つの理由に、学生は人生経験が相対的に乏しいからかもしれません。人生経験の乏しさを補うためには、読書は非常に有効です。読書によって、通常では体験できないことを体験できるようになります。また、映像の力を借りて漫画や映画も有効でしょう。この講義では、映画のなかで経済学の概念が用いられているシーンを紹介します。なお、受講生に予備知識をもとめませんので、これまで経済学の科目の受講を避け続けてきた方も歓迎します。

【到達目標】
この授業をとれば, 日常生活の観察から経済学的な解釈ができるようになる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な経済用語を解説し, それが映画やドラマでどのように使われているかを紹介する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サンクコスト	ロード・オブ・ザ・リング (2002) などをつかってサンクコストを説明する.
2	機会費用 1	天使のくれた時間 (2001) などをつかって機会費用を説明する
3	機会費用 2	マッドマックス怒りのデスロード (2015) などをつかって機会費用を説明する
4	比較優位	ベイブ (1996) などをつかって比較優位を説明する
5	交易からの利得	ジョゼと虎と魚たち (2003) などをつかって交易からの利得を説明する.
6	限界効用逓減の法則	架空 OL 日記 (2017) などをつかって限界効用逓減の法則を説明する.
7	完全競争市場	未来は今 (1995) などをつかって完全競争市場を説明する.
8	不完全競争市場 1: 独占市場	フォレスト・ガンプ (1995) などをつかって独占市場を説明する.
9	不完全競争市場 2: 独占的競争市場	アメリカンギャングスター (2008) などをつかって独占的競争市場を説明する.
10	インセンティブ	レザボア・ドッグス (1993) などを使ってインセンティブを説明する.
11	モラルハザード	純喫茶磯辺 (2008) などをつかってモラルハザードを説明する.
12	アドバースセレクション	ディボース・ショウ (2004) などをつかってアドバースセレクションを説明する.
13	ゲーム理論	ダークナイト (2008) などをつかってゲーム理論を説明する.
14	環境経済学	エリン・ブロコビッチ (2000) などをつかって環境経済学を説明する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前か後で紹介した映画やドラマをレンタルするかストリーミング視聴して観ておいてください.

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
井堀利宏 (2018)「大学 4 年間の経済学が 10 時間でざっと学べる」角川文庫
吉本佳生 (2009)「出社が楽しい経済学」NHK 出版

【成績評価の方法と基準】
出席 50 %・レポート 50 %で評価する. 日常生活や映画や漫画や小説などのなかから経済学が用いられている箇所を見つけ出し解説するレポートを課す.

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
社会人になると忙しくなるので卒業までにたくさんの映画を観てください.

【Outline and objectives】
When you take this course, you can use movie and TV dramas to explain basic Economics.

ECN300CA

特別講義（ハワイの歴史と文化）

山本　真鳥

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
18 世紀終盤にクック船長に「発見」されたハワイ諸島は、ポリネシア系初期王朝の支配する世界であった。その後西欧世界の科学技術や経済社会制度、宗教をとりいれて先住民の国家を形成するものの、カメハメハ王国樹立からおよそ 100 年後の 19 世紀末には、アメリカに併合されてしまう。ハワイの砂糖産業開発のために複数社会から導入した移民労働者集団の存在はハワイに多民族社会をもたらした。ハワイは植民地主義、人種差別主義、多文化主義、先住民問題など多くの世界史的課題を抱えると共に、砂糖産業の代替としての観光産業の隆盛をもって今日に至っているが、その歴史の筋道と共に文化の形成について学ぶ。

【到達目標】
1)　異文化や異なる社会を知る。
2)　土着王国、植民地主義、プランテーション・システム、年季契約労働、人種差別、多文化主義、先住民運動、観光開発などのキーワードに沿ってハワイ史を学び、考察する。
3)　近代世界システムに 18 世紀以来組み込まれた世界の周辺領域の典型例としてハワイの歴史を学ぶことによって、近代の意味について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に基づいて講義を行い、授業毎にリアクション・ペーパーを書いてもらう。授業の最初に前に授業でのリアクションに対する回答・コメントを述べ、必要な場合はディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近代世界システムと周辺地域
第 2 回	オーストロネシア語族の移住とポリネシア文化の形成	ポリネシアの基層文化
第 3 回	ハワイ人の移住とハワイ文化	言語、王権、カプー、神話と儀礼
第 4 回	キャプテン・クックのハワイ訪問	西欧との接触
第 5 回	カメハメハのハワイ征服	接触による社会変動と王国の樹立
第 6 回	王国の形成と経済開発	白檀交易、捕鯨船寄港地、砂糖産業
第 7 回	プランテーション経済と移民労働者	ハワイ社会の階層化
第 8 回	王国の簒奪と合衆国併合	アメリカ人市民とハワイ王族の対立
第 9 回	人種主義と労働組合運動	白人支配下のハワイ
第 10 回	観光開発とハワイのイメージ	戦後の観光開発
第 11 回	先住民運動	ハワイアン・ルネッサンス、文芸の復興
第 12 回	ハワイ社会の現在	多文化社会、カラーブラインド
第 13 回	ハワイ文化の現在	東洋と西洋の出会い、根付く多文化
第 14 回	授業内試験	詳細は後日指示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、次の授業の内容と教科書の関連部分を予告するので、その部分を読んでくること。

【テキスト（教科書）】
山本真鳥・山田亨編『ハワイを知るための 60 章』明石書店

【参考書】
山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社。マーシャル・サーリンズ著山本真鳥訳『歴史の島々』法政大学出版局。山中速人『ハワイ』岩波新書。矢口祐人『ハワイ王国――カメハメハからクヒオまで』イカロス出版。後藤明他編『ハワイ研究への招待――フィールドワークから見える新しいハワイ像』関西学院大学出版会。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー 30%、ディスカッション等の参加 20%、試験 50%

【学生の意見等からの気づき】
初めての授業なのでなし。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じて、資料などを配付する。

【Outline and objectives】
The Hawaiian Islands "discovered" by Captain Cook in the later half of the 18th century were the Polynesian stratified polities. After the contact, Kamehameha integrated the islands into an kingdom, although Hawaiian econmy were so much dependent on sugar industry led by American settlers who later overthrew the native Kingdom and realized the Annexation of Hawaii to the US. There were other ethnic groups came to work in plantations and thus Hawaii became multi-racial and multi-ethnic society. Hawaii experienced worldly issues such as colonialism, racism, interethnic problems and indigenous people's movement in its its history. We will examine these issues in order to understand the present Hawaiian culture and society.

ECN300CA

特別講義（Mathematics in Games A）

ROBERT M SINCLAIR

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Mathematics is not simply a collection of equations! It is a way of thinking. Clear mathematical thinking can help us to make good decisions. Many aspects of our working lives can be seen as games. If we can learn to use mathematical thinking in games, it can be very useful. We will play and analyse many types of games, including games of supply and demand.

【到達目標】
The goal is to learn about Mathematics without using equations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】
All students will be required to play games with other students, and to participate in class discussions. Class discussions will be held in a mixture of English and Japanese as appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Games of Strategy	A game with two heaps of tokens
2	Games of Strategy	Analysis of winning strategies
3	Games of Strategy	A game with three heaps of tokens
4	Games of Strategy	Methods of Analysis
5	Games of Strategy	Analysis of winning strategies
6	Games of Strategy	A linear board game
7	Games of Strategy	Reduction of one game into many
8	Games of Strategy	A game with many heaps of tokens
9	Games of Chance	Social structure and conflict
10	Games of Chance	Analysis of risks of conflict
11	Games of Chance	Discussion on the meaning of “winning”
12	Supply and Demand	A game with buyers and sellers
13	Supply and Demand	Analysis of possible outcomes
14	Supply and Demand	Final discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be regular homework assignments.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this class.

【参考書】
References will be provided in class as appropriate.

【成績評価の方法と基準】
Participation in game playing and discussions: 20%
Homework assignments: 80%

【学生の意見等からの気づき】
This class will be entirely discussion-based. Students will always be able to express themselves and state their opinions. Also, students will be able to request changes to the direction or content of the course.

【学生が準備すべき機器他】
It would be useful if students could bring small objects (such as buttons) for use in playing games, although pencil and paper will also suffice.

【Outline and objectives】
Mathematics is not simply a collection of equations! It is a way of thinking. Clear mathematical thinking can help us to make good decisions. Many aspects of our working lives can be seen as games. If we can learn to use mathematical thinking in games, it can be very useful. We will play and analyse many types of games, including games of supply and demand.

ECN300CA

特別講義（Mathematics in Games B）

ROBERT M SINCLAIR

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Games can teach us much about mathematics. We will investigate and discuss mathematical mysteries, including the meaning of numbers, by playing and analysing games their patterns.

【到達目標】
You will become able to understand some deep mathematical questions without using equations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】
Classes will be based upon game-playing and discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Mathematical Mysteries I	The hydra game
2	Mathematical Mysteries II	The game of life
3	Numbers in Games I	The game with three heaps of tokens
4	Numbers in Games II	A game of cutting red and blue lines
5	Numbers in Games III	A number for any position in the line-cutting game
6	Numbers in Games IV	Revisiting the game with three heaps of tokens
7	Chance and Numbers I	The meaning of probability
8	Chance and Numbers II	Probablities as numbers from repeated trials
9	Chance and Numbers III	Probabilities as degrees of belief
10	Chance and Numbers IV	A game of quality control in a factory
11	Chance and Numbers V	Student essay writing
12	Mysterious Patterns I	Quasicrystals
13	Mysterious Patterns II	Penrose tilings
14	Surreal numbers	Games can create all numbers! Discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be regular homework assignments and an essay.

【テキスト（教科書）】
You do not need to buy a textbook.

【参考書】
References will be provided as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Homework assignments: 70%
Essay: 20%
Participation in class discussions: 10%

【学生の意見等からの気づき】
Student will at all times have a chance to express themselves and to ask for changes in the style or content of the course. Active learning is most effective when all students can enjoy participating in class!

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring paper and a pencil to all classes.

【Outline and objectives】
Games can teach us much about mathematics. We will investigate and discuss mathematical mysteries, including the meaning of numbers, by playing and analysing games their patterns.

ECN300CA

特別講義（Big Data A）

ROBERT M SINCLAIR

開講時期：**春学期授業**/Spring　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We often hear about Big Data in the news, but it is not always clear what it is, or why it is important. The truth is that Big Data has the potential to change the way businesses and governments operate and even change our understanding of economics itself, but it also carries potential risks to our privacy. We will investigate these topics as well as the connection with A.I.

【到達目標】
To understand the benefits and risks of Big Data from the point of view of individuals in society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】
Active learning requires that all students participate in class in a very direct way. For this class, this will usually mean very open discussions. These discussions will be most enjoyable and valuable if all students take part, expressing their opinions and points of view. Students will be able to contribute in English or Japanese.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Big Data	What is “big” about Big Data?
2	Big Data	Some history of the use of Big Data
3	Privacy	Awareness of what data is collected about us
4	Privacy	How can Big Data be used to identify individuals?
5	Privacy	Student presentations on privacy issues
6	Patterns in Data	Patterns which are unavoidable
7	Patterns in Data	Benford’s Law
8	Patterns in Data	The argument for A.I.
9	Impact on Business	Targeting of advertisements, support and rewards
10	Impact on Business	Prediction of demand for new products
11	Impact on Business	Company data privacy and secrecy concerns
12	Debate	Student debate preparation, including choice of topic
13	Debate	Student debate
14	Student report writing	What are the limits of Big Data?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be occasional homework assignments.

【テキスト（教科書）】
No textbook is required.

【参考書】
References will be distributed in class as appropriate.

【成績評価の方法と基準】
Participation in debates and discussions: 20%
Homework assignments: 50%
Final report: 30%

【学生の意見等からの気づき】
All classes will be based around open discussion. Students will always be able to express their opinions, and also ask for changes. Furthermore, Big Data often appears in the news. It will be possible to discuss these news stories when they appear, and students are encouraged to bring such stories to the attention of the class.

【学生が準備すべき機器他】
No equipment is required. We will not cover technical or programming issues relating to Big Data in this course.

【Outline and objectives】
We often hear about Big Data in the news, but it is not always clear what it is, or why it is important. The truth is that Big Data has the potential to change the way businesses and governments operate and even change our understanding of economics itself, but it also carries potential risks to our privacy. We will investigate these topics as well as the connection with A.I.

ECN300CA

特別講義（Big Data B）

ROBERT M SINCLAIR

開講時期：**秋学期授業**/Fall　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The focus of this course will be Big Data in the near future. Topics will include medical uses of Big Data, biometric data, lifelogs and the problem of incorrect data.

【到達目標】
You will gain an understanding of the issues relating to Big Data in the world in which you will live and work after you have finished your studies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】
Active learning requires that all students participate in class in a very direct way. For this class, this will usually mean very open discussions. These discussions will be most enjoyable and valuable if all students take part, expressing their opinions and points of view.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Future I	Economic and legal reasons why we must consider the future of Big Data.
2	The Future II	Student essay writing.
3	Medical Data and DNA I	Introduction to medical data and genomic sequence data.
4	Medical Data and DNA II	Issues relating to ancestry and health.
5	Medical Data and DNA III	Use of Big Data in patient care.
6	False Data I	Sources and causes of false data.
7	False Data II	Consequences of false data for individuals.
8	False Data III	Erasure of false data.
9	Internet Data I	The concept of a lifelog. Identity theft.
10	Internet Data II	Storage or deletion of internet data.
11	Internet Data III	Ownership of internet data.
12	Biometric Data I	Measuring biometric data. The use of AI.
13	Biometric Data II	The use of biometric data for identification.
14	The Future of Big Data	Class discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be regular homework assignments and an essay to be written.

【テキスト（教科書）】
You do not need to buy a textbook.

【参考書】
References will be provided as required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 70%
Essay: 20%
Participation in class discussions: 10%

【学生の意見等からの気づき】
Every class will be discussion-based, and students will always have opportunities to express themselves. It is important that all students enjoy these discussions, so the course will be changed as necessary to ensure that everyone remains happily and actively involved. All students will be asked to write an essay in the second week. These essays will be used to make sure that topics of interest to the students will be included as much as possible in the course.

【Outline and objectives】
The focus of this course will be Big Data in the near future. Topics will include medical uses of Big Data, biometric data, lifelogs and the problem of incorrect data.

ECN200CA

財政学Ａ (市ヶ谷開講)

島澤　諭

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。
日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③世代間格差是正、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、市場の限界に対する政府の役割、租税が経済に与える影響などについて学習する。

【到達目標】
市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進める。最新の経済・財政情勢を踏まえながら、わが国財政が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学では何を学ぶか
第 2 回	政府の経済活動	政府の範囲、財政の基礎
第 3 回	日本の財政	財政法、経済財政諮問会議、財政制度等審議会
第 4 回	政府の大きさ１	大きな政府、小さな政府
第 5 回	政府の大きさ２	福祉レジーム論
第 6 回	租税理論	租税原則、租税の公平性、税の帰着
第 7 回	公共財（１）	市場メカニズム、消費者余剰、生産者余剰、総余剰
第 8 回	公共財（２）	市場の失敗、公共財、フリーラーダー
第 9 回	労働所得税	労働供給に対する影響
第 10 回	資本所得税	法人税の帰着
第 11 回	消費税	転嫁、最適課税、ラムゼイルール
第 12 回	財政政策と投票（１）	中位投票者定理
第 13 回	財政政策と投票（２）	オストロゴルスキーのパラドクス、投票のパラドクス
第 14 回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースを TV や新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。レジュメと参考資料を配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（１）井堀利宏『財政学（第４版）』新世社
（２）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
（３）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（４）小黒一正等『財政学 15 講』新世社
（５）島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）と筆記テストによる期末試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の理解を最優先し、授業の内容を柔軟に考えていきます。

【その他の重要事項】
初回の授業には出席すること
入門程度のミクロ経済学を習得していることが望ましいが、必須ではない

【Outline and objectives】
In this course, we will learn about the role of the government in the market-oriented economy after taking into consideration the basic theory on the economic activities of the government.

ECN200CA

財政学Ｂ (市ヶ谷開講)

島澤　諭

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。
財政学Ａの内容の理解を前提とした上で、政府の経済活動の政治経済学的な側面について概説する。主な内容としては、財政金融政策、所得再分配政策、世代間格差である。

【到達目標】
本講義の到達目標は、①わが国の財政に関するこれまでの歴史や現状、特徴や問題点について理解を深める、②税制、社会保障、地方財政に渡る包括的・体系的な視点を身につける、③わが国の財政を理解するための基本的な知識について学習することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進める。最新の経済・財政情勢を踏まえながら、わが国の財政が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	日本財政の姿
第 2 回	財政政策の効果１	有効需要の原理、乗数効果
第 3 回	財政政策の効果２	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 4 回	財政政策の効果３	クラウディングアウト
第 5 回	所得再分配政策その１	功利主義、マックスミン原理
第 6 回	所得再分配政策その２	所得再分配、社会的厚生、医療、生活保護
第 7 回	公的年金	ライフサイクル仮説、積立方式、賦課方式
第 8 回	政府の予算制約	異時点間の政府の予算制約式
第 9 回	公債の負担その１	財政法、建設公債、特例公債
第 10 回	公債の負担その２	新正統派、中立命題
第 11 回	財政の持続可能性	財政破綻、公債管理政策
第 12 回	世代間不平等（１）	世代会計と世代間格差
第 13 回	世代間不平等（２）	シルバーデモクラシー
第 14 回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースを TV や新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。レジュメと参考資料を配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（１）井堀利宏『財政学（第４版）』新世社
（２）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
（３）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（４）小黒一正等『財政学 15 講』新世社
（５）島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）、筆記テストによる期末試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の理解を最優先し、授業の内容を柔軟に考えていきます。

【その他の重要事項】
初回の授業には出席すること
入門レベルのマクロ経済学の知識を習得していることが望ましいが、必須ではない

【Outline and objectives】
In this course, we will learn about the role of the government in the market-oriented economy after taking into consideration the basic theory on the economic activities of the government.

ECN200CA

経済政策論 A (市ヶ谷開講)

濱秋　純哉

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府は，ダムや道路の建設，教育サービスの提供，及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で，このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して，ミクロ経済学の余剰分析の手法に基づき考察を加える。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，ミクロ経済学の考え方に基づき，外部性の問題，望ましい公共財の供給，及び税制の設計について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け，受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	経済学の考え方	「機会費用」,「限界原理」,「インセンティブ」等の概念
3	市場の働き	完全競争市場における需要曲線と供給曲線
4	市場の働き	消費者余剰と生産者余剰の概念，社会的余剰と市場の効率性
5	市場の働き	弾力性の概念，価格弾力性
6	企業行動と生産者余剰	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰	総収入と可変費用の差としての生産者余剰
9	外部性	外部性の概念
10	外部性	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性	規制，ピグー税，及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財	排除可能性と消費の競合性，公共財の供給とフリーライダー問題
13	公共財	非競合財の価格設定，公共財の投資基準，共有地の悲劇の解決策
14	税制の設計	課税の死荷重

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
八田達夫，2008，『ミクロ経済学 I 』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー，2013，『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 3 版]』東洋経済新報社

【参考書】
小川光・西森晃，2015，『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）と 3 回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業内容に即した復習問題を行う。また，経済学の抽象的な概念の説明の際には，必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】
Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

ECN200CA

経済政策論 B (市ヶ谷開講)

濱秋　純哉

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府や中央銀行は，財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが，どのような目的で，さらには，どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して，マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また，GDP，物価指数（消費者物価指数と GDP デフレーター），失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題，及び近年の雇用問題についても検討を行う。

【到達目標】
この講義では，受講者各人が経済学の考え方に基づいて，現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には，各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること，及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら，講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け，受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題	摩擦的失業への政策的対処，最低賃金引き上げの影響
6	雇用問題	日本の失業の特徴
7	雇用問題	若年者の雇用問題，「世代効果」への政策的対処
8	IS-LM モデルの構築	古典派とケインジアン
9	IS-LM モデルの構築	ケインジアンの交差図，乗数効果，IS 曲線の導出
10	IS-LM モデルの構築	貨幣量の測定とコントロール，LM 曲線の導出
11	IS-LM モデルの応用	財政政策の効果とクラウディング・アウト
12	IS-LM モデルの応用	金融政策の効果
13	IS-LM モデルの応用	「流動性の罠」の下での財政政策と金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用	非伝統的金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を履修するにあたり，経済政策論 A を履修済みのことが望ましい。また，授業の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
N・グレゴリー・マンキュー，2017，『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】
福田慎一・照山博司，2016，『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣
小林照義，2015，『金融政策』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）と 3 回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように，授業内容に即した復習問題を行う。

【Outline and objectives】
Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

ECN200CA

国際経済論Ａ (市ヶ谷開講)

田村　晶子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際貿易論の基礎理論を勉強します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、ＦＴＡやＥＰＡなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】
貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。実際の貿易データにより、理論の現実への妥当性を推論できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを自分で書き込む形の空白のある配布資料を配布します。授業支援システムを利用して、12 回の練習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	グローバル経済の企業	輸出の判断と多国籍企業
第 8 回	貿易政策の基礎理論①	輸入関税の効果、費用と便益
第 9 回	貿易政策の基礎理論②	輸出補助金の効果
第 10 回	貿易政策の基礎理論③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第 11 回	貿易政策の政治経済学	自由な貿易をめぐる議論
第 12 回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第 13 回	地域貿易協定の効果	ＦＴＡが与える影響
第 14 回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで出される 12 回の練習問題を提出する。参考文献を授業前に読んで準備学習をし、授業後はパワーポイント配付資料をもとに復習をする。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕上:貿易編』丸善出版、2017 年
清田耕造・神事直人著『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】
12 回の練習問題（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイント進度などを気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら、授業を進めるよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements or Economic Partnership Agreements.

ECN200CA

国際経済論Ｂ (市ヶ谷開講)

田村　晶子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】
国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。授業支援システムを利用して、12 回の練習問題を解いてもらい、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表の項目	日本の国際収支表の見方
第 2 回	国際収支の記入方法	国際収支表の記入例
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第 6 回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第 7 回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第 8 回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第 9 回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第 10 回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第 11 回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第 12 回	為替とマクロ経済	マクロ経済政策の効果
第 13 回	最適通貨圏の理論	固定為替レートの範囲
第 14 回	通貨危機のモデル	第 1 世代、第 2 世代モデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムで出される 12 回の練習問題を提出する。参考文献を授業前に読んで準備学習を行い、授業後に配付資料の基づき復習をして、授業の理解を深める。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第 10 版〕下:金融編』丸善出版、2017 年
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】
12 回の練習問題（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントと授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】
Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

LIT100CA

日本文学

池田　雄一

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「文豪による怪奇小説」
◉この授業では「文豪による怪奇小説」をあつかう。夏目漱石、谷崎潤一郎、太宰治といった、いわゆる文豪は、多くの怪奇小説を書いている。この授業では、そうした作品から、現役の小説家によるものまで、様々なタイプの怪奇小説をあつかう。
◉近代文学は、ともすれば道徳的に読まれしまったり、「近代的自我」というような芸術本来のあり方からは不本意な観点から読まれることがある。怪奇小説を扱うことによって、まずはそのような読み方から自由になることをめざす。
◉また怪奇小説は、読者を怖がらせるという目的が明確なので、そのためのプロット構成もまた明確である。プロットという概念を学ぶためにも、怪奇小説は適切なのである。
◉さらには、恐怖という感情が快感に転ずるのは何故かという哲学的問題にも、議論を広げることができる。
◉以上のことを踏まえて、授業を行う予定である。

【到達目標】
◉最終的に、すぐれたレポートを書くことが本授業の目的である。
◉小説の読解には、唯一の正解となる読みは存在しない。したがって、レポートでは正しい内容が書かれているかではなく、レポートそのものの説得力が問われることになる。そのためのツールとして文学理論、美学用語などを、授業では紹介する予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
◉授業前に、作品をあらかじめ読んできてもらう。これができることが、授業参加の条件である。作品はどれも短編なので必ず読んできてください。
◉授業では、作品に関するするキーワードを所定の用紙、もしくはウェブサイトに書いてもらう。
◉そのなかからいくつかをピックアップし、プロジェクターで紹介したうえで、書いた参加者にインタビューするので、参加者はその理由を説明する。
◉最後に、教員が作品についての解説を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の手順、成績判定の基準等の説明
第 2 回	作品研究	宮沢賢治「毒もみの好きな署長さん」
第 3 回	作品研究	星新一「不満」
第 4 回	作品研究	小泉八雲「茶碗の中」
第 5 回	映像研究	村山槐多「悪魔の舌」
第 6 回	作品研究	小林正樹監督『怪談』等
第 7 回	作品研究	夏目漱石「夢十夜」
第 8 回	作品研究	芥川龍之介「首が落ちた話」
第 9 回	映像研究	ヒッチコック監督『鳥』等
第 10 回	作品研究	江戸川乱歩「人間椅子」
第 11 回	作品研究	谷崎潤一郎「人面疽」
第 12 回	作品研究	太宰治「魚服記」
第 13 回	作品研究	村田沙耶香「素敵な素材」
第 14 回	まとめ	レポートに向けて、授業内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◉各授業の前に作品を読んでおくことが、参加の条件となる。

【テキスト（教科書）】
◉青空文庫で読めるものは、各自ダウンロードして読んできてください。それ以外のものはコピーで配布します。

【参考書】
『日本の近代文学』中村光夫、岩波新書
購入する必要はないが、読んでおくと授業の補完になる。

【成績評価の方法と基準】
◉成績評価の材料は、ふたつのレポートとする。１回目が 50 %、２回目が 50 %の割合とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
◉スマートフォン。場合によっては、授業支援システムを使用する。
◉詳しくは授業時に説明します。

【Outline and objectives】
In this lesson, I will deal with "Gothic novel by Japanese famous Writer". Soseki Natsume, Junichiro Tanizaki, Osamu Dazai, so-called writer writes many strange novels. In this lesson, we deal with various types of strange novels, from such works to those by active novelists.
Modern literature is sometimes read morally or may be read from an unwilling point of view from the original way of art such as "modern ego". By dealing with gothic novels, we aim first to be free from such reading.
Also, in a gothic novel, the purpose of frightening the reader is clear, so the plot composition for that is also clear. A gothic novel is also appropriate to learn the concept of plotting.
Furthermore, we can expand the discussion to the philosophical problem of why the emotion of fear turns into pleasure.
Based on the above, we plan to conduct classes.

ART100CB

芸術

坂口　周輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
普段接することの少ない芸術（アート）を身近なものとし、芸術が決して浮世離れしたものではなく、むしろ社会と密接に関わっていることを見ていくことが本授業の目的となります。西洋美術を中心に様々な芸術作品を見ていくことによって、芸術に対する感性を養っていきましょう。そして「芸術とは何か」を一緒に考えていきましょう。

【到達目標】
「ルネサンス」「ルーヴル」って何だっけ？「マネ」と「モネ」がごっちゃ…といったような恥ずかしい目にあわないよう芸術に関する基本的な教養を身につけていきます。さらに、芸術作品をめぐる印象や解釈を言葉にしていくための論理的能力を高めていくことも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回いくつかの芸術作品をスクリーン上で紹介しながら講義をするというのが基本的な授業形式になります。できるだけみなさんの発言を求めていきたいと思っています。毎回授業の最後にコメントを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	芸術と美	ヴィーナスの表象。
2	ギリシャ神話と芸術	パリスの審判と芸術。
3	芸術の発生	原始美術。ラスコーの壁画など。
4	芸術論を読む	原始美術をめぐるゴンブリッチとバタイユの見解。
5	大聖堂を訪ねる	ゴシック芸術とは何か。ゴシック芸術とキリスト教の関係。
6	ルネサンスの時代における芸術	ルネサンスとはどのような時代か。ネオプラトニズムとは。
7	ルネサンスの時代における芸術（2）	ボッティチェッリの〈春〉を見る。
8	光と闇の芸術	バロック芸術について。カラヴァッジョからレンブラントへ。
9	近代の始まり	英雄・国家と結びついた芸術：新古典主義。
10	モデルニテとしての芸術	新古典主義からロマン派へ。マネは何において革新的なのか。
11	印象派の誕生	ルノワールやモネといった印象派はなぜ日本人に人気があるのか？
12	20 世紀の芸術	デュシャン、ニューマン、ウォーホルなどの作品を見る。
13	現代アートとわれわれ	現在生きるアーティストの作品とは？21 世紀と芸術の関係。
14	学期末試験	授業で学んだことを確認するためのテスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いろいろな時代の芸術作品を見ていくことになるので、混乱しないように授業後のおさらいを欠かさないようにしましょう。また芸術に興味を持つことが大事です。画集をめくったり、美術館に行ったりして、できるだけ芸術作品に接しましょう。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）と学期末試験（60 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
情報量が多いときは、授業のスピードをゆるめ、学生がしっかりと理解できる時間を設けたいと思います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to get familiar with art and to see how art and society intertwine.
I offer you to cultivate your sensitivity to art by looking at various art works mainly of Western art. Let's think about "what is art?" together.

LIT100CA

世界の文学 A

田村　理香

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
おもにアメリカの文学作品を読み、人間の心の機微に触れる。知識や感性、想像力を働かせながら、人間について、自分について、社会について深く考える。

【到達目標】
1. テキストを正確に読む力を高める。
2. 知性や感性を豊かにする。
3. 人間、歴史、文化、社会、宗教などへの知的好奇心を養う。
4. 考えや感想を的確な文章で表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心に行います。
予習として「リーディングリスト」の作品を読んでから授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容や進め方についての説明 What's American Literature?
第 2 回	植民地から独立へ 1	Benjamin Franklin
第 3 回	植民地から独立へ 2	Jonathan Edwards, Michel Guillaume Jean de Crèvecœur 独立宣言
第 4 回	「初めての～」がつく文筆家　Edgar Allan Poe	Edgar Allan Poe
第 5 回	American Renaissance 1	Transcendentalism, Ralph Waldo Emerson, Henry David Thoreau
第 6 回	American Renaissance 2	Nathaniel Hawthorne
第 7 回	American Renaissance 3	Herman Melville
第 8 回	American Renaissance 4	Walt Whitman Emily Dickenson
第 9 回	Abolitionist movement	Frederick Douglass, Harriet Beecher Stowe
第 10 回	Rise of Realism 1	Mark Twain
第 11 回	Rise of Realism 2	Henry James
第 12 回	Rise of Realism 3	Henry James and Pragmatism
第 13 回	Rise of Naturalism	Muckrakers
第 14 回	まとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う本（リーディングリスト参照）を事前に読んで講義に出席してください。作品にもよりますが、予習時間は十分に確保してください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。リーディングリストに挙げた作品を読んで授業に臨んでください。授業では毎回プリントを配布します。

【参考書】
授業初回に配布するリーディングリストに明記するほか、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　100%
基礎知識を問う問題のほか、感想の執筆。入念な準備が求められます。

【学生の意見等からの気づき】
リーディングリストの作品を読む時間を十分に取ること、講義に集中すること。それにより、深く読み、感じたり考えたりすることが可能になります。

【その他の重要事項】
誠実に作品に向き合ってください。
授業中は授業に集中してください。

【Outline and objectives】
Reading American literary works, students think about people, society and the students/readers themselves.

LIT100CA

世界の文学Ｂ

田村　理香

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
おもにアメリカの文学作品を読み、人間の心の機微に触れる。知識や感性、想像力を働かせながら、人間について、自分について、社会について深く考える。

【到達目標】
1. テキストを正確に読む力を高める。
2. 知性や感性を豊かにする。
3. 人間、歴史、文化、社会、宗教などへの知的好奇心を養う。
4. 考えや感想を的確な文章で表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心に行います。
予習として「リーディングリスト」の作品を読んでから授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Development of Realism	Naturalism Stephen Crane Frank Norris Theodore Dreiser
第 2 回	Development of Realism	Sherwood Anderson Sinclair Lewis
第 3 回	Modernism 1	What's Modernism?　Lost Generation　Ernest Hemingway
第 4 回	Modernism 2	Lost Generation F. Scott Fitzgerald
第 5 回	Modernism 3	Lost Generation+ α William Faulkner
第 6 回	The Thirties 1	John Steinbeck Erskine Caldwell
第 7 回	The Thirties 2	Richard Wright
第 8 回	Post World War II period	Norman Mailer Truman Capote
第 9 回	The Fifties	J. D. Salinger
第 10 回	Jewish writers	Bernard Malamud and other Jewish writers
第 11 回	Beyond America	Vladimir Nabokov
第 12 回	Contemporary Writers	Toni Morrison
第 13 回	Contemporary Writers	Paul Auster
第 14 回	まとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う本（リーディングリスト参照）を事前に読んで講義に出席してください。作品にもよりますが、予習時間は十分に確保してください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。リーディングリストに挙げた作品を読んで授業に臨んでください。授業では毎回プリントを配布します。

【参考書】
授業初回に配布するリーディングリストに明記するほか、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　100%
基礎知識を問う問題のほか、感想の執筆。入念な準備が求められます。

【学生の意見等からの気づき】
リーディングリストの作品を読む時間を十分に取ること、講義に集中すること。それにより、深く読み、感じたり考えたりすることが可能になります

【その他の重要事項】
誠実に作品に向き合ってください。
授業中は授業に集中してください。

【Outline and objectives】
Reading American literary works, students think about people, society and the students/readers themselves.

PHL100CA

倫理学Ａ

松本　力

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学の基本的な考え方である功利主義と義務論を、それらの難点をも含めて学ぶことが第一の目的である。また、功利主義や義務論に代わる、さまざまな考え方（自由至上主義、ロールズの『正義論』、目的論的思考など）そのうえで、功利主義や義務論が、どのようなかたちで倫理的問題として私たちに突きつけられているのかを理解する。

【到達目標】
倫理学的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
配布資料を読み上げる講義形式での授業となる。また、毎回、授業内容確認アンケートを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とはどのような学問か？	授業の案内と概要
2	功利主義	最大多数の最大幸福、快楽計算について。
3	功利主義の問題点	個人の人権を無視。幸福の多様性。
4	義務論	カントの義務論（自由、自律、定言命法）について。
5	義務論の問題点	義務を守るだけで幸福になれるのか？
6	臓器移植の問題	臓器移植に対するさまざまな考えのなかに、功利主義と義務論を読み取る。
7	自由至上主義	社会と個人の関係について、無制限の自由が認められるかどうかを考える。
8	ロールズ『正義論』	社会的平等の実現可能性について。
9	目的論的思考	功利主義と義務論に代わるアリストテレスの目的論的思考を理解する。
10	プラトン『ゴルギアス』	プラトンの『ゴルギアス』から、目的論的思考についての理解を深める。
11	市場と道徳	徴兵制、代理母といった問題について考える。
12	忠誠のジレンマ	過去の戦争に対する責任の問題、道徳的中立性について考える。
13	正義と共通善	サンデルの正義についての考えを理解する。
14	試験	授業内容の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の配付資料の要点をまとめ、疑問点などを確認し、疑問が解消しない場合には、次回の授業内容確認アンケートで記入できるように準備する。

【テキスト（教科書）】
配付資料をもちいるため、教科書は使用しない。

【参考書】
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（鬼澤忍訳、ハヤカワ文庫、2011 年。）

【成績評価の方法と基準】
授業内容確認アンケート（30 %）と筆記試験（70 %）。

【学生の意見等からの気づき】
基本的には授業内容をどれだけ正確に理解できるかだけが求められます。したがって、授業への集中を妨げるような私語は禁止です。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of utilitarianism, deontology, and other ethical opinions.

PHL100CA

倫理学 B

松本　力

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学 A で学んだ内容をもとに、シンガーやフランクルによって提示された倫理的な生き方に対して、学生は、どのような立場を取るかを考え、表現できるようになる。

【到達目標】
倫理的に生きるとはどのようなことなのかを公正に判断し、自らの言葉で適切に表現できるようになることが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
配布資料を読み上げる講義形式での授業となる。また、毎回、授業内容確認アンケートを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	シンガー『私たちはどう生きるべきか』	シンガーの問題意識について。
2	究極の選択	私益優先の生き方か倫理優先の生き方か。
3	共同体の喪失	「万人の万人に対する戦争」。
4	世界を使い果たす	アダム・スミス対ジャン＝ジャック・ルソー。
5	日本人の生き方	集団のために生きることは可能か？
6	お返し戦術	憎しみ合う者同士の協力。
7	倫理的に生きる	英雄的行為だけが倫理的に生きることではない。
8	倫理の本性	他者におよぼす影響を無視して自分自身の利益だけを気にかけるのは倫理的ではない。
9	ある目的のために生きる	私たちの人生は、自分で自由に意味を与えることができるものなのか？
10	よい生き方	宇宙の視点をとる。
11	フランクル『それでも人生にイエスと言う』	生きる意味と価値。
12	自殺の問題	生きることは義務。
13	どんな状況でも人生にイエスと言う	苦悩に耐え抜くことにも意味がある。
14	試験	究極の選択に対する答えを表現できるか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の配付資料の要点をまとめ、疑問点などを確認し、疑問が解消しない場合には、次回の授業内容確認アンケートで記入できるように準備する。

【テキスト（教科書）】
配付資料をもちいるため、教科書は使用しない。

【参考書】
ピーター・シンガー『私たちはどう生きるべきか』（山内友三郎監訳、ちくま学芸文庫、2013 年。）
V・E・フランクル『それでも人生にイエスと言う』（山田邦男・松田美佳訳、春秋社、2016 年。）

【成績評価の方法と基準】
授業内容確認アンケート（30 %）と筆記試験（70 %）。

【学生の意見等からの気づき】
基本的には授業内容をどれだけ正確に理解できるかだけが求められます。したがって、授業への集中を妨げるような私語は禁止です。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acqire an understanding of the ethical opinions of Peter Singer and Viktor Emil Frankl.

PHL100CA

倫理学 A

齋藤　範

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自己と他者の関わり」を中心的なテーマとし、倫理学の基礎となる考え方や現代の倫理をめぐる諸問題について学びます。

【到達目標】
倫理学の知識を体系的に習得するとともに、現代社会における倫理的な問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べることができるようになることを、本授業の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、いわゆる規範倫理学の検討を通して、現代社会を生きる私たちの倫理を追究します。具体的には、主要学説を正確に理解するよう講義すると同時に、それらを現実の諸問題と突き合わせ、受講生自身に倫理的思考の実践を促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	倫理学とは何か	倫理とモラルとマナーをめぐって
2	倫理学の基礎	課題と方法について
3	規範と根拠①	ケーススタディの実践
4	規範と根拠②	ケーススタディの分析
5	利己主義について	エゴイズムとは何か
6	利他主義について	利他的であるとはどういうことか
7	功利主義①	ベンサムと J.S. ミルについて
8	功利主義②	その可能性と問題点について
9	義務論①	カントの倫理学について
10	義務論②	カントとそれ以降の倫理学
11	正義論①	公正な分配とは
12	正義論②	自由と平等をめぐって
13	他者論	自己と他者をめぐって
14	応用倫理とまとめ	世界と環境と生命をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う倫理問題に関する情報を文献やメディアなどから収集し、その要旨や考察をまとめるなどして課題に応えます。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示します。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
授業内容ごとに、進捗状況に応じて、適宜授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）にて評価し、60 点以上で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば犯罪や差別や貧困をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修するようにしてください。

【Outline and objectives】
In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

PHL100CA

倫理学 B

齋藤　範

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「生命と医療」を中心的なテーマとし、倫理学的思考や背景となる事実問題について学びます。

【到達目標】
生命倫理学と関連分野の知識を体系的に習得するとともに、現代社会における倫理的な問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べることができるようになることを、本授業の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、まずは生命倫理の基礎を概観し、そのうえで具体的な問題（脳死と臓器移植、安楽死、遺伝子操作、人工妊娠中絶など）を取り上げ、講義します。また、障害学、死生学、法学、哲学、現代思想といった関連分野にも触れ、そのつど問いを示しながら、人間と環境と生命をめぐる倫理をひろく学び、複雑なことがらの中にあっても主体的に自らのパースペクティブを見出すことができるよう促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	生命倫理学の背景①	インフォームド・コンセント
2	生命倫理学の背景②	生と死の線引き問題
3	脳死と臓器移植①	定義と判断
4	脳死と臓器移植②	現状と問題
5	難病告知	生と死の現場
6	安楽死問題①	定義と判断
7	安楽死問題②	現状と問題
8	遺伝子をめぐる問題①	遺伝子診断・遺伝子治療
9	遺伝子をめぐる問題②	さまざまな技術と優生思想
10	人工妊娠中絶①	定義と判断
11	人工妊娠中絶②	現状と問題
12	人工妊娠中絶③	人格と生命
13	倫理学と障害学	個人と社会
14	生命倫理とまとめ	生命をめぐる現代社会の倫理の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う倫理問題に関する情報を文献やメディアなどから収集し、その要旨や考察をまとめるなどして課題に応えます。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示します。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
授業内容ごとに、進捗状況に応じて、適宜授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）にて評価し、60 点以上で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば病気や生殖や生死をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修するようにしてください。

【Outline and objectives】
In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

PHL100CA

倫理学 A （教職）

齋藤　範

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】 受講生が主として教職に就くことを前提とし、「自己と他者」をめぐるテーマをケーススタディとして示しながら、倫理学の基礎となる考え方や諸問題について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して概説し、倫理学が何を問題とし、またどのような方法を用いて議論と考察を展開するか、講義する。変化の激しい現代社会においては人々の倫理的判断も多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、自己、他者、文化、宗教、家族、地域社会、国際社会、自然環境にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき社会や民主政治の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	倫理学の基本的構図①	課題と方法について
3	倫理学の基本的構図②	考察と実践について
4	倫理学の基本的構図③	事例と判断について
5	倫理学の基本的構図④	幸福や利益について
6	倫理学の主要な学説①	功利主義の基礎
7	倫理学の主要な学説②	功利主義の展開
8	倫理学の主要な学説③	義務論の基礎
9	倫理学の主要な学説④	義務論の展開
10	現代社会の倫理学①	社会と公共をめぐる諸問題について
11	現代社会の倫理学②	国際社会をめぐる諸問題について
12	現代社会の倫理学③	環境をめぐる諸問題について
13	現代社会の倫理学④	自己と他者をめぐる諸問題について
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う倫理問題に関する情報を文献やメディアなどから収集し、その要旨や考察をまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
小坂国継・岡部英男（2005）『倫理学概説』ミネルヴァ書房、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、倫理的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】
In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

PHL100CA

倫理学Ｂ（教職）

齋藤　範

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「生命・健康・医療・教育」に関わる問題をテーマとしながら、倫理学的思考や背景となる事実問題について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とする。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、生命をめぐる倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して講義する。変化の激しい現代社会において、とりわけ生命をめぐる人生観や死生観は複雑に多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われている。そうしたなか、この授業では、生命、医療、技術、健康、家族、宗教、そして人生観と死生観にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき人間の生き方と生命の在り方について主体的に考察できるよう講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	生命倫理学の基礎①	課題と方法について
3	生命倫理学の基礎②	考察と実践について
4	死生観をめぐる倫理①	現代の生と死をめぐって
5	死生観をめぐる倫理②	脳死と臓器移植について
6	死生観をめぐる倫理③	尊厳死と安楽死について
7	医療と技術をめぐる倫理①	現代の社会と病をめぐって
8	医療と技術をめぐる倫理②	遺伝子と医療について
9	医療と技術をめぐる倫理③	家族と生殖について
10	生命と誕生と家族をめぐる倫理①	現代社会と出生をめぐって
11	生命と誕生と家族をめぐる倫理②	妊娠中絶について
12	生命と誕生と家族をめぐる倫理③	生命と人格の問題について
13	障害と福祉をめぐる生命の倫理について	障害学の展開
14	復習と試験	教育における倫理学の意味の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う倫理問題に関する情報を文献やメディアなどから収集し、その要旨や考察をまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
今井道夫（2017）『生命倫理学入門［第４版］』産業図書、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、倫理的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】
In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

LIN100CA

文章表現Ａ

池田　雄一

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◉この授業では、日本語の文章の基礎訓練を目的とする。
◉文章と言っても、実際におきた事実を報告する文章と、人を説得する文章とでは、まったく性質が違うものである。授業では、そのような多様性をふまえたうえで、実際に参加者に文章を書いてもらう。
◉また文章は、様々な部品の組み立てによって成り立っている。どのような部品で組み立てられているのかを確認しながら、授業を進める予定である。

【到達目標】
◉最終的に、すぐれた文章を書くことが、この授業の目的となる。
◉レポート、卒論、就活時のエントリーシート等、文章力が問われる状況は、多々ある。こうした状況に対応することが、授業で獲得すべき目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
◉各授業が始まる前に、あらかじめ課題となる文章を書いてもらうので、そのつもりで参加してもらいたい。
◉また、授業時に提出した課題の検討をする。参加者は、自分が書いた文章が授業で公開されることを前提に、課題に取り組んでもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業手順の説明。および参加者との打ち合わせ。
第 2 回	文章の要約	哲学
第 3 回	文章の要約	歴史
第 4 回	◉理論編	文のパーツ
第 5 回	文章の要約	小説
第 6 回	コミュニケーションのための文章	依頼
第 7 回	コミュニケーションのための文章	クレーム
第 8 回	コミュニケーションのための文章	説得
第 9 回	◉理論編	主語について
第 10 回	調べたことを書く	手順編
第 11 回	調べたことを書く	実践編
第 12 回	◉理論編	文と文のつながり
第 13 回	レビューを書いてみよう	構想編
第 14 回	レビューを書いてみよう	実践編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◉参加者には、課題に応じた文章を事前に書いてきてもらう。
◉提出方法は、人数によって決める。
◉毎回、それなりの文章を書いてもらうので、楽をしたい学生は登録しないことをおすすめする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
杉原厚吉『理科系のための英文作法』中公新書
買う必要はないが、経済学部の学生にもおすすめの良書である。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題（４０ %）
最終課題：レビュー（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
◉電子テキストを書くための道具。パソコンを持参することが望ましいが、スマートフォンでも可とする。
◉ただし道具にかんする言い訳は認めない。

【その他の重要事項】
受講希望者数が 300 人を超えた場合、「文章表現」講義の性格上、抽選あるいは選考を実施する場合もあり。詳細が決まり次第、掲示板で連絡。

【Outline and objectives】
This lesson is aimed at basic training of Japanese sentences.

Even in the same sentence, the sentences that report facts actually made and the sentences that persuade people are quite different in nature. Based on such diversity, in class, we actually ask participants to write sentences. Students who wish to enjoy do not register.
Also, sentences are made up of various parts assembled. We are scheduling classes while checking what kind of parts are assembled.

LIN100CA

文章表現Ｂ

池田　雄一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◉前期の授業の成果をふまえて、オリジナリティのある観点を提出できる文章を書くことが、この授業の目的となる。
◉そのためには基礎的な文章力だけではなく、素材に対する切り口を発見すること、説得力のある議論を転回することなどが求められる。
◉そのために、レビューを書くことを中心に授業を運営する。参加者は、毎回ある程度の分量の文章を書くことが求められる。
◉また授業の後半では、各自にミニ・レビュー誌の企画と執筆を実行してもらう。楽をしたい学生は登録しないことをおすすめする。

【到達目標】
◉事件や映画などの作品について、オリジナリティのある観点から面白おかしく人に伝えることは、人間が持つ社交性の基礎でもある。話が面白い人は、おおよそ文章もうまいのである。
◉また現代社会の同調圧力に屈しないためにも、こうした表現力が求められる。
◉この授業では、そのような表現力の獲得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
◉事前に、または授業中に文章を書いてもらい、それを講評する。
◉自分が書いた文章を授業で公開することになるので、シャイな学生は登録しないことをおすすめする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業手順の説明。および参加者との打ち合わせ。
第 2 回	クリティカル・リーディングの実践	読解編
第 3 回	クリティカル・リーディングの実践	執筆編
第 4 回	クリティカル・リーディングの実践	検討編
第 5 回	映画のレビュー	表現の研究
第 6 回	映画のレビュー	切り口の発見
第 7 回	映画のレビュー	執筆編
第 8 回	◉企画書の作成	まずはレビュー誌の企画を考えてもらう。
第 9 回	ブックレビュー	読解編
第 10 回	ブックレビュー	執筆編
第 11 回	企画書に基づいたレビュー作成	レビューの準備
第 12 回	企画書に基づいたレビュー作成	レビューの執筆
第 13 回	企画書に基づいたレビュー作成	レビュー誌の完成
第 14 回	まとめ	レビュー誌の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◉毎回の授業で、決まった分量の文章を課題として書いてもらう。楽をしたい学生は登録しないことをおすすめする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
杉原厚吉『理科系のための英文作法』中公新書

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題 (４０％)
最終課題（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
◉学生は、パソコンを持参することが望ましいが、スマートフォンでも可とする。ただし道具にかんする言い訳は認めない。

【その他の重要事項】
受講希望者数が 300 人を超えた場合、「文章表現」講義の性格上、抽選あるいは選考を実施する場合もあり。詳細が決まり次第、掲示板で連絡。

【Outline and objectives】
Based on the results of the class in the previous term, it is the purpose of this lesson to write a sentence that can submit a viewpoint of originality. To that end, not only basic sentence skills but also discovering cuts for materials, turning convincing arguments, etc are required.
For that purpose, we mainly manage writing classes. Participants are required to write a certain amount of sentences every time.
Also, in the second half of the class, each person conducts planning and writing of mini review magazines. Students who wish to enjoy do not register.

LIN100CA

言語学 A

山﨑　達朗

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学を中心に，随時日本語と対応しながら科学としての言語学を概観する。言語学プロパーの分野から学際的な領域まで，日常生活に関連した具体的な事象を通してこれまでの研究を学習し，自分でも分類や分析ができるようにする。

【到達目標】
言語学という学問の基本的な考え方や知識を習得する。また，初めての用語や概念が大まかに理解，説明できるようにする。言語のデータを読み解き，分類などをすることにより，日常の言語事象がより良く理解できる。例えば，音素と実際の音のバリエーションの関係は何か，語彙の意味的変化にはどんな種類があるかなどが説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義式で，パワーポイントを使いながら，わかりやすく丁寧に説明していく。理解度を測るのは定期試験であるが，常時出席と復習がないと授業の理解に支障をきたすので注意。内容的に極度に抽象的になったり，複雑多岐にわたったりしないように概論的なスコープを維持する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	言語と言語学	1. 言語学と英語学, 2. 言語の定義（Wardhaugh による定義）, 3. 動物の「ことば」
2	言語学/英語学の分野１	1. 記述言語学と歴史言語学, 2. 音声学, 音韻論, 形態論, 統語論
3	言語学/英語学の分野２	1. 意味論と語用論, 2. 社会言語学, 3. 応用言語学
4	国際語としての英語１	英語の普及と変容 (母語・公用語・国際語としての英語人口と広がり)
5	国際語としての英語２	英語の普及と変容 (ENL, ESL, EIL の語彙的・文法的具体例)
6	英語の音（音声学）１	1. 調音音声学, 2. 母音の性質
7	英語の音（音声学）２	子音の調音点と調音法
8	英語の音構造（音韻論）１	1. 音素と異音, 2. 最小対立語, 3. 音節構造, 4. 弁別的素性による母音と子音の分類
9	英語の音構造（音韻論）２	1. 同化作用, 2. 音の脱落と挿入, 3. 超文節音素, 4. 音調言語, 5. 生成音韻論
10	英語の語構造（形態論）１	1. 形態素と異形態, 2. 形態素の異分析, 3. 自由形態素と拘束形態素
11	英語の語構造（形態論）２	語形成（複合語, 転換, 逆成, 省略語, 頭文字語, 混成, 異分析）
12	英語の文構造（統語論）１	1. 生成文法以前のアプローチ（伝統文法, 構造言語学）, 2. チョムスキーと普遍文法
13	英語の文構造（統語論）２	生成文法のアプローチ（句構造規則, 深層構造, 表層構造, 変形規則）
14	春学期試験	配布資料，授業内容など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の予習としてテキストを読む（各授業時に予習箇所が指定される）。該当箇所がないトピックについてはプリント（handouts) 等で補う。

【テキスト（教科書）】
『現代の言語学』, 石黒昭博ほか, 金星堂, ￥3,500 ＋税.
☞ 随時, プリントを配布するので保持しておくこと。

【参考書】
An Introduction to Language, V. Fromkin et al., Heinle.
『はじめての言語学』, 黒田龍之助，講談社.
『現代の英語学』, 石黒昭博ほか，金星堂.
「言語学」山﨑達朗，『経済志林』第 75 巻 1 号 (2007)，法政大学.

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (70%), 平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントを見やすく改善している。文字の大きさを懸念する声があったが，教室の前の方で受講すれば問題はない。

【Outline and objectives】
Linguistics is the scientific study of language. This course will overview linguistics in general: systems of sounds [=phonology], forms of words [=morphology], arrangements of words and phrases [=syntax], and meanings of words, phrases and sentences [=semantics].
We will also deal with linguistics in relation to social factors [=sociolinguistics], and contrast between Japanese and English [=contrastive linguistics]. Students will learn basic concepts, terms and grammatical categories. This is an intensive content course on the field of linguistics.

LIN100CA

言語学 B

山﨑　達朗

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学を中心に，随時日本語と対応しながら科学としての言語学を概観する。言語学プロパーの分野から学際的な領域まで，日常生活に関連した具体的な事象を通してこれまでの研究を学習し，自分でも分類や分析ができるようにする。

【到達目標】
言語学という学問の基本的な考え方や知識を習得する。また，初めての用語や概念が大まかに理解，説明できるようにする。言語のデータを読み解き，分類などをすることにより，日常の言語事象がより良く理解できる。例えば，音素と実際の音のバリエーションの関係は何か，語彙の意味的変化にはどんな種類があるかなどが説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義式で，パワーポイントを使いながら，わかりやすく丁寧に説明していく。理解度を測るのは定期試験であるが，常時出席と復習がないと授業の理解に支障をきたすので注意。内容的に極度に抽象的になったり，複雑多岐にわたったりしないように概論的なスコープを維持する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	英語の意味構造（意味論）1	1. 意味論と語用論 2. 明示的意味と暗示的意味) 3. 語の意味（成分分析など）
2	英語の意味構造（意味論）2	1. 語と語の意味関係（反義関係など） 2. 語彙の意味変化 3. 文の意味
3	ことばの運用（語用論）1	1. ダイクシス 2. 前提 3. 新情報と旧情報
4	ことばの運用（語用論）2	1. 推意と会話 2. グライスの会話の原則
5	世界の言語 1（比較言語学）	1. 言語の起源 2. グリムの法則 3. 言語の再建
6	世界の言語 2（言語類型論）	1. シュレーゲルの言語分類法 2. グリーンバーグの言語類型論
7	英語の歴史 1	1. ブリテン島の歴史 2. 古英語 3. ノルマンコンクエス 4. 中英語
8	英語の歴史 2	1. 近代英語 2. シェイクスピアの英語 3. 大母音推移
9	ことばと社会（社会言語学）1	1. 方言 2. 地域的変種 （ピジンとクレオールなど）
10	ことばと社会（社会言語学）2	1．社会的変種（ラボフの/r/変項の研究、PC 語など） 2. 民族的変種　3. 和製英語と外来語
11	英語教育（応用言語学）1	教授法（Communicative approach など）
12	英語教育（応用言語学）2	代表的アプローチと理論的背景
13	日英語の比較（対照言語学）	1. 音声の対照 2. 意味の対照（直訳と誤訳など
14	秋学期試験	配布資料，授業内容など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の予習としてテキストを読む（各授業時に予習箇所が指定される）。該当箇所がないトピックについてはプリント（handouts) 等で補う。

【テキスト（教科書）】
『現代の言語学』，石黒昭博ほか，金星堂，￥3,500 ＋税.
☞ 随時，プリントを配布するので保持しておくこと。

【参考書】
An Introduction to Language, V. Fromkin et al., Heinle.
『はじめての言語学』，黒田龍之助，講談社.
『現代の英語学』，石黒昭博ほか，金星堂.
「言語学」山﨑達朗，『経済志林』第 75 巻 1 号 (2007)，法政大学.

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (70%），平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントを見やすく改善している。文字の大きさを懸念する声があったが，教室の前の方で受講すれば問題はない。

【Outline and objectives】
Linguistics is the scientific study of language. This course will overview linguistics in general: systems of sounds [=phonology], forms of words [=morphology], arrangements of words and phrases [=syntax], and meanings of words, phrases and sentences [=semantics].
We will also deal with linguistics in relation to social factors [=sociolinguistics], and contrast between Japanese and English [=contrastive linguistics]. Students will learn basic concepts, terms and grammatical categories. This is an intensive content course on the field of linguistics.

PHL100CA

現代社会と宗教 A

永井　美紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
普段、宗教とはかけ離れた生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。様々な宗教文化に関する知識を習得した上で、宗教を見つめる自分の視点を構築し、社会との関わりのなかに存在する宗教的現象を捉えなおす。

【到達目標】
主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎知識を身につけることができる。そして、それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教現象を客観的に把握、理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式。リアクションペーパーの提出を適宜求める。学期半ばには課題レポートを提出する。レポート課題は、授業の中で提示するが、参考文献（WEB シラバス）に掲げた『グローバル現代社会論』をもとにする予定。レポート提出期日は授業の際に伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統１	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統２	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統３	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統４	現代におけるユダヤ教・キリスト教・イスラーム
6	アジアにおける仏教の展開と変容１	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容２	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容３	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況１	神仏分離政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況２	神道の解体とその後
11	近代以降の日本の宗教状況３	儀礼の変容と消費社会
12	近代以降の日本の宗教状況４	社会変化と新宗教運動
13	社会のなかの宗教１	世俗化論と宗教復興
14	社会のなかの宗教２	国際比較でみる日本人の宗教意識

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り扱う宗教の基礎知識に関して、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておこう。授業時に配布される資料には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみよう。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版 2012 年
山田真茂留編『グローバル現代社会論』文眞堂 2018 年
各テーマに関係する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの内容 15 %、課題レポートの内容 25 %、学期末の筆記試験の成績を 60 %とする割合で総合的に判断・評価します。

【学生の意見等からの気づき】
内容を検討し適宜改善に努めていきたいと思います。

【その他の重要事項】
授業計画は授業の展開によりテーマ内容の前後等、若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures arround the world.

HIS100CA

現代史 A

李　相旭

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦争責任問題を学びます。とくに植民地支配責任の問題との関係に注目して考えます。

【到達目標】
戦争責任問題を植民地支配責任との関係でとらえることで、現代史、とりわけ東アジアの現代史について、考える力をみにつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。リアクションペーパー提出を予定しています。
以下の授業計画は進捗状況等によって変化する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	日本の戦争/アジア認識と史料の問題から考えます。
第 2 回	第一次世界大戦①	第一次大戦を概観します。
第 3 回	第一次世界大戦②	第一次大戦の特徴について考えます。
第 4 回	戦争責任問題①	戦争責任問題の起源を概観します。
第 5 回	戦争責任問題②	戦争責任が具体的にどのように適用されたかみます。
第 6 回	第二次世界大戦①	第二次大戦を概観します。
第 7 回	第二次世界大戦②	第二次大戦の特徴について考えます。
第 8 回	日本の戦争責任問題①	日本の戦争責任問題の起源を概観します。
第 9 回	日本の戦争責任問題②	日本の戦争責任問題の特徴について考えます。
第 10 回	近代自由主義と植民地主義	植民地主義の問題について概観します。
第 11 回	民族自決権	民族自決権の歴史について概観します。
第 12 回	植民地支配責任①	植民地支配責任について考えます。
第 13 回	植民地支配責任②	日本の植民地支配責任について考えます。
第 14 回	まとめ	これまでの議論をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校の世界史の教科書で時代の大まかな流れをつかんでおくと良いでしょう。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
講義の際、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80 %）、平常点（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
In this course, students learn the question of war responsibilities. Themes will focus on a close relation to the question of colonial rule responsibilities.

HIS100CA

現代史 B

李　相旭

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東アジアの近現代史を学びます。民族解放運動に焦点をあて、東アジア現代史の状況について考えます。

【到達目標】
東アジア現代史を、東アジア近代史が解決できなかった矛盾の表現として捉える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。リアクションペーパー提出を予定しています。
以下の授業計画は進捗状況等によって変化する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「東アジア」の現在を考えます。
第 2 回	アヘン戦争①	アヘン戦争勃発前の東アジアを概観します。
第 3 回	アヘン戦争②	アヘン戦争とアヘン戦争後の過程を概観します。
第 4 回	「日清」戦争①	「日清」戦争の前提の形成過程について概観します。
第 5 回	「日清」戦争②	「日清」戦争の性格と「日清」戦後の世界について考えます。
第 6 回	東アジアと第一次世界大戦①	「日露」戦争にふれたうえで東アジアと第一次世界大戦の関係について概観します。
第 7 回	東アジアと第一次世界大戦②	第一次世界大戦の性格を東アジアとの関係で考えます。
第 8 回	民族解放運動①	中国の民族解放運動を概観します。
第 9 回	民族解放運動②	朝鮮の民族解放運動を概観します。
第 10 回	東アジアと第二次世界大戦	第二次世界大戦の性格を東アジアとの関係で考えます。
第 11 回	東アジア現代史の座標軸としての朝鮮戦争①	朝鮮戦争の起源について考えます。
第 12 回	東アジア現代史の座標軸としての朝鮮戦争②	朝鮮戦争の起源をふまえて戦争の性格について考えます。
第 13 回	東アジア現代史の座標軸としての朝鮮戦争③	東アジアの「平和」と朝鮮戦争の関係について考えます。
第 14 回	まとめ	これまでの議論をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校の世界史の教科書で時代の大まかな流れをつかんでおくと良いでしょう。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
講義の際、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80 %）、平常点（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
In this course, students learn the modern history of east asia. Through focus on the national liberation movement, we will study the situation of the contemporary history of east asia.

PHL100CA

哲学 A

長谷川　悦宏

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代哲学の父、デカルトの思想を、思想史的背景を踏まえつつ、今日的関心を持って考察する。

【到達目標】
現代を生きる我々の主要な世界把握である科学的世界観、その背景をなす思想的枠組みについて明快に述べることができる。科学の射程と限界を理解した上で、AI や環境問題など今日の課題について述べることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はテキスト（小林道夫『デカルト入門』）に沿って講義形式で行う。期末テストとは別に、途中小テストを行う。またテキストとは別に、理解を深めるためにプリントの配布も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容の説明及び若きデカルトと時代背景
2	デカルトの野心、彼の方法	解析幾何学、古代人の解析と近代人の代数
3	暫定道徳	修行時代と普遍数学の構想
4	デカルト哲学の完成と後半生	永遠真理創造説と主著の出版、『情念論』について
5	普遍的懐疑	欺く神の想定と現代におけるそのバリエーション
6	コギト・エルゴ・スム	「私」の存在の本質及びコギトからの脱出
7	前半のまとめ及び小テスト	前半の総括及び試験
8	神の存在	神の存在証明、はたしてそれは成功したのか、また必要だったのか
9	自由と誤謬	何故人は誤るのか、明証知と誤謬の関係
10	物質と身体	物質的事物の本性とは、人の身体とは何か
11	デカルトの自然学	物質即延長テーゼ及びガリレオ、ニュートンとの関係
12	心身問題のアポリア	デカルトの生理学と心身合一、心身問題への回答
13	高邁の精神	情念の統御、デカルトの考える道徳
14	期末試験	後半の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、テキストを事前に読み、関心の持てた問題や、疑問点などをまとめておく。復習としては、講義を受けてみて改めて関心の持てた問題について、関連する文献を読み、理解を深める。

【テキスト（教科書）】
小林道夫『デカルト入門』（筑摩書房、2006、本体価格 700 円+税）

【参考書】
授業で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中の小テスト（50 %）と期末試験（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り今日の問題との関連性などを紹介するようにする。

【Outline and objectives】
In this lecture, You would learn the key concepts of the philosophy of Decartes as the philosopher of today.

PHL100CA

哲学 B

長谷川　悦宏

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の哲学の主流をなす英米系の哲学を主な素材として、現代社会における「である」と「べきである」の関係を考察する。

【到達目標】
われわれの世界及び社会把握の根幹をなす因果概念について明快に述べることができる。事実と規範の複雑な関係を踏まえたうえで社会的問題に対して答えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はテキスト（一ノ瀬正樹『英米哲学入門』）に沿って講義形式で行う。期末テストとは別に、途中小テストを行う。またテキストとは別に、理解を深めるためにプリントの配布も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明及び世界存在とその秩序への信仰、素朴実在論
2	観念論の洞察	知覚の因果説とその問題点
3	条件文的な可能性	観念から外界へ、身体運動、条件文的可能性
4	「ある」から「である」へ	観念と心の関係、量子論、人間原理
5	必然性について	ノモスとピュシス、因果性と志向性、責任概念、三種の必然性
6	存在しないが肯定される因果	ヒュームの因果論、因果は実在するか
7	前半のまとめ及び小テスト	前半の総括及び試験
8	ランダム性と混沌	ランダム性にひそむ問題、ヒューム因果論の問題点
9	決定論と確率	決定論及び確率的因果の問題点
10	反事実的条件分析と因果	反事実的条件分析の効力と因果的先取の問題
11	因果にしみこむ不在性	因果の定義、不在性と因果関係理解との結びつき
12	因果と予防	通時的野放図因果の問題と予防可能性度による解決
13	「である」と「べき」のはざま	共時的野放図因果の解決、峻別主義と結合主義、記述性と規範性の相関
14	期末試験	後半の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、テキストを事前に読み、関心の持てた問題や、疑問点などをまとめておく。復習としては、講義を受けてみて改めて関心の持てた問題について、関連する文献を読み、理解を深める。

【テキスト（教科書）】
一ノ瀬正樹『英米哲学入門』（筑摩書房、2018、本体価格 980 円+税）

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中の小テスト（50 %）と期末試験（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り今日の問題との関連性などを紹介するようにする。

【Outline and objectives】
This lecture is based on the Anglo-American philosophy. You would learn the relation between 'be' and 'out to be' in the modern world.

PHL100CA

哲学 A

栗原　史郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時代背景が分かるようにツキュディデスを紹介した後で，古代ギリシア哲学を、ソクラテスとプラトンを中心に講義します。古代ギリシアの哲学者が考えた問題を，自分でも考えることによって，自分で考えることができるようになることを，また自分の考えを分かりやすく表現できるようになることをも目指します。

【到達目標】
受講生がソクラテス、プラトンについて説明できる。自分で考えることができる。自分の考えを分かりやすく表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
まずソクラテス以前の哲学者であるタレスから始めて原子論者まで紹介します。次にツキュディデスの解説によって，時代背景が分かるようにします。最後にソクラテスとプラトンについて講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ミレトス派とピタゴラス派	元のもの。万物は数から成る。
2	パルメニデスとパルメニデス以後	二つの道。多元論。
3	ツキュディデス (1)	生涯と著作
4	ツキュディデス (2)	ペリクレスの葬送演説
5	ツキュディデス (3)	ケルキュラの内乱と内乱の一般的考察
6	ソクラテス (1)	『ソクラテスの弁明』
7	ソクラテス (2)	『ラケス』(1) ラケスとソクラテス
8	ソクラテス (3)	『ラケス』(2) ニキアスとソクラテス
9	ソクラテス (4)	知の否認
10	ソクラテス (5)	倫理説
11	プラトン (1)	生涯と著作
12	プラトン (2)	イデア
13	プラトン (3)	善のイデア (1) 太陽の比喩
14	プラトン (4)	善のイデア (2) 線分の比喩、洞窟の比喩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は，以下に指定された教材を講義の前によく読んで予習した上で講義にのぞむこと。また，講義の後では，理解できたか確認するために，もう一度読み直すこと。さらに，参考書が指定されている場合には，講義の前に読んでおくこと。
第 1 回　教材「哲学の形成と確立 (1)〜(2)」
第 2 回　教材「哲学の形成と確立 (3)〜(4)」
第 3 回　教材「ツキュディデス (1)」，ツキュディデス『戦史』第 1 巻
第 4 回　教材「ツキュディデス (2)」，ツキュディデス『戦史』第 2 巻
第 5 回　教材「ツキュディデス (3)」，ツキュディデス『戦史』第 3〜5 巻
第 6 回　教材「ソクラテス (1)」，プラトン『ソクラテスの弁明』
第 7 回　教材「ソクラテス (2)」
第 8 回　教材「ソクラテス (3)」
第 9 回　教材「ソクラテス (4)」，プラトン『ゴルギアス』
第 10 回　教材「ソクラテス (5)」
第 11 回　教材「プラトン (1)」，プラトン『国家』(第 1 巻)
第 12 回　教材「プラトン (2)」，プラトン『国家』(第 2 巻から第 4 巻まで)
第 13 回　教材「プラトン (3)」，プラトン『国家』(第 5 巻から第 7 巻まで)
第 14 回　教材「プラトン (4)」，プラトン『国家』(第 8 巻から第 10 巻まで)

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
トゥーキューディデース『戦史 (上・中・下)』(久保正彰訳，岩波文庫)
プラトーン『ソークラテースの弁明・クリトーン・パイドーン』(田中美知太郎・池田美恵訳，新潮文庫)
プラトン『ラケス』(三嶋輝夫訳、講談社学術文庫)
プラトン『プロタゴラス』(藤沢令夫訳、岩波文庫)
プラトン『ゴルギアス』(加来彰俊訳，岩波文庫)
プラトン『メノン』(藤沢令夫訳、岩波文庫)
プラトン『饗宴』(森進一訳、新潮文庫)
プラトン『国家』(上)(下)(藤沢令夫訳、岩波文庫)
プラトン『パイドロス』(藤沢令夫訳、岩波文庫)

【成績評価の方法と基準】
授業内の小テスト (講義の内容について書いてもらう感想・意見・批判)(50%)。授業を聞いているかどうか、また理解しているかどうか、それから自分の考えを述べているかどうかに基づいて評価します。期末試験 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書いたものを消すのが早い。(授業支援システムを利用して，板書事項よりも詳しい教材をアップロードすることにしました。)
授業内小テストの時間が短い。(短くても 20 分は取れるようにしました。原則として 30 分にします。)

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して，教材をアップロードするので，必ず印刷して読んでください。

【その他の重要事項】
できるだけ春学期・秋学期合わせて受講してください。

【Outline and objectives】
I will first introduce Thucydides' The Peloponnesian War to students in my class so that they can understand the historical background to the philosophy of Socrates and to that of Plato. Then I will lecture on Socrates and Plato. I hope that my students will be able to think by themselves by thinking about the problems ancient Greek philosopher worked on.

PHL100CA

哲学 B

栗原　史郎

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西欧の近世哲学をデカルトとロックとカントを中心に講義します。西欧近世の哲学者が考えた問題を，自分でも考えることによって，自分で考えることができるようになることを，また自分の考えを分かりやすく表現できるようになることをも目指します。

【到達目標】
受講生が西欧の近世哲学、特にカント哲学について説明することができる。自分で考えることができる。自分の考えを分かりやすく表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
まず大陸の合理論の哲学を紹介し，次にイギリスの経験論について解説し，それからカントの哲学について講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	デカルト (1)	cogito ergo sum.
2	デカルト (2)	神の存在証明
3	スピノザ	『エチカ』
4	ライプニッツ	『単子論』
5	ロック (1)	観念
6	ロック (2)	知識
7	バークリ	esse is percipi.
8	ヒューム	因果性
9	カント (1)	生涯と著作
10	カント (2)	『純粋理性批判』(1) コペルニクス的転回
11	カント (3)	『純粋理性批判』(2) 空間と時間
12	カント (4)	『純粋理性批判』(3) カテゴリー
13	カント (5)	『純粋理性批判』(4) 弁証論
14	カント (6)	『実践理性批判』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は，以下に指定された教材を講義の前によく読んで予習した上で講義にのぞむこと。また，講義の後では，理解できたか確認するために，もう一度読み直すこと。さらに，参考書が指定されている場合には，講義の前に読んでおくこと。
第 1 回：教材「近世哲学史 (1)」，デカルト『方法序説』
第 2 回：教材「近世哲学史 (1)」，デカルト『省察』
第 3 回：教材「近世哲学史 (2)」
第 4 回：教材「近世哲学史 (3)」
第 5 回：教材「近世哲学史 (4)」，ロック『人間知性論』(一) ～(二)
第 6 回：教材「近世哲学史 (4)」，ロック『人間知性論』(四)
第 7 回：教材「近世哲学史 (5)」
第 8 回：教材「近世哲学史 (6)」
第 9 回：教材「近世哲学史 (7)」
第 10 回：教材「近世哲学史 (8)」，カント『純粋理性批判』「第 1 版序文，第 2 版序文，諸言」
第 11 回：教材「近世哲学史 (9)」，カント『純粋理性批判』「先験的感性論」
第 12 回：教材「近世哲学史 (10)」
第 13 回：教材「近世哲学史 (11)」，カント『純粋理性批判』「純粋理性の理想」
第 14 回：教材「近世哲学史 (12)」，カント『道徳形而上学原論』

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
デカルト『方法序説』谷川多佳子 (訳) 岩波文庫
デカルト『省察』三木清 (訳) 岩波文庫
スピノザ『エチカ』畠中尚志 (訳) 岩波文庫
ライプニッツ『形而上学叙説』河野与一 (訳) 岩波文庫
ライプニッツ『単子論』河野与一 (訳) 岩波文庫
ロック『人間知性論』(一)～(四)　大槻春彦 (訳) 岩波文庫
バークリ『人知原理論』大槻春彦 (訳) 岩波文庫
ヒューム『人性論』(一)～(四)　大槻春彦 (訳) 岩波文庫
カント『純粋理性批判』(一)～(三)　篠田英雄 (訳) 岩波文庫
カント『実践理性批判』波多野、宮本、篠田 (訳) 岩波文庫
カント『道徳形而上学原論』篠田英雄 (訳) 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】
授業内の小テスト (講義の内容について書いてもらう感想・意見・批判)(50%)。授業を聞いているかどうか、また理解しているかどうか、それから自分の考えを述べているかどうかに基づいて評価します。期末試験 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書いたものを消すのが早い。(授業支援システムを利用して，板書事項よりも詳しい教材をアップロードすることにしました。)
授業内小テストの時間が短い。(短くても 20 分は取れるようにしました。原則として 30 分にします。)

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用して，教材をアップロードするので，必ず印刷して読んでください。

【その他の重要事項】
できるだけ春学期・秋学期合わせて受講してください。

【Outline and objectives】
I will lecture on the history of Western philosophy (from Descartes to Kant). I hope that my students will be able to think by themselves by thinking about the problems philosophers from Descartes to Kant worked on.

PHL100CA

哲学Ａ（教職）

齋藤　範

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が教職に就くことを前提とし、「世界とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、古代から近世までの哲学と思想文化全般について時代を追って解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。過去のそれぞれ哲学は、一方では各々の時代背景や社会情勢に固有な特殊性を有しつつも、他方ではどんな時代や社会にも通底し、現代においても十分参照する価値のある普遍性を有している。この授業では、そうした特殊性と普遍性の両方を広く視野に入れながら、世界観や人間観に関してこれまでどのような議論や考察がなされ、また現代においてもなされつつあるか、概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	哲学の草創期と初期自然学	古代ギリシアとソクラテス以前の哲学者たち
3	アテナイ古典哲学①	哲学者ソクラテス
4	アテナイ古典哲学②	プラトンの哲学
5	アテナイ古典哲学③	アリストテレスの哲学
6	ヘレニズム期の哲学①	キュニコス派・エピクロス派の哲学
7	ヘレニズム期の哲学②	ストア派・懐疑派の哲学
8	ローマ帝政期の哲学	新プラトン派の哲学
9	ユダヤ・キリスト教の思想	宗教思想と哲学
10	中世の哲学①	教父哲学とスコラ哲学
11	中世の哲学②	神学と哲学・普遍論争
12	ルネサンス期の哲学①	宗教や文化や芸術をめぐる新しい思想
13	ルネサンス期の哲学②	フィチーノやクザーヌスらの新しい人間観と世界観
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布される文献のプリントを読解し、要旨や考えたことをまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
内山勝利・中川純男（1996）『西洋哲学史（古代・中世編）』ミネルヴァ書房
加藤信朗（1996）『ギリシア哲学史』東京大学出版会、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、哲学的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】
In this lecture, students acquire the basic knowledge about philosophy, and consider philosophically about human beings and the world.

PHL100CA

哲学Ｂ（教職）

齋藤　範

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「人間（あるいは「私」）とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学ぶ。

【到達目標】
この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とする。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、近代から現代までの哲学と思想文化全般について解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義する。近代以降の哲学は、科学を初めとする他学問や社会状況の変化とより緊密に連携・連動し、これらはそのまま現代の人間、社会、世界をめぐる諸問題として、いまなお活発に考察と議論がなされている。この授業では、これらの哲学的問題を現代を生きる自らの課題として引き受け、さらに多様化する現代哲学・現代思想に学びながら、共に考察しつつ講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	近代哲学の課題	哲学と科学
3	大陸合理論の哲学①	デカルト
4	大陸合理論の哲学②	スピノザ、ライプニッツ
5	イギリス経験論の哲学①	ロック、バークリ
6	イギリス経験論の哲学②	ヒューム
7	ドイツ観念論の哲学①	カント
8	ドイツ観念論の哲学②	ヘーゲル
9	生の哲学	ニーチェ
10	実存主義の哲学	キルケゴール、サルトル
11	現代哲学の諸相①	精神分析と言語学
12	現代哲学の諸相②	現象学と身体論
13	現代哲学の諸相③	構造主義以降
14	復習と試験	総括として教育における哲学の意義の再考と、理解度の確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布される文献のプリントを読解し、要旨や考えたことをまとめるなどして課題に応える。課題の詳しい内容は授業ごと異なるため、そのつど指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しないが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】
峰島旭雄（1989）『概説 西洋哲学史』ミネルヴァ書房
山本巍・宮本久雄（1993）『哲学 原典資料集』東京大学出版会、ほか。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）と期末試験（40 %）にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
主として PowerPoint による講義を予定しているが、クラスの状況によっては映像メディアや文献を利用し、哲学的な問題について議論することもある。いずれにしても、積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】
In this lecture, students acquire the basic knowledge about philosophy, and consider philosophically about human beings and the world.

PHL100CA

論理学 A

関塚　正嗣

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的思考を支えている原理（名辞の性質、定義の種類、論理法則等）を講義する。その理解によって、受講者が論理的思考力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
名辞の性質を理解し名辞の正しい定義ができるようにする。また、命題の種類を理解し正確な命題を作れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
論理学を構成する「名辞」「命題」「推理」の内、「名辞」と「命題」について伝統的論理学と現代論理学を比較しながら講義を行う。区切りのよいところで練習問題に取り組んで理解を深めるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	論理学とは何か？	事実にかかわる思考のしくみ
2	名辞と定義	定義の規則と誤った定義の批判
3	練習問題	定義についての問題を解く
4	命題の種類	定言命題、仮言命題、選言命題
5	命題の標準化	命題の標準化、名辞の周延と不周延
6	練習問題	名辞についての問題を解く
7	命題の性質	真理値と真理表、命題形式を学ぶ
8	命題の真理値	命題の恒真、恒偽、偶然的の違い
9	論理法則	論理法則と命題の記号化を学ぶ
10	真理値決定の方法	代入の方法とクワインの方法
11	練習問題（1）	命題の記号化についての問題を解く
12	練習問題（2）	代入の方法についての問題を解く
13	練習問題（3）	恒真、恒偽、偶然的の判定問題
14	練習問題（4）	追加問題を解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の順序に従って講義を進めるので、予習をすること。特に、章末の練習問題を事前に解いてくること。また、毎回復習して理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
『論理学入門』近藤洋逸・好並英次著、岩波全書（岩波書店）、2012 年、2,200 円＋税

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末の試験で評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。期末の試験 100 %。
ただし、授業中に練習問題を担当した場合は加点する。

【学生の意見等からの気づき】
概ね授業内容や進め方について評判がいいが、板書の字を大きくとの要望があるので心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期合わせて受講することが望ましい。
注意：例年約３割の受講生が不合格となるので安易に履修しないこと。講義に欠席すると単位取得は非常に困難である。

【Outline and objectives】
Learn the principle of the thougt of the logic (concept, definition, logic low, etc.)

PHL100CA

論理学 B

関塚　正嗣

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的思考（推理）を支えている原理（基本的推理形式等）を講義する。その理解によって、受講者が論理的思考力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
演繹的推理の性質を理解し、様々な推理の証明ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
論理学を構成する「名辞」「命題」「推理」の内、「推理」について伝統的論理学と現代論理学を比較しながら講義を行う。区切りのよいところで教科書の練習問題と追加の練習問題に取り組んで理解を深めるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	推理の種類	演繹推理と蓋然的推理
2	妥当性と恒真性（1）	推理の妥当性と命題の恒真性の関係
3	妥当性と恒真性（2）	推理の妥当性と命題の恒真性の関係
4	基本的推理形式（1）	基本的推理形式の妥当性を証明する
5	基本的推理形式（2）	基本的推理形式の妥当性を証明する
6	推理の妥当性の証明（1）	真理値の方法による帰謬法
7	推理の妥当性の証明（2）	演繹的方法による形式的証明
8	推理の妥当性の証明（3）	演繹的方法による帰謬法
9	伝統的推理論（1）	仮言三段論法と選言三段論法
10	伝統的推理論（2）	仮言三段論法と選言三段論法との関係
11	練習問題（1）	真理値の方法による帰謬法での証明
12	練習問題（2）	演繹的方法による形式的証明
13	練習問題（3）	演繹的方法による帰謬法での証明
14	練習問題（4）	追加問題を解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の順序に従って講義を進めるので、予習をすること。特に、章末の練習問題を事前に解いてくること。また、毎回復習して理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
『論理学入門』近藤洋逸・好並英次著、岩波全書（岩波書店）、2012 年、2,200 円＋税

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末の試験で評価する。100 点満点で 60 点以上を合格とする。期末の試験 100 %。
ただし、授業中に練習問題を担当した場合は加点する。

【学生の意見等からの気づき】
概ね授業内容や進め方について評判がいいが、板書の字を大きくとの要望があるので心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期合わせて受講することが望ましい。
注意：例年約３割の受講生が不合格となるので安易に履修しないこと。講義に欠席すると単位取得は非常に困難である。

【Outline and objectives】
Learn the principle of the thougt of the logic (basic inference form, etc.)

CUA100CA

民俗学 A

西村　敏也

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学Aでは、民俗全般を取り扱う。

【到達目標】
民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを利用した講義形式。適宜視聴覚・メディア教材を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義内容・進め方の紹介
2	民俗・民俗文化の展開	民俗学概説
3	民俗学の歴史ー柳田国男とその批判継承ー 1	民俗学史 1
4	民俗学の歴史ー柳田国男とその批判継承ー	民俗学史 2
5	家・家族、一族とすまいの民俗	「家」制度の仕組み、家屋
6	食の民俗	伝統色と郷土料理
7	村と都市の民俗の比較 1	村の組織・暮らしの作法
8	村と都市の民俗の比較 2	町の組織・暮らしの作法
9	婚姻の民俗 1	伝統的社会の婚姻儀礼の視聴覚資料視聴
10	婚姻の民俗 2	伝統的社会の婚姻儀礼
11	出産・生育の民俗 1	伝統的社会の出産・生育儀礼の視聴覚資料視聴
12	出産・生育の民俗 2	伝統的社会の出産・生育儀礼
13	生業の民俗	農村・山村・海村の生業
14	まとめ	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみること。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してみること。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】
谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税
宮本袈裟雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 年＋税
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席状況・授業態度・リアクションペーパー）50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
質問に出来うる限り対応し、わかりやすい講義になるよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
質問は、講義終了後受け付ける。
私語など、他人への迷惑行為はしないこと。

民俗学Bと併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
We have the habit that we protect the thing which I judged when there is value in a tradition, culture and a thought, the next generation, and is going to tell in a phenomenon to continue for a long time. But I often image a lot so-called High culture which the social group of the big units such as a nation, the race shares when we say a tradition, culture. For example, it is the kind of Japanese foods such as an entertainment or sushi such as Kabuki, ability, the Rakugo. However, after all we handed down culture coherent to life unlike these namely the folk culture mainly on a valuable thing and the transmission method such as a thought, the talk and the gesture in the next generation. It is folk culture such as food, clothing and shelter, ceremonial occasion, the occupation that it is with a tradition mother, and the social group of the small unit such as a family and the whole families, the village maintained specifically. But the folk culture standardizes it under the influence of a policy and the media of the country, and, after after modern times particularly rapid economic growth, it is a fact to decline. I do a tradition mother's body, a kind, generation, the spread, transformation, extinction about various folk culture by this lecture with a cut end and want to explain it. With the learning, I want to think about Japan, Japanese culture, the Japanese history at the same time. In folklore B, I handle it under the theme of folk religion mainly.

CUA100CA

民俗学 B

西村　敏也

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学Bでは、主に民俗宗教をテーマに取り扱う。

【到達目標】
民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを利用した講義形式。適宜視聴覚・メディア教材を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義内容・進め方の紹介
2	先祖祭祀と葬送儀礼 1	葬送儀礼の視聴覚資料視聴
3	先祖祭祀と葬送儀礼 2	先祖祭祀と葬送儀礼概説
4	年中行事	暦と儀礼
5	村の民俗宗教 1	仏教民俗
6	村の民俗宗教 2	カミ信仰
7	祭りの民俗 1	村落
8	祭りの民俗 2	都市
9	巡礼・参詣 1	巡礼・参詣概説
10	巡礼・参詣 2	伊勢
11	巡礼・参詣 3	四国八十八ヶ所
12	巡礼・参詣 4	観音霊場
13	巡礼・参詣 5	山岳宗教
14	まとめ	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみること。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してみること。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】
谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税
宮本袈裟雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 年＋税
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席状況・授業態度・リアクションペーパー）50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
質問に出来うる限り対応し、わかりやすい講義になるよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
質問は、講義終了後受け付ける。
私語など、他人への迷惑行為はしないこと。
民俗学Aと併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
We have the habit that we protect the thing which I judged when there is value in a tradition, culture and a thought, the next generation, and is going to tell in a phenomenon to continue for a long time. But I often image a lot so-called High culture which the social group of the big units such as a nation, the race shares when we say a tradition, culture. For example, it is the kind of Japanese foods such as an entertainment or sushi such as Kabuki, ability, the Rakugo. However, after all we handed down culture coherent to life unlike these namely the folk culture mainly on a valuable thing and the transmission method such as a thought, the talk and the gesture in the next generation. It is folk culture such as food, clothing and shelter, ceremonial occasion, the occupation that it is with a tradition mother, and the social group of the small unit such as a family and the whole families, the village maintained specifically. But the folk culture standardizes it under the influence of a policy and the media of the country, and, after after modern times particularly rapid economic growth, it is a fact to decline. I do a tradition mother's body, a kind, generation, the spread, transformation, extinction about various folk culture by this lecture with a cut end and want to explain it. With the learning, I want to think about Japan, Japanese culture, the Japanese history at the same time. In folklore B, I handle it under the theme of folk religion mainly.

POL100CA

政治学 A

冨永　靖敬

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、政治学の導入レベルの授業であり、主に国内政治過程を対象とし、政治に求められる役割、その中心的な主体となる国家の諸側面について学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の政治を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に着けることを目的とする。

【到達目標】
1. 現代政治を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること
2. 政治の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はテキストの内容を中心に、教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	政治のとらえ方	授業概要、市場の失敗、分析視角
第 2 回	政治権力と秩序	財の種類とフリーライダー、集合行為問題、政治の役割、政治の失敗
第 3 回	国家という枠組み	国家とは、国民とは。国家のある世界・ない世界、国家の役割
第 4 回	政治体制　I	政治体制の分類、民主化の波
第 5 回	政治体制　II	政治体制の移行とその要因、福祉国家
第 6 回	戦後の日本政治	戦後から 55 年体制へ、経済復興と自民党長期政権、政治改革
第 7 回	民主主義と選挙	選挙と選挙制度、投票行動、日本における政治参加・投票行動
第 8 回	政党と政党システム	政党の役割（意見の表出と集約機能）、政党システム、政党と政治家
第 9 回	執政とアカウンタビリティ	政権のタイプ、選挙制度と政権のタイプ、戦後日本の首相
第 10 回	権力の分割	議院内閣制と大統領、立法における権力の分割、司法機関の独立
第 11 回	国会	国会の特徴、立法過程、国会の評価
第 12 回	官僚制と政官関係	政策過程、官僚の役割、官僚制問題、日本の官僚制
第 13 回	利益団体	ロビー活動とレント、政治家・官僚・利益団体
第 14 回	復習	学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、授業前に指定されたテキ ストを読むことが求められます。また、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
砂原 庸介・稗田 健志・多湖 淳（2015）『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN978-4-641-15025-6

【参考書】
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真渕勝（2011）『政治学　補訂版』有斐閣。定価 3,672 円（本体 3,400 円）ISBN 978-4-641-05377-9
上神貴佳・三浦まり編（2018）『日本政治の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN978-4-641-15054-6
飯田健・松林哲也・大村華子（2015）『政治行動論 有権者は政治を変えられるのか（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 1,944 円（本体 1,800 円）ISBN978-4-641-15029-4

【成績評価の方法と基準】
期末試験（選択式・記述式）によって 100%の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course introduces the essence of politics, historical development, and relevant theories developed for explaining domestic political processes with no prerequisites.　To be specific, we address the following questions: What is politics? What characterizes democracy and autocracy?　What is the electoral system and are there any differences among democratic countries? How do those varieties affect political consequences?　What factors specify the presidential system and parliamentary system? In addressing these questions, we illustrate those relevant concepts and theories through the actual cases across the world as many as possible.　At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of politics but also varieties of political system and the logic of political decision-making, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual political cases, but also find out the pitfalls of the existing theories.

POL100CA

政治学 B

冨永　靖敬

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、政治学の導入レベルの授業であり、主に国家間関係を対象とし、戦争と平和をめぐる国際関係の諸側面について学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に着けることを目的とする。

【到達目標】
1. 現代政治を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること
2. 政治の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はテキストの内容を中心に、教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	政治学 A の復習	前学期の復習、授業概要
第 2 回	マスメデ゛ィアと政治	世論、統計資料で゛みる内閣支持率と政治信頼、メデ゛ィアと世論
第 3 回	国と地方の関係	単一国家と連邦国家、本人代理人関係、地方分権
第 4 回	地方自治	首長、地方議会、住民による統制、条例
第 5 回	市民社会と国民国家	市民社会、ナショナリズムとコスモポリタニズム
第 6 回	国内社会と国際社会	国内社会と国際関係との比較：アナーキー
第 7 回	主権国家システムの拡大	封建的国際システム・主権国家システム、ナショナリズム
第 8 回	安全保障と平和	統計資料で見る戦争、アナーキーと国際関係、安全保障のジレンマ
第 9 回	伝統的国際政治の視点	リアリズム、勢力均衡論、リベラリズム、国際制度と国際協調
第 10 回	国際政治経済	経済的相互依存の拡大、自由貿易、非対称的な相互依存
第 11 回	国際制度	調整の手段としての制度、制度の形成、覇権安定論・新自由主義制度論
第 12 回	対外政策決定過程	アリソン・モデル、二層ゲーム、非国家主体の影響
第 13 回	日本の安全保障	伝統的安全保障枠組みの遺産
第 14 回	復習	学期全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められます。また、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
砂原 庸介・稗田 健志・多湖 淳（2015）『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

【参考書】
上神貴佳・三浦まり編（2018）『日本政治の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN978-4-641-15054-6
ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ（田中明彦・村田晃嗣訳）（2017）『国際紛争 理論と歴史』有斐閣。定価 3,240 円（本体 3,000 円）ISBN978-4-641-14917-5

【成績評価の方法と基準】
期末試験（選択式・記述式）によって 100%の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
講義の内容は「政治学 A」を履修していることを前提とします。

【Outline and objectives】
This course is split into two sections: First section covers other topics of domestic politics that are not covered in the Spring semester such as the relationship between media and politics, and between a state government and local government. The second section introduces the essence of international relations, the historical development of the nation-state system, and relevant theories developed for explaining war and peace. Specifically, we address the following questions: What is a sovereign state? How has it been developed? What is the essential difference between domestic politics and international politics? Why does a state keep building military power? What is the role of the international regime such as the United Nations? In addressing these questions, we illustrate those relevant concepts and theories through the actual cases in history as many as possible. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

GEO100CA

地理学 A

朴　倧玄

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】
授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、教員の講義と授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地理学の課題・方法・見方	地理学の課題・方法・見方について解説する。
2	大都市圏と地域区分の意義	都市をめぐるさまざまな概念を用いて、都市のテリトリーと地域区分の意義を学習する。
3	複写機メーカーの販売ネットワークの空間構造	経済・経営組織は、空間構造をどのように活用しているのかを学習する。事例として、大手複写機メーカーの販売ネットワーク事例に空間構造を学習する。.
4	企業の支店配置の原理	大手複写機メーカーの販売ネットワークを用いて、地域区分や支店・営業所配置の原理を学習する。
5	買い物行動圏	東京大都市圏における消費者の買い物行動を用いて、商圏と地域区分を学習する。
6	日本の国土構造の変遷	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、日本の国土構造の特徴を解説する。
7	地域政策と国土構造	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、国土政策の特徴を解説する。
8	日本の地域構造の特徴	統計データに基づいて、日本の国土構造の特徴を学習する。
9	中枢管理機能	中枢管理機能の概念を用いて、中枢管理機能からみた日本の都市システムの構造を学習する。
10	企業行動の空間構造	経済的中枢管理機能を用いて、経済的中枢管理機能からみた日本の都市階層を学習する。
11	支社配置と広域中心都市	日本の主要企業の支社配置を用いて、日本の国家的都市システムにおける広域中心都市の位置づけを学習する。
12	支社立地と日本の国土構造	企業の支社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。
13	本社配置と日本の国土構造	企業の本社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。
14	まとめ	地理学で学習した内容を整理し，地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しないが，個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】
高橋ほか編『ジオグラフィー入門』(古今書院)

【成績評価の方法と基準】
レポート (5%)、小テスト (20%)、平常点 (15%) 定期試験 (60%) などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and enviornmental components interact will be learned.

GEO100CA

地理学 B

朴　倧玄

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】
授業の到達目標は，地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し，諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義と学生の授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地理学のモデル―都市内部構造理論	都市地理学について解説し、都市内部構造理論を学習する。
2	同心円モデルとセクターモデル	同心円モデルとセクターモデルを用いて、都市内部構造モデルを学習する。
3	多核心モデルと三地帯モデル	多核心モデルと三地帯モデルを用いて、都市内部構造理論を学習する。
4	工業立地と地理学	工業地理学について解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
5	ウェーバーの工業立地モデル	ウェーバーの工業立地モデルについて解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
6	日本の工業立地と空間構造	日本の工業立地の実態を用いて、工業立地の要因を学習する。
7	企業の海外進出行動と地理学 1	企業地理学について解説し、日本企業の海外進出の実態とその空間構造を学習する。
8	企業のグローバル活動	地理学の視点から企業のグローバル活動を学習する。
9	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の立地行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の業種別分布パターンを学習する。
10	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の取引行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の取引行動の現地化プロセスを学習する。
11	ジェンダー地理学	ジェンダー地理学について解説し、地理学の支店で、ジェンダー問題の捉え方を学習する。
12	男女の通勤行動の差	男女の通勤行動の違いからみた空間構造の違いを学習する。
13	ライフステージと通勤距離	ライフステージ別における通勤距離の違いを学習する。
14	まとめ	地理学全体で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。講義内容をもとに、統計データを用いて、地図化と地域の見方を学習するとともに、フィールドワークの方法について学習する。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】
高橋ほか編『ジオグラフィー入門』(古今書院)

【成績評価の方法と基準】
レポート (5%)、小テスト (20%)、平常点 (15%) 定期試験 (60%) などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned, In additon, geographic analytical skills as well as geographic theory will be acquired.

CUA100CA

文化人類学 A

山本　真鳥

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

2010 **年度以降入学者**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化人類学とは、人類の文化や生活様式の多様性と普遍性を研究して、「人間とは何か」ということを考察する学問である。授業を通じて文化人類学の視点を身につけることがテーマとなる。文化人類学 A は基礎・入門編。

【到達目標】
文化人類学の基礎的な考え方や方法を学び、理解する。異なる社会の異なる慣習を学ぶことで、自分をとりまく社会環境を相対化して見ることができるようになる。1) 文化人類学の基礎知識を身につける。2) 文化人類学の基礎概念を自分で説明できる。3) 文化人類学の基礎概念を用いて、社会現象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文化とは何か？	文化の概念と文化人類学の課題
第 2 回	文化の身体的条件	人類の進化と文化の実現
第 3 回	フィールドワークと民族誌	方法としてのフィールドワークと成果としての民族誌
第 4 回	文化人類学理論の展開	異文化理解を可能にする概念の数々
第 5 回	生態適応と暮らし	生態適応の諸類型とその文化
第 6 回	家族とジェンダー	結婚・家族・ジェンダー役割分担
第 7 回	コミュニティの生成	血縁・地縁・社縁
第 8 回	エスニシティとネーション	民族・人種・想像の共同体としてのネーション
第 9 回	アイヌ問題を考える	先住民運動とアイヌ問題への理解
第 10 回	言語と認識	言語構造と文化の相関
第 11 回	宗教と儀礼	宗教と社会生活、儀礼の作る時間
第 12 回	呪術と象徴的思考	呪術の論理、比喩的思考
第 13 回	祭とフェスティバル	祝祭空間の作り出す非日常性
第 14 回	文化人類学とは何か	全体的なまとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材）を読んで予習ないしは復習を行う。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
授業支援システムの教材の箇所にアップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てる。中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店。岸上伸啓編『はじめて学ぶ文化人類学: 人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書店。シンジルト・梅屋潔編『新版　文化人類学のレッスン』学陽書房。その他授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 6 回に出題、締切厳守 2 週間後）は 20%。随時行う授業内小テスト全部で 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。 小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は両方が含まれる。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】
開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。授業支援システムで配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参すること。

【その他の重要事項】
授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

【Outline and objectives】
Cultural Anthropology is the discipline to contemplate "what human being is" through learning human cultures and ways of life. It is the important theme for students to acquire anthropological perspective in studying this subject. Cultural Anthropology A is an introductory stage.

CUA100CA

文化人類学 B

山本　真鳥

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化人類学とは、人類の文化や生活様式の多様性と普遍性を研究して、「人間とは何か」ということを考察する学問である。授業を通じて文化人類学の視点を身につけることがテーマとなる。応用編として文化人類学の立場から生と死をめぐる考察を行う。

【到達目標】
生と死をめぐる文化人類学の分析を紹介する授業を行う。生と死をめぐるさまざまな社会の慣習を学ぶことで、生と死に関して相対化した理解と考え方に到達する。1) とりあげられている知識を身につける。2) 用いられている概念を自分で説明できる。3) それらの概念をさらに周囲の社会現象に自分で当てはめて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	妊娠と出産	妊娠と出産を巡る儀礼や慣習
第 2 回	父と子	社会的存在としての「父」
第 3 回	子どもの帰属	子どものアイデンティティ形成と親族
第 4 回	人間になる	儀礼を通して形成される人間存在
第 5 回	子どもの数と家族計画	異文化の家族計画と少子化問題
第 6 回	生殖医療と人間関係	生殖医療技術と生殖にまつわる慣習
第 7 回	死の儀礼	インドネシア・トラジャ族の葬礼
第 8 回	日本社会の葬礼と他界観	魂の行方と葬礼のかたちに見る他界の表象
第 9 回	日本社会の葬礼の変容	葬礼の変化と時代の移り変わり
第 10 回	トロブリアンド社会の葬礼と他界観	異文化の葬礼と他界観にみる多様性と普遍性
第 11 回	誕生と死の世界観	神話が語る生と死の哲学
第 12 回	お供えと憑依	霊界とのコミュニケーション
第 13 回	脳死と臓器移植	死の概念と臓器移植のあり方
第 14 回	人間にとっての生と死	全体的なまとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材の箇所）を読んで予習ないしは復習を行う。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
授業支援システムの教材の箇所にアップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てること。その他は授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 6 回に出題、締切厳守 2 週間後）は 20%。随時行う授業内小テスト全部で 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。 小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は両方が含まれる。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】
開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。このシステムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】
授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。おしゃべりは周囲の学生の授業を受ける権利を妨害していることに思い至っていただきたい。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

【Outline and objectives】
Cultural Anthropology is the discipline to contemplate "what human being is" through learning human cultures and ways of life. It is the important theme for students to acquire anthropological perspective in studying this subject. Cultural Anthropology B is advanced and the analyses on life and death in the perspective of anthropology.

HIS100CA

日本史 A

古澤　直人

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際関係緊張の中で生まれた日本国家の形成と展開の特色を理解する。次に武士の台頭が対外関係の変化を背景とし，それが日本の諸地域ごとに種々の独自性をもったことを把握する。さらに，国際的環境が日本史を通じた分散と統合の重要な要素であることを認識する。関連史料を読み解きつつ，解釈の多様性や因果関係への留意など歴史的思考力の獲得をめざす。

【到達目標】
厳重な防備を持たない日本の都市の特色から日本の伝統と文化の原点を押さえる。そして，白村江の戦いの敗戦という軍事的緊張の中で成立した日本の律令国家の特質を理解する。その統一国家が，緊張緩和という国際関係変化の中で王朝国家へと変化する時代区分論を考える。そして新体制としての荘園・公領が生まれ，武士がその中で何回かの反乱や戦乱を通じて盛衰をともないつつ，政権を掌握していくわが国独自の歴史過程を考察する。最後に国家形成だけでなく，国際的環境の変化が，中世から近代まで統合と分散の要素でありつづけた問題を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業支援システムからダウンロードしたプリント教材を参照しつつ，パワーポイントにそって授業を進める。章ごとに設定された課題を考えながら、事実にもとづいて歴史事象を考える姿勢を獲得する。リアクションペーパーを毎回提出してもらう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	我が国の伝統と文化の特色	防壁なき都市，権力と権威の分離，農業開始と戦争， 白村江の戦い，国際的環境と国家形成， 日本史の教育における本授業の意味
2	軍事国家としての律令国家	戸籍と軍団制，新羅，蝦夷，隼人，東夷の小帝国
3	律令国家から王朝国家へ	対外関係変化，弓馬の士と俘囚，郡司と律令支配，時代区分
4	武士の源流	群盗蜂起，最初の武士，武器・武装の変化，地域文化の接触，弓馬と刀
5	承平・天慶の乱	反逆論理，東国自立の伝統，群盗蜂起，西国武士の特色，乱後の武士
6	源氏と平氏	平忠常の乱，頼信と関東，浅間山噴火，田地荒廃と再開発，荘園公領制
7	前九年合戦と後三年合戦	蝦夷支配の歴史，清原氏内紛，源義家と藤原清衡，平泉文化
8	院政開始と源氏・平氏	伊勢平氏の登場，河内源氏の没落，院政という政治形態
9	保元の乱・平治の乱	武士と貴族，武者の世への転換，親政と院政，平氏政権への道
10	平氏政権	厳島社の保護，日宋貿易，西国国家，海洋国家構想，治承３年のクーデター
11	治承寿永の内乱	平清盛と厳島神社、日宋貿易、福原へ遷都
12	治承・寿永の内乱	以仁王の挙兵，諸国源氏の挙兵，天下三分，十月宣旨，平家滅亡
13	日本史における分散と統合	東と西の関係，幕府と朝廷，関東公方と将軍，地域の文化
14	国際環境と国内統合	得宗政権，義満政権，織豊政権，幕末維新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にプリントで内容のあらましを把握し、授業後に授業内容を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業プリントを授業支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】
竹内理三『武士の成立』中公文庫、2009 年改版第２刷，高橋典幸・保谷徹・山田邦明『日本軍事史』吉川弘文館，2006 年

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価が中心（80 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20 %）として総合評価。なお平常点が所定に達しない学生は採点の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
内容が多すぎるとの指摘があるので内容を厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、他の人が迷惑をするので、私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

【Outline and objectives】

Understand the characteristics of the formation and development of the Japanese state.Understand that the rise of samurai has various identities for each region of Japan.Furthermore, we recognize that the international environment is an important element of diversification and integration through Japanese history.

HIS100CA

日本史 B

古澤　直人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は中世国家の形成と展開に視点をすえつつ，前後の時代も見通すことで，日本社会の統合と地域の特色・地域の自立の歴史について理解を深めることをめざす。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い，解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力を獲得してもらうことを目標とする

【到達目標】
承久の乱をへて東西に分かれた日本が，蒙古襲来を契機に統合に向かい，その反発として建武政権が成立する。その後わが国は動乱の時代に入り，義満による統合をへて，さらに戦国大名領国へと分裂し，再統合をへて近世社会・近代社会を迎える。こうしたわが国の統合と地域自立の歴史的ダイナミズムについて考察する。いくつかのテーマを論述する活動を通じて，歴史的事象には複数の歴史的解釈が成立することを理解し，同時に事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業支援システムからダウンロードしたプリント教材を参照しつつ、パワーポイントにそって授業を進める。史料を読み、章ごとに設定された課題を考えながら、事実にもとづいて歴史事象を考える姿勢を獲得したい。リアクションペーパーを毎回提出してもらう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本史における地域と統合	日本史の教育における本授業の意義、古代～近代の国際的環境と国内政治、地理的環境と文化
2	承久の乱と朝廷・幕府	東と西の分裂，乱の影響，中性的枠組みの成立
3	蒙古襲来と影響	モンゴル帝国の世界への影響，幕府による統合，経緯と影響
4	後醍醐天皇の倒幕運動	天皇不執政の伝統と専制，天皇御謀叛，朝廷による統合
5	鎌倉幕府の滅亡	討幕運動の広がり，楠木正成の伝説と実像，鎌倉時代の足利氏
6	建武新政	高氏と護良，旧御家人層の動き，恩賞不公平，造宮と造幣，天皇専制
7	南北朝の動乱	諸国の反乱，南北朝の分裂，北畠顕家の長征，後醍醐の死と人物論
8	室町幕府の成立	幕府とは何か，全武士の組織，建武式目，足利直義の思想
9	乱世の人間像	高師直の伝説と実像，執事としての師直，下剋上の原型，婆娑羅の文化
10	観応の擾乱	尊氏と直義，兄弟の相克，個人と党派，伝統と変革
11	武家統一政権の形成	武家による統合，朝廷と守護の圧伏，北山邸の造営と北山文化
12	織豊政権による統合	天下の大義，鉄砲と木綿，国郡制の枠組み
13	近世社会の展望	幕府と藩，藩士と百姓の帰属意識，話し言葉と書き言葉
14	近代社会の展望	国民国家の形成，方言と共通語，国民意識と儀礼

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前にプリントで内容のあらましを把握し、授業後に授業内容を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを授業支援システムから各自ダウンロード。

【参考書】
佐藤進一『南北朝の動乱』中公文庫、2009 年改版第２刷。網野善彦『日本社会の歴史 (上)（中）（下)』岩波新書，1997 年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価が中心（80 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20 %）として総合評価。なお平常点が所定に満たない学生は採点の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
内容が多すぎるとの指摘があったので内容を厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保ちたい。なお私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

【Outline and objectives】
This lecture aims to deepen the understanding of the integration of Japanese society and the history of the local characteristics and regional independence by looking at the formation and development of the medieval state while also forecasting the times before and after.

HIS100CA

日本史Ａ（教職）

岩橋　清美

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史の調べ方、歴史的なものの見方や考え方を養うことをめざす。教科書の記述のもとになった学説を取り上げ、関連史料を読み解きながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史を学ぶ意義を考える。

【到達目標】
日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。具体的には、先行研究や関連文献・史料を読み解きながら歴史像を構築する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、政治史を中心としながら、国際環境や地理的条件などと関連づけながら講義する。各時代の特色とその変遷の総合的な考察を通じて日本の伝統形成過程を考える。授業は講義を中心に進め、基本的な知識の習得につとめるとともに、近年の日本史研究の成果も紹介し、より専門的な事柄についても学ぶ。史料や文献の調べ方、読み方、および文献・史料に基づいて歴史像を構築する力を養うために、授業中に、適宜、史料を提示し、履修生の意見を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本列島への人類の到来	気候変動／旧石器人の生活／縄文人の生活
2	弥生時代から古墳時代へ	弥生時代の始期／水田稲作と金属器／巨大古墳の出現
3	律令国家の成立と展開	乙巳の変と諸政策／白村江の戦い／戸籍と軍団制
4	摂関政治と地方の争乱	対外関係の変化／摂関政治／東国の自立の伝統／西国武士の特色
5	鎌倉幕府と中世国家	東国国家／幕府と朝廷／承久の乱／中世的枠組みの成立
6	モンゴルの襲来	モンゴル帝国の世界への影響／幕府による統合／経緯と影響
7	南北朝の動乱	諸国の反乱／南北朝の分裂／後醍醐天皇の死と人物論
8	織豊政権	検地と刀狩／惣無事令／秀吉の対外政策
9	東アジアと近世社会	幕藩体制／長崎貿易／朝鮮と琉球・蝦夷
10	近世社会の変容	三大改革の捉え方／自然災害と復興／地域社会の自立
11	近代国家の成立	憲法制定と国会開設／日清戦争と三国干渉／日露戦争
12	第一次世界大戦と日本	大正政変／政党政治の成立／ワシントン体制と協調外交
13	満州事変からアジア太平洋戦争へ	満州事変／軍部の台頭／日中戦争／戦局の拡大
14	占領から国際社会への復帰	占領政策／サンフランシスコ平和条約／５５年体制／デタント期の政治と外交

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①レポートの作成。
②『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）を読んでおくこと。
③授業中に提示した参考文献に目を通しておくこと。
④図書館や博物館などを利用して史料を収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成にむけた準備を行う。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』全 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の大きな流れを把握し、知識を深めることを心がけてください。
『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
試験・小レポート・授業への取り組みを総合して評価します。
試験（60 %）
レポート（30 %）
平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
日本史の専門用語や学説について、できるだけ、わかりやすい説明を行います。基本的な文献の探し方、教案（授業案）作成に必要な文献についても紹介します。

【その他の重要事項】
興味・関心をもって授業にのぞんでほしいと思います。
『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）に読んでおくこと。

【Outline and objectives】
We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

HIS100CA

日本史Ｂ（教職）

岩橋　清美

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は中学校社会科・高等学校地理歴史の教員を目指すにあたり、必要な専門的知識の習得と諸資料を用いて歴史像を構築する力を養うことを目的とする。あわせて、歴史史的なものの見方や考え方を身につけることを目標とする。

【到達目標】
日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。
先行論文や諸資料などを読み解きながら歴史像を構築できるようになる。
大きな歴史の流れを理解すると同時に、各時代の特質をとらえられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、社会経済史を中心にしながら国際環境や地理的条件などと関連づけながら考える。各時代の特色とその変遷の統合的な考察を通じて、日本の伝統文化の形成過程を学ぶ。教科書記述の基盤となっている学説の紹介、さらには近年の新しい研究成果も取り上げ、一つの歴史事実に対して様々な見方や考え方があることを述べる。また、文献史料だけではなく、絵画や地図・写真などを用いて文化財・文化遺産に関する理解を深める。
授業は基本的には講義形式で行うが、適宜、史料等を提示して、履修生に意見を求める。文献・史料の調べ方・読み方を身につけるため、レポートを作成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本文化の黎明とヤマト政権	旧石器の遊動生活／縄文・弥生人の生活と信仰／巨大古墳と副葬品／倭の五王の外交
2	律令国家と天平文化	律令と官僚制／初期荘園／遣唐使と正倉院宝物
3	摂関政治と国風文化	国際関係の変化／国文学の発達／浄土の信仰／荘園の発達
4	鎌倉幕府の成立と展開	武士の生活／中世百姓の地位と権利／定期市と見世棚／鎌倉仏教
5	室町幕府と東アジア	南北朝統一／勘合貿易／婆娑羅の文化／北山文化と東山文化
6	戦国の争乱と天下統一	戦国大名の地域政策／鉄砲と木綿／南蛮貿易／桃山文化
7	江戸幕府の成立と構造	幕府と藩／村と百姓／三都の発展／農業生産の上昇と諸産業の発展
8	江戸幕府の展開と動揺	自然災害と飢饉／藩士と百姓の帰属意識／開国と幕末の動乱
9	明治国家の成立	国民国家の形成／文明開化と殖産興業／方言と標準語
10	戦間期の日本	大戦景気と恐慌／都市と農村／関東大震災／大衆文化
11	満州事変と日中戦争	満州事変の経緯／国際連盟脱退／軍部の台頭
12	第二次世界大戦	戦争拡大の理由／戦局の展開／戦時下の生活と文化／開拓民の生活
13	占領期の日本	民主化政策／日本国憲法の制定／生活の混乱と闇市
14	高度経済成長の時代	朝鮮特需と経済復興／高度経済成長／大衆消費社会の出現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①レポートの作成
②『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』（文部科学省）を読んでおくこと。
③授業時に提示した参考文献に目を通しておくこと。
④図書館や博物館などを利用して史料の収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成に向けた準備を行う。

【テキスト（教科書）】
授業中にプリントを配布する。

【参考書】
『日本の時代史』全 30 巻（吉川弘文館）、『日本史講座』第 10 巻（東京大学出版会）に目を通し、日本史の基礎知識の習得を心がけてください。

【成績評価の方法と基準】
試験・レポート・平常点を総合して評価します。
試験（60 %）レポート（30 %）平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
歴史学の専門用語や研究史等で難解なものがあるので、わかりやすく説明します。
文献や史料の探し方について指導し、教案（授業案）作成にむけた知識とスキルの習得をめざします。

【その他の重要事項】
興味・関心を持って授業に出席してほしいと思います。『高等学校学習指導解説　地理歴史編』（文部科学省）に目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】
We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

HIS100CA

世界史 A

太田　啓子

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

2010 **年度以降入学者**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：
高校までに学んだ「世界史」とは異なる、新たな世界の歴史の捉え方について学ぶ。
授業の目的：
現在の「世界史」の問題点を認識した上で、世界の歴史について新しい視点を提供している先行研究に触れる。この過程を通じて世界史を学ぶことの意義を考える。

【到達目標】
1. 現在の「世界史」が抱える問題点を具体的に指摘できる。
2. 世界の歴史について新しい視点を提供している先行研究を理解し、それを自分の言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態：
講義形式。講義後に提出するリアクションペーパーに講義への感想、質問を記入する（記入は任意）。これに対して、次回の授業で教員より解説・補足説明を行う。
なお、授業はパワーポイントのみで行い、資料の配布は行わない。従ってノートを取る能力が必要とされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的の説明
第 2 回	「世界史」の成立	現在の「世界史」が成立した経緯について概観する。
第 3 回	「世界史」の問題点	現在の「世界史」が抱える問題点について学ぶ。
第 4 回	新しい世界史/グローバル・ヒストリーとは何か	新しい世界観と歴史認識、グローバル・ヒストリーの特徴について学ぶ。
第 5 回	ヨーロッパとアジア	近世までのアジアの歴史的発展を検証し、ヨーロッパ中心の歴史観を批判した諸研究について学ぶ。
第 6 回	主観性を超えて：発展とは何か (1)	何に基づいて発展を比較するか、また地域間における発展のあり方の違いについて考える。
第 7 回	主観性を超えて：発展とは何か (2)	何に基づいて発展を比較するか、また地域間における発展のあり方の違いについて考える。
第 8 回	「新しい世界史」の視角	疫病、人口変動、環境など、従来の歴史研究ではほとんど分析対象とされることがなかった歴史学の新たな視角について学ぶ。
第 9 回	移動と交易	人・モノ・情報の移動が地域にもたらした歴史的変化、形成してきた地域間構造について考える。
第 10 回	モノの世界史	「モノ」に着目し、「モノ」を通じて世界史を概観した諸研究について学ぶ。
第 11 回	地域と世界システム	近代以前の世界システムについて考える。
第 12 回	世界市場をめぐる議論	世界市場の形成が、世界の発展のあり方にどのような影響を及ぼしたかを考察する。
第 13 回	思想のグローバル・ヒストリー	知識・思想・学問の形成・伝播が世界史に与えた影響について考える。
第 14 回	授業のまとめと到達目標の確認	春学期の授業を振り返り、授業のまとめと到達目標の確認を行う。試験の概要についても説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校時代に使用した世界史の教科書を事前に一読することが望ましい。また、テキスト、参考書にもあらかじめ目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】
水島司『グローバル・ヒストリー入門（世界史リブレット 127）』、山川出版社、2010 年。

【参考書】
羽田正『新しい世界史へ：地球市民のための構想』、岩波書店、2011 年。
水島司編『グローバル・ヒストリーの挑戦』、山川出版社、2008 年。

【成績評価の方法と基準】
1. 授業への参加度（リアクションペーパーの提出で判断）： 30 %
2. 試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーにおける学生からの提案を授業に反映させる。

【Outline and objectives】
Outline of the lecture:
To learn how to grasp the history of the world
Objectives of the lecture:
To recognize the problems of the current world history, and learn the new perspectives for it

HIS100CA

世界史 B

太田　啓子

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：
高校までに学んだ「世界史」とは異なる、新たな世界の歴史の捉え方について学ぶ。
授業の目的：
春学期の「世界史 A」に引き続き、新たな視点から世界史を捉え直し、その中に自分自身を位置づけることを試みる。秋学期は具体的な「モノ」に着目してテーマを設定し、そのテーマを通じて世界史を概観する。「世界史 A」を履修していなくても受講可能。

【到達目標】
1. 講義で取り上げる「モノ」を通じて世界史を概観し、自分の言葉で説明することが出来る。
2. 講義で出てきた地域、国、都市等の地理的情報についても理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態：
講義形式。講義後に提出するリアクションペーパーに講義への感想、質問を記入する（記入は任意）。これに対して、次回の授業で教員より解説・補足説明を行う。
なお、授業はパワーポイントのみで行い、資料の配布は行わない。従ってノートを取る能力が必要とされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的の説明
第 2 回	乳香と乳香をめぐる文化	乳香というファクターに着目し、「ヨーロッパ必需品の生産地としてのアジア」を考える。
第 3 回	香辛料が作る世界史	インド洋貿易で行われていた多様な商品取引の中で、なぜ香辛料が着目されたのかを考える。
第 4 回	ガラス器の展開	国際取引品としてのガラス器の歴史を概観し、ヨーロッパとアジアの関係について考える。
第 5 回	モスク建築の変遷	モスク建築の変遷の歴史を学び、建築と権力の関係について考える。
第 6 回	世界飲料としてのコーヒー	コーヒーの伝播の歴史を概観し、なぜコーヒーが世界飲料となり得たのかを考察する。
第 7 回	タバコの受容と伝播	タバコが嗜好品として世界に広がっていく経緯を概観し、なぜタバコが受容されていったのかについて考える。
第 8 回	砂糖と生活	砂糖の精製技術がアジアからヨーロッパ、新大陸へと広まっていった経緯について学び、砂糖が国際関係にもたらした影響について考察する。
第 9 回	お茶とイギリス帝国	世界飲料の 1 つである茶に着目し、その歴史的影響を考察する。
第 10 回	貨幣と交易	貨幣の発展の歴史について概観し、交易を支えるファクターとしての貨幣の機能を考える。
第 11 回	石油を支配する者	近年誕生した石油産業と国際関係について概観し、現代のエネルギー問題を考察する。
第 12 回	紙	世界史において紙が果たしてきた役割を考える。
第 13 回	ワイン	世界飲料の 1 つであるワインに着目し、その歴史的影響を考察する。
第 14 回	講義のまとめと到達目標の確認	秋学期の授業を振り返り、授業のまとめと到達目標の確認を行う。試験の概要についても説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ノートのまとめなどを通じて授業の復習をしておくこと。講義内で出てきた地域、国、都市等についても地図中に落とし込めるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
シドニー・ミンツ『甘さと権力：砂糖が語る近代史』、平凡社、1988 年。
そのほか、各回の授業テーマに応じて適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1. 授業への参加度（リアクションペーパーの提出で判断）： 30 %
2. 試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーにおける学生からの提案を授業に反映させる。

【Outline and objectives】
Outline of the lecture:
To learn how to grasp the history of the world
Objectives of the lecture:
To learn the new perspectives for the world history, especially through the history of the things ("mono, in Japanese")

HIS100CA

世界史Ａ（教職）

鈴木　茂

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2 単位

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中高生の「世界史離れ」、あるいは「世界史嫌い」が叫ばれて久しい。この授業では、中学校、高等学校の授業を念頭に置いて、いかに世界の歴史への関心を引き出すか、その方法について、受講者とともに考えます。また、史料（文字史料、映像）を用いた世界史教育の方法について、史料の読解のスキルや映像を利用する際に必要となるメディアリテラシーについて、実践的に学ぶ。今学期は「世界史における隷属」を軸として、古代～近代までの社会経済の変化、その政治的背景を中心に学びます。

【到達目標】
　この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、（1）歴史への関心を引き出す方法、（2）史料を使った歴史教育の方法、（3）世界史の大きな流れの理解、の３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
A. 通常のの授業は次のように行います。（1）授業の冒頭の２０～３０分を使い、資料読解・購読を行います。一次史料、研究書、教科書など、各回のテーマに即した配布資料に基づき、指定する課題について小レポートをまとめ、授業内に提出してもらいます。（2）講義。前回の課題レポートの講評を含みます。（５０～６０分）、（3）授業についてのリアクションペーパー作成。
B. 映像鑑賞の回は、授業の終わりにコメントをリアクションペーパーとして提出してもらい、鑑賞した次の回に小レポートを提出してもらいます（８００字程度）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方。
第 2 回	変わる歴史教育	戦後学制改革と「社会科　世界史」の誕生。新学習指導要領の理念。
第 3 回	史料から考える世界史	史料を使った世界史教育の方法。
第 4 回	世界史における「隷属」	地中海世界、東アジア、南北アメリカの比較
第 5 回	地中海世界の成立と古代の奴隷制度。	共和政ローマにおける奴隷制社会と奴隷反乱。
第 6 回	映画鑑賞	映画「スパルタカス」（1960）鑑賞。
第 7 回	近世のグローバル化	世界システム論の観点から大航海時代の意味を考える。
第 8 回	大西洋世界の成立	ラテンアメリカ、カリブ海地域の植民地化。
第 9 回	南北アメリカの黒人奴隷制度	大西洋奴隷貿易の歴史的意味。
第 10 回	大西洋世界における北アメリカ	「南北戦争・再建」の時代。
第 11 回	映画鑑賞２	マーガレット・ミッチェルと「南部史観」と映画「国民の創生」（1914）鑑賞。
第 12 回	歴史教育とメディアリテラシー	「南北戦争の南部史観」から歴史における記憶を考える
第 13 回	近代アジアをめぐる人の移動	日本からの海外移住と多文化化する現代日本社会
第 14 回	まとめ	隷属から見た世界史からわかること

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定する参考文献を読むこと。
高校時代に使用した「世界史」の教科書を通読しておくとよい。

【テキスト（教科書）】
歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年。この本の中から３章を選び、小レポートを提出してもらいます。できる限り、自分で購入して、レポートの課題とならなかった章も読んでください。教職希望者は、必ず購入して熟読してください。

【参考書】
各自の高等学校世界史教科書。
マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』全５冊、新潮文庫、1977 年。
本田創造『新版　アメリカ黒人の歴史』岩波新書、1991 年。
土井正興『新版　スパルタクスの蜂起』青木書店、1988 年。
弓削達『地中海世界とローマ帝国』岩波書店、1977 年。
弓削達『ローマ帝国とキリスト教』河出書房新社、1989 年。
マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』全５冊、新潮文庫、1977 年。
本田創造『新版　アメリカ黒人の歴史』岩波新書、1991 年。
青木冨貴子『「風とともに去りぬ」のアメリカ』岩波新書、1996 年。
ナタリー・Z・デーヴィス（中條献訳）『歴史叙述としての映画』岩波書店、2007 年。
森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店、2008 年。
津野田興一『世界史読書案内』岩波書店、2010 年。
桃木至朗『わかる歴史　面白い歴史　役に立つ歴史』大阪大学出版会、2009 年。
大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく　歴史学の学び方』大月書店、2016 年。

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の授業時に実施する課題　50%（2）教科書の中から指定した３本の論考に関する小レポート 30%（3）授業で鑑賞する映像に関する小レポート 10%、（4）平常点（授業内での発表等、授業への参加度）10%。なお、期末試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】
高校で「世界史 B」を履修してしていない受講者にもできるだけ配慮して授業を進めます。世界史の基本的な知識が足りないと自覚している履修者は、高校「世界史 A」で使用した教科書を読み直しておくことを勧めます。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
（1）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象としていますが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎します。
（2）出席を重視します。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡してください。やむを得ない場合は、事後でも構いません。
（3）秋学期開講の「世界史 B」も履修することを勧めます。

【Outline and objectives】
Since several years ago, Junior and senior high school students' "aversion to the world history" became apparent. In this class, we will think about how to draw out the interest to the world history together. Students will acquire skills of reading and comprehension of historical materials and the media literacy using movies. In this class, we will think about world history focusing various types fo "servitude" in the history.

HIS100CA

世界史Ｂ（教職）

鈴木　茂

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2015 年度以降入学者※ 2014 年度以前入学者は教職科目

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中高生の「世界史離れ」、あるいは「世界史嫌い」が叫ばれて久しい。この授業では、中学校、高等学校の授業を念頭に置いて、いかに世界の歴史への関心を引き出すか、その方法について、受講者とともに考えます。また、史料（文字史料、映像）を用いた世界史教育の方法について、史料の読解のスキルや映像を利用する際に必要となるメディアリテラシーについて、実践的に学ぶ。今学期は近代世界の成立を軸として、「地理上の発見」以降のヨーロッパの膨張と世界各地の政治、社会経済の変化、思想・文化の創造を中心に学びます。

【到達目標】
この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、（１）歴史への関心を引き出す方法、（２）史料を使った歴史教育の方法、（３）世界史の大きな流れの理解、の３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
A. 通常のの授業は次のように行います。（１）授業の冒頭の２０～３０分を使い、資料読解・購読を行います。一次史料、研究書、教科書など、各回のテーマに即した配布資料に基づき、指定する課題について小レポートをまとめ、授業内に提出してもらいます。（２）講義。前回の課題レポートの講評を含みます。（５０～６０分）、（３）授業についてのリアクションペーパー作成。
B. 映像鑑賞の回は、授業の終わりにコメントをリアクションペーパーとして提出してもらい、鑑賞した次の回に小レポートを提出してもらいます（８００字程度）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方。
第 2 回	「社会化世界史」の誕生と新学習指導要領	高校「世界史Ａ」と「世界史Ｂ」の考え方の異同、新学習指導要領の「歴史的思考力」。
第 3 回	「グローバルヒストリー」とは何か	新しい世界史の枠組み。
第 4 回	歴史としての 20 世紀	「短い 20 世紀」と「長い 20 世紀」
第 5 回	映画鑑賞	映画「ここで君たちを待っている」鑑賞。
第 6 回	ルネサンス・宗教改革・地理上の発見１	モア『ユートピア』から「地理上の発見」の影響を考える。
第 7 回	「ルネサンス・宗教改革・地理上の発見２	デフォー、スウィフトの旅から近代世界成立を考える。
第 8 回	産業革命と大西洋交易圏	スミス『国富論』から見える産業革命直前の世界。
第 9 回	近代資本主義とカリブ海	「周辺」の視点から、近代世界を捉え直す。
第 10 回	世界システムと日本	「世界システム」から見る日本近世・近代。
第 11 回	植民地主義の歴史をどう考えるか	フランツ・ファノン『黒い皮膚と白い仮面』を読む。
第 12 回	映画鑑賞	映画「マルチニックの少年」（1983）。
第 13 回	一国史観と世界史	大塚久雄「横倒しの世界史」の問題点。
第 14 回	まとめ	「近代世界」は２１世紀に何を残したか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校で使用した「世界史」教科書をじっくり読んでおくことを勧めます。

【テキスト（教科書）】
歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014 年。教職希望者は必ず自分で購入して全巻読むでください。

【参考書】
各自の高等学校世界史教科書。
川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書（1996 年）。
大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014 年。
木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波新書、2014 年。
川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書（1996 年）。
村井章介『海から見た戦国時代』ちくま新書（1997 年）。
森谷公俊『学生をやる気にさせる歴史の授業』青木書店、2008 年。
津野田興一『世界史読書案内』岩波書店、2010 年。
桃木至朗『わかる歴史　面白い歴史　役に立つ歴史』大阪大学出版会、2009 年。
大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく　歴史学の学び方』大月書店、2016 年。

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の授業時に実施する課題　50%（2）教科書の中から指定した３本の論考に関する小レポート 30%　（３）授業で鑑賞する映像に関する小レポート 10%、（４）平常点（授業内での発表等、授業への参加度）10%。なお、期末試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】
高校で「世界史 B」を履修していない履修者にも配慮して、授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
（１）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象としていますが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎します。
（２）出席を重視します。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡してください。やむを得ない場合は、事後でも構いません。
（３）秋学期開講の「世界史 B」も履修することを勧めます。

【Outline and objectives】
Since several years ago, Junior and senior high school students' "aversion to the world history" became apparent. In this class, we will think about how to draw out the interest to the world history together. Students will acquire skills of reading and comprehension of historical materials and the media literacy using movies. In this class, we will think about world history focusing on the formation of modern world since "expansion" of Western Europe.

LAW100CA

法学 A

菅　富美枝

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　春学期は、法律学とはどのような学問であるのか、その特徴を知ることを通して、法的な思考方法を修得する。

【到達目標】
良識ある公民として、現代社会において主体的に行動し、平和で民主的な国家・社会の有意な形成者となることを目指して、法律学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。さらに、わが国の司法制度全般が見えてくるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業は教科書に沿って進められるが、教科書の内容を補うため、講義の中で、関連する条文や事例が数多く紹介される。それらは黒板を用いて説明される。受講生はこれらを書き写すことを通して、法学の基礎知識を記憶、理解、修得していく。また、授業時間内には、クイズ形式で挙手で答える問題が多く出されるため、積極的に参加することが求められる。この他、講義では、六法全書が頻繁に用いられるため、条文を早く引けるよう、授業時間内の集中力が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	法的三段論法の基礎、権力分立、法の支配
第 2 回	法学における議論の特徴①	法規の構造
第 3 回	法学における議論の特徴②	「法解釈」の必要性とその意味
第 4 回	法学における議論の特徴③	事実認定のルール
第 5 回	法解釈の諸方法①	法令用語の練習 (1) ： ・推定する、みなす ・科する、課する
第 6 回	法解釈の諸方法②	法令用語の練習 (2) ： ・及び、並びに ・又は、若しくは
第 7 回	法解釈の諸方法③	条文、条項の呼び方： 条・項、号、ただし書、前段・後段
第 8 回	法解釈の諸方法④	解釈の仕方：「この橋、車馬通行止め」
第 9 回	法の体系と形式①	法の分類 (1) ： ・公法と私法 ・一般法と特別法 ・実体法と手続法
第 10 回	法の体系と形式②	法の分類 (2) ： ・民事と刑事 ・制定法のいろいろ ・判例の重要性、判決の検索、読み方
第 11 回	司法制度①	民事裁判
第 12 回	司法制度②	刑事裁判
第 13 回	司法制度③	違憲審査制度
第 14 回	総復習	半年間の講義のまとめと練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に書き写したノートの見直し。毎回、かなりの板書量になるため、定期的な整理を怠らないこと。追加資料は「授業支援システム」を用いて配布されるため、各自ダウンロードして授業に臨み、また、復習に活用すること。

【テキスト（教科書）】
道垣内弘人『プレップ　法学を学ぶ前に』（弘文堂）
六法全書

【参考書】
市川正人・酒巻匠・山本和彦『現代の裁判〔第７版〕』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の成績による (100%)。試験においては、単なる知識の暗記ではなく、思考力、理解力、論理構成力が求められる。

【学生の意見等からの気づき】
前年同様、黒板を有効的に用いる。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to help students acquire "legal thinking". In the spring semester students will learn about the basic character of Legal Studies.

LAW100CA

法学 B

菅　富美枝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自由な市場とは、どのような法理念・法構造を背景に実現されているのか、契約法を学ぶことを通して、経済的自由主義の考え方を修得し、また消費者教育を身につける。

【到達目標】
自覚ある消費者市民として、消費者社会において主体的に行動し、自由で活気ある市場経済の有意な形成者となることを目指して、法律学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。さらに、わが国の契約法全般が見えてくるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教科書に沿って進められるが、教科書の内容を補うため、講義の中で、関連する条文や事例が数多く紹介される。それらは黒板を用いて説明される。受講生はこれらを書き写すことを通して、法学の基礎知識を記憶、理解、修得していく。
　また、授業時間内には、クイズ形式で挙手で答える問題が多く出されるため、積極的に参加することが求められる。この他、講義では、六法全書が頻繁に用いられるため、条文を早く引けるよう、授業時間内の集中力が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	契約法を学ぶ意義： 契約が必要になるとき
第 2 回	契約法総論①	・紛争解決と裁判所 ・契約自由の原則 ・民法が定める契約の種類
第 3 回	契約法総論②	・契約の成立とは ・申込みと承諾
第 4 回	契約法総論③	契約の成否と交渉破棄
第 5 回	契約当事者①	契約を結ぶ能力
第 6 回	契約当事者②	代理制度
第 7 回	契約の効力①	契約の有効性 (1) 心理留保、虚偽表示
第 8 回	契約の効力②	契約の有効性 (2) 錯誤、詐欺、強迫
第 9 回	契約の履行①	「弁済」とは
第 10 回	契約の履行②	履行過程におけるリスク
第 11 回	契約違反①	さまざまな契約違反
第 12 回	契約違反②	どのような救済手段があるか
第 13 回	契約違反③	損害賠償請求
第 14 回	契約の終了	解除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に書き写したノートの見直し。毎回、かなりの板書量になるため、定期的な整理を怠らないこと。追加資料は「授業支援システム」を用いて配布されるため、各自ダウンロードして授業に臨み、また、復習に活用すること。

【テキスト（教科書）】
道垣内弘人『リーガルベイシス民法入門』（日本経済新聞社）
六法全書

【参考書】
大村敦志『生活民法入門――暮らしを支える法』（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の成績による (100%)。試験においては、単なる知識の暗記ではなく、思考力、理解力、論理構成力が求められる。

【学生の意見等からの気づき】
前年同様、黒板の有効的な活用を心がける。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to introduce the framework of Contract Law. In the autumn semester stundets will learn about the function of contract law in the fair and free market. This will also enhance your understanding of consumer rights.

SOC100CA

社会学 A

高橋　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気付き、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

【到達目標】
履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の「題材」を使って、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
2	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
3	社会を感じる　その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
4	コミュニケーション論入門	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
5	コミュニケーション論入門　その 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
6	コミュニケーション論入門　その 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
7	メディアの歴史　その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
8	メディアの歴史　その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
9	メディアの歴史　その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
10	メディアの歴史　その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
11	現代の社会について考える　その 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます
12	現代の社会について考える　その 2	旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
13	現代の社会について考える　その 3	住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。
14	現代の社会について考える　その 4	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1-3　学生は「社会的なもの」について考えます
4 自分が社会について考えるための題材を決めます
5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
7-10　自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどういうものなのかを考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどういうものなのかを考えます
14. 学生はここまでの授業をふりかえり、自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】
宿題（50 %）と、期末レポートまたは期末試験（50 %）によります。宿題は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。期末レポートまたは期末試験は、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
期末レポートについて、なるべく早めに相談できるようにします。

【Outline and objectives】
In sociology, students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.
Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own

SOC100CA

社会学Ｂ

高橋　徹

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】
履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の「題材」を使って、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題（2）	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題（3）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（4）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（5）	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1　学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
2-4　自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
5　自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
6-8　自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
9　自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
10　自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
11　自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
12　自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
13　自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
14　学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
宿題（50 %）と、期末レポートまたは期末試験（50 %）によります。宿題は、各課題テーマの意義を理解して、正しく取り組めていれば評価します。期末レポートまたは期末試験は、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
期末レポートについて、なるべく早めに相談できるようにします。

【Outline and objectives】
In sociology, students think about the current society using sociological methods.
Students discover problems and think about solution about the society in which they live

PSY100CA

心理学 A

松野　響

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。ものの見え方や思考、言語に関する心の働きなど、幅広いトピックスについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説を受け、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

【到達目標】
　現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
　動画や心理実験のデモンストレーションをまじえながら、講義形式で授業をおこなう。（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説しない。心のメカニズムに対する科学的なアプローチによる研究の紹介が中心になる）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	心理学の方法論	「心」への科学的なアプローチについて
2	感覚と知覚	感覚知覚について
3	色覚	色が見える仕組みについて
4	形態視	形の認識について
5	注意	視覚的注意の仕組みについて
6	視覚以外の感覚および感覚間相互作用	聴覚、味覚、嗅覚、体性感覚、および感覚間の相互作用について
7	学習	学習の原理について
8	知覚学習	知覚学習の仕組みについて
9	短期記憶	短期記憶の仕組みについて
10	長期記憶	長期記憶の仕組みについて
11	思考	思考・創造性について
12	意思決定	意思決定と判断のバイアスについて
13	言語	ことばの起源と発達について
14	言語	思考と言語の相互作用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を事前に読み、授業で紹介するトピックについて事前に自分で考える。授業で学習したことを復習する。授業で興味を引かれた内容については、紹介する参考図書や引用されている文献に直接あたり、理解を深める。また心理実験を実際に体験し、実証的な心へのアプローチの方法論への理解を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書はもちいない。

【参考書】
トピックごとに授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績 (84%)、および授業時に課す課題 (授業トピックに関するレポート、心理学実験・心理学調査への参加体験およびその考察) の提出 (16%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布や授業に関する各種連絡、課題の提出のために授業支援システム等オンラインのシステムを使用する。

【Outline and objectives】
This course is an introduction to the science of psychology.Students will learn about the latest research on topics such as perception, learning, memory and language.

PSY100CA

心理学 B

松野　響

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。意識、感情、他者との関わりに関する心の働きなど、幅広いトピックスについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説を受け、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

【到達目標】
　現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
　動画や心理実験のデモンストレーションをまじえながら、講義形式で授業をおこなう。（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説しない。心のメカニズムに対する科学的なアプローチによる研究の紹介が中心になる）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	意識の科学	意識・無意識の情報処理について
2	時間の認識	時間知覚、過去・未来の認識について
3	感性情報処理の仕組み	選好の仕組みについて
4	嗜好・選好性	色・音楽・社会的刺激の嗜好・選好について
5	基本情動	情動に関する諸理論について
6	高次感情	複雑で複合的な感情について
7	自己身体の認識	身体感覚について
8	身体化された認知	心と身体の相互作用について
9	自己の知覚	自己身体と自己認識について
10	自己概念	顕在的・潜在的な自己認識について
11	他者知覚	社会的情報の知覚について
12	他者の心の理解	他者の心的状態の認識について
13	他者の理解を支える情報処理	視線・意図の認識について
14	社会と心	他者から受ける影響について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を事前に読み、授業で紹介するトピックについて事前に自分で考える。授業で学習したことを復習する。授業で興味を引かれた内容については、紹介する参考図書や引用されている文献に直接あたり、理解を深める。また心理実験を実際に体験し、実証的な心へのアプローチの方法論への理解を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書はもちいない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
定期試験の成績 (84%)、および授業時に課す課題 (授業トピックに関するレポート、心理学実験・心理学調査への参加体験およびその考察) の提出 (16%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や授業に関する各種連絡のため授業支援システムを使用する。

【Outline and objectives】
This course is an introduction to the science of psychology.Students will learn about the latest research on topics such as consciousness, time perception, emotion, and social cognition.

PLN100CA

数学 A

佐柄　信純

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
解析学は変化する量を扱う科学です．経済学は不断に変動する経済量を分析します．本講義では，経済理論の理解に不可欠な解析学の基礎を入門レベルから解説します．A では 1 変数および多変数の微分法を，B ではラグランジュ乗数法と積分法をできるだけ分かり易く講義します．

【到達目標】
経済の専門科目の講義を理解するのに必要な数学を修得するのが目標です．特に，ミクロ経済学と統計学への微積分の応用に力点を置きます．また，数学の奥深さを知ってもらうために，難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組 (NHK スペシャル) や映画を数回視聴します．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に基づき授業を進めます．100 分の授業のうち，80 分を講義にあて，残りの 20 分で講義内容に関する演習問題を各自解いてもらいます．毎回，それを提出し，次回の授業時に答え合わせをして返却します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	数学と経済学 (1)	等式
第 2 回	数学と経済学 (2)	関数
第 3 回	数学と経済学 (3)	数学と経済学の関係
第 4 回	1 変数連続関数 (1)	関数の連続性
第 5 回	1 変数連続関数 (2)	連続関数の逆関数
第 6 回	1 変数連続関数 (3)	連続関数の合成関数
第 7 回	1 変数関数の微分法 (1)	微分の基礎，合成関数の微分法
第 8 回	1 変数関数の微分法 (2)	積と商の微分法，逆関数の微分法
第 9 回	1 変数関数の微分法 (3)	指数関数，対数関数
第 10 回	1 変数関数の微分法 (4)	需要の価格弾力性，接線と 1 次近似
第 11 回	1 変数関数の最適化 (1)	極値の 1 階の条件
第 12 回	1 変数関数の最適化 (2)	凸関数
第 13 回	1 変数関数の最適化 (3)	2 次近似と 2 階の条件
第 14 回	ビデオ教材の視聴	NHK スペシャル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます．必要に応じて，適宜宿題を課します．

【テキスト（教科書）】
小宮英敏『入門 経済学のための微分・積分』，東洋経済新報社，2015 年

【参考書】
高校レベルの数学の復習が必要な学生には，次のテキストを推奨します．
[1] 尾山大輔・安田洋祐 編著『経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』，改訂版，日本評論社，2013 年
本講義のレベルを超えて，さらに経済数学を学びたい学生には次のテキストを薦めます．
[2] 武隈愼一・石村直之『基礎コース 経済数学』，新世社，2003 年
[3] 立石 寛・武藤 功『経済数学への招待』，勁草書房，1994 年
[4] A.C. チャン・K. ウエインライト『現代経済学の数学基礎 (第 4 版)』，シーエーピー出版，2010 年
数学に関する面白い読み物として，次のものを薦めます．
[5] マーシャ・ガッセン『完全なる証明― 100 万ドルを拒否した天才数学者』，文藝春秋，2009 年
[6] サイモン・シン『フェルマーの最終定理』，新潮文庫，2006 年
[7] 高瀬正仁『岡潔―数学の詩人』，岩波新書，2008 年
[8] ポール・ホフマン『放浪の天才数学者エルデシュ』，草思社，2000 年
[9] G.H. ハーディ・C.P. スノー『ある数学者の生涯と弁明』，シュプリンガー・フェアラーク東京，1994 年

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価．試験は持ち込み不可で行います．振り替え試験，レポート提出による成績評価は一切行いません．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します．

【Outline and objectives】
In this course elementary calculus is lectured. Differentiation with multivariable is the main theme.

PLN100CA

数学 B

佐柄　信純

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
解析学は変化する量を扱う科学です．経済学は不断に変動する経済量を分析します．本講義では，経済理論の理解に不可欠な解析学の基礎を入門レベルから解説します．A では 1 変数および多変数の微分法を，B ではラグランジュ乗数法と積分法をできるだけ分かり易く講義します．

【到達目標】
経済の専門科目の講義を理解するのに必要な数学を修得するのが目標です．特に，ミクロ経済学と統計学への微積分の応用に力点を置きます．また，数学の奥深さを知ってもらうために，難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組 (NHK スペシャル) や映画を数回視聴します．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に基づき授業を進めます．100 分の授業のうち，80 分を講義にあて，残りの 20 分で講義内容に関する演習問題を各自解いてもらいます．毎回，それを提出し，次回の授業時に答え合わせをして返却します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	2 変数関数の微分法 (1)	R^2 の世界
第 2 回	2 変数関数の微分法 (2)	2 変数関数，2 変数関数の連続性
第 3 回	2 変数関数の微分法 (3)	2 変数関数の微分可能性，偏微分
第 4 回	2 変数関数の微分法 (4)	接平面，合成関数の微分法
第 5 回	2 変数関数の最適化 (1)	制約なしの極値問題，等値線
第 6 回	2 変数関数の最適化 (2)	制約付き極値問題，陰関数（関係の中に隠れている関数）
第 7 回	2 変数関数の最適化 (3)	ラグランジュ未定乗数法と陰関数，消費者と需要関数
第 8 回	1 変数関数の積分法 (1)	定積分，不定積分
第 9 回	1 変数関数の積分法 (2)	置換積分法，部分積分法
第 10 回	1 変数関数の積分法 (3)	無限区間上の定積分と確率密度関数
第 11 回	2 変数関数の積分法 (1)	2 変数関数の積分
第 12 回	2 変数関数の積分法 (2)	1 次元正規分布の確率密度関数
第 13 回	2 変数関数の積分法 (3)	R^2 上の積分と 2 次元正規分布，確率密度関数の行列表示
第 14 回	ビデオ教材の視聴	NHK スペシャル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の講義箇所を事前に読んだ上で授業に出席することが求められます．必要に応じて，適宜宿題を課します．

【テキスト（教科書）】
小宮英敏『入門 経済学のための微分・積分』，東洋経済新報社，2015 年

【参考書】
高校レベルの数学の復習が必要な学生には，次のテキストを推奨します．
[1] 尾山大輔・安田洋祐 編著『経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』，改訂版，日本評論社，2013 年
本講義のレベルを超えて，さらに経済数学を学びたい学生には次のテキストを薦めます．
[2] 武隈愼一・石村直之『基礎コース 経済数学』，新世社，2003 年
[3] 立石 寛・武藤 功『経済数学への招待』，勁草書房，1994 年
[4] A.C. チャン・K. ウエインライト『現代経済学の数学基礎 (第 4 版)』，シーエーピー出版，2010 年
数学に関する面白い読み物として，次のものを薦めます．
[5] マーシャ・ガッセン『完全なる証明― 100 万ドルを拒否した天才数学者』，文藝春秋，2009 年
[6] サイモン・シン『フェルマーの最終定理』，新潮文庫，2006 年
[7] 高瀬正仁『岡潔―数学の詩人』，岩波新書，2008 年
[8] ポール・ホフマン『放浪の天才数学者エルデシュ』，草思社，2000 年
[9] G.H. ハーディ・C.P. スノー『ある数学者の生涯と弁明』，シュプリンガー・フェアラーク東京，1994 年

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価．試験は持ち込み不可で行います．振り替え試験，レポート提出による成績評価は一切行いません．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します．

【Outline and objectives】
In this course elementary calculus is lectured. Lagrange multiplier method is the main theme.

PHY100CA

物理学 A

藤田　貢崇

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙の起源や宇宙のさまざまな天体の特徴とそれらが示す現象について学びます。科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。

【到達目標】
　基本的な宇宙を支配する物理法則の基礎や、天体の特徴、宇宙の歴史などを知り、特異的な天体の現象を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
　講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識するような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学が扱うスケール	物理学がどのような領域であるのか、その大きさをもとに考察する
3	極限の世界	宇宙と素粒子について、その関係性を理解する
4	宇宙を探る手法	宇宙を観測する方法について理解する
5	宇宙の構成要素	宇宙はどのようなものから成り立っているのかを理解する
6	初期宇宙とインフレーション	宇宙の初期に起こった現象について理解する
7	物質の状態	宇宙空間における物質はどのような状態で存在するかを理解する
8	暗黒物質	暗黒物質の発見の経緯を理解する
9	暗黒物質の候補	暗黒物質の候補となっている部室はなんであるかを理解する
10	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
11	暗黒エネルギーが描く宇宙の未来	暗黒エネルギーの存在によって、宇宙の将来像がどう変わるかを理解する
12	恒星の一生	恒星はどのような歴史を辿るのかを理解する
13	超新星爆発	恒星の最期の姿である超新星爆発が私たちの現在に及ぼす意義を理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

【テキスト（教科書）】
『ミクロの窓から宇宙をさぐる』（藤田貢崇）、NHK 出版、2017 年、905 円（税抜）

【参考書】
・Nature ダイジェスト教材活用事例：　http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video

【成績評価の方法と基準】
　期末試験（春学期末）を実施する【100%】。

【学生の意見等からの気づき】
　毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
　授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
　授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】
Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, the history of Universe, various kinds of astronomical object, and so on.
The course aims to understand the nature and structure of Universe, as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学 B

藤田　貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この宇宙を形成している物質の起源や構造、素粒子物理学の基本的内容について学びます。科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】
　宇宙論や素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
　講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識するような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	科学技術の発展と課題	科学技術の発展に伴って、現代社会にどのような問題が生じたかを考える
2	宇宙における円盤の存在	宇宙には円盤をとる天体が多いが、その理屈を考える
3	太陽系の歴史	太陽系の形成過程を理解する
4	元素の概念	元素について理解し、ものの構成要素を論理的に説明する
5	原子の構造と放射性崩壊	原子構造と放射性崩壊を理解する
6	原子の概念の歴史	原子の発見の経緯と研究方法を理解する
7	自然界の４種類の力	素粒子論で考えられている、４種類の力について理解する
8	錬金術を科学する	中世の錬金術について知り、現代科学との関連性を理解する
9	核反応	原子核反応とその応用（原子力発電）について理解する
10	素粒子を探る	現代の素粒子物理学の概要を理解する
11	真空エネルギー	宇宙の誕生に重要な役割を果たした「真空のエネルギー」を理解する
12	二重スリット実験	波と粒子の特徴を合わせもつ素粒子の振る舞いを理解する
13	超弦理論	極微の世界を表すための超弦理論について理解する
14	科学技術の未来	科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

【テキスト（教科書）】
『ミクロの窓から宇宙をさぐる』（藤田貢崇）、NHK 出版、2017 年、905 円（税抜）

【参考書】
· Nature ダイジェスト教材活用事例: http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video

【成績評価の方法と基準】
　期末試験（秋学期末）を実施する【100%】。

【学生の意見等からの気づき】
　毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
　授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
　授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。
　本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】
The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.
The course aims to understand the nature and structure of Universe and matters, as well as relation between science and society.

PLN100CA

地学 A

原　芳生

開講時期：**春学期授業/Spring**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では見られない自然も多く存在する北アメリカという地域を選び、地球科学（地学）的を題材を中心に取り上げて、自然がいかに構成されているかを学んでいく。それに加えて、国立公園システムの創設など多様な環境保全に対する考え方があることを知り、現代人が自然との共生（環境問題や防災等）を考えるための知識や方法を学ぶ。地学Ａでは特に地形環境について考えていく。

【到達目標】
日本ではあまり見られない自然環境があることを認識することができる。
いろいろな自然環境のシステムができていることで、自然の複雑さを意識できるようになる。
地域の違いによる環境問題や自然災害の状況の相違点を知ることができる。
多様な自然と人間生活との関連を知ることにより、なぜ自然環境を保全していかなければいけないかということに気づくことができる。
いろいろな環境保全の考え方があることを確認できる。
地学Ａでは、特に多様な地形環境について知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主として教員が講義をする。テキストは使用せず、配付プリントを材料として説明することが基本となる。図表の説明が多くなるので多色に彩色して記録できると分かり易い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 講	地学・地球科学とは。	地球科学の学問体系とは。
第 2 講	自然環境の捉え方。	参考文献等の解説。 自然を如何にとらえるか。
第 3 講	地形の見方。	地形について科学的にとらえるにはどのような方法があるか。
第 4 講	北アメリカの地形区分。	地形区分の方法。 アメリカ大陸の形成。
第 5 講	東部の山地と海岸平野－１	アパラチア山脈と高原。 地形的障害。
第 6 講	東部の山地と海岸平野－２	ピードモントと海岸平野。
第 7 講	中央部の平原	中央低地。カナダ楯状地。グレートプレーンズ。
第 8 講	西部の山地－１	ロッキー山脈。コロラド高原。ベイズンアンドレンジ。
第 9 講	西部の山地－２	コロンビア高原。内陸山脈。海岸山脈。
第 10 講	氷河の影響を受けた地形－１	氷河時代。大陸氷床。
第 11 講	氷河の影響を受けた地形－２	山岳氷河。周氷河地形
第 12 講	環境問題－ 1	土壌侵食。
第 13 講	地形と人間生活。	地形の影響をうけた、北アメリカの人間生活。
第 14 講	春学期の講義内容のまとめ。	まとめ：どのような地形配列になっていたか。その生成の仕組みのまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付されたプリントは事前によく読み、毎時間必ず持参する。前の授業の内容をよく復習して次の授業に望む。平易な用語等は紹介された辞書などの参考文献で、まず自分で確かめる。自分で進んで参考文献を読んでみる。自分で関連したことがらを調べてみる。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義中に適時プリントを配布。

【参考書】
世界地誌シリーズ４『アメリカ』　矢ヶ崎典隆編，朝倉書店
アメリカ大陸の自然誌１『アメリカ大陸の誕生』　赤沢　威他編，岩波書店
『アメリカ環境史』　小塩和人，上智大学出版
朝倉世界地理講座 13『アメリカ・カナダ』　小塩和人・岸上伸啓編，朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
春学期講義内容に関する期末試験の結果で 100%評価する。
講義内容がどれだけ正しく理解されているかを評価の基準とする。
北アメリカの地形の全体構造と、異なる地域の地形的特徴が正しく理解できているか。

【学生の意見等からの気づき】
本年度も、講義中に使用したプリントで配付できない写真や図は、ウェブシステムで閲覧できるようにしていく。
講義中に見せるパワーポイントのスライドのうち、前回の講義までにすでに示したスライドや簡単に自分で調べられる内容のスライドなどは、当然その提示時間は短くなる。

【その他の重要事項】
プリントに提示された資料（材料）は、授業中に説明をしっかりと聞いてノートテイクをしておかないと、それだけ（図表）を後で見ても意味は理解できないことが多い。
授業の展開や社会の出来事によっては、多少の授業計画の変更はあり得る。
受講生が自分で簡単に調べられる内容については、講義中には詳細には説明しないので、自分で進んで学習する習慣を身につけてほしい。

【Outline and objectives】
The contents of this course are physiography of the North America where the various kinds of natural environment exist. The goal of this study is to understand the system of nature in order to create the concepts for the better relationships between natural environment and human life. Most of contents in this lecture during Spring Semester are many subjects about landforms which we can see in the North America. The classification of landform distribution by the developmental processes make clear their useful characteristics for human life. Those information and concepts will be able to apply for the solution of many kinds of environmental problems and natural disaster prevention.

PLN100CA

地学Ｂ

原　芳生

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では見られない自然も多く存在する北アメリカという地域を取り上げ、地球科学（地学）的を題材を中心に取り上げて、自然がいかに構成されているかを学んでいく。それに加えて、国立公園システムの創設など多様な環境保全に対する考え方があることを知り、現代人が自然との共生（環境問題や防災等）を考えるための知識や方法を学ぶ。地学Ｂでは特に気候環境と環境問題、環境思想、自然災害などについて取り扱う。

【到達目標】
日本ではあまり見られない自然環境があることを認識することができる。
いろいろな自然環境のシステムができていることで、自然の複雑さを意識できるようになる。
地域の違いによる環境問題や自然災害の状況の相違点を知ることができる。
多様な自然と人間生活との関連を知ることにより、なぜ自然環境を保全していかなければいけないかということに気づくことができる。
いろいろな環境保全の考え方があることを確認できる。
地学Ｂでは、特に多様な気候環境について知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主として教員が講義をする。テキストは使用せず、配付プリントを材料として説明することが基本となる。図表の説明が多くなるので多色に彩色して記録できると分かり易い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 講	地学・地球科学とは。自然環境の捉え方。	地球科学の学問体系とは。自然を如何にとらえるか。参考文献等の解説。
第 2 講	気候のとらえ方。	見えない大気の現象をいかに捉えるか。地域や時間と関連づける気候学の見方。
第 3 講	北アメリカの気候区分と植生－１。	ケッペンの気候区分の方法。熱帯・温帯の気候と植生。
第 4 講	北アメリカの気候区分と植生－２。	冷帯・寒帯・乾燥帯・高山の気候と植生。
第 5 講	北アメリカの総観気候－1。	気団とは。気団の種類。極気団の現象。
第 6 講	北アメリカの総観気候－２。	寒帯気団、熱帯気団の現象。
第 7 講	北アメリカの代表的な気象現象と小気候。	竜巻。地方風。都市気候。
第 8 講	環境問題－２。	大気汚染。ロサンゼルス型とロンドン型スモッグ。
第 9 講	環境保護の思想－１。	国立公園制度。世界最初の国立公園。国立公園システムの確立。
第 10 講	環境保護の思想－２。	森林火災についての考え方。オオカミの再導入。
第 11 講	環境保護の思想－３。	グレーターエコシステムの導入。グリズリーやバイソンの保護。ダムの放棄。
第 12 講	自然災害－１。	火山災害。地震災害。
第 13 講	自然災害－２。	洪水災害。ハリケーン災害。
第 14 講	秋学期及び１年間の講義内容のまとめ。	まとめ：どのような気候がみられたか。北アメリカの自然の仕組みと人間の対処の仕方を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付されたプリントは事前によく読み、毎時間必ず持参する。前の授業の内容をよく復習して次の授業に望む。平易な用語等は紹介された辞書などの参考文献で、まず自分で確かめる。自分で進んで参考文献を読んでみる。自分で関連したことがらを調べてみる。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。講義中に適時プリントを配布。

【参考書】
世界地誌シリーズ４『アメリカ』　矢ヶ崎典隆編，朝倉書店
アメリカ大陸の自然誌１『アメリカ大陸の誕生』　赤沢　威他編，岩波書店
『アメリカ環境史』　小塩和人，上智大学出版
朝倉世界地理講座 13『アメリカ・カナダ』　小塩和人・岸上伸啓編，朝倉書店
『アメリカの環境保護運動』　岡島成行，岩波書店
『アメリカの国立公園』　上岡克己，築地書館

【成績評価の方法と基準】
秋学期講義内容に関する期末試験の結果で 100%評価する。
講義内容がどれだけ正しく理解されているかを評価の基準とする。
北アメリカの気候システムの全体構造と、環境に対する考え方や自然災害の特徴などが正しく理解できているか。

【学生の意見等からの気づき】
本年度も講義中に使用したプリントで配付できない写真や図は、ウェブシステムで閲覧できるようにしていく。
講義中に見せるパワーポイントのスライドのうち、前回の講義までにすでに示したスライドや簡単に自分で調べられる内容のスライドなどは、当然その提示時間は短くなる。

【その他の重要事項】
プリントに提示された資料（材料）は、授業中に説明をしっかりと聞いてノートテイクをしておかないと、それだけ（図表）を後で見ても意味は理解できないことが多い。
授業の展開や社会の出来事によっては、多少の授業計画の変更はあり得る。
受講生が自分で簡単に調べられる内容については、講義中には詳細には説明しないので、自分で進んで学習する習慣を身につけてほしい。

【Outline and objectives】
The contents of this course are physiography of the North America where the various kinds of natural environment exist. The goal of this study is to understand the system of nature in order to create the concepts for the better relationships between natural environment and human life. Most of contents in this lecture during Fall Semester are concerned about climate, environmental problems and thoughts and natural disaster. The first topic is atmospheric environment of North America from the view point of climatic classification and synoptic climatology. Next topic is environmental problems such as air pollution and soil erosion of agricultural fields. The next one is the concept of national park system which was firstly established in the world for nature conservation to keep wilderness. The last topic is various kind of natural disaster occurred in North America. Those information and concepts will be able to apply for the solution of many kinds of environmental problems and natural disaster prevention.

BSC100CA

化学 A

山﨑　友紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「化学」の知識は、身のまわりにあるさまざまな自然現象を理解するために重要です。“物質” や “反応” によって支えられている私たちの体や地球環境、めまぐるしく発展する科学技術の姿について「化学」を通じて学びましょう。

【到達目標】
「身近な商品」の中から、その物質の性質や変化について、基礎的で正確な知識の習得を通して「化学」を学ぶ。社会的、文化的、政治的、経済的、および倫理的な絡み合いの中にある「化学」の位置づけを理解し、合理的な判断力を養うこと（科学リテラシーの修得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
高校での化学や物理の履修有無を問わず、高校化学の補完をしながら、親しみあるトピックスを主体に「化学」の知識と理解を深めていきます。講義の中でデモ実験、ネットワーク学習（授業支援システム）、映像教材を取り入れ、授業内容の理解を促します。ほぼ毎回リアクションペーパーで理解度チェックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	『シャープ芯、消しゴム、ノート』	講義のガイダンス。「化学」とはどのような学問か。
第 2 回	『携帯電話、レアアース・レアメタル』	元素の種類と性質、粒子概念（原子、分子、素粒子）
第 3 回	『ダイヤモンド、天然塩』	化学結合の姿
第 4 回	『胃薬、ミネラルウォーター』	物質量とモル
第 5 回	『備長炭、ヨーグルト』	化学反応式
第 6 回	『スケート靴、ポンポン船』	物質の状態変化
第 7 回	『圧力鍋、熱気球』	気体の性質
第 8 回	『梅酒、融雪剤、不凍液』	溶液の性質、浸透圧
第 9 回	『エアコン、カセットコンロ、カイロ』	熱化学
第 10 回	『シャンプー、リンス、アミノ酸ドリンク』 『ヘアカラー、リチウムイオン電池』	酸と塩基 酸化と還元
第 11 回	『ケミカルライト、ディーゼル車』	反応速度と化学平衡
第 12 回	『化粧品、宝飾品、ワイングラス、LED、真珠』	非金属元素、典型元素、遷移元素
第 13 回	『ステーキ、マスカラ、バイオプラスチック』	天然高分子化合物と合成高分子化合物
第 14 回	総合復習と試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業時に、次回授業の予定を説明するのであらかじめ教科書と資料集に目を通すこと。毎回の授業に演習を授業支援システムを通じて課すので事前登録をしておくこと。できるだけ、高校の化学の図録を入手しておいてください（出版社は問わない）。

【テキスト（教科書）】
1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011 年）。

【参考書】
1 日本化学会編『感動する化学』（東京書籍、2010 年）。
2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS 出版、2015 年）。
3『三訂版　フォトサイエンス化学図録』(数研出版、2017 年)。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を 60 %、課題の取組み等の平常点を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な「化学」と「社会」、「文化」等との関わりを理解できるような講義、演習に努める。演習や実験を多く取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム、スマートフォンを時々利用します。

【その他の重要事項】
授業支援システムの課題は必ずダウンロードしてください。

【Outline and objectives】
The knowledge of chemistry is important to understand natural phenomena and make your life better. Our planet and environment were created by the reactions of materials and elements. Let’s study chemistry to enjoy our daily life, as well as science and technology, fields that are growing day by day.

BSC100CA

化学 B

山﨑　友紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学は自然科学の中心的存在として位置づけられ、自然現象を理解するために重要な学問です。本講義では、実験や演習を多く取り入れ、身近な現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた内容を体験的に学ぶ。

【到達目標】
化学の実験や学習を通じて、身近な自然現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた、判断力、応用力を身につけること（科学リテラシーの取得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な知識内容に加え、演習、実験、映像教材などを通じて、より発展的な学習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「元素の化学」	周期表、粒子の概念。
第 2 回	「元素発見の歴史」	映像などによる化学史の紹介。
第 3 回	「モルって何？」	物質量「モル」を実感する。
第 4 回	基礎実験 1	酸・アルカリの実験を通して実験器具の基本操作や環境化学を理解する。
第 5 回	基礎実験 2	酸化・還元反応に関する実験を行う。
第 6 回	生活の中の化学 1	家庭にある身近な化学を見つける。
第 7 回	生活の中の化学 2	家庭にある身近な化学を見つける。
第 8 回	基礎実験 3	光と色の実験：基本実験により、光と色に関する理解を深める。
第 9 回	調べ学習とプレゼン	自分のテーマについて調査した結果を報告する。
第 10 回	分析化学（実験）	中和滴定：実験を通して、水溶液の調整、濃度の測定等の基本操作を学びます。
第 11 回	環境を守る化学（実験）	環境浄化、環境保全に役立つ化学について学習する。
第 12 回	基礎実験 4	電気化学の基礎実験。
第 13 回	食品、医薬品、環境	食品、医薬品、環境に見る化学について学習する。
第 14 回	総復習とレポート提出	秋学期の授業全体についての復習とレポート提出を行い、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごとに予習・復習課題を課す。基本的には授業支援システムを利用する。毎回復習プリントを提出する。

【テキスト（教科書）】
1『三訂版 フォトサイエンス化学図録』(数研出版、2017 年)。

【参考書】
1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011 年）。
2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS 出版、2015 年）。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 60 %、課題や実験の取組みを 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生実験や演習課題を多く取り入れる。できるだけ多くの学生さんが理解をした上で実験体験をできるように心がける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【その他の重要事項】
・この授業では、実験・実習を行いますが、実験装置や器具、安全確保のために、受講人数の上限を定めます（40 名程度）。
・受講者を初回授業時の抽選で決定します。
・初回授業の集合場所：研究・実験棟（12 号館）4 階 404 教室。
・履修確定者は、教科書を必ず購入してください。

【Outline and objectives】
Chemistry is positioned as central in the natural sciences, because chemistry is the study of "materials". In this class, you will practically learn chemistry topics related to your daily life and environmental science through experiments and exercises.

BAB100CA

生物学 A

岡部　雅史

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，生命とはなにか？ について現在の学術的知見を基に理解を進める事をテーマにしています。

【到達目標】
生命現象の理解と、生物と自然環境とのかかわりをひろく俯瞰的視点から理解できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義概要としては，1 －生命現象をあらわすキーワード，2 － DNA とデジタルコピー，3 －遺伝情報から生体が組み立てられるメカニズム，4 －バイオテクノロジーの発展と，バイオビジネスの展開　以上の 4 つのサブテーマから構成され，生物学・生命現象の基礎概念の理解，バイオテクノロジーの最先端の紹介をもとに進行いたします。生物に興味のある方，バイオテクノロジーに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること（シラバス持参のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	生物を構成する物質 1	無機物と有機物・ミュラーの実験・化学進化
3	生物を構成する物質 2	アミノ酸・タンパク質・ペプチド結合
4	生物を構成する物質 3	一次構造～四次構造・構造と機能
5	生物を構成する物質 4	生命の設計図　遺伝子・DNA・RNA の構造
6	セントラルドグマ 1	DNA の自己複製メカニズム・コピーミスと発ガン
7	セントラルドグマ 2	遺伝情報の流れ・転写と翻訳からタンパク質の合成
8	セントラルドグマ 3	環状 DNA と線状 DNA、テロメアの役割
9	セントラルドグマ 4	遺伝子の完全なコピー vs 遺伝子のシャッフル
10	バイオテクノロジー 1	古代の技術・納豆・酒・チーズ・ヨーグルト
11	バイオテクノロジー 2	現代の技術・遺伝子組み替えと遺伝子産物の利用
12	バイオテクノロジー 3	遺伝子組み替え作物・遺伝子診断と差別・生命倫理
13	バイオテクノロジー 4	遺伝子の個人差・移植用臓器の生産・クローン生物
14	バイオテクノロジー 5	幹細胞と再生医療・ES 細胞・iPS 細胞の作成と臓器への分化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される科学ニュース等に注意しておく事。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に試験を行う。60%以上得点した受験者に単位を認める。試験の配分が 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】
プロジェクター利用の改善

【Outline and objectives】
This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about life sciences.

BAB100CA

生物学 B

岡部　雅史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は，生命とはなにか？ について現在の学術的知見を基に理解を進める事をテーマにしています。

【到達目標】
生命現象の理解と、生物と自然環境とのかかわりをひろく俯瞰的視点から理解できるようになることを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
講義概要としては，1 －生命現象をあらわすキーワード，2 －生命とエネルギー，3 －細胞の構築メカニズム，4 －バイオテクノロジーの発展とバイオビジネスの展開　以上の 4 つのサブテーマから構成され，生物学・生命現象の基礎概念の理解、バイオテクノロジーの最先端の紹介をもとに進行いたします。生物に興味のある方，バイオテクノロジーに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること（シラバス持参のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生物を構成する物質 1	人間に必要な栄養素・基礎代謝
2	生物を構成する物質 2	炭水化物と各種の糖
3	生物を構成する物質 3	エネルギー貯蔵物質・脂質
4	生物を構成する物質 4	ビタミン・ミネラル・食物繊維の役割
5	エネルギー代謝 1	生物が利用することができるエネルギーは？
6	エネルギー代謝 2	糖からエネルギーを取り出す（呼吸 1）
7	エネルギー代謝 3	脂質からエネルギーを取り出す（呼吸 2）
8	エネルギー代謝 4	生命のエネルギー通貨 ATP
9	エネルギー代謝 5	効率的なエネルギー利用と酸素の役割・活性酸素とは何か？
10	細胞の構造 1	細胞内小器官とその役割
11	細胞の構造 2	体細胞分裂と減数分裂のメカニズムとその意義
12	細胞の構造 3	細胞の分化と遺伝子の役割
13	細胞の構造 4	生物の進化と性の役割・テロメアと細胞分裂回数の限界
14	生命とは何か？	生命の定義と環境応答 日本のノーベル賞研究 再生医療と iPS 細胞の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の新聞・ニュース等　報道にて紹介される科学ニュース等に注意しておく事。

【テキスト（教科書）】
毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】
参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末に試験を行う。60%以上得点した受験者に単位を認める。試験の配分が 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】
プロジェクター利用の改善

【Outline and objectives】
This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about life sciences.

SHS100CA

科学史 A

河野　俊哉

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東日本大震災およびそれに伴う原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が、必須となりつつあります。そのことをふまえて、本講義では、「科学」とは何かについて、歴史的に考察し、「科学」に対する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課したりクリッカーを使用する等して、双方向の授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要、進め方、成績評価等について説明します。アンケートを実施しますので、必ず出席して下さい。
第 2 回	「科学」の誕生	「歴史観」について説明します。
第 3 回	「古代ギリシャの自然観」	アリストテレスの「世界観（宇宙論）」等について説明します。
第 4 回	「錬金術と絵画」	『ハリー・ポッターと賢者の石』を手掛かりに錬金術について概観。
第 5 回	「12 世紀ルネサンス」と「大学の誕生」	「12 世紀ルネサンス」と「大学の誕生」について説明します。
第 6 回	「科学革命論」再考Ⅰ	「科学革命論」の概略とその問題点を説明します。映画『薔薇の名前』の鑑賞。
第 7 回	「科学革命論」再考Ⅱ	「中国の科学」と「西洋中心主義」について説明します。「暦の誕生」
第 8 回	「科学革命論」再考Ⅲ	コペルニクス、ケプラーらの営為を通して、ルネサンスの意味を考えます。
第 9 回	「科学革命論」再考Ⅳ	パラケルススやデカルトらの営為を通して、「魔術的自然観」と「機械論的自然観」についての理解を深めましょう。
第 10 回	「科学革命論」再考Ⅴ：「化学革命の検討」	「化学革命」を近年の社会史研究の視点から再考しましょう。『においの歴史』、『パヒューム』
第 11 回	「酸素の発見」と「パラダイム論」	「酸素の発見」と「パラダイム論」について説明します。絵画と科学、啓蒙主義と聖俗革命、百科事典と学問分類
第 12 回	科学技術社会論入門Ⅰ：BSE と科学コミュニケーション	BSE（狂牛病）問題を事例に科学コミュニケーションについて説明します。
第 13 回	科学技術社会論入門Ⅱ：原発問題とリスク社会	「原発問題」を事例にしてリスク社会、科学リテラシーについて説明します。
第 14 回	本講義のまとめ	「大学の誕生（日本の場合）」、「教養教育の再構築」について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料や指定教科書の該当箇所を指示しますので、授業の前に目を通してきて下さい。また、授業外レポートを通して、「調べて、書く」ための基本作法（就職活動や卒論執筆等にも必要な知識）もマスターしましょう。

【テキスト（教科書）】
化学史学会編『化学史への招待』（オーム社、2019 年）
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009 年）

【参考書】
古川安『科学の社会史』（筑摩書房、2018 年）。

【成績評価の方法と基準】
授業内小レポート 40 %　授業外レポート 30 %　試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】
時間配分には極力配慮しますが、みなさんも短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】
携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム

【Outline and objectives】
As you can see from the Great East Japan Earthquakethe and the nuclear power plant incidental problem, for many people, the understanding of the meaning of scientific research and the result (science literacy) are becoming indispensable. With that in mind, this lecture aims to deepen the understanding of "science" by historically considering what "science" is. I hope that your view of science will change in a good way.

SHS100CA

科学史 B

河野　俊哉

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東日本大震災およびそれに伴う原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が、必須となりつつあります。そのことをふまえて、本講義では、「科学」とは何かについて、歴史的に考察し、「科学」に対する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課したり、クリッカーを使用する等して双方向の授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィンと進化論	進化論の概要とその衝撃について説明します。アンケート実施。要出席。
第 2 回	社会ダーウィニズムと「日本における進化論の受容」	社会ダーウィニズムや「日本における進化論の受容」の概要とその問題点等について説明します。
第 3 回	「科学とイギリス文学」	「科学とイギリス文学」に関する研究を概観してみましょう。
第 4 回	「ダーウィニズムとウェルズ」	『タイムマシン』や『宇宙戦争』について考察します。
第 5 回	『フランケンシュタイン』の科学史的考察	『フランケンシュタイン』を科学史的に考察してみましょう。
第 6 回	「絵画と科学」	フェルメールの絵画等を例に考察。
第 7 回	「戦争と科学」：フリッツ・ハーバー	「ハーバーの生涯と業績」や「毒ガス開発の歴史」を通して、「戦争と科学」について理解を深めましょう。
第 8 回	レイチェル・カーソン：科学・文学・環境	レイチェル・カーソンの事例を通して、DDT の功罪について考察します。
第 9 回	「日本人と近代科学Ⅰ」～『長州ファイブ』：山尾庸三、ダイアー	『長州ファイブ』を鑑賞し、山尾庸三、御雇外国人、工部大学校等について理解を深めましょう。
第 10 回	「日本人と近代科学Ⅱ」：病気の文化史	『JIN-仁』を鑑賞し、江戸における病気や医学を巡る状況等について理解を深めましょう。華岡青洲。
第 11 回	ジェンダーと科学：マリー・キュリー	マリー・キュリーを事例に「ジェンダーと科学」の理解を深めましょう。
第 12 回	科学技術社会論Ⅰ：科学コミュニケーション	GMO（遺伝子組換え作物）問題を事例にして科学コミュニケーションについて説明します
第 13 回	科学技術社会論Ⅱ：原発問題とリスク社会	「原発問題」を事例にしてリスク社会、科学リテラシーについて説明します。
第 14 回	本講義のまとめ：「教養教育」の再構築	講義を振り返り、教養教育の観点から本講義の意味を再確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料や指定教科書の該当箇所を指示しますので、授業前に目を通してきて下さい。また、授業外レポートを通して、「調べて、書く」ための基本作法（就職活動や卒論執筆等にも必要な知識）もマスターしていきましょう。

【テキスト（教科書）】
化学史学会編『化学史への招待』（オーム社、2019 年）。
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009 年）

【参考書】
古川安『科学の社会史』（筑摩書房、2018 年）。

【成績評価の方法と基準】
授業内小レポート 40 %　　授業外レポート 30 %　　試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】
時間配分には極力配慮しますが、みなさんも短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしていきましょう。

【学生が準備すべき機器他】
携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム

【Outline and objectives】
As you can see from the Great East Japan Earthquakethe and the nuclear power plant incidental problem, for many people, the understanding of the meaning of scientific research and the result (science literacy) are becoming indispensable. With that in mind, this lecture aims to deepen the understanding of "science" by historically considering what "science" is. I hope that your view of science will change in a good way.

NAS100CA

自然科学特講

松野　響、藤田　貢崇

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　自然現象を研究対象とする上で、実験や観察によって現象を具体化し、それらの普遍的な法則を明らかにすることは、極めて重要である。本授業では、物理学（天文学）ならびに心理学の実験を通して、実験・観察の方法や、それらのデータのまとめ方について学ぶ。

【到達目標】
・さまざまな自然科学分野の現象を数値等によって具体化し、現象を論理的に説明できること。
・いろいろな実験装置の操作や実験を行う上での留意点を理解し、各実験の目的に沿って正しく操作できること。
・物理的・心理的な事象を、客観的に分析すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
　本授業は、前半は物理学および天文学に関する内容、後半は心理学に関する内容で構成され、それぞれ藤田貢崇、松野響が担当する。授業では実際に実験装置やデータ整理のための PC を操作し、レポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	物理学実験の基礎	物理学実験の基礎項目を学ぶ
2	データロガーの扱い方	物理学実験（温度測定など）に使われるセンサーを用いて、データ収集の扱い方を理解する
3	水の融点と沸点の計測	データロガーとセンサーを用いて、水の温度変化を調べる
4	環境中の二酸化炭素の測定	室内環境の二酸化炭素濃度を測定し、濃度変化の原因を探る
5	太陽の観測	天体望遠鏡を用いて太陽を観測する
6	天体写真を用いた距離の測定	天体写真を用いて、その天体までの距離を計測する
7	放射線測定	環境中の放射線を計測する
8	心理実験の基礎	心理実験の方法論を学ぶ
9	知覚実験	視知覚実験をおこない、自分自身の錯覚の量を測定する
10	知覚実験の解析	知覚実験の結果を解析する
11	認知心理学実験	認知心理学の実験をおこなう
12	認知心理学実験の結果解析	認知心理学の実験の結果を解析する
13	感性評価実験	感性評価実験をおこなう
14	感性評価実験の結果解析	感性評価実験の結果を解析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前半（第 7 回まで：藤田担当回）は、毎回の実験課題への取り組みを通じ、実験の方法論、データ収集手法、解析方法、実験レポートの書き方を学ぶ。
・後半（第 8 回以降：松野担当回）は、心理実験を自分自身で体験し、その結果を自分自身で解析する。分析をおこなうための統計的な知識やソフトウェアの利用方法を自習する。

【テキスト（教科書）】
　教科書は使用しない。

【参考書】
　必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・物理学実験への取り組みと実験レポートの評価 (50%)
・心理学実験実習への取り組みと実験レポートの評価 (50%)
いずれも、実習形式での授業であり、欠席した回におこなった内容を含む課題レポートの評価はおこなわない。

【学生の意見等からの気づき】
　多くの受講者が実験機器の扱いに慣れることができるよう、さらに工夫を重ねます（藤田貢崇）。
　特にありません（松野響）。

【学生が準備すべき機器他】
・本授業では、各自、充電済みの貸与ノート PC を持参すること。前半・後半それぞれの初回に、担当教員より詳細を説明する。

【その他の重要事項】
・この授業は、実験・実習を行う授業であり、実験装置等に限りがあることから、受講人数の上限を定めます。受講者を初回授業時に抽選しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

・初回授業の集合場所は、研究・実験棟（12 号館）1 階 101 教室となる。2 回目以降の授業は、必要に応じて実施場所を変更する場合がある。
・全体についての実務的質問は、藤田貢崇に問い合わせること。授業内容に関する質問は、それぞれの講師の指示を仰ぐこと。

【Outline and objectives】
In this course, students learn research methods through observations and experiments in physics and psychology. Students develop the ability to understand scientific methodology and logically evaluate the physical and psychological phenomena through the eye of the science.

LANe100CA

English Communication IA

ロバート　ストラウド

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences. Students will learn conversational English, impromptu speeches, media English, and group presentations.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at a mid-beginner level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the conversational English and Media English sections will be determined by the teacher. The contents for the impromptu speeches and group presentations sections will be determined by the students in consultation with the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week#1	Course Introduction.	Lecture and introduction games.
Week#2	Conversational English (1).	Getting to know new people.
Week#3	Conversational English (2).	Discussing hobbies/likes/dislikes.
Week#4	Conversational English (3).	Explaining and questions about hometowns.
Week#5	Conversational English (4).	Showing precious items and follow-up questions.
Week#6	Guidelines for Impromptu Speeches.	Structuring, delivering and expanding upon speeches.
Week#7	Impromptu Speeches (1).	Content to be determined by students (1).
Week#8	Impromptu Speeches (2).	Content to be determined by students (2).
Week#9	Impromptu Speeches (3).	Content to be determined by students (3).
Week#10	Media English.	Students will watch and discuss news items.
Week#11	Guidelines for Group Presentations.	Practice how to structure, deliver and expand upon presentations.
Week#12	Group Presentations Practice (1).	Preparing and delivering presentations.
Week#13	Group Presentations Practice (2).	Preparing and delivering presentations.
Week#14	Group Presentations Test.	Groups deliver their presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the teacher for the conversational English and media English sections. Students will select their own topics for the impromptu speeches and group presentations sections, and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (20%) and by their presentation and discussion tests (80%).

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
None.

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences. Students will learn conversational English, impromptu speeches, media English, and group presentations.

LANe100CA

English Communication IB

ロバート　ストラウド

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar. This course focuses on the following activities: informative speeches, media English, and discussion.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at a high-beginner level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the media English section will be determined by the teacher. The contents for the informative speeches and discussion sections will be determined by the students in consultation with the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week#1	Course Outline / Guidelines for Informative Speeches.	Course content introduction and the structuring / assessment of informative speeches.
Week#2	Informative Speeches Practice (1).	Content to be determined by students (1).
Week#3	Informative Speeches Practice (2).	Content to be determined by students (2).
Week#4	Informative Speeches Practice (3).	Content to be determined by students (3).
Week#5	Informative Speeches (1).	Delivering speeches and follow-up questions.
Week#6	Informative Speeches (2).	Delivering speeches and follow-up questions.
Week#7	Informative Speeches (3).	Delivering speeches and follow-up questions.
Week#8	Informative Speeches (4).	Delivering speeches and follow-up questions.
Week#9	Media English.	Students watch and answer questions about recent news stories.
Week#10	Introduction to Discussions / Class Discussions (1).	Students are introduced to the common language and assessment of discussions.
Week#11	Class Discussions (2).	Discussing opinionated topics in groups.
Week#12	Class Discussions (3).	Discussing opinionated topics in groups.
Week#13	Class Discussions (4).	Discussing opinionated topics in groups.
Week#14	Discussion Test.	Groups undertake discussion tests.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the teacher for the media English section. Students will select their own topics for the informative speeches and discussion sections, and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by Class Participation (20%), informative Speeches (30%) and Discussion Tests (50%).

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
None.

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar. This course focuses on the following activities: informative speeches, media English, and discussion.

LANe100CA

English Communication IA

アラン・バーグマン

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The focus of the course　　will be on developing listening, speaking and presentation skills. Instruction will be in English.

【到達目標】
The course goal is to improve listening students skills for communicating effectively in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Class activities will include listening activities, vocabulary development, pair-work　　activities, and speech making.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	orientation, Hobbies, interests, free-time activities	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 1 vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension
week 2	clothing, colors, patterns	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 2 vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension
week 3	health, happiness	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 3 vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension
week 4	directions	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 4 vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension
week 5	preparation self-introduction speech	handouts - vocabulary, listening comprehension homework: self-introduction speech
week 6	self-introduction speech	Presentation - self-introduction speech
week 7	describing objects and materials	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 5 vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension
week 8	goals and dreams	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 6 vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension homework: 10 interview questions
week 9	preparation for demonstration speech	handouts - vocabulary, listening comprehension homework: demonstration speech
week 10	demonstration speech	Presentation - demonstration speech
week 11	Pair Interview Practice Day	Pair Interview Practice Day
week 12	pair interviews	pair interviews
week 13	pair interviews	pair interviews
week 14	Make-up Day	make-ups, finish up ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to complete all homework assignments which will include textbook assignments, handouts, interview questions, and preparing speeches.

【テキスト（教科書）】
The required textbook is English Firsthand Success (5th edition) by M. Helgesen, J. Wiltshire, and S. Brown (Pearson). Additional materials will be supplied by the instructor.

【参考書】
There is no reference book. However, students may find the textbook's companion website useful. www.pearsonelt.com/englishfirsthand

【成績評価の方法と基準】
Class participation, in-class activities and the completion of homework assignments (50%)
Classroom presentations (20%)
Pair Interviews (30%)
To pass, students must:
1) get the class textbook
2) complete all assignments
3) make a conscientious attempt to use English when speaking to the teacher and during in-class activities. Grades will be awarded based on the quality of coursework, and on effort demonstrated by classroom participation.
ATTENDANCE IS REQUIRED

【学生の意見等からの気づき】
Student comments are welcome.　Changes will be made when appropriate.

【学生が準備すべき機器他】
dictionary

【その他の重要事項】
The syllabus is subject to change based on students's needs.

【Outline and objectives】
The objective of the course　　will be on developing students' oral and aural skills through pair work, listening activities, interviews and presentations.

LANe100CA

English Communication IB

アラン・バーグマン

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The focus of the course　　will be on developing listening, speaking and presentation skills. Instruction will be in English.

【到達目標】
The course goal is to improve students skills for communicating effectively in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Class activities will include listening activities, vocabulary development, pair-work　　activities, and speech making.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	past experiences	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 7 - vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension
week 2	describing nature	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 8 - vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension
week 3	talking about abilities	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 9 - vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension
week 4	discussing likes and dislikes	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 10 - vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension
week 5	preparation for a layout speech	handouts - vocabulary, listening comprehension homework: layout speech
week 6	layout speech	Presentation - layout speech
week 7	talking about rules	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 11 - vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension
week 8	telling stories	ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS unit 12 - vocabulary, listening, pair practice, grammar exercise, group work, reading comprehension homework: 10 interview questions
week 9	preparing for a show and tell speech	handouts - vocabulary, listening comprehension homework: a show and tell speech
week 10	show and tell speech	Presentation - show and tell speech
week 11	Interview Practice Day	Interview Practice Day
week 12	pair interviews	pair interviews
week 13	pair interviews	pair interviews
week 14	Make-up Day	make-ups, finish up ENGLISH FIRSTHAND SUCCESS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to complete all homework assignments which will include textbook assignments, handouts, interview questions, and preparing speeches.

【テキスト（教科書）】
The required textbook is English Firsthand Success (Pearson Longman). Additional materials will be supplied by the instructor.

【参考書】
There is no reference book. However, students may find the textbook's companion website useful. www.pearsonelt.com/englishfirsthand

【成績評価の方法と基準】
Class participation, in-class activities and the completion of homework assignments (50%)
Classroom presentations (20%)
Pair Interviews (30%)
To pass, students must:
1) get the class textbook
2) complete all assignments
3) make a conscientious attempt to use English when speaking to the teacher and during in-class activities. Grades will be awarded based on the quality of coursework, and on effort demonstrated by classroom participation.
ATTENDANCE IS REQUIRED

【学生の意見等からの気づき】
Student comments are welcome.Changes will be made when appropriate.

【学生が準備すべき機器他】
dictionary

【その他の重要事項】
The syllabus is subject to change based on students's needs.

【Outline and objectives】
The objective of the course　　will be on developing students' oral and aural skills through pair work, listening activities, the completion of assignments, interviews, and presentations.

LANe100CA

English Communication IA

ステラ　山﨑

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Purpose: To acquaint students with 21st-century Western business principles and cutting-edge English business correspondence.

【到達目標】
Same as above.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Each class will begin with a vocabulary quiz, followed by vocabulary study and exercises based on the week's reading. There are periodic writing activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to course	Rules, Q-A search, writing sample
2	Communication rules	Vocab, dictation, matching
3	Sentence construction	Vocab, dictation, matching, grammar-mechanics ex
4	Modern language	Vocab, dictation, A-B ex, writing practice
5	Organization	Vocab, matching, info search, task practice
6	Modern layout, punctuation	Vocab, A-B ex, letter reading and writing
7	Email etiquette	Vocab, dictation, word choice, info search, writing
8	Enquiries, replies	Vocab, dictation, A-B ex, info search, matching
9	Quotations	Vocab, dictation, terms, A-B ex, task practice
10	Orders, delivery	Vocab, dictation, correspondence match, info search
11	Invoicing, payment	Vocab, dictation, T-F search, finance terms
12	Claim letters	Vocab, dictation, correspondence questions, matching, task practice
13	Credit, review	Vocab, dictation, A-B ex, T-F ex, proofing
14	Final test	Part 1: Vocabulary Part 2: Word problems

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students read weekly chapters on class themes, review for weekly tests, produce weekly vocabulary cards, and write correspondence assignments.

【テキスト（教科書）】
Dictionary: Japanese to English and English to Japanese in equal parts. Electronic dictionaries are okay. Dictionaries are required every week for admission to class.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Preparation, participation, 10% each; quizzes, 35%; final test, 30%; tasks, 15%.

【学生の意見等からの気づき】
None. This is a new course.

【学生が準備すべき機器他】
Students must bring assigned readings, dictionaries and vocabulary cards every time.

【その他の重要事項】
This is a reading/writing course using native level, professional business materials. It is not a conversation course. Students need a high level of English and serious effort to pass the course. Beginning level students will need to work extremely hard to pass. The material and course plan may change to meet the learning objectives of the participants.

【Outline and objectives】
Students will learn business vocabulary, business etiquette and fully-blocked/open-punctuation style business correspondence.

LANe100CA

English Communication IB

ステラ　山﨑

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The purpose of this course is to teach students the reading, writing, speaking and research skills useful for getting internships or jobs abroad. Most of these skills could also be used to apply for credit-earning study abroad programs.

【到達目標】
Same as above.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Class activities will vary according to weekly goals. Sometimes we will learn vocabulary, read, and answer questions. Some weeks we will write resumes and letters. Some weeks we will watch interview videos, compose answers to interview questions and do practice interviews.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Intro to course	personality test, skills test, interest survey
2	Employment ads	vocabulary, read ads, match qualifications
3	Internship selection	computer search, company selection, data collection
4	Resume writing 1	resume reading, resume language, writing
5	Resume writing 2	vocabulary, resume writing and revision
6	Cover letter 1	read cover letters, write cover letter
7	Cover letter 2; Resume writing 3	edit, rewrite cover letter, revise resume
8	Intro to interview	vocabulary, video, analyze content and organization
9	Interview prep 1	view interview, write answers, practice
10	Interview prep 2	view new interview, write more, practice
11	Interview prep 3	view video clips, refine answers, practice
12	Practice interview filming	film practice interviews, revise answers, practice
13	Final filming	film interviews, write thank you email
14	Wrap up	view and rate interviews, course evaluations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly homework: Internet research, resume and cover letter writing, intensive interview practice. Students without required homework or preparation will be marked absent.

【テキスト（教科書）】
Dictionary: Japanese to English and English to Japanese in equal parts. Electronic dictionaries OK. Your dictionary and your completed weekly homework are your textbooks.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Weekly participation 25%, weekly homework 25%, final fimed interview 50%.
Homework will provide the content of the following lesson. Students with incomplete or no homework will be marked absent.The teacher may change lesson content and evaluation depending on student needs.

【学生の意見等からの気づき】
None. This is a new course.

【学生が準備すべき機器他】
We may use smartphones for class research.

【その他の重要事項】
This is a high level course. Low level students will have a hard time.

【Outline and objectives】
,Students will learn to read job ads, research companies, write resumes and cover letters and present themselves well in interviews.

LANe100CA

English Communication I A

Kregg　Johnston

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学生

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to develop communicative competence in a variety of situations encountered in business

【到達目標】
This course aims to develop communicative competence necessary to function in a variety of situations encountered in business

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will make use of pair work, group work, and discussion skills in concordance with a business communication textbook. Vocabulary development and listening comprehension will be stressed. There will also be short written assignments to develop communication in writing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Ice breakers, Level assessment
Week 2	Unit 1 Introductions	Nationalities To be Introducing yourself & others
Week 3	Unit 1 Introductions	Asking & answering Wh- questions Conversation & role play: Intros
Week 4	Unit 1 quz and case discussion	Unit 1 quiz U1 case:choose candidate to meet
Week 5	Unit 2 Work & leisure	Word partnerships Routines, leisure activities Days, months, dates
Week 6	Unit 2 Work & leisure	Simple present tense Adverbs and expressions of frequency
Week 7	Unit 2 quiz and case discussion	Unit 2 quiz U2 case: Decide 3 changes for company
Week 8	Unit 3 Problems	Problems at work too vs enough
Week 9	Unit 3 Problems	Phoning: Solving problems Present tense: Negatives & Q's
Week 10	Unit 3 quiz and case discussion	Unit 3 quiz U3 case:Discuss in groups Working/cultures 1/ Revision
Week 11	Unit 4 Travel	Talk about travel Can/Can't There is/There are
Week 12	Unit 4 Travel	Telephoning Checking arrangements
Week 13	Unit 4 quiz and case discussion	Unit 4 quiz U4 case Arranging a conference
Week 14	Unit 5 Food & entertaining	Food from different countries Countable/Uncountable nouns

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assigned from the textbook, supplemental exercises, preparation for discussion, write short business correspondence

【テキスト（教科書）】
Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 9781292134758

【参考書】
Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 9781292134758

【成績評価の方法と基準】
Student grades will be calculated in the following way:
Quizes-55%
Homework-10%
Attendance & Participation 15%
Writing assignments:business corresponence (Typed) 20%

【学生の意見等からの気づき】
More instruction discussion skills

【学生が準備すべき機器他】
The textbook

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
Develop the skills necessary to communicate effectively in a variety of business situations

LANe100CA

English Communication I B

Kregg　Johnston

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学生

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to develop communicative competence in a variety of situations encountered in business

【到達目標】
This course aims to develop communicative competence necessary to function in a variety of situations encountered in business

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will make use of pair work, group work, and discussion skills in concordance with a business communication textbook. Vocabulary development and listening comprehension will be stressed. There will also be short written assignments to develop communication in writing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Ice breakers, Level assessment
Week 2	Unit 7 People	Describing People Past simple: negatives & questions Work
Week 3	Unit 7 People	Question forms Dealing with problems
Week 4	Unit 7 quiz and case discussion	Unit 7 quiz U7 case:Advice on work problems
Week 5	Unit 8 Advertising	Advertising quiz Advertising & markets
Week 6	Unit 8 Advertising	Much/ a lot/ a little bit Comparative/Superlative Participating in discussions
Week 7	Unit 8 quiz and case discussion	Unit 8 quiz U8 case:Discuss in groups
Week 8	Unit 9 Companies	Describing companies Reading Charts
Week 9	Unit 9 Companies	Present continuous/simple Company quiz
Week 10	Unit 9 quiz and case discussion	Unit 9 quiz U9 case:Discuss in groups International bus. 3/ Revision
Week 11	Unit 10 Communication	Communication quiz Internal communication Future forms
Week 12	Unit 10 Communication	Talking about future plans Making arrangements
Week 13	Unit 10 quiz and case discussion	Unit 10 quiz U10 case:Discuss in groups
Week 14	Unit 11 Cultures	Company cultures identifying problems Agreeing to action

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework assigned from the textbook, supplemental exercises, preparation for discussion, write short business correspondence

【テキスト（教科書）】
Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 9781292134758

【参考書】
Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent
ISBN 9781292134758

【成績評価の方法と基準】
Student grades will be calculated in the following way:
Quizes-55%
Homework-10%
Attendance & Participation 15%
Writing assignments:business corresponence (Typed) 20%

【学生の意見等からの気づき】
More instruction on discussion skills

【学生が準備すべき機器他】
The textbook

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
Develop the skills necessary to communicate effectively in a variety of business situations

LANe200CA

English Communication IIA

Richard Evanoff

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at a high-intermediate level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the conversational English and media English sections will be determined by the teacher. The contents for the demonstrative speeches sections will be determined by the students in consultation with the professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Lecture
Week 2:	Conversational English (1)	Prepared questions (QR-800 II.17-25, III.1) (1)
Week 3:	Conversational English (2)	Prepared questions (2)
Week 4:	Conversational English (3)	Prepared questions (3)
Week 5:	Conversational English (4)	Prepared questions (4)
Week 6:	Media English (1)	News video ["Foreigners in Japan"]
Week 7:	Media English (2)	Discussion of news video
Week 8:	Guidelines for demonstrative speeches	Handout, p. 1 (except Impromptu Speeches)
Week 9:	Preparation for demonstrative speeches	In-class preparation
Week 10:	Demonstrative speeches (1)	Hobbies / Japanese culture (1)
Week 11:	Demonstrative speeches (2)	Hobbies / Japanese culture (2)
Week 12:	Demonstrative speeches (3)	Hobbies / Japanese culture (3)
Week 13:	Demonstrative speeches (4)	Hobbies / Japanese culture (4)
Week 14:	Demonstrative speeches (5)	Hobbies / Japanese culture (5)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the conversational English and media English sections. Students will select their own topics for the demonstrative speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course focuses on the following activities: conversational English, media English, and demonstrative speeches.

LANe200CA

English Communication IIB

Richard Evanoff

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at a high-intermediate level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the media English section will be determined by the teacher. The contents for the research speeches will be determined by the students in consultation with the professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1:	Guidelines for preparing speeches	Handout, p. 2
Week 2:	Guidelines for research speeches	Handout, p. 3
Week 3:	Preparation for research speeches	In-class preparation
Week 4:	Outlines for research speeches	To be done at home and checked in class
Week 5:	Research speeches (1)	Content to be determined by students (1)
Week 6:	Research speeches (2)	Content to be determined by students (2)
Week 7:	Research speeches (3)	Content to be determined by students (3)
Week 8:	Research speeches (4)	Content to be determined by students (4)
Week 9:	Research speeches (5)	Content to be determined by students (5)
Week 10:	Research speeches (6)	Content to be determined by students (6)
Week 11:	Media English (1)	News video ["English as an International Language"]
Week 12:	Media English (2)	Presentation of news video
Week 13:	Media English (3)	Discussion of news video (1)
Week 14:	Media English (4)	Discussion of news video (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the media English section. Students will select their own topics for the research speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course focuses on the following activities: research speeches and media English.

LANe200CA

English Communication IIA

ロバート　ストラウド

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We will work on integrating your speaking and listening with your reading and writing using interview and role play scenarios.

【到達目標】
This course will give you the opportunity to improve and use your speaking and listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
You will work in groups, in pairs and with the class using communicative situations from the real world in an enjoyable and communicative way.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week#1	Welcome and Course Introduction.	Students are introduced to the course and get to know the teacher.
Week#2	Questions and Answers.	Students ask each other and the teacher questions to review basic structures.
Week#3	Follow-up Questions (1).	Students ask each other questions and are introduced to asking key follow-up questions in conversation.
Week#4	Follow-up Questions (2).	Students practice various follow-up question activities.
Week#5	Situation Role-Play (1).	Students listen to, discuss and practice role-playing different common situations.
Week#6	Situation Role-Play (2).	Students listen to, discuss and practice role-playing different common situations.
Week#7	Class Role-Plays (1).	Students watch and give feedback on each other's role-play situations.
Week#8	Class Role-Plays (2).	Students watch and give feedback on each other's role-play situations.
Week#9	Personal Information Skills Introduction.	Students listen to, discuss and practice giving and asking questions about personal information.
Week#10	Personal Information Skills Practice (1).	Students practice vocabulary and grammar for explaining and asking questions about personal information.
Week#11	Personal Information Skills Practice (2).	Students practice vocabulary and grammar for explaining and asking questions about personal information.
Week#12	Personal Information Skills Practice (3).	Students practice vocabulary and grammar for explaining and asking questions about personal information.
Week#13	Personal Information Interview Practices.	Students practice interviewing each other and collecting personal information about their class members.
Week#14	Personal Information Interview Test.	Students are interviewed about their personal preferences by each other and their teacher.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You will work outside the class alone and in groups to prepare and practice role-plays and interviews.
Review all work covered in class.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used.

【参考書】
A good learner's dictionary will be helpful.

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%, Class Role-Plays 40%, Personal Interview 40%

【学生の意見等からの気づき】
We will listen carefully to all student comments.

【学生が準備すべき機器他】
none

【その他の重要事項】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】
We will work on integrating your speaking and listening with your reading and writing using interview and role play scenarios.

LANe200CA

English Communication IIB

ロバート　ストラウド

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
We will work on integrating your speaking and listening with your reading and writing using interview and role play scenarios.

【到達目標】
This course will help you improve your speaking and listening skills and give you opportunities to use the language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
We will use situations in the real world in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week#1	Course Outline and Introduction to Explaining Preferences.	Students study the course outline, as well as undertake review activities for asking questions and practice explaining preferences.
Week#2	Question and Answer Grammar Review.	Students review how to make and answer conversational questions with each other.
Week#3	Follow-up Questions Review.	Students review how to make and answer good follow-up questions with each other.
Week#4	Preference Role-Play Practice (1).	Students listen to, discuss and practice role-plays which involve having a preference.
Week#5	Preference Role-Play Practice (2).	Students listen to, discuss and practice role-plays which involve having a preference.
Week#6	Preference Role-Play Practice (3).	Students listen to, discuss and practice role-plays which involve having a preference.
Week#7	Class Role-Plays (1).	Students watch, assess and give feedback on role-plays by each group.
Week#8	Class Role-Plays (2).	Students watch, assess and give feedback on role-plays by each group.
Week#9	Personal Preferences Practice (1).	Students practice discussing situations, giving personal preferences and asking follow-up questions.
Week#10	Personal Preferences Practice (2).	Students practice discussing situations, giving personal preferences and asking follow-up questions.
Week#11	Personal Preferences Practice (3).	Students practice discussing situations, giving personal preferences and asking follow-up questions.
Week#12	Personal Preferences Interview Practice.	Students practice interviewing each other and giving feedback on personal preferences.
Week#13	Personal Preferences Interviews.	Students are interviewed and given feedback by each other and the teacher.
Week#14	Personal Preferences Interview Test.	Students are interviewed and given feedback by each other and the teacher.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You will work in alone and in groups outside of class to prepare role-plays and interview skills.
All class work should be reviewed at home.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used.

【参考書】
A good learner's dictionary will be useful.

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%, Preference Role-Play 40%, Preference Interview 40%

【学生の意見等からの気づき】
We will listen carefully to all student comments.

【学生が準備すべき機器他】
none

【その他の重要事項】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】
We will work on integrating your speaking and listening with your reading and writing using interview and role play scenarios.

LANe300CA

English Communication IIIA

Richard Evanoff

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the media English section will be determined by the teacher. The contents for the persuasive speeches will be determined by the students in consultation with the professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Lecture
Week 2:	Guidelines for persuasive speeches	Handout, p. 4
Week 3:	Preparation for persuasive speeches	In-class preparation
Week 4:	Outlines for persuasive speeches	To be done at home and checked in class
Week 5:	Persuasive speeches (1)	Content to be determined by students (1)
Week 6:	Persuasive speeches (2)	Content to be determined by students (2)
Week 7:	Persuasive speeches (3)	Content to be determined by students (3)
Week 8:	Persuasive speeches (4)	Content to be determined by students (4)
Week 9:	Persuasive speeches (5)	Content to be determined by students (5)
Week 10:	Persuasive speeches (6)	Content to be determined by students (6)
Week 11:	Persuasive speeches (7)	Content to be determined by students (7)
Week 12:	Persuasive speeches (8)	Content to be determined by students (8)
Week 13:	Media English (1)	Film ["Gung Ho"]
Week 14:	Media English (2)	Presentation of the film

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the media English section. Students will select their own topics for the persuasive speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course focuses on the following activities: persuasive speeches and media English.

LANe300CA

English Communication IIIB

Richard Evanoff

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar.

【到達目標】
This course is intended to improve oral communication skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
A variety of activities will be conducted in the class. The contents intercultural communication and intercultural negotiations sections will be determined by the teacher. The contents for the debates and discussions will be determined by the students in consultation with the professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1:	Guidelines for debate	Handout
Week 2:	Preparation for debates	In-class preparation (1)
Week 3:	Debates (1)	Content to be determined by students (1)
Week 4:	Debates (2)	Content to be determined by students (2)
Week 5:	Debates (3)	Content to be determined by students (3)
Week 6:	Debates (4)	Content to be determined by students (4)
Week 7:	Guidelines for discussion	Lecture (1)
Week 8:	Preparation for discussion	In-class preparation (2)
Week 9:	Discussions (1)	Content to be determined by students (5)
Week 10:	Discussions (2)	Content to be determined by students (6)
Week 11:	Discussions (3)	Content to be determined by students (7)
Week 12:	Discussions (4)	Content to be determined by students (8)
Week 13:	Intercultural communication	Lecture (2)
Week 14:	Intercultural negotiations	In-class activities

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly home preparation is required.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the intercultural communication and intercultural negotiations sections. Students will select their own topics for the debates and discussions, and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

【学生の意見等からの気づき】
Adjustments will be made to lecture style and to presenting material more clearly (especially on the blackboard). Students are encouraged to utilize the discussion time if they would like more opportunities to speak in class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
This course focuses on the following activities: debates, discussions, intercultural communication, and intercultural negotiations.

LANd100CA

ドイツ語コミュニケーション IA

北岡　幸代

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語初修者を対象とした初級ドイツ語の運用クラスです。
ネイティブの音声に慣れ、日常生活の場面においてドイツ語で話すことに重点を置きます。ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的背景についても必要に応じて理解していきます。

【到達目標】
初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、会話表現を学びます。
(2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
(3) ペアワーク、グループワークによる練習を行います。
(4) 毎回授業の終わりには、新たに学んだことを参加者自らが整理し記録します。
(5) 授業のワークへの積極的な参加を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	授業方針、授業の進め方について。 授業中に使う表現について。
02	人と知り合う（1）	挨拶をしよう。 名前をたずねよう。
03	人と知り合う（2）	出身はどちらですか？
04	人と知り合う（3）	友達を別の友達に紹介する。 W-Fragen（疑問詞）。
05	人と知り合う（4）	調子・気分をきこう。
06	買い物をしよう（1）	家具製品の語彙。 百万までの数字。
07	買い物をしよう（2）	家具屋で買い物をする。 定冠詞と人称代名詞。
08	買い物をしよう（3）	値段に関する表現。 アドヴァイスを求める表現。
09	買い物をしよう（4）	品物について述べる。 動詞 finden を使う表現。
10	事物を評価しよう（1）	品物の名称をたずねる表現、答える表現。 不定冠詞と否定冠詞。
11	事物を評価しよう（2）	眼鏡ショップの広告を読む。 材質・色・形に関する語彙。
12	事物を評価しよう（3）	品物をオークションにかけよう。 インターネットで品物を注文しよう。
13	口頭試験	口頭試験 復習
14	期末筆記試験 春学期の振り返り	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習プリントを宿題として出し、提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】
『MENSCHEN A1.1 Kursbuch』(Hueber)

【参考書】
参考書等は、授業中に適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
各テーマを終えるごとに、簡単な小テストを実施します。
筆記試験のほかに簡単な口頭試験も行います。
成績評価は、授業内の課題達成度（40 %）、授業内小テスト（30 %）、期末試験（30 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
正当な理由のない欠席が全体の 30 %を超えた場合は成績評価対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】
ドイツ語圏の映画やドイツ語圏に関する動画なども積極的に使います。

【その他の重要事項】
授業を始めるにあたって、いくつかの準備を参加者の皆さんに実際に行っていただきますので、初回のガイダンスには必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this course students will learn conversational German, oral communication skills at a beginner level.
The purpose of this course is to develop students' basic listening and speaking skills and also get students interested in German.

LANd100CA

ドイツ語コミュニケーション IB

北岡　幸代

開講時期：秋学期授業/Fall　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語初修者を対象とした初級ドイツ語の運用クラスです。
ネイティブの音声に慣れ、日常生活の場面においてドイツ語で話すことに重点を置きます。ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的背景についても必要に応じて理解していきます。

【到達目標】
初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、会話表現を学びます。
(2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
(3) ペアワーク、グループワークによる練習を行います。
(4) 毎回授業の終わりには、新たに学んだことを参加者自らが整理し記録します。
(5) 授業のワークへの積極的な参加を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	秋学期の内容確認。 ドイツ語圏の最新トピックの紹介。
02	余暇の活動（1）	余暇活動の語彙と表現。
03	余暇の活動（2）	褒める表現。 話法の助動詞 können
04	余暇の活動（3）	趣味について話す。
05	余暇の活動（4）	伺いを立てる表現。
06	日々の予定（1）	一日の時間の流れと所在場所。
07	日々の予定（2）	時刻の表現。
08	日々の予定（3）	予定の確認や取り消し。
09	日々の予定（4）	予定を尋ねる E-Mail や SMS。
10	食事について（1）	好きな食べ物について。 話法の助動詞 mögen と möchte
11	食事について（2）	食事に招待する。
12	食事について（3）	食事中の会話。 ドイツ語圏の料理。
13	口頭試験	口頭試験 復習
14	期末筆記試験 秋学期の振り返り	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習プリントを宿題として出し、提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】
『MENSCHEN A1.1 Kursbuch』(Hueber)

【参考書】
参考書等は、授業中に適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
各テーマを終えるごとに、簡単な小テストを実施します。
筆記試験のほかに簡単な口頭試験も行います。
成績評価は、授業内の課題達成度（40 %）、授業内小テスト（30 %）、期末試験（30 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
正当な理由のない欠席が全体の 30 %を超えた場合は成績評価対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】
ドイツ語圏の映画やドイツ語圏に関する動画なども積極的に使います。

【その他の重要事項】
授業を始めるにあたって、いくつかの準備を参加者の皆さんに実際に行っていただきますので、初回のガイダンスには必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this course students will learn conversational German, oral communication skills at a beginner level.
The purpose of this course is to develop students' basic listening and speaking skills and also get students interested in German.

LANd200CA

ドイツ語コミュニケーション IIA

栗田　くり菜

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・ドイツ語圏での短期滞在や、ドイツ語圏出身の人々との交友を想定し、ドイツ語によるコミュニケーション能力を養います。またドイツの文化的・歴史的要素も学んでいきます。
・ドイツ語の授業を一年以上受けた人を対象としていますが、各テーマに必要な文法や発音など、基礎的なことを確認しつつ授業を勧めますので、コミュニケーションⅠを履修していない人も本科目の履修に問題はありません。
・また、ドイツ語の必修科目を終えて、さらに会話練習・ヒヤリング練習に興味のある３年生・４年生も歓迎します。

【到達目標】
１．各テーマで使われる基本的文法・語彙・表現の特徴・正しい発音を学び、自らの表現として使えるようになる。
２．「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的にバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
１．特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に適った表現を学び、必要に応じてその表現の背後にある文化的・歴史的要素を理解する。
２．映像教材・音声教材を使い、聞き取りによる理解を深める練習をする。
３．対話練習等により、理解した語彙・表現に慣れ、さらに自らの自発的な発話・対話につなげる。
４．各テーマの終わりに、小テストを実施する。
５．授業の終わりには、毎回新たに学んだことを学習者自らが整理し、記録する。
６．対話練習、グループ・ワーク、プレゼンテーション等授業への積極的な参加を重視し、評価の対象とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	オリエンテーション	・授業の進め方について。 ・授業記録表の作成。 ・授業中に使用するドイツ語表現について。
02	交通手段と移動（１）	・交通機関の利用にかかわる語彙。 ・駅での行動を表現する。
03	交通手段と移動（２）	・出発、移動、到着をめぐる表現。 ・分離動詞の使い方。 ・数詞の復習
04	交通手段と移動（３）	・駅・空港の構内放送を理解する。 ・旅程を伝えることができる。 ・分離動詞を使う。
05	交通手段と移動（４）	・ルポルタージュ映像から出勤経路の情報を得る。
06	日常生活の活動（１）	・日々の活動を表現する語彙。 ・Anja のスケジュール帳を読む。 ・Anja の一日を説明する。 ・時を示す前置詞。
07	日常生活の活動（２）	・旅先からのメールを読む。 ・完了形を使う過去表現。
08	日常生活の活動（３）	・完了形・過去分詞を使って話す反復練習。 ・友人にメールを書く。
09	日常生活の活動（４）	・Martin のヴィデオ日記を理解する。
10	ドイツ語圏の祝祭と行事（１）	・季節、時期、祝日、年間行事に関する語彙。 ・ドイツ語圏の代表的なお祭り、行事について記事を読む。
11	ドイツ語圏の祝祭と行事（２）	・開催日時を理解し伝える。 ・インタヴューを聴き、理解する。 ・時を示す前置詞。 ・sein 動詞を使う完了形の過去表現。
12	ドイツ語圏の祝祭と行事（３）	・sein 動詞の完了形を使って話す反復練習。 ・行事体験を友人に説明する。
13	ドイツ語圏の祝祭と行事（４）	・家族の行事に関するヴィデオ・メッセージを理解する。 ・季節の行事のポスターを作る。
14	プレゼンテーション 春学期の振り返り	・季節の行事をポスターを使ってプレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各テーマの始めに、そのテーマで使用する重要語彙の意味を調べるプリント課題を出します。
・授業内容の整理と復習のため、ほぼ毎回プリント課題を出します。
・それぞれ平常点の評価対象とします。

【テキスト（教科書）】
『Menschen A1.1 Kursbuch』（Hueber)

【参考書】
『Menschen A1.2 Kursbuch』(Hueber)
その他、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テストを実施します。筆記試験のほかにヒヤリング・口頭試験も行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（40 %）、授業内筆記テスト（30 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（30 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の 30 %を超えた場合は成績評価対象外とします。
・遅刻は 3 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の妨げとなるような私語が、他の学習者の迷惑とならないよう留意します。

【その他の重要事項】
・初回のオリエンテーションでは、いくつかの作業を参加者の皆さんに行っていただきますので、必ず出席してください。
・各テーマとも、個々の基礎的な課題から応用的発展的課題へつなげていきます。その積み重ねとプロセスが大事ですので、なるべく授業を欠席しないようにしましょう。

【Outline and objectives】
Assume a short-term stay in a German-speaking country and friendship with people from German-speaking countries and cultivate communication skills in German. We will also learn about the cultural and historical elements of Germany.

LANd200CA

ドイツ語コミュニケーション IIB

栗田　くり菜

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・ドイツ語圏での短期滞在や、ドイツ語圏出身の人々との交友を想定し、ドイツ語によるコミュニケーション能力を養います。またドイツの文化的・歴史的要素も学んでいきます。
・ドイツ語の授業を一年以上受けた人を対象としていますが、各テーマに必要な文法や発音など、基礎的なことを確認しつつ授業を勧めますので、コミュニケーションⅠを履修していない人も本科目の履修に問題はありません。
・また、ドイツ語の必修科目を終えて、さらに会話練習・ヒヤリング練習に興味のある３年生・４年生も歓迎します。

【到達目標】
１．各テーマで使われる基本的文法・語彙・表現の特徴・正しい発音を学び、自らの表現として使えるようになる。
２．「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的にバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
１．特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に適った表現を学び、必要に応じてその表現の背後にある文化的・歴史的要素を理解する。
２．映像教材・音声教材を使い、聞き取りによる理解を深める練習をする。
３．対話練習等により、理解した語彙・表現に慣れ、さらに自らの自発的な発話・対話につなげる。
４．各テーマの終わりに、小テストを実施する。
５．授業の終わりには、毎回新たに学んだことを学習者自らが整理し、記録する。
６．対話練習、グループ・ワーク、プレゼンテーション等授業への積極的な参加を重視し、評価の対象とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	オリエンテーション	・授業内容、進め方の再確認。 ・発音のブラッシュアップ。 ・授業内で使うドイツ語の再確認。
02	身体をめぐる表現（１）	・身体・病・治療をめぐる語彙。 ・身体の不具合を伝える会話とその表現。
03	身体をめぐる表現（２）	・治療のアドヴァイスを受ける会話とその表現。 ・話法の助動詞 sollen を使う表現。 ・敬称 Sie への命令的・要望的表現。
04	身体をめぐる表現（３）	・健康に関するコラムを読む。 ・健康に関するアドヴァイスをする。 ・身体部位を使った表現を理解する。
05	身体をめぐる表現（４）	・健康維持のための工夫について質問し、答える。 ・健康に関するルポルタージュ映像を理解する。
06	シェアハウス（１）	・家事の分担をめぐる語彙。 ・日記を読む。 ・親称 du, ihr に対する命令形。
07	シェアハウス（２）	・同居人に家事を頼むやり取り。 ・人称代名詞３格・４格の復習。
08	シェアハウス（３）	・家事の分担を決めるやり取り。 ・同居人を募集する広告記事を書く。 ・WG(Wohngemeinschaft) について。
09	シェアハウス（４）	・共同生活に関するルポルタージュを理解する。
10	祝い事に招待される（１）	・祝い事、招待、訪問をめぐる語彙。 ・招待状を読む。
11	祝い事に招待される（２）	・私の好きなお祝い事は何か、を述べる。 ・日付と序数の復習。
12	祝い事に招待される（３）	・お祝いの挨拶の表現。 ・何がしたいか、望みを述べる。 ・接続法Ⅱ式について。
13	祝い事に招待される（４）	・遊園地でのデートのヴィデオを理解する。 ・接続法Ⅱ式を使った願望表現のためのプレゼンテーションの準備。
14	プレゼンテーション 秋学期のまとめ	・プレゼンテーション ・学期の振り返りとまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各テーマの始めに、そのテーマで使用する重要語彙の意味を調べるプリント課題を出します。
・授業内容の整理と復習のため、ほぼ毎回プリント課題を出します。
・それぞれ平常点の評価対象とします。

【テキスト（教科書）】
『Menschen A1.2 Kursbuch』(Hueber)

【参考書】
『Menschen A1.1 Kursbuch』(Hueber)
その他、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・各テーマを終えるごとに小テストを実施します。筆記試験のほかにヒヤリング・口頭試験も行います。
・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（40 %）、授業内筆記テスト（30 %）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（30 %）を目安に総合的に判断し、全体の 60 %以上で合格とします。
・正当な理由のない欠席が全体の 30 %を超えた場合は成績評価対象外とします。
・遅刻は 3 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の妨げとなるような私語が、他の学習者の迷惑とならないよう留意します。

【その他の重要事項】
・初回のオリエンテーションでは、いくつかの作業を参加者の皆さんに行っていただきますので、必ず出席してください。
・各テーマとも、個々の基礎的な基礎的な課題から応用的発展的課題へつなげていきます。その積み重ねとプロセスが大事ですので、なるべく授業を欠席しないようにしましょう。

【Outline and objectives】
Assume a short-term stay in a German-speaking country and friendship with people from German-speaking countries and cultivate communication skills in German. We will also learn about the cultural and historical elements of Germany.

LANf100CA

フランス語コミュニケーション A

余語　毅憲

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、私たち日本人が最も苦手とする「聞く」能力を中心にしながら、コミュニケーション能力の向上に欠かせない「読む」「話す」といった能力も並行して訓練します。

【到達目標】
到達目標は以下の３つです。
1）ネイティヴ・スピーカーが話している内容が大まかに把握できるようになる。
2）簡単で短いフランス語の文章がなるべく正確に読むことができるようになる。
3）フランス語で書かれた文章の音読が正確にできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
1）講義の題材は、TV5monde の « Apprendre le français » にある A1 レヴェルの動画から、フランスの社会や日常生活に関するテーマを適宜にピックアップして使用します。
2）ペア／グループ・ワークも適宜に導入しながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、Cinéma	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
2	Communication	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
3	Éducation	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
4	Francophonie	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
5	Logement	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
6	Loisirs	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
7	Musique	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
8	Repas	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
9	Santé	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
10	Vêtements	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
11	Vie professionnelle	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
12	Vie quotidienne	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
13	予備日（これまでの復習や進度調整等に充てる）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）復習をするならば、音読による多読を中心に行うことを推奨します。
2）意識的に語彙を増やすよう努力しましょう。フランス語上達の近道です。

【テキスト（教科書）】
授業ごとに配布します。

【参考書】
辞書類や、以前に使用した教科書など自由に持ち込んで結構です。
電子辞書も許可します。なお、真剣にフランス語を学ぶならば、Web 辞書の類はお勧めしません。

【成績評価の方法と基準】
1）期末テスト　70%
2）授業の最後に行う「ミニッツ・ペーパー」の内容　30%

【学生の意見等からの気づき】
1）皆さんが均等に発言・発話できるような授業環境を作ります。
2）ペア／グループ・ワークを積極的に導入します。
3）コミュニケーション練習なども取り入れつつ、実践的な授業活動をしていきます。

【Outline and objectives】
The aim of this course/class is to acquire abilities of communication in daily social exchanges, to improve your oral skills through activities designed to enrich your vocabulary, and to master the French language structures. Emphasis is put on interactive exercices among the students in the class, reflection on the language and acquisition of automatisms.

LANf100CA

フランス語コミュニケーション B

余語　毅憲

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、私たち日本人が最も苦手とする「聞く」能力を中心にしながら、コミュニケーション能力の向上に欠かせない「読む」「話す」といった能力も並行して訓練します。

【到達目標】
到達目標は以下の３つです。
1）ネイティヴ・スピーカーが話している内容が大まかに把握できるようになる。
2）簡単で短いフランス語の文章がなるべく正確に読むことができるようになる。
3）フランス語で書かれた文章の音読が正確にできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
1）講義の題材は、TV5monde の « Apprendre le français » にある A1 レヴェルの動画から、フランスの社会や日常生活に関するテーマを適宜にピックアップして使用します。
2）ペア／グループ・ワークも適宜に導入しながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Cinéma（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
2	Communication（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
3	Éducation（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
4	Francophonie（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
5	Logement（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
6	Loisirs（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
7	Musique（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
8	Repas（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
9	Santé（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
10	Vêtements（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
11	Vie professionnelle（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
12	Vie quotidienne（2）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
13	予備日（これまでの復習や進度調整等に充てる）	リスニング訓練、問題演習、発音矯正
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）復習をするならば、音読による多読を中心に行うことを推奨します。
2）意識的に語彙を増やすよう努力しましょう。フランス語上達の近道です。

【テキスト（教科書）】
授業ごとに配布します。

【参考書】
辞書類や、以前に使用した教科書など自由に持ち込んで結構です。
電子辞書も許可します。なお、真剣にフランス語を学ぶならば、Web 辞書の類はお勧めしません。

【成績評価の方法と基準】
1）期末テスト　70%
2）授業の最後に行う「ミニッツ・ペーパー」の内容　30%

【学生の意見等からの気づき】
1）皆さんが均等に発言・発話できるような授業環境を作ります。
2）ペア／グループ・ワークを積極的に導入します。
3）コミュニケーション練習なども取り入れつつ、実践的な授業活動をしていきます。

【Outline and objectives】
The aim of this course/class is to acquire abilities of communication in daily social exchanges, to improve your oral skills through activities designed to enrich your vocabulary, and to master the French language structures. Emphasis is put on interactive exercices among the students in the class, reflection on the language and acquisition of automatisms.

LANf200CA

資格をめざすフランス語 A

小室　廉太

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仏検 (フランス語技能検定試験) の出題問題形式に依拠しながら、フランス語力の向上をめざしましょう。
1 年次のフランス語学習で挫折した人でも、フランス語の資格がとれるように、基本的な文法や表現に関する知識を復習してゆきます。
資格の取得は、大学でフランス語を学習したことを記録できるだけではなく、留学や就職にも有利です。ぜひチャレンジして下さい！

【到達目標】
フランス語の初級文法が習得できる。
フランス語の表現や語彙を習得できる。
フランス語圏への旅行で困らない程度のフランス語会話ができる。
仏検４級レベルに到達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
１年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題をとりあげます。仏検の観点から文法項目をとらえなおし、設問のポイントや解法を学びます。
授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業、評価方法紹介
	仏検４級解説	仏検４級の出題解説
	発音規則	発音規則の復習
2	名詞と冠詞	不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の用法
3	様々な代名詞	補語人称代名詞、人称代名詞強勢形、中性代名詞、指示代名詞の用法
4	様々な形容詞	形容詞の位置と所有形容詞、指示形容詞の用法
5	動詞の活用	直説法現在、複合過去、近接過去、単純未来、近接未来の活用形と用法
6	命令法、受動態、代名動詞、条件法	命令法、受動態、代名動詞、条件法の用法
7	前置詞	前置詞の用法
	数字の聞きとり	数字（1～100）の聞きとり
8	疑問文１	疑問文の作り方とその読解
9	疑問文２	疑問文に関する聞きとり問題
10	構文研究１	否定文、非人称構文などの用法と並べかえ
11	構文研究２	強調構文、比較級、最上級の用法と並べかえ
12	絵を用いた出題	絵を用いた出題の解法
13	会話文の復習	会話文の読解と聞きとりのまとめ
14	まとめ	春学期授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントにある練習問題は毎回必ず予習しておいてください。授業中に確認します。
また、配布プリント単語集の中から、毎回 30～40 の単語や表現の暗記を宿題とし、小テストをします。小テストは次回の授業で返却しますので、できなかった問題は必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
１年次に使用した文法の教科書
『仏検４級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『仏検３級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『《データ本位》でる順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）と、小テストおよび平常点（40 %）を合算して判定します。実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
検定合格者を輩出できただけでなく、必修フランス語の復習になったのは幸いです。学生の皆さんには今後もフランス語学習を続けてもらえれば幸いです。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞典は必ず準備してください。できれば紙媒体をお勧めします。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire "Futuken" (DAPF : Diplôme d'Aptitude Pratique au Français).

LANf200CA

資格をめざすフランス語 B

小室　廉太

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、仏検 (フランス語技能検定試験) の出題問題形式に依拠しながら、フランス語力の向上をめざしましょう。
1 年次のフランス語学習で挫折した人でも、フランス語の資格がとれるように、基本的な文法や表現に関する知識を復習してゆきます。
資格の取得は、大学でフランス語を学習したことを記録できるだけではなく、留学や就職にも有利です。ぜひチャレンジして下さい！

【到達目標】
フランス語の文法全般が習得できる。
フランス語の表現や語彙を習得できる。
一か月程度の短期留学で使う、簡単なフランス語会話ができる。
仏検３級レベルに到達できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
前期に引き続き、１年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題に取り組みます。仏検の観点から文法項目を学ぶことで、設問のポイントや解法のテクニックを理解します。
授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業、評価方法紹介
	仏検３級の設問解説	仏検３級の出題解説
	前期授業の復習	前期授業の復習
2	動詞の活用１	不規則動詞、命令形の特殊形、使役動詞の活用と用法
3	動詞の活用２	複合過去と半過去、過去分詞の一致
4	動詞の活用３	条件法、接続法、現在分詞、ジェロンディフの用法
5	代名詞の復習	補語人称代名詞、中性代名詞などの語順
6	構文研究１	非人称構文の復習と不定代名詞の用法
7	構文研究２	関係代名詞の用法
8	前置詞	前置詞の穴埋め問題
9	小まとめ	文法問題の復習
10	単語配列１	強調構文、比較構文などの並べかえ
11	単語配列２	慣用表現を用いた構文の並べかえ
12	応答文	絵を用いた短文の聞きとりと、空欄の単語を埋める練習
13	仏検模擬試験	秋学期授業の復習
14	総まとめ	年間授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントにある練習問題は毎回必ず予習しておいてください。授業中に確認します。
また、配布プリント単語集の中から、毎回 30～40 の単語や表現の暗記を宿題とし、小テストをします。小テストは次回の授業で返却しますので、できなかった問題は必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】
プリントを随時配布。

【参考書】
１年次に使用した文法の教科書
『仏検３級スピード合格』（富田正二著、三修社）
『仏検準２級スピード合格』（富田正二、小室廉太著、三修社）
『《データ本位》でる順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）と、小テストおよび平常点（40 %）を合算して判定します。実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
検定合格者を輩出できただけでなく、必修フランス語の復習になったのは幸いです。学生の皆さんには今後もフランス語学習を続けてもらえれば幸いです。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞典は必ず準備してください。できれば紙媒体をお勧めします。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire "Futuken" (DAPF : Diplôme d'Aptitude Pratique au Français).

LANC100CA

中国語コミュニケーション IA

将邑　剣平

開講時期：春学期授業/Spring　　単位：2 単位

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　中国語初心者としてのコミュニケーションに必要な基本的な知識と実技を確実に身につける。
　中国語入門の発音難関を突破し、話したことが通じる歓びを体験。

【到達目標】
　目標は中国語を完璧に発音できるようにすること。簡単な発話ができるようにすること。
　現在広く利用されている中国語辞書はピンイン表記に従ってアルファベット順に文字，語彙が配列されているので，音節の綴りと発音の要領をしっかりと身につけることは，中国語の習得に欠かせない前提である。話したい内容が正確に伝えられるように，中国語の発音のスキルを常にチェックし，中国で定められたピンインと呼ばれるローマ字による音声表記に基づき，正しく発音することができるまで，発音の練習に多くの時間が割かれる。
　文法，語彙については，教科書の配列に従って授業への予習として自ら予め学ぶことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
　中国語を使えるようにするには，かなりの努力と集中力が必要である。予習・復習が非常に重要視される授業なので，予習・復習した語彙・文法のポイントなどを実際に応用できるように，常に繰り返し練習しておくこと。
　毎回の授業は小テストや発表を行い、音読練習、会話練習、質問の受付、内容を暗記し小テストまたは発表の順で行う。
　授業中も授業外も中国語をできるだけたくさん話してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の紹介
第 2 回	発音　第１課	声調・母音
第 3 回	発音　第２課	子音
第 4 回	発音　第３課	鼻母音
第 5 回	発音　第４課	音節変化・r 化など
第 6 回	第５課	日本到着ー成田空港
第 7 回	第６課	ホテルチェックイン
第 8 回	第７課	夜景が綺麗
第 9 回	第８課	電車で
第 10 回	第９課	化粧品売り場で
第 11 回	第１０課	花火大会
第 12 回	自己紹介文作成	自己紹介文作成し練習
第 13 回	発表	自己紹介文練習・発表
第 14 回	発表	自己紹介文発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業は中国語を美しく発音できることを目標にして行う。語学学習に予習・復習は欠かせない。授業は予習・復習がされていることを前提に行う。
　教室外の学習方法：
　声をしっかり出して，例文や本文などを暗記するほど繰り返し読むこと。毎回の小テストのテスト勉強と会話の暗記は必ずすること。授業にのぞむにあたって，予め語彙の意味をおさえ、文法事項を出来るだけ調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
　『ニーハオ！ ニッポン－ふりむけば、中国語。』　相原茂 /朱怡穎著（朝日出版社）2,592 円 (本体 2,400 円+税) 2018 年

【参考書】
日中辞典及び中日辞典（電子版も可）
相原茂・石田知子・戸沼市子著，『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』，同学社
守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店

【成績評価の方法と基準】
　小テスト点及び発表点（欠席は一回５％マイナス）で評価する。100 点満点で合計６０点以上が合格。
　授業の３分の１以上欠席の場合は評価不可とする。遅刻３回で欠席１回と計算され，大幅な遅刻は欠席とみなす。
　履修登録する前に必ず確認してください
　準備学習ができない方は評価対象外とするので、必ず準備学習ができることを確認してから履修してください。

【学生の意見等からの気づき】
　学生が中国語の発音の基本をしっかりマスターできるよう、発音重視の小テストや発表を引き続き毎回実施します。

【その他の重要事項】
初めて中国語を学ぶ人を対象にする。必修中国語の他にもっと学びたい人も歓迎。
中国語既習者はご自身のレベルに合う授業を履修することを勧める。
・初回のガイダンスは必ず出席すること。(再履修の場合は特に)
・３分の２以上出席していない場合、期末試験の受験不可。
・遅刻した場合は授業終了時に申告にくること。授業中に指名されていても、遅刻したことを申告しないで帰った場合、欠席扱いになる場合がある。
・交通機関の遅延・忌引き・学校伝染病等のために欠席や遅刻をした場合は、遅延証明や学部指定の書類等を添付の上、日付・クラス・氏名・欠席 (遅刻) 理由を記して提出すること。欠席については事後の提出も可とするが、欠席後 2 週間以内に提出すること。
・手術、入院等による欠席の場合は、診断書等を遅くとも期末試験の前に提出すること。
・上記の理由や大学や学部が指定した事項以外による欠席はすべて「欠席」として扱う。
・授業中のトイレは原則として不可。授業前に済ませておくこと。
・無断退出や授業中の私語、携帯電話等の使用、その他授業に関係のない行為を行った場合や、30 分以上の遅刻や授業途中の無断退出は欠席扱いとする。
・教科書や筆記用具を持ってこない場合、減点の対象とする。
・自分の出欠は自分で把握すること。一切回数の質問には答えない。

【Outline and objectives】
It is a class to surely acquire the basic knowledge and practical skills necessary for communication as a beginner in Chinese.
Students can overcome Chinese pronunciation difficulties and experience the pleasure of being understood what they said.

LANC100CA

中国語コミュニケーション IB

将邑　剣平

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　中国語初心者としてのコミュニケーションに必要な基本的な知識と実技を確実に身につける。
　中国語入門の発音難関を突破し、話したことが通じる歓びを体験。

【到達目標】
　目標は中国語を完璧に発音できるようにすること。簡単な発話ができるようにすること。
　現在広く利用されている中国語辞書はピンイン表記に従ってアルファベット順に文字，語彙が配列されているので，音節の綴りと発音の要領をしっかりと身につけることは，中国語の習得に欠かせない前提である。話したい内容が正確に伝えられるように，中国語の発音のスキルを常にチェックし，中国で定められたピンインと呼ばれるローマ字による音声表記に基づき，正しく発音することができるまで，発音の練習に多くの時間が割かれる。
　文法，語彙については，教科書の配列に従って授業への予習として自ら予め学ぶことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
　中国語を使えるようにするには，かなりの努力と集中力が必要である。予習・復習が非常に重要視される授業なので，予習・復習した語彙・文法のポイントなどを実際に応用できるように，常に繰り返し練習しておくこと。
　毎回の授業は小テストや発表を行い、音読練習、会話練習、質問の受付、内容を暗記し小テストまたは発表の順で行う。
　授業中も授業外も中国語をできるだけたくさん話してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の紹介
第 2 回	第１１課	日本の雑貨
第 3 回	第１２課	おいしい和牛をどうぞ
第 4 回	第１３課	日本の人気デザート
第 5 回	第１４課	着物体験
第 6 回	第１５課	温泉に入る
第 7 回	第１６課	日帰りバスツアー
第 8 回	第１７課	日本人と漫画
第 9 回	第１８課	歌舞伎鑑賞
第 10 回	第１９課	お土産を買う
第 11 回	第２０課	別れ
第 12 回	寸劇作成	寸劇作成し練習
第 13 回	発表	寸劇練習・発表
第 14 回	発表	寸劇発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業は中国語を美しく発音できることを目標にして行う。語学学習に予習・復習は欠かせない。授業は予習・復習がされていることを前提に行う。
　教室外の学習方法：
　声をしっかり出して，例文や本文などを暗記するほど繰り返し読むこと。毎回の小テストのテスト勉強と会話の暗記は必ずすること。授業にのぞむにあたって，予め語彙の意味をおさえ、文法事項を出来るだけ調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
　『ニーハオ！ ニッポン－ふりむけば、中国語。』　相原茂 /朱怡穎著（朝日出版社）2,592 円 (本体 2,400 円+税) 2018 年

【参考書】
日中辞典及び中日辞典（電子版も可）
相原茂・石田知子・戸沼市子著，『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』，同学社
守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店

【成績評価の方法と基準】
　小テスト点及び発表点（欠席は一回５％マイナス）で評価する。100 点満点で合計６０点以上が合格。
　授業の３分の１以上欠席の場合は評価不可とする。遅刻３回で欠席１回と計算され，大幅な遅刻は欠席とみなす。
　履修登録する前に必ず確認してください
　準備学習ができない方は評価対象外とするので、必ず準備学習ができることを確認してから履修してください。

【学生の意見等からの気づき】
　秋学期から履修される学生は中国語の発音の基本をしっかり復習しておくべきだが、自力でできない場合は発音の基本をもう一度最初から受講することを勧める。

【その他の重要事項】
初めて中国語を学ぶ人を対象にする。必修中国語の他にもっと学びたい人も歓迎。
中国語既習者はご自身のレベルに合う授業を履修することを勧める。
・初回のガイダンスは必ず出席すること。(再履修の場合は特に)
・３分の２以上出席していない場合、期末試験の受験不可。
・遅刻した場合は授業終了時に申告にくること。授業中に指名されていても、遅刻したことを申告しないで帰った場合、欠席扱いになる場合がある。
・交通機関の遅延・忌引き・学校伝染病等のために欠席や遅刻をした場合は、遅延証明や学部指定の書類等を添付の上、日付・クラス・氏名・欠席 (遅刻) 理由を記して提出すること。欠席については事後の提出も可とするが、欠席後 2 週間以内に提出すること。
・手術、入院等による欠席の場合は、診断書等を遅くとも期末試験の前に提出すること。
・上記の理由や大学や学部が指定した事項以外による欠席はすべて「欠席」として扱う。
・授業中のトイレは原則として不可。授業前に済ませておくこと。
・無断退出や授業中の私語、携帯電話等の使用、その他授業に関係のない行為を行った場合や、30 分以上の遅刻や授業途中の無断退出は欠席扱いとする。
・教科書や筆記用具を持ってこない場合、減点の対象とする。
・自分の出欠は自分で把握すること。一切回数の質問には答えない。

【Outline and objectives】
It is a class to surely acquire the basic knowledge and practical skills necessary for communication as a beginner in Chinese.
Students can overcome Chinese pronunciation difficulties and experience the pleasure of being understood what they said.

LANC200CA

中国語コミュニケーション IIA

張　欣

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の授業を 1 年以上受けた人を対象とします (中国語コミュニケーション初級を履修していなくてもかまいません)。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。

【到達目標】
中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 课 大学校园 (1)	読解、会話
第 2 回	第 1 课 大学校园 (2)	読解、会話、練習
第 3 回	第 2 课 南京路步行街 (1)	読解、会話
第 4 回	第 2 课 南京路步行街 (2)	読解、会話、練習
第 5 回	第 3 课 晨练 (1)	読解、会話
第 6 回	第 3 课 晨练 (2)	読解、会話、練習
第 7 回	第 4 课 豫园 (1)	読解、会話
第 8 回	第 4 课 豫园 (2)	読解、会話、練習
第 9 回	第 5 课 国宝大熊猫 (1)	読解、会話
第 10 回	第 5 课 国宝大熊猫 (2)	読解、会話、練習
第 11 回	第 6 课 世界遗产九寨沟 (1)	読解、会話
第 12 回	第 6 课 世界遗产九寨沟 (2)	読解、会話、練習
第 13 回	看电影	中国映画鑑賞
第 14 回	考试	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①教科書の予習と復習をします。
②学習した表現をできるだけ覚えます。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー　ＤＶＤで学ぶ中国文化』金星堂、2012 年、2700 円

【参考書】
『中日辞典』、『日中辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 50 %、授業内試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
言葉が持つ文化的背景についても折りに触れて説明します。

【Outline and objectives】
Develop and extend mastery of Chinese communication.

LANC200CA

中国語コミュニケーション IIB

張　欣

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の授業を 1 年以上受けた人を対象とします (中国語コミュニケーション初級を履修していなくてもかまいません)。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。

【到達目標】
中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 课 大学的社团活动 (1)	読解、会話
第 2 回	第 7 课 大学的社团活动 (2)	読解、会話、練習
第 3 回	第 8 课 故宫博物院 (1)	読解、会話
第 4 回	第 8 课 故宫博物院 (2)	読解、会話、練習
第 5 回	第 9 课 北京 798 艺术区 (1)	読解、会話
第 6 回	第 9 课 北京 798 艺术区 (2)	読解、会話、練習
第 7 回	第 10 课 秦始皇兵马俑 (1)	読解、会話
第 8 回	第 10 课 秦始皇兵马俑 (2)	読解、会話、練習
第 9 回	第 11 课 少数民族 (1)	読解、会話
第 10 回	第 11 课 少数民族 (2)	読解、会話、練習
第 11 回	第 12 课 丽江古城 (1)	読解、会話
第 12 回	第 12 课 丽江古城 (2)	読解、会話、練習
第 13 回	看电影	中国映画鑑賞
第 14 回	考试	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①教科書の予習と復習をします。
②学習した表現をできるだけ覚えます。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー　ＤＶＤで学ぶ中国文化』金星堂、2012 年、2700 円

【参考書】
『中日辞典』、『日中辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 50 %、授業内試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
言葉が持つ文化的背景についても折りに触れて説明します。

【Outline and objectives】
Develop and extend mastery of Chinese communication.

LANs100CA

スペイン語コミュニケーション IA

マリア・ドローレス・ドメネク

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：2 **単位**

2016 **年度以降入学者**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では少ないボキャブラリーや文法知識でも、基本的なコミュニケーションのとれる会話能力を身につけることを目的とします。また、言語の背景にあるスペイン文化や習慣、伝統等の理解にも努めます。

【到達目標】
日常生活でよく用いられる会話能力を身につけることを第一義的な目標に定めます。具体的には、受講生がスペイン語圏の国に旅行または留学したとして、その初期において現地の人々と支障なく交流できる会話力を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
日常的によく使われる会話表現の練習と、テーマを決めての口頭練習の両面で進行します。また、２週に一回の割合で日本語字幕付きの会話ビデオを視聴し、その内容や重要表現を教材として、対教師また生徒同士グループ内での実戦練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日常生活に関する表現、会話	再帰動詞
２	習慣について、待ち合わせをする	相互再帰動詞
3	最近の出来事について話す	現在完了形
4	経験や過去の出来事について話す、意向を表現する	頻度を表す副詞
5	未来について話す、仮定の話	未来形
6	旅行を計画する、家について話す	関係代名詞を使った文章
7	１回～６回までの復習	復習
8	同時進行する出来事	現在分詞
9	比較する、身体部分名称の言い方、スポーツ、国名	比較級、最上級
10	過去の習慣的行動を思い出す、レジャー	線過去
11	歴史について話す、病院で	過去形
12	過去の出来事について話す、歌詞を訳す	点過去
13	町中での行動、旅行、ラテンアメリカについて	過去形
14	８回～１３回までの復習	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簡単な単語の宿題を毎回出すので、授業外でやっておくこと

【テキスト（教科書）】
Teveo　　ＤＴＰ出版
ISBN　978 － 4 － 86211 － 657 － 4

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
宿題、授業参加等授業内評価　３０％　　試験　７０％

【学生の意見等からの気づき】
外国の文化、習慣等に関心のある学生が多いようなので、その点に留意しながら授業を行う

【Outline and objectives】
In this lesson, we aim to acquire conversation skills that can take basic communication even with little vocabulary and grammatical knowledge. In addition, we will strive to understand the Spanish culture, customs, traditions, etc behind the language.

LANs100CA

スペイン語コミュニケーション IB

マリア・ドローレス・ドメネク

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：2 **単位**

2016 **年度以降入学者**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では少ないボキャブラリーや文法知識でも、基本的なコミュニケーションのとれる会話能力を身につけることを目的とします。また、言語の背景にあるスペイン文化や習慣、伝統等の理解にも努めます。

【到達目標】
日常生活でよく用いられる会話能力を身につけることを第一義的な目標に定めます。具体的には、受講生がスペイン語圏の国に旅行または留学したとして、その初期において現地の人々と支障なく交流できる会話力を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
日常的によく使われる会話表現の練習と、テーマを決めての口頭練習の両面で進行します。また、２週に一回の割合で日本語字幕付きの会話ビデオを視聴し、その内容や重要表現を教材として、対教師また生徒同士グループ内での実戦練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	有名人の伝記、歴史上の人物について	３種類の過去形
2	Ｅメールの書き方、ある行動の継続性	頻度を表す副詞
3	料理レシピー、命令、指示の仕方	命令形
4	目的地への道順、友人を紹介する	命令形
5	完了した過去の出来事、職場・家庭での会話	過去完了
6	時の表現の復習、パブでの会話	時を表す副詞句
7	１回～６回までの復習	復習
8	政治、社会問題について議論する、希望・要求の言い方	接続法現在
9	空港での会話、アドバイスと助言・勧告	接続法現在
10	買い物、室内装飾	接続法過去、条件法
11	丁寧な表現、希望と夢の表現、時事問題について議論する	条件法
12	パーティーでの会話、他者の言葉を再現する	間接話法
13	金言・名言集、他者のメッセージを伝える、メモを残す	間接話法
14	８回～１３回までの復習	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簡単な単語の宿題を毎回出すので、授業外でやっておくこと

【テキスト（教科書）】
Teveo　　ＤＴＰ出版
ISBN　978 － 4 － 86211 － 657 － 4

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
宿題、授業参加等授業内評価　３０％　　試験　７０％

【学生の意見等からの気づき】
外国の文化、習慣等に関心のある学生が多いようなので、その点に留意しながら授業を行う

【Outline and objectives】
In this lesson, we aim to acquire conversation skills that can take basic communication even with little vocabulary and grammatical knowledge. In addition, we will strive to understand the Spanish culture, customs, traditions, etc behind the language.

LANs200CA

スペイン語コミュニケーション IIA

ジェン　フェルナンド

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既習文法を基に、日常生活に必要な基礎的なコミュニュケーション能力を養う。

【到達目標】
1．現在進行中の出来事を表現できる。
2．過去の出来事を、点過去と線過去を使い分けて表現ができる。
3．ニュースや文化についてスペイン語で受信・発信できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の各課の「語彙」部分と「コミュニュケーション」部分を２回の授業で進めていきます。以下の順序で進めます。
1．既習文法事項を確認する。
2．表現練習に必要な語彙を習得する。
　随時、語彙テストを実施する。
3．習得した語を使ってコミュニュケーションの練習を行う。
4．練習に関連した映像や音楽も随時取り上げながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の進め方、成績評価等について。 ・既習事項の確認。
第 2 回	学校生活・趣味活動 (1)	＜語彙＞ 学生生活に関連する動詞、科目、生活習慣
第 3 回	学校生活・趣味活動 (2)	＜表現練習＞ ・名前を訊く。 ・同時進行の行為・行動の表現。
第 4 回	人の一生 (1)	＜語彙＞ 過去を表わす副詞句、位置関係語、親族語、人の一生に関わる動詞
第 5 回	人の一生 (2)	＜表現練習＞ ・休暇中の活動。 ・年表作成。 ・自分史を書く。
第 6 回	昔と今　(1)	＜語彙＞ mente 副詞、施設や店舗、品質形容詞
第 7 回	昔と今　(2)	＜表現練習＞ ・過去のある時期の活動や習慣などを表現する。
第 8 回	まとめ	第２回授業～第７回授業
第 9 回	習得確認	第２回～第８回授業
第 10 回	旅行報告 (1)	＜語彙＞ 活動動詞、携行品、天候
第 11 回	旅行報告 (2)	＜表現練習＞ ・旅行報告書を書く。 ・事件記事を読む、書く。
第 12 回	余暇活動 (1)	＜語彙＞ 余暇活動、勧誘表現、買い物、ファッション
第 13 回	余暇活動 (2)	＜表現練習＞ ・今を含む期間に行った行動、活動。 ・経験。
第 14 回	習得確認＆総括	習得確認 第 10 回～13 回授業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習１．各課の「文法」部分の練習問題。
　　文法は既習事項なので、授業前にやっておくこと。
予習２．各課の「語彙」部分。
　　「語彙」部分は授業前に辞書で意味を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『Entre amigos 2 2a. edición』(総合スペイン語コース 中級 改訂版)
スペイン語教材研究会編、朝日出版社

【参考書】
『本気で学ぶスペイン語』菅原昭江著、同学社

【成績評価の方法と基準】
平常点　：３０％（授業内活動・課題・小テスト）
定期試験：７０％（定期試験）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外の授業だったため、コメントはありません。

【その他の重要事項】
授業を理解するためには、教科書と辞書は必須です。
忘れないように。

【Outline and objectives】
This course is intended to help students develop their Spanish communication skills by offering them opportunities to improve their Listening, Speaking and Reading skills.　We will do listening and speaking activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in Spanish.

LANs200CA

スペイン語コミュニケーション IIB

ジェン　フェルナンド

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既習文法を基に、日常生活に必要なより高度なコミュニュケーション能力を養います。

【到達目標】
1．過去の推測、現在の推測、未来のことが表現できる。
2．指示や命令ができる。
3．意見を言う・アドバイスする・願望・依頼などの表現ができる。
4．単文の願望表現、事実と異なる条件下での仮定表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の各課の「語彙」部分と「コミュニュケーション」部分を２回の授業で進めていきます。以下の順序で進めます。
1．既習の文法事項を確認する。
2．表現練習に必要な語彙を習得する。各課ごとに語彙テストを随時実施する。
3．習得した語を使ってコミュニュケーションの練習を行う。
4．練習に関連した映像や音楽などを随時取り上げ表現枠を広げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の進め方、成績評価について ・春期の学習内容の確認
第 2 回	将来は...（1）	＜語彙＞ ・未来を表す副詞句 ・推測 ・確実性を表す表現
第 3 回	将来は...（2）	＜表現練習＞ ・25 年後の自分は.. ・学長選挙公約と結果
第 4 回	時系列で過去を語る（1）	＜語彙＞ ・直説法動詞 ・家具と調度品
第 5 回	時系列で過去を語る（2）	＜表現練習＞ ・10 年前の我が家と今 ・プロフィール ・窃盗事件の経緯
第 6 回	命令・指示する（1）	＜語彙＞ ・食品・その分類名 ・単位 ・体の動き
第 7 回	命令・指示する（2）	＜表現練習＞ ・運動のやり方を指示 ・アドバイスする
第 8 回	まとめ	第１回～８回授業
第 9 回	習得確認	第１回～８回授業
第 10 回	願望・依頼・命令表現（1）	＜語彙＞ ・大きな数字 ・地理 ・環境問題 ・対応策
第 11 回	願望・依頼・命令表現（2）	＜表現練習＞ ・意見交換する ・理想の国を述べる ・環境問題を考える
第 12 回	事実と異なる仮定表現（1）	＜語彙＞ ・接続法過去動詞活用 ・抽象名詞 ・事実と異なる仮定 ・願望表現
第 13 回	事実と異なる仮定表現（2）	＜表現練習＞ ・Ojalá～ 願望表現 ・もし～なら
第 14 回	習得確認＆総括	習得確認 第 10 回～13 回授業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習１．各課の「文法」部分の復習。
　　文法は既習事項なので、授業には復習して臨むこと。
予習２．各課の「語彙」部分。
　　「語彙」部分は授業前に辞書で意味を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『Entre amigos 2 2a. edición』(総合スペイン語コース 中級 改訂版)
スペイン語教材研究会編、朝日出版社

【参考書】
『スペイン語の接続法ドリル』菅原昭江著、白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点　：３０％（授業内活動・課題・小テスト）
定期試験：７０％（定期試験）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外の授業だったため、コメントはありません。

【その他の重要事項】
授業を理解するためには、教科書と辞書は必須です。
忘れないように。

【Outline and objectives】
This course is intended to help students develop their Spanish communication skills by offering them opportunities to improve their Listening, Speaking and Reading skills. We will do listening and speaking activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in Spanish.

NAS100CA

総合講座 I

藤田　貢崇、芝田　幸一郎、ロバート　ストラウド、張 欣

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「異文化コミニュケーション」に関する内容を取り上げる。一般に私たちは日本語を使って人々の間でコミュニケーションをとっているが、使用する言語が違えば文化的な側面も異なってくる。いくつかの文化圏を取り上げ、そのような文化と私たちがどのように関わりあうことができるかを探る。また、科学は特有の言語で伝えられることが多いが、私たちが科学を理解し、知識を共有する取り組みである「科学技術コミュニケーション」にも触れ、理解を深める。この授業は、芝田 幸一郎・ロバート ストラウド・張 欣・藤田 貢崇の 4 名がオムニバス形式で展開する。

【到達目標】
「異文化コミュニケーション」について、多様な分野の議論を知り、より深い考察ができるようになる。文化の違いを越え、それぞれの文化を尊重し、理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
それぞれの回について、講義を主体に行う。講師によって、資料の与え方、参考図書の示し方が異なるので、それぞれの担当者の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（藤田）	(1) 異文化コミュニケーションについて学ぶ必要性を知る　(2) 担当者別の授業スケジュールを提示する
2	ラテンアメリカでの生活（芝田）	ラテンアメリカと日本の生活はどのような点で異なるのか、担当教員のペルーでの生活経験や人類学者ホールの理論などを参照しながら理解する。
3	ラテンアメリカでの仕事（芝田）	ラテンアメリカでのフィールドワークをめぐる様々な問題事例とその解決策について考える。
4	空間・物とコミュニケーション（芝田）	古代ペルーの建築などを題材にして、空間・物とコミュニケーションの関係について考える。
5	English culture presentation skills（ストラウド）	Students will learn how to present themselves as influential people within an English speaking environment.
6	English workplace culture（ストラウド）	Students will learn how to become effective workers with an English-speaking company.
7	English debate/discussion culture（ストラウド）	Students will learn how to express their opinions and debate topics with English speakers within a western culture.
8	魯迅と日本（張）	魯迅の日本留学時代を中心に
9	「カミング・マン」の世界（張）	華人移民の歴史について
10	エイミ・タンと『ジョイ・ラック・クラブ』（張）	華人文学について
11	科学技術と私たちの生活（藤田）	科学技術が私たちの生活とどう関わっているかを理解する。
12	科学技術コミュニケーション（藤田）	科学技術を誰もが理解するためにどのような施策があるのかを理解する。
13	科学技術の向かう方向（藤田）	科学技術はどういう方向に進むべきなのか、私たちの意見をどのように反映させるべきかを考える。
14	まとめ（藤田）	これまでの授業内容をまとめ、知識や理解の定着を図る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
それぞれの担当者が資料や課題を用意するので、それぞれの指示に従うこと。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
それぞれの担当者から必要に応じて参考書等が示される。

【成績評価の方法と基準】
試験による 100%の評価とする。試験は、各講師が作成する問題 4 題のうちから 2 題を選択して解答する。

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムに、より多くの参考資料をアップロードするようにします（藤田）。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用しますので、準備をしておくこと。

【その他の重要事項】
・上記に示されている授業計画のうち、担当者の順番については初回のオリエンテーションで提示する。
・全体についての実務的質問は、藤田貢崇に問い合わせること。授業内容に関する質問は、それぞれの講師の指示を仰ぐこと。

【Outline and objectives】
This course tries to understand the "cross-cultural communication" and deal with some subjects of specific cultural areas including science communication.

SOS100CA

総合講座Ⅱ

山﨑　友紀、藤田　貢崇

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然現象を研究対象とする上で、実験や観察によって現象を具体化し、それらの普遍的な法則を明らかにすることは、極めて重要である。本授業では、物理学で扱う「もの」の本質について考え、基礎的な素粒子論を知ることと、化学や物理の実験を通して、科学的なものの考え方や実験・観察の方法、それらのデータのまとめ方について学ぶ。

【到達目標】
・「もの」とは何であるかを理論的に考え、いろいろなスケールでの「もの」の捉え方を説明できること。
・身近なことがらや現象を物理的また化学的に考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、前半は物理学に関する内容、後半は身近な化学を実験的に理解する内容で構成され、それぞれ藤田貢崇、山崎友紀が担当する。授業では基本的な素粒子理論について学び、後半は実際に実験を行い、レポート（またはプレゼン）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：「もの」とは何か	授業の進め方について説明する。「もの」とはなにか、存在するとは何かを科学的に考える
2	「もの」を探求する歴史	「もの」の本質を探った古代ギリシャの哲学を学ぶ
3	「もの」の本質を探る	「もの」の本質である原子や分子について学ぶ
4	「もの」の大きさを比較する（実験）	分子構造の大きさについて、実験を通じて理解する
5	「もの」を分解する	原子内はどうなっているのかを学ぶ
6	「もの」と光（実験）	光の特性について、実験を通じて理解する
7	「もの」とはなんだったか	これまでのまとめを行い、「もの」とは何だったのかを考える
8	身近なものを科学する	５つ実施する実験テーマを計画する
9	テーマ１：衣	「衣」に関する実験（例：繊維、温度・熱、染色など）
10	テーマ２：食	「食」に関する実験（例：食品添加物、カロリー、塩分など）
11	テーマ３：住	「住」に関する実験（例：冷暖房、建築関係、放射線量など）
12	テーマ４：水	「水」に関する実験（例：状態変化、硬度、中和など）
13	テーマ５：大気	「大気」に関する実験（例：香り、大気汚染など）
14	成果発表	５つの実験について成果をレポートまたはプレゼンによって発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・前半 (第 8 回まで:藤田担当回) では、「もの」とは何かを理論的に探求する授業内容であるので、日頃から理論的にものごとを考えるようにしておく必要がある。
・後半 (第 9 回以降:山崎担当回) では、５つの実験について事前に調査・予習をした上で実施する。実験の結果は後ほど報告できるようにまとめる。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業での平常点（毎回の小課題提出を含む）の評価 (50%) ：毎回、授業時間内で回答できる小課題を提出すること。
・実験への取り組みと成果発表の評価 (50%) ：実習形式での授業であり、欠席した回におこなった内容を含む課題レポートの評価はおこなわない。

【学生の意見等からの気づき】
・理論的な「もの」の捉え方だけでなく、実験も合わせて実施したことが前年度にも評価されたことから、今年度も実験を通じて理解を深められるような授業展開を行います。

【学生が準備すべき機器他】
・前半・後半それぞれの初回に、担当教員より詳細を説明する。

【その他の重要事項】
・本科目は実験を行う授業であるため、実験機器の制約から受講人数を制限することがある。希望者が担当者の想定人数を上回った場合、抽選を実施するので、受講希望者は初回授業に研究実験棟（12 号館 201 教室）に集合すること。
・全体についての実務的質問は、藤田貢崇に問い合わせること。授業内容に関する質問は、それぞれの講師の指示を仰ぐこと。

【Outline and objectives】
This course tries to understand the natural phenomena with theoretical and experimental methods. Students will be able to acquire the theory of quantum physics (in front half) and the skills of chemical experiences (in last half).

CAR100-CA

キャリアデザイン論

加藤　寛之

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】
①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代１（加藤）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、グローバルに生きる
2	キャリアデザインと大学時代２（斎藤）	自分をつかむ　１　可能性を拡げるために
3	職場で求められる力とは１（青田）	企業で求められる力（新旧比較）
4	職場で求められる力とは２（高澤）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは３（斎藤）	自分をつかむ　２　関わり合いの中で
6	企業を知る１（坂本）	「大切にしたい会社」とは
7	企業を知る２（竹口）	企業情報を読み解く
8	職場社会で積極的に生きるために１（山本）	これから先につながるコミュニケーション
9	職場社会で積極的に生きるために２（斎藤）	就活と採用を知る　新卒採用と就職基礎知識
10	職場社会で積極的に生きるために３（長山）	職場のコミュニケーション
11	職場社会で積極的に生きるために４（眞保）	ライフワークバランス、ダイバーシティ
12	キャリアデザインの視野を広げる１（地域）	多摩地域の企業を知る
13	キャリアデザインの視野を広げる２（北原）	農業への新規就農
14	キャリアデザインの視野を広げる３（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則なし（ある場合は、適宜指示する）。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績は期末試験により評価する（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする）。

【学生の意見等からの気づき】
資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】
毎回、出席をとる。遅刻・早退は 2 回で、1 回の欠席と見なす。

【受講上の注意】
1・3 限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

【Outline and objectives】
The theme is to make your own carrier design,to blush up yourself.

IDN100CA

多摩地域形成論

池田　寛二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】
近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている＜場所＞への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩４学部の教員と協力して実施する、４学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。
なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第２回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第３回	多摩キャンパスと近隣地域 (1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第４回	多摩キャンパスと近隣地域 (2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第５回	多摩キャンパスと近隣地域 (3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第６回	多摩地域の現代史 (1)	多摩地域の住民運動の歴史
第７回	多摩地域の現代史 (2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第８回	多摩地域の現代史 (3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第９回	中間まとめ	ふりかえりのワークショップ
第 10 回	これからの多摩地域の形成 (1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第 11 回	これからの多摩地域の形成 (2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第 12 回	これからの多摩地域の形成 (3)	地域の資源をエネルギーに
第 13 回	これからの多摩地域の形成 (4)	コミュニティ文化とスポーツ
第 14 回	これからの多摩地域の形成 (5)	支え合いの地域社会と居場所づくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて次回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %程度）とレポート（70 %程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった」「地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】
・授業支援システムを利用する。
・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】
○講義の目的・運営上の必要から 700 人までに受講を制限する科目とする。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものだけが受講登録を行うことができる。

○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

HSS200CA

スポーツ種目 A

市原　英

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**1 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】
①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第 2 回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第 3 回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第 4 回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 5 回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 6 回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 7 回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 8 回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 9 回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 10 回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 11 回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ（トス）、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 12 回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第 13 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。
第 14 回	ゲーム	チームに分かれ、3 セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（90 %程度）、レポート課題（10 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるよう、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】
バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline and objectives】
To learn a basic theory about the volleyball and learn a basic technic through practice.
To promote the communicative competence with ability for health care and others through volleyball.

HSS200CA

スポーツ種目 B

市原　英

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**1 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バレーボールに関する理論を学び、実践を通して各種技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】
①ラリーを継続するために必要な技術を習得する
②多様な技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、ゲームを数多く重ね、他者とのコミュニケーションや相互作用を体験的に学ぶことができるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期授業の復習Ⅰ	身体づくりを行い、基礎技術の確認を行う。
第 2 回	春学期授業の復習Ⅱ・ミニゲーム	身体づくりを行い、基礎技術の確認を行う。授業後半ではミニゲームを行う。
第 3 回	攻撃の組み立て方法・ミニゲーム	コンビネーション攻撃の組み立て方について学ぶ。授業後半ではミニゲームを行う。
第 4 回	ブロックシステム・ミニゲーム	ブロックのシステムについて学ぶ。授業後半ではミニゲームを行う。
第 5 回	レシーブシステム・ミニゲーム	レシーブのシステムについて学ぶ。授業後半ではミニゲームを行う。
第 6 回	レセプションアタック・ミニゲーム	サーブレシーブからの攻め方について学ぶ。授業後半ではミニゲームを行う。
第 7 回	トランジションアタック・ミニゲーム	ブロック、アタックレシーブからの攻め方について学ぶ。授業後半ではミニゲームを行う。
第 8 回	チーム編成・戦術ミーティング	チームを複数編成し、各チームの構成メンバーを決める。また、チームごとに、リーグ戦に向けてのミーティングを行う。
第 9 回	試合Ⅰ	リーグ戦第 1 ラウンドを行う。
第 10 回	試合Ⅱ	リーグ戦第 2 ラウンドを行う。
第 11 回	試合Ⅲ	リーグ戦第 3 ラウンドを行う。
第 12 回	ゲームメイク・ミーティング	ゲームメイクの方法について学ぶ。その後、各チームに分かれ、ファイナルラウンドに向けたミーティングを行う。
第 13 回	試合Ⅳ	セミファイナルラウンドを行う。
第 14 回	試合Ⅴ	ファイナルラウンドを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（80 %程度）、レポート課題（20 %程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるよう、授業を構成・展開していく予定である。とりわけ、対戦相手・チームが偏ることのないよう配慮し、技術レベルに関係なく、受講者全員がバレーボールを楽しめる雰囲気づくりに努めたい。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期の継続的な履修を望む。秋学期からの履修も歓迎する。
なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline and objectives】
To learn a basic theory about the volleyball and learn a basic technic through practice.
To promote the communicative competence with ability for health care and others through volleyball.

HSS200CA

スポーツ種目 A

水野　浩幸

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**1 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを通して習得することを目標とする。

【到達目標】
①サッカーの基礎技術、戦術の習得
②サッカーのチーム戦術、ゲーム戦術の学習

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
場所はピッチ状態の良いラグビー場（人工芝）またはホッケー場（人工芝）で行う。授業はゲームを中心に行い、ゲームを行う中で基礎的な技術や戦術を指導していく。サッカー経験の有無は問わない。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教場や授業の用意について
第 2 回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第 3 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	ボール回し・GK 無しのゲーム
第 4 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	フィジカルトレーニング・GK 無しのゲーム
第 5 回	6vs6，7vs7　+ GK	GK 有りのゲーム
第 6 回	6vs6，7vs7　+ GK	GK 有りのゲーム・守備の個人戦術
第 7 回	ボールポゼッションゲーム	攻撃方向制限なしのゲーム・守備のグループ戦術
第 8 回	ボールポゼッションゲーム	攻撃の個人戦術
第 9 回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・3 人目の動き
第 10 回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・サイドからの崩し
第 11 回	チーム編成・チームミーティング	チームの役割決め・コミュニケーション
第 12 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第 13 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第 14 回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカーのルールについて予習することを希望します。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
自らのスキル向上への積極性、授業態度　60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度　30 %
チームへの貢献度　10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn basic skills and tactics of football by playing games.

HSS200CA

スポーツ種目 B

水野　浩幸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**1 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを行いながら習得することを目標とする。

【到達目標】
①サッカーのポジションごとの役割を理解する
②サッカーのゲームを通じてチームで働くことを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
　場所はピッチ状態の良いラグビー場（人工芝）またはホッケー場（人工芝）で行う。授業はゲームを中心に行い、ゲームを行う中で基礎的な技術や戦術を指導していく。サッカー経験の有無は問わない。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第 2 回	ミニゲーム	ボール回し・フィジカルトレーニング
第 3 回	4vs4，5vs5 のミニゲーム	攻撃のコンビネーション
第 4 回	ボールポゼッションゲーム	受け方・状況判断
第 5 回	ボールポゼッションゲーム	タッチ制限・状況判断
第 6 回	シュートゲーム	ゴール前での崩し
第 7 回	シュートゲーム	クロスからのシュート
第 8 回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第 9 回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第 10 回	チーム編成，チームミーティング	チームのシステム・スタイル
第 11 回	固定チームでのリーグ戦	チーム戦術・ゲーム戦術
第 12 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第 13 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第 14 回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
サッカーのルールについて予習することを希望します。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
自らのスキル向上への積極性、授業態度　60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度　30 %
チームへの貢献度　10 %

【学生の意見等からの気づき】
授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn basic skills and tactics of football by playing games.

法政大学
HOSEI University